

渡辺澄夫編

豊後国莊園公領史料集成四(上)

豊後国

安岐郷・八坂(上・  
下・新)莊・山香郷

史料

別府大学史料叢書第一期

刊行 別府大学付属図書館

## はしがき

第四巻は速見郡莊公史料集に宛てる計画であったが、前巻に国東郡安岐郷を積み残し、かつ速見郡方面に多数の文祿検地帳の検出があり、これらを収載するため、已むをえず当巻を上・下の二冊に分割せざるをえない結果となった。従つて上巻には右の安岐郷と速見郡八坂(上・下・新)莊及び山香郷の三莊郷を収め、下巻に残り日出莊・大神藤原莊・朝見郷・石垣莊(石垣別符)・竈門莊・由布院等を収録することとした。

未見史料の検出は喜ばしい限りであるが、反面紙巾増大と経費の膨脹に悲鳴をあげる結果となり、ひいては購読者に累を及ぼすことになる。こうした二律排反は今後も当然予想されることであつて、予め読者にお詫び申し上げ、御了解を仰いでおかねばならない。

本巻所収の三莊郷は、すべて宇佐宮及び弥勒寺領に属し、いわば既刊一―三巻の延長線上にある。安岐郷は宇佐宮根本所領の一である「十郷三箇庄」の一所であり、他の二莊はいずれも弥勒寺領である。同寺領は本家が石清水祀官家紀(田中)氏で、同宮内に寺家公文所を置き、現地弥勒寺に留守所を設け目代を派遣する特異な支配形態で、女子讓与分のみ領家職・預所職を置く普通の支配方式であることが注目されている。そうした女子分所領の実例として、八坂莊の史料は注目に価しよう。山香郷は国東六郷の内ではないが、六郷満山本山八箇寺の一である津波戸山水月寺等がある所からみると、やはり固有の宇佐・国東文化圏に属することを示している。

本巻編集に当たっては、引き続き竹内理三博士の助言を仰ぎ、刊行史料以外の「狭間田文書」は平野秀雄氏、

「永松榮雄文書」は福川一徳氏、「永松氏家録」は所蔵者永松幹男氏等に、それぞれ写真又はコピーの援助を仰いだ。また、木付荘（八坂荘）及び山香郷の「文禄検地帳」は所蔵者永青文庫の許可を得、県史編纂室の写真を利用させていただいた。なお金石文は、原形に忠実な望月友善氏『大分の石造美術』を底本とし、なお「大分県金石年表」及び別府大学博物館白井昭一氏の「調査記録」を利用させていただいた。また「生地文書」「秋吉文書」「生桑寺文書」等の閲覧・写真撮影に当たっては、所蔵者生地光氏（大分市大字古国府）・秋吉武氏（大分市城南団地北）・鹿島央洲氏（杵築市生桑寺）の配意をえ、奈多八幡宮神像写真は、県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館からフィルムを貸与された。以上の諸氏及び諸機関の厚志を深謝する。

本巻の校正にも、白井氏の多大の援助を仰ぎ、なお本学非常勤講師森猛氏の協力をえた。また、各荘郷付録「大字・小字一覧表」の調査には、安岐町教育委員会藤原正了・中野昭純両氏、杵築市諸富道則氏、山香町林蓮丸氏の莫大な援助をえたことを特記し、謝意を表したい。

最後に本巻の組み版以下につき、多大の迷惑をおかけした佐伯印刷株式会社のみなさんに対しても、衷心からお礼を申し上げたい。

昭和六十二年八月十五日

## 凡 例

- 一 本巻は『豊後国莊園公領史料集成』の第四巻上として、国東郡安岐郷史料二八七点（うち付録二）・速見郡八坂（上・下・新）莊史料一五五点（付録三）・同山香郷史料三七七点（付録四）、総計八一九点を収めた。
- 一 史料蒐集に当たっては、文書のみならず、記録・編著・系図・金石文等、参考しうるものは可能な限り網羅することにとめた。『大分県史料』所載の文書は、可能な限り原本校合を期したが、果たしえなかったものがある。
- 一 史料蒐集は、当該莊公の地名中心を原則としたが、該地域を本領とした地頭・御家人・国人衆等については、人名中心の編集法をも併用し、一層の完全を期した。
- 一 同一史料で二莊郷以上に関連あるものは、初出の莊郷に本文を掲げ、他は原則として史料標題と参照注を付し、本文は省略した。長文史料も関連部分のみの抄出に止めた。
- 一 一国全体に関する長文史料は、初出の関係莊郷に当該郡全体を摘出し、以下の莊郷には標題のみを掲げ、参照注を付した。全文はできれば全巻末に「豊後総国史料」（仮称）を立て、これに収載するようにしたい。
- 一 一国平均役等で、特定莊郷に関するものは当該莊郷に掲げ、なお莊郷特定なき史料とともに、「豊後総国史料」に再録する予定。
- 一 文書名は、原則として正文・案文・写等を区別したが、記録・編著によるものは、その区別を示さなかった。



- (カ)
- (ク)
- (ケ)
- (コ)

欠部・誤記・誤脱等に対する編者の案、年月・人名の傍注等。  
異本・他本との校合。  
文字の誤記・誤脱等。  
原本の判読に疑問のあるもの。  
編者の説明。

以上



# 目次

はしがき  
凡例

## 安岐郷史料

一	豊前國司勘文案	……………	(石清水文書)	……………	一
二	豊後國風土記	……………	(荒木田久老校訂本)	……………	二
三	倭名類聚抄	……………	……………	……………	二
四	八幡奈多宮陳道面銘	……………	(大分県金右年表)	……………	三
五	八幡宇佐宮放生會之記	……………	(北和介文書)	……………	三
六	仁安三年六郷二十八山本寺目錄	……………	(六郷山文書)	……………	四
七	八幡宇佐宮符	……………	(奈多八幡縁起私記)	……………	五
八	女禰宜大神安子・祝大神宮保連署解狀案	……………	(益永文書)	……………	六
九	八幡宇佐宮御神領大鏡	……………	……………	……………	八
一〇	日向守藤原朝臣某請取狀	……………	(到津文書)	……………	一〇
一一	造宇佐宮課役注文案	……………	(到津文書)	……………	一一
一二	前大僧正慈鎮讓狀案	……………	(華頂要略)	……………	一二
一三	六波羅下知狀寫	……………	(益永文書)	……………	一三
一四	備後法眼幸秀去文	……………	(志賀文書)	……………	一四

目次



五	貞應	貳年十一月二日	大友能直讓狀……………	(志賀文書)	一五
六	嘉祿	三年四月廿五日	紀是門讓狀……………	(同 上)	一六
七	安貞	二年五月 日	六郷山諸勤行并 諸堂役祭等目錄寫……………	(長安寺文書)	一七
八	寛喜	元年十月十九日	宇佐宮古御裝束等送狀案……………	(小山田文書)	一八
九	寛喜	元年十一月廿九日	奈多大官司宇佐重基大神寶物等請取狀案 (同 上)		一九
一〇	寛喜	元年十二月 日	前太政大臣 <small>藤原家實</small> 家政所下文案……………	(益永文書)	二〇
二	康元	貳稔 <small>敏次</small> 十二月十日	宇佐宮御神領次第案……………	(到津文書)	三一
三	文應	元年十月廿九日	僧源應讓狀案……………	(瑠璃光寺文書)	三二
四	弘安	七年三月廿五日	安岐郷御炊殿雜仕差符……………	(永弘文書)	三三
五	弘安	七年九月 日	豐後守護大友頼泰施行狀寫……………	(長安寺文書)	三四
六	弘安	八年九月晦日	某施行狀寫……………	(同 上)	三五
七	弘安	八年九月晦日	六郷山異國降伏祈禱卷數目錄寫……………	(同 上)	三六
八	弘安	八年九月晦日	六郷山異國降伏祈禱卷數并 山々勤行次第目錄寫 (同 上)		三七
九	弘安	八年九月晦日	豐後國大田文案……………	(平林本)	三八
一〇	弘安	八年九月晦日	豐後國園田帳案……………	(内閣文庫本)	三九
一一	正應	四年卯月廿七日	護聖寺板碑銘……………	(大分の石造美術)	四〇
一二	正應	五年十月三日	僧源幸讓狀案……………	(瑠璃光寺文書)	四一
一三	正安	二年八月二日	小松雜掌公祐和與狀……………	(志賀文書)	四二
一四	正安	三年三月廿七日	鎮西 <small>北條</small> 御教書……………	(島津家文書)	四三
一五	正安	參年十二月廿日	沙彌阿法 <small>志賀</small> 讓狀……………	(志賀文書)	四四
一六	正安	參年十二月廿日	沙彌阿法 <small>志賀</small> 讓狀案……………	(同 上)	四五
一七	嘉元	二年九月 日	六郷屋山例講谷役配分注文……………	(長安寺文書)	四六
一八	嘉元	二年九月 日	豐鐘善鳴錄……………		四七

六	元	亨	曆	八月彼岸	大宮司宇佐公敦讓狀	(志賀文書)	兎
五	元	亨	元	元年十一月五日	豐鐘善鳴錄		兎
四	元	亨	元	二年七月十二日	豐後國志		吾
三	元	和	二年	七月十九日	鎮西 <small>北條</small> 下知狀案	(永弘文書)	吾
二	元	和	二年	十月九日	鎮西 <small>北條</small> 御教書	(大友家文書錄)	吾
一	元	應	貳年	七月廿九日	安岐郷御興御歸座料物送付注文案	(永弘文書)	吾
	元	應	貳年	七月廿九日	安岐郷司御炊殿雜仕差符	(同 上)	吾
	元	應	貳年	七月廿九日	宇佐宮年中行事等案	(到津文書)	吾
	元	應	貳年	七月廿九日	宇佐宮自杣始次第等案	(同 上)	吾
	元	應	貳年	七月廿九日	柳井田板碑銘	(大分の石造美術)	吾
	元	應	貳年	七月廿九日	藤原 <small>貞泰</small> 讓狀	(志賀文書)	吾
	元	應	貳年	七月廿九日	辨分板碑銘	(大分の石造美術)	吾
	元	應	貳年	七月廿九日	尼妙法讓狀	(志賀文書)	吾
	元	應	貳年	七月廿九日	護聖寺板碑銘	(大分の石造美術)	吾
	元	應	貳年	七月廿九日	沙彌寂性 <small>志賀</small> 讓狀案	(志賀文書)	吾
	元	應	貳年	七月廿九日	明經京都隨身所々惣文書目錄	(益永文書)	吾
	元	應	貳年	七月廿九日	大宮司到津公連寄進狀案	(大樂寺文書)	吾
	元	應	貳年	七月廿九日	八坂社板碑銘	(大分の石造美術)	吾
	元	應	貳年	七月廿九日	宇佐宮 <small>弁</small> 彌勒寺由緒記寫	(到津文書)	吾
	元	應	貳年	七月廿九日	造宇佐宮所課注文案	(同 上)	吾
	元	應	貳年	七月廿九日	官宣旨	(大樂寺文書)	吾
	元	應	貳年	七月廿九日	後醍醐天皇綸旨	(志賀文書)	吾
	元	應	貳年	七月廿九日	辨分釜ヶ迫國東塔銘	(大分の石造美術)	吾

目次

六	應	元年九月十八日	六郷山別當光澄下文	(長安寺文書)	六
三	建武	四年 <sup>丁未</sup> 六月一日	六郷山本中末寺次第并四至等注文	(永弘文書)	六
三	曆應	三年 <sup>庚辰</sup> 十一月	僧榮幸讓狀案	(瑠璃光寺文書)	三
三	康永	元年八月三日	沙彌正玄 <sup>志實忠能</sup> 讓狀	(志賀文書)	三
三	貞和	四年十二月廿九日	宇佐永保範得分物注進狀	(到津文書)	三
三	觀應	元年 <sup>庚申</sup> 八月廿三日	源 <sup>志實</sup> 賴資讓狀	(志賀文書)	三
三	延文	伍年 <sup>庚申</sup> 七月十五日	掛樋岩屋堂板碑銘	(大分の石造美術)	三
三	貞治	二年七月十二日	足利義詮袖判下文	(大友家文書録)	三
三	貞治	三年二月	大友氏時當知行所領所職等注進狀案	(大友文書)	三
三	貞治	四年 <sup>乙未</sup> 六月五日	生桑寺大般若經奥書	(生桑寺の写本大般若經)	三
三	應安	貳年七月十一日	田原氏能知行宛行狀	(余瀨文書)	三
三	應安	五年壬子七月一日	僧幸圓讓狀案	(瑠璃光寺文書)	三
三	應安	八年八月廿二日	尼正安遺領配分狀	(秋吉文書)	三
三	永和	二年 <sup>丙辰</sup> 壬七十五	塔野板碑銘	(大分の石造美術)	三
三	康曆	元年十二月廿四日	足利義滿袖判下文	(入江文書)	三
三	永德	三年七月十八日	大友親世當知行所領所職等注進狀案	(大友文書)	三
三	應元	元年己巳十一月八日	小城山上品寺鎮守若宮舊藏鱧口銘	(大分県金石年表)	三
三	應元	五年二月一日	安岐郷吉松田地坪付并段錢注文	(志賀文書)	三
三	應元	十九年 <sup>乙未</sup> 己十一月十五日	大友氏加判衆連署奉書	(永松榮雄文書)	三
三	應元	廿貳年九月廿三日	六郷満山離山衆徒等申狀	(六郷山文書)	三
三	應元	九月廿日	大友持直知行宛行狀	(広瀨家史料館所藏文書)	三
三	應元	六月二日	大友親著書狀	(草野文書)	三
三	應元	六月二日	宇佐大宮司家專使吉用明兼奉書	(永弘文書)	三

四	應	永	卅年	卯月	日	宇佐宮行幸會等諸役支配注文	(矢野文書)	104			
三	應	永	三十一年	辰八月	日	奈多八幡宮大太刀銘	(宇佐・國東半島を 中心とする文化財)	103			
二	永	享	五年	十二月	十三日	宇佐宮寺造營并神事法會再興日記目錄案	(到津文書)	102			
一	寶	德	貳	三月	十六日	諸一・諸忠連署遵行狀案	(森文書)	101			
〇	六			十一月	廿四日	大友氏加判衆連署奉書案	(志賀文書)	100			
	六			八月	廿五日	大友親繁書狀	(若林文書)	99			
	六	康	正	二年	三月	吉日	奈多八幡宮御縁起箱刻銘	(大分県文化財指定申請書)	98		
	五	康	正	三年	丁二月	廿五日	源 <small>賀志</small> 親明置文	(志賀文書)	97		
	四	應	仁	二年	戌六月	六日	益永肥前守某讓狀	(益永文書)	96		
	三	文	明	辛卯	閏八月	吉日	片峯地藏堂鑿口銘	(宇佐・國東半島を 中心とする文化財)	95		
	二	文	明	十七季	乙七月	日	大宮司宇佐 <small>成宮</small> 公永讓狀案	(宮成文書)	94		
	一	五		十二月	廿五日	田原親宗屋敷分田畠預 <small>ケ</small> 狀案	(森文書)	93			
	〇	七				豐後國志		92			
	〇	六	明	應	七年	十月	十日	大聖院宗心知行預 <small>ケ</small> 狀案	(森文書)	91	
	〇	六				萱嶋諸次打渡狀案	(同)	90			
	〇	五				大友親治感狀	(大友家文書録)	89			
	〇	四	永	正	貳年	八月	廿二日	大友親述安堵狀	(藥師寺文書)	88	
	〇	三	永	正	卯月	廿三日	大友氏加判衆連署書狀寫	(森文書)	87		
	〇	二				拾一年 <small>きののへ</small>	十月	三日	大神親照書狀	(永弘文書)	86
	〇	一	永	正	十七年	二月	十二日	田原親述知行預 <small>ケ</small> 狀	(足立悦雄文書)	85	
	〇	〇	永	正	十七年	二月	十四日	田原親述安堵狀	(同)	84	
	〇	〇	永	正	十七年	辰二月	廿日	寬職知行宛行狀	(同)	83	

107	十二月十九日	大神親照書狀……………	(富來文書)	二二
108	大永 貳年 二月十四日	田原親董知行宛行狀……………	(足立悅雄文書)	二二
109	大永 三癸未 六月十五日	鹿苑院宗山等貴書狀……………	(鹿苑日録)	二三
110	大永 三年 六月十八日	足利義晴御判御教書……………	(同上)	二三
111	(大永 三年) 六月十九日	鹿苑院東雲景岱書狀……………	(同上)	二三
112	(享祿 四年 <sup>カ</sup> ) 九月十七日	大友義鑾安堵狀……………	(田尻文書)	二三
113	享祿 四年 十月五日	大友氏加判衆連署奉書……………	(大友家文書録)	二四
114	十月五日	山下長就打渡狀……………	(同上)	二四
115	享祿 四年 十月五日	大友氏加判衆連署奉書寫……………	(賀來惟康文書)	二五
116	十月五日	山下長就打渡狀寫……………	(同上)	二五
117	十月廿日	富來治安等連署書狀……………	(田尻文書)	二六
118	(享祿 四年 <sup>カ</sup> ) 十二月廿三日	大友義鑾知行預 <sup>ケ</sup> 狀……………	(志賀文書)	二六
119	(享祿 四年) 十二月廿六日	大友義鑾知行預 <sup>ケ</sup> 狀……………	(永松幹男文書)	二七
120	享祿 五年 三月十七日	山下長就打渡狀……………	(永松榮雄文書)	二七
121	(享祿 五年) 五月三日	安岐郷檢使三人打渡坪付……………	(同上)	二八
122	五月廿一日	田原親董感狀……………	(足立悅雄文書)	二八
123	六月十八日	若林某安岐郷内給地坪付……………	(若林文書)	二九
124	天 文 二 七月二日	田原親董知行預 <sup>ケ</sup> 狀……………	(足立悅雄文書)	三〇
125	天 文 二 十二月廿九日	田原親董知行預 <sup>ケ</sup> 狀……………	(同上)	三〇
126	(天文三年頃 <sup>カ</sup> ) 三月十七日	田原親董感狀寫……………	(片山文書)	三一
127	天 文 七年 二月十四日	田原親董知行宛行狀……………	(足立悅雄文書)	三一
128	天 文 七年 二月廿日	田原親董恩賞宛行狀寫……………	(片山文書)	三一
129	十月十七日	田原親董知行預 <sup>ケ</sup> 狀……………	(足立悅雄文書)	三一

二〇〇	天 文	十二年六月晦日	田原親實 <small>宏親</small> 知行預ケ狀	………	(萱嶋文書)	………	二二〇
二〇一	天 文	十三年五月十九日	田原親實 <small>宏親</small> 知行預ケ狀	………	(草野文書)	………	二二一
二〇二	天 文	十四年二月廿七日	田原親實 <small>宏親</small> 安堵狀	………	(足立悦雄文書)	………	二二二
二〇三		五月三日	田原親實 <small>宏親</small> 一跡安堵狀	………	(同 上)	………	二二三
二〇四	「天文十四年」	十一月十六日	田原親董安堵狀	………	(森文書)	………	二二四
二〇五		十二月廿三日	大友義鑑知行預ケ狀	………	(大友家文書録)	………	二二五
二〇六	天 文	十六年十一月吉日	字佐御神領安岐郷定使給分坪付	………	(到津文書)	………	二二六
二〇七			字佐御神領安岐郷内坪付案	………	(同 上)	………	二二七
二〇八	天 文	十八歲 <small>己酉</small> 正月十二日	國東郷等大工職源董次覺書	………	(今富文書)	………	二二八
二〇九	天 文	十九年五月三日	田原親實 <small>宏親</small> 一跡安堵狀	………	(足立悦雄文書)	………	二二九
二一〇	天 文	廿年六月廿八日	田原親實 <small>宏親</small> 安堵狀	………	(田代文書)	………	二三〇
二一一	天 文	廿年七月廿三日	田原親實 <small>宏親</small> 知行預ケ狀	………	(足立悦雄文書)	………	二三一
二一二	(天文廿一年 <small>カ</small> )	三月三日	大友義鎮知行預ケ狀	………	(小田原直文書)	………	二三二
二一三	天文廿四曆乙卯	十月吉日	油留木山神社棟札銘	………	(増補訂正編年大友史料)	………	二三三
二一四	弘 治	二年正月八日	奈多鑑基安堵狀	………	(田代文書)	………	二三四
二一五	弘 治	貳 <small>丙辰</small> 十月廿八日	國東郷・安岐郷等檢見秤寸法覺	………	(今富文書)	………	二三五
二一六		二月廿五日	奈多鑑基知行預ケ狀	………	(泥谷文書)	………	二三六
二一七		二月廿五日	奈多鑑基安堵狀	………	(田代文書)	………	二三七
二一八		五月廿四日	奈多八幡宮預職補任狀	………	(同 上)	………	二三八
二一九			某感狀	………	(松原文書)	………	二三九
二二〇	弘 治	參年七月廿三日	田原親宏感狀	………	(森文書)	………	二四〇
二二一		七月廿八日	松原内藏丞知行坪付	………	(松原文書)	………	二四一
二二二		九月十八日	奈多鑑基恩賞預ケ狀	………	(同 上)	………	二四二

目 次

一五二	三月十七日	有永資辰書狀……………	(乙咩文書)	一五二
一五四	卯月十五日	大友義鎮萬難點役免除狀……………	(若林文書)	一五三
一五五	永祿 貳 三月九日	田原親宏安堵狀……………	(森文書)	一五七
一五六	永祿 貳 七月六日	田原親宏知行宛行狀……………	(同上)	一五七
一五七	永祿 三年 <sup>未己</sup> 十月	田原親宏安堵分付寫……………	(同上)	一五六
一五九	十二月十三日	八幡大菩薩御縁起奥書寫……………	(字佐・國東半島を 中心とする文化財)	一六〇
一六〇	三月廿五日	大友義鎮一跡安堵狀……………	(田尻文書)	一六〇
一六一	九月廿日	高明書狀……………	(田代文書)	一六〇
一六二	永祿 四年 <sup>酉辛</sup> 十月六日	宇佐宮寺神官社僧連署申狀案……………	(宮成文書)	一六二
一六三	永祿 四 十一月十六日	宇佐宮一社中目安狀案……………	(同上)	一六四
一六四	(永祿 五年 <sup>力</sup> ) 七月廿日	田原親宏感狀……………	(森文書)	一六四
一六五	(永祿 五年) 十月十三日	田原親宏書狀……………	(足立悦雄文書)	一六四
一六六	七月五日	田原親宏恩賞預ヶ狀……………	(森文書)	一六四
一六七	七月十七日	田原親宏一跡安堵狀……………	(同上)	一六四
一六八	永祿 八年 七月廿六日	田原親宏書狀……………	(同上)	一六四
一六九	永祿 八年 七月廿八日	田原親宏安堵狀……………	(同上)	一六五
一七〇	(永祿 十一年頃)	田原家年寄連署奉書……………	(同上)	一六五
一七一	正月十七日	某覺書……………	(到津文書)	一六五
一七二	二月十三日	田原紹忍親書狀……………	(吉村韓大文書)	一六五
一七三	三月一日	田原親宏宛行狀寫……………	(片山文書)	一六五
一七四	九月十日	田原家年寄連署奉書寫……………	(同上)	一六五
一七五	十月廿六日	田原親宏知行宛行狀……………	(足立悦雄文書)	一六五
一七六		田原親宏安堵狀……………	(森文書)	一六五

一六	天正七	六月十五日	大友宗麟 <small>義親</small> 書狀案	(片山文書)	一六
一七	天正七	八月十三日	豐後國志	(廣崎文書)	一七
一八	天正七	四月晦日	字佐宮一社中目安狀案	(小山田文書)	一八
一九	天正七	二月廿七日	字佐宮一社中目安狀案	(到津文書)	一九
二〇	天正七	二月廿八日	字佐宮一社中目安狀寫	(同上)	二〇
二一	天正七	正月十八日	田原宗龜 <small>宏親</small> 書狀	(萱嶋文書)	二一
二二	天正七	正月十八日	大友義統書狀	(大友家文書錄)	二二
二三	天正六	十二月廿六日	大友氏加判衆連署書狀	(荒卷文書)	二三
二四	天正五	六月一日	國東郡諸給人居屋敷銀子辻注文	(長野文書)	二四
二五	天正五	六月一日	大友義統書狀	(若林文書)	二五
二六	天正三	九月十四日	田原宗龜 <small>宏親</small> 知行預ヶ狀	(如法寺文書)	二六
二七	天正二	八月廿四日	田原氏年寄連署副狀	(入江文書)	二七
二八	天正二	十月廿四日	大友宗麟 <small>義親</small> 書狀	(若林文書)	二八
二九	天正二	九月廿三日	大友宗麟 <small>義親</small> 感狀	(同上)	二九
三〇	天正二	四月卅日	董俊・諸久連署奉書	(足立悅雄文書)	三〇
三一	天正二	二月十三日	田原氏年寄連署奉書	(後藤敏宏文書)	三一
三二	天正二	九月九日	田原親宏書狀	(同上)	三二
三三	天正二	正月十四日	智興書狀	(同上)	三三

目次



一九八	バードレ・フランチェスコ・カリオン年次書簡 (イエズス会の通信)	一七
一九九	大友田原系圖	一八
二〇〇	奈多鎮基名字狀	一九
二〇一	戸次道雪 <small>繼</small> 書狀案	二〇
二〇二	奈多鎮基知行預ケ狀	二一
二〇三	松原文書	二二
二〇四	立花家文書	二三
二〇五	松原文書	二四
二〇六	大友家文書録	二五
二〇七	大友家文書録	二六
二〇八	吉弘鎮整文書	二七
二〇九	大友家文書録	二八
二一〇	大友家文書録	二九
二一一	菅嶋文書	三〇
二一二	同 上	三一
二一三	大友家文書録	三二
二一四	森文書	三三
二一五	津崎真澄文書	三四
二一六	田原親家書狀	三五
二一七	田原親家書狀	三六
二一八	田原親家書狀	三七
二一九	田原親家書狀	三八
二二〇	田原親家知行預ケ狀	三九
二二一	大友家文書録	四〇
二二二	志賀正道文書	四一
二二三	岩藤文書	四二
二二四	森文書	四三
二二五	荒木たけ文書	四四
二二六	史料編纂所影写本	四五
二二七	大友家文書録	四六
二二八	一万田文書	四七
二二九	大友家文書録	四八
二三〇	大友家文書録	四九
二三一	田原親家感狀	五〇

三三	(天正八年)	七月廿日	大友圓齋 <small>義</small> 感狀……………	(同上)	一六
三三	(天正八年)	七月廿一日	田原親家知行宛行狀……………	(溝部石夫文書)	一六
三四	(天正八年)	七月廿四日	大友義統書狀……………	(問注所文書)	一六
三五	(天正八年)	八月三日	大友義統感狀……………	(一万田文書)	一六
三六	(天正八年)	八月七日	田原親家感狀……………	(大友家文書錄)	一六
三七	(天正八年)	八月十三日	大友圓齋 <small>義</small> 書狀……………	(予陽河野盛衰記)	一六
三六	(天正八年八月十六日 <small>力</small> )		田原親家感狀……………	(大友家文書錄)	一六
三九	(天正八年 <small>力</small> )	八月廿日	田原親家感狀……………	(萱嶋文書)	一六
三〇	天正八年	八月	大友義統頸・手負注文一見狀……………	(若林文書)	一六
三一	(天正八年)	八月廿六日	大友義統感狀……………	(同上)	一六
三二	(天正八年)	八月廿六日	志賀道輝 <small>親守</small> 副狀……………	(同上)	一六
三三	(天正八年 <small>力</small> )	九月七日	田原親家書狀……………	(森文書)	一六
三四	(天正八年)	九月十五日	大友義統感狀……………	(大友家文書錄)	一六
三五	天正八年		安岐表御警固日記……………	(狹間田文書)	一六
三六	天正八年	九月廿日	吉村掃部跡朝來田坪付……………	(吉村韓太文書)	一六
三七			豐後國志……………		一六
三八	(天正八年)	十月七日	田原親家安堵狀……………	(森文書)	一六
三九	(天正八年)	十月七日	大友圓齋 <small>義</small> 書狀……………	(問注所文書)	一六
四〇	(天正八年)	十月八日	大友圓齋 <small>義</small> 書狀……………	(佐田文書)	一六
四一	(天正八年)	十月十日	大友圓齋 <small>義</small> ・大友義統連署感狀……………	(大友家文書錄)	一六
四二	(天正八年)	十月十四日	大友義統書狀……………	(鹿子木文書)	一六
四三	(天正八年)	十月十四日	大友氏加判衆連署奉書……………	(大友家文書錄)	一六
四四	(天正八年)	十月廿七日	高橋紹運 <small>種</small> 書狀……………	(五条文書)	一六

目次

二五二	天 正 九年二月五日	田原親家知行預ヶ狀……………	(溝部文書)	三三
二五三	(天正九年カ)	宗溫・淨仙等連署奉書……………	(萱嶋文書)	三三
二五四	「天 正 九」	大友圓齋 <sup>續</sup> 書狀……………	(同 上)	三三
二五五	(天正九年カ)	田原親家知行預ヶ狀……………	(同 上)	三四
二五六	天 正 十年五月廿七日	田原親家安堵狀……………	(森文書)	三五
二五七	天 正 十年五月廿七日	田原親家一跡安堵狀……………	(同 上)	三五
二五八	天 正 十年五月十七日	田原親家知行預ヶ狀……………	(宮永氏藏津崎文書)	三六
二五九	「天 正 九年」	萱嶋宏壽・木田賴直連署打渡狀……………	(萱嶋文書)	三六
二六〇	天 正 九年五月三日	田原親家知行宛行狀……………	(岩藤文書)	三七
二六一	天 正 九年五月廿三日	宗柏外五名連署書狀……………	(萱嶋文書)	三七
二六二	天 正 九年十月十八日	田原親家督安堵并 恩賞宛行狀……………	(同 上)	三八
二六三	天 正 九年十月十八日	宏壽打渡狀……………	(入江文書)	三九
二六四	(天正十年頃)	大友府蘭 <sup>續</sup> 名字狀……………	(萱嶋文書)	三九
二六五	(天正十年)	田原親家感狀……………	(森文書)	三〇
二六六	(天正十年カ)	田原親家感狀……………	(萱嶋文書)	三〇
二六七	天 正 十年五月廿七日	田原親家官途狀……………	(松原文書)	三一
二六八	(天 正 十年)	田原親家恩賞宛行狀……………	(同 上)	三一
二六九	(天正十年カ)	大友義統一跡安堵狀寫……………	(永松栄雄文書)	三一
二七〇	(天 正 十年)	大友義統名字狀寫……………	(永松氏家録)	三一
二七一	天 正 十年八月十九日	大友義統加冠狀……………	(同 上)	三一
二七二	天 正 十年九月廿日	田原親家知行宛行坪付……………	(松原文書)	三一
二七三	天 正 十三年正月廿日	田原親家名字書出……………	(萱嶋文書)	三一
二七四	天 正 十三年三月十日	田原親家知行預ヶ狀……………	(森文書)	三四

二六六	田原親家書狀……………	(菅嶋文書)	三〇四
二六七	田原親家書狀……………	(同 上)	三〇五
二七〇	田原親家知行宛行坪付寫……………	(内田文書)	三〇六
二七一	奈多氏奉行人堀紹覺書狀……………	(朝見八幡宮文書)	三〇七
二七二	天正十六年參宮帳寫……………	(後藤作四郎文書)	三〇八
二七三	天正十六年參宮帳寫……………	(永松榮雄文書)	三〇九
二七四	大友吉統官途狀寫……………	(竹中家文書)	三一〇
二七五	大友吉統書狀……………	(西寒多神社文書)	三一〇
二七六	豐後國檢地目録案……………	(武内本・中島本)	三一〇
二七七	豐後國諸侍着到帳寫……………	(豊後檢地記)	三一〇
二七八	大友家 <small>義統</small> 國東郡士交名……………	(永松氏家録)	三一〇
二七九	大友吉統感狀寫……………	(森文書)	三一〇
二八〇	田原親英安堵狀……………	(永松氏家録)	三一〇
二八一	大友宗巖 <small>統吉</small> 書狀寫……………	(永松榮雄文書)	三一〇
二八二	大友宗巖 <small>統吉</small> 書狀寫……………	(森文書)	三一〇
二八三	田原親家書狀……………	(同 上)	三一〇
二八四	森與助上表地坪付案……………	(同 上)	三一〇
二八五	田原親家一跡安堵狀……………	(同 上)	三一〇

遺 補

一 (永祿五年カ) 七月廿六日 田原親賢書狀案…………… (永弘文書)…………… 三二〇

付 録

一 森氏系図…………… (森文書)…………… 三二〇  
 二 東国東郡安岐町(除大字阿子・富清・糸永)・杵築市(旧安岐町奈狩江地区・大字大内)大字・小字一覽表…………… 三二〇

八坂(上下)新莊史料

一	豐後國風土記	.....	(荒木田久老校訂本)	二五
二	倭名類聚抄	.....		四四
三	長治元年 <sup>甲申</sup> 十一月二十三日 妙經寺經筒銘	.....	(大分県金石年表)	三五
四	文治二年四月十三日 後白河院廳下文案	.....	(益永家記録)	三五
五	(建久八年 <sup>カ</sup> ) 豐後國圖田帳案斷簡	.....	(到津文書)	二六
六	建仁元年六月廿四日 日向守藤原朝臣某請取狀	.....	(志賀文書)	二五
七	承久二年十二月 日 檢校祐清(カ)讓狀	.....	(石清水文書)	二五
八	寛元二年 <sup>甲辰</sup> 五月廿日 僧阿入院主職等讓狀	.....	(秋吉文書)	二五
九	某裁許狀斷簡	.....	(生桑寺大般若経裏打紙文書)	二五
一〇	文永六年六月 日 八坂下莊領家下文	.....	(諸家文書纂所収野上文書)	二四
一一	文永七年三月 日 宮清彌勒寺領注進狀拔書案	.....	(石清水文書)	二四
一二	某施行狀斷簡	.....	(生桑寺大般若経裏打紙文書)	二六
一三	八坂新莊地頭(カ)請文斷簡	.....	(同 上)	二六
一四	藤原某讓狀	.....	(同 上)	二六
一五	弘安四年二月 日 八坂下莊領家御教書	.....	(生地文書)	二六
一六	弘安八年九月晦日 豐後國大田文案	.....	(平林本)	二六
一七	弘安八年九月晦日 豐後國圖田帳案	.....	(内閣文庫本)	二六
一八	弘安九年九月三日 八坂下莊四郎入道讓狀案	.....	(宇都宮文書)	二七
一九	弘安十年十二月十八日 關東下知狀案	.....	(石志文書)	二四
二〇	正應四年二月八日 八坂下莊領家御教書	.....	(生地文書)	二四

二	正	應	四年十月	日	宇都宮薩摩守給地注文	(宇都宮文書)	二五
三			九月七日		八坂下莊領家御教書	(生地文書)	二六
三			九月八日		八坂下莊領家御教書	(同 上)	二七
三	永	仁	五年十月二日		鎮西御教書	(生桑寺大般若經裏打紙文書)	二八
三					鎮西御教書斷簡	(同 上)	二九
三	正	安	三年三月廿七日		鎮西 <small>北條</small> 實政御教書	(島津家文書)	三〇
三					彌勒寺領諸莊供米注文	(永弘文書)	三一
三					鎮西 <small>北條</small> 政顯下知狀案	(同 上)	三二
三	正	和	二年六月廿七日		某裁許狀斷簡	(生桑寺大般若經裏打紙文書)	三三
三					鎮西下知狀斷簡	(同 上)	三四
三					鎮西 <small>北條</small> 政顯下知狀	(永弘文書)	三五
三	正	和	二年七月二日		鎮西 <small>北條</small> 政顯下知狀	(同 上)	三六
三	正	和	二年七月十二日		鎮西 <small>北條</small> 政顯下知狀	(同 上)	三七
三	正	和	二年十月六日		八坂下莊大片平正一申狀	(宇都宮文書)	三八
三	正	和	三年四月	日	八坂下莊大片平辨濟使淨惠陳狀	(同 上)	三九
三	正	和	參年四月	日	八坂下莊大片平得分注文	(同 上)	四〇
三	正	和	三年十二月	日	八坂下莊領家下文	(諸家文書纂所収野上文書)	四一
三	正	和	四年五月十五日		八坂下莊領家下文	(同 上)	四二
三	嘉	曆	元年七月一日		彌勒寺喜多院所領注進	(石清水文書)	四三
三	元	德	三年十二月廿三日		字めせ女起請文	(生桑寺大般若經裏打紙文書)	四四
三	元	德	四年七月十九日		越智通貞書狀斷簡	(同 上)	四五
三					宇佐宮并彌勒寺由緒記寫	(到津文書)	四六
三					彌勒寺所司神理申狀斷簡	(生桑寺大般若經裏打紙文書)	四七

四	元弘	元 <sup>辛未</sup> 六月二日	豐後守護大友具閑 <small>具閑</small> 感狀寫	(秋吉文書)	三三
四	正慶	二年閏二月十八日	鎮西 <small>北條</small> 御教書寫	(宮成文書)	三三
四	建武	元年六月十六日	雜訴決斷所牒寫	(真玉氏系図)	三四
四	建武	貳年十一月 日	伴忠義八坂下莊内秋吉名畠屋敷配分狀	(秋吉文書)	三四
四	建武	四年三月廿七日	大友田原系圖	(入江文書)	三五
五	自曆應	二年三月卅日	足利將軍 <small>尊氏</small> 家御教書	(武内文書)	三六
五	至貞治	四年十二月	八坂下莊若宮社由緒記	(長野末夫文書)	三六
五	曆應	二年 <sup>己卯</sup> 四月廿五日	生桑寺大般若經奥書	(生桑寺の写本大般若經)	三六
五	曆應	三年五月廿二日	石志定阿彌讓狀案	(石志文書)	三三
五	曆應	四年閏四月十日	八坂下莊領家下文	(生地文書)	三四
五	曆應	四年八月廿八日	八坂道園請文寫	(諸家文書纂所収野上文書)	三四
五	曆應	四年十月八日	足利尊氏 <small>義満</small> 袖判下文	(大友家文書録)	三五
五	曆應	五年五月二日	八坂道園請文	(到津文書)	三五
五	曆應	五年五月十日	豐後守護代備前介宗頼打渡請文	(永弘文書)	三六
六	曆應	五年五月十日	八坂道園打渡請文	(同 上)	三六
六	曆應	五年五月十日	八坂上莊領家 <small>義隆</small> 申狀斷簡	(生桑寺大般若經裏打紙文書)	三六
六	曆應	五年五月十日	八坂上莊領家 <small>義隆</small> 申狀斷簡	(同 上)	三六
六	曆應	五年五月十日	八坂下莊領家下知狀	(秋吉文書)	三六
六	曆應	五年五月十日	八坂下莊中村内半分田畠等忠氏知行坪付注文案	(同 上)	三六
六	曆應	五年五月十日	八坂下莊中村内忠氏知行坪付注文案	(同 上)	三六
六	曆應	五年五月十日	秋吉忠氏等連署四至堺定文寫	(同 上)	三六
六	曆應	五年五月十日	ひさきよ・まさおう連署奉書案	(同 上)	三七
六	曆應	五年五月十日	田部氏女代郷輔請文寫	(宇佐郡諸家古文書)	三八

卷	貞	和	三年正月廿六日	八坂下莊內秋吉名田畠戶次方分帳案 (秋吉文書)	三九
六	貞	和	三年正月廿六日	八坂下莊內秋吉名田畠戶次方分坪付案 (同 上)	三〇
五	貞	和	四年二月廿三日	八坂道圓請文案 (永弘文書)	三一
四	觀	應	二年八月廿三日	八坂下莊秋吉名當知行并押領分坪付注文 (秋吉文書)	三二
三	觀	應	二年八月廿三日	秋吉氏相傳文書覺書寫 (同 上)	三三
二	文	和	二年歲在癸巳五月十八日	八坂下莊領家御教書 (生地文書)	三四
一	文	和	二年「癸巳」五月十六日	釣鷺山安住禪寺梵鐘銘 (大日本金石史)	三五
	文	和	二年「癸巳」十月十六日	八坂下莊領家下知狀 (生地文書)	三六
	文	和	二年「癸巳」十月十六日	八坂下莊領家下知狀 (同 上)	三七
	文	和	三年十月十六日	戶次淨心親安堵申狀案 (大友文書)	三八
	貞	治	三年二月 日	大友氏時當知行所領所職等注進狀案 (同 上)	三九
	應	安	八年八月廿二日	尼正安遺領配分狀 (秋吉文書)	四〇
	永	和	三年八月二日	足利將軍 <small>滿義</small> 家御教書案 (石清水八幡宮旧記抄)	四一
	永	和	四年八月十七日	足利將軍 <small>滿義</small> 家御教書案 (同 上)	四二
	永	德	三年七月十八日	大友親世當知行所領所職等注進狀案 (大友文書)	四三
	應	永	元年一月 日	八坂下莊藥丸・秋吉兩名主和與狀 (秋吉文書)	四四
	應	永	二年六月 日	秋吉忠氏知行地坪付 (同 上)	四五
	應	永	四年丁丑三月五日	沙彌妙居讓狀 (同 上)	四六
	應	永	五年戊寅二月九日	藤原直俊證狀 (同 上)	四七
	永	享	五年十二月十三日	重安直重利錢借券案 (永弘文書)	四八
	永	享	五年五月廿七日	宇佐宮寺造營并神事法會再興日記目錄案 (到津文書)	四九
	永	享	五年五月廿七日	大友親綱知行預分狀 (大友家文書錄)	五〇
	永	享	十一月一日	重秀書狀 (永弘文書)	五一

目次



目次

106	大友親繁書狀……………	(若林文書)	100
105	大友親繁恩賞預ケ狀……………	(八坂文書)	101
104	八坂本莊秋吉・藥丸兩名浮免坪付注文……………	(秋吉文書)	102
103	杵築若宮八幡社棟札銘……………	(大分県金石年表)	103
102	杵築若宮八幡社棟札銘……………	(同)	104
101	秋吉房泰契約狀……………	(秋吉文書)	105
100	秋吉賴泰書狀……………	(同)	106
99	秋吉賴泰契約狀……………	(同)	107
98	杵築若宮八幡社棟札銘……………	(大分県金石年表)	108
97	杵築若宮八幡社棟札銘……………	(同)	109
96	大聖院宗心知行預ケ狀案……………	(森文書)	110
95	大聖院宗心知行預ケ狀……………	(永弘文書)	111
94	大友氏加判衆連署奉書……………	(同)	112
93	木付繁泰書狀……………	(同)	113
92	木付繁泰書狀……………	(同)	114
91	木付繁泰書狀……………	(同)	115
90	杵築若宮八幡社棟札銘……………	(生地冬至所藏文書)	116
89	某條々書出案……………	(永弘文書)	117
88	杵築若宮八幡社棟札銘……………	(史料蒐集目錄)	118
87	源付木親實・同親諸連署寄進狀……………	(生地文書)	119
86	杵築若宮八幡社棟札銘……………	(大分県金石年表)	120
85	藥丸親守護狀……………	(秋吉文書)	121
84	八坂下莊藥丸名坪付注文……………	(同)	122
83	天 文 六年 <sup>西丁</sup> 三月十五日		123
82	天 文 陸年 <sup>丁酉</sup> 三月十五日		124
81	天 文 三年 <sup>甲午</sup> 卯月七日		125
80	大 永 二年 <sup>壬午</sup> 十月廿一日		126
79	大 永 二年 <sup>甲申</sup> 拾月十三日		127
78	大 永 二年 <sup>甲申</sup> 拾月十三日		128
77	大 永 二年 <sup>壬午</sup> 十月廿一日		129
76	明 應 十年 二月五日		130
75	明 應 十年 二月五日		131
74	明 應 十年 二月五日		132
73	明 應 十年 二月五日		133
72	明 應 十年 二月五日		134
71	明 應 十年 二月五日		135
70	明 應 十年 二月五日		136
69	明 應 十年 二月五日		137
68	明 應 十年 二月五日		138
67	明 應 十年 二月五日		139
66	明 應 十年 二月五日		140
65	明 應 十年 二月五日		141
64	明 應 十年 二月五日		142
63	明 應 十年 二月五日		143
62	明 應 十年 二月五日		144
61	明 應 十年 二月五日		145
60	明 應 十年 二月五日		146
59	明 應 十年 二月五日		147
58	明 應 十年 二月五日		148
57	明 應 十年 二月五日		149
56	明 應 十年 二月五日		150
55	明 應 十年 二月五日		151
54	明 應 十年 二月五日		152
53	明 應 十年 二月五日		153
52	明 應 十年 二月五日		154
51	明 應 十年 二月五日		155
50	明 應 十年 二月五日		156
49	明 應 十年 二月五日		157
48	明 應 十年 二月五日		158
47	明 應 十年 二月五日		159
46	明 應 十年 二月五日		160
45	明 應 十年 二月五日		161
44	明 應 十年 二月五日		162
43	明 應 十年 二月五日		163
42	明 應 十年 二月五日		164
41	明 應 十年 二月五日		165
40	明 應 十年 二月五日		166
39	明 應 十年 二月五日		167
38	明 應 十年 二月五日		168
37	明 應 十年 二月五日		169
36	明 應 十年 二月五日		170
35	明 應 十年 二月五日		171
34	明 應 十年 二月五日		172
33	明 應 十年 二月五日		173
32	明 應 十年 二月五日		174
31	明 應 十年 二月五日		175
30	明 應 十年 二月五日		176
29	明 應 十年 二月五日		177
28	明 應 十年 二月五日		178
27	明 應 十年 二月五日		179
26	明 應 十年 二月五日		180
25	明 應 十年 二月五日		181
24	明 應 十年 二月五日		182
23	明 應 十年 二月五日		183
22	明 應 十年 二月五日		184
21	明 應 十年 二月五日		185
20	明 應 十年 二月五日		186
19	明 應 十年 二月五日		187
18	明 應 十年 二月五日		188
17	明 應 十年 二月五日		189
16	明 應 十年 二月五日		190
15	明 應 十年 二月五日		191
14	明 應 十年 二月五日		192
13	明 應 十年 二月五日		193
12	明 應 十年 二月五日		194
11	明 應 十年 二月五日		195
10	明 應 十年 二月五日		196
9	明 應 十年 二月五日		197
8	明 應 十年 二月五日		198
7	明 應 十年 二月五日		199
6	明 應 十年 二月五日		200
5	明 應 十年 二月五日		201
4	明 應 十年 二月五日		202
3	明 應 十年 二月五日		203
2	明 應 十年 二月五日		204
1	明 應 十年 二月五日		205

二三	天文六年 <small>ひのち</small> とりの	四月廿八日	藥丸親守護狀……………	(同)	上	三六
二四	天文 拾陸年 <small>未丁</small>	二月廿九日	杵築若宮八幡社棟札銘……………	(大分県金石年表)		三七
二五	(年 未 詳)	十一月三日	八坂公重書狀……………	(永弘文書)		三九
二六			某書狀……………	(同)	上	三九
二七		卯月十日	永弘通忠(五)書狀……………	(同)	上	三九
二八		卯月十七日	立石鑑成書狀……………	(同)	上	三九
二九		卯月十八日	有永資辰書狀案……………	(同)	上	三九
三〇		十一月十日	永弘通忠書狀案……………	(同)	上	三九
三一	(年 未 詳)		田原親宏安堵分坪付寫……………	(森文書)		三九
三二	永祿 四年辛酉	沽洗 <small>(三月)</small> 十二日	杵築若宮八幡社棟札銘……………	(大分県金石年表)		三九
三三		十一月九日	大友氏加判衆連署書狀……………	(荒卷文書)		三九
三四	永祿 十一年 <small>辰</small> 戊	三月廿三日	杵築若宮八幡社棟札銘……………	(大分県金石年表)		三九
三五	(永祿十一年カ)	七月五日	大友宗麟 <small>義</small> 感狀……………	(常念寺文書)		三九
三六	(永祿十一年カ)	七月廿三日	大友宗麟 <small>義</small> 感狀……………	(八坂文書)		三九
三七		三月六日	大友宗麟 <small>義</small> 書狀……………	(荒卷文書)		三九
三八	天 正 二年甲戌	七月十五日	朝日寺再建碑銘……………	(大分県金石年表)		三九
三九	(天正二年頃)	七月廿三日	田原氏年寄連署奉書……………	(足立悦雄文書)		三九
四〇	天 正 二年 <small>丙</small> 丙	卯月廿一日	杵築若宮八幡社棟札銘……………	(大分県金石年表)		三九
四一		十一月十三日	大友宗麟 <small>義</small> 跡目安堵狀……………	(野間文書)		三九
四二	天正六年 <small>つちのゑ</small> とりのゑ	二月八日	右田鑑盛等連署速見郡間別調注文……………	(杵原八幡宮文書)		三九
四三			某書狀案……………	(永弘文書)		三九
四四		十二月二日	田染鎮富書狀案……………	(同)	上	三九
四五		十二月二日	大友義統一跡安堵狀寫……………	(野間文書)		三九

目次

三三	(天正七年)十二月八日	大友義統感狀……………	(吉弘文書)	三三
三二	(天正八年)三月廿四日	大友圓齋 <small>鎮義</small> ・大友義統連署書狀……………	(大友家文書錄)	三二
三一	天正八年 <small>庚辰</small> 三月廿八日	大友義統感狀寫……………	(秋吉文書)	三一
三〇	天正九年八月十五日	田原親家知行預ヶ狀……………	(宮永氏藏津崎文書)	三〇
二九	(天正九?十年頃)正月廿三日	大友義統感狀……………	(長野末夫文書)	二九
二八	天正十年三月十三日	田原親家知行宛行狀……………	(津崎文書)	二八
二七	(天正九?十年頃)卯月三日	大友義統書狀……………	(長野末夫文書)	二七
二六	(天正十一年?)十月十六日	大友義統感狀……………	(常念寺文書)	二六
二五	天正十六年 <small>子戌</small> 十一月廿日	杵築若宮八幡社棟札銘……………	(大分県金石年表)	二五
二四	十月三日	木付統次書狀……………	(朝見八幡宮文書)	二四
二三	霜月卅日	木付統次書狀……………	(同)	二三
二二	十二月十一日	木付統次書狀……………	(同上)	二二
二一	天正十九年 <small>卯辛</small> 八月吉日	豊後國檢地目録案……………	(西塞多神社文書)	二一
二〇	文祿二年八月	豊後國速見郡木付莊中津村田方御檢地帳 (永青文庫藏)		二〇
一九	文祿貳年八月廿日	豊後國速見郡木付莊中津村畠方御檢地帳 (同上)		一九
一八	十月五日	木付作内遺言狀……………	(朝見八幡宮文書)	一八
一七	八年十月吉日	千光寺鰐口銘……………	(字佐・国東半島を 中心とする文化財)	一七
付録				
一	清和源氏木付家系……………		(勝山歴代豊城世譜)	一
二	秋吉系圖(抄)……………		(秋吉文書)	二
三	杵築市(除旧奈狩江村 及ビ大字大内)大字・小字一覽表……………			三

# 山香郷史料

一	豐後國風土記	……………	(荒木田久老校訂本)	四七
二	倭名類聚抄	……………	……………	四七
三	永保三年九月廿二日	津波戸山水月寺經筒銘	……………	四七
四	永久五年 <small>町</small> 三月九日	西明廢寺毘沙門天像銘	……………	四八
五	仁安三年	仁安三年六郷二十八山本寺目錄案	……………	四八
六	文治二年四月十三日	後白河院廳下文案	……………	四九
七	(建久八年 <small>カ</small> )	豐後國圖田帳案斷簡	……………	四九
八	建仁元年六月廿四日	日向守藤原朝臣某請取狀	……………	四九
九	元久元年 <small>子甲</small> 拾月 日	山香郷大内ヶ平四方指案	……………	四九
一〇	建曆三年二月 日	前大僧正慈鎮讓狀案	……………	四〇
一一	承久二年十二月十日	大善法寺祐清讓狀	……………	四〇
一二	承久二年十二月 日	檢校祐清 <small>(カ)</small> 讓狀	……………	四一
一三	安貞二年五月 日	六郷山諸勤行并諸堂役祭等目錄寫	……………	四一
一四	嘉禎二年三月十七日	大友寂秀 <small>親</small> 讓狀	……………	四二
一五	仁治三年九月廿五日	家田實清處分狀	……………	四三
一六	文永十一年七月 日	法印某書狀	……………	四四
一七	(年)月日未詳	後善法寺宮清處分帳	……………	四五
一八	弘安七年三月廿五日	豐後守護大友頼泰施行狀寫	……………	四六
一九	弘安八年九月晦日	某施行狀寫	……………	四六
二〇	弘安八年九月晦日	豐後國大田文案	……………	四七

目次

目次

二	弘安	八年九月晦日	豐後國圖田帳案	(内閣文庫本)	四七
三			田北某文書預ヶ狀	(大友家文書録)	四七
三	永仁	五年六月日	善法寺尙清處分帳	(石清水文書)	四八
四		年卯月日	壽聖寺方預所聖淳契約狀	(工藤隆弘文書)	四九
五			彌勒寺領諸莊供米注文	(永弘文書)	四〇
六	延慶	三年戊辰四月廿九日	貫井堂國東塔銘	(大分の石造美術)	四〇
七	正和	二年二月廿二日	鎮西 <small>北條</small> 政顯下知狀	(樋田文書)	四一
八	文中 <small>保</small>	伍年八月十一日	沙彌願念土貢公事足納所證狀	(長野康雄文書)	四三
九	元久 <small>乙丑</small>	二年二月廿八日	豐後國々宣寫	(工藤勲文書)	四四
〇	弘	二年十二月十六日	豐後國々宣	(工藤隆弘文書)	四五
一	元弘	三年九月日	藤原直致著到狀	(志手文書)	四五
二	建武	元戌年四月四日	本篠板碑銘	(大分の石造美術)	四六
三	建武	元年五月一日	後醍醐天皇綸旨	(古文書纂)	四六
四	建武	三年三月三日	御代官家繼奉書	(松田文書)	四六
五	建武	四年丁丑六月一日	六郷山本中末寺次第并四至等注文案	(永弘文書)	四七
六	建武	四年十一月五日	工藤致郷著到狀	(長野康雄文書)	四七
七	建武	五年 <small>戊寅</small> 八月 <small>己巳</small> 月 <small>己巳</small> 日	上市寶塔塔身銘	(白井昭一調査記録)	四八
八	應永	肆年辛巳九月廿九日	古殿名四至榜示境案	(河野広文書)	四八
九	康永	元年九月日	志賀頼房言上狀	(大友家文書録)	四九
〇	康永	四年乙酉八月彼岸	山口板碑銘	(大分の石造美術)	四〇
一	貞和	二年正月十四日	田北氏所領文書目錄	(田北一六文書)	四一
二	貞和	參年五月十六日	光智・家弘連署書下	(松田文書)	四三
三	貞和	四年正月十一日	志賀頼房讓狀	(志賀文書)	四三

四	貞	和	四年 <sup>子戊</sup> 二月下旬 <sup>後</sup>	辻小野觀音堂石造三重塔銘	(大分の石造美術)	四三
四	貞	和	四年五月二日	藤原直致讓狀案	(工藤隆弘文書)	四四
四	貞	和	四年 <sup>己巳</sup> 二月廿一日	甲尾山上石塔塔身銘	(大分の石造美術)	四五
四	觀	應	三年九月廿日	平北泰直讓狀寫	(田北一六文書)	四六
四	正	平	九年三月廿六日	足利直冬寄進狀案	(防府國分寺文書)	四七
四	正	平	十二年十一月三日	沙彌ちやうをう讓狀案	(工藤隆弘文書)	四八
四	正	平	十三初冬下旬	小武寺五輪塔水輪銘	(大分眞金石年表)	四九
四	正	平	「拾三〇〇」下旬	小武寺五輪塔水輪銘	(同 上)	五〇
四	貞	治	三年二月日	大友氏時當知行所領所職等注進狀案	(大友文書)	五一
四	貞	治	五年 <sup>丙午</sup> 十一月 <sup>申</sup>	下方錐柱狀碑銘	(大分の石造美術)	五二
四	貞	治	七年	某宛行狀	(松田文書)	五三
四	應	安	五年 <sup>大藏</sup> 九月八日	小谷國東塔銘	(大分の石造美術)	五四
四	應	安	六年 <sup>辛丑</sup> 三月七日	西中尾三社八幡社寶篋印塔銘	(大分眞金石年表)	五五
四	應	安	七年九月廿二日	豐後國花嶽合戰手負注文	(入江文書)	五六
四	應	安	七年十月日	今川了俊 <sup>世貞</sup> 感狀寫	(同 上)	五七
四	應	安	七年十月日	田原氏能軍忠狀	(同 上)	五八
四	應	安	六月五日	吉弘了曇 <sup>世貞</sup> 書狀	(工藤隆弘文書)	五九
四	應	安	八年二月日	田原氏能軍忠狀	(入江文書)	六〇
四	永	和	元年 <sup>卯乙</sup> 十月廿三日	重永國東塔銘	(大分の石造美術)	六一
四	永	和	二年卯月廿九日	今川了俊 <sup>世貞</sup> 感狀	(工藤隆弘文書)	六二
四	永	和	三丁七月日	市場寶篋印塔銘	(大分の石造美術)	六三
四	永	和	三年八月二日	足利將軍 <sup>滿義</sup> 家御教書案	(石清水八幡宮日記抄)	六四
四	永	和	四年八月十七日	足利將軍 <sup>滿義</sup> 家御教書案	(同 上)	六五

目次

目次

㉔	永 和	四年八月	堂野地藏堂板碑銘……………	(大分県金石年表)	四九
㉓	永 德	三年七月十八日	大友親世當知行所領所職等注進狀案……………	(大友文書)	四九
㉒	永 德	三年八月廿七日	小武德野方錐形柱狀碑銘……………	(大分の石造美術)	四九
㉑	永 得	三年十月十六日	志賀氏房讓狀……………	(志賀文書)	四九
㉐	永 德	○癸亥十一月廿五日	下中尾地藏堂寶篋印塔銘……………	(大分の石造美術)	四九
㉏	永 德	四年甲子○月廿日	塔ノ本國東塔銘……………	(同 上)	四九
㉎	永 德	六年九月廿六日	今川了俊 <sup>世貞</sup> 書下……………	(宇佐正覺寺文書)	四九
㉍	明 德	元年孟冬上旬	辻小野西明寺石塔銘……………	(大分の石造美術)	四九
㉌	永 永	五年八月十九日	志賀親昌讓狀……………	(志賀文書)	四九
㉋	永 永	十年十一月十五日	沙彌某・左衛門尉某連署奉書……………	(同 上)	四九
㉊	永 永	十九年巳十一月十五日	六郷満山離山衆徒等申狀……………	(六郷山文書)	四九
㉉	永 永	貳拾八稔三月廿日	豊後國山香郷法式寫……………	(志手文書)	四九
㉈	永 永	十一月廿五日	段錢・准田錢催促書札礼……………	(當家筆法之抄条々)	四九
㉇	永 永	六年甲卯月五日	大内持世書狀……………	(佐田文書)	四九
㉆	永 永	七年八月九日	志手實久田所職讓狀……………	(志手文書)	四九
㉅	永 永	七年十月廿七日	大友親綱知行預ヶ狀……………	(長野末夫文書)	四九
㉄	永 永	七年十二月七日	足利幕府奉行人連署奉書……………	(吉川家文書)	四九
㉃	永 永	八年三月廿四日	大友親綱書狀……………	(大友家文書録)	四九
㉂	永 永	八年五月四日	大友親綱知行預ヶ狀……………	(同 上)	四九
㉁	永 永	八年五月十四日	大友親綱書狀……………	(田北隆信文書)	四九
㉀	永 永	八年五月十九日	幕府上使景臨首座書狀……………	(同 上)	四九
㉔	永 永	十月十六日	幕府上使景臨首座書狀……………	(田北要太郎文書)	四九
㉓	永 永	十月十六日	大友親隆知行預ヶ狀……………	(長野末夫文書)	四九

六〇	八月廿八日	大友親重感狀……………	(同)	上	四三
五九	十二月十三日	大友親重感狀……………	(同)	上	四二
五八	卯月三日	大友親繁書狀……………	(同)	上	四一
五七	五月十八日	大友親繁恩賞宛行狀案……………	(松田文書)		四〇
五六	十月廿一日	大友親繁書狀……………	(志手文書)		三九
五五	十二月廿三日	大友親繁名字狀……………	(工藤隆弘文書)		三八
五四	三年三月十日	高崎親治契約狀……………	(同)	上	三七
五三	三年三月廿四日	高崎親治書狀……………	(同)	上	三六
五二	「享德三年」八月十四日	重吉秀直・石田興弘連署書狀案……………	(永弘文書)		三五
五一	「享德三年」二月廿五日	源 <sup>舞</sup> 志親明置文……………	(志賀文書)		三四
四〇	三年 <sup>丑</sup> 丁三月十一日	大友政親受領狀……………	(長野康雄文書)		三三
三九	五月十一日	大友政親官途狀……………	(同)	上	三二
三八	十月五日	大友政親書狀……………	(長野末夫文書)		三一
三七	十月十五日	大友政親知行預 <sup>ケ</sup> 狀……………	(同)	上	三〇
三六	九月廿九日	大友親 <sup>義</sup> 豐 <sup>右</sup> 書狀……………	(同)	上	二九
三五	「文明十八年 <sup>丙</sup> 」八月三日	大友親 <sup>義</sup> 豐 <sup>右</sup> 跡目安堵狀……………	(同)	上	二八
三四	延 <sup>亥</sup> 德 <sup>辛</sup> 參年 <sup>亥</sup> 五月十八日	都留能佐定狀案……………	(志手文書)		二七
三三	三月四日	吉弘親利・都甲著利連署奉書……………	(工藤隆弘文書)		二六
三二	三月十日	某書狀……………	(同)	上	二五
三一	九月五日	大聖院宗心感狀……………	(同)	上	二四
三〇	九月九日	大聖院宗心書狀……………	(同)	上	二三
二九	(明應五年)十二月十三日	大友親治知行預 <sup>ケ</sup> 狀寫……………	(平林文書)		二二
二八	明應五年十二月十三日	大友氏加判衆連署奉書案……………	(碩田叢史所収平林文書)		二一

目次



二二	八月十一日	大友親治書狀寫	……………	(田北一六文書)	……	四四
二四	十一月十七日	大友親治感狀寫	……………	(同 上)	……	四五
二五	十二月五日	大友親治書狀寫	……………	(同 上)	……	四六
二六	明 應 八年二月十九日	大友親治土貢免除狀	……………	(児玉文書)	……	四七
二七	十月十九日	大友義長官途狀	……………	(長野末夫文書)	……	四八
二八	十月廿日	大友義長官途狀	……………	(長野康雄文書)	……	四七
二九	(永正二年カ)十一月七日	大友義長感狀	……………	(長野末夫文書)	……	四七
三〇	永正 四年丁卯十一月六日	志手泰久田畠坪付并米定錢夫錢等注文	案……………	(志手文書)	……	四八
三一		志手泰久田畠坪付并米夫錢等注文	寫……………	(志手トラエ・志手久雄文書)	……	四八
三二		某本地坪付	……………	(大久保文書)	……	四九
三三	十一月二日	大友義長一字狀	……………	(長野末夫文書)	……	四九
三四	十一月十四日	大友義長一跡安堵狀	……………	(同 上)	……	四九
三五	永 正 九年四月廿一日	合妙山延福寺領田敷注文	……………	(河野広文書)	……	四九
三六		合妙山延福寺常住物注文	……………	(同 上)	……	四九
三七	十二月廿三日	山香郷一揆拘分土貢納所錢注文	案……………	(志手トラエ文書)	……	四九
三八	永 正 十年三月廿日	豐氏知行預ケ狀寫	……………	(豐田家伝)	……	四九
三九	十月十六日	豐氏知行預ケ狀寫	……………	(同 上)	……	四九
四〇	永 正 十三年子丙二月十二日	鶴成東光寺墓地板碑銘	……………	(大分の石造美術)	……	四九
四一	(永正十三年)十二月廿七日	大友親安 <sub>鑑義</sub> 知行預ケ狀	……………	(長野末夫文書)	……	四九
四二	(永正十三年)十二月廿七日	大友親安 <sub>鑑義</sub> 知行預ケ狀	……………	(同 上)	……	四九
四三	永 正 十三年十二月廿七日	大友氏加判衆連署奉書	……………	(同 上)	……	四九
四四	永 正 十四 八月六日	大友親安 <sub>鑑義</sub> 跡目安堵狀	……………	(志手文書)	……	四九
四五	九月二日	大友親安 <sub>鑑義</sub> 跡目安堵狀寫	……………	(同 上)	……	四九

一六	大永	十四年九月廿二日	源永得長述打渡狀……………	(工藤隆弘文書)	四〇七
一七	永正	十七年庚辰三月六日	沙彌了昌 <small>志手</small> 讓狀并坪付……………	(志手久明文書)	四〇八
一八	永正	十八年八月十日	親宣名字狀……………	(長野末夫文書)	四〇九
一九	大永	八年閏九月十九日	大友親敦 <small>義義</small> 一跡安堵狀……………	(同 上)	四一〇
二〇	大永	三年十一月十三日	大友親敦 <small>義義</small> 感狀……………	(田北一六文書)	四一一
二一	大永	三年十一月廿日	大友親敦 <small>義義</small> 感狀……………	(同 上)	四一八
二二	大永	四年二月六日	山香郷寺社領覺書案……………	(工藤隆弘文書)	四一八
二三	大永	四年二月十七日	古河景助條々手日記案……………	(田北政治文書)	四一九
二四	大永	四年十月廿九日	志手豐久・野原氏久連署書狀案……………	(佐田友雄文書)	四二〇
二五	大永	四年十一月十一日	志手豐久・野原長久連署夫錢預り狀……………	(同 上)	四二一
二六	大永	四年十一月十六日	得永長述書狀……………	(兒玉文書)	四二二
二七	大永	四年十一月十六日	得永長述書狀……………	(佐田友雄文書)	四二三
二八	大永	四年十一月十六日	野原氏久・八坂公次連署打渡狀……………	(同 上)	四二四
二九	大永	四年十一月十一日	大友よし鑿感狀寫……………	(同 上)	四二四
三〇	大永	四年十一月十一日	大友よし鑿感狀寫……………	(工藤勲文書)	四二五
三一	大永	四年十一月十六日	大友義鑿官途狀……………	(長野末夫文書)	四二五
三二	大永	四年十一月十六日	某跡目安堵狀寫……………	(志手文書)	四二六
三三	大永	七年十一月十六日	大友義鑿感狀……………	(工藤隆弘文書)	四二六
三四	大永	七年十二月三日	大友義鑿感狀……………	(同 上)	四二七
三五	大永	七年十二月十三日	大友義鑿感狀……………	(豐田文書)	四二七
三六	大永	八年閏九月十九日	大友氏加判衆連署奉書……………	(大友家文書錄)	四二八
三七	大永	二月十五日	大友義鑿感狀……………	(豐田文書)	四二八
三八	大永	卯月三日	大友義鑿官途狀……………	(志手文書)	四二九

一五九	大友義鑿受領狀……………	(志手文書)	五〇九
一六〇	大友義鑑安堵狀寫……………	(同上)	五一〇
一六一	山香郷給人帳……………	(田北政治文書)	五二〇
一六二	大友義鑿知行預ヶ狀……………	(長野末夫文書)	五二四
一六三	白杵長景打渡狀……………	(同上)	五二四
一六四	白杵長景裏封給地坪付……………	(同上)	五二五
一六五	都甲常致讓狀……………	(工藤隆弘文書)	五二六
一六六	大友義鑿名字書出寫……………	(長野康雄文書)	五二六
一六七	大友義鑿名字狀……………	(長野末夫文書)	五二六
一六八	大友義鑿感狀……………	(同上)	五二七
一六九	大友義鑿感狀……………	(同上)	五二七
一七〇	大友よし鑿感狀……………	(小野尾文書)	五二八
一七一	大友よし鑿感狀……………	(兒玉文書)	五二八
一七二	大友よし鑿感狀……………	(豊田文書)	五二九
一七三	大友義鑿感狀……………	(田北憲明文書)	五二九
一七四	大友義鑿感狀……………	(大友家文書録)	五三〇
一七五	大友義鑿感狀……………	(能一文書)	五三〇
一七六	大友義鑿感狀……………	(碩田叢史所収田口文書)	五三一
一七七	大友義鑿感狀……………	(荒木たけ文書)	五三一
一七八	大友義鑿感狀……………	(中村文書)	五三三
一七九	大友義鑿感狀……………	(平林文書)	五三三
一八〇	大友義鑿感狀……………	(佐土原文書)	五三三
一八一	大友義鑿感狀……………	(同上)	五三三

101	天 文 二年	卯月二日	大友義馨感狀	……	……	吾四
102	(天 文 二年)	卯月二日	大友義馨感狀	……	(藥師寺文書)	吾四
103	(天 文 二年)	卯月二日	大友義馨感狀	……	(同 上)	吾四
104	(天 文 二年)	卯月二日	大友義馨感狀	……	(大友家文書錄)	吾五
105	(天 文 二年)	卯月十三日	大友義馨感狀寫	……	(右田文書)	吾五
106	(天 文 二年)	四月十三日	大友義鑑感狀寫	……	(同 上)	吾六
107	(天 文 三年)	壬正月十三日	大友義鑑書狀	……	(岐部文書)	吾六
108	(天 文 三年)	二月六日	大友義鑑感狀	……	(長野末夫文書)	吾七
109	(天 文 三年頃)	二月七日	田原親董感狀寫	……	(片山文書)	吾六
110	(天 文 三年)	二月十二日	大友よし鑑感狀	……	(小野尾文書)	吾六
111	(天 文 三年)	二月卅日	大友義鑑感狀	……	(藥師寺文書)	吾六
112	(天 文 三年)	二月卅日	大友義鑑感狀	……	(長野末夫文書)	吾六
113	(天 文 三年)	二月卅日	大友義鑑感狀	……	(曾根崎文書)	吾六
114	(天 文 三年頃)	三月十七日	田原親董恩賞宛行狀寫	……	(片山文書)	吾六
115			大友吉弘系圖	……	(史料編纂所本)	吾六
116	天 文 三年	四月六日	吉弘氏直等供養碑銘	……	(白井昭一調査記録)	吾三
117	天 文 三年	四月六日	吉弘氏直再建墓碑銘	……	(増補訂正編年大友史料)	吾三
118	天 文 三年	卯月六日	寒田親將供養板碑銘	……	(白井昭一調査記録)	吾三
119	天 文 三年	卯月六日	寒田親將再建墓碑銘	……	(増補訂正編年大友史料)	吾三
120	天 文 三年	甲午四月初六日	丸小野次郎左衛門尉供養碑銘	……	(白井昭一調査記録)	吾三
121			眞玉氏系圖	……	(眞玉寺文書)	吾四
122			秋吉系圖	……	(秋吉文書)	吾四
123			大村陣勢場合戰記	……	(増補訂正編年大友史料)	吾五
124			勝山歴代豊城世譜	……	(大分県立図書館本)	吾七

目次

三〇	天文三年	四月七日	佐田朝景感狀	……	(佐田秀穂文書)	……	三〇
三〇	天文三年	四月八日	大友義鑑感狀	……	(古後文書)	……	三〇
三〇	天文三年	四月十日	相良武任奉書	……	(佐田文書)	……	三〇
三〇	天文三年	四月十日	大友義鑑感狀	……	(志手文書)	……	三〇
三〇	天文三年	四月十一日	大友義鑑感狀	……	(大友家文書錄諸田文書)	……	三〇
三〇	天文三年	四月十四日	杉重信 <sup>短重</sup> 書狀	……	(佐田文書)	……	三〇
三二	天文三年	四月十七日	大内義隆感狀	……	(宇佐郡地頭伝記 所収中山文書)	……	三二
三二	天文三年	四月廿日	大友義鑑感狀	……	(植木義勝文書)	……	三二
三三	天文三年	四月廿日	大友義鑑感狀	……	(渡辺文書)	……	三三
三四	天文三年	四月廿日	大友義鑑感狀	……	(同)	……	三四
三五	天文三年	四月廿一日	大友義鑑感狀	……	(豊田文書)	……	三五
三六	天文三年	四月廿一日	大友よし鑑感狀 <sup>寫</sup>	……	(到津文書)	……	三六
三七	天文三年	四月廿一日	大友義鑑感狀	……	(長野康雄文書)	……	三七
三八	天文三年	四月廿一日	大友義鑑感狀	……	(長野末夫文書)	……	三八
三九	天文三年	四月廿一日	大友義鑑感狀	……	(同)	……	三九
三〇	天文三年	四月廿一日	大友義鑑感狀	……	(同)	……	三〇
三一	天文三年	四月廿一日	大友よし鑑感狀	……	(小野尾文書)	……	三一
三一	天文三年	四月廿一日	大友よし鑑感狀	……	(同)	……	三一
三三	天文三年	四月廿一日	大友よし鑑感狀	……	(松田文書)	……	三三
三四	天文三年	四月廿一日	大友義鑑感狀	……	(宇野文書)	……	三四
三五	天文三年	四月廿一日	大友義鑑感狀	……	(栗師寺文書)	……	三五
三六	天文三年	四月廿一日	大友義鑑感狀	……	(同)	……	三六
三七	天文三年	四月廿一日	大友義鑑感狀	……	(工藤隆弘文書)	……	三七

三六	(天文三年)	四月廿八日 <sup>(カ)</sup>	大友義鑑感狀……………	(長野末夫文書)……………	五九
三九	(天文三年)	六月十一日	大友義鑑感狀案……………	(志手文書)……………	五〇
三〇	天文三年	六月十四日	大内義隆感狀……………	(佐田文書)……………	五〇
三三	(天文三年)	七月十九日	杉重信 <sup>重</sup> 書狀……………	(同上)……………	五一
三三		七月廿八日	大友義鑑書狀……………	(志手文書)……………	五一
三三		八月十四日	得永親阿書狀……………	(工藤隆弘文書)……………	五一
三四		十月七日	大友義鑑感狀……………	(長野末夫文書)……………	五一
三五	(天文三年)	十月九日	杉興重・相良武任連署奉書……………	(佐田文書)……………	五二
三六	天文三年	十月十一日	杉興重・相良武任連署奉書……………	(同上)……………	五二
三七	(天文三年)	十月十一日	相良武任奉書……………	(同上)……………	五二
三八		正月十一日	大友義鑑官途狀……………	(長野末夫文書)……………	五三
三九		正月十四日	大友義鑑官途狀……………	(工藤隆弘文書)……………	五三
四〇		正月十七日	大友義鑑受領狀……………	(長野末夫文書)……………	五三
四一		二月廿日	大友義鑑書狀……………	(工藤隆弘文書)……………	五三
四二		三月廿九日	大友義鑑感狀……………	(長野末夫文書)……………	五三
四三		卯月廿四日	大友義鑑一跡安堵狀……………	(同上)……………	五三
四四		卯月廿八日	大友義鑑一跡安堵狀……………	(同上)……………	五三
四五		六月廿五日	大友義鑑受領狀……………	(同上)……………	五三
四六		七月廿七日	大友義鑑跡目安堵狀案……………	(志手文書)……………	五三
四七		八月一日	大友義鑑書狀……………	(長野末夫文書)……………	五三
四八		十月十三日	大友義鑑感狀……………	(工藤隆弘文書)……………	五三
四九		正月十一日	大友義鑑書狀……………	(都甲今朝太郎文書)……………	五三
五〇		二月九日	武定書狀……………	(児玉文書)……………	五三

目次

目次

三三	天 文 六年七月十二日	大友氏加判衆連署奉書寫	(志手文書)	癸一
三三	天 文 七稔戊戌七月十八日	高月地藏堂鑿口銘	(大分眞金石年表)	癸二
三三	天 文 十二年卯癸八月廿九日	某佛神名帳祈禱善根等目錄	(志手久男文書)	癸三
三四	天 文 十三年二月十七日	志手鑑久給地坪付寫	(志手文書)	癸二
三五	二月廿一日	志手鑑清書狀	(同 上)	癸三
三六	十月廿五日	志手鑑清書狀	(志手久男文書)	癸四
三七	十二月廿五日	志手鑑清一字狀	(長野康雄文書)	癸四
三八	天 文 十七年甲戌六月廿日	野原長久讓狀	(志手文書)	癸五
三九	八月一日	大友義鑑書狀	(長野末夫文書)	癸五
四〇	十二月十三日	大友義鑑知行預ヶ狀	(大友家文書録)	癸六
四一	二月九日	親時書狀寫	(工藤勲文書)	癸六
四二	七月十日	大友義鑑書狀	(工藤隆弘文書)	癸七
四三	天 文 十八年十二月廿五日	清原清言加冠狀	(長野末夫文書)	癸七
四四	天 文 十八年十二月下旬	某所用途錢下行帳	(同 上)	癸七
四五	卯月廿五日	雄城治景書狀	(永弘文書)	癸八
四六		某書狀案	(同 上)	癸九
四七	正月十四日	大友義鎮官途狀	(長野康雄文書)	癸九
四八	正月十四日	大友義鎮名字狀	(長野末夫文書)	癸〇
四九	十月廿六日	大友義鎮官途狀	(同 上)	癸〇
五〇	十一月十四日	大友義鎮書狀	(佐田文書)	癸一
五一	十一月十五日	大友義鎮書狀	(同 上)	癸一
五二	(弘治二年)五月廿日	大友氏加判衆連署奉書	(工藤隆弘文書)	癸二
五三	(弘治三年)五月	某手日記	(永弘文書)	癸三

二四	(弘治四年)	五月十六日	首藤鑑秀・竹田津鑑和連署書狀	(同上)	五五
二五	(永祿三年頃)	十月十一日	田原親賢知行預ヶ狀	(長野末夫文書)	五五
二六	永祿四年 <sup>西平</sup>	十月六日	宇佐宮一社中目安狀案	(宮成文書)	五五
二七	永祿五年	三月廿日	大友義鎮恩賞宛行狀寫	(工藤勲文書)	五五
二八		八月一日	鎮述書狀	(宮成文書)	五五
二九		八月十二日	大友義鎮書狀寫	(工藤勲文書)	五七
三〇		十二月廿一日	志手泰吉書狀	(志手トラエ文書)	五七
三一	永祿六年	五月十六日	大友そう麟 <sup>鎮義</sup> 感狀案	(豊田文書)	五九
三二		正月十一日	大友宗里 <sup>鎮義</sup> 感狀	(児玉文書)	五九
三三		正月十一日	大友宗里 <sup>鎮義</sup> 書狀	(小野尾文書)	五〇
三四		三月十二日	大友宗麟 <sup>鎮義</sup> 書狀寫	(河内文書)	五〇
三五	(年未詳)	四月廿三日	鎮員知行預ヶ狀	(吉松文書)	五一
三六		七月廿三日	大友宗麟 <sup>鎮義</sup> 感狀	(長野康雄文書)	五一
三七		八月六日	大友宗麟 <sup>鎮義</sup> 感狀	(長野末夫文書)	五二
三八	(年未詳)	八月廿六日	田北鑑富知行預ヶ狀	(吉松文書)	五二
三九		九月廿三日	大友宗麟 <sup>鎮義</sup> 感狀	(宇野文書)	五三
四〇		三月二日	大友宗麟 <sup>鎮義</sup> 知行預ヶ狀	(長野末夫文書)	五三
四一		正月十一日	大友宗里 <sup>鎮義</sup> 感狀寫	(工藤勲文書)	五四
四二		正月十五日	田原親賢書狀	(長野末夫文書)	五四
四三	(永祿八年 <sup>カ</sup> )	八月廿日	大友宗麟 <sup>鎮義</sup> 感狀	(工藤隆弘文書)	五五
四四	(永祿八年)	八月廿日	大友宗麟 <sup>鎮義</sup> 書狀案	(児玉文書)	五五
四五		十一月廿日	大友宗麟 <sup>鎮義</sup> 感狀	(長野末夫文書)	五六
四六	(永祿十年頃)	八月一日	田原親賢書狀	(豊田文書)	五六

目次



三〇七	永祿 十一年七月十三日	某合戦手負・戦死注文一見狀寫	……………	(田北梅三郎文書)	……………	三〇七
三〇六	(永祿十二年頃カ) 二月十四日	田原紹忍 <small>親賢</small> 書狀	……………	(長野義昭文書)	……………	三〇七
三〇五	三月廿九日	光政書狀	……………	(長野末夫文書)	……………	三〇六
三〇〇	(元龜元年カ) 正月十五日	大友宗里 <small>頼</small> 感狀寫	……………	(到津文書)	……………	三〇九
三〇一	二月十八日	大友義統跡目安塔井一字狀	……………	(長野末夫文書)	……………	三〇九
三〇〇	(天正二年頃カ) 七月十六日	大友義統一字狀	……………	(長野康雄文書)	……………	三〇〇
三〇〇	十一月十一日	鑑守書狀	……………	(工藤隆弘文書)	……………	三〇〇
三〇四	(天正三年カ) 三月十五日	大友義統受領狀	……………	(長野末夫文書)	……………	三〇一
三〇五	(天正三年カ) 十月三日	大友義統一字狀	……………	(長野康雄文書)	……………	三〇一
三〇六	二月四日	大友三非齋 <small>頼</small> 法名書出	……………	(志手文書)	……………	三〇三
三〇六	天正 四年三月十五日	大友義統名字書出寫	……………	(長野末夫文書)	……………	三〇三
三〇六	八月十日	大友義統書狀	……………	(志手トラエ文書)	……………	三〇三
三〇六	九月十三日	大友義統官途狀	……………	(長野康雄文書)	……………	三〇三
三〇〇	十月九日	大友義統一字狀	……………	(同 上)	……………	三〇四
三〇一	十一月十五日	吉岡鑑興書狀	……………	(佐田文書)	……………	三〇四
三〇二	十二月廿八日	田北紹鐵 <small>鑑</small> 受領狀	……………	(小野尾文書)	……………	三〇五
三〇三	天正六年 <small>つちのゑ</small> 二月八日	右田鑑盛等連署速見郡間別調注文	……………	(杵原八幡宮文書)	……………	三〇五
三〇四	(天正六年) 五月七日	大友よし統感狀	……………	(小野尾文書)	……………	三〇六
三〇五	天正 六年七月三日	大友義統感狀案	……………	(児玉文書)	……………	三〇六
三〇六	天正 六年十一月	日向國耳川合戦覺書	……………	(豊田文書)	……………	三〇七
三〇七		山香郷 <small>(之)</small> 某所坪付注文	……………	(賀来惟義文書)	……………	三〇七
三〇八	(天正六年カ) 十二月十二日	大友義統感狀	……………	(長野末夫文書)	……………	三〇八
三〇九	(天正七年) 三月卅日	大友よし統感狀	……………	(豊田文書)	……………	三〇九

三〇〇	(天 正 七年)	三月卅日	大友よし統感狀……………	(小野尾文書)……………	三〇〇
三〇一	(天 正 七年)	卯月廿二日	大友義統感狀……………	(長野末夫文書)……………	三〇〇
三〇二	(天 正 七年カ)	卯月廿八日	宇佐宮一社中目安狀寫……………	(到津文書)……………	三〇二
三〇三	(天 正 七年)	五月十日	大友義統感狀……………	(長野康雄文書)……………	三〇二
三〇四	(天 正 七年)	五月十七日	大友義統書狀案……………	(志手文書)……………	三〇二
三〇五	(天 正 七年カ)	十二月八日	大友義統感狀……………	(宇野文書)……………	三〇三
三〇六	(天 正 七年カ)	十二月廿八日	大友義統感狀……………	(長野末夫文書)……………	三〇三
三〇七	(天 正 八年カ)	正月廿四日	大友宗麟 <sup>領義</sup> ・大友義統連署書狀案……………	(吉松文書)……………	三〇三
三〇八	(天 正 八年)	卯月十日	大友よし統感狀……………	(児玉文書)……………	三〇三
三〇九	(天 正 八年)	卯月十日	大友義統感狀……………	(長野康雄文書)……………	三〇四
三〇〇	(天 正 八年)	卯月十日	大友よし統感狀……………	(豊田文書)……………	三〇四
三〇一	(天 正 八年カ)	卯月廿六日	大友義統跡目安堵狀……………	(長野末夫文書)……………	三〇五
三〇二	(天 正 八年カ)	卯月廿六日	臼杵清昌書狀……………	(城内文書)……………	三〇五
三〇三	(天 正 八年)	五月廿六日	田原親家知行預ケ狀……………	(津崎真澄文書)……………	三〇六
三〇四	(天 正 八年)	八月廿三日	田原親貴恩賞宛行狀……………	(大友家文書録)……………	三〇六
三〇五	(天 正 八年)	九月廿二日	大友義統書狀……………	(宇野文書)……………	三〇七
三〇六	(天 正 八年)	九月廿二日	大友義統感狀……………	(同 上)……………	三〇七
三〇七		十月八日	齋藤道環書狀……………	(平林文書)……………	三〇八
三〇八		十一月七日	田北統周書狀……………	(吉松文書)……………	三〇九
三〇九			吉松右京亮給地坪付……………	(同 上)……………	三〇九
三〇〇	天 正 九年 <sup>辛</sup>	三月七日	松田員種證狀……………	(松田文書)……………	三〇〇
三〇一	(天 正 九年カ)	八月廿五日	大友義統感狀……………	(長野末夫文書)……………	三〇一
三〇二	(天 正 九年カ)	十二月三日	大友義統感狀……………	(長野康雄文書)……………	三〇二

目 次

三三三	(天正九年)	十二月卅日	大友義統萬雜諸點役免除狀	(宇野文書)	三三三
三三四	(天正十一年 <sup>カ</sup> )	正月十六日	大友義統感狀	(長野末夫文書)	三三三
三三四	(天正十一年 <sup>カ</sup> )	十月廿八日	大友よし統感狀	(小野尾文書)	三三三
三三四	(天正十一年 <sup>カ</sup> )	十月廿八日	大友よし統感狀	(豊田文書)	三三三
三三七	天正十一年	小春廿三日	大友氏部下姓氏付案	(志手文書)	三三四
三三八	天正十二年甲申	七月廿日	原寶篋印塔銘	(白井昭一調査記録)	三三七
三三九	(天正十二年)	七月廿六日	大友よし統感狀	(児玉文書)	三三七
三三〇	(天正十二年)	七月廿六日	大友よし統感狀	(豊田文書)	三三八
三三〇	(天正十二年)	七月廿六日	大友義統感狀寫	(工藤勲文書)	三三八
三三三	(天正十三年)	九月十日	大友よし統感狀	(児玉文書)	三三九
三三三	(天正十三年)	九月十日	大友よし統感狀	(豊田文書)	三三九
三三四	(天正十三年)	九月十日	大友よし統感狀	(小野尾文書)	三三〇
三三五	(天正十三年)	九月十日	大友義統感狀寫	(工藤勲文書)	三三〇
三三五	(天正十三年 <sup>カ</sup> )	十二月八日	浦上宗鐵書狀寫	(城内文書)	三三一
三三七			豊後國志		三三一
三三六	天正十六年	正月十三日	野原久内允給地坪付	(志手文書)	三三三
三三九		二月九日	古庄久七書狀	(清原宣雄所藏文書)	三三三
三三〇		六月廿三日	首藤吉丞書狀	(同上)	三三三
三三一		十二月十三日	西正次書狀	(同上)	三三四
三三三	(天正十八年)	二月廿日	大友吉統 <sup>義</sup> 萬雜諸點役免除狀寫	(平林文書)	三三三
三三三	(天正十八年 <sup>カ</sup> )	九月廿一日	大友吉統 <sup>義</sup> 官途狀	(長野末夫文書)	三三三
三三四	(天正十九年)	壬正月十八日	田北統周知行預ヶ狀	(志手文書)	三三六
三三五	(天正十九年 <sup>カ</sup> )	七月廿九日	大友吉統書狀	(竹中家文書)	三三六

三六	天正十九年 <small>卯辛</small> 八月吉日	豊後國檢地目録案……………	(西塞多神社文書)	三六
三五	天正廿五年二月九日	松田兵庫助土貢米皆濟狀……………	(児玉文書)	三六
三六		豊後國諸侍着到帳寫……………	(武内本・中島本)	三六
三六		大友吉統高麗出陣手勢物頭人數注文……………	(志手文書)	三六
三七	文祿貳年八月廿七日	豊後國速見郡山香郷日指之内下河内村御檢地帳……………	(永青文庫藏)	三三
三七		速見郡内石高帳……………	(志手文書)	三三
三七		當家年中作法日記(抄)……………	(大友義一文書)	三三
三三		杵築生桑寺大般若經校合奥書……………	(生桑寺の写本大般若經)	三三
付録				
一		紀姓志手氏系圖……………	(志手文書)	三九
二		山香郷地頭職系圖……………	(同上)	三九
三		工藤氏系圖……………	(工藤勲文書)	三九
四		速見郡山香町大字・小字一覽表……………		三九

▽解説

▽あとがき

▽図版目次

	口絵カラー写真	八坂下莊領家御教書(生地文書)・某施行狀斷簡・八坂新莊地頭請文斷簡(生桑寺大般若經裏打紙文書)・木造僧形八幡神・女神坐像(奈多八幡宮藏)・杵築若宮八幡社本殿(杵築市大字宮司)・小武寺山門及本堂全景(山香町大字小武)……………	(巻頭)	
	五万分一折込地形圖……………		(巻末)	

目次



安  
岐  
郷  
史  
料



一 豐前國司勘文案

○石清水文書二  
大日本古文書

國崎郡安岐郷奈  
多浜辺海中ノ大  
石ニ渡リ着ク  
秋莊ト號ス

一天平神護元年潤十月八日、從三位大貳臣石川豐成齋勅書、向大神宮、大神詫宣有其員、其次仁事  
別天宣久、吾昔伊豫國宇和乃郡与往還之時、豐後國國崎郡安岐郷奈多乃濱乃邊乃海乃中に大石在、  
其加渡に吾渡着天、氣を安き、號御机石、即奈多乃杉乃本に登天有支、其乃上乃野に登天可住  
所々乃案内を見、其野を號ニ御立野、自其至于安岐林に、後號三秋庄、自其同國奈保利乃郡仁至  
着、自其豐後・日向・肥後三箇國乃中廣太野在り、其野神吾點定、件地依無水便不作田、離欲天  
好天住セ天思比、然而吾叶神氏等申云、物不食波難堪、以天何力勤ニ仕神事ニ云支、仍彼所を不  
住、然而依無作田天猶有神領、件地等號ニ野郷北野高智保と、其野波豐前國與豐後國乃中仁、吾至  
着、號田布江、自其至鷹居、自其至郡瀨に、自其至太禰河、自其至酒井、自其至乙咩濱、自其至  
馬木嶺、自其至安心院、此所々神領と有、吾擇勝地、住宇佐郡内、近所々四年一度欲臨見、此  
外乃地程遠加以有ニ事煩ニ、但觸府國司令吾領地令住神人に、公役不負者、以同月廿二日給府符、  
兩國近所有行幸例、遠所々、不令入部、依國牒狀勘覆、國司所聞無殊、仍判攸如件、

從五位下行守和氣宿禰清麿 正六位上掾山田連韓國  
正六位上行介紀朝臣馬養 員外目從六位下秦忌寸廣人

○本文書、檢討ヲ要ス。

安岐郷



二 豊後國風土記

○荒木田久老校訂本  
審案遺文下

郷陸所

國崎郡 郷陸所里一十六

昔者、纏向日代宮御宇天皇御船、從周防國佐婆津發而度之、遙覽此國勅曰、彼所見者若國之崎乎、

因曰國崎郡、

伊美郷

伊美郷北在郡

國見村

同天皇、在此村勅曰、此國道路遙遠、山谷阻深、往還疎稀、乃得見此國、因曰國見村、今謂伊美郷其訛也、

○國崎郡ノミヲ抽出ス。

三 倭名類聚抄

國崎郡

阿岐郷

武藏 來繩 國前(陸) 由染(陸) 阿岐(陸) 津守 伊美

○國崎郡ノミ抽出。津守ハ大分郡ノ郷ノ混入ナリ。

陣道面ヲ奉納ス

#### 四 八幡奈多宮陣道面銘

○大分県金石年表  
杵築市大字奈多

陣道面奉造修僧耀湛

八幡奈多宮

應保二年十一月十一日

○県指定有形文化財。

#### 五 八幡宇佐宮放生會之記

○北和介文書  
大分県史料二

八幡宇佐宮放生會之記

○中略

#### 放生會執行次第

四郷・來繩・安岐・武藏郷役

一 八月朔日濱本立是ハ放生會夏初也、朔日午越ニ大宮司其外諸役人等、下和間濱、頓宮浮殿其外萬夏ヲ改、御供神酒等在之、料物ハ四郷并來繩・安岐・武藏所役也、

一 細男舞八月朔日、筑前三ヶ國ノ内ヨリ勤之、自夜十五日迄、每夜舞之、酒肴料物豊前・豊後・

一 七日屋形賦是日神官役人等和間下、所々ニ札ヲ立ル、酒肴在之、料物大家郷役、

一 十一日相撲内取於神前相撲并伶人舞樂在之、酒肴料物等大家郷役、

安岐郷

料物安岐郷役

一十三日屋形見是ハ神官役人等和間濱ニ下テ、放生ノ鱈ヲ拾ヒ薦  
神木ノ本ニ置、饗膳・酒肴在之、料物安岐郷役也、

一十四日行幸早天ニ惣檢校惣辨官等、出仕シテ語支調、倉司大夫  
開御倉、出鑑箱并神馬ノ唐鞍、伶人裝束・樂器等、此間

祝大夫開脇殿奉嚴神輿、頭書生人夫ヲ役所方々ニ渡之、大官司以下實前着座、下脇ハ西大門ノ前ニ列、清潮伶人奏亂聲、  
少官司・神主等、開御殿大官司・祠官等參内院、奉出御驗、奉乘神輿、祝大夫奏祝而召立、

陳列次第

略○下

六 仁安三年六郷二十八山本寺目錄

○六郷山文書  
太宰管内志下

序分本山

序分本山八箇寺 後山金剛寺・吉水山靈龜寺・大折山報恩寺・鞍懸山神宮寺・津波戸山水月寺・西

正宗分中山

叡山高山寺・良藥山智恩寺・馬城山傳乘寺  
正宗文(分カ)中山十箇寺 足曳山兩子寺・長岩屋山天念寺・金剛山長安寺・加禮川山道脇寺・久末山護國

流通分末山

寺・黑土山本松房・小岩屋山無動寺・大岩屋山應曆寺・補陀落山千燈寺・横城山東光寺  
流通文(分カ)末山十箇寺 見地山東光寺・大嶽山神宮寺・峨眉山文珠仙寺・石立山岩戸寺・夷山靈仙寺・

本山分末寺

小城山寶命寺・龍下山成佛寺・參社山行入寺・西方山清淨光寺・懸樋山清岩寺  
本山分末寺 辻小野西明寺・小溪山大谷寺・西蓮山間戸寺・中津尾山觀音寺・轆轤山正光寺・妙覺

寺・海見山來迎寺・蓬花山富貴寺・清瀧寺・文傳寺・良醫山西山寺・稻積山慈恩寺・日野山岩脇

中山分末寺

末山分末寺

寺・鳥目山愛敬寺・今熊山胎藏寺・光明寺・寶壽房・隨求房

中山分末寺 大満房・付屬寺・玉井山光明寺・吉水山萬福寺・多福院光明寺・唐溪山彌勒寺・毘沙

門多寶院・丸小野寺・平等寺・眞覺寺

末山分末寺 上品寺・願成就寺・虚空藏寺・淨土寺・金剛山報恩寺・吉祥寺・貴福寺・杉山ノ瑠璃

光寺

○モト統書キ。今便宜項目ニヨリ改行ス。本文書ノ年代ニハ疑問アルモ、シバラク通説ニ從フ。

### 七 八幡宇佐宮符

○奈多八幡縁起私記  
平安遺文三七四〇号

行幸會綾御船ノ  
水手ヲ出サシム

安岐郷司二人

宮符 諸郷司等

可早任例參勤六ヶ年一度御行幸會綾御船水手夏

封戸郷司二人 向野司二人(郷地) 來繩郷司二人 安岐郷司二人 武藏郷司二人

右、任例、來四月十五日以前、早可參勤之狀如件、仍故符、大宮司(官)、

大宮司宇佐宿禰 神主大神

安元二年丙申二月 日

安岐郷

八 女禰宜大神安子・祝大神宮保連署解狀案

○益永文書  
大分県史料二九

追討使源範頼安堵セシム

〔<sup>(外題)</sup>任解狀旨、女禰宜大神安子、祝回<sup>(大神宮保カ)</sup>知行所々、停止牢籠之妨、如舊爲不輸免之地、勤修不

退神夏、可奉祈 聖朝安穩、鎌倉殿御息災延命、恆受快樂之由、所仰如件、

追討使參河守源朝臣<sup>(範頼)</sup> 在御判

所帶ノ供田免田等ノ牢籠ヲ停メ不輸地ト為サレシコトヲ請フ

八幡宇佐宮女禰宜大神安子・祝大神宮保等解申進申文事、請被殊蒙恩裁、停止牢籠、如本爲不輸地、勤仕不退神事、且奉祈 聖朝安穩天長地久、禰宜・祝等所帶旁御供田并得分免田及散在田畠等子細愁狀

禰宜所帶分

一 禰宜所帶分

神田十七町

若宮御供田十四丁

封戸郷 向野郷 葛原郷

同宮修正免一丁

封戸郷

同宮御馬秣田二丁

向野郷

安岐郷 武藏郷

同禰宜免田十六丁

豊後國八丁

安岐郷 武藏郷

豊前國八丁

下毛庄 上毛庄

散在田畠

筑前國野津平浦 (金) 當宮官幣紙新

——田畠 高家郷 平田別苻光方 (田)

略 ○中

右、禰宜者爲嚴重殊勝之身、奉隨遂日本鎮守之(卷)元神、令祈請天下——字有、祝者令無止御寶前定置、奉祈 聖朝安穩之由、彼依爲重役無雙——不論官庄封之地、云私領、云要名、知行田畠等、皆預不輸之賞無有窄籠、望請御裁、停止面々妨、如本爲不輸地、彌欲致御祈禱丁寧矣、仍言上如件、

元曆二年三月日

祝兼權少宮司大神(行カ)神朝臣 宮保

女禰宜大神朝臣

於正文者、大神氏惣領宮守所持也、公儀江出帶之時者、何時可蒙仰候、爲末代封裏寫所進也、

永仁三年三月七日

祝宮守在判

月代市若丸殿

安岐郷

裏ヲ封シ寫シ進  
ズ

安岐郷

河原三郎四郎殿

惠郎與太郎殿

光滿左近將監殿

九 八幡宇佐宮御神領大鏡

○到津文書  
大分県史料二四

一宇佐宮神領 大鏡」

八幡宇佐宮

記録 御神領次第事

御封田

御封田

安岐郷・武蔵郷  
來繩郷

豊前國肆佰壹拾烟

豊後國壹佰拾伍烟

日向國壹佰拾伍烟

臼杵郡陸拾伍烟

件御封天平十二年廿戸始、同十八年四百戸、天平勝寶元年十二月廿七□戸貢神

之由、見于舊記也、但封千四百十戸内八百十戸辭給、已大神分  
六百戸二季祭料留、已比咩神分□、所謂三國七郡

御封是也、彼内有十箇郷三箇庄等也、稱三國者、豊前・豊後・日向等也、

上毛郡壹佰烟、下毛郡壹佰烟、大家郷・野仲郷是也、  
宇佐郡貳佰壹拾烟、封戸・向野・高家・辛嶋郷等是也、

本封壹佰烟、大野郡伍拾烟補刀庄是也、國崎郡陸拾伍烟、  
安岐・武蔵・來繩郷是也、

加封壹拾伍烟、  
加封壹拾伍烟、  
加封壹拾伍烟、  
加封壹拾伍烟 兒湯郡伍拾烟宮崎□

封戶鄉 田數百五十五丁五段十 佃十町二段段別所當 米五斗也、 用作十一丁八イ九丁九反 〇

向野鄉 田數二百二丁九段之内 佃六丁四段卅同前イ五丁 稻五束也、 用作十一丁イ十丁五反本郷同前

高家鄉 田數百六十町 佃三丁五反同前イ二丁九反 用作九丁七反イ八丁 當郷同前 辛嶋郷内

辛嶋郷 田數二百卅丁 佃四丁二段同前イ二丁四反 用作廿二丁一反イ十二丁四反 同前

葛原郷 田數四十丁一、卅 佃五段 同前辛嶋内也、 用作七丁五反イ五丁 同前

已上豊前國宇佐郡内、號内封四郷是也、  
來繩郷 田數三百五十丁 起請御封 佃四丁六段同前イ四丁三反 用作十一丁九反イ七丁三反 同前

安岐郷 田數三百五十丁 起請御封田六田六十八丁 佃二丁四段同前 用作十二丁 同前

武藏郷 田數三百五十丁 起請御封田十二丁七反卅 佃二丁四段同前 用作十三丁七反同前

已上豊後國國崎郡御封是也、  
大家郷 田數百六十四丁 佃六丁同前卅二丁二反卅 用作八丁二段同前イ六丁八反

野仲郷 田數百卅八丁同前 佃四丁四段同前 用作九丁六反同前 同前イ七丁三反

深水庄 田數廿五丁七反根元立 券勤 佃一丁六反同前封加美十郷 野仲郷内也、 文定

上毛郷 田數二百七十二丁 佃十三丁五反卅同前 用作廿丁卅同前イ九丁二反

深水庄、常庄八權大 宮司宗海前播磨掾如 海之所領也、而御實

安岐郷

安岐郷

安岐郷



安岐郷

三箇荘

三箇荘

前燈油料、令寄進之由、長徳六年十一月二日勘文并立券公驗等柄焉歟、

緒方庄

田數二百四十丁

御封田百廿丁  
百廿丁

正上分以稻千二百束  
封租ハ各年

佃十八丁九反段別獲稻  
卅五束

餘田百十丁號治田、任見作定田、丁別三石所當也、

日向宮崎庄

田數三十三丁九反之内、調殿七丁二反封定

同曰杵庄

田數十九丁九反十代之内、調殿三丁卅

略  
○下

10 日向守藤原朝臣某請取狀

○志賀文書  
熊本県史料中世二

国東・速見兩郡  
前郡司領南北浦  
部調度文書ヲ請  
取ル  
經長ニ讓ル  
地頭代官ハ俊朝  
ニ讓ル

請取 豐後國國東・速見兩郡、前郡司[ ]領内南北浦部調度文書、并手繼證文[ ]  
右、件所領調度文書等、請取事實也、抑[ ]爲年來乳父之上、且依有存旨、以件[ ]令讓傳  
經長也、但於地頭代官者、以到[ ]馬允俊朝子孫孫令補之、無他妨可[ ]、敢不可有違亂之  
狀、如件、

建仁元年六月廿四日

日向守藤原朝臣(花押)

○前郡司ノ南北浦部ノ所領ヲ特定シ得ザルモ、「国東郷史料」一〇・一一号ノ国東御領諸富名ト關係アルカ(解説参照)。

一 造宇佐宮課役注文案

○到津文書  
大分県史料三〇

九州所課

豊後國役

常見莊々役

緒方莊役

一 造宇佐宮正殿者 九州所課

一 假宮者 豊後國役

一 御炊殿者

常見庄々役 上毛庄、下毛、築城口、京都、田河、規矩宇佐庄等

一 内廳者

豊後國緒方庄役

一 直相殿號客院、日向國十八ヶ所役

後白河院可有御參詣之由、以安元年中被仰下之間、大宮司公通宿禰以彼直相殿、所構于内裏也、

石垣莊役

一 馬場頓宮者

豊後國石垣庄・豊前國新開庄役

一 馬場大塔 大鳥居東也、

堀川院御願三代 白河・後白河・鳥羽 帝王

御筆法華經被奉納眞柱云々、

一 内大貳堂

寛治都督 伊房卿 建立之、

佛聖燈油祈 豊後國勾別符

一 池内大貳堂法花三昧堂也、

勾別符

安岐郷

安岐郷

康和年中 大宰大貳。正二位權中納言(立之方)大江匡房卿建□□、  
燈

佛聖。油祈 豊前國虫生別符并肥前國高來別符

一蓮臺寺

後冷泉院御願、都督正三位源卿資通(之)草創之、

一惠良藥師堂

道(マ) 御堂。關白。御願 祈庄伊賀利庄又  
道長 伊□

一祈皇寺

鳥羽院后 高陽院御願、天養年中建立也、

一第一寶藏 印鑑祭器

舊記神託 公驗宣旨 關東 御下知已下文書等 奉納之、

一第二寶藏 樂器

舞裝束 競馬具足納之、

一經藏一字

大宰權帥藤原朝臣 應徳年□書寫一切經所被建立也、

一官米屋九間

御封田上分米已下神□□之、

一御服所

安岐・武藏兩郷役

一厨家

社家役

一和間(之) 一ノ宮浮殿 同役 封戸 向野 辛(馬) 上古例

安岐・武藏兩郷役

一宮迫堂者 宇佐池守建立之、

一馬場塔 (カ) 多寶塔

鳥羽院御宇

大宰大貳藤原朝臣長實、以保安四年正月建立之、

日向國諸   所課直相殿   號客院、

一字三間四面 西廊一字六間 坊廊一字六間 脇廊五間并十間 西四足門一字 鳥居一本南 築垣 三十本

### 三 前大僧正慈鎮讓狀案

○華頂要略  
鎌倉遺文一九七四号

(編裏書)  
「慈鎮和尚建曆目錄青龍院二品親王被記之、」

○首注  
記略

讓進

門跡相傳房領等事

○中  
略

桂林院大僧正門跡讓給領

坂本御塔 平 方庄

安 岐 郷

慈鎮所領ヲ朝仁  
親王ニ讓ル

坂西庄

砧山庄

福田庄

氣比供僧

比叡庄

金武保付山室

龍寶寺

千與丸保

永樂寺

別相傳

松岡庄

志度庄

加々美庄

已上三所存日之間、送靈山院之外、如形年貢可沙汰也、

六郷山

淡輪庄

六郷山

三尾社

○中略

右、已上寺院・領所・房舍・聖教、併讓進

朝仁親王已訖、其中少く領家職之間、有遺言旨、無指過怠者、不可有相違歟、雖存日之間、於今者、一向御成人之間、仰合御門人等、可有御沙汰也、如此大小巨細、世間出世可仰合人々、

○中略

建曆三年二月 日

前大僧正 判

一三 六波羅下知狀寫

○益永文書  
大分県史料二九

高札寫

宇佐副輔所領ニ  
對スル濫妨ヲ停  
ム  
安岐郷小侯・波  
多方

幸秀安岐郷諸田  
名ヲ大友能直ニ  
去リ進ス

志賀能郷ヲ養子  
トス  
七ヶ所類領

安岐郷以下ノ所  
領ヲ末子仁王丸  
ニ譲ル

豊前國宇佐宮領辛嶋郷恆松、下毛郷成久、向野郷枝恆・同族同、江嶋小犬丸・秣糸永、安岐郷小  
侯・彼處(波多)以下副輔所領等、停止甲乙之人之監妨(監)、任關東御下文旨、可致御沙汰之狀、下知如件、  
順德御宇

承久三年八月廿一日

武藏(北条時房) 守判  
相模(北条時房) 守判

從承久三年至元祿十六年中間四百一十五年 八十

一四 備後法眼幸秀去文

○志賀文書  
熊本県史料中世二

豊後國安岐郷内諸田名事、本領主基貞・基秀等契約次第、先度令申候了、而以後日、令寄附岩益御  
領之由、蒙仰候之條、無謂候之上、幸秀所領事、任本知行、可安堵之由、賜關東御下文候之間、旁  
以雖可申異儀候、依難背御命候、去進候、爲一円御領、可有御知行候、且御子息(志賀能郷)二王殿御事、不存  
疎畧候之間、如此計申候、先日讓進候爲七ヶ所之類領、後日者、可被思食宛候、仍狀如件、

貞應貳年七月廿五日

幸秀(備後法眼) (花押)

一五 大友能直讓狀

○志賀文書  
熊本県史料中世二

讓與

安岐郷

安岐郷

所領豊後國內安岐郷東光寺橫城山院主職・并勝津留號高國符・飛長小野・諸田名地頭職等事

副渡 文書等

本領主ノ手ヨリ  
讓得或ハ由緒アリ  
領掌ス  
關東御公事ハ惣  
領親秀ノ支配

右、件所領所職等者、或自本領主等之手、讓得之、或有由緒、能直無相違所令領掌之來也、仍末子念能應童名仁王丸仁、限永代、相副證文等、所讓渡也、但如此雖令分讓之、於關東御公事者、隨所領之大小、依得分之多少、嫡子大炊助親秀爲惣領、可令支配也、各隨嫡子之命、深可相思也、若於令違背嫡子之命者、件所領田畠等、嫡子可令進退領掌也、又無違背之儀者、任讓狀、無相違、可令領知之狀、如件、

貞應貳年十一月二日

前豊前守藤原朝臣大友能直(花押)

○『豊後國志』ニ東光寺ハ「在安岐郷橫城村、号橫城山」トアリ。

一六 紀是門讓狀案

○志賀文書  
熊本県史料中世二

紀是門謹辭、

讓渡先祖相傳私領小俣河内田畠山野等事

在豊後國安岐郷内大朝來野浦

副進 次第證文等

右、件河内者、是門之養父須屋附發私領也、仍數年領掌之後、是門讓論知行之、而

安岐郷小俣河内  
ヲ養子宇佐某ニ  
讓ル

指依無男子、爲字佐羅喉（尾門カ）、養子、相副次第證文等、限永年所讓、敢後日乃不可有後  
悔變改之狀、如件、

嘉祿三年四月廿五日

○首尾縁目裏ニ花押アリ。

紀（尾門カ）

一七 六郷山諸勤行并諸堂役祭等目錄寫

○長安寺文書  
豊後高田市大字加礼川

豊後國六郷山諸勤行并諸堂役祭等目錄

權律師豪隆寫自筆帳

注進

將軍家祈禱目錄  
ヲ注進ス

豊後國六郷山諸勤行并諸堂役祭等將軍家御祈禱卷數目錄事

本 山 分

本 山 分

後山石屋

一後山石屋、本尊藥師如來、深山去里數町、年中勤修正月會自正月六日至八月三日、觀音經不斷一日一夜、一日三ヶ夜勤也、

日轉讀大般若會同廿日勤、請僧廿人、一夏九旬不斷供花三ヶ夜大念佛自九月十三日至同十五日勤也、修法華三十講問答、天台

大師供、在童立儀十一月廿四日勤也、佛名經十二月廿三日夜、曼荼羅供季別勤也、月竝勤藥師講每八月勤也、往生講每月十五日勤也、

日次勤長日初後夜入堂讀誦經典、長日護摩一座勤、於六所權現御賣前、二季御祭初二月十一日勤也、五節

供等於石屋佛前、長日藥師經十二卷讀之、於權現御賣前、仁王講一座、取勝王講一座打之、

安 岐 郷



伊多井社

一伊多井社、本尊妙見大菩薩、年中勤修正月會正月一日勤、七節供每節、法華問答講、同金剛般若經十二卷讀之、今始御祈禱長日金剛般若經三卷、仁王講一座、金剛壽命經十二卷讀之、

吉水寺

一吉水寺、本尊無量壽如來、年中勤修正月會正月五日勤、二季彼岸大念佛、一夏九旬安居、勤天台大師十二月廿四日勤也、佛名經十二月十日勤也、月竝勤藥師經每月八日勤也、往生講每月十五日、月次勤初後夜入堂讀誦經典、今

如御祈禱長日藥師經十二卷、觀音經三十三卷讀之、

津波戸石屋水月寺

一津波戸石屋水月寺、本尊千手觀世音菩薩深山去里數丁、昔有人聞菩薩、行顯滿山給也、彼菩薩於此石屋、放瑞相、告語當峯巡禮次第也、於能行聖人御石屋也、亦齊衡二年二月十五日、同聖人自筆仁書如法經云

時、爲硯水以筆軸、指白岩給、自軸跡靈水漲出事、于今新也、當代取此水、滿山仁書寫如法經云

云、年中勤修正月會正月三日勤也、法華不斷經自十月八日至十月十三日夜勤、同修法華八講請僧八人、月竝勤觀音講每月十八日勤也、

次勤初後夜入堂讀誦經典、於石屋觀音佛前、今始御祈禱長日觀音經三十三卷、千手陀羅尼卅一遍、

大折山報恩寺

一報恩寺大折山、本尊聖觀音、年中勤修正月會正月五日勤、一夏九旬安居、勤法華不斷經自十月廿一日至十月廿三日夜勤也、修八座間答講、月竝勤觀音講每月十八日勤、日次勤初後夜入堂讀誦經典、今始御祈禱長日觀音經三十三卷讀之、

鞍懸石屋

一鞍懸石屋、於權現御寶前、二季御祭、五節供等、

高山寺

一高山寺、本尊藥師如來、并觀世音菩薩高山去里數丁、年中勤修正月會正月八日勤、日次勤初後夜入堂讀誦經典、於六所權現御寶前、二季祭五節供等、今始御祈禱長日藥師經十二卷、同仁王講一座讀之、

間戸石屋

一間戸石屋、本尊藥師如來、年中勤修正月會正月八日勤、一夏九旬安居、勤法華不斷經自十月十三日至十月十四日三日夜勤也、月竝勤藥師講每月八日勤、日次勤初後夜入堂讀誦經典、於六所權現御寶前二季御祭、五節供等方、今始御祈禱

喜久山

不動石屋

大日石屋

辻小野寺

大谷寺

知恩寺

惣山

屋山寺

長日藥師經十二卷、同仁王講一座讀誦之、

一喜久山、本尊丈六皆色阿彌陀如來、丈六不動、同大威德、種々勤等中絶、

一不動石屋、本尊不動、五丈石身、深山眞明如來、

一大日石屋、本尊大日、五丈石身、深山同尊種子岩切顯給也、

一辻小野寺、本尊千手觀音高山口、年中勤修正月會自正月一日至、同三日三夜勤、觀音經不斷一日同八日、大念佛二季、被彼岸

不斷供花六月十八日、一月一夜勤也、法華不斷經十月廿四日、佛名經十二月廿日、月竝勤觀音講每月、日次勤長日初後

入堂、讀誦經典、於六所權現御寶前、二季祭二月十一日、中午日勤、五節供等、於三王御寶前、二季神樂六月十一日、中申、祭、今始御祈禱長日觀音經三卷、金剛壽命經讀之、仁王講一座行之、

一大谷寺、本尊十一面觀音、年中勤修正月會正月四日、大念佛二季、不斷經供花一日一夜勤也、法華不斷

經十月廿三日、勤也、月竝勤觀音經講每月、日次勤初後入堂讀誦經典、山王於御寶前、二季神樂六月十一日、中申日勤也

今始御祈禱長日觀音經、金剛壽命經各三卷、讀之、仁王經一座行之、

一知恩寺、本尊藥師如來、年中勤修正月會正月五日、一夏九旬安居勤、月竝勤藥師講每月、日次勤初後入

堂讀誦經典、六所權現於御寶前、二季祭五節供等、

惣山

一屋山寺長安寺、本尊千手觀音、阿彌陀三尊、不動尊、年中勤修正月會自正月一日至、同三日三夜勤也、修二月會自二月一日同至、修舍利會

有舞樂二月十五日、勤也、百座仁王經會正月八日、大念佛自九月十三日同、法華不斷經十月十八日同至、曼荼羅

供季別勤八座問答講、天台大師供十一月廿日、勤也、佛名經十二月廿日、三夜勤也、月竝往生講勤之每月、十五日、觀音講十八日

安岐郷

月次勤初後入堂讀誦經典、六所權現於御寶前、每季一日轉讀大般若會、請僧季別廿人、每季百座  
 仁王會、一夏九旬不斷供花、二季御祭五節供等、法華問答講一座每月廿八日、轉讀大般若經一部  
請僧廿人、并法華八講請僧廿人、小立義十問、（意） 豎者注記合十二人每年以十二月廿三日一日一夜勤之、今始御祈禱長日轉讀大般若一帙、仁王講一座、觀音經三卷、件勤等滿山現德器量撰之、

中山分

長岩屋

一長岩屋、本尊觀世音菩薩、年中勤修正月會自正月四日至六月三ヶ日夜勤也、修二月會自二月一日同至三月三ヶ日夜勤也、三ヶ日夜大念

佛自十一月一日至三月三日勤、一夏九旬之間、不斷供花、七月十五日布薩、一日轉讀大般若會請僧廿人、法華

不斷經自十月廿八日同至卅日三ヶ日夜勤、修問答三十講請僧廿人、天台大師供十一月廿四日、佛名經十二月廿七日勤、月竝勤藥師講每月八日、

觀音講每月十八日、日次勤初後入堂讀誦經典、不動行法一座、藥師經十二卷、觀音經卅三卷讀之、六所

權現於御寶前二季祭五節供等、今始御祈禱長日轉讀大般若一部、仁王講一座、

龍門石屋

一龍門石屋、本尊千手觀音、仙室年中勤修正月會正月五日、一夏九旬不斷供花、月竝勤觀音講每月十八日、六

所權現於御寶前（前脱之）五節供等、今始御祈禱長日觀音經卅三卷讀之、

虚空藏石屋

一虚空藏石屋、本尊如名、修正月會正月十三日、虚空藏講每月十三日勤也、

黒土石屋

一黒土石屋、本尊馬頭觀音、仙室年中勤修正月會正月四日、觀音講每月十八日、日次勤初後入堂讀誦經典、六

四王石屋

所權現於御寶前、二季祭五節供等、今始御祈禱長日觀音經卅三卷、同千手陀羅尼卅三遍、

一四王石屋、本尊四天王、仙室年中勤修正月會正月三日、毘沙門講每月三日、初後入堂讀誦經典、今始御祈禱長日毘沙門行法一座、

小岩屋山

一 小岩屋山、本尊藥師如來、年中勤修正月會自正月六日至八月三ヶ夜勤之、修二月會自一月一日至三月三日、一夏九旬不斷供花七月十五日、佛名十二月、月竝勤藥師講八月、往生講十五日、百座仁王講一月、一萬卷心經會一月、日次勤初後入堂讀誦經典、六所權現於御寶前、二季祭五節供等、今始御祈禱長日轉讀大般若經一

次勤初後入堂讀誦經典、六所權現於御寶前、二季祭五節供等、今始御祈禱長日轉讀大般若經一

次勤初後入堂讀誦經典、六所權現於御寶前、二季祭五節供等、今始御祈禱長日轉讀大般若經一

次勤初後入堂讀誦經典、六所權現於御寶前、二季祭五節供等、今始御祈禱長日轉讀大般若經一

大岩屋

一 大岩屋、本尊千手觀音深山、年中勤修正月會正月、一夏九旬安居勤觀音講每月、初後入堂讀誦經

典、六所權現於御寶前、二季祭五節等、今始御祈禱長日觀音經卅三卷讀之、

夷石屋

一 夷石屋、本尊千手觀音、年中勤修正月會自正月一日至三月三ヶ日勤、修二月會自二月一日同至三月三ヶ日夜、二季彼岸大念佛、一

夏九旬不斷供花、一日轉讀大般若九月九日、小立義修八座問答講請僧、三ヶ日夜法花不斷經十月十八

勤至廿日、天台大師供十一月、佛名十二月、月竝勤觀音講每月、一萬卷心經會每月、日次勤初後入堂讀

誦經典、取勝王講一座、觀音經卅三卷、六所權現於御寶前、二季御祭五節供等、今始御祈禱長日轉讀

大般若一祇、同仁王講一座、

西方寺

一 西方寺、本尊延命觀世音菩薩、年中勤修正月會五月、二季彼岸念佛會、一夏九旬不斷供花、月竝

勤觀音講每月、日次勤初後入堂讀誦經典、六所權現於御寶前、二季祭五節供、今始御祈禱仁王講

一座、觀音經三卷、

千燈岩屋

一 千燈岩屋、本尊千手觀音、深山年中勤修正月會自正月二日至四月三ヶ日夜勤也、修二月會自一月一日至同、一夏九旬

不斷供花、七月十五日布薩、三ヶ夜法華不斷經自十月廿五日、大師供十一月、同修八座問答講請僧、

安 岐 郷

五岩屋

佛名十二月、一日轉讀大般若一部講僧廿八人、一萬卷心經會每月一日、勤也、月竝勤藥師講每月八日、觀音講十八日、不動講廿八日、日次勤觀世音不斷經供僧十八人、初後夜入堂讀誦經典、六所權現於御寶前、二季御祭供等、今始御祈禱長日轉讀大般若經一祇、仁王講一座、觀音經三十三卷、

岩殿岩屋

一五岩屋、祕所本尊不動尊、深山仙室於此五ヶ祕所、昔異國降伏之時、人間菩薩有五人同行、五壇法修行之、

枕岩屋

一岩殿岩屋、本尊藥師如來深山、年中季別月竝長日勤等在之、

銚子石屋

一枕岩屋、人間菩薩枕在之、

瀧本岩屋

一銚子石屋、人間菩薩御銚子在之、

大嶽寺社

一瀧本岩屋、人間菩薩御自筆如法經、奉納此岩屋、依之一乘菩提峯云云、

一大嶽寺社、本尊藥師如來高山豐後、國鎮守也、年中勤修正月會自正月六日同、至八月三ヶ日夜勤、一萬卷心經會每月二日、問、修二月會自二月一日同、至三日勤也、舍利會二月十日、五、二夏九旬不斷供花、三ヶ日夜法華不斷經自十月十七日、同、至十九日勤、同修八座答講八人、講僧、御靈會十一月十三日、法華會廿四日、月竝勤藥師講每月八日、日次勤初後入堂讀誦經典、觀音經卅三卷、六所權

現於御寶前、二季祭五節、供等、妙見祭、今始御祈禱長日藥師經十二卷、觀音經卅三卷、仁王講一座、

末山分

末山分

両子仙

一兩子仙、本尊藥師如來、同仙千手觀音、年中勤修正月會自正月六日、同、至八月三ヶ日夜、一萬卷心經會正月十三日、一日轉讀一千卷觀音經、百座仁王會、舍利會十五日、修二月會自二月一日同、至三月三ヶ日夜勤也、二季彼岸大念佛、一夏九旬不斷供花十月十五日、薩、一日轉讀大般若會講僧廿八人、三ヶ日夜不斷法華經自十月廿二日、同、至廿四日、同修三十講問

小城寺

答講請僧童堅義在五間、季別曼陀羅供、天台大師供十一月廿四日、佛名十二月廿三日、月竝勤藥師講每月八日、往生講每月十五日、觀音講每月十八日、日次勤觀音不斷經供僧十日、尊勝陀羅尼、千手陀羅尼各廿返、藥師供、千手供、初

後入堂讀誦經典、寂勝講、六所權現於御寶前、二季御祭五節供等、今始御祈禱長日大般若經一部

秩、同仁王講一座、同觀音經世三卷、同護摩藥師經十二卷、金剛經三卷、

一小城寺、本尊六觀音、年中勤正月會自正月三日同至五日三ヶ日夜勤、一日轉讀一千卷觀音經正月十日、修二月會自二月三日同至三日

夕夜、一夏九旬安居勤不斷經自十月十八日同至廿日、同修八座問答講請僧八人、天台大師供十月十五日、佛名十二月廿六日、月

竝勤往生講每月十五日、觀音講每月十八日、日次勤轉讀觀音經世三卷、初後入堂讀誦經典、六所權現於御寶

前、二季祭五節供等、今始御祈禱長日仁王講一座、長日觀音經三十三卷、同金剛壽經二十卷、

右、於當山靈場、所致御祈禱目錄、如斯、仍顯宗學侶者、跪觀音醫王寶前、開講一乘妙典、增佛賢、密教佛子者、掘八幡尊神、六所權現社壇、唱神咒、備法味、初學者、學人聞菩薩舊行、巡禮一百餘所巖堀、偏是兼三道鎮大將軍家御願圓滿、異國降伏、聖朝安穩、大施主殿下相模守平朝臣御息災延命、御壽命長遠、御心中御願圓滿成就之由、祈精之狀、如件、

安貞二年五月 日

日マ小寺主法師某 權都維那大法師某

都維那大法師某 權寺主大法師某

寺主大法師某 權上座大法師某

上座大法師某 權別當大法師某

安岐郷

安岐郷

權別當 大法師 某

六郷山衆徒御中

執行兼權別當大法師 某

一八 宇佐宮古御裝束等送狀案

○小山田文書  
大分県史料七

〔編裏書〕  
「自宇佐宮古御神寶物至豊後國奈多社送狀案」

奉送 本宮古御裝束并御與御馬等事

法躰

御裝束

薄物御袈裟三帖具(三)三衣(三)并袋

五條鈍色

九條一帖紫(九)

御裳一腰綾紫色

大口御袴一腰紅色

御帶一筋紫色

御裏一帖綾紫

已上納莒一合

七條一帖紫(七)具緒并横被一帖

表御衣一領橡五重

表御袴一腰唐綾鈍色

御柏一襲綾鈍色三重

御襖一赤錦京地

御扇一枚紫色

法躰裝束

本宮古御裝束以  
下ヲ奈多宮ニ送  
ル

俗鉢裝束

御衾一帖綾紫納莒一合

御挿鞋一足

俗鉢

御裝束

御半臂一領綾櫻色具緒

御下襲一綾櫻色三重

大口袴一腰紅色

御帶一筋櫻色

御袴一足綾

御褱一帖綾紫々色

已上納黒漆莒一合

御衾一枚綾紫納莒一合

御帆帳一帷幡(マ)

雲絃縁疊三帖

差筵四枚

御茵御葺二枚(マ)

鏡二

安 岐 郷

御念珠赤木納莒一合  
一連

表御衣一領黃檀色綾

表御袴一腰唐綾

御泊一領綾歎冬三重

御袴一足綾

御沓一足

御扇一枚

御志石禰一々

同上筵一枚

椅子御座

檜額二(輪マ)

鉤四金物口(マ)



安岐郷

御馬一疋

二御殿

二御殿

御裝束

唐御衣一領綾紫五重

御褂一領綾紫冬三重

御裳一腰繪

御褌一帖綾紫

已上納黑漆莒一合

御衾一帖綾紫納莒一合

幡八流

志願禰一枚

雲緣疊一帖

帆帳二帷在手幡

天蓋一在鏡

御志願禰一枚

同差筵四枚

茵子御座

御裾袴比禮一具紫目結

御袴一腰紅具水階

御扇一枚泥繪

御帆帳八帳

天蓋一在幡四

帽額二

同上筵一枚

御帳四帳在昌額

雲紋緣疊三帖

同上筵一枚

御馬一疋

御茵二

三御殿

灯臺一本 御斗巾箱一

三御殿内外分

御裝束

唐御衣一領綾紫五重

御掛一領綾紅梅

御袴一腰紅具

御扇一枚泥繪

已上、納黑漆莒一合

御衾一帖綾紫、納莒一合

御帆帳一帖〔帷〕

雲〔絁〕緣疊一帖

悉屈禰一枚

雲。緣疊三帖

差筵四枚

御帆帳二帷在手

御馬一疋

一被申請雜物等

安 岐 郷

御扨(ツ)在鏡三  
在鉤六

御裾帶比禮一具紫目結

御褂一領綾紫

御裳一腰繪

御莒(ニ)袋

〔御裝一帖綾紫〕

御帳三帳

天蓋在幡四流  
鏡一面

同上筵一枚

御帆帳四帳〔在昌額〕

同上筵一枚

天蓋在幡四  
鏡一面

御悉屈禰一枚

安 岐 郷

斑慢佰帖 長筵柒拾枚

御鑲〔三〕  
〔在鑑三〕

右、奉送如件、

寛喜元年十月十九日

頭書生官人代

〔田部宿禰〕

惣辨官田部宿〔禰〕

政所惣檢校

〔宇佐宿禰〕

○紙統目裏ニ貞氏ノ花押アリ。(一)内ハ次号トモニ「宇佐八幡大神宮及撰末社神宝鈔御色目並寸法書」及ヒ案文ニヨリ注ス。

一九 奈多大官司宇佐重基大神寶物等請取狀案

○小山田文書  
大分県史料七

大神寶物御輿御  
馬等ヲ請取ル

請取

奈多宮大神寶物并御輿御馬等事

法躰裝束

法躰御裝束分

御袍一領五重 御表袴一腰縮線綾

御裳一〔腰三重〕

御袈裟一帖〔七條帖〕

御大口一腰紅

御帶一筋〔櫻〕

入

帷一領 御褌一足〔紫白織〕

御扇一枚〔紫染薄様〕

御衣一令〔墨染、平文、錦折立〕

俗躰裝束

俗躰御裝束分

御袍一領五重 御半臂一領〔在忌緒〕

御下襲一腰小葵綾

御表袴一腰縮線綾三重

御入帷一領

御帶一筋

御座具等

〔紫色〕御襪一足白綾 御扇一枚以薄綾、平褌一、御衣箱一合〔錦折立〕

〔壁漆、平文〕

外殿御帆帳三内二、四幅、小幅、面綾、裏多々絹、同御帆帳〔覆在打敷、御座一枚〕、内殿御帆帳四内二、五幅、小幡、小幡、同小鏡

八面内外分 御簾大鏡六面同釣十三〔在緒綱〕、御手中打〔在打敷〕、御燈臺一本〔在打覆打敷〕、御柅柙〔在打覆打敷〕

一本御幡十流在〔鈴十巴〕、御硯管一合〔黑漆、平文〕、御硯水入墨一廷〔在榑赤木〕、御小刀〔在榑赤木〕、御櫛管一合

黑漆、平文、御手巾管一合〔細布一切〕、御倚子御〔在榑三型〕、御床三脚〔在天井五枚、猪膝、柱桁等〕、御簾七枚〔錦端〕之内

額帽三枚〔赤地錦〕、御疊三帖〔端緒綱〕、綾王裝束一具〔在袍打懸、袴、帽子、帶〕、納曾利裝束〔二具〕、御唐櫃一合〔朱〕

右、任先例、所請取如件、

寛喜元年十一月廿九日

奈多大宮司字佐〔在榑重基〕

### 三〇 前太政大臣〔藤原家實〕家政所下文案

○益永文書 鎌倉遺文三九一九号

前太政大臣〔藤原家實〕家政所下 字佐宮神官等

親父忠輔〔讓狀〕、任七所領〔ヲ〕、嗣輔〔二〕、安堵〔又〕

可且依先度政所下文并關東下知狀、且任親父忠輔讓狀、以御馬所檢校字佐嗣輔、令領掌當宮領〔宇佐郡〕

江嶋小犬丸名田島〔下毛郡〕、下毛庄封秣・糸永名田島・同乙王丸名田伍町・秋眞名田島、向野郷内下毛糸

永名田島・同秋安名田島・同枝恆名草郷・近〔宇佐郡〕、封戸・向野彌同丸田島・封戸有永田島、辛嶋

安 岐 郷

安岐郷

田染莊 安岐郷

郷恆松名田參町捌段、(國崎郡)田染庄(清之)成少田畠、(國崎郡)安岐郷小俣波多、大野庄成吉名田、椿庄重末名田、(下毛郡)大家郷石同名田、宇佐内蔀村屋敷・同門田捌段以下散在光永名田畠等事

副進

先度政所下文以下證文等案

右、彼嗣輔解狀云、件田畠等者、依爲父母相傳之私領、相副次第證文等、嗣輔所令讓得也、其中江嶋・小犬丸・辛嶋・恆松・大野・成吉・椿・重末・宇佐内屋敷等者、外祖父榮定朝臣之時、二ヶ度賜預御下知畢、於石同名者、自養父辨官忠廣宿禰之手、所令讓得也、仍雖無相違、爲備向後之公驗、欲被成下政所御下文者、可且依先度政所下文并關東下知狀、且任親父忠輔讓狀、以嗣輔令領掌彼田畠等之狀、所仰如件、故下、

寛喜元年十二月 日

案主惟宗

別當播磨守平朝臣 在判

大從右衛門少志惟宗 在判

左中辨平朝臣(有親) 在判

少從彈正忠惟宗 在判

右少辨藤原朝臣(光俊) 在判

右衛門權佐平朝臣 在判

宮内大輔藤原朝臣 在判

### 三 宇佐宮御神領次第案

○到津文書  
大分県史料三〇

封戸郷・向野郷  
高家郷・辛嶋郷

内封四郷・葛原郷

安岐郷・武藏郷  
上毛郷・大家郷  
野仲郷・來繩郷

田染莊・石垣莊  
緒方莊

宇佐莊・下毛莊

佐宮御神領次第大略、一萬六千餘町云々、

仁治二年散田帳云、  
封戸郷百十七名、向野郷草郷八付向野七十四名

已上内封四郷是也、高家郷百三十五名、

豐後國 同國 上毛封八十五名 同、七十四名 同、八十四名

一 安岐郷四十六名、武藏郷六十四名、上毛郡、大家郷、野仲郷深水庄付野

豐後 來繩郷 已上十郷御封加四郷定、

豐後 百三名 同國 豐前 同、 豐後 同國 豐前國 同國

一 田染庄 廿三名、石垣庄 十四名、新開庄 廿名、角田庄 十五名、緒方百六十丁、到津庄 百二十三丁

同國 同國 同國 同國 同國 同國

一 貫庄 十名、津隈庄 椿庄 綱別庄 米多庄 赤自庄 大町庄 大揚庄

同國 同國 同國 同國 同國 同國 同國

一 宇佐庄 百廿名、上毛庄 百廿名、下毛庄 十八名、規矩庄 十八名、田河庄 四十七名、中北郷 百廿五丁五反

同國 同國 同國 同國 同國 同國 同國

一 同西郷 京都庄 已上當國別符同、築城庄

一 以東新庄

安岐郷

安岐郷

豊後

同國

十一名

此外敷、  
加之敷、

十三丁二反

十一名

同、

廿五丁

同、

勝津留

五十丁

同

勾別符

田原別符・櫛來別符

朝見郷

田原別符

八名

十九名

太田原

八十七丁一反

櫛來別符

舟生津留

一 以西新庄

筑前國

嘉摩庄

同、郡敷、  
穗浪庄

右

以西庄々者、

月十三日

宇多院第七宮内親王御奉寄也、

姬宮敷、也、

一 大以西新庄二千六十三丁七反卅 十六ヶ所

肥前國

同、

高來別符

高來郡村田別符

一日向國千八十八丁九段廿、起請田定加收納使分名、定、十八ヶ所

注進 三ヶ社卅一丁二反内

除諸免事

廣幡社十三丁七反  
橋社十一丁一反

赤幡社七丁四反

安岐郷・武藏郷

一 女禰宜免十六町内

以東八丁

安岐郷  
武藏郷

以西八丁

一 十六町 同新免十四丁

但御封

縦横也、但御封依新儀

一 同國免十三丁

一 大尾社免八丁但付祝申致免田沙汰、

一 奈多宮神田卅丁 新免十五丁 已安岐郷米光名

略○中

一 本宮御菜免十二町

安岐郷米光名

建永元年十二月始社家御下文、建保三年始被定卅六石云々、前々者宮符成天四郷仁被切之、彼卅二石者、日向國竹崎<sup>庄</sup>地子米也、度々數年納之、又末久納所ニ御下知成ル、又天福元年ヨリ、田原別符定米伍拾壹石内大尾社<sup>二十一石祝沙汰</sup>、大宮分<sup>三十一石番長沙汰</sup>、田染庄系永名同名<sup>重安・末久</sup>兩

名仁參石ツ、六石納之、不足貳石□每年末久納所仁、以社家御下知致沙汰云々、已上、

一 若宮御菜免六丁 正治二年依若宮神官申狀

(御下知カ)

一 陰陽師免

前宮司公持任八丁給之、  
一野宮司公高御任四丁御下知、

### 三 僧源應讓狀案

○瑠瑠光寺文書  
大分県史料一〇

僧源應讓辭、

在豐後國六郷山梶山田畠山野等之事

四至東限大溝 南限多々良迫  
西限三尾 北限ニレノ木元

右件田畠山野等者、源應重代相傳之私領也、爰去八月二十五日依燒已、代々本證文等、不殘一通燒失、同母堂藤原太子、令燒死之旨、今立天新券於、嫡子乙王丸仁、限永代讓與者也、同安岐郷内圓小野五段讓了、彼所者、自祈禱外者、更無他事、守此趣、迄了子<sup>子九</sup>孫々、無相違、可令知行領掌、仍爲後日證文、讓狀如件、

康元貳稔<sup>歲次 戊辰</sup>十二月十日

僧源應 有判

安岐郷

六郷山梶山田畠  
山野等ヲ嫡子乙  
王丸ニ讓ル

安岐郷内圓小野  
五段



安岐郷

仍加判

僧靜院 有判

燒已之事見及之、僧順仁 有判

三 安岐郷御炊殿雜仕差符

○永弘文書  
大分県史料三

<sup>(編纂書)</sup>  
「御炊殿役人安岐郷差符係專當」

雜仕トシテ万歳  
女ヲ差進ズ

安岐郷

差進 御炊殿雜仕字万歳<sup>(女)</sup>事

右、件雜仕字万歳女、任先例、所令差進、如件、

文應元年十月廿九日

安岐郷係專當秦貞守  
(花押)

安岐郷係專當

二 豊後守護大友頼泰施行狀寫

○長安寺文書  
豊後高田市大字加礼川

豊後國分異國降伏御夏、去月三日關東御教書案如此、任仰下之旨、殊致丹誠、每月可致進上卷數  
候、仍執達如件、

關東御教書ヲ施  
行シ祈禱卷數ヲ  
進上セシム

(大友頼泰九)  
沙彌

六郷山別當執行御中

○年月日ヲ欠ク。

三五 某施行狀寫

○長安寺文書  
豊後高田市大字加礼川

異國降伏御祈事、守關東御教書之旨、且致懇懃之祈精、且可被注申勤行之次第也、仍執達如件、

弘安七年三月廿五日

六郷山供僧御中

○差出書ヲ欠ク。豊後守護大友頼泰ノ発給ナラン。

三六 六郷山異國降伏祈禱卷數目錄寫

○長安寺文書  
豊後高田市大字加礼川

將軍家御祈願所豊後國六郷山異國降伏御祈禱御卷數目錄

本山分 後山

異國降伏祈禱卷  
數目錄ヲ注進ス  
本山分 後山

奉勤修七箇日不動行法毎月、奉轉讀大般若經一部每季、奉講讀仁王經百座每季、奉讀誦觀音經一千卷、  
奉講法華八講問答講、

吉水寺

吉水寺

安岐郷

奉勤修七箇日不動行法每季、奉轉讀仁王般若經一百座每季、奉轉讀觀音經一千卷、奉誦尊勝陀羅尼一百遍、奉誦消咒(マ)一百遍、奉講法華八講問答講、

辻小野寺

辻小野寺

奉講讀仁王經一百座每季、奉讀誦觀音經一千卷、奉誦尊勝陀羅尼一千遍、奉讀誦壽命經一千卷、

大谷寺

大谷寺

知恩寺

知恩寺(長葉山)

奉講讀仁王般若經一百座每季、奉讀誦觀音經一千卷、奉誦尊勝陀羅尼一千遍、奉讀誦壽命經一千卷、仁王經一百座每季、觀音經一千卷、尊勝陀羅尼一千遍、壽命經一千卷、

中山分 屋山

中山分 屋山

七箇日不動行法每月、轉讀大般若經一部每季、壽命經一千卷、講讀仁王經一百座、奉讀誦觀音經一千卷、奉講法華八講問答講、一日一夜御神樂二季、

長岩屋

長岩屋

奉勤修七箇日不動行法每月、奉轉讀大般若經一部每季、奉講誦仁王經一百卷每季、奉讀誦觀音經一千卷、奉講法華八講問答講、

小岩屋

小岩屋

奉勤修七箇日不動行法每月、奉轉讀大般若經一部每月、奉讀誦觀音經一千卷(誦)、奉講讀仁王經一百座

夷山

夷山

每季、奉誦尊勝陀羅尼一千遍、奉講法華八講問答講、

奉勤修七箇日不動行法每季、奉轉讀大般若經一部每季、奉讀誦觀音經一千卷、奉講讀仁王經一百座每季、

千燈山

千燈山

奉勤修七箇日不動行法每季、奉講讀仁王經一百座每季、奉轉讀大般若經一部每季、奉讀誦觀音經一千卷、

奉講法華八講問答講、

末山分 大嶽寺

末山分大嶽寺、豐後國鎮守

奉勤修七箇日不動行法每月、奉勤修如意輪觀世音行法每月、奉講讀仁王般若經一百座每季、奉讀誦壽命

經一千卷、一日一夜御神樂每月、

兩子山

兩子山

奉勤修七箇日不動行法每月、奉轉讀大般若經一部每季、奉講讀仁王經一百座每季、奉讀誦觀音經一千

卷、奉誦尊勝陀羅尼一千遍、奉講法華八講問答講、

小城山

小城山

奉勤修七箇日不動行法每季、奉講讀仁王般若經一百座每季、奉讀誦觀音經一千卷、奉誦尊勝陀羅尼

一千遍、

橫城山

橫城山

安岐郷

奉勤修七箇日不動行法每季、奉轉讀大般若經一部春季、奉講讀仁王經一百座、奉讀誦觀音經一千卷、奉誦尊勝陀羅尼一千遍、

右、任關東御教書并守護所御施行之狀、或詣六所權現社壇、或就人聞菩薩・八幡大菩薩尊靈場、満山住侶各凝一心之精誠、勤修上件經王行法、祈精大將軍家御（延命）、御願圓滿、異國征伐由之狀、如件、謹言、

弘安七年九月 日

六郷山執行法橋圓位在裏判又裏資判

二七 六郷山異國降伏祈禱卷數并山々勤行次第目錄寫

○長安寺文書  
豊後高田市大字加礼川

異國降伏祈禱卷  
數勤行目錄ヲ注

又ス  
正月・七月

二月・八月横城  
山東光寺

三月・九月

四月・十月

五月・十一月

六月・十二月兩  
子山

異國降伏御祈禱毎月御卷數、山々勤行次第目錄

正月・七月、後山吉水轉讀大般若一部、七ヶ日不動行法、同月知恩寺仁王講一百座、

二月・八月、屋山轉讀大般若經一部、七ヶ日不動行法、同月横城山仁王講百座、

三月・九月、長岩屋轉讀大般若經一部、七ヶ日不動行法、同月辻小野寺・大谷仁王講百座、

四月・十月、小岩屋轉讀大般若經一部、七ヶ日不動行法、同月夷山仁王講百座、

五月・十一月、千燈山轉讀大般若經一部、七ヶ日不動行法、同月大嶽山仁王講一百座、

六月・十二月、兩子山轉讀大般若經一部、七ヶ日不動行法、

○年月日、差出書ヲ欠ク。原本統書キ。右ノ如ク改ム。

〔（職文）〕 右筆三浦（式）或部少輔重胤

天文十八年己酉八月吉日

〔（在力）〕 任寺□（カ）壽了

持主森木安藝守

### 二六 豊後國大田文案

○平林本  
鎌倉遺文一五七〇〇号

御注進狀案（豊後國田文案）  
弘安八年十月十六日 豊後於府中

脚力 菊正 在判

豊後國大田文案ヲ  
注進ス

豊後國中神社佛寺權門勢家庄園國領公田及領家・領所・〔預〕地・〔頭懸〕辨濟使等交名事

注進合田代六千七百廿八町餘捌箇郡

略○中

弘安八年九月晦日

沙彌道忍（天友頼卷） 裏一

謹上 信濃判官入道殿

一 豊後國直人等注申、

當國八郡 國崎・速見・直入・大分・海部・大野・日田・球珠

安 岐 郷

安岐郷

一 田數并領主等事

国崎郡

一 国崎郡 千六百三拾八町内

略○中

安岐郷

安岐郷貳百町宇佐宮領

領主

余名

餘名參拾六町神官名主等

地頭

弁分

辨分八拾町 御家人日田彌三郎永基法師法名法基

弘永名

弘永名參拾町 同前

成久名

成久名參拾七町 相摸七郎北条宗頼殿母御前辻殿

朝來野浦

朝來野浦拾四町 御家人朝來野彌三郎公平・同次郎公繼字有憚

○此所

來繩郷參拾町 宇佐宮領

守江浦

○守江浦三丁 戶次太郎時親法師法名道念

○下略。国崎郡全文八国東郷二〇号ニ収ム。

二 豐後國圖田帳案

○内閣文庫本  
鎌倉遺文一五七〇一号

豊後國圖田帳ヲ  
調進ス

豊後國圖田帳

弘安八年十月十六日自國府被立脚力早、豊後國田代之事

國中寺社佛神領等并權門勢家莊園領・公田領家・領所・地頭・辨濟使等交名之事

略○中

弘安八年九月晦日

謹上 信濃判官入道殿

(二階堂行忠)

沙彌道忍(天文賴卷) 裏判

豊後國直人等記申、

當國八箇郡分 國崎・速見・直入・大野・海部・大分・日田・玖珠田數領主等之事

國東郡 千六百三拾八町

略○中

安岐郷三百町 字佐宮領他本三二百丁、

餘名三拾六丁 領主神官名主等

辨府拾丁 地頭日田彌三郎永基法名

安岐郷



安岐郷

四二

弘永名

弘永名三拾丁

同人

成久名

成久名三拾七丁

〔北条郷〕  
相摸七郎殿母御前辻殿

朝來野浦

朝來野浦十四丁

〔龍郷〕  
地頭朝來野彌三公平

守江浦

守江浦三町

戸次太郎時頼法名道憲・同次郎公繼字憚在

○下略。国東郡全文ハ、国東郷二一号ニ収ム。

### 三 護聖寺板碑銘

○望月友善『大分の石造美術』  
東国東郡安岐町大字朝來

孝子某板碑ヲ建  
ツ

(梵字サ)

孝子

(梵字キリク)

正應四年卯月廿七日

(梵字サク)

敬白

○『豊後国志』ニハ、護聖寺ハ「在武蔵郷久末村」トスルモ、正保四年(一六四七)『豊後国郷帳』(『大分県地方史料叢書』(二)ニハ、久末村ハ安岐郷トス。今コレニ從フ。『大分県金石年表』ニ記サレテイル「                    妙」ハ現在確認デキズトイフ。大分県有形文化財。以下『大分の石造美術』ハ、右ノ望月友善氏著(木耳社、昭和五十年九月三十日)デアル。

梶山田畠山野ヲ  
因幡房榮幸ニ讓  
ル

三 僧源幸讓狀案

○瑠璃光寺文書  
大分県史料一〇

僧源幸讓辭、

在豐後國六鄉山内梶山田畠山野等事

四至境、見本證文、

右件田畠山野等者、源幸下作相傳之所領也、然者、因幡守榮幸仁永遠讓與了、有限恆例御得分、無懈意可致沙汰、更不可有他妨、仍爲後日證文、讓狀如件、

永仁五年十月三日

僧源幸 有判

三 小松雜掌公祐和與狀

○志賀文書  
熊本県史料中世二

和與

領家雜掌下地頭  
志賀泰朝年貢未  
濟ニツキ和与ス

豐後國安岐鄉内諸田松武名等地頭大友豐前八郎太郎入道阿法與、(志賀泰朝)小松雜掌公祐相論當名等年貢

未濟事

一諸田名事

諸田名  
年貢銀百二十口

於當名年貢者、整百廿口、每年無懈意可辨濟之由、兩方和與之上者、向後相互不可有違亂矣、

安岐郷

松武名

一 松武名事

於當年年貢者、米四石宣斗、無懈怠可辨濟之由、被請申上者、向後更々和與之儀、不可有相違者也矣、

右、兩條雖番訴陳、所詮相互就和與之儀、帶領家御舉狀、申給御下知上者、契約分年貢等、無懈怠可被沙汰渡也、此外領家方、又不可有別沙汰、仍爲備將來龜鏡、和與之狀、如件、

正安二年八月二日

雜掌公祐 (花押)

奉行人裏ヲ封テ

〔裏書爲後證、奉行人所封裏也、

中原佐眞 (花押)

藤原信經 (花押) 〕

三 鎮西北條實政御教書

○島津家文書一  
大日本古文書

津々浦々ノ船ニ  
在所船主交名ヲ  
進付ケ員數ヲ注  
海賊ヲ守護地頭  
沙汰人等ヲシテ  
追捕セシム

豐後國津々浦々船事、爲被鎮海賊、不論大小、隨船見在、輒難削失之樣、彫付在所并船主交名於彼船、來月中可被注申員數、且有海賊之聞者、守護地頭沙汰人等、構早船、不廻時剋可令追懸、然者、乘人者縱赴陸地、雖令逃脫、至船者令弃置之時、船主之所行欺、他人之借用欺、尋明之者、可露顯之故也、又追懸之時、乍知及不合力之輩者、可被注進交名、仍執達如件、

正安三年三月廿七日

〔北條實政前上總介 (花押)

下野彥三郎左衛門尉殿

(鳥津久長)

三四 沙彌阿法志賀讓狀

泰朝

○志賀文書  
熊本與史料中世二

相伝所領ヲ嫡子  
貞朝ニ讓ル

讓與

相傳所領等事

安岐郷諸田名

一 豐後國安岐郷内諸田名地頭職

小俣畑

一同小俣畑地頭職

松武名

一同郷松武名地頭職

一同國北浦部長小野村等

(香々地庄)

右、件於所領等者、或得豐前國司(大友)能直朝臣讓、或自備後僧都幸秀之手、阿法相傳之間、知行無相

違、然者、於今者、相副次第證文手繼、所讓渡嫡子貞朝也、向後無相違、可令領掌、仍爲後代證

驗、讓狀如件、

正安參年十二月廿日

(志賀泰朝)  
沙彌阿法(花押)

安岐郷

三五 沙彌阿法志賀泰朝讓狀案

○志賀文書  
熊本県史料中世二

末子袈裟鶴丸ニ  
讓ル

讓與

相傳所領豊後國大野庄志賀村南方在家田畠并勳功賞事

一所 泉名内大窪屋敷在田畠等

一所 羽月屋敷在田畠等

一所 朝倉名内咲迫屋敷在田畠等

一所 津留屋敷在田畠等

一所 定蓮房居屋敷付大竹屋敷田畠

一、安岐郷内菊善屋敷在田畠等

一、筑前國三奈木庄内勳功地半分彌五郎兵衛入道給分

右、件所領等者、所讓與末子袈裟鶴丸也、(志賀貞卷)於次第證文等者、依爲類驗、所副渡嫡子貞朝也、公家關

東御公事番役以下合戰事、可付惣領之手、不可有別旗、蒙勳功之時者、當配分可令知行、不可背嫡

子之命、縱雖有可沙汰事、無左右不可及上訴、何度も可懇望也、於不背此儀者、觸事又惣領不可致

違亂、雖載如此子細、嫡子又於不絀用者、可及上訴者也、然者、相共仁深相思、向後無相違、可令

進退領掌、仍讓狀如件、

安岐郷内菊善屋  
敷

惣領ノ手ニ付シ  
別旗アルベカラ  
ズ

正安參年十二月廿日

沙彌阿法 在判  
(志賀泰朝)

三 六郷屋山例講谷役配分注文

○長安寺文書  
太宰管内志下

屋山例講谷役配分注文

夷山 長小野

両子山 丸小野

大嶽山 見知

小石屋山 横城

屋山

長岩屋 辻小野

智恩寺 稻積

高山 懸樋

黒土 大岩屋

相山 先達

千燈山 清淨光寺 鞍懸

吉水 津波戸

間戸 大折

六郷屋山例講谷役配分注文

正月 夷山・長小長役、  
(靈仙寺)

二月 両子山・丸小野、  
(両子寺)

三月 大嶽山・見知・小城山・毘沙門拂、  
(東光寺)

四月 小石屋山・別當御役・横城山、  
(熊勸寺)

五月 八屋山、  
(長安寺)

六月 長岩屋・執行御役・辻小野・大谷、  
(西明寺)

七月 八後山智恩寺・稻積・高山・懸樋、  
(慈尊寺)

八月 黒土・大岩屋・相山、  
(本松寺)

九月 十二月 八先達、  
(彌講光寺)

十月 千燈山・清淨光寺・鞍懸、  
(千燈寺)

十一月 吉永・津波戸・間戸・大折・長副、  
(靈進寺)

嘉元二年九月 日

安岐郷

安岐郷

○モト統書キ。右ノ如ク改ム。

三七 豊鐘善鳴録

○乾

密室正機岫雲山  
報恩寺ヲ創ム

豊後州報恩寺、密室禪師、諱正機、生于本州、參直翁禪師、得單傳旨、岫雲山報恩寺于國東郡奈

多邨、自撰巨繋丘、待月松等之八勝、摺示禪衆云、○下略

○『豊後国志』二八「在安岐郷内迫村、徳治中、密室禪師所創」ト記ス。報恩寺ノ草創年次未詳ナルモ、シバラク此ニ從フ。

三六 大宮司宇佐公敦讓狀

○志賀文書  
熊本県史料中世二

宇佐大子ニ所領  
ヲ讓ル

讓與

相傳所領等事

- 一所 筑前國嘉摩郡綱別庄内佐古名
- 一所 豊前國上毛郡内本今吉名并吉木壹町
- 一所 同國下毛郡内安恆名
- 一所 同國宇佐庄内蔀屋敷等并田地、注文別紙、
- 一所 豊後國安岐郷内諸田名

安岐郷諸田名

一所 同郷、内松武名

右田島等者、公敦相承當知行之地也、而宇佐大子號田原女房 相副興行御下知等、所讓與實也、更(マ)不有相

違也、但有限社役以下者、可依先例、仍讓狀如件、

○宇佐公敦ハ徳治頃ノ大宮司。

### 三 豐鐘善鳴錄

○乾

豐後州實際寺自聞禪師、諱正聰、慧光其字也、兵部卿守良親王子或曰江州人、壯齡參見蔣山直翁禪師、

頓開翳障、繼住蔣山、道俗歸敬、會禮仁聞聖蹟、遊涉金胎興龍密寺廢址、觀其形勝、厝心創立、

時州守藤氏泰大友氏、割捨金貝膏腴、助營資給、殿堂周備、鬱爲望刹、師名山曰海印、寺加號實

際、居之二十餘年、讓席東叟、退抵洛之東嶺、結廬燕居、扁曰白雲巢、正慶帝聞師令嚮、賜號佛

照覺圓禪師、貞和五年六月三日示寂豐之西方院、壽八十八、

○注略。鈴木泰山氏ハ『禪宗の地方發展』（敵傍史学叢書）ニ於イテ、自聞正聰ノ大友氏泰ノ外護ニヨル實際寺建立ヲ延慶二年（一二〇九）トスルモ、出典ヲ明カニセズ。當時氏泰ノ外護ハ考ヘラレズ。氏泰說ヲ否定スルモノモアリ（『安岐町史』）、年次ニツイテモ檢討ヲ要スルガ、シバラクコレニ從フ。

大友氏泰ノ外護ニヨリ實際寺ヲ創建ス



四〇 豊後國志

○國東郡  
仏寺

延慶中万壽寺自  
聞禪寺創立又  
寂照中興

實際寺在安岐郷瀬戸田村、善鳴錄曰、延慶中、萬壽寺自聞禪師、歷禮仁聞聖蹟、遊涉金胎、與龍廢址、觀其形勝、厝心創立、  
正之兵燹、惟存佛殿祖堂、寂照  
禪師恨之、與其廢、振宗綱云。

四一 鎮西北條下知狀案

○永弘文書  
大分県史料三

〔端裏書〕  
「こうきやう御けち  
丸御けち乃あん」

字佐宮 一分領主正覺代重顯申條、

安岐郷内ノ地ヲ  
花光ヲシテ領掌  
セシム  
秋丸名

一國豊後國安岐郷住人都維那師知行分、同郷秋丸名内田七段事

大塚某知行地

一同郷住人大塚左衛門次郎入道知行分、同〔内田〕七段事

朝來野某知行地

一同郷住人朝來野彌二郎知行分、當名内田〔段〕事

右、件田地者、住古神領、花光進止之地也、而彼都維那師等押領之上、任興行之法、可被糺返之

請文等散狀ニ及  
バズ

由、訴申間、今〔月〕一日、仰都申左衛門次郎入道妙淨、下召師之處、如妙淨六月十三日請文者、

相觸都維那師・左衛門次郎入道・彌二郎等之處、不及散狀云々、起請之詞者、違背之背難遁、然則於田

地者、如元爲私領、花光可進退雜掌之、

以前條々、依仰下知如件、

正和二年七月十二日

前上總介平朝臣(北条政頭) 在判

三 鎮西北條 政顯御教書

○大友家文書録  
大分県史料三一

諸久名主千王丸  
ニ下地ヲ渡付シ  
違背ノ族ヲ注進  
セシム

宇佐宮領豊後國諸久名主千王丸申、當名田畠山野事、重訴狀如此、千王丸預裁許之處、志賀太郎不  
絛用云々、(安岐郡カ) 匱罪科、早於下地者、沙汰付千王丸、至 重違背之族者、可被注申、仍執達如件、

正和二年十月九日

前上總介判(北条政頭)

大友(左)□近(貞宗)大夫將監殿

三 安岐郷御輿御歸座料物送付注文案

○永弘文書  
大分県史料三

御輿歸座ニツキ  
番長ニ料物ヲ送  
ル

就御輿御歸座、宇佐宮番長少宮司殿、送申注文之事

一 御供米一石三斗并大豆三斗・小豆貳斗(カ)

一 御供祓料拾貫文 并かま一口・な△二・かなハ一本・おけ大小二八・はち二十・ミい一・こしき一・刀大小三・ひつ一・

かミ十五てう・しほ三へう・廿三十斤・此外御さいもついろい、(脱カ)

安岐郷

安岐郷

一白布五段

右件、番長送申所、如件、

元應貳年七月廿九日

安岐郷司左衛門（原助）□

藤（原助）

安岐郷司藤原助

四 安岐郷司御炊殿雜仕差符

○永弘文書  
大分県史料三

差進

御炊殿雜仕代字鬼□童在所□  
河類□

前加用權二郎ノ  
男子

右、件雜仕者、有限安岐封役人前加用權二郎男子也、仍任例、所差進如件、

元應貳年七月廿九日

（安岐郷司）  
郷司左衛門尉藤原助繼

安岐郷司藤原助

（花押）

（奥書）  
「應永二七月廿九日向野郷司ヨリ雜仕女奉進狀」

○右ノ裏書ハ、誤リ乃至ハ別文書ノモノナラン。

皇 宇佐宮年中行事等案

○到津文書  
大分県史料一

略○首

安岐定吉社敵ト  
シテ神訴アリ神  
輿動座社頭閉門  
両子山

料所安岐郷  
社頭開門

一 元應元年二月七日、豊後國住人對安岐次郎定吉、是ハ紛失畢、依不輕社敵、神訴在之、神輿御事、來繩郷之内至高森山御動座、并大神寶爾モヲタコ山ニ御動座、同社頭御閉門在之、同年七月廿九日御歸座畢、御料所者、安岐郷之内辨分、并定吉神宮料物百貫文・同御神馬一疋黒毛・太刀一振友國作、則御寶前納之、同廿九日辛卯未剋御開門之次第、樂所者、東之回廊ノホトリニ着座ノ奏音樂ヲ、番花摘ハ四門ヲ奉開、宿直者以下、各參勤マカノ調庄嚴ヲ、料物等者定吉沙汰、マ太官司以下諸官致出仕、是ハ紛失、至于御供所、大雜仕以下神人致參勤、奉調御法味、此時之御供米七石三斗・大豆・小豆三斗三升、安岐郷宮之本斗、料物七貫五文、色々料物注文之前、

二本・薦

○〔 〕内ハ『永弘文書』二三八号ニヨリ補フ。ナホ次号参照。

しやけの□しきやうカてん絹三疋・白布六端・調布三端・油三升・紙〔三十帖・釜一口・鍋二・鐵輪

吳 宇佐宮自杣始次第等案

○到津文書  
大分県史料一

略○首

元應元年二月七日、豊後〔國住人對安岐〕次郎定吉、神訴在之、神輿〔御妻來繩郷〕之内至高森山御動

座、同年〔七月廿九日〕御歸座、料所者、安岐〔郷之内辨分〕五町、并定吉神宮〔料物百貫〕文・同

御神馬竝太刀一本〔友國作、則御寶〕前納之、御供米七石三斗・〔箱三〕料物七貫八百七十五

文〔箱三〕疋・白布六段・調布三段・油〔藤原助繼〕九枚・桶大小六・小刀三本

此南安岐郷司左衛門尉〔藤原助繼〕汰送狀前、御神樂料七貫三百文

器料物參貫文

御番宛

大宮司千疋〔力〕・馬・太刀、少宮司馬・太刀〔力〕、政所惣檢校千疋〔力〕・馬・太刀、惣辨官

祝大神朝臣清祓料物、馬・太刀、惣〔力〕、陣道太刀・白布二、

諸司布二

○〔一〕内ハ前号文書ニヨル。

神輿高森山ニ動座シ婦座ニス料所ハ安岐郷弁

安岐郷司

四 柳井田板碑銘

○大分の石造美術  
東国東郡安岐町大字明治字小俣、柳井田

元亨元曆八月彼岸

大願主某板碑ヲ  
造立ス

(墨書)  
「梵字マン」

(墨書)  
「大願主  
西  
」

四 藤原貞泰讓狀

○志賀文書  
熊本県史料中世二

相伝所領ヲ熊毗  
眇丸ニ讓ル

讓與

相傳所領豊後國大野庄志賀村南方在家田畠等并勳功賞事

一所泉名内大窪屋敷在田畠等

一所羽月屋敷在田畠等

一所朝倉名内俵迫屋敷在田畠等

一所津留屋敷在田畠等

一所定蓮房居屋敷付大竹屋敷田畠

一、安岐郷内菊善屋敷在田畠等

安岐郷内菊善屋  
敷

安岐郷

一、筑前國三奈木庄内勳功地半分彌五郎兵衛入道給分  
(志賀泰朝)  
 右、件所領等者、依爲重代相傳所領、依親父阿法之手、貞泰(志賀)所被讓與也、而熊毗眇丸仁、此於所領等者、限永年讓與物也、公家・關東御公事等者、隨所領分限、可令勤仕也、仍爲後代證據、讓狀如件、

元亨元年十一月五日

藤原貞泰(志賀) (花押)

咒 辨分板碑銘

○大分の石造美術  
東国東郡安岐町大字朝來字弁分

紀近定

紀近定

〔同願主〕  
(鎌倉)

僧義覺

(梵字サ)

僧義覺

(梵字キリーク)

元亨二年七月十二日

(梵字サク)

〔則時〕  
(鎌倉)

已上二  
坊

大願主末弘

大願主末弘

三 尼妙法讓狀

○志賀文書  
熊本県史料中世二

安岐郷諸田名内ノ地ノ境ヲ定メ女子三人ニ讓ル

宇佐太子分

ふこのくにあきのかうもろたミやう内、きんきよのあとにてんはくやしきらの事（安岐郷諸田名内ノ地ノ境ヲ定メ女子三人ニ讓ル）、きんきよのゆつり狀ニまかせて、女子三人の分のさかいをさし申し、宇佐太子（のあととして、ちきやうすへき（花押））分、たけのしたふたをさこのなかミそよりかミ、ならひにまちほりにかそかミのくろふたのくちのまちほり、又ミねかたけのしたのわさた、

やしきの分、いやしきの内、にしひかしハななかき、きたミなミハたにさこのやしき、

宇佐二子分

宇佐二子分、ミなミのした、きたハふたをさこのミそをかきる、にしハたいたう、ミなミハをと五郎かつくりきハのなハてミち、かわへすくニとをす、壹所くすのきのまちほり、

やしきの分、

いやしきのうち、うへのなかかきよりにしミなミハたに、にしハをほうち、きたハつちね、

宇佐三子分

宇佐三子のでんちの分、をと五郎かつくり、にしハたいたう、きたハなハてミち、ミなミハたに、又よハいかわのふけあけにか所、

やしきの分、いやしきのうちしたのやしき、にしハななかき、きたミなミハたに、ひかしの分、ほ

んせうもんニミへたり、きたのあなゆのものこのハたけ、

右、てんはくら、ほんせうもんけんせん（興行）のうへ、きんきよのゆつり狀らにまかせて、こうきやう御

興行御下知

安岐郷



豊前築城ノ諸田  
ハ得分ヲ等分ニ  
分ツ

けちらめいハくのあいた、めんくちきやうの分、せんくより、さかいをさたむるところくたんのことし、

一、ふせんのついきのもろたの事、めんくにけんちうをとけ、とく分をとう分にとらるへし、ならひになし物くうしら、とう分に、わきまへさたをいたさるへき狀、くたんのことし、  
あさくのもろたのなし物、公事等、以同前、

嘉曆三年正月六日

(尾 妙 法)  
あまめうほう (花押)

五 護聖寺板碑銘

○大分の石造美術  
東国東郡安岐町大字朝来字久末

(梵字サ)

板碑ヲ造立ス

(梵字キリーク)

嘉曆四年三月九日

(梵字サク)

○大分県有形文化財。

五三 沙彌寂性志賀讓狀案

志賀文書  
貞泰讓狀案

○志賀文書  
熊本県史料中世二

相伝所領ヲ末子  
徳毗叻房九ニ譲  
ル

讓與 相傳所領豊後國大野庄志賀村南方屋敷田畠在家地頭職事

一所 大方名内上津留屋敷在田島等本地頭方

一所 同國安岐郷菊善屋敷在田島等

右、件所領ニケ所者、得親父志賀太郎藏人入道阿法讓狀、(秦朝)寂性無相違、所令知行領掌也、而所讓與

末子德毗沙房丸仁限永代也、於亡父阿法讓狀者、嫡子熊毗沙房仁所副渡也、於 公家關東御公事番

役以下合戰事者、嫡子と相共、可令勤仕、蒙勳功時者、各別仁可申給也、但雖如此讓、有不慮之外事

時者、件所領嫡子可令領知、又於無相違事者、任讓狀、可令領知行、相構々々、相共ニ深相思テ、

向後無相違、可令知行領掌也、仍爲後代讓狀、如件、

元德貳年七月十二日

(志賀貞卷)  
沙彌寂性判

### 三 明經京都隨身所々惣文書目錄

○益永文書  
大分県史料二九

(備裏書)  
〔目錄〕 友成名以下知行所々惣文書事 元弘二・正・廿四

#### 目錄

上洛時京都隨身所々證文等事

一 封戸郷友成名證文等分

略○中

■一 辛嶋郷花光御領時末名證文等分

安岐郷

上洛ノ時京都隨身所々証文ヲ注ス

安岐郷

略○中

安岐郷仁与名

一 安岐郷仁與名證文等分

一卷 七通 正和武家興行御下知以下證文等案

關東參候時  
裏書正文

一卷 本家政所御下文案

祖父正定  
裏書正文

一卷 二通 興行時追御下知正文

正和三年  
總州御代

一卷 十八通 仁與年貢竹井惣檢校方返抄正文

正和三年以來  
迄二元弘二

一通 同名坪付

一卷 關東御教書并御事書案文

正和興行御沙汰時

一 同郷朝來野平打田三反卅證文等分

一卷 十三通 興行御下知以下次第證文等案

但追御下知一  
通正文在之

一卷 六通 同證文具書等案

一卷 二通 領家安堵所望訴狀

在代

一通 同御下知迄狀

在代

一卷 二通 同御下知案

但依平打田沙汰敵方申成  
云々、嘉曆元

一通 就同御下知明經請文案

嘉曆二

一 此外向野郷草辨分、本所御下知以下次第證文、正文等隨身之了、

一 宮内承聞書并同文等正文

同郷朝來野

右、京都隨身惣文書目録、如件、

元弘二年正月廿四日

明經（花押）

○三箇所ノ綴目裏ニ、明經ノ花押アリ。

五 大宮司到津公連寄進狀案

○大樂寺文書  
大分県史料二

「奉寄 八幡宇佐宮大樂寺領通三寶物事

一 寺敷地壹所、月瀬北頬、乙松名内、北限東造道、限南河、限西彌勒寺領、限北田、

一 料所一所、豊前國上毛郡節丸名拾五町

一 所同國向野郷切井窪田田畠參町餘

一 所同國同郷天雨田内岡本田陸段、畠地荒野等

一 所同國下毛郡野仲郷得犬捌町、

一 所同國同郷今稻重拾伍町

一 所同國築城郡大野安末名伍町肆段

一 所同國京都郡富光<sup>トヒ</sup>捌町

一 所同國同郡恆松名陸町

安岐郷

大樂寺ヲ建テ神  
領内ノ地ヲ寄進  
ス

安岐郷

安岐郷吉松

同延松

一所豊後國國東郡安岐郷吉松陸町

一所同國同郷延松漆町陸段

右、奉爲

聖朝安穩天下泰平、卜 宗廟之砌、建立寺院、專爲戒律之道場、鎮勵顯密之勤行、奉添尊神之威光、奉祈 朝家之安寧、但於彼敷地并料所者、爲根本一圓神領之處、近來京家人・武家輩、非分掠領之間、爲社家衰微・神威滅亡基之處、奉逢 當今憲政、拜舊復(マ) 詔書、窄籠地悉被返付之間、且爲奉報謝 朝恩之忝、且爲奉賚吾神法味、以件神領内、所寄附彼寺料足也、一圓令進止、於有限神用本役者、不可有懈怠、至住持官領職者、以道密上人、所令請定也、早申賜 勅願安堵之 宣旨、備後代之龜鏡、永無窄籠之儀、可被抽御祈禱之忠節、冀伽藍基固而、佛法遙、繼慈尊之三會、神明增威而、朝野悉歸十善之聖化、仍奉寄狀如件、

元弘參年十二月 日

太(マ)宮司從五位下字佐宿禰公連 在判

○「大樂寺文書」ハ首八行ヲ欠ク。今「増補訂正編年大友史料」五ニヨリ「内ヲ補フ。五八号建武元年四月十五日官宣旨ト比較スルニ、十行目ノ次ニ「一所豊後國國東郡都甲久未拾伍町、一所同國同郡安岐郷成久拾參町」ノ二行ヲ欠失スルモノ、如シ。

五 八坂社板碑銘

○大分の石造美術 東國東郡安岐町大字朝来字弁分

道法等板碑ヲ造立ス

(梵字アン) 元弘三年 道法 敬白

吳 宇佐宮并彌勒寺由緒記寫(冊子)

○到津文書  
大分県史料三〇

略○首

寺領之事

寺領  
南北浦部十八所  
竈門庄  
豊前筑後肥前肥  
後薩摩日向等國  
々散在五所別宮

豊後國南北浦部十八ヶ所、此内竈門庄百町。聖武天皇天平勝寶元年己丑六月廿三日、被載<sup>(マ)</sup>宸筆<sup>(マ)</sup>御起請文畢、最初御奉奇之内異于他寺領也、此外豊前・筑後・肥前・肥後・薩<sup>(マ)</sup>廣<sup>(マ)</sup>・日向等國々散在五所別宮

筑後國大分宮 肥後國薩崎宮<sup>藤</sup>

肥前國千栗宮 薩摩國新田宮

大隅國 正宮 彼別宮<sup>建</sup>、依寺務成清連久六年十一月十日奏狀、以權大納言源通資卿宣奉 勅、

同七年十二月十五日被付彌勒寺畢、宮府嚴重也、末寺

入學寺豊前 西明寺同 大日寺筑州

回祿之咄、金堂、同本尊并東面回廊・鐘樓・經藏・伽藍堂・四王堂・御願新三昧堂・西常行堂・喜

多院内法花堂・常行堂・岩屋堂寺等悉成灰燼畢、此外堂塔者顛倒之後、送年<sup>(序)</sup>廊<sup>(九)</sup>之由、於今者一字堂

舍無之、彼炎上之時、講堂經卷已下佛具等、皆以雖令炎上、專所奉取出之重寶者、神功皇后御裳之

服許也、

安 岐 郷

○下略。次号トモニ年次未詳、シバラク此ニ収ム。

毛 造宇佐宮所課注文案

○到津文書  
大分県史料三〇

正殿ハ九州所課

仮宮ハ豊後国役

御炊殿

内庁ハ緒方荘役

一造宇佐宮正殿者 九州所課

一假宮者 豊後國役

一御炊殿者 常見庄々役 上毛庄、下毛々、築城□、  
京都、田河、規矩、  
字佐庄等

一内廳者 豊後國緒方庄役

一直相殿號客院、日向國十八ヶ所役

後白河院可有御參詣之由、以安元年中被仰下之間、大宮司公通宿禰以彼直相殿、所構于内裏也、

馬場頓宮ハ石垣  
荘・新開荘役

一馬場頓宮者 豊後國石垣庄・豊前國新開庄役

大島居東也、  
一馬場大塔

堀川院御願三代 白河・後白河・鳥羽 帝王

御筆法華經被奉納眞柱云々、

一内大貳堂 寛治都督 伊房卿 建立之、

佛聖燈油斫 豊後國勾別符

佛聖燈油料勾別符

一池内大貳堂法花三昧堂也、

康和年中 大宰大貳。大江匡房卿建（正二位權中納言（金之丞））□□、

『○中略

御服所安岐・武藏兩鄉役

一御服所

安岐・武藏兩鄉役

一厨家

社家役

### 壬 官 宣 旨

○大樂寺文書  
大分県史料二

大樂寺ヲ勅願寺ト為サシム

左辨官下大樂寺

應以當寺爲勅願寺事

大宮司宇佐公連ノ寄進狀

右、得沙門光仙去年十二月日解狀偈、當寺者、大宮司宇佐宿禰公連、奉爲聖朝安穩・天下泰平、忝蒙勅許、始所建立也、仍公連寄進狀云、奉寄八幡宇佐宮大樂寺領通三寶物事、一、寺敷地壹所、月瀨北頬乙松名内、北限東造道、限南河、限西彌勒寺領、限北田、一、料所、一所豐前國上毛郡節丸名拾伍町、一所同國向野郷切井窪田田島參町餘、一所同國同郷天雨田内岡本田陸段、畠地荒野等、一所同國下毛郡野仲郷得犬捌町、一所同國同郷今稻重拾伍町、一所同國築城郡大野安末名伍町肆段、一所同國京都郡富光捌町、一所同國同郡恆松名陸町、一所豐後國國東郡都甲庄久未拾伍町、一所同國同郡安岐郷成久拾參町、一所同國同郷吉松陸町、一所同國同郷延松柒町陸段、右奉爲聖朝安

安岐郷成久・吉松・延松

安 岐 郷



穩・天下泰平、卜宗廟之砌、建立寺院、專爲戒律之道場、鎮顯顯密之勤行、奉添尊神之威光、『奉祈朝家之安寧、但於彼敷地并料所者、爲根本一圓神領之處、近來京家人・武家輩、非分掠領之間、爲社家衰微・神威滅亡基之處、奉逢當今憲政、拜舊復詔書、(マ)窄籠地悉被返付之間、且爲奉報謝朝恩之忝、且爲奉賁吾神法味、以件神領內、所寄附彼寺料足也、一圓令進止、於有限神用本役者、不可有懈怠、至住持管領職者、以道密上人、所令請定也、早申賜勅願安堵之宣旨、備後代之龜鏡、永無窄籠之儀、可被抽御祈禱之忠節、冀伽藍基固而、佛法遙、繼慈尊之三會、神明增威而、朝野悉歸十善之聖化、仍奉寄狀如件、元弘參年十二月日、大宮司從五位下字佐宿禰公連云々、然則可爲勅願寺之由、下賜嚴重之宣旨、備後代之龜鏡、至於未來際、無窄籠之儀、任神託之旨、(マ)勸進三歸五戒、於社官氏人等、專弘一字之宗教、宜鑒三聚之戒珠、鎮顯顯密之行法、殊爲奉祈聖運之長久者、權中納言藤原朝臣冬信宣、奉勅、依請者、寺宜承知、依宣行之、

建武元年四月十五日

大史小槻宿禰(花押)

少辨藤原朝臣(花押)

五 後醍醐天皇綸旨

○志賀文書  
熊本県史料中世二

筑前國嘉摩郡綱別庄内佐古名、豊前國上毛郡内本今古名吉木壹丁、同國下毛郡安恆名、同國宇佐庄内部屋敷等并田地、豊後國安岐郷内諸田名・松武名、諸田名内龜丸名田島屋敷山野荒野等

筑前西豊内ノ所  
領ヲ佐氏女ニ  
安堵ス  
安岐郷諸田名・  
松武名・龜丸名

勅願寺ト爲スベ  
キノ宣旨

右所々、宇佐氏女當知行、不可有相違者、  
天氣如此、悉之、以狀、

建武元年五月一日

式部大丞（花押）

ニ〇 辨分釜ケ、迫國東塔銘

○大分の石造美術  
東国東郡安岐町大字朝来字釜ケ迫

慈父悲母ノタメ  
宝塔ヲ造立ス

大願主

紀友房 同守房

紀中子 同□子

（梵字キリーク）

右、爲慈父、悲母所

奉造立如件、

建武二年二月十二日

各敬白

（梵字バク）

安岐郷

○国指定重要文化財。

六一 六郷山別當光澄下文

○長安寺文書  
太宰管内志下

下 諸松丸所

諸松丸ニ六郷山  
執行職以下ヲ知  
行セシム  
兩子山  
横城山東光寺  
千燈山

早可令知行領掌、豐後國六郷山執行職、并屋山・長岩屋除地・兩子山除財善次郎丸・横城(東光寺)半分・千燈山□  
田島事

右、當山執行職以下田島、諸松丸任相傳、令知行、年貢課役、任先例、不可解怠(マ)、山内宜承知、敢勿違失、故以下、

曆應元年九月十八日

別當三會已講光澄 判

○モト統書キ。今右ノ如ク改ム。

六二 六郷山本中末寺次第并四至等注文案

○永弘文書  
大分県史料三

六郷山本中末次第并末寺四至以下記之、

本山付末寺

本山

一後山 吉水山 大折山 鞍懸山 津波戸山 高山 智恩寺 馬城山

〔二後〕山拂<sup>〔文〕</sup>料田畠山野等四至以下、院主相傳之證文爾明白也、當寺領<sup>〔今者字佐〕</sup>、<sup>〔大宮司押領、〕</sup>

一吉水山拂<sup>〔文〕</sup>料田畠山野等四至以下、院主相傳證文爾分明也、當寺領<sup>〔今者字佐大宮司〕</sup>押領、

一大折山拂<sup>〔文〕</sup>料田畠山野等四至以下、院主相傳證文爾明白也、當寺領內多分<sup>〔河野四郎〕</sup>押領、

一鞍懸山拂<sup>〔文〕</sup>料田畠山野等四至以下、院主相傳證文爾明白也、當寺領內少<sup>〔小田原助入道押領、〕</sup>

〔二〕津波戸山拂<sup>〔文〕</sup>料田畠山野等四至以下、院主相傳證文爾明白也、當寺領<sup>〔當寺領〕</sup>薰石以下拂門少<sup>〔河野四郎〕</sup>押領、

一高山拂<sup>〔文〕</sup>料田畠山野等四至以下、院主所持證文爾分明也、當寺領<sup>〔多分〕</sup>小田原助入道押領、

一馬城山<sup>〔限東赤岩辻〕</sup>限西ハエホシ<sup>〔志〕</sup>嶺<sup>〔限南六太郎〕</sup>美尾<sup>〔限北光廣〕</sup>

委院主所持證文爾明白也、但近年<sup>〔會禰崎〕</sup>十郎<sup>〔入道〕</sup>押領、

一知恩寺拂<sup>〔文〕</sup>料田畠山野等四至以下、院主相傳證文仁明白也、<sup>〔爾〕</sup>

本山末寺

本山末寺

辻小野山 大谷寺 間戸寺 伊多伊 大日岩屋 中津尾岩屋<sup>〔嚴勝寺領〕</sup> 轆轤岩屋 良醫岩屋 朝日岩屋

夕日岩屋 間山岩屋 今熊野岩屋 稻積岩屋 日野岩屋 鳥目岩屋 河邊岩屋 鼻津岩屋<sup>〔潘龍寺〕</sup> 普賢

岩屋<sup>〔妙〕</sup> 如覺寺 來迎寺 光明寺

一〇瀧寺<sup>〔潘〕</sup> 限東迫 限西マイ淵 限南サクラノ尾立<sup>〔限〕</sup> 北山下美尾

委院主所持證文爾明白也、<sup>〔持〕</sup>

一辻小野寺 大谷寺 河邊 後山ノ末寺也、

安岐郷

安岐郷

彼寺領等 山香郷司家忠以來押領、

寺領四至以下、本寺院主所持證文仁分明也、<sup>〔翻〕</sup>

一間戸寺 伊多伊 大日岩屋 大折山末寺也、

彼寺領 小田原助入道押領、

寺領四至以下<sup>下</sup>堺、本寺院主相傳證文仁明白也、<sup>〔翻〕</sup>

一中津尾岩屋 轆轤岩屋 最勝岩屋<sup>鞍懸山末寺也、</sup>

彼寺領都甲四郎入道・眞玉又四郎押領、寺領四至以下、本<sup>寺</sup>寺院主所持證文仁分明也、<sup>〔翻〕</sup>

〔一鼻津岩屋 普賢岩屋 妙覺寺也、<sup>高山末寺</sup>〕

一露寺 高山末寺也、當寺領 調幸實押領、

拂々料田畠山野以下、院主所持證文仁明白也、<sup>〔等四至〕</sup>

一來迎寺 高山ノ末寺也、限東ノウヘノ谷 限西シテノ大道<sup>〔翻〕</sup>

委院主所持證文仁分明也、<sup>〔翻〕</sup>彼寺領敷地共 小田原助入道押領、<sup>〔悉〕</sup>

一光明寺 限東美尾 限西馬渡 限南尾立 限北尾立<sup>〔翻〕</sup>

委院主相傳證文仁分明也、<sup>〔翻〕</sup>

一今熊野寺 限コケヲ佛 限西赤岩 限南尾立 北稻種不動堂<sup>〔美尾〕</sup> 〔翻〕限脱

委院主相傳證文仁明白也、<sup>〔翻〕</sup>

一良醫岩屋 朝日岩屋 夕日岩屋 聞山岩屋 稻積岩屋 日野岩屋 鳥目岩屋 馬城寺末寺也、彼寺

領多分 曾根崎十郎入道押領、

寺領四至塚、本寺院主所持證文仁分明也、  
(辨明白)

中山

中山

一兩子寺 長岩屋 屋山 加禮河 久末 黑土 小岩屋 大岩屋 千燈山 横城山

西子山

一兩子山 限東犬太郎尾付硯石 限西若松尾  
限南歲神 限北丸小野ツユノ嶽

〔委院主所持證文仁明白也、  
(辨)〕

丸小野寺

一丸小野寺 限東邊越 限西松力尾辻  
限南權現ノ辻尾 限北ツエ嶽

〔委院主所持證文仁明白也、  
(辨)〕

一長岩屋山 限東赤丹畑大タウケト號、限西極吉西福寺下谷  
限南尾ノ鼻ヨリ加禮河マテ大道 限北美尾

〔委院主所持證文仁分明也〕

一岩山 限東田原路 限西明神前道向神護石  
限南鳴石 限北折花

〔委院主所持證文仁明白也、  
(辨)〕

一加禮河 限東屋山路 限西河 (堤)  
限南河内山辻 限北百末下迫

〔委院主所持證文仁分明也、  
(辨明白)〕

久末

一久末彼寺領一向戸次侍中禪門押領、  
(以下 割 注)

一黑土 限東美尾 限西大岩屋美尾 限西小岩屋塚  
限北大河内 夷塚

〔委院主所持證文仁分明也、  
(辨明白)〕

安岐郷

安岐郷

一小岩屋 限東美尾 限西堂山美尾 限南西拂 限北大石

〔追筆〕 一 院主相傳證文仁明白也、

一大岩屋 限東美尾 限西字寺西美尾 限南西拂 限北山尾立

一 院主相傳證文仁明白也、

一千燈山 限東久保アメ牛淵 限西キコノ畑 限南七曲 限北雨乞下岩鼻

一 院主所持證文仁明白也、

一 横城山 限東タチノ隈 限西日ノ牟禮 限南カリ宿塚 限北松弘塚

一 院主相傳證文仁明白也、

中山末寺

一小兩子岩屋 龍門岩屋 赤松岩屋 間簾岩屋 后岩屋 石堂 拂岩屋 光明寺 藥師堂

一小兩子 龍門 長岩屋ノ末寺也、

一 赤松岩屋 間簾岩屋 后岩屋 小岩屋末寺也、

一 石堂岩屋彼寺領 號曰野畑 限東ヌウト石尾立 限西大道 限南井ノ牟禮尾立 限北麥餅石堂尾

一 院主相傳證文仁明白也、

一 藥師堂 料田畠四至以下、院主證文明白也、

一 平等寺 尻付岩屋 五岩屋 小不動岩屋 大不動岩屋 干燈山ノ末寺也、 普賢岩屋

末山

末山

〔ナシ〕 一見地山 大嶽山 岩戸寺 文殊仙寺 夷山 小城山 成佛寺〔留淨光寺〕 行入寺〔行入寺〕 清淨光寺 懸樋山

一見地 大嶽山拂々料田畠山野等四至以下、院主相傳證文仁明白也、〔備明〕

一岩戸寺 限東サヤノ本 限西赤丹畑美尾 限南楠來蘭下尾鼻 限北小市良ノ谷 〔備明〕

委院主所持證文仁分明也、但今者伊勢民部入道押領、

一文殊仙寺 限東蕨野蘭澤 限西赤丹畑美尾 限南成佛岩立 限北岩戸美尾 〔備明〕

委院主相傳證文仁明白也、〔備明〕

一夷山付長小野 拂々料田畠山野等四至以下、

院主相傳證文仁明白也、〔備明〕

一小城山拂々田畠山野等四至以下、院主相傳證文仁分明也、〔備明〕

一成佛寺 限東光廣横ナハテ 限西鶴尾ノ尾立 限南畠山尾立 限北ヲト牟禮尾立 〔備明〕

委院主相傳證文仁分明也、〔備明〕

一行入寺 限東間光屋尾鼻 號猿 限西横嶽 限南赤松畑尾 限北美尾 〔備明〕

委院主所持證文仁明白也、

一清淨光寺 拂々料田畠山野等四至以下、院主相傳證文仁分明也、〔備明〕

一懸樋山 拂々料田畠山野等四至以下、院主相傳證文仁分明也、〔備明〕

末山末寺

〔ナシ〕 一今夷 燒尾岩屋 普賢岩屋 輿岩屋 經岩屋 三十佛 瀧本岩屋 西裏岩屋 調子岩屋 師子岩

安岐郷

小城山

末山末寺



安岐郷

屋 毘沙門岩屋 赤子岩屋 報恩寺 上品寺 淨土寺 貴福寺 吉祥寺 西山 當寺領日田肥前權

守入道押領、

一 今夷 燒尾岩屋 夷山末寺也、<sup>(ナシ)</sup>

一 虛空藏寺 成佛寺ノ末寺也、<sup>(ナシ)</sup>

一 淨土寺 行入寺末寺也、<sup>(ナシ)</sup>  
限東赤坂 限西尾鼻 限西赤松美尾 限北石園<sup>(古)</sup>

〔委院主相傳證文仁明白也、<sup>(彌)</sup>〕

一 報恩寺 限東當寺 限西丸小野 限南美尾 限北美尾<sup>(彌)</sup>

〔委院主相傳證文仁明白也、<sup>(彌)</sup>〕

一 吉祥寺 付貴福寺 限東海押立 限西園澤<sup>(本ハテ)</sup> 限南栢野 限北貴福寺大ナハテ

〔委院主所持證文仁明白也、<sup>(彌明白)</sup>〕

一 願成寺 夷山末寺 <sup>(就之)</sup> 限東美尾 限西笈立松 限南永小野 限北久保大道<sup>(彌明白)</sup>

〔委院主相傳證文仁明白也、<sup>(彌明白)</sup>〕

〔上〕

右、且依惣公文之帳、且本末寺之披見院主相傳證文、所記如件、<sup>(之)</sup>

建武四年丁丑六月一日

〔大滿帳與書〕  
〔享保九甲辰天閣四月六日、爲當用、令書之者也、  
蓬山(花押)〕

○屋山長安寺所藏「大滿帳」ト文字及ビ配列順序ニ少異アリ。〔〕内ハ同書。

六三 僧榮幸讓狀案

○瑠璃光寺文書  
大分県史料一〇

子息佐渡房幸門  
二瑠璃光寺田畠  
等ヲ讓ル

讓 與

在豐後國六郷山杉山田畠山野等事  
(瑠璃光寺)

四至塚 如本證文、

右、田畠山野等者、僧榮幸重代相傳之私領也、但齋園執行之時代に、榮幸先祖有(マ)天少得分於、自令契約之以來、次院主進退之地於下作職者、猶以所無相違也、然間子息佐渡房幸圓仁、不殘段步讓與(筆力)乎、有限於恆例本役御公事等、無緩怠、致其沙汰、永可令知行領掌、此外更に不可有他妨、仍爲後日證文、讓狀如件、

歷應三年(應)歲次  
庚辰十一月

僧榮幸 有判

六四 沙彌正玄志賀讓狀

○志賀文書  
熊本県史料中世二

相伝所領ヲ嫡子  
頼房ニ讓ル

讓與 相傳所領事

豐後國

壹所 都甲久末別府  
(都甲世)

安岐郷

安 岐 郷

七六

壹所

(天分郡)  
勝津留地頭職

壹所

安岐郷小俣畑

壹所

藤尾寺別當職并一小野

豊前國

佐田庄内山澤村地頭職

右、所領等者、相副代々相傳證文等、限永代、所讓渡于嫡子頼房也、然則、無他妨可領知之、於御公事等者、守先例、可致其沙汰也、仍讓狀如件、

康永元年八月三日

(志賀忠能)  
沙彌正玄(花押)

○紙継目裏ニ正玄ノ花押アリ。

六五 宇佐永保範得分物注進狀

○到津文書  
大分県史料一

(備考)  
一當社宇佐宮兼番長保範注進狀、番長所帶得分物等事

貞和四年十二月廿九日

注進

御炊殿番長所帶得分物等事

一御菜米毎年參拾捌石内 田原別符ニ參拾石  
田染庄系永・重安陸石、末久貳石、賜社家御下知、已上參拾八石

御炊殿番長所帶  
得分物ヲ注進ス

一 御炊殿御供稻内、一年中御物參拾八束分米一石一斗八升

又 節料拾束分米二斗 アツカエノ稻十束分米二斗

已上一石五斗四升

一 御煎油一斗五升内

二月御祭三升田染辨分 五月會同采力未時二升・秋吉一升 六月御被會由丸二升 永正一升 御放生

會秋吉二升 是行一升 十一月御祭 爲包二升 行成一升 缺物五升 代一貫

一 御供菓子等、自貫庄今吉名御園（善力） 四種

暑預（善力）一籠五十本 野老一籠 栗一籠三升

串柿三連 蕙三枚 二季春御祭并五月會進之、

代一貫、近年（力）沙汰之、

一 一五月會自國衛甘葛煎一升、瓶子ニ入之、瓶子ノ代五百近年ハ三百文

一 每節自御倉進于御炊殿紙等、年中九拾八帖也、

此内幣帛十六帖、又十二帖番長取之、

炊殿加用・雜仕

一 御炊殿加用・雜仕等事

封戸郷四人雜仕二人 向野郷四人高家・辛嶋

安岐郷二人雜仕一人 來繩郷二人同 大家郷二人同

一 自深水庄翁丸名御園栗ノ上分進之、三斗

安岐郷・來繩郷  
大家郷

安岐郷

惣都合四拾貳石。<sup>一斗</sup>四舛

一六ヶ年一度御行幸會御殿替、同御還遊御供米柒石、賜社家御下知、

一同御行幸會瀬社御供米事

横山浦今手・小今手名内免田六町 分米黑米七石二斗一段別一斗二舛 白米六斗一段別一舛 油六舛一段別

一合 菓子已下雜事等無懈怠、

已上八石

一同御行幸會時、安心院妻垣社御供米恆松名沙汰、御供米拾貳石雜事細々物々等仁五貫文

一同時寺領山下保藤丸名國檢田事

白米六斗一段別六合 黑米四斗一段別四合 秣五斗一段別五合 又一段仁馬鑿子三筋辨之、鑿<sup>ハ</sup>二段<sup>ニ</sup>一

一口、又代替秣『三束 帛三帖 油 炭木 已上參石

一同時大根河社ノ覆勘料米一石并大盤三前代布在之、錢一貫

一三十三年一度御遷宮并御還宮御供米事

遷宮<sup>ニハ</sup>

拾五石以下雜事等、自豊後國勘渡之、

還宮<sup>ニハ</sup>

筑前國五石 筑後國五石

肥前國五石 肥後國五石

豊後國二石 常見二石五斗

得善二石五斗

菓子以下雜事等見例文、

已上五拾石遷宮・遷宮加雜事等定、

一同御還宮之時、古ノ御器・佐良・御服以下、御炊殿分預之、

一同御還宮・御還宮之時、被物饗膳在之、

一御炊殿造營并御還宮之時、得分在之、

右、注進如件、

外ニ大雜仕女ニ下行分、小雜仕女下行分

貞和四年十二月廿九日

兼番長宇佐保範(永忠)(花押)

六 源賀賴資讓狀

○志賀文書  
熊本県史料中世二

相伝所領ヲ子息  
千徳丸ニ讓ル

讓與

相傳所領豊後國大野庄志賀村南方、在家田畠等、并勳功賞事

一所 泉名内大窪屋敷在田畠等

一所 羽月屋敷在田畠等

安岐郷

安岐郷

一所 朝倉名内咲迫屋敷在田島等

一所 津留屋敷在田島等

一所 定蓮房屋敷付(付)大片屋敷田島

一所 安岐郷内菊善屋敷在田島等

一、筑前國三奈木庄内勳功地半分(細カ)孫五郎兵衛入道給分

右、件所領者、依爲重代相傳、賴資子息千徳丸、限永代所讓與也、公家・關東御公事等者、隨所領

分限、可令勤仕也、仍爲後代證據、讓狀如件、

觀應元年(庚寅)八月廿三日

(本貫)源賴資(花押)

六七 掛樋岩屋堂板碑銘

○大分の石造美術  
東国東郡安岐町大字掛樋岩屋堂

(墨書)  
一 大工 西蓮

(梵字キリク)

延文伍年(庚子)七月十五日

(墨書)  
一 小工 清光

板碑ヲ造立ス

六 足利義詮袖判下文

○大友家文書録  
大分県史料三一

御。判袖(足利義詮)

下 豊前藏人三郎(マ) 法師(田原氏能)

田原氏能ヲシテ  
安岐郷地頭職  
ヲ領知セシム  
(日田詮永跡)

可令早領知豊後國安岐郷日田宮内少輔地頭職事  
詮永跡

大神・藤原莊等  
ノ替

右、爲勳功之賞、同國大神・藤原庄戸次筑前次郎、豊前國吉田村・芥田等之替、所宛行也者、早守先

例、可致沙汰之狀、如件、

貞治二年七月十二日

七 大友氏時當知行所領所職等注進狀案

○大友文書  
大分県史料二六

所領所職等ヲ注  
進ス

注進

氏時(大友)當知行散在所領所職等事

相模國大友郷付延清

同國三浦(長)坂郷

上野國利根庄號十井出

美濃國中村庄

伊勢國塔世御厨北方

越後國紙屋庄

安岐郷



安岐郷

豊後國守護職

同檢非違所惣追捕使職

同國直入郷付田野・阿蘇野

同國荏隈郷

同國山香郷同名田一王丸名

同國丹生庄

同國草地庄

同國朝見郷寶満寺

同國田原別府半分付岡次松半分

同國都甲庄半分

同國六郎丸名阿部庄

同國安岐郷内成久村

同國日田庄竹田別府半分

同國高國府村

同國大野庄上村半分

同國由布院竝柳酒久里塚原以下所々

同國三重郷

同在國司職

同稅所職

同國緒方庄

同國笠和郷

同國佐賀關付臼杵・佐伯兩庄内關宮

同國下郡號判田郷

同國鶴見村種田庄

同國光吉村阿部庄

同國狹間半村

同國阿南庄甲斐田村

同國武藏郷重藤・久吉兩名

同國吉松名

同國長野村

同國八坂下庄若富名

同國球珠郡横尾新庄

同國高田庄

同國佐賀郷

安岐郷内成久村  
同吉松名

同國大佐井郷

筑前國香椎社付諸郷

同國怡土庄

筑後國守護職

同國生葉庄

肥後國隈牟田庄預所職付千原森崎

同國下須島

同國千田庄付重富・永富兩名

同國健軍社領

鎌倉龜谷地壹町先祖墓所宿所地等

京都佐女牛大和大路屋地六ヶ所

同大谷地貳所先祖墓所宿所地等

右、注進如件、

貞治三年二月 日

同國小佐井郷

同國大墓村

同庄志摩方

同國鷹尾別府

同國三瀧庄半分

同國光永吉納新開

同國合志庄

同國山本庄

豊前國山鹿西郷

安岐郷

吉 生桑寺大般若經奥書

○久多羅木儀一郎「生桑寺の寫本大般若經」  
大分県史蹟名勝天然記念物調査報告四

朝來野清白庵ニ  
テ書写ス

(四百一十七卷)  
「貞治四乙巳六月五日清白庵書之、  
豊後國朝來野(安岐郷)

權僧都法助、和尚位定脩助筆廿卷内也、

○現安岐町大字朝來字弁分ノ西白寺ハ、モト字岩屋ニ在リシ古刹。清白庵ハコノ西白寺ト關係アルカ、トイフ。

七 田原氏能知行宛行狀

○余瀨文書  
大分県史料二五

(田原氏能)  
(花押)

安岐郷内拾貫分  
ヲ宛行フ

豊後國安岐郷内土貢拾<sup>(貫之)</sup>分事、爲給恩、所宛<sup>(行之)</sup>上田左衛門次郎也、任先例、可致其沙汰之狀、如  
件、

應安貳年七月十一日

其 阿 奉

息女惟宗氏女ニ  
一期ノ間譲ル

三 僧幸圓讓狀案

○瑠璃光寺文書  
大分県史料一〇

讓 與

六郷山稻山乃内幸圓知行田畠山野等之事

四至境、如本證文見、

右、田畠屋敷等者、幸圓重代相傳地也、然間息女惟宗氏女仁、一朝(期カ)の間譲與所實也、有限恆例の公  
役等者、任先例、無懈怠致沙汰、知行候へく候、仍爲後日、讓狀如件、

應安五年壬子七月一日

僧 幸圓 有判

本屋敷内家一ヶ乃跡、同井上畠、幸祐道秀院主職也、

三 尼正安遺領配分狀

○秋吉文書  
大分県史料一〇

○応安八年八月廿二日。本文書ハ八坂莊薬丸名等ニ関スル配分狀ナリ。仍テ後掲「八坂莊史料」七九号ニ全文ヲ掲グ。本文  
省略。中ニ「安岐郷仁与名半分」ヲ譲ルノ事アリ。

七四 塔野板碑銘

○大分の石造美術  
東国東郡安岐町大字朝来字弁分

板碑ヲ造立ス

(梵字キリーク)

永和二丙(國)壬七十五

七五 足利義滿袖判下文

○入江文書  
大分県史料一〇

(足利義滿)  
(花押)

下

田原徳一丸(親貞)

田原徳一丸ニ所  
領ヲ安堵ス

可令早領知、筑後國田口村内西方參分壹・同國怡土庄内末永名參分壹・豐後國田原別符半分内(筑前國)

參分壹・同國田原別符内波多方半分(戶次丹後守 頼時跡)・周防國岩田保岩田左近將監 跡・肥前國山田庄阿蘇彈正 少弼治時

跡・豐後國安岐郷日田宮内少 輔詮永跡・同國光一松名(阿南忠)・同國玖珠郡山田郷原田次 郎跡・帆足郷・古後郷志津利孫 三郎跡・

飯田郷・并來繩郷内福成吉久名等・同國香地庄・國東郷信濃入道 行珍跡・同國武藏郷・同國櫛來別符・

同國日出庄戶次筑前次郎 朝直跡・筑後國竹野庄内東郷・山本郷宇都宮常陸前司 守綱跡等地頭職事

右、任今年七月十八日父下野守氏能讓狀、可令領掌之狀、如件、

康曆元年十二月廿四日

大友親世當知行所領所職等注文案

○大友文書  
大分県史料二六

所領所職等ヲ注  
ス

親世當知行國々散在所領所職等事

相模國大友庄

同國三浦長坂郷

上野國利根庄

越後國紙屋庄

美濃國仲村庄

伊勢國塔世御厨北方

豊後國守護職

同國在國司職

同檢非違使總追捕使職

同稅所職

同國直入郷

同國緒方庄

同國荏隈郷

同國笠和郷

同國朽網郷半分

同國內梨子畑

同國山香郷

同鄉立石村付鬼丸名

同國臼杵庄

同國丹生庄

同國佐賀郷付佐賀關并一尺屋

同國下郡號判田郷

同國寶満寺(朝見郷)

同國野田村

同國靄見村

同國草地庄

安岐郷

安 岐 郷

同國田原別符半分

同國六郎丸  
(同南庄)

同國阿南庄甲斐田村

同國永野村

同國高田庄

同國安岐郷成久村

同國八坂本庄若富名

同國玖珠郡綾垣村

同國日田郡竹田別符半分

同庄堀池名

同國光吉村  
(窪田庄)

同國小仲名

同國八坂下庄歳田村

同國柴山村

同國須く原  
異國警固  
要害所

筑後國三潯庄半分

同國岩方村

同國狹間村半分北方  
(同南庄)

同國都甲庄半分

同國泉名

同國隆國符村

同國武藏郷重藤名  
付久吉名

同郷吉松名

同國由布院並柳・酒久里・塚原・  
荒金・天間・荒木・山崎・石松・貞恆

同國横尾新庄

同國大野庄上村半分

同國大佐井郷

同國戸次庄切畑名

同國丹生津留村

同國馱原村

筑前國香椎社領付諸郷

同國怡土庄

同國鷹尾別符

肥後國隈牟田庄

安岐郷成久村  
同郷吉松名

同國千田庄

同國光永吉納新開

同國山本庄

同國健軍庄

同國合志庄

同國下須嶋

菊池武光兄弟并庶子  
跡各半分

同國關入道跡生葉庄  
替地

同國伊倉庄同前  
北方

肥前國佐留志村同前

同國高木東西同前

同國伊佐早郡内字木小次郎  
宗像八郎、長野跡同前

日向國守護職

同國宮崎庄

豐前國山鹿西郷

同國光成名八町

肥前國財部村

鎌倉龜谷藤谷敷地一所

京都佐女牛大和大路屋地六ヶ所

同大谷地二ヶ所曩祖宿所地

以上

右、注文如件、

永德三年七月十八日

〔兼書〕  
「爲後證所封裏也、

丹後守判」

安岐郷



安岐郷

宅 小城山上品寺鎮守若宮舊藏鰐口銘

○大分県金石年表  
高知県土佐郡本川村大字戸中観音堂

上品寺鎮守若宮  
並ビニ権現ニ鰐  
口ヲ施入ス

奉施入、豊後國六郷小城山(上方)上品寺鎮守若宮并權現、所奉施入如件、康應元年己巳十一月八日、願主  
又七敬白、

宅 安岐郷吉松田地坪付并段錢注文

○志賀文書  
熊本県史料中世二

(備裏書)  
「よしまつのちけのちうもん」

定

安岐郷吉松ノ田  
地屋敷ヲ注ス

(安岐郷)  
吉松田地一人分事、四町九段 此内上中□

- |    |         |    |      |     |
|----|---------|----|------|-----|
| 一所 | 一町居屋敷坪上 | 一所 | 貳段上  | 松本  |
| 一所 | 壹段中     | 一所 | 壹段中  | 餅田  |
| 一所 | 半中      | 一所 | 三段下  | 東ケヌ |
| 一所 | 三段下     | 一所 | 三段下  | おへら |
| 一所 | 三段下     | 一所 | 貳段半下 | ゆふへ |
| 一所 | 三段下     | 一所 | 四丈下  | 土器田 |

一所 壹段一丈下 中尾 一所 四段下 くわい田

一所 五段下 くだかつほ 一所 三段下 よ

一所 貳段下 堂田 一所 壹段 修正田

上田壹町貳段分錢五貫三百文

中田貳段半分錢七百五十文

下田三町二反二丈分錢六貫四百六十六文

以上錢拾貳貫五百十六文

一所 壹段一丈上 おきの田 一所 壹段上 北う藤次

一所 三段上 松本 一所 壹段一丈上 橋爪

一所 壹段半上 北う藤次 一所 貳段上 たち田

一所 三段上 南う藤次 一所 貳段中 くだかつほ

一所 壹段中 おいた 一所 四丈下 こかのまゑ

一所 三段下 堂田 一所 壹段下 くミかうら

一所 三段下 のましり 一所 五段下 くだかつほ

一所 貳段下 ゆわら 一所 四段下 あなた

一所 四段下 下ゆふへ 一所 貳段下 いせゝ

一所 壹段下 ふるうら 一所 貳段下 神五かうら

安岐郷

安岐郷

一所 三段下

いふへ

一所 貳段下

ゑかしら

○年次未詳。

克 大友氏加判衆連署奉書

○永松栄雄文書  
札幌市中央区北十四条西十五丁目

(包紙ウハ書)

(異筆)

「御書出」

永松新左衛門入道殿」

安岐郷諸田内諸  
久ヲ宛行フ

安岐郷諸田内、諸久田地壹町壹段并屋敷荒野等事、所被宛行也、任先例、可被致沙汰之由候、仍執  
達如件、

應永五年二月一日

(吉弘氏カ)  
藤原(花押)

(生右定勝)  
沙彌(花押)

永松新左衛門入道殿

○藤原(花押)ハ吉弘氏輔(一曇)カト思ハル、モ、(花押)若干異ル。

六郷満山離山衆徒等申狀

○六郷山文書  
太宰管内志下

六郷離山ノ衆徒等一同謹上、

(言脱カ)

六郷離山ノ衆徒  
当寺務代ノ非例  
ノ雜役段錢ヲ課  
スルヲ停メラレ  
ンコトヲ請フ

右、今度離山之趣、非別子細、譬者當寺務代住職以來、對衆分、往古舊代無其先蹤以非例、致苛責

御屋作催促

段錢同前

坊領役田ヲ罪科  
ナク押妨

退転ノ堂社坊領  
ヲ注進ス

日出庄・田染庄  
安岐郷内ノ地ヲ  
宛行フ

被充行不慮之課役、御百姓一分之公役、令勤仕候事所以者何、今度御屋作竝以下、爲上意之趣、

上者令致隨分奔走勤仕申之處、御侍造作以下之費及六十餘貫之條、六郷平均段錢催促ノ事、満山之傷(愁脱)此事ニ候、仍付彼寺務代、雖捧一同之訴狀、未達上聞、結句重而御屋作御催促、是又雜用可爲同

前、段錢又同前也、然者衆徒悉以貧道無力之至、家計以難應徵分、依之、或先規舊例之法會神役等令陵夷、或元來不退之勤行修學令廢怠事、是偏寺務代ノ苛政所致也、爰殊以衆徒等、懷愁鬱空送年

月事、當山所々坊領并有限役田以下、更無其罪科令押妨、他郷他所地下人等、倒失理由(マ)紬之本主事、當寺務代之所爲、以ノ外無道也、如此之間、住山無其益之條、令離山候者也、且爲上覽、且爲

無私曲、條退轉ノ堂社坊領ノ員數條々、注進明鏡也、忝奉仰上意御賢察之旨者歟、然任先例、速蒙上裁者、満山衆徒等開多幸之眉、彌可致御祈禱之精誠祈狀之旨、如件、

應永十九年(マ)巳十一月十五日

満山大法師等各言上

○モト統書キナルモ、右ノ如ク改ム。

## 二 大友持直知行宛行狀

○広瀬家史料館所藏文書  
日田市淡窓町

日出庄内辻間村并田染庄内吉丸古庄彌津入道・安岐郷内光貞古庄佐渡守・玖珠郡内岩室帆足清太・同郡戶幡古庄伯耆守事、進之候、可有御知行候、恐々謹言、

「應永廿貳年」  
九月廿三日

持直(大友)  
直(花押)

安岐郷

安 岐 郷

九四

田原新藏人殿

二 大友親著書狀

○草野文書  
大分県史料一三

安岐郷ヲ田原  
松丸ニ宛行フモ  
当作ハ当給人ノ  
沙汰トス

安岐郷事、返付田原靄松丸候、任先知行之旨、可有沙汰候、就其、當給人等事、此間忠節事候間、宛行替地候、於當作者、當給人可相計之旨、申付候、其段申含森大郎候、可有御心得候、恐々謹言、

九月廿日

(大友) 親 著 (花押)

木付入道殿

三 宇佐大宮司家專使吉用明兼奉書(折紙)

○永弘文書  
大分県史料四

(端裏書) 「安岐郷加用・同雜仕事 社家書下專使狀」

炊殿雜仕女ヲ差  
進ゼシム

御炊殿御雜仕女壹人事、任先例、可被差進、聊不可有無沙汰之由、所候也、仍執達如件、

應永廿九  
六月二日

(吉用) 明 兼 (花押)

安岐郷司殿

(裏書) 「應永廿九雜仕女催促狀」

安岐郷司

八四 宇佐宮行幸會等諸役支配注文

○矢野文書  
大分県史料二

行幸會時

妻垣社仁御臨幸事

○中略

行幸會時諸郷庄社役事

行幸會時諸郷庄社役

- 一行稻六十六束内、舟三束新開庄勤<sup>②</sup>、
- 一縫殿二字六間之内、一字二間新開庄勤之、
- 一銅下知事、三十兩新開庄<sup>②</sup>
- 一鍊下知事、同炭、新開庄分鐵五十廷也者、
- 一色々雜物下知事、新開庄分<sup>几箱三丈  
牛皮一枚</sup>
- 一八丈絹下知事、新開庄分二疋四丈、使何松
- 一御絹帳緒門麻下知事、新開庄五十把
- 一御泥障并御踏造料新開庄分米一石五斗
- 一几絹下知事、新開庄分四疋<sup>辨分二疋  
用繕二疋</sup>
- 一騎兵・夫下知事、新開庄分、騎兵五人、夫五人

安岐郷

安 岐 郷

五月會

五月會

一 乘尻饗膳二十前

諸郷莊弁分

諸郷庄辨分致其勤之處、近年萬押□、

封戸・來繩・新開辨分勤之、

大嘗會分 八月始(ア)巳亥日間

一 相撲饗 諸辨分勤之、

近年者新開・來繩計勤之、

六月宮符御祓

六月宮符五月成御祓御神事

安岐郷ヨリ下毛郡ニ至ル

一 自安岐郷、至于上毛郡(カ)同前、

此外石垣・新開・田染・大野マテ(ク)□角田皆辨分勤、各五人、騎兵五人、宮符也、

放生會

放生會

自朔日十五日次第

十三日石垣辨分・新開庄辨分煎米三斗三升 白酒三斗三升□

放生會宮符

放生會宮符

一 田染辨分・石垣辨分・新開辨分

津隈・貫辨分、同夫十人

放生會

一相撲饗膳可勤仕事

件饗膳諸郷之辨分勤之、

近年封戸辨分・新開辨分勤之、

右、大概所擇出、如件、

應永卅年卯月日

八五 奈多八幡宮大太刀銘

○宇佐・国東半島を中心とする文化財  
杵築市大字奈多

肥前国国公作

肥前國住人國公作、

應永三十一年<sup>甲申</sup>八月日、  
辰

○大分県指定有形文化財。

八六 宇佐宮寺造營并神事法會再興日記目錄案(冊子)

○到津文書  
大分県史料三〇

宇佐宮寺御造營并御神事法會御再興日記目錄

○首略

一御放生會事<sup>○下略</sup>

安 岐 郷



安岐郷

略○中

一和間御迎講儀式事

安岐郷役

先行事堂達、音頭兩人、次<sup>(九)</sup>役員堂達、次獅子中子安岐郷役  
口付封戸・向野兩郷役、次菩薩中子  
寺家役、次樂人・舞人、

次所司供僧也、

一和間頓宮ニ神輿御入内、先新樂亂聲、次着座、次奏鎮祝、次細男舞之、次地久萬歲樂奏之、次阿

彌陀經懺法、次傳戒乞戒、次宮司以下祠官幣殿ニテ御神樂在之、次在廳同舞之、

十郷役

一十五日相撲事十番、左ハ十郷役、右ハ日向國役、今ハ守護役也、

略○中

一三殿、同東脇殿、同東湯殿事、大友式部(親著)大夫殿可有造進之由被仰出ニヨテ、律僧五室眞助・木付

三殿ハ大友親著ノ命ニヨリ木付親公・田原親幸浦部人々造進ス

讚岐守親公・田原藏人親幸、此外浦部人々、應永廿七年十一月三日着宮有テ、材木ヲサイ採用シ、次

第々被社納了、

略○中

右、宇佐宮寺御造營并御神事法會御再興之日時註文、大概如斯、

永享五年十二月十三日

壽(正) 玄判在

安岐・武藏郷内  
森宮一丸本給  
打渡サシムヲ

七 諸一・諸忠連署遵行狀案

○森文書  
大分県史料三五

安岐・武藏兩郷之内、森宮一丸本給けぶり名之事、被返遣候、則可被打渡之狀、如件、

實徳貳

三月十六日

諸 忠

諸 一

政所沙汰人中

八 大友氏加判衆連署奉書案

○志賀文書  
熊本県史料中世二

諸田名内相論地  
ヲ志賀氏ニ付シ  
違乱ヲ停ム

(安岐郷)

諸田内志賀十郎方与相論地事、兩方證跡數日被經御沙汰之處、宇佐太官司公敦息女仁相續候、剩爲末代、繪旨・御教書申成候以來、無相違候之間、志賀方へ被仰付候、於向後、可被止御違亂之由候、恐々謹言、

十一月廿四日

豊饒彈正忠

直 治

重吉伯耆守

秀 直

雄城播磨守

惟 泰

朽網備後入道

法 祥

安岐郷

安岐郷

俣見石見守殿(親氏)

一〇〇

八九 大友親繁書狀(紙切)

○若林文書  
大分県史料三五

(包紙ウハ書)  
「わかはやし殿

親繁」

奈多ニ行カバ木  
付ニ状遣ハシタ  
シ

ふとなた(奈多)へ御入候ハ、かさねて(木付)きつき方へ、狀をつかわしたく候、やかてく、此方へ御入  
へく候、

木付ニ使ヌ

きつきつかいニ御こへ候事、喜存候處、き方の御返事をまち候や、いまほとハ、なにとも申つうせ  
す候、いかにも、彼方へ御よりあい候て、さいそくあるへく候、又それまで、御こへ候よし承候と  
ころニ、こなた(奈多)ゑ御こへ候ハす候、心もとなく候、人のうろんニ候する事ハ、き方のおつと(越度)ニ、な  
るましく候、すへてく、くるしからす候、たれしもこなたへ、とうかん(等閑)あるましく候へ共、とり  
ハけきつき事ハ、心中かわらしと存候、御より候ハ、とくく、此方へ御こへ候する事、喜入  
候、おほせあるべく候、恐々謹言、

八月廿五日

(大友)  
親繁(花押)

わかはやし(若林)入と殿



直入郷本職

大野莊泊寺

緒方莊宇多枝名

安岐郷諸田村

一所 深町用作五段事、二段ハ四郎母系、三段國符妹爲女子分、雖計宛、彼兩人一期之後者、可改易之、若四郎混配分、可有申子細敷、不可承引也、

一所 直入郷本職事、爲勳功賞、曾祖父日向守氏房拜領云々、何も全奉公、無他妨可知行也、

一所 大野庄泊寺之事、是又爲代々當家計、所成敗也、可存知者也、

一所 緒方庄宇多枝名内井崎、其外散在地白谷云、

一所 安岐郷内諸田村之事

爲代々志賀家配分、所知行也、雖然、近年俣見石見守莅彼地、競望云、仍致長々在符歎申

間、達 上聞、所令拜領也、仍彼地等之事、信州一期之後、子共中雖被申與、忽愒領有緩怠

之子細者、可改替也、

一 千代若丸并弟丸事、其身器用不器用不云、成水魚思、可致憐愍也、

今度就藝州發向、大方所申置也、巨細之旨、重而可書遣候、

康正三年<sup>丁丑</sup>二月廿五日

源親明<sup>(花押)</sup>

志賀龜鶴丸殿

○継目裏ニ源親明ノ花押アリ。

三 益永肥前守某讓狀

○益永文書  
大分県史料二九

所領ヲ讓ル

讓與所ノ事

一所高家郷益永領田畠・屋敷等□

一所若宮殿御馬秣田向野□

□散在秋安名田畠・屋敷・山野(俗事九)

一所豊後國安岐郷小俣・畑(波多)□畠・屋□

一所同國安岐郷朝來野定米(波)□

一所同國田原永松名定米(往古)□  
十一□

右、件五ヶ所分、高家益永領從故□讓得地也、今又爲直輔志、通輔仁□久令窄籠處、

直輔隨分致粉□地也、聊不有如在之儀、小俣(波多)・永松(名)□廻種々秘計知行之、仍

讓狀如件、

應仁二年戊子六月六日

(益永(前守)九)  
肥

三 片峯地藏堂鰐口銘

○宇佐・國東半島を中心とする文化財  
杵築市大字片野一三九佐蔵氏七家共有

片峯堂ニ鰐口一  
面ヲ施入ス

(外区)  
「大日本國豊後劔安岐郷山口村片峯堂、

安岐郷

安岐郷

奉施入鰐口一面之夏、且那各人敬白、

〔内区〕  
〔三年〕  
「于時文明辛卯閏八月吉日」

六四 大宮司宇佐宮成公永讓狀案

○宮成文書  
大分県史料二四

讓與

嫡子公保ニ大宮  
司職及ヒ一跡ヲ  
讓ル

〔マ、シ〕  
太宮司職并公永一跡之事

豊前・豊後兩國内

- 一所 宇佐郡封戸郷恆貞名田畠屋敷山野荒野等
- 一所 同郡封戸・向野・辛嶋・高家散在盛俊跡田畠屋敷等
- 一所 同郡失部友成名等
- 一所 宇佐神官等寄進宮成所々諸郷散在
- 一所 御大路兩方館内屋敷等
- 一所 太宮司〔マ、シ〕公行館内屋敷馬場畠地等
- 一所 田河郡勾金庄内中津原名々々等
- 一所 豊後國來繩郷内辨分名々々等
- 一所 同國安岐郷内懸樋・岩屋・青山・松武

來繩郷内弁分

安岐郷懸樋・岩  
屋・青山・松武

田染莊重安名

一所 田澁庄内重安名等

右、件所職所帶等者、代々以家嫡正流、令相傳者也、然者次第證文悉相副、嫡子（ついで）太宮司公保仁、永代讓與畢、於本領内者、聊不可有他妨者、全知行、彌可抽神忠之事、肝要也、仍狀如件、

文明十七季乙巳七月日

宇佐宿禰公永（花押影）

○裏ニ公永ノ花押一アリ。

五 田原親宗屋敷分田畠預ケ狀案

○森文書  
大分県史料三五

安岐郷内田畠ヲ  
屋敷分トシテ預  
ケ

安岐郷之内田地五反ふなかつた

一所田地二反廿五代ふなかつた

一所五反畠地一反冊代ふなかつた  
きしの上

先爲屋敷分、預進之候、可有知行候、恐々謹言、

十二月廿五日

（田原）  
親 宗

森木工助殿

安岐郷



突 豊後國志

○国東郡墳墓

田原親宗養崎ニ戦死ス

田原親宗墓

在安岐郷養崎、野史曰、明應三年、田原治部少輔親宗叛、率兵襲豊府、不克而還、木付刑部少輔親久要歸路、大戰于養崎、親宗力戰而死、是也、

宅 大聖院宗心知行預ケ狀案

○森文書大分県史料三五

森木工助ニ八坂莊内ノ地ヲ預ク

今度親述進退之事、以面々取成、無比類忠節之條、快悅候、仍速見之郡八坂庄之内、上原領六町、取沙汰之事預置候、諸取次以下者、任先例不可有相違候、恐々謹言、

(大聖院) 宗心

五月十三日

森木工助殿

穴 萱嶋諸次打渡狀案

○森文書大分県史料三五

田原別符内ノ地ヲ打渡ス

田原別符小野村本名之内、田地六反卅(マ)、同居屋敷、任御奉書之旨、打渡申候、恐々謹言、

明應七年十月十日

萱嶋右馬亮 諸次

森木工助殿

守江沖ニオケル  
船軍ノ忠ヲ賞ス

守江沖船軍ノ勞  
ヲ賞シ前給ヲ返  
付ス

九 大友親治感狀

○大友家文書錄  
大分県史料三一

去廿三、(安岐郷)於守江興嘗作、懸合敵船令合戰、高名無比類候、取靜

沖

(可誓)

申候、恐々謹言、

三月廿四日  
(文龜元年)

(大友)

親 在判

幸野右京亮殿

○田北学氏ハ、文龜元年ニ比定ス。

一〇〇 大友親治安堵狀

○薬師寺文書  
大分県史料一二

於今度守江之浦船軍、碎手被致疵候間、改先非、前給之事還附候、彌可被勵忠節候、恐々謹言、

(安岐郷)

卯月廿五日

(大友)

治 (花押)

薬師寺右馬助殿

(奥切封)

「(墨引)」

101 田原親述安堵狀(紙切)

○森文書  
大分県史料三五

(墨引)

田原親宗判形ニ  
任七本意ノ時并  
木田六段ヲ返付  
ス

(田原) 親宗判形之趣、加披見候、依去子細、此比中絶儀候之哉、任先々之正文、井木田六段之事、本意之時、可有知行候、恐々謹言、

永正貳年

八月廿二日

森木工助殿

(田原) 親述(花押)

103 大友氏加判衆連署書狀寫

○永松榮雄文書  
札幌市中央区北十四条西十五丁目

名字地永松名及  
比諸田内諸久ヲ  
相拘ヘシム

(安殿郷) 御名字知(マ)永松名、并諸田之内、諸久之哀、此度御愁訴、尤無餘儀候、然者先以彼在所之事、爲取次被相拘候者、追而御雜務御沙汰之時、可致取合候、可被得其心候、

卯月廿三日

(大神) 親 照判  
(木庄) 右 述 同  
(得永) 親 宣 同  
(坂折) 秀 家 同

永松新右衛門尉殿

(二万巴)  
常 泰 同

101 大神親照書狀

○永弘文書  
大分県史料五

安岐へ罷越シ夜  
前歸宅

田染拘神領ハ段  
錢御免

御懇預御〔狀候、祝著之至候〕

方々落仁、

〔就出之儀、此四五日〕

安岐へ罷越候て、夜前歸宅仕候、仍庄内御段錢の

事、御催促候哉、各御大綱候、然者、田染方被拘候御神領事、諸御公事御免之由、被仰出候間、被

御段錢事も、定可爲其分候、御免之由、被仰出候、御一通御奉行江、御披見肝要候、如何様、重而

可申入候、恐々謹言、

〔永正〕拾一年きのへ

十月三日

〔大徳〕親〔愚〕

〔吉庄〕左馬助殿

御報

○〔一〕ハ『永弘文書』別案文(一五九二号)ニヨリ注ス。

102 田原親述知行預ケ狀〔紙切〕

○足立悦雄文書  
大分県史料二六

立花在城ノ時ノ  
軍旁ヲ賞シ安岐

今度立花在城之刻、遂祇候、堪忍之次第、感入候、仍爲恩償、安岐之郷之内、田代彌二郎跡三貫文

安岐郷

安岐郷

郷内ノ地ヲ宛行  
フ

分、同郷土器給田之事、任訴詔之旨候、知行不可有相違之狀、如件、

永正十七年二月十二日

(田原親述)  
(花押)

足立藤次郎殿(朱書)

一〇五 田原親述安堵狀(紙切)

○足立悦雄文書  
大分県史料二六

奉公斷絶セルモ  
非ヲ改メテ歸參ノ  
上息藤次郎ノ立  
花城ニ祇候セル  
ヲ賞シ本領ヲ還  
附ス

一切奉公雖斷絶候、非改歸參之上、今度息藤次郎至立花城、遂祇候事、神妙云々、然間安岐郷内本  
地之事、還附候也、領知不可有相違之狀、如件、

永正十七年二月十四日

(田原親述)  
(花押)

足立勘解由尉殿(朱書)

一〇六 寛職知行宛行狀(紙切)

○足立悦雄文書  
大分県史料二六

立花城ニオケル  
訴訟ニヨリ安岐  
郷内ノ地ヲ与フ

於今度立花、度々訴訟候間、末宗名之内、狩宿かなくそはら一段卅之下地遣候、納所之事、前々之  
儘可有本走候、若無沙汰之儀候者、我等如此申たるにハよる間敷候、後日のためニ令申候、恐々謹

言、

永正十七年 辰二月廿日

寬 職 (花押)

〔余書〕

足立藤次郎殿

107 大神親照書狀

○富來文書  
大分県史料一〇

安岐郷秋丸以下  
ヲ富來氏ニ打渡  
サシム

安岐郷之内秋丸八町、武藏郷之内、同名四郎跡壹町、同郷田尻中務少輔先知行分壹町、彼拾町分  
事、富來治部少輔方役人仁打渡、取請取狀、可有持參候、恐々謹言、

十二月十九日

(大徳) 親 照 (花押)

帶刀藏人佐殿

帶刀遠江守殿

108 田原親董知行宛行狀 (紙切)

○足立悦雄文書  
大分県史料二六

頃年ノ辛勞ヲ賞  
シ家督ヲ安堵シ  
テ訴訟ノ地ヲ宛行  
フ

頃年辛勞之段、無忘却候、然者、親父勘解由丞家督之事、申候、不可有相違候、任訴詔安岐郷内田  
代跡、并土器給貳段、宛行候、領知可爲肝要之狀、如件、

安 岐 郷

一一一

安岐郷

大永貳年二月十四日

足立清兵衛尉殿〔朱書〕  
〔十五〕

(田原親惠)  
(花押)

一〇九 鹿苑院宗山等貴書狀

○鹿苑日録  
天文五年四月十七日条

一 豊後國實際寺事、爲御祈願寺、被任甲利之位候條、載于當院位次候、此旨家中可有存知候也、  
恐々謹言、

六月十五日大永三癸未

等 貴

實際寺

○本文書ハ次号御判御教書ノ副狀カ。然ルニ日付「六月十五日」トアリ、御教書ヨリ先行スルハ不審ナリ。或ハ誤写ニ非ザルカ。

一一〇 足利義晴御判御教書

○鹿苑日録  
天文五年四月十七日条

右大館兵庫頭殿申沙汰也、

豊後國實際寺事、爲諸山列、可令爲祈願所之狀、如件、

豊後國實際寺ヲ  
諸山ニ列シ祈願  
所トナス

祈願寺トシテ甲  
利ノ位ニ列スル  
ヲ告グ

大永三年六月十八日

(足利義晴)  
御判

住持

二一 鹿苑院東雲景岱書狀

○鹿苑日録  
天文五年四月十七日条

祈願所トシテ諸  
山ニ列スルヲ告  
グ公帖ヲ拝領入寺  
スベシ

豊後國實際寺事、爲御祈願寺、被任諸山之位、特被成御判候條、目出度候、然者被撰住持之仁、拜  
領公帖、早々可有入寺候、若不及公文住持候事者、堅御禁法候、衆中可被守此旨者也、恐々謹言、

(大永三年)

六月十九日

景岱

實際寺

二三 大友義鑾安堵狀

○田尻文書  
大分県史料一三

(包紙ウハ書)  
一田尻中務丞殿

義鑾

(端裏切封)  
「(墨引)」

安岐郷内二十貫  
分ヲ還附ス

國東郡安岐郷之内、先給貳拾貫分<sup>坪付有紙</sup>、令還附候、可有知行候、恐々謹言、

(享祿四年カ)  
九月十七日

(大友)  
義鑾(花押)

田尻中務丞殿

安岐郷



二三 大友氏加判衆連署奉書

○大友家文書錄  
大分県史料三五

安岐・武藏両郷  
内ノ地ヲ田尻某  
ニ打渡サンム

國東郡安岐郷之内拾五貫分、武藏郷之内五貫別紙在之事、至田尻中務丞御還附訖、任御判之旨、  
嚴重可被打渡之由、依仰執達如件、

享祿四年十月五日

(入田親廉)  
丹後守 在判

(田口親忠)  
伊賀守 在判

(吉岡長増)  
左衛門大夫 在判

(田北親貞)  
大和守 在判

(本庄右丞)  
前伊賀守 在判

安岐郷政所  
武藏郷檢使

政所殿 上包ニ安岐郷政所殿  
檢使中 武藏郷檢使中

丹後守親廉

二四 山下長就打渡狀

○大友家文書錄  
大分県史料三四

安岐郷内十五貫  
分ヲ打渡ス

於安岐郷之内、拾五貫分之事、任御判遵行之旨、太郎町六段分已上拾五貫分、渡進之候、知  
行肝要候、恐々謹言、

十月五日

(山下)  
長就 在判

田尻中務丞殿

二五 大友氏加判衆連署奉書寫

○賀来惟康文書  
大分県史料三五

安岐・武藏両郷  
内ノ地ヲ賀来某  
ニ打渡サシム

國東郡安岐郷之内拾五貫分、武藏郷之内五貫分坪付有別帯之事、至賀来右衛門大夫、御遷附訖、任御判之旨、嚴重可被打渡之由、依仰執達如件、

享祿四年十月五日

(入田親應)  
丹後守 (花押影)

(山口親忠)

伊賀守 (花押影)

(吉岡長地)

右衛門大夫 (花押影)

(田北親賢)

大和守 (花押影)

(本庄右丞)

前伊賀守 (花押影)

政所

政所殿

檢使

檢使中

二六 山下長就打渡狀寫

○賀来惟康文書  
大分県史料三五

安岐郷内十五貫  
分ヲ打渡ス

於安岐郷之内、拾五貫分之事、任御判遵行之旨、太郎丸壺町六段分之事(?)已上(?)拾五貫分、渡進之候、知

安岐郷

安岐郷

一一六

行肝要候、恐々謹言、

十月五日

賀來右衛門大夫殿

山下和泉守  
長就(花押影)

二七 富來治安等連署書狀

○田尻文書  
大分県史料一三

兩郷内ノ先給還  
附ノ書狀ニ答フ

御狀之趣、巨細令披閱候、仍於兩郷先給、御還附之由承候、尤可然存候、然者從長就、<sup>(山七)</sup>預御札候之  
條、則得其意候、可御心安候、恐々謹言、

十月廿日

<sup>(本付)</sup> 遠(花押)  
<sup>(兼切)</sup> 盛  
<sup>(兼切)</sup> 長秀(花押)  
<sup>(兼承)</sup> 治安(花押)

田尻中務丞殿

御報

二八 大友義慶知行預ケ狀

○志賀文書  
熊本県史料中世二

安岐・國東兩郷  
内ノ地ヲ預ケ

安岐郷諸田之内壹町七段、國東郷之内三町三段<sup>別紙</sup>分別紙<sup>在</sup>之事、預進之候、可有知行候、恐々謹言、

（享祿四年乙）  
十二月廿三日

志賀民部太輔殿

（大友）  
義 鑾（花押）

二九 大友義鑾知行預ヶ狀

○永松幹男文書  
三鷹市下連雀四ノ四ノ二六

（包紙）  
一 永松下野守殿

義 鑾

安岐郷内ノ地二  
町ヲ預ク

安岐郷諸田之内壹町三段、同郷之内七段分別紙坪付在之事、預置候、可有知行候、恐々謹言、

（享祿四年乙）  
十二月廿六日

（大友）  
義 鑾（花押）

永松下野守殿

三〇 山下長就打渡狀

○永松栄雄文書  
札幌市中央区北十四条西十五丁目

安岐郷内二町分  
ヲ打渡ス  
檢使三人坪付ノ  
裏ヲ封ズ

安岐郷之内貳町分坪付在別帙之事、任 御判・遵行之旨、嚴重渡進狀、如件、

享祿五年三月十七日

（山下長就）  
和泉守（花押）

永松下野守殿

安岐郷

安岐郷

三三 安岐郷檢使三人打渡坪付

○永松栄雄文書  
札幌市中央区北十四条西十五丁目

安岐郷ノ地ヲ打渡ス

もろ久 上とく

あか金作

安岐郷御支配坪付之事

もろ久

一所壹町參段

あか金作

一所貳段卅代

上とく

一所四段

右田數、任 御判・御奉書・御渡狀之旨、打渡申所如件、

(享祿五年)

五月三日

田北將監

親興 (花押)

志村越後守

常綱 (花押)

都甲美佐守

惟實 (花押)

永松下野守殿 (則之)

三三 田原親董感狀 (紙切)

○足立悦雄文書  
大分県史料二六

忠功ヲ賞シ本意ノ刻恩賞ヲ宛行フヲ約ス

今度慮外錯走候處、至坊劬吉敷令祇候候、先年茂數年辛勞候、殊父佐渡入道於立花城親述生害刻、同死候、寔神妙之至候、前後奉公感意候、爲其意高田内樋田四段・田原内いちい木三段廿五代・安岐郷内中尾貳反冊・廣津織部佐拘之内同郷田代彌二郎跡事、本意之刻、可宛行候、彌奉公不可有油

斷候、恐々謹言、

五月廿一日

足立清兵衛尉殿

親(田原) 董(花押)

二三 若林某安岐郷内給地坪付

○若林文書  
大分県史料二三

(端裏書)  
「坪付之事

坪付之事

若林右衛(門尉)  
「」

安岐郷内一所

御取合ヲ請フ  
なかにし

安岐郷之内

一所十貫分

なかにし(よか)

同郷

淵の上

一所六貫分 淵のうへ

此内一所、請 上意候様、御取合可目出候、恐々謹言、

六月十八日

若林右衛門尉

安岐郷

朝來野内ノ地ヲ  
加恩ス

二三 田原親董知行預ケ狀(紙切)

○足立悦雄文書  
大分県史料二六

重々申旨候之條、朝來野之内、はしかみ三貫分之事、先判相加預遣候、歸國之時、可有領知候、以  
此旨、彌忠儀肝要候、恐々謹言、

(安岐郷)

天文二一

七月二日

(田原)  
親董(花押)

足立清兵衛尉殿

(宋書)  
二二二

三五 田原親董知行預ケ狀(紙切)

○足立悦雄文書  
大分県史料二六

立花表ニオケル  
父佐渡守ノ戦死  
ヲ賞シ恩賞地ヲ  
預ク

今度於立花、父佐渡守屈之事、更無比類候、爲其筋目連續、至防府被罷上候、一段之忠儀候、彼是  
爲其恩賞、是松式部丞跡一圓、足立新左衛門尉拘之内、安岐之郷之分五貫分之事、預遣候、歸國之  
時、可有領知候、恐々謹言、

天文二一

十二月廿九日

(田原)  
親董(花押)

足立源七殿

(宋書)  
二一九

高田夜懸ノ辛勞ヲ賞シ安岐郷内ニ二十五貫ヲ扶助スルヲ約ス

一三六 田原親董感狀寫

○片山文書 大分県史料一〇

就今度高田夜懸、一段辛勞無比類候、其債として本意之砌、安岐郷之内ニ而も、貳拾五貫分、可賀扶助候、以此旨、彌忠儀干要ニ候、恐々謹言、

三月十七日

親董

片山仁兵衛殿

まいる

一三七 田原親董知行宛行狀(紙)

○足立悦雄文書 大分県史料二六

安岐郷内一所三貫文下ユルキ小坂 姫彌三郎跡・一所五段黒田名内 木田十郎跡・一所參貫文八坂内 羽矢太郎四郎跡・一所名立津役・一所菩提寺領夫丸之支、令受用寺家事者、助忠子僧仁可申付事、不可有相違候、彌忠節肝要候、恐々謹言、

天文七年二月十四日

親董(花押)

足立清兵衛尉殿

〔朱書〕 一三三

一三八 田原親董恩賞宛行狀寫

○片山文書 大分県史料一〇

爲今度忠恩、安岐郷之内、藏人給官代、同郷之内、永松勘解由允跡一所貳反、右之地宛行畢、以此

安岐郷

安岐郷内ノ地ヲ宛行フ

安岐郷内ノ地ヲ助忠子僧仁申付ク



安岐郷

旨、彌奉公肝要候、恐々謹言、

天文七年二月廿日

(田原) 親 董

片山采女允殿

まじる

二 田原親董知行預ケ狀 (紙切)

○足立悦雄文書  
大分県史料二六

自訴ニ任セ安岐  
郷内ノ地ヲ預ケ

安岐郷松たけの内  
しやうしはた・一 所同郷守江かりやの内  
やないかつほ 壹段、任自訴之旨、預遣者也、彌可抽忠儀事、可爲肝要候、恐々謹言、

十月十七日

(田原) 親 董 (花押)

足立清兵衛尉殿

(采書) 「二六」

三 田原親實宏知行預ケ狀 (紙切)

○萱嶋文書  
大分県史料一〇

今度爲忠賞、本領所之事、任訴訟之旨、預進候、不可有相違之儀候、但少々可糺明子細候間、可被得其意候、以此旨、彌忠懇、可爲肝要之狀、如件、

天文十二年  
六月晦日

(田原親實・親宏) (花押)

訴訟ニヨリ本領  
ヲ安堵ス

萱嶋與三兵衛尉殿

三三 田原親實親宏知行預ケ狀(紙切)

○草野文書  
大分県史料一三

〔(編裏切封)  
墨引〕

武藏郷重藤村半  
分代地トシテ安  
岐郷守江三町ヲ  
預ク

親父新次郎親忠、紛骨之次第、不異他候之處、居屋敷内重藤村半分之事、長永上表候哉、松春院殿、被背御判形之旨候歟、此謂存分無餘儀候條、爲右代地、安岐郷内守江參町地先知行富來新右衛門尉近年所領之事、下地云、土貢云、一圓預遣候、知行不可有相違候、猶任闕地、可宛行狀、如件、

天文十三年  
五月十九日

〔(田原親實・親宏)  
花押〕

如法寺能登守殿

三三 田原親實親宏安堵狀(紙切)

○足立悦雄文書  
大分県史料二六

忠勤ヲ賞シ先判  
恩賞地ヲ安堵ス

今度窄籠、于今其届神妙、仍爲恩賞、被宛行先御判趣、遂拜見令分別候了、然者忠功之段、彌不可有忘却之狀、如件、

天文十四年二月廿七日

〔(田原親實・親宏)  
花押〕

足立勘解由允殿(朱書)

〔十二二〕

安 岐 郷

父清兵衛尉跡ヲ  
安堵ス

三三 田原親實一跡安堵狀(紙切)

○足立悦雄文書  
大分県史料二六

任父清兵衛可申旨、一跡之事、相續肝要候、殊花岩公御判形之前、得其意候、親子申談、彌奉公專一候、恐々謹言、

五月三日

(田原親実)  
親 實(花押)

足立餘次郎殿(朱書)  
「十三」

三四 田原親董安堵狀(紙切)

○森文書  
大分県史料三五

(端裏切封)  
「墨引」

又三郎家督ヲ薰  
吉ニ約諾ス  
木工助給地モ宛  
行フ

森又三郎家督、對董吉連續事、親董御約諾候、今以不可有相違候、同者、又三郎父木工助給地事、可宛行候、以此之旨彌奉公、可爲干要候、恐々謹言、

(真筆)  
「天文十四年」  
十一月十六日

(田原)  
親 董(花押)

森 新三殿(筆音・董能)

一三 大友義鑑知行預ヶ狀

○大友家文書錄  
大分県史料三二

〔安岐郷諸田等ノ  
地ヲ預ク

安岐郷諸田之内壹町七段、國東郷之内三町三段分坪付在別紙之事、預進之候、可有知行候、恐々謹言、

十二月廿三日

〔天志〕  
義鑑 在判

志賀民部大輔殿

一三 宇佐御神領安岐郷定使給分坪付

○到津文書  
大分県史料二四

〔安岐郷内ノ定使  
給分・坪付ヲ注  
ス

宇佐御神領安岐郷定使給分坪付之事天文十六年  
(一)

合

十二月吉日

一所壹段

石波津

石波津  
西ノ蘭

一所壹段

西ノ蘭

一所壹段

茶島

正友名

一所壹段

正友名

小別

一所貳反

小別ノ内

原島

一所壹段

原島

安岐郷

安岐郷

御灯田

一所壹段

御燈田

永吉名

一所廿代

永吉名ノ内まふと(カ)

延吉名

一所壹段

延吉名

以上

宮収納使

九段廿五代定使給

天文十六年十一月吉日

宇佐宮收納司

公和(カ) (花押)

三三 宇佐御神領安岐郷内坪付案

○到津文書  
大分県史料二四

一所行安見ふ一段(カ)

太郎丸

一所太郎丸かいめん一段

一所おそいかいめん二段

守江

一所守江もりゑうめかさきミふ一段

狩宿

一所狩宿かり宿御燈田一段門布

いと長

一所いと長見ふ一段

永石名

一所永石名に見ふ一段

以上あきの内かね石のかゝいわたくし處一ちやう三

○前号文書ノ前ニ張継グ。但シ紙質ハ異ル。年次未詳ナルモ、シバラクコ、ニ収ム。

### 三六 國東郷等大工職源董次覺書

○今富文書  
大分県史料二五

(注カ)  
住文書

國東郷大工職

持分

豊後州國東郷大工織之事  
惣大工持分

田深浦 今在家 宇田野

里上下 田深 觀音堂 向合

山吹 横手村

山吹 横手村 赤松

赤松 横手村

高原ノ内コクウ藏堂

來浦村 大熊毛浦 ムカタ

安岐郷大工職

安岐郷大工式之叟、三郎左衛門尉源宗貞ヨリシテ分ル也、同奈多庄、同八幡宮所領、大工同前也、

次男新六方

武藏郷余名

武藏郷之内餘名百町之叟、吉藤サキヤシキ、先祖ヨリ持之分也、

興導寺社家大工職

興導寺社家大工式之叟

惣大工次男 源貞俊ヨリ以來也、

安岐郷

安岐郷

二二八

吉藤 河原 原 中田

小原 黒津 成佛河内

源宗貞法名道澄トモ傳、同以來三代目ノ同秀貞ヨリ傳所、董次是書傳也、

于時天文十八歲己酉正月十二日

源董次

末貞 宗光 述貞 秀貞 董次

一三〇 田原親實親一跡安堵狀(紙切)

○足立悅雄文書  
大分県史料二六

田代彌次郎一跡  
連続ヲ約ス

田代彌次郎一跡之事、依有由緒連續之由、父清兵衛尉申之、無餘儀成分別畢、聊下可有相違之狀、  
如件、

天文十九年五月三日

田代彌七郎殿

(田原親實・親宏  
花押)

安岐郷社領ハ本地安堵ノ時返付ス

一四〇 田原親實宏安堵狀(折紙)

○田代文書  
大分県史料一〇

(田原親實・親宏)  
(花押)

先代より拘來候安岐郷社領ノ事、本地安堵のみきり、返し可遣候、然者、社役以下、ゆるかせなく執行すへき事、かん要候也、

天文廿年六月廿八日

預リ  
新三郎所へ

一四一 田原親實宏知行預ケ狀(紙切)

○足立税雄文書  
大分県史料二六

今度窄籠、其屆神妙候、爲其忠賞、花岩公任御判形之旨、是松式部丞跡一圓、足立新左衛門尉抱内、安岐郷之分五貫分事、預遣候、不可有相違之狀、如件、

天文廿年七月廿三日

(田原親實・親宏)  
(花押)

足立勘解由允殿

安岐郷

忠勤ヲ賞シ判形ノ地ヲ預ケ



一四 大友義鎮知行預ケ狀

○小田原直文書  
大分県史料一〇

〔折封包紙ワハ書〕  
「田原次郎殿

義鎮」

〔端裏切封〕  
「(墨引)」

安岐・國東兩郷  
以下政所職ヲ預  
ク

安岐郷・國東郷兩政所職、武藏郷餘名之内、田原近江守上表之地拾町、國東郷之内闕所分拾壹町

分、同疋田左衛門尉・富來彦三郎上地分、并筑後國秋月種方先給之内百町分付在別紙事、預遣之候、

可有知行候、恐々謹言、

(天文二十一年カ)  
三月三日

(大友)  
義鎮(花押)

田原次郎殿

○花押類型ニヨリ、天文二十一年頃ト推定ス。

一五 油留木山神社棟札銘

○増補訂正編年大友史料二〇  
東国東郡安岐町油留木山神社

西海路豊之後州安岐郷由流木名之内、山神之社頭、多年被侵于甚雨疾風、無其形事既歲久、於爰、  
當地頭奴留湯長門守直方(花押)・愚息孫六鑑貞(花押)、于時天文廿四曆乙卯撰十月吉日良辰、如  
形奉建立於小社者也、右之意趣者、武運長久、福壽增長、村内無災、門□鎮、而掃除於精怪、蕩滅於

〔安岐郷由流木名  
内ニ山神社ヲ造  
立ス〕

妖氣、於子々孫々、庶幾於繁榮者也、永垂於照覽、而已萬歲樂□名主次郎衛門、大工太郎左衛門、  
(兼通)  
「小工孫三郎、各敬白、福壽本願高橋藤原氏」

一四 奈多鑑基安堵狀

○田代文書  
大分県史料一〇

社領ヲ相違ナク  
相拘ヘ違乱ノ仁  
ヲ注進セシム

今度、其方武家分上表候之哉、併社領之儀候條、神田・同花田河成之事、聊無相違、可相拘事、專  
一候、若違亂之仁候者、早速於此方住進<sup>(兼)</sup>、肝要候、恐々謹言、

弘治二年

正月八日

(奈多)  
鑑基(花押)

田代新左衛門尉殿

一五 國東郷・安岐郷等檢見秤寸法覺

○今富文書  
大分県史料二五

三ヶ郷檢見ノ秤  
ノ寸法

國東郷・安岐郷・來浦村餘名、御老中 御檢見アリテ、御土貢納之時、三ヶ郷秤之寸法之事、廣サ  
六寸三分、高さ三寸、同竹ヲ一分フセ候、同三ヶ郷之秤ヲ、サン申候、

弘治貳<sup>丙</sup>辰十月廿八日

惣大工  
董次(花押)

安岐郷

一四六 奈多鑑基知行預ケ狀

○泥谷文書  
増補訂正編年大友史料二

(崩裏ウハ書)  
一 泥谷龜德殿

鑑基

安岐郷朝來野ノ  
地ヲ預ク

(安岐郷)  
於朝來野之内、八段畠地貳段、預遣候、恐々謹言、

(以下年末詳)  
二月廿五日

(奈多)  
鑑基(花押)

泥谷龜德殿

一四七 奈多鑑基安堵狀

○田代文書  
大分県史料一〇

安岐郷内定使私  
領屋敷ヲ拘ヘ公  
役ヲ勤仕セシム

安岐郷之内、宇佐御神領定使私領屋敷四十代之事、相拘、如前々公役等、無無沙汰、可所勤事、專一候、社領之儀候條、不可有如在者也、

二月廿五日

(奈多)  
鑑基(花押)

田代新左衛門尉とのへ

源幸増ヲ預職ニ  
補任ス

一 只 奈多八幡宮預職補任狀

○田代文書  
大分県史料一〇

奈多八幡宮

源幸増

右人、補任預職既畢、

大宮司 宇佐宿禰 (花押)

權大宮司 源朝臣 (花押)

官代 (代) 宇佐宿禰 (花押)

辨官 宇佐宿禰 (花押)

武藏郷司 宇佐宿禰 (花押)

○年月日ヲ記サズ。紙面ニ奈多八幡ノ朱印三顆アリ。

一 只 某 感 狀

○松原文書  
大分県史料一〇

宮山ニ於ケル粉  
骨ヲ賞ス

今度於宮山、抽分骨候、彌々<sup>(粉)</sup>到彼方、鑑基<sup>(奈多)</sup>加恩之所、無申迄候、重々忠儀干要候、

五月廿四日

○差出書  
ヲ欠ク

安 岐 郷

安 岐 郷

松原内藏丞殿

一五〇 田原親宏感狀

○森文書  
大分県史料三五

豊前山田要害馬  
ケル粉骨ヲ賞ス  
於馬岳城攻口等ニオ  
而可賀與之狀、如件、

弘治參年七月廿三日

森木工助殿

(田原) 親 宏 (花押)

一五一 松原内藏丞知行坪付

○松原文書  
大分県史料一〇

渡河

小ふかた

ちかさこ

ひかけ

渡河

坪付

一所四反

一所貳反

一所壹段

一所二反

源三郎抱分

右 同 人

右 同 人

野田主計丞抱

なげそとわ

清水丸

ほそ作

みなみふき

なげそとわ  
一所貳反

清水丸

一所壹段卅代

ほそ作

一所壹段廿代

小ふかた

一所壹段

みなみふきの所々  
一所三段卅代 畠地

一所屋敷一ヶ所

以上田畠壹丁八段卅代

七月廿八日

奈原内藏丞殿

○差出書ヲ欠ク。年次及ビ字名未詳ナルモ、当郷内文書ニツキ、シバラクコ、ニ収ム。

今市  
三郎二郎拘分

右 同人

源五郎抱

岡崎善四郎抱

源三郎

右 同人

一五三 奈多鑑基恩賞預ケ狀

○松原文書  
大分県史料一〇

依今度忠儀、於豊前國給地貳町五段、可預遣候、知行干要候、

(奈多)  
鑑 基 (花押)

九月十八日

松原内藏丞

安岐郷

一五三 有永資辰書狀

○乙咩文書  
大分県史料二

又御同名中務方一書狀遣候、御宿申上候、

上總介方參上、預御書狀候、別取合可申候處、奈多へ被罷越候、昨日・今日者留守致候間、于  
總州も逗留に必御歸宅候は、御取合不可有候、恐く謹言、

三月十七日

(有永河内守)  
資辰(花押)

乙咩(公卿)兵部丞殿 御許

○年次未詳。有永資辰ハ永祿頃ノ人。

一五四 大友義鎮萬雜點役免除狀

○若林文書  
大分県史料三五

(新包紙ウハ巻)  
一若林彈正忠殿

義鎮

安岐郷之内、其方領地分萬雜點役之事、爲加恩令免許候、至役所、可申理事肝要候、恐く謹言、

卯月十五日

(大友)  
義鎮(花押)

若林彈正忠殿

(礼紙切封)  
一(墨引)

安岐郷内領地ノ  
萬雜諸点役ヲ免  
ズ

○義鎮花押ハ天文廿四年ノ永祿五年ノモノ。

一五 田原親宏安堵狀

○森文書  
大分県史料三五

〔(端裏切形) 墨引〕

森実清家督ヲ安堵ス

森備中守家督之儀、先年至面々、加下知候、今以不可有餘儀候、縦備中守雖有存分、契約不可有相違候、但直子出來候者、可任他準據候、以此旨、奉公干要之狀、如件、

永祿貳

三月九日

〔(田原) 親 宏 (花押)〕

森源二郎殿

一六 田原親宏知行宛行狀(紙切)

○森文書  
大分県史料三五

〔(端裏切形) 墨引〕

豊前山田莊内ノ地ヲ宛行フ

連々奉公無綏之條、山田庄内黒丸名壹町參段・同庄今井野壹町八反之地、宛行候者、早下地云、土貢云、守先例、領知干要之狀、如件、

永祿貳

七月六日

安 岐 郷



安岐郷

森源次郎殿

(田原) 親 宏 (花押)

一五 田原親宏安堵分坪付寫

○森(同氏系図)文書  
大分県史料三五

拘持スル所領坪  
付ヲ差出ス

持留分坪付差出之事

安岐郷之内

安岐郷仁与名

一所拾貫文分

仁與名居屋敷

同郷之内

同西廟名

一所五貫文分

西廟名 右同

朝來野之内

同朝來野内城そ  
の名

一所三貫文分御公領ニ  
除之、

城その名

新判地坪付

新御判地坪付之事

朝來野久末内草  
場名

朝來野久末之内

一所三貫文分

草場名

八坂荘麦田名

八坂之内

一所五貫文分御公領ニ  
除之、

麦田名

右、以上廿六貫文之内十五貫文分、當時安堵分、

右上包ニ森源次郎殿、親宏と有之、本紙御判者無之、

一五六 八幡大菩薩御縁起奥書寫

○宇佐・国東半島を中心とする文化財  
杵築市奈多八幡宮

丹後国一宮宝蔵  
ニ籠メルヲ写ス

右、彼御縁記ハ、丹後国一宮寶藏ニ籠テ有シヲ、不思議ノ依御縁ニ、難去申出寫畢、輕ク敷不可有  
披見、奥書有之、深蜜々々、

威經說云、黑豆ト芥子ハ神通物也、然ニ皇后黑豆十五石海ニ放シケレハ、甲鎧着タル武者ト成テ、  
異國責ト也、是神變不思議也、其謂難有祕夏也、

應永廿八年正月寫之、

永祿三年<sub>(マ)</sub>己未十月寫之、

三重郷歎喜庵

(大野郡) 三重郷歎喜庵 本願巧忠 在判 生年七十歳

筆者存益 在判

繪筆ハ存麟 在判

安 岐 郷

一五 大友義鎮一跡安堵狀

○田尻文書  
大分県史料一三

(包紙ウハ書)  
一 田尻三河守

(端裏切封)  
一 (墨引) 一

義鎮

親父中務少輔一跡、安岐・武藏於兩郷廿貫分之事、任相續之旨、領掌不可有相違候、恐々謹言、

親父跡安岐・武藏兩郷二十貫分ヲ田尻三河守ニ安堵ス

十二月十三日

(天念)  
義鎮 (花押)

田尻三河守殿

一六 高明書狀

○田代文書  
大分県史料一〇

調物ヲ使者ニ渡サシム  
社奉行存知ナラバ直札ヲ披見スベシ

就渡領調之儀、舊冬使被差越候之處、至 奈多殿尋可被申之由、預御返事候、無御心元存候、當職取沙汰之儀者、從往古 社例事候、併自今以後、御社奉行可有御存知之儀候者、御直札預御披見候者、必可令達 上聞候、於無其儀者、右調物之事、至彼使、可有御渡候、猶用口狀候、恐々謹言、

(年未詳)  
三月廿五日

田代出雲守殿 御宿所

高明 (花押)

一六一 宇佐宮寺神官社僧連署申狀案

○宮成文書  
大分縣史料二四

到津社役免田ニ  
奈多鑑基入部ス

奈多鑑基ノ社奉  
行ヲ停メラレン  
コトヲ請フ

神事怠轉太不可然、於今年社家事申談候、可令執行之由、被成下 御書候、誠忝 上意度<sup>レ</sup>□<sup>レ</sup>宮得

御繁榮之節、御國家安全瑞想此事<sup>（候レ）</sup>□<sup>レ</sup>間、各令歡喜、神輿以下造新其期相半候條、慾可背 上意事、

不可有之候處、當職破滅宮中騷動、不及言悟候、剩御神事祈所者、到津社役免田、悉自奈多<sup>（鑑基）</sup>方入部

候、爲社奉行□<sup>レ</sup>被勵神忠、社頭與隆氏人無恙之樣、可有裁判事、先例本意候之處、或者社務<sup>（お）</sup>被

打崩、或代々神領被押務外、新儀果<sup>（應）</sup>俊等被申懸候、一社迷惑相極候條、俗官僧侶數輩神人等、神

前參集乍押悲淚、捧一通候、氏子愁歎者、神襟不可相替候、就其御託宣<sup>（可）</sup>肝文、奉寫上進候、鑑基<sup>（奈多）</sup>

社奉行於被仰付者、如此非法、不可有盡期候條、爲社家、向後可申承不及覺悟候由候、各儀定候之

間、乍恐具令言上候、自然愁訴次第、於不被召上者、御尊神与申、社人与申、當社難留跡候、仰

願廣大慈悲、被副 上意、右心懷趣、被成御分別、今度散鬱憤、成安堵之思候樣、一途被成 御下

知候者、御國家泰平、御武運長久懇丹候、此之旨、可然樣、可預御披露候、恐々謹言、

九月廿日

前大宮司<sup>（鑑基）</sup>公里

前大宮司<sup>（安心勝）</sup>公紉

前大宮司公賀

權大宮司公善

安岐郷

安岐郷

聽分衆

聽分衆

權擬大宮司(永弘)通忠

少宮司(田啓)建榮

擬少宮司ミナトノミヤノミヤコ諸重

權擬少宮司宮貫

神主德增

權神主重昌

擬神主鎮富

權擬神主重則

政所惣檢校(盛永)榮輔

惣辨官トウ氏輔

辨官トウ通次

辨官トウ重吉

辨官トウ正員

官人代建盛

官人代賴治

官首(マ)龜千代丸

諸司衆

諸司衆

長講衆

長講衆

宮佐古山

宮佐古山拾坊

安岐郷

大法師深榮

大法師源智

大法師舜榮

大法師莫盛

大法師鎮勝

權律師源秀

權律師圓勝

大法師悠任

大法師尊繼

大法師尊智

權律師圓秀

權律師信聖

權律師清超

權律師公安

權律師尊賀

權律師尊悟

大法師尊尤

大法師快誓

喜多坊當時(衆多)鑑基押領之、

千歲坊同

進上御奉行所

### 一三三 宇佐宮一社中目安狀案

○宮成文書  
大分県史料二四

抑當社者、第卅代 欽明天皇廿九年戊子、當國當庄ニ御垂跡、忝茂 八幡大菩薩本宮天下無雙

神明也、就中、弓箭守護靈神、武門別而敬神、増威靈驗超過餘社、然者、第四拾代元正天皇養老

三年己未、大隅・日向隼人等降伏以來、第六拾代朱雀天皇御宇承平年中、平將門相從拾六萬人惡

黨、押領東國、令伺北闕、天慶年中藤原純友、七百艘船仁乘一萬七千人賊徒、充滿西海道、打留

上洛舟、雖現朝敵、於當社依被祈申、何茂無程。追伐給、此外代々朝敵、度々謀叛人、公家武

家以御祈願力、靜四海逆狼事、無非當社御神德、因茲御崇敬異于他、飛力 綸旨・院宣・御教書并

諸國大守御書出等、銘々于今令所持候、殊御當家御氏神候之處、當國被知食候事、神慮上

社奉行奈多鑑基ノ非法  
大官司到津宅ヲ破却ス

宮佐古山喜多坊  
ヲ山鹿村大禪寺  
ニ付ス  
高野山ニテ出家  
シ廻世音寺ノ戒  
壇ヲ踏ム

喜多坊ハ俗僧四  
人ノ一  
神事ニ供僧ヲ以  
テ尊神受戒ノ儀  
アリ  
惣堂達ヲ日向國  
荒武入道ニ付ス

意、一社歡喜此事候、然仁社奉行事、奈多鑑基ニ被仰付之由候條、各存其旨、萬端申談候處、去  
月十五日、當大官司到津方宅所破却候、誠慮外不思儀之至候、爲社奉行者、社頭繁榮氏人安全載  
判、且者、公儀御祈禱、且者當社先例候處、至御神邊差向軍勢、大官司館内令打破入取狼籍  
之儀、於當社前代未聞此事候、惣別先例違目之儀、連々被申沙汰候、各雖迷惑千萬候、奉惶  
公儀、謹而令堪忍候、條々以此次、粗令申候、

一宮佐古山喜多坊事、彼坊主圓誓、遂參上被成、御對面、坊務聊無他妨候、然者圓誓事、去年二  
月、爲戒行至高野山登山候處、號逐電彼坊務之儀、從鑑基山鹿村大禪寺ニ被申付候、前代未聞不  
及是非候、當山社僧事、亂其俗性、從幼少令登山、爲清淨身遂出家、於太宰府觀世音寺、踏戒壇  
任一山衆徒、於御神前、四季之八講、每月之例講、長日不斷御祈禱、于今無懈怠候、就中喜多  
坊事者、俗僧四人之其一也、號件俗僧四人者、忝茂大菩薩御修行之昔、有四人御同行、法蓮・花  
嚴・覺滿・鉢能之奉表、尊形、御神事之砌、以供僧尊神御受戒之儀式在之、如此之靈跡、爲不淨  
身令存知、坊領恣知行候事、一々先規違目、叵測、神慮事

一惣堂達事、當社彌勒寺爲寺僧之務、祭禮法事之時、殊祕蜜諸役等、令勤仕有子細一跡候之處、  
去年以來、日向國荒武入道ニ被申付候、如此有子細重役人、被改替、無故他國人於被申付者、相  
傳之寺社、悉可令斷失候、此時者、雖被立社頭、無其作法者、不受神非例之條、不可有其驗  
候事

一當社御神領中、諸點役御免除之儀、京都・鎌倉、御下知歷々候之處、去年以來至社家中、奈多  
安岐郷



奈多新屋敷堀夫  
ヲ徵シ經營課役  
ヲ懸ク

奈多鑑基私ヲ以  
テ申沙汰

神事料所ヲ押領  
ス

古庄・堀兩人使  
トシ出宮

大宮司宅所被却  
山鹿村大禪寺

公憲親父公澄到  
津庄ニ在宅ハ二  
老國衆ニ申談ス

新屋敷堀夫、可致馳走之由、被申候、不及覺悟候、其外或者依客來、或者就佛事、經營課役等被申懸候、社奉行事、從前々社家言上之儀、被申次役者候處、如今者、社家云、社領悉皆御恩補之樣、每事被申付候、當社難儀相極候、迷惑之由各申事候、就中當社之立柄、每々於鑑基奈多、以私被申沙汰、不經上意之條、不叶上訴、社家前々失摸事

一當社領窄籠地、多々候之條、爲新御寄進、預御祈禱者、可爲御祈禱專一候之由、各雖含愁訴候、當時御弓箭方御繁多之間、奉伺時分候處、結句御神事祈所、其外社役地鑑基押領、是又迷惑千萬候事

一今度御勢御出張折節、自然不案内衆、於宮中狼籍等候者、每年無事ニ可被申拵之儀、勿論候條、鑑基使者一兩人、於被差出者、可申談候由、依申遣候、古庄右馬助・堀右京進出宮候、然者宮中之儀、以御下知堅固之故、聊無其煩候處、彼兩使於宮中、諸人山上之雜物俵物、銘々付誌可存知候由申候、社家各申分者、如此動亂之刻、人民奉頼尊神、妻子雜物等宮中ニ上置候事、非無舊例候、雖然、雜物俵物聊、從何方茂無競望之儀候條、更不及許客候由、一社一同ニ申渡候處、以外令腹立、右兩人罷歸、對鑑基如何申候哉、内々被含宿意候由、其間候條、以此遺恨、於向後茂、不慮之儀可被<sup>相</sup>企候哉之由、各申居候、折節案中去月十五日、當大宮司到津宅所被却候、無是非候、其時鑑基代波多治部丞、山鹿村大禪寺至一社中申渡分者、到津公憲事、以上意不討果候、各々儀、謹而可勘忍候由、相屈候間、奉惶公儀、相兼注訴堪忍候、公憲事茂此思慮同前候、公憲親父公澄事、到津庄ニ在宅之儀、二老國衆被申談在庄候、一切雜兵狼籍之儀、二老并國

田原親賢ハ宇佐  
郡職ニツキ上訴  
ス

門司表敗軍ノ際  
ノ忠勤ヲ賞ス

衆無存知候由、被申候、各入魂無別儀候、公憲事は又曉令在宮、被抽御祈禱候條、何故可有子細候哉、今度之仕合、鑑基被掠、公儀、私曲之條各愁訴深重候、因茲、一社上下社頭參集、前日以神人申入候、今以無別儀候、鑑基事社傍輩云、社奉行云、縱雖爲上意、一切可有損捨事、勿論候處、如此非法之動、不及言語候、一途被成、御下知候様、可預御披露候、右ニ如申候、鑑基儀法外之存慮、被背、御政法之條、爲一社中自今以後、不可申承候通、各儀定候、親賢之御事、當郡職御奉之上者、社家御一致之條、以目安申候、可然様、預御取合、可被備、上聞事、可爲御神忠候、粗目安如件、

永祿四年辛酉十月六日

一社中

田原民部大輔殿  
御宿所

### 一三三 田原親宏感狀

○森文書  
大分県史料三五

〔(編纂切形) 一〕

去五日門司表陳慮外敗軍候、同六日被退之刻、自京都郡黑田之原、至仲津郡國分寺原、毛利象、并小早川内乃美兵部丞・野嶋・來嶋警固船人數依付送、自身討太刀、數ヶ所被疵之條、各捨一命、終日遂防戰、被疵、碎手事、及數ヶ度、對家無雙之忠勲、誠神妙候、至子孫、不可有忘却之儀候、彌忠貞頼入候、恐々謹言、

安岐郷

安岐郷

一四八

永祿四

十一月十六日

森木工助殿

(兼能)

(田原)  
親  
宏 (花押)

一六四 田原親宏書狀 (紙切)

○足立悦雄文書  
大分県史料二六

門司陣ノ忠勤ヲ  
賞シ扶助ヲ約ス

去年門司陳不慮ニ取退之刻、各粉骨忠勲之趣、不異他候、然者、可成忠賞事、勿論候之處、當時於  
爰元、領地等依無之、不顯其志候、必闕地次第、不可有等閑候、先於豊前國、相當可加扶助之條、  
倍々忠貞賴入候、恐々謹言、

七月廿日

(田原)  
親  
宏 (花押)

田代兵庫亮殿

(真筆)  
〔朱書〕  
〔十一〕

一六五 田原親宏恩賞預ケ狀 (紙切)

○森文書  
大分県史料三五

門司表轉退ノ際  
ノ忠節ヲ賞シ恩  
地ヲ宛行フ

去年十一月五日門司表轉退之處、同六日小早川内乃美兵部丞、其外野嶋・來嶋警固衆、從京都郡黑  
田之原、仲津郡國分寺原迄付送、及難儀之條、(田原)既親宏自身碎手、防戰之刻、數ケ度射能矢、不退令

安岐郷安宗名前  
田五反

供奉之段、忠儀異他候、此等之趣、必可賀與候、先以安岐郷之内、安宗名前田五反地之事、預ケ遣  
候、領知肝要候、恐々謹言、

(永祿五年)  
十月十三日

(田原)  
親 宏 (花押)

(森池)  
森木工助殿

一六 田原親宏一跡安堵狀(紙切)

○森文書  
大分県史料三五

養父実清一跡ヲ  
安堵ス  
居屋敷・安岐郷  
仁与名

(実清・安心)  
養父備中守入道事、不慮令病死候、不便之至候、然者彼一跡之事、兼日至宏清、成置裁許候趣、今

以無別儀候、殊更居屋敷・仁(安岐郷)與名下作職之事、不殘反歩進止干要候、此由至當給主茂、以一書令申

候、爲存知候、恐々謹言、

七月五日

(田原)  
親 宏 (花押)

(森池)  
森與三右衛門尉殿

○以下一六八号マデ、親宏花押類型ハ永祿八年〜十一年頃ノモノ。付録「森氏系図」ニハ宏清ハ「与三左衛門尉」トアリ。

一七 田原親宏書狀(紙切)

○森文書  
大分県史料三五

(森池)  
「(墨引)」

仁余名ニ対スル  
妨ヲ止メ下作職  
ヲ安堵ス

仁餘名事、至給主ニ、伊賀守相妨之由、言語道斷之儀候、既備中守存生之刻、對其方、一跡相續  
仕、多年相過候、如此之所行、無是非候、所詮於于今者、分地等之事、宏清可任存分候、讓與之旨  
無相違、不殘段歩申付候條、睨右下作職、可相拘之事干要候、恐々謹言、

七月十七日

親(田原) 宏(花押)

森與三右衛門尉殿(宏清)

一六 田原親宏安堵狀(紙切)

○森文書  
大分県史料三五

「(端裏切封)  
」(墨引)」

養父実清知行分  
ヲ安堵ス

爲養父備中守實清家督、累年奉公無緩候、就中於豐前表、度々出陳之刻、聊無懈怠馳走之趣、神妙  
候、然者任相續之旨、知行分之儀、不殘段歩、領掌不可有相違候、殊對實清、兼約之地之事、必以  
時分可令糺明候、守此旨、倍之忠儀、可爲肝要之狀、如件、

永祿八年七月廿六日

田原親宏  
花押

森與三右衛門尉殿(宏清)

一六 田原家年寄連署奉書

○森文書  
大分県史料三五

(複製影射)  
「(墨引)」

養父実清家督ヲ  
安堵サレシヲ伝  
フ

任養父備中守實清家督之事、讓與之旨、被成遣 御判候、尤珍重候、全以相續之儀、彌奉公可爲肝  
要之由、被 仰出候、仍執達如件、

永祿八年

七月廿八日

(藩部也)  
定世(花押)  
親當(花押)

森與三右衛門尉殿  
(安清)

一七 某 覺 書

○到津文書  
大分県史料二四

高田來繩郷在陣

永祿十年豊後衆奈多・田原親宏、至高田來繩郷在陣也、

〔通鑑〕  
同三月廿三日、公里ハ死去候、

一十二月廿六日夜、宮成公建・心乗坊公圓・圓通寺瑞眞・江嶋之刑部公綱・宮内卿其外。一類令自

放火、乗舟候處、依風波公建ハ江嶋逗留候、則自高田社奉行歸宮サセラレ候、題目ハ宮成領十

社奉行奈多鑑基  
家來宮成領押取

方、自鑑基家來悉被押取候、又風聞ハ、公里後家ニ鑑基有同心度之儀、被申候ヨリ、後家ハ八屋

へ被行候、公建ハ光隆寺越年候、

安 岐 郷

安岐郷

一五二

奈多鑑基・田原親宏・田原親賢以下在陣

同十一年  
一 正月廿三日夜、又公建ハ如田河郡領地被行候、領内悉自社奉行入部候、

一 浦邊鑑基・親宏・親賢・木付・大神。田北・雄城・小濟・宇佐郡衆。至下毛郡在陣候、

一 五月三日、長野筑後守江量忍入生害候、是ハ到津被官者仕候由候、又自毛利家、三岡等覺寺通路

ニ宮尾城取候、爰筑後守ハ被打候へ共、同名兵部左京彼三岡を持、等覺寺をも同名三河持コタ

へ、至豊劔進上候、同六月廿日、自豊州宮尾せメ被落候、中國象五十餘被打留候、其後ツイキノ

郡別符宿陣候、又都郡大坂山ヲ、杉因幡守・西郷兩人而取誘候、是又せメ被落、杉領も西郷毛向

參候、又各ハ至別符歸陣候、豊劔之御勝利目出候處ニ、

一 九月三日至貫越打廻候、又安藝象去八月十六日ヨリ渡海仕候て、又宮尾取長野城、三岡取悉候、

同三日酉時せメ候、同四日ニ小三岡ハ落候、同五日大三岡落、同夜等覺寺落居候、長野兵部左京

ハ被打候、其外城内男女數千人生害候、敵モ多損候風聞候、三河守ハ豊劔へ參候、又至三岡、當

方七人ヨリ、人數四十三人遣候、同親宏被官齋藤刑部下人二人、以上彼三人計陣著候、四十人死

候、

一七二 田原紹忍親賢書狀

○吉村韓太文書  
増補訂正編年大友史料二四

(端裏切封)  
一 (墨引) 一

朝來田參町之事、既以 御書被仰付候上者、彌不可有相違候、御弓箭靜謐之間者、訴人如何躰之振

朝來田參町ニツ  
キ一途緩ナキヲ  
告グ

舞候共、先々堪忍專一候、時分見合、一途之儀、不可有緩候、爲御存知候、恐々謹言、

(永祿十一年頃)  
正月十七日

(田原親憲)  
紹忍(花押)

吉村但馬守殿

○田原紹忍花押ハ永祿十一年前後ノモノ。

一七三 田原親宏宛行狀寫

○片山文書  
大分県史料一〇

安岐郷内ニ居屋敷ヲ扶助ス

以無足上、數年辛勞神妙候、然者安岐郷之内坪付之前、爲居屋敷、成扶助候、全領知不可有相違候、以此旨、彌奉公千要候、恐々謹言、

二月十三日

(田原親)  
宏

片山市助殿

まゐる

一七三 田原家年寄連署奉書寫

片山文書  
大分県史料一〇

安岐郷竜王名以下ヲ給与サル、コトヲ伝フ

以無足之上、數年雖辛勞候、本領無安堵、不被成御扶助候、殊更、度々在陣軍勞不及申候、先以爲居敷、龍王名并吉松本方之内園田三反、同郷かきほこ貳反地之事、被仰付候、先證判慰候條、御安堵之刻、可有御扶助之由、堅被仰出候、以此旨、彌奉公肝要候、恐々謹言、

安岐郷



安岐郷

三月一日

親當

宏世

諸奇

一五四

片山市助殿

まじる

○年未詳。親當ノ名ニヨリコ、ニ収ム。

一吉 田原親宏知行宛行狀(紙切)

○足立悦雄文書  
大分県史料二六

狩宿みなふ田二  
段ヲ扶助ス

謹言、

每陳辛勞之次第、感入候、仍於狩宿みなふ田(安岐郷)貳段地之事、加扶助候、安堵之刻、領知干要候、恐々

九月十日

(田原)  
親宏(花押)

田代兵庫亮殿

(真筆本持)  
「十二」

一五 田原親宏安堵狀(紙切)

○森文書  
大分県史料三五

(端裏切封)  
「墨引」

養父先諾地安岐郷秋丸西廟名ヲ安堵ス給主アリ下作職ヲ申調フ

屋敷地ヲ濟物十疋文ニテ預ク

安岐郷秋丸之内、西廟之事、至養父紀伊入道、先諾之地候之條、對宏清連續無別儀候、當時給主所勘地候之間、下作職等申調、進止肝要候、於向後、聊不可有相違候、然者、依養母之姪曲、安心所(森実清)持之證文已下、分散之由候、縱自他方、令出帶申儀候共、曾而不及許容候、以此旨、彌奉公不可有緩之狀、如件、

十月廿六日

(田原) 宏(花押)

森與(宏清)三右衛門尉殿

〇一七四・一七五・一七七号親宏花押類型ハ、永祿十二年〜元龜三年頃ノモノ。

### 一五 智興書狀

〇森文書  
大分県史料三五

(鑑真切封)  
「(墨引)」

(安岐郷)仁與寺領分岸之屋敷之内、從立粗東小屋敷、懸野ニ限四方堤、連々望之由候間、應御意預進候、然者濟物十疋文定置候之條、向後無異儀、御馳走可目出候、於我等者、聊不可有相違候之條、別而可得御意事、可畏入候、恐々謹言、

永祿十三庚午正月十四日

智興(花押)

森與(宏清)三右衛門尉殿

御宿所

安岐郷

一七 田原親宏書狀(紙切)

○森文書  
大分県史料三五

(墨引)

書状ヲ奈多鎮基  
ニ持参シ返書ア  
ラバ参陣スベシ

尙々其方着陳延引候てハ、不入事候、能々、可被得其意候、  
彼狀至鎮基持参候て、返書候者、急度参陳干要候、重々、鎮基へ可令入魂儀候條、繼夜於日待入  
候、其方事者、懸而歸可遣候、油斷候て者、不可有曲候、委細猶用口上候、恐々謹言、

九月九日

(田原) 親 宏 (花押)

森與三右衛門尉殿

一八 田原氏年寄連署奉書(紙切)

○入江文書  
大分県史料一〇

安岐郷内拝領地  
祝儀ヲ披露ス

今度安岐郷御契約之地、被成拜領候、爲御祝儀、脇刀一鎌倉物、銀子貳百目進上之趣、慥遂披露候、  
被成 御祝着之段、可申旨候、恐々謹言、

二月十三日

(表松) 氏 清 (花押)  
(清部) 秀 盛 (花押)  
(松本) 公 助 (花押)

如法寺(龜並)式部少輔殿

一(包紙ウハ書)

如法寺式部少輔殿

氏 清

松木清兵衛尉  
溝部大炊助  
永松宮内少輔

一七九 田原氏年寄連署奉書

○後藤敏宏文書  
大分県史料一〇

一(包紙ウハ書)

萱嶋助兵衛尉

溝部大炊助

松木清兵衛尉

萱嶋勘解□衛門尉殿

宏 榮

鶴田古給名田三  
反八仁与名ニ混  
地スベカラス  
鶴田名

鶴田甚五郎古給名田參段之事、先御判明白之條、被成御裁許候之處、爲仁與名内之由、森與三右衛門尉言上候、然處仁與名田之儀者、客別之地候上者、更難有混地候、早々至鶴田名、參段地之事、可被打渡候由、被仰出候、當作時分之儀候之條、聊無遲滯、裁判干要之由、堅可申上候、恐々謹言、

卯月十八日

(永松) 清 (花押)  
(溝部) 秀 盛 (花押)

安 岐 郷

宏(松本)  
榮(花押)

○宛所ヲ欠ク。包紙ハ別文書ノモノカ。

120 董俊・諸久連署奉書(紙切)

○足立悦雄文書  
大分県史料二六

長敷名内町堀ニケ所論所ヲ手嶋大学亮ノ押作スルヲ止メシム

長敷名之内、町堀ニケ所之儀、論所之故、當作之儀、止綺可荒置之由、去春之時分、堅被成御下知候之處ニ、其方以才判手嶋大學亮押作之由、其間候、於事實者、太不可然候、先首尾無相違被荒置候而、追而何分言上干要存候、萬一此上無承伏、耕作催等仕仁候者、確與可被任御法度之由候、此謂董俊・諸久堅固可申渡之由、稠敷被仰遣候、爲存知候、恐々謹言、

四月卅日

諸久(花押)

董俊(花押)  
(備部カ)

(異筆)  
二十  
(宋書)  
二十  
(朱書)

田代兵庫助殿

○長敷名ノ所在地未詳。田代兵庫助ノ名ニヨリシバラクコ、ニ取ム。

121 大友宗麟義感狀(紙切)

○足立悦雄文書  
大分県史料二六

今度至豊前表、鑑基(本多)以一所、長々在陳、殊所々動、軍勞感入候、彌可勵忠儀事、專要候、必追而一

豊前表ニオケル在陣軍勞ヲ賞ス

段可賀之候、恐々謹言、

九月廿三日

宗麟(大友)  
麟(花押)

奈多美作守殿

(朱巻)  
「二十四」

○次号マデ宗麟花押ハ永祿七年ノ元龜三年頃ノモノ。

一八三 大友宗麟義鎮書狀

○若林文書  
大分県史料三五

土圍廻屏役ヲ勤  
仕セシム

土圍廻屏之儀、至諸郷庄申付候、仍安岐郷之内、其方領地分諸點役免許之段、雖令存知候、此度之事者爲所望、直馳走肝要候、猶奉行中可申候、恐々謹言、

十月廿四日

宗麟(大友義鎮)  
麟(花押)

若林彈正忠殿

(礼紙封ワハ巻)

(墨引)

若林彈正忠殿

宗麟

安岐郷

一八三 田原氏年寄連署副狀(紙切)

○入江文書  
大分県史料一〇

父長永契約ノ旨  
ヲ以テ安岐郷内  
ノ地ヲ裁許ス

萱嶋藤左衛門尉先給安岐郷分之事、至長永(如佐寺) 蘭岩公、以御契約之旨、此節被成 御裁許畢、然者任

御證判、武領云、社領云、不殘段歩、可有領知事、干要候、恐々謹言、

(天正二年)  
八月廿四日

(溝部) 定世(花押)

(利行) 董道(花押)

(溝部) 董俊(花押)

(花巻) 親承

(萱嶋) 秀續(花押)

(親並)  
如法寺式部少輔殿

一 (折封ウハ書)

萱嶋和泉守

詫磨佐渡守

溝部安藝守

利行掃部助

溝部民部少輔

如法寺式部少輔殿

定世

○(折封ウハ書)ハ「如法寺文書」(『増補訂正編年大友史料』二三)ニヨリ補フ。同書ハ天正二年ニ比定ス。兩者本文ニ若干ノ異同アリ。(一)内傍注ハ同文書ニヨル。

一八四 田原宗龜親知行預ケ狀

○如法寺文書  
増補訂正編年大友史料二三

國弘先給安岐郷十貫文ヲ上表スルニヨリ代地ヲ預ク有久名

國弘先給安岐郷十貫分之儀、任先契約、雖爲親並(如法等)知行、彼名字依再興、上表之段、被申候、貞心之趣、神妙之至候、仍萱嶋彌五郎先給有久名之内、仁多田貳段・窪田大力作貳段・同給之内奥津貳段、彼是都合六反地之事、爲右代所預ケ遣候、向後之儀、彌分別不可有餘儀候、以此旨、全知行肝要之狀、如件、

天正三年九月十四日

(田原親志)  
宗龜 (花押)

如法寺式部少輔殿(親也)

「包紙ウハ書」  
如法寺式部少輔殿

宗龜

一八五 由原八幡宮造營國東郡安岐郷間別調取帳

○杵原八幡宮文書  
大分県史料九

(端裏書)  
「天正五年丁丑六月一日」

就 由原御造營之儀、國東郡間別調之事、御公領職、宇佐御神領、無餘儀社官家内等、六郷山領、

安岐郷

由原造營國東郡間別調分ヲ注ス



安岐郷

南北御國家、奈多宗達領ヲ差除、其外諸給人分、調申間付取帳之事

合 天正五年丁  
六月一日

一所安岐郷調之事

安岐郷  
除分

除分

田原宗龜領

田原宗龜領  
(親志)

志賀道輝領

志賀道輝領  
(親守)

一万田宗慶領

一萬田宗慶  
(親亮)  
(領脱九)

吉弘宗伋領

吉弘宗伋領  
(親信)

奈多宗達領

奈多宗達領  
(親老)

一八六 國東郡諸給人居屋敷調銀子辻注文

○柞原八幡宮文書  
大分県史料九

國東郡中諸給人  
ノ屋敷ヲ調ヘ銀  
子ヲ課ス

國東郡中諸給人居屋敷調銀子辻之事

一貳文目

富來彦三郎

一壹文目五分

波多左近將監

一壹文目五分

姫嶋掃部助

一貳文目

岐部左近大夫

一貳文目	榑木新介
一壹文目	伊美上野入道
一壹文目	伊美彌兵衛尉
一壹文目	姫嶋中務少輔
一壹文目五分	伊美三河守
一貳文目	碓井民部入道
一肆文目	帶刀右京亮
一壹文目三分	竹田津式部少輔
一壹文目三分	竹田津大膳亮
一壹文目	吉弘中務少輔
一壹文目三分	吉弘式部少輔
一貳文目	都甲八郎
一貳文目	都甲掃部助
一七分	都甲左京亮
一壹文目五分	吉弘彈正忠
一壹文目七分	田原進士允
一壹文目	田原掃部助

安 岐 郷

安岐郷

一六四

一壹文目五分

落彈正忠

一壹文目

中山次郎四郎

一壹文目三分

保見主善兵衛尉  
(侯之(マ、))

一五文目

眞玉左近大夫

一參文目四分

吉弘上總入道

一貳文目

久保大炊助

右合四十七文目五分

奉行中進納

一參拾三文目五分此内貳文目居屋敷

岐部若狹入道  
(宗和)

一貳拾四文目九分此内貳文目八分居屋敷 竹田津六郎兵衛尉  
(鎮利)

一拾三文目九分此内貳文目居屋敷 帶刀安藝入道  
(宗善)

一拾三文目此内貳文目居屋敷 永松下野守  
(龍水)

一六文目五分此内壹文目五分居屋敷 竹田津山城守  
(龍孝)

一七文目五分此内壹文目五分居屋敷 荒木備後守  
(鎮綱)

已上銀子辻九拾九文目三分

六月一日  
(天正五年力)

竹田津六郎兵衛尉

鎮和(花押)

永松下野守

鑑永(花押)

荒木備後守

網 (花押)

竹田津山城守

鑑泰 (花押)

帶刀安藝入道

宗雲 (花押)

岐部若狭入道

宗和 (花押)

○前文書ト關係アルカ。

一七 大友義統書狀

○長野文書  
大日本史料二ノ六

竜ヶ鼻城番ヲ都  
甲山城入道相共  
ニ勤仕セシム

(安岐郷大内村)

龍ヶ鼻城番之儀、至都甲山城入道申付候、被申談、勤番肝要候、聊不可有油斷之儀候、猶田北十郎(宗教)可申候、恐々謹言、

卯月三日

(大友) 義統 (花押)

長野勘七郎殿

○年未詳。シバラクコ、ニ収ム。

一八 大友義統書狀

○若林文書  
大分県史料三五

借用ノ安岐郷代  
所ハ方々取鎮メ  
ノ後与フ

其方事、度々之在陳、軍勞之段、令承知候、仍今度安岐郷之内、廿貫分之事、借用候、彼代所之儀、方

安岐郷

取鎮、何様一稜可申與候、殊折(五)之書狀、加披見候、彌每事、可被勵馳走事專一候、恐々謹言、

卯月十九日

若林彈正忠殿

(札統切封ウハ書)

(墨引)

若林彈正忠殿

義統

○義統花押類型ハ、天正三〜同七年頃モノ。

一八九 大友氏加判衆連署書狀

○荒卷文書  
大分県史料一〇

宗龜ノ突然帰国  
ヲ遺憾トシ明春  
上府ヲ促ス

不圖御歸宅之條、不能面上、心外候、暫時被遂御休息、明春早々御參上專一候、然者度々如申候、  
堺目御内略之事、不被閣、御調儀、聊不可有御油斷候、委細法花津左京入道江、申候之條、閣筆  
候、恐々謹言、

(天正六年)  
十二月廿六日

(杓綱鑑康)  
宗 歷 (花押)

(木付鎮秀)  
宗 虎 (花押)

(二万田鑑英)  
宗 慶 (花押)

(志賀親守)  
道 輝 (花押)

(田原親宏)  
宗龜

まいる申合へ

○大友宗麟、田原宗龜領國東・安岐両郷ヲ奪ヒ田原紹忍ニ付セシニヨリ、宗龜怒リテ反スルコトニ係ル。次号以下参照。

### 一七〇 大友氏加判衆連署奉書

○碩田叢史所収田原文書  
増補訂正編年大友史料二四

宗龜馳走斜ナラザルニヨリ國東安岐両郷ヲ返付ス  
年老共ノ取合ニヨリ裁許  
弥忠儀ヲ励マルベシ

就豊前表火急之注進到來、急速出張之由言上候、無油斷心懸、御感深重候、然者國東郷・安岐郷之事、數年雖御佗言候、或被行忠賞、或不退至奉公無緩、任仰被加御扶持候、于今無御分別候處、今度宗龜御馳走不斜候條、各致取合、右兩郷之事、被成御裁許候、最以珍重候、如此忝被請上意候上者、親類寄揆家中之人等、被申進、彌可被勵忠儀事、簡要之段、能々可申旨候、爲存知候、恐々謹言、

(天正七年)  
正月十一日

(朽網蓬康)  
宗 歴 (花押)

(一万田鑑実)  
宗 慶 (花押)

(木付鎮秀)  
宗 虎 (花押)

(田原親賢)  
紹 忍 在 城

(志賀親守)  
道 輝 (花押)

(宗龜・親宏)  
田原常陸入道殿

安岐郷

一九二 田原宗龜親書狀

○萱嶋文書  
大分県史料一〇

〔包紙切封ウハ書〕

〔墨引〕

萱嶋美濃守殿

溝部新〔左〕衛門尉殿

岡部彈〔正〕忠殿

萱嶋越〔後〕入道殿

利行主〔水〕亮殿

宗龜

安岐郷内ノ地ヲ  
糺明セシム  
五人ヲ派ス

今度安岐郷之儀、不殘段歩令安堵候、然者郷内諸給人領、或者本給或者闕所、其外相論之地等、爲糺明、五人事差遣候、役所申談、堅固之閉目肝要候、不可有緩之儀候、恐々謹言、

〔付箋〔七ノ誤カ〕〕

〔天正八〕  
正月十八日

〔田原龜宏〕  
宗龜〔花押〕

萱嶋美濃守殿

溝部新左衛門尉殿

岡部彈正忠殿

萱嶋越後入道殿

利行主水亮殿

○田原宗龜、天正七年九月十六日病死。

一五二 大友義統書狀

○大友家文書錄  
大分県史料三三

安岐・國東兩鄉  
内ノ地ヲ田原宗  
龜ニ還付ス  
小笠原玄信ト申  
シ談ズルヲ賀ス

奈多鑑基社奉行  
トナリシヨリ以  
降ノ悪行ヲ訴フ

〔見〕見村之事、至小笠原玄信、號馬飼所、累年預進候之處、今度預舊領、安岐・國東兩鄉之儀、宗龜  
江令還附候上者、雖不及兎角候、如御存知、別地無格護候。條、右代地以分別可申出間、無相違玄  
信可被申談之由、申候之處、被得其意候段、以口託承候、祝着不斜候、如此預入魂候之間、自今已  
後、兩鄉之内訴詔之人候共、曾而不可有許容候之條、每事可被添心（大友）賴存候、恐々謹言、  
（天正七年）  
二月廿七日

田原常陸入道殿  
（宗龜・親志）

義統 在判

一五三 宇佐宮一社中目安狀案

○到津文書  
大分県史料二四

去三日 御書同廿八日著宮、各謹而令拜見候、抑當 社御奉行之事、奈多大膳大夫取沙汰、無相違  
被仰付之條、鎮基可申談之由候、當 社近年之立柄、以事之次、所舍之意趣、乍恐申上候、往永祿  
年中奈多鑑基奉行存知以來、御神領恣令押領、至土民百姓等者、吹毛求疵、寄事於左右、引取妻  
或

安岐郷



大宮司公澄館・坊舎破却押領

子所從、或就人々讒訴、不決科之實否、沒取所帶所職、條非一候、先加之破却大宮司公澄館、不及力、令退官候之處、追放喜多坊圓誓、

號息轉之跡、當郡中社恩之地、被押取候之條、筑前國山野庄以臼杵鑑速取合、忝御書致頂載、同被在宅候之口、鎮基遣人數既被誅候、

被

舍宅

萬々令半人、近年者、

館内坊舎悉打崩畢、大宮司館者、是社頭一字之在所、每日午尅尊神影向之齋場也、喜多坊事、長日

號館内舍宅、是社頭一字之在所、每日午尅尊神影向之齋場也、公澄無科之處、為被打崩候條、希代之非道也、剩奉代御尊神御姿

道

不斷之護摩供、御國家御祈禱之靈地也、然處不恐神慮、不惶上意、無道之張行、併天下希代惡逆此

身軀誅伐、於當社前代未聞之大災、神襟何不可過之、是一

事候、其外太宮司公建社役免、在々所々卅ヶ所餘、同館内廻及被官等居宅之地、悉令押領、宮中堪

忍依難屈、一節退官候、公建事代々、令在宅神邊、不謂當職前職、抽 神忠候之處、所領沒取可為

何故候哉、次彌勒寺々務時枝居屋分并四拾町地、被奉行林式部少輔給地、以糸永越中守、至鎮堯被

引渡候之條、身軀被官共、失在宅之地、佗際之餘、一篇令窄籠候、當社寺務社務兩人事、如車之雙

輪、神事佛會、以相對之儀、令執行候之處、押領之裁判、為社奉行者、不足之儀候、次惣檢校統

世・池永重則・小袋統通各領分、過半沒當創之候、惠良貫重・小田賴治兩人拘、悉押領候、殊更神前

供花免田、神盃析米、御神事祈所、上宮御番地神人諸役免以下、無殘所、至鑑基・鎮基兩代、令押

領候、就中、泉社々司兼辛嶋郷司並時事、誅戮其身、社免郷分悉知行候、大宮司公澄事、宮中退宮

之後、以臼杵鑑速取合、忝御書令頂載、山野村在宅候之處、差遣鎮基人數既被誅畢、大宮司身軀

者、尊神奉代之姿、忽誅伐之儀、於當社前代未聞之大災、神襟不可過之者歟、因茲、所殘之神官

等、為。王難免マ、之害、鎮基并至來中、家依致慮外契約、偏成家人之思、不應點役課役等、時々尅之苛

責、非翰墨之記、剩去年之春、至一社中出陣之儀被申付、於當宮前代未聞之武役、雖非無歎訴、恐

大宮司公澄誅セラル

一社中ニ出陣ノ武役ヲ課スラル

日州ニテ戦死

社奉行ハ憲法家人ヲ仰付ケラレタシ

奈多鑑基鎮基非道ノ奈ミヲ訴フ  
大宮司館ヲ破却ス

權威、各脱捨神職清淨衣冠、帶鎧甲冑、帶兵具令出陳、今度於日州、御前檢校盛勝・番長大夫鎮富(家也)・

陰陽師實衛(也)・東別當妻垣座主尊海以下、既戰死仕候、一社中之愁傷、何事如之哉、然處今度以多門

院、神領轉變、神殿破損、社家悲歎之趣、忝被仰出候、各欽喜躰、旱天之草木、如受雨之潤、任御

書御銘文之旨、各成安堵之思候、神慮感應無疑只此事候、、然者、近年延滯之神事佛會令再興、各於神前傾

頭、御國安全御武運長久。之御祈禱之外、更無他事大菩薩御渴仰爲第一之儀、社奉行事、以憲法御家

人被仰付者(也)、神者増威、君者添運給者、四海安穩長國之基、併可爲此事候、自然鎮基、如前々於存

知者、今度直訴之以遺恨、往日之張行、可令超過歎、然者、尊神并氏人以下一同之滅亡、不可有別

儀候、爲神者御崇敬之純一、爲人者御慈悲之儀、歎訴之旨趣、被成御分別候之樣、宜預御披露候、

恐く謹言、

卯月廿八日

(天正七年カ)

### 一四 宇佐宮一社中目安狀寫

○到津文書  
大分県史料二四

(端裏附箋)  
「覽文公兼寫ナリ」

奈多鑑基・鎮基社奉行存知以來、非道被申行條々

□(也)到津公澄爲于時當職、御神事令執行、抽 御祈禱候之處、去永祿四年十月、以鑑基人數追放候、太

宮司館 社頭一字之在所候之處、恣致破却、家財致取散候、因茲宮中退出之事

安 岐 郷

社司辛嶋郷司並  
時ヲ打果ス  
宮成公建ノ所領  
ヲ押領

時枝居屋敷ヲ林  
式部少輔ノ給地  
トス

神事料所悉ク押  
領

薦社々司池永領  
等押領  
宮佐古山十坊内  
喜多坊領ヲ没収  
シ山香郷大禪寺  
ニ宛行フ

一同六年、當 宮末社泉之社々司、辛嶋郷司並時被打果、彼一跡郷司分、悉鑑基以來押領之事

一宮成公建代々令居住 神邊、抽 社忠、奉對 神慮公儀、聊無緩疎之儀候處、彼領地在々所々卅

餘ヶ所、剩館内廻家來者共居屋敷等、押領候之條、宮中堪忍不相届、一節退宮之事

〔以下案文〕  
一當 社彌勒寺領米市四頭并四十町地、〔所之〕寺務時枝爲居屋敷、其身家來悉彼在所令居住、寺社役寺務

社務事、車如雙輪執沙汰仕、奉對神慮公儀、毛頭無緩怠候之處、鑑基林式部少輔給地被申行、以  
糸永越中守、林方江被引渡之、依失宅所一節退出之事

一惣檢校益永領寺庵以下所々押領之事、同領小犬丸名、田原紹忍押領、是亦無謂事

一神前御番地所々就押領、社番依人數減少、年中御番過半闕怠之事

一御神事祈所悉就押領、鑑基以來御神事延滯之事

一到津公澄事、何篇無誤之處、去永祿年中彼領地於筑前山野村、以臼杵鑑速取合、忝御書令頂戴在  
宅候之處、鎮基差遣人數被誅畢、抑大官司事、忝茂 尊神奉代之身躰、忽生害之儀、御垂跡一千

餘歲是始也、爰當 〔力〕社未聞之神敵、本朝希代之惡行也、各雖非無愁訴、恐彼權威、直訴難叶之  
條、于今堪忍之事

一薦社々司池永領所々、押領之事

一宮佐古山十坊之内、喜多坊敷地云、坊領云、悉被沒取、山香郷大善寺〔妻帶〕之僧被宛行給地、十坊之事、  
表十伽藍神前勤行順役其一也、依無社僧在坊、天下國家御祈禱、一坊分闕所之事

一神官惠良貫重社役地、悉押領之事

乙咩社司宅所放  
火

大宮司安心院公  
札領押取  
小野庄・岩崎庄  
押領

宇佐宮社中ニ對  
スル奈多鑑基ノ  
非道ヲ訴ヘコレ  
ヲ改替シ憲直ノ  
社奉行ヲ補シ一  
社ヲ再興セラレ  
ンコトヲ請フ

一同神官小田神右衛門尉社役地、悉押領之事

一神前花摘四人花役免、悉押領、因茲供花斷絶之事

一當宮末社乙咩社、司上總介宅所、以鎮基人數令放火、居所退出之事

一社家各拘之在所、萬免不輸之地、吹毛求疵非分被申懸、或領地押領、或引取妻子所從、不應分

限、以賄賂過物依致懇望、何茂令窮困之事

一當大宮司安心院公札領元重八町地、鎮基被押取之、岐部勘解由兵衛尉給地、被宛行事

一當社御寶味地小野庄十二名・岩崎六名依押領、御神盃并御供方一圓相止之事

右之外、或人夫被責任、或種々課役被申懸之儀、不及筆端之條、略之、

(天正七年乙)  
卯月廿八日

宇佐宮一社中

### 一五 宇佐宮一社中目安狀案

○小山田文書  
大分県史料七

〔編纂書〕  
社中目安案圓通寺理眞  
草案

欲今度御書御請文之次、一社悲歎之趣、備上覽、蒙 聖裁、奉休神襟目安之狀、

夫當 社者、本朝第二之惣廟、尊神諸社之大（家ノ）朝政道（家ノ）、護武門弓箭、遠治三韓之逆

浪、親輝神德之威光、神者是以正道、爲（レ）躰、依信心（レ）加運、記其先蹤、不違毛舉、只纔舉

一二、似（レ）汲大（レ）海之（レ）、聖武天皇御宇天平之秋、大隅日向凶徒蜂。而忽背勅命、天皇依奉祈

安 岐 郷

奈多鑑基ノ非法

大官司公澄館ヲ打崩ス

館内廻被官等居宅ノ地ヲ押領

時枝居屋敷ヲ林式部少輔給地トス

惠良貫重・小田頼治・上宮御番地神人領押領

大官司公澄ヲ誅ス

降<sup>レ</sup>伏移<sup>ル</sup>ニ神輿<sup>ヲ</sup>於<sup>テ</sup>彼國<sup>ニ</sup>、輒誅<sup>ス</sup>數輩之凶族<sup>ヲ</sup>、治<sup>レ</sup>天下、元曆之春源平合戰之時、賴朝朝臣感<sup>シ</sup>無<sup>レ</sup>二之信心<sup>ニ</sup>賜<sup>ル</sup>ニ白旗義經<sup>ニ</sup>則猛惡平家永削跡、彼是神德滿世間耳口、神慮何有古今差別乎、因茲、或以勅言被寄數ヶ所之神領、或爲國役、被莫太之寶殿、月次不退祭禮、長日不斷經行、無退轉<sup>□</sup>焉、去永祿年<sup>(卷)</sup>中桑多鑑基奉行存知以來、御神領恣被押領、至土民百姓等者、吹毛求疵、寄事於左右、引取妻子所從、或就人<sup>々</sup>讒訴決科之輕重、<sup>□</sup>沒取所帶所職、加之破却大官司公澄館之條、非道最初也、號館内舍宅者、是 社頭一字之在所、每日午剋尊神影向之齋場也、而不恐 神慮、不惶公儀、被打崩、所行希代之惡逆也、次大官司公建社役免、在<sup>々</sup>所<sup>々</sup>卅ヶ所餘、殊館内廻及被官等居宅之地、悉被押領、宮中堪忍依難屈、一節退宿候、公建事代<sup>々</sup>令在宅 神邊、不謂前職當職、抽神忠候、殊 大御簾中樣御懷胎之刻、御祈禱之儀被仰付候之條、抽精誠懇丹候之處、御產平安、忝 當殿樣被御誕生候、御祈禱忠節之段、被成御感候、 鑑基妄社頭沒取、可爲何故候哉、次彌勒寺寺務時枝居屋敷分并四拾町地、被申行林式部少輔給地、以糸永越中守、至鎮堯被引渡候之條、身躰被官等共、失居宅之地、佗際之餘、一篇空窄籠候、寺務社務兩人事、如車左右輪、神事法會以相對候、令執行候之處、寺領押領之裁判、爲社奉行不足之儀候、并惣檢校統世・池永重則各領地過半沒當候、惠良貫重・小田<sup>(田)</sup>頼治<sup>(美華)</sup>兩人拘悉押領候、殊更 神前供花免田、神盃料米御神事料所、上宮御番地神人諸役免、宮佐古山坊之供免以下、至鑑基・鎮基兩代押領候、就中當宮末社泉社<sup>々</sup>司兼辛嶋郷司並時事、被誅戮其身、社免鄉分悉知行候、大官司公澄事、依館内破却、宮中退宮之後、以臼杵鑑速取合、忝給 御書、山野庄在宅候之處、鎮基差遣人數既被誅畢、大官司身躰者、 尊神奉代之姿、忽誅伐之儀、於

近年延滞ノ神事  
法會ヲ再興セシム

憲直輩ヲ社奉行  
ニ仰付ケラレタシ

鎮基存知セバ一  
社滅亡セシム

木付鎮秀田原親  
貫ヲ討チテ敗死

當 社前代未聞之大災、神襟不可過之者歟、因茲、所殘之神官、或爲免殃難之害、隱他國遠境ニ於

身ヲ、或成家人契約、觸神職清淨身於穢、朝夕窮困、日々苛責、非筆墨記、然處 社頭轉變、神殿

破損、一社悲歎之趣、及 上聞、去正月忝御書令頂戴、各延歡喜之眉、如御書御銘文、偏令成安堵

之思、神慮感應何事如之、仍近年延滞之御神事法會令再興、俗官僧侶於神前傾頭、時々剋々、令凝

御國家安全御武運長久之懇丹候、大菩薩御渴仰爲第一之儀、社奉行事、以憲直之輩、改被仰付

者、御勝軍根源、可爲此事候、當社奉行之事者、御神事御造營取沙汰、自然者、從武方、社家云、

社領云、押妨之刻、無其煩之樣被申掙、天下國家御祈禱裁判之外、無之候之處、右條々一社之難儀

此時候、頻鎮基於被存知者、一兩月以不快之遺根、往日之張行可令超過之條、尊神并一社上下一同

之滅亡、不可有別儀候、且者御崇敬、且者以廣太御慈悲、歎訴之旨趣、被成 御分別候樣、宜預御

披露候、仍目安狀如件、

天正七年四月晦日

宇佐宮一社中

田原(箱志)近江入道殿

### 一六 豐後國志

○国東郡  
墳墓

木付鎮秀墳

在安岐鄉田間、天正七年、田原右馬頭親貫、豐府命木付美濃守鎮秀討之、大戰于  
此、遂敗死、封而不樹、惟墳耳、其他荒墳沒字斷碑間有之、但不傳其人、見野史、

安 岐 鄉

一九七 田原宗龜親知行宛行狀寫

○片山文書  
大分県史料一〇

安岐郷内ノ地等  
ヲ給与ス

就 今度豊前國怨敵退治之儀、一段可抽馳走内意候、仍安岐郷闕所之内、并山田庄内地、相賀三貫  
文分之事、先以施行候、但一戰之刻、於碎手之輩者、望之地可賀恩候、別而忠儀干要候、恐々謹  
言、

天正七  
六月十五日

(田原親宏)  
宗龜御判有

片山越後守殿

まいる

一九八 大友宗麟義書狀案

○広崎文書  
大分県史料八

奈多社領ニ対ス  
ル雅意ヲ止ム

就社領閉目之儀、巨細示給候、神慮之儀候間、自然一雅意之仁候者、一途可被申付候、猶年寄共可  
申付候、恐々謹言、

八月十三日

(大友義鎮)  
宗麟 御判

奈多社  
大宮司殿

仍社領上田丸事

一九 一 九 一 年 次 書 簡

○耶蘇会イェズ通信  
大分県史料一四

略○首

田原親宏反乱ヲ  
起ス

宗麟親宏ノ所領  
ヲ没収シ田原親  
賢ニ与フ

このような暴虐の嵐が吹き過ぎた後に、また別の暴風が襲ってきました。此度は、直接われわれやキリスト教に向けられたものではありませんでしたが、あらゆる形でわれわれを恐怖の底へおとし入れ、恐ろしさの点では前のそれと変らぬものでありました。事の原因を作り出したのは前述申し上げました豊後の国の武将親宏(田原)でありました。彼は豊後の諸武将のなかでも最も大きな権力を有していました。この武将は、豊後の全土が混乱を起しているのを見ると、即ち豊後の王国自体が窮地に立っているのを見ると、自分の目前に提供されたこの絶好の機会を逃さず、過去の年月の間王によって召上げられ親賢(田原)に与えられていたところの、莫大な収入源をとり戻そうと、行動を開始したのであります。こうして、ある日突然、誰にも一言のことわりもなく宮廷(森野)（城のことか？）を去って、自分の領土へと引き籠ってしまいました。それから若王(森野)に使を送って、その自分の領地を旧に復して自分のものにすることを認めさせようとなりました。即ち、その領地こそ、若王(大友宗麟)の父が彼から召上げて親賢へ与えた領地なのであります。このように大身の武将が、これまたこのように不意に出発したことは、そしてその上連日諸地方の武将達が叛旗をひるがえしたという情報の入ってくる時でもありましたから、これは誠に大きな不安をまき起したのです。人人は皆、彼が間違いな



く豊後に叛乱を起したと考え、王の力ではとうていこれは鎮めきれないだろうと思うのでした。それほどまでにこの男の勢力は大きく、王にとっては不意打であり、引き続く戦で勢力の衰えている折でもあり、もはやチカヒロが自己の軍勢をつれて豊後に侵入することは自明の理に思われ、必ずやこの武將はそうするであろうとも思われるのでした。○中 敵方が近づいてきた時には、人里離れた嶮岨な地点にわれわれが引き籠ることが出来るようにとの準備でありました。そしてその間に先ず第一波の狂乱の過ぎ去るのを見定めようと考えたからであります。物事をそのように整頓してしまふと、他に為す手段はありませんでしたから、われわれは、再びわれわれの精霊に呼びかけ、心の整備を行うのでした。神聖なる主へのお勤めを始め幾日も経ぬうちに、さしもの混乱が、ひっそりと静まったのであります。チカヒロから以前に取り上げた収入を彼に戻してやると、王が命じたからでありました。この命によってチカヒロは満足し、叛旗をひるがえすようなことはなく静まり返りました。

親宏病死ス

親宏ニ所領ヲ返付ス

○中 略 この時から実に幾日を経ずして、例のチカヒロは没したのです。彼の死と共に、それだけ、親賢は息を吹き返し、今となっては、事態がどうなっていくか、われわれは予測がつかなくなっていました。

○下 略

○「一五八四年ローマ刊、日本年報」(『大分県史料』一四)ニハ親宏ハ瘧デ急死シタトアル。

二〇〇 大友田原系圖

○入江文書  
大分県史中世一

▲親  
宏

號田原、童名千代壽丸 始號親實、次郎 常陸介

母三人同腹、號大有院、法名宗龜居士、天正七年卯九月十六日卒、豐後國々東鄉葬定林院矣、

國東鄉定林院二  
葬ル

永祿八年長野里  
城合戰

親宏需法味、而常入于如山和尚之室參禪、是故著黃掛羅矣、如山禪師者前永平道元禪師六世之法流、無著和尚之法孫也、永祿八年六月廿二日于長野筑後守里城令合戰之處、親宏少士卒被疵者、原主計矢疵、伊藤六郎兵衛矢疵、岐部助三郎矢疵、菅島長門僕從新三郎矢疵、津崎善兵衛僕彌九郎石疵、元永右馬允僕從三郎次郎

永祿十二年香春  
岳麓合戰

石疵、岐部孫六矢疵、萱島神四郎代高木與三左衛門石疵、同僕從與三郎矢疵、森刑部丞僕從甚九郎石疵、田原新九郎被官溝部與四郎、同被官高橋與三被石疵、右郎從專抽忠功訖、永祿十二年八月廿九日于豐前國田川郡香春岳麓干飯村令合戰之時、親宏之入數高名或被疵者、頸一名字不知後藤彌右衛門討捕之、頸一加來宮內討捕之、

豐前東小倉鳥羽  
村合戰

手負者岐部左京橋疵、萱島藤五郎矢疵、田代兵庫鐵砲疵、手嶋大炊刀疵、植田惣左衛門被鐵砲疵、右之郎從盡至忠訖、永祿十二年十月九日、豐前國規矩郡東小倉并於于小田村備前守宅所鳥羽村、親宏之手者分捕或被疵者、

頸一小田村兵庫丸溝部右衛門尉討捕之、頸一名字不知森四郎討捕之、頸一小田村上總守松木清兵衛討捕之、頸一小田村三郎溝部藤三討捕之、頸一名字不知萱嶋四郎兵衛討捕之、被疵者溝部右衛門尉右股矢疵、加來三郎右衛門右足矢疵、重光右馬介左足矢疵、成安右馬、允鐵砲疵、利行掃部僕從忠四郎左足矢疵、萱嶋宮內僕從忠太郎右足鐵砲疵、萱嶋刑部丞僕從新兵衛左胸矢疵、平賀縫殿僕從彥八左足矢疵、萱嶋五郎、從市丸右京右鐵砲疵、溝部三郎右衛門僕

広津治部大輔宅  
所防戰

從甚兵衛左足矢疵、高尾忠太郎僕從助二郎右足矢疵、津崎越前類矢疵、如法寺式部郎從高橋藤三郎右足鐵砲疵、右之郎從盡軍忠訖、山田安藝守率兵而、攻寄於廣津治部大輔之宅所、令防戰之時、因驛守并佐田彈正忠、野仲兵庫頭、福嶋安藝守、親宏等之被官爲加勢碎手令合戰、親宏之高名異他之條、惣領義鎮感之而、被與證文矣、

山田之城退治  
小倉津城攻略

山田安藝守之惡行依前代未聞、任惣領義鎮之命、令出張攻落彼山田之城、專令退治彼一族之時、親宏之親類被官遂死戰、或分捕、或高名、數輩被疵畢、親宏亦自身盡粉骨、討取於山田之一子萬千代丸之間、惣領義鎮感之而、被與證文矣、豐前國小倉津城之凶徒等桶籠之間、親賢相共攻崩於彼城、討取敵數百人之條義鎮以於

安 岐 郷

姫嶋表ニオイテ  
賊船ト交戦ス  
豊前大橋并葦嶋  
一揆鎮定

秋月種実孫ニ嫁  
ス  
田原親貫ニ嫁ス

毛利糧船姫島ニ  
於テ砕却ス

田原親貫討タル

七郎ノ仮名ヲ与  
フ

帶刀新助被感之、又被與證文矣、攻於西郷遠江守之要害抽武功、手者令戰死、或被疵訖、城并大藏并惠良備前・荒卷右馬允・別府石見・荒卷新左衛門・賀來和泉等也、  
遠天原合戰之時、抽武勇之郎從令戰死之間、惣領宗麟被感之也、於豊後國姫嶋表、與賊船相戰之時、碎手得勝利之間、大友義統被感之矣、於豊前國大橋并葦嶋一揆蜂起之間、任宗麟之命不日令出張之處、惠得勝利討捕於敵數百人、手者多令戰死訖、惣領宗麟甚感之、而被與證文矣、

女子

嫁種月種實孫左衛門尉、修理太夫、號齋林院、笑翁宗關居士、  
嫁田原右馬頭親貫、豊後國鞍懸籠城之時病死矣、

女子

親宏嘗無男子故、養育於大友之末子而號田原親貫、親貫不順於總領大友、於豊後國鞍懸及阿岐兩城十二月防戰矣、其防戰勞費而到危、於此又毛利輝元爲助勢而、使於糧船數乘救之、然遇難風不幸而、於于豊後國姫嶋糧船砕却焉、又同秋月種實并種實之二男高橋右近、加於援救之騎兵、其種月之士也、坂田勘解由左衛門其高橋之士也、伊藤外記是等相共、豊前國於于千峯嶺數度合鎗、又勵勇悍討取於敵、然終勞而兩勇戰死矣、於此親貫亦甚感助成之士而、堪慘担焉、坂田・伊藤之武功不足勝計、我僕從或戰死、或終退轉、放矢通其危難而、蟄居于豊前國善光寺下村竹江村、于時大友聞於城井之住人時枝者令討親貫、殉死者七人、於茲田原氏之嫡流絶矣、田原氏没落之後、大友義鎮之二男新九郎親家號田原、屬于大友之麾下也、

○天正八年十月田原親貫戰死ノコト、便宜合被ス。『入江文書』（『史料纂集』）ト校合。異ル所ヲ〔〕内ニ傍注ス。

二〇一 奈多鎮基名字狀

○松原文書  
大分県史料一〇

望之條、七郎事、可存知候、恐々謹言、

二月三日

鎮基（花押）

1101 戸次道雪鑑連書狀案

○立花家文書  
増補訂正編年大友史料二四

田原親貫不義頭  
然ニツキ御左右  
ヲ承リタン

浦辺表

吉岡宗歎・臼杵  
鑑速死後ハ無道  
ノミ召扱ハル  
自他國批判致シ  
犬打童迄モ嘲笑

寺社仏神破却

今年之御慶、重疊、不可有際限候、仍舊冬(天正七年)從生葉表、各被引御空太刀候以來、此表一入雖及氣遣

候、紹運申談、種々以才覺、于今漸仕拘、致籠城候、彼御弓箭非可被差捨儀候之條、至改年早々、

日田郡迄可被成 御進發之由、度々被仰下之條、爰許各成安堵之思、今日々與奉待之處、田原親貫

不義依顯然、急度可被成御退治、御議定(定)之由、前七日(天正八年二月)以御書被仰下、驚存候、様牀餘無御心元候之

條、御左右具承度候て、急用飛脚候、誠宏才(親宏、親貫ノ事)之申事、雖非無斟酌候、于今者、御國家極御一大事

候、于浦邊表被餘御手候ハ者、各御事者、或心地能被立御用、被揚御名候歟、何ニ不可有曲候、勿

論患老事、頓而相終可申儀候之條、不胎胸中令書載候、其恐不少候、

一宗歡(高田)・鑑速死去(臼杵)之以後、貴國御様牀、無道而已被召拵、依天爵近年被思召立候御弓箭、無御勝利

之儀候、於方々被失御外聞、結句貴國之御難儀ニ罷成候與、從他國致批判、犬打童も嘲笑之由候、

無道而已與、致批判候之條數ハ不存候、剩自秋月邊者、御無道之條數十ヶ條ニ餘書立候而、近國

觸廻之由申候之條、定各も、卒與ハ可被及聞召候哉、先々初條ニ貴國之儀者、無餘儀宗徒之者御

方々を始申、老若男女共ニ、天竺宗と哉らんに成せられ、寺社を有破却、佛神を或河に入或薪に

成、前代未聞之御様牀に候與、致書載之由候、是は卒度者形もや御座候覽、無御心元存候、其子

安 岐 郷

仏神ヲ薪ニナス  
善惡ハ分別ニ及  
バズ

上様ノ思案ニ違  
ヒテモ年寄中談  
合ヲ以ッテ異見  
申スベシ

田原親貫退治ノ  
議定  
田原紹忍田原親  
宏存命ノ時ヨリ  
法外ノ拵案々有  
リ  
田原親貫浦部表  
在々所々ニ火ノ  
手ヲ揚ゲ足城ノ  
構ヘ揚籠ル

細は於御分國中、往古以後近年迄、無他之妨寺社領、歷々被宛行人給之由普承様(條號)ツ、中々利口過  
たる申事に候へ共、源平以降祈佛神加護、先立儀理正路、被取弓箭候與社申傳候、既本朝にも神社佛  
寺之御沙汰を社專被載之候之處に、結句被成佛神於薪候善惡者、生得愚癡之我等式不及分別迄候、  
只々日本者神國與申候之間、是非公私御信心、專不被背順儀天道之様、可有御覺悟事乍恐肝要存候、  
一(大意)義統様御事、若上臈様に而御座候へ共、每事御政道、倍御慈悲に御座候由承及、千秋萬成目出候、  
彌各諫被成御申、聊茂非道之儀、無御座様、憲法之筋目を被召行候者、惡事者難有御座候哉、誠賢  
人・聖人之上にも、又御錯之御座候事は、人間之慣候、萬一上様之御思案違申儀御座候とも、御  
年寄中以御談合、縦一旦被預御折檻候共、御異見御申候て社、可爲御本意候、各御内意ニハ、不  
可然事與被相合候ても、御斟酌計ニ而被打暮(意)、果而上之御外聞惡事御座候へハ、御國家ハ成次第、  
各之御家御身前さへ、無恙御座候ハ、與、被構御比興候而ハ、畢竟公私之可被失御鬼籠迄候、自  
今者能々有御相談、上様之御爲ニ相成可申事を、被抛萬端、無御斟酌可被成御申事、可目出候、  
一(田原親)親貫事御退治之御儀定、急度被向御人數之由候條、各御馳走、不可有餘儀候歟、頃迄世上致批判  
候者、每物紹忍臆意相違、宗龜存命之時より、法外之扱條々依有之、親貫家中之者共、鬱憤色立  
候之條、双方純熟之儀、被仰噉之由候條、定今程之儀者、相互抛異儀、任御拵之旨、可有堪忍事  
與存、油斷致候之處、親貫(田原)顯不儀、浦部表在々所々揚火手、構足城楯籠之由候、然時者不及御了  
簡儀候之條、可被成御退治御儀定事、尤無餘儀相存候、碯々公私御代々之忘筋目、名字之不顧  
恥辱、斯時節奉對御國家、不儀之企、沙汰之限之級、御一紋中之御瑾不可過之候、都鄙之間、他

龍造寺・秋月申  
談ジ田原親貫ニ  
加勢

日田・珍珠刃ノ  
人数  
田原親貫被官津  
崎善兵衛入道度  
々々秋月へ罷越ス  
秋月ヨリモ使者

当殿様御代始ノ  
弓箭ヲ静謐シ外  
聞ラ作ラルベキ  
ハ年寄中ノ御役  
ト存ズ

方之批判、口惜無念至候、然上者縱從上今程之儀、被成御用捨、可被撫置〔捨〕與被仰出候共、爲御一  
紋中者、一味同心被仰付、是非請上意、親貫可被切腹事、不可有餘儀候哉、剩被加御下知候事、  
幸儀候條、定各不移時日、可被勵御馳走候哉、雖不及申、自然聊も被成御油斷、致遅々候者、彼  
惡黨楯籠足城普請仕、調粮等取入候ハ、御手も可入候哉、殊誘海ニ罷成候者、無差事候共、貴  
國津々浦々小舟等乘廻、踴立可申事、可爲必定事候、未然々取靜内、御猛勢被差向候ハ、從内  
輪も心々ニ相成、又兩田原之銚桶計與存、不量公儀、浮與親貫致同意候浦部衆も、一致心身候歟、  
彼是火急ニ被召懸候者、相成御加勢事、多々可有之候哉、彼閉目不日屬御下知申候者、以其響  
方々倍可被任御案利事、不可有疑候、若又あまやかされ、御手餘ニ被爲召候ハ、方々惡事可爲  
増長候之條、公私能々被入御精、御才覺可目出候、雖不及申候、各御自身被碎御手、可被決案否  
事、此節候哉、四五日以來、從方々如申來者、秋月・龍造寺申談、至親貫號加勢、種實〔秋月〕・隆信〔龍造寺〕今  
程致一味候二三ヶ國之者共、相應々々致加勢、秋月表差集之由候、親貫爲加勢、浦部表迄可打越  
事ハ、難在候歟、扱ハ何方へ可致行様躰共、不及按量候、日田・珍珠邊之御人数を、釣留可申行  
共ニ而候哉與申居候、如斯之時者、親貫不義之企、從兼日惡方申組迄候、親貫被官津崎善兵衛入  
道年内月迫、又至改年も度々秋月へ罷越、秋月よりも上野四郎兵衛・江利内藏助與申者、頃節々  
親貫へ差越之由候條、種實事以内縁之續、奉對國家御託言之旨共候哉與、申居候處、結句彼惡逆  
を、致相談候とは、近日社存當候、無是非候、吳々各涯分被勵御馳走、當殿様御代始之御弓箭  
候之條、早々被成御靜謐、可被作御外聞事、御年寄中御面々中之御役與存候、如斯申候ても、

安 岐 郷

一身極難儀、迷惑之歎息與、被思召問敷候、愚老事及七十候條、迎久間敷候間、さのみ一命も不惜候、其上一城を預申候て、名字之可致届之段ハ、露塵何を可躑候哉、只々、御若上臈様被成御氣遣、可被失御外聞事ハ、無念さ之餘、申事迄候、

一御屋形様年内靈山麓秋岡ニ至リ、(大友宗麟)御座ヲ移サル、西目出張ノ首途、御吉報故ニ而御座候哉、殊御

御屋形様年内靈山麓秋岡ニ至リ、御座ヲ移サル、西目出張ノ首途吉方故カ、御旗奉行・御鎧奉行

簾中様も、御同前御座候風聞候由、聊茂屋形様可被成御座、在所柄等之儀者、能々各御相談可在候與存候、殊御進發御首途之段者、御前駟・御旗奉行・御鎧奉行、其他御供御人數、御格護迄茂、其役々筋目相定、前々之御摸在之儀候條、定被任御先例、被成御調候覽、不及申候、秋岡者御吉

秋岡ハ吉方タル各ノ宿所等ナキハ各ノ油斷

方迄ニ而社候へ、御宿所等然々難有御座候哉、如何、是も各御油斷與存候、御竈等物輕御座候へハ、人々心持咲止(笑)ニ候、如何にも重々敷被練立、從御座所堅固之御様躰ならてハと存候、勝候、

立石・竈門辺マデ自身出御ノ上下知スベシ

至浦部表被向御人數候ハ、立石・竈門邊及者、御自身被出御馬、緊々與被成御下知候てハと存候、近來乍楚忽、吉凶之二ニ相究申候事を、御手元ニ而、大形ニ被成御下知候てハ、彌可爲敵案候段、御分別之前ニ候、

志賀道輝へ申ス原田親種ノ進退調略ノコト

一(志賀親守)道輝ニ申候、先年原田親種進退御調略ニ付、至愚拙御恨言之旨御座候つる哉、正直ニ預御入魂候ハ、子細可申分儀候之處、不能御理、八朔御嘉例之進物被襲置、當日被失外聞候之條、餘無曲、存、其以來確不申承候、其後道易(志賀親度)方、度々御懇之預御入魂、御憑鋪雖忝儀候、一度失外聞候條、何

國家一大事ニツキ和睦致スハ子孫ノ覺ニモナルト存ズ

事も不入事與存、道易之御異見をも致違背様ニ候ツ、既御國家御一大事之砌候之條、此節致和睦、御用罷立候者、子孫之覺ニも、可罷成哉與存、御中直申事候、必參會可申事ハ、後端山三途河邊た

大内家ノ事

大内義隆思慮ナク無道ヲ企ツル相良ヲ鬪負スルニヨリ毛利元就ノ案中ニ入ル

浦部表ノ儀ニツキ宮崎実相院ニテ吉凶ノ筮ヲ取ラス

近習ノ古莊・朽網・雄城氏等勸氣ヲ蒙リ國ヲ退

るべく候、笑候、如斯申事、八幡・愛宕・九万八千之軍神も御照覽、於御靜謐、御闕地濟々御座候する間、御取成にも可預など、欲心を臆意ニ持候て、非申儀候、當城堅固ニ持支、開運申候者、各不預御取合、不致訴訟候共、諸人之覺候之條、可預御加恩事、不可有餘儀候哉、若又及七十候而、構未練候者、子孫迄も可被差闕退儀候之條、何もかも不入儀候、唯々聊之儀も、上之御氣遣ニ相成候ハぬ様ニと存迄候、構而々々各御事も、内々如何程之御題目候共、被闕萬端無二無三ニ被仰合、此節御用ニ御立候て、御國家之御鬼魁を作られ、各も御名を可被揚後代事、可目出候、近年都鄙之諸大名歷々、失其御家々、追詰上下共滅亡候て、或傍輩を用主君、或牢人乞食之式ニ被罷成之輩者、數多く、如御存知大内家之事、さこそ都鄙に被取譽たる雖御家候、陶・相良間不和ニ罷成候根元、陶申所一々道理至極候處、義隆依御無思慮、企無道候相良を有御最負、悉被入毛利元就之案候事、眼前之儀候、見恰承給候時者、火之中、水之下迄も不被背順儀、屋形様を重被申、御傍輩中、世(悪)之題目等被差捨、涯分御國家を執御申候ハてと、申居斗候、

一浦部表之儀、歎息之餘、於宮崎實相院、景林與申易者候之間、至親貫被向御人數吉凶否之儀、筮取せ申候處、可急被召懸事、爲御吉事之由、トニ顯然之由候條、書付進上之候、所致天道、不可有疑候之條、千秋萬歲候、

一頃如批判者、近年御心安被召仕候、古庄右京入道兄弟・朽網市丞・雄城名字之者、彼是三四人蒙御勸氣、致國退之由候、又一説ニ申候者、御年寄中御面々中之依御申、右之四人被離御許容候様にも申候、爲如何子細ニ候哉、無御心元候、御若上薦様自然、御短慮ニ御折檻候とも、時分柄

安 岐 郷



大友義統ノ短慮ノ折檻タルトモ時分柄訛言アルベシ

上下ノ法利緩急ノ厚薄

戸次鎮連未練ノ覺悟ニオイテハ愚老詰腹致シ怨靈トナリ子孫ヲ絶ツベシ

與申、殊寸尺ニも不足少身者ともニ候間、各被遂詫言、先々被差止出仕、被召直候様ニ、被成御取合度儀候哉、若又世上如批判、各依御申、被離御許容候へハ、一入無御心元候、彼等以下之少身者共、爲何御失ニ可相成候哉、指緩急ハ、難有之候歟、奉公之寄退礪被仰含、被差堪忍候者、四人事も、難有別儀存候、連々各御油斷故、無思慮之族ハ、被召仕候を幸ニ存、あかりまちに差出申置候、右四人於筋目は、無餘儀者共ニ有之、少身とは申なから、御代々之辻候條、相應之御用等ニも、可罷立儀候間、能々被加御折檻、被召仕候而能比ニ被召仕候様ニ、御取合在之度儀候哉、於御内二者、御氣色次第、御代々者共、誰をも御心安、被召仕候へハの御事ニ候、御氣色ニ叶申候はんものを、各依御申、致卑下なと候へハ、上下之法利不可然候歟、又勿論緩急之厚薄、依様躰可申之條、依遠方中々不及申候、

一 鎮連<sup>(旨次)</sup>へ申候、先年於長尾、愚老碎手候砌、後付候而遠手火矢ニ血を被垂候、此節之儀者、御國家御大綱之砌候之條、涯分手前を被相勵、被蒙鎧疵、可被致名譽事、去とてハ不可有餘儀候、自然於未練之覺悟者、氏神八幡・愛宕・飯綱・麻利支天茂御照覽、愚老致切腹、惡靈ニ罷成、子孫を絶可申候、構々々抛一命、可被勵粉骨事、可目出候、

一 道路不輒砌候之處、長札之躰無氣遣之様、各可被思召候哉、彼飛脚無異儀可罷通様躰、卒與存旨候之間、銘々致書載候、御返事天山奉待斗候、嘉事、恐々謹言、

(天正八年) 二月十六日

志賀道輝<sup>(親守)</sup>

<sup>(旨次)</sup> 道雪

一万田宗擿(鎮忠)

戸次紹珊(統貞)

志賀道雲(鑑隆)

朽網宗策(鎮則)

戸次鎮連(清田)

鎮順(清田)

志賀鎮隆

戸次宗傑(鎮秀)

田北紹鐵(鑑吉)

志賀道易(親光)

朽網宗歴(鑑勝)

一万田宗慶(鑑光)

参人々申給へ

三〇三 奈多鎮基知行預ケ狀

○松原文書  
大分県史料一〇

当切寄ノ忠節ヲ  
賞シ亀川ノ地ヲ  
預ク

今度田原親貴、被奉對御國家、逆意之企、不及是非候、然者鎮基事(宗老)、以順儀之覺悟、此堺無事罷

安岐郷

成、千秋萬歲候、各別而辛勞故、當切寄差堪、満足此時候、雖爲少分、於龜川一所、預進之候、坪  
付別紙、可有知行、彌奉公干要候、恐々謹言、  
(余多)

鎮基(花押)

三月五日

松原甚介殿

二四 田原親家感狀

○大友家文書錄  
大分県史料三三

赤松切寄ノ軍勞  
ヲ賞ス

今度兩郷宗徒之諸士構未練、重々逆亂之躰、不及是非候、就夫到赤松。村、切寄取誘、惡黨楯籠之  
條、可討果之通、加下知候之處、取前懸合、頸一分捕之次第、忠貞無比類候、何様一稜可顯其志之  
間、彌可被勵軍勞事、肝要候、恐々謹言、  
(安岐・國東郷)

三月廿四日

親家在判

津崎兵庫助殿

二五 大友圓齋義・大友義統連署書狀

○吉弘鎮整文書  
増補訂正編年大友史料二五

大友勢出陣マデ  
雄渡牟礼ヲ救援  
セシム

就安岐郷之者手替、國東表無實所候歟、親家事、至雄渡牟禮登城之由候、寔無心元存候、惡黨行、  
雖不可有差儀候、鞍懸表堅固被相搦、肝要候、爰許勢家、急度可爲着陣之條、其間之儀、雄渡牟禮

江、別而可被添御心事、可爲祝着候、聊不可有油斷之儀候、恐々謹言、

(天正八年)

三月廿四日

(大友) 統 (花押)

(大友義統) (ローマ字) 圓齋 (朱印)

吉弘(統連)太郎殿

三〇六 大友圓齋義・大友義統連署書狀

○大友家文書錄 大分県史料三三

国東郷ノ田原親家ニ合方セシム

於其表在陣辛勞察存候、然者安岐郷之者就手替、(田原)親家事至雄渡牟禮、(國東郡)登城之由、到來候之條、當陣象之儀、木付迄差寄、木付新介被申談、右郷於差搦者、可爲國東表之加勢候、俄之籠城氣仕候間、彼狀到來候者、即時陳身肝要候、被得其意、聊不可有御油斷之儀候、恐々謹言、

(天正八年) 三月廿四日

(大友) 義 統 在判  
(大友義統) 圓 齋 朱印

田村作進殿(統順)

三〇七 田原親家感狀(紙切)

○壹嶋文書 大分県史料一〇

(包紙折封ツハ書) 一 壹嶋兵庫助殿

親家

安岐郷

赤松村切寄ニオケル軍忠ヲ賞ス

〔端裏切封〕  
〔墨引〕

今度兩郷宗徒之者共、構末練、惡黨等令同意、到赤松之村、切寄取誘楯籠之條、可討果之通、加下知候之處、則落去之刻、頸壹分捕之次第、忠貞無比類候、何様一稜、可顯其志之間、彌可被抽軍勞事、可爲祝著候、恐々謹言、

〔天正八年頃〕  
三月廿五日

〔田原〕  
親 家〔花押〕

萱嶋兵庫助殿

○田原親家花押ハ二五三号〔天正九年五月三日〕マデ同一類型。

二〇八 田原親家書狀〔紙切〕

○萱嶋文書  
大分県史料一〇

〔包紙折封ハ書〕  
一萱嶋美濃入道殿

〔端裏切封〕  
〔墨引〕

親 家

田原親貫ニ同心セズ軍勞ヲ励ムニヨリ御書ヲ下サル

今度當郷宗徒之諸士構末練、安岐郷惡黨令一致、錯亂之躰、不及是非候、然處其方事、從最前、別而以貞心之覺悟、於所々、被勵軍勞候次第、感悅無極候、因茲、從公儀茂、被成下 御書候之條、彌可被抽懇忠事、專一候、何様靜謐之刻、無忘却、一稜可顯其志候、爲御存知候、恐々謹言、

〔天正八年〕  
〔吳筆〕  
閏三月四日

〔田原〕  
親 家〔花押〕

萱嶋美濃入道殿

103 大友義統書狀

○大友家文書錄  
大分県史料三三

田原親家入郷以來ノ馳走ヲ賞シ田原親實討伐ニ合力セシム

親家登城已來、別而馳走之由、其間候、乍案中悅入候、殊安岐郷之者共、一雅意無止事之條、諸勢差遣、可討果之段、加下知候、雖。申迄候、當城倍以堅固□覺悟、至親家、可勵軍忠事肝要候、必取靜、可□□□□、恐々謹言、

(天正八年)

□□月十六日

(壬三五)

備前入道殿

(津嶋)

(大友) 義 統 在判

110 田原親家書狀(紙切)

○森文書  
大分県史料三五

味方トシテ懇忠ヲ励マシム  
宗龜ニ召仕ハル

其表之儀、被犯不慮之敵、案衆中嫗之儀、不羣是非候、併其方事、内々無相違之由候、一段喜悅之至候、宗龜已來、無等閑被召仕候由候之條、於于今茂無別儀候者、何様不可有疎意候、以此旨被顯懇忠候者、別而可成其志候、恐々謹言、

(天正八年)

壬三月廿一日

森與三右衛門尉殿

(森)

(田原) 親 家 (花押)

安岐郷

三二 田原親家書狀

○津崎真澄文書  
増補訂正編年大友史料二五

雄渡牟礼城ノ親家ニ対シ軍忠ヲ励マシム

度々如申候、(田原)親家登城以來、別而馳走深重之由、其間候、乍案中悅入候、殊安岐郷之者共、彌一雅意之企、無止事之條、諸勢差遣、右之惡黨可討果之段、加下知候、雖無申迄候、當城倍以堅固之覺悟、至親家可勵軍忠事、肝要候、必取鎮、可成其感候、恐々謹言、

(天正六年)  
閏三月廿六日

津崎大和入道殿

(天友)  
義 統 (花押)

三三 大友圓齋義書狀(紙切)

○田原達三郎文書  
大分県史料一〇

紹鉄討果サバ南郡衆ヲ安岐表ニ差向ク

猶(田也)紹鉄討果候者、以其競、南郡衆之事、自彼表直く安岐表へ、可差寄之由、兼而議定候條、此節者、不可有緩候、此間諸軍其表へ遅陳之儀も、彼者さハリ故、不成立候、其子細者、(田原)親家としても、存知有ましく候、紹鉄一人討果候者、諸方之覺、悉可相替候間、爰元才覺、聊非油斷候、濃々之儀、(兼田礼也)治右入まで、追而書ニ申候、可被得其意候矣、

一昨日朔書狀、昨日午剋着府候、則返事雖可申候、用物從日杵依召越、令遅々候、其元入用之儀候哉、任承銀子參貫目、調進之候、寔輒事ニ候、不限彼儀、何篇用所等、不被心置承、可得其意候、

書狀ニ答フ  
銀子三貫文調進

田北紹鐵成敗

熊牟礼ニ籠ル

南郡衆挾間村ヲ立ツ

当城ヲ堅持スベシ

然者田北紹鐵成敗入組之趣、此四五日前、帶刀宮内丞へ申合、差返候之處、此書面ニ無其沙汰候、

如何ニ候哉、然者紹鐵事、熊牟礼(舟籠部)と申山ほとりへ、俄取あかり、かゝミ居候て、言語道斷淺間敷躰

候、平生之口ニはたと替たる由、只今も到來候、南郡衆之事、一昨日ニ挾間村ヲ打立、昨日重々差

寄候由候間、今明日中可落去候敷、宇佐郡其外悪心之族、紹鐵誅伐付而、色立候哉、案中候、紹鐵

可討果事者、指掌候之條、吉左右不圖可申遣候、其間之儀事、當城用所第一候之條、夜白不可有油

斷之儀候、猶本彈正・立川主水申合候、恐々謹言、

(癸丑八年)

卯月三日

田原新九郎殿

○田齋朱印ノローマ字印章ハ、天正七ノ八年ノモノナリ。

(大友義統)  
圓齋(ローマ字)  
(朱印)

### 三三 大友義統感狀(切紙雁皮)

○帆足市太文書  
大分県史料二六

浦部表ノ在陣軍忠ヲ賞ス

今度至浦部表、在陳之儀申付候處、從最前馳走、殊度々動之刻、別而軍勞之次第、感入候、彌可勵粉骨事、肝要候、必取鎮、一稜可賀之候、

(癸丑八年)

卯月九日

(大友)  
義統(花押)

○充所ヲ欠ク。「碩田叢史帆足文書」ニハ「帆足九郎殿」トアリ。



安岐郷鍛冶屋名  
同久末内萩蘭名  
ヲ預ク

二四 田原親家知行預ケ狀

○大友家文書録  
大分県史料三三

今度親家<sup>(田原)</sup>在郷以來、一味中申談、抽懇忠候、剩<sup>(登城力)</sup>之刻、遂供奉候、別而馳走之次第、令承知候、雖少□候、爲其償、安岐郷之内鍛冶屋名三貫文、同郷久末之内萩蘭名之事、預進之候、全領知肝要之狀、如件、

天正八年五月三日

<sup>(田原)</sup>親家 在判

津崎<sup>(鎮兼)</sup>兵庫助殿

二五 大友圓齋<sup>義</sup>鎮書狀

○志賀正道文書  
大分県史料九

肥後小國表在陣  
ノ辛勞ヲ賞シ堅  
固ノ才覚ヲ命ズ

蒲池鎮並・赤星道半、申旨依有之、道雲事<sup>(志賀)</sup>、小國表江<sup>(肥後)</sup>、可爲在陣之由承候、炎天時分、別而辛勞察存候、先日、從義統預入魂候條、尤可然之由、令申候キ、右兩人被申談、每事堅固之御才覚、不及申候、浦部表<sup>(田原親賢之丞)</sup>之儀、急度可一着之間、方角衆之事茂聽而其塚江<sup>(南郡衆)</sup>、可被差寄候歟、於委細者、義統可加下知之條、不及口能候、仍油二筒送給候、遠方迄之音信、每々懇之儀、祝着候、猶重々可申候、

恐々謹言、

(天正八年)

六月四日

<sup>(大友義鎮)</sup>圓齋<sup>(ローマ字)</sup>  
(朱印)

志賀常陸入道殿 (盛隆、道憲)

二六 田原親家恩賞宛行狀

○岩藤文書  
連見泉日出町大字大神

去春入郷以來、別而含順路、馳走之條、爲其償、安岐郷之内、溝部後藤左衛門跡參貫文、同郷成安

藤九郎跡五貫文之事、令扶助候、倍守此旨、可勵勳功事、肝要候、恐々謹言、

天正八年  
六月五日

(田原)  
親家(花押)

永松四郎殿

二七 田原親家感狀(紙切)

○森文書  
大分県史料三五

「(端裏切封)  
(墨引)」

昨夜於里目、安岐惡黨取出候之處、早速懸付、被竭粉骨之通、神妙之至候、必取鎮、一稜可成其感  
候條、彌可被勵勳功事、肝要候、恐々謹言、

天正八年  
六月十九日

(田原)  
親家(花押)

岡部孫六殿

安岐郷

安岐惡黨現形防  
戦ノ忠ヲ賞ス

入郷以來ノ馳走  
ニヨリ安岐郷内  
ノ地ヲ扶助ス  
溝部後藤左衛門  
跡成安藤九郎跡

三六 大友圓齋鎮書狀

○荒木たけ文書  
増補訂正編年大友史料二五

親家ニ合力セルヲ賞シ安岐切寄取懸ニ軍忠ヲ励マシム

度々如申候、<sup>(田原)</sup>親家入郷以來、于今別而馳走之由、從親家切々依入魂、令承知、乍案中感悅候、然者、諸軍至安岐郷切寄、取懸候之條、各申合、彌勵軍忠、親家於作外聞者、愚老満足不可過之候、委細猶、岐部大膳入道江申合候、恐々謹言、

○天正六年  
七月十日

○大友義徳  
圓齋(朱印)

荒木傳兵衛尉殿

三九 大友家文書錄

○史料編纂所影写本  
大分県史料三三

安岐城ニ田原親貫ノ党拠ル

○天正六年七月  
号文書、  
中略、

安岐壘<sup>(田原)</sup>親貫黨所據也、津崎兵庫助

之、<sup>(大友)</sup>圓齋亦感田村統順軍功、授書、

○以下三三

安岐城合戦親貫党出壘シ襲フ

八月五日、親貫黨兵出壘、襲親家陣、津崎兵庫助力戦○十三日、鞍懸・攻戦絹懸口攻戦、大津留大膳亮被創、有功○義統、使厚彈正忠、名統英○。十五日、親貫黨又出壘。津崎兵庫助擊之、從士被創、親家兩回作感贖、義統<sup>亦</sup>授書厚氏。大津留氏<sup>一萬田氏、</sup>授大津留書雖在二、<sup>(十四日安岐壘合戦、一萬用左吉入道力戦、被創)</sup>襲之、

安岐切寄ニオケル忠貞ヲ賞ス

切寄構口ニ於ケル軍功ヲ賞ス

三〇 大友義統感狀(紙切)

○一万田文書  
大分県史料九

(包紙ウハ書)  
一 萬田左吉入道殿

前十四、至安岐切寄、取懸防戰之刻、其方依碎手、被疵之由候、忠貞之次第感悅候、必取鎮可賀申候、爲存知候、恐々謹言、

(天正八年九)  
七月十八日

(大友) 義統 (花押)

一 萬田左吉入道殿

○義統花押類型ハ天正八ノ九年ゴロモノナリ。

三一 田原親家感狀

○大友家文書録  
大分県史料三三

□十九、於切寄構口、頸一分捕之次第、忠意□□候、何様静謐之刻、一稜可賀之候條、彌可被勵□□事、可爲祝着候、恐々謹言、

(天正八年)  
七月十九日

(田原) 親家 在判

津崎(鎮兼)兵庫助殿

安岐郷

三三 大友圓齋義感狀

○大友家文書錄  
大分県史料三三

於其表長々在陳、殊近日者、至安岐切寄、諸勢依詰寄、夜白軍勞之由承候、心懸之次第、感悅候、就中從取前馳走之條、別而御辛勞察存候、彌可被勵忠意事、可爲祝著候、猶重々可申候、恐々謹言、

(天正六年)

七月廿日

(大友義鎮)  
圓齋 朱印

田村作進殿  
(紙腹)

三三 田原親家知行宛行狀(紙切)

○溝部石夫文書  
大分県史料二五

入郷以來ノ貞心ヲ賞シ知行ヲ宛行フ

入郷以來、別而貞心之覺悟、神妙候、仍爲其償、安岐郷之内、龍王名三貫分、同郷之内、手嶋大藏丞跡三貫分之事、加扶助候、彌守比旨、可勵軍忠事、肝要候、恐々謹言、

(天正六年)

七月廿一日

(田原)  
親家 (花押)

溝部縫殿助殿

三四 大友義統書狀

○問注所文書  
增補訂正編年大友史料二五

田原親實討伐ノ  
タメ朝見村ニ出  
陣

前廿、至當城、秋月以下之惡黨取懸候之刻、被遂防戰、惡逆之族、數多被討果頸到來、勝利之次第

感悅(無極カ)候、(金花)統虎・統景粉骨無比類候、彌可被勵忠貞事、賴存候、(由原親實之瓦)殊浦部表為閉目、(遠見郡)朝見村江寄陳

道途、旁以吉左右示給、祝着深重候、猶志賀(道)安房入道、可申候、恐々謹言、

(天正八年)  
七月廿四日

(大友)  
統 (花押)

問注所刑部太輔殿

三五 大友義統感狀(紙切)

○一万田文書  
大分県史料九

(包紙ウハ書)  
一 萬田左吉入道殿

義 統

安岐切寄一戰ノ  
粉骨ヲ賞ス

前十四、於安岐郷切寄一戰之刻、依碎手被疵之由、粉骨之次第感入候、彌可勵馳走事、簡要候、必取鎮、一段可賀申候、恐々謹言、

(天正八年)  
八月三日

(大友)  
統 (花押)

一 萬田左吉入道殿

安 岐 郷

三三 田原親家感狀

○大友家文書錄  
大分県史料三三

切寄悪黨取出ノ  
時ノ粉骨ヲ賞ス

去五、切寄悪黨取出候處、敢前懸合、別而被竭粉骨之通、寔心懸之次第案中候、彌此節可被勵忠貞

事、可爲祝著候、何様靜謐之刻、一稜可顯其志候、恐々謹言、

(天正六年)  
八月七日

(田原)  
親 家 在判

津崎(鎮雄)兵庫助殿

三七 大友圓齋義書狀

○予陽河野盛衰記  
愛媛県史料編古代・中世

武吉ニ飛脚ヲ遣  
スニヨリ染筆ス  
安岐切寄ニ対ス  
ル海上通路ヲ留  
ムベシ  
糧船安岐湊ヨリ  
切寄通用ノ証襖  
アリ

武吉家中上乘ノ  
由其ノ聞エアリ

累年申談ズル儀  
ト相違ス

至武吉、以飛脚申候之條、染筆候、今度其許上國之刻、始中終如申候、浦部表爲閉目、一勢差遣候、就中安岐切寄之儀、海上之通路、於不相留者、差堪儀茂可有之條、從其表往反之船、堅可被加制止事、連々、武吉可爲入魂之首尾之由申候キ、然處ニ、三日以前、糧船安岐之湊江、雖可推入催候、此方警固依取出、其儘推退候條、日出津(町、)趣付送相究候之處、至右切寄通用ノ證據等、顯然候、因茲、船頭舟子以下、則一途可申付之段、自義統陣所、雖申越候、武吉家中之人、上乘之由、其聞候之間、先以差延候、乍勿論、至上下之船、上乘之儀者、更不珍候條、不及口能候、當時取詰候於敵城、糧運送之船江、爲武吉家來、馳走無是非存候、雖然不能一屆、可討果事、累年武吉愚老申談

武吉内存承リタ  
シ

候續、相違之様候條、至義統者、強而令助言、以早船申候、武吉内存之旨、急度承、可得其意候、聊不可有油斷之儀候、恐々謹言、

(天正八年)  
八月十三日

(大友義統)  
圓齋判

鳴越中守殿

### 三六 田原親家感狀

○大友家文書録  
大分県史料三三

切寄悪黨取出ノ  
防戦ノ忠ヲ賞ス

昨日十五、切寄悪黨取出候之處、敢前懸合、別□□□□、殊郎從被疵之趣、忠儀無比類候、何様靜

顯其志候、恐々謹言、

(天正八年八月十六日)

田原  
親家 在判

(津崎兵衛)領雙  
□□□□助殿

### 三五 田原親家感狀(紙切)

○嘗嶋文書  
大分県史料一〇

(包紙折付ハ書)  
「嘗嶋新五兵衛尉殿

親家」

(端裏切付)  
「(墨引)」

切寄悪徒取出ノ  
時ノ軍忠ヲ賞ス

前十五、切寄悪徒等取出候之處、別而碎手則追籠、誠以軍忠之次第、感入候、何様靜謐之刻、一稜

安岐郷



安岐郷

1101

可賀之候、恐く謹言、

(天正八年九月)

八月廿日

(田原) 親家 (花押)

萱嶋新五兵衛尉殿

三〇 大友義統頸・手負注文一見狀(紙切)

○若林文書  
大分県史料三五

(大友義統)  
(花押)

敵船安岐切寄表  
二下ル  
室富口マデ追跡  
ス

天正八年八月廿日、從上表兵船立下、於安岐切寄表、懸合防戰、依被碎手、退散之刻、向地室富口(備防カ)迄付送、諸警固船歸津之砌、同廿二、若林中務少輔敵船一艘切取、鎮與自身分捕高名、其外親類被官討捕頸着到、銘く加披見訖、

野田彌右衛門

頸一

若林中務少輔(討之、)

小田原丹後

頸一

若林因幡守(討之、)

頸一

若林九郎兵衛尉(討之、)

頸一

幸野勘介(討之、)

頸一

丸尾新五兵衛尉(討之、)

頸一 合澤市介討之

被疵衆

首藤源介

三郎右衛門

五郎兵衛

太郎左衛門

已上、

三三 大友義統感狀(紙切)

○若林文書  
大分県史料三五

(包紙ウハ書)  
「若林中務少輔殿

(端裏切封)  
「(墨引)」

義統」

安岐浦合戦ノ軍  
勞ヲ賞ス  
防州合尾浦・予  
州火振島ノ分捕  
粉骨

今度従上表、兵船數十艘立下候之處、於安岐浦懸合防戰、依被碎手、即時退散之刻、向地迄付送、被盡軍勞、剩鎮興事、敵船一艘切取、自身分捕高名、忠儀無比類候、同親類被官銘々討捕頸、以着到承候之條、加袖判候、然者先年防州合尾浦(秋權浦)、殊於去年与州火振嶋茂、分捕被勵粉骨候、及度々心懸之次第、誠感悅無極候、自他之覺、不可過之候之條、向後不可有忘却候、仍刀一腰左進之候、委細竹田津雅樂助申合候趣、猶志賀安房入道可申候、恐々謹言、

安岐郷

安岐郷

(天正八年) 八月廿六日

(大友) 義統 (花押)

若林中務少輔殿

三三 志賀道輝親守副狀 (紙切)

○若林文書  
大分県史料三五

(包紙ウハ書)

若林中務少輔殿

志賀安房入道

道輝

(端裏切封) 一 (墨引) 一

安岐浦合戦ノ軍功ヲ賞シ御書腰物ヲ賜ハルヲ伝フ

今度至安岐表、兵船雖立下候、無指行引上候砌、各向地迄付送、被盡軍勞、就中鎮興爲一分敵船一

艘切取、數輩討果領進上、誠高名粉骨之次第、御感深重候、此等之趣、御書并御腰物一腰、被差

遣候、旁御面目之至珍重候、委細至竹田津雅樂助、被仰合候、恐々謹言、

(天正八年) 八月廿六日

(志賀親守) 道輝 (花押)

若林 (鎮興) 中務少輔殿

三三 田原親家書狀 (紙切)

○森文書  
大分県史料三五

萱大迄細書之趣、具加披見候、貞心之段、乍案中令祝着候、然者寄々被申談、此節可勵忠儀候、仍

忠節ニヨリ領地五十貫分ヲ扶助ス

領地等之事、所柄望次第、都合五十貫分可扶助候、聊不可有僞候、殊溝藏・溝後・藤左・深彈江書  
狀遣候、此外之衆江被申語、可顯心底事專一候、從其元書狀到來次第、猶可申遣候、恐々謹言、

(天正八年九)  
九月七日

(森藩)  
森與三右衛門尉殿

(田原)  
親家(花押)

### 三三 大友義統感狀

○大友家文書錄  
大分県史料三三

安岐切寄高櫓口  
防戦ノ粉骨ヲ賞  
ス

前十三、於安岐切寄高櫓口防戦、依被碎手、自身被疵之由、粉骨之次第、忠儀無比類候、殊僕從孫

三郎負手之由、旁以感悅無極候、彌可預御馳走事、肝要候、必取鎮、可賀申候、恐々謹言、

(天正八卷)  
九月十五日

(統應)  
田村作進殿

(大友)  
義統 在判

### 三五 安岐表御警固日記

○狭間田文書  
直入郡久住町白丹狭間田高義藏

(安岐カ)  
阿起表御警固日記之事

一天正八年七月從七日、同十六日迄、米壹石三升、ちんの銀子七拾貳匁、一日ニ廿四人(掛也)の覺□、か

て・ちん請取申候、

安岐郷

安岐城ニ対スル  
海上警備ノ日記  
ヲ記ス

一七月十七日より、同廿六日迄、一日ニ廿四人之覺悟、かて斗米壹石三斗、請取申候、ちんハ請取不申候、ちん之銀子七十貳匁、御未進、

一七月從廿七日、九月二日迄、一日ニ人數廿四人、ちん・かて我等取かへ申候、米三石七斗一升

□、但和市四升米之さん用、銀子百八十五匁五分、ちんの銀子貳百五十九匁二分(匁)歟、

此前合銀子五百拾六匁七分(匁)歟、

升まい舟日記

一九月六日より、同十五日迄、人數一日ニ、十八人之覺悟にて候(匁)、かて・ちん十日の分、請取申候、

三三 吉村掃部跡朝來田坪付

○吉村韓太文書  
増補訂正編年大友史料二五

吉村掃部跡ヲ同  
但馬守ニ預ク

(大友義統)  
(花押)

坪付

朝來田

(安岐郷カ)  
朝來田

吉村掃部跡

以上

天正八年九月廿日

吉村但馬守殿

三七 豊後國志

○國東郡  
古蹟

天正八年田原親  
貫叛シテ亡ブ

安岐城

在安岐郷安岐湊、田原泰廣後城于此、以移居、世相襲十五世、及親貫謀叛、戰敗而亡、大友宗麟使矢坂基太郎某守之、文祿二年、義統國除之後、豐臣關白賜熊谷内藏丞直陳居之、慶長中、關原之役、戰死于大垣城遂廢。

三六 田原親家安堵狀(紙切)

○森文書  
大分縣史料三五

(編裏切封)  
一(墨引)

田原宗龜一味郷  
内衆ヲ有免シ森  
了得ノ旧領ヲ安  
堵ス

今度郷内衆事、逆意之企、不穩便候、一途之御下知、雖深重候、悔先非、懇望候條、被成御有免候、因茲親家事、心底無別儀候、然上者、宗龜(田原親志)以來持留之地、聊不可有相違候、以此旨、可抽新忠事干要候、恐々謹言、

(天正八年)  
十月七日

(田原)  
親家(花押)

森伊賀入道殿  
(了得・重能)

三九 大友圓齋義鎮書狀

○問注所文書  
增補訂正編年大友史料二五

浦部表勝利之趣、其間候哉、早々敷示給候、祝着候、安岐切寄之事、昨日曉令一着候、以此競鞍懸

安岐郷

安岐城落去ノ祝  
儀ニ答ヘ情勢ヲ  
報ズ

近々日田マデ落  
向ノ覚悟

鞍懸表下知ノタ  
メ出陣スルモ落  
去次第白杵ニ帰  
ル

落去、不可有程候條、諸堺目可任存分事、指掌候、至中豊前茂、前三一行申付、敵領數多打崩候、然者寶滿・立花申談旨候、殊從其方茂、節々入魂之條、愚老事、急度日田郡迄可發足覺悟候、於于今者、當城可被遂本意事、無疑候條、珍重候、何様於其表可申談候、仍加力之儀付而、先日、從怒留湯主殿入道并日田郡衆茂申旨候間、得其意之由申候處、只今被申越候、彼使如存知、鞍懸表爲可加下知、彼方角迄越山候、落去次第、白杵へ可歸庄候、必其刻日田迄可申遣之趣、猶葛西周防入道余志可申候、恐々謹言、

(天正八年)

十月七日

問注(統愚)所刑部少輔殿

(天友義總)  
圓齋(口イマ字)  
(朱印)

二四〇 大友圓齋義書狀

○佐田文書  
熊本県史料中世二

鞍懸城攻略ノタ  
メ速見郡マデ出  
陣ス  
豊前野仲鎮兼反  
逆  
馳走ヲ賞ス

就安岐表一著、示給候、被添心候之次第、祝着候、雖然、鞍懸于今依相支、田原親家以出張、可打崩之由、申付候條、様躰爲可聞合、愚老事、爰元迄令越山候、堺目之儀、彌每事堅固之御格護、肝要候、殊今度、野仲未練之振舞、不及是非候條、先以、鎮兼領中一動之儀候、玖珠郡茂、加下知候余佐處、當郡衆前三、同前有馳走、一兩所取崩、勝利之由候、每々馳走之趣、感悅候、今程者、此方角江、可滞在之條、切々可申談候、仍理一送給候、喜悅候、猶重々可申候、恐々謹言、

(天正八年)

十月八日

(天友義總)  
圓齋(朱印)

佐田彈正忠殿

二四二 大友圓齋義・大友義統連署感狀

○大友家文書錄  
大分県史料三三

〔柴田礼能・久三  
父子ノ調略ヲ賞  
ス〕

〔親父筑前入道依調略、其方〕 〔城之儀、寔親子同前之忠貞〕 〔無事  
申調候上者、可爲暫時之儀候、〕 〔事、親類同心之仁申進、睨在城肝要候、〕 〔馳走、  
永不可有忘却候之條、何様追而可顯〕 〔候、恐々謹言、〕

〔天正八年〕  
十月十日

〔大友〕  
義 統 在判

〔大友義鎮〕  
圓 齋 朱印

〔統德〕  
柴田久三殿

〔柴田礼能父子ノ  
勸告ニヨリ安岐  
城兵降ル〕

○『大友家文書錄』綱文ニ「○□□□□黨降、初柴田筑前入道禮能教之、勸乞和、以□□□□出久三共、同族登安岐疊、而  
及于此、義統與圓〔統〕書於久三、」トアリ。

二四三 大友義統書狀

○鹿子木文書  
熊本県史料中世一

〔端裏切封〕  
〔墨引〕

〔親貫〕  
急度染筆候、數度如申候、田原右馬頭依惡逆、加誅伐之下知頃、鞍懸・安岐兩城令落去、於于今

〔田原親貫ノ鞍懸  
安岐兩城ノ陷落  
ヲ告ゲ肥後方面〕

安岐郷



ノ一行ノ調儀ヲ  
為サシム

者、彼堺無殘所屬案裏、本望候、然者其表之儀、(合也)親爲被申談、一行之御調儀、可爲此節候之趣、猶

志賀安房入道・朽網三河入道可申候、恐々謹言、  
(天正八年)  
十月十四日

(大友)  
義統(花押)

鹿子木三河入道殿

二四三 大友氏加判衆連署奉書

○大友家文書錄  
大分県史料三三

鞍懸・安岐兩城  
落去ヲ告ゲ其表  
ノ調儀ニ油斷ナ  
カラシム

數度如被仰出候、田原右馬頭(親賢)依惡逆、誅伐之儀、堅被加 御下知候之故、鞍懸・安岐兩城令落去候  
之條、於于今者、彼堺無殘所、被屬 御案裏、千秋萬歲候、然者其表之儀、無油斷、以御才覺一行  
之調儀、可爲此節之由候、委細以實相坊豪意法師、被遂御入魂候之趣、猶右寺可有演說之條、不能

一二候、恐々謹言、

(天正八年)  
十月十四日

(志賀親守)  
道輝 在判  
(朽網隆康)  
宗歴 在判

阿蘇殿(推押) 御宿所

二四 高橋紹運鎮書狀

○五条文書  
増補訂正編年大友史料二五

追而、雖左少之至候、爲中途計略、樽一雙進覽候、殊生鮭一疋、令進入候、於爰元者、珍物候、御賞玩可目出候、

態用飛脚候、早晚御報被成、心外之至候、

肥後表、近方ノ立柄

一肥後表并御近方之立柄、銘々示預度由、如風聞者、近々日田郡迄、御着陣之由候、誠不勝萬勢候、於事實者、堺目之様躰、無御腹藏被成御申、又被請御下知、彌御馳走此時候、申茂疎候、

被懸・安岐切寄落去

一鞍懸竝阿岐郷切寄落去之由承、尤目出存候、貴國中も耽御靜謐候之條、此(上カ)者、御(上カ)難有御油斷存候間、三ヶ年之粉骨、不屬無極ニ才覺不存緩候、

豊前表

一豊前表過半、時洩(マ)可然申調候、於御着郡者、何様其手廻、可爲顯然候、

はやりノ甲ヲ調へ進ズ

一御息統康、當時津内へはやり申候甲、御望之由候哉、忍富へ心懸之由承候間、乍聊爾差進申候、

雖難相御氣象候と、調置候條、進覽候、ためしにては、無御座候間、斟酌深重候へ共、方角之はやり物に候之間、如此候、さてく在國以來、相互不通相過、無念千萬ニ候、此節御國家之御重寶、殊御内意之趣、富加入折々物談承、御憑敷存候、何様互ニ無御隔心申談度候、於御同意者、可爲満足候、

一豊州へ被遂言上、約取合之方大心之段、卒度傳承候、就夫道雪致内談、兩人覺悟之趣、以前紙申

安岐郷

安 岐 郷

二二二

入候、若輩種々推參之申事、却而御入慮難計候、向後、無二三可申談内存之條、如此候、萬賀、恐々謹言、

(天正八年)

十月廿七日

(五卷)

鎮定公 參人々御中

(高橋敏種)  
紹 連 (花押)

○『五條家文書』(『史料叢集』)ニ見エズ。

### 三三三 田原親家知行預ケ狀

○溝部文書  
別府大学文学部日本史教室蔵

溝部平四郎先給  
分ノ上表ヲ賞シ  
別ニ安岐郷内ノ  
地ヲ預ク  
松木某先給分草  
場名七貫分須賀  
之允三貫分

連々以無足之上、辛勞之儀候之間、溝部平四郎先給分、雖申付候、切寄任順並、口能申聞候之處、速上表之段、神妙候之條、則安岐郷内松木清兵衛尉先給草場名七貫分、并須賀之允三貫分之事、不殘段歩預遣候、云下地、土貢与云、全有知行、彌可被勵奉公之狀、如件、

天正九年二月五日

(田原)  
親 家 (花押擦消)

溝部孫左衛門尉殿

○切封ノ跡ヲ存ス。

二四六 宗濶・淨仙等連署奉書

○萱嶋文書  
大分県史料一〇

(包紙折封ウハ巻)  
一 萱嶋美濃守殿  
(同裏)

淨仙  
連署

(鑑察印封)  
一 (墨引) 一

本領ヲ還補サレ  
シヲ報ズ

本領之儀、此節被成還補之由、被 仰出候、尤珍重候、彌可被抽粉骨之儀、干要候、恐々謹言、

(天正九年九)  
三月十九日

淨仙 (花押)

宏恆 (花押)

秀兼 (花押)

宗柏 (花押)

宗濶 (花押)

萱嶋美濃守殿

二四七 大友圓齋義鎮書狀

○萱嶋文書  
大分県史料一〇

(包紙ウハ書)

(墨引)

安岐郷

安 岐 郷

萱嶋美濃守殿

圓 齋

馳走ヲ賞シ先判  
ヲ披見スルヲ告  
グ

(田原) 親家入郷以來、別而馳走之由、感入候、殊其方於先祖茂、順路之覺悟故、(大友) 親治・義鑑證判等遣之候

趣、加披見候、向後彌、勵貞心肝要候、恐々謹言、

(付箋)  
「天正九」

卯月六日

(大友義鎮)  
圓 齋 (朱印)

萱嶋美濃守殿

三六 田原親家知行預ケ狀(紙切)

○萱嶋文書  
大分県史料一〇

(包紙折封ウハ書)  
一 萱嶋美濃守殿

親 家

(端裏切封)  
「(墨引)」

国東郷入部以來  
ノ貞心ヲ賞シ安  
岐郷内ノ地ヲ預

入郷以來、別而貞心之覺悟、感入候、殊馬方之儀、申付候之處、一段心懸令悦喜候、然者安岐郷  
内、太郎丸名拾貫分之事、預遣候、以此旨、倍馬方之事、馳走可爲祝着候、恐々謹言、

(天正九年カ)  
卯月十二日

(田原)  
親 家 (花押)

萱嶋美濃守殿

家督ヲ女子ニ申付ケ田原親宏以來ノ地ヲ安堵ス

董能一跡ヲ息女ニ申付ケ所領ヲ安堵ス

二四九 田原親家安堵狀(紙切)

○森文書  
大分県史料三五

其方家督之事、至女子申付候、妻合之儀、池邊市助江、加下知候、筋目相應之奉公、無緩載判肝要候、宗龜以來之地、彌不可有相違候、爲存知候、恐々謹言、

卯月十三日

(田原) 親家(花押)

森伊賀入道殿

三五〇 田原親家一跡安堵狀(紙切)

○森文書  
大分県史料三五

(臨裏切封) 「(墨引)」

森伊賀入道一跡之儀、名字連續、并息女以妻合、無緩奉公肝要候、宗龜以來拘地、不可有相違候、恐々謹言、

卯月十三日

(田原) 親家(花押)

森木工助殿

安岐郷

三三 田原親家知行預ケ狀(紙切)

○宮永氏藏津崎文書  
大分県史料一〇

隠居辛勞ヲ賞シ  
久末内ノ地ヲ預  
ク

爲隠居之上、不退辛勞之段感入、先以久末之内、護聖寺・末延・猿部三ヶ所之事、一圓預遣候、全領知肝要候、恐々謹言、

天正九年

卯月十七日

(田原) 親家(花押)

津崎大和入道殿

三三 萱嶋宏籌・木田頼直連署打渡狀(紙切)

○萱嶋文書  
大分県史料一〇

(包紙ウハ書)

「萱嶋美濃守殿

頼直」

(同裏)

木田長門守

萱嶋美作守」

(端裏切封)

「(墨引)」

本領太郎丸拾貫  
分ヲ打渡ス

當郷之内、太郎丸拾貫分之事、爲御本領之間、御拜領尤目出度存候、彼在所不殘反歩、打渡申候、爲御存知候、恐々謹言、

(奥筆) 天正九年

卯月廿七日

(木田) 頼直(花押)

萱嶋美濃守殿

(萱嶋) 宏 籌 (花押)

三三 田原親家知行宛行狀

○岩藤文書  
速見郡日出町大字大神

(端裏切封) 「(墨引)」

雄渡牟礼ノ判形ニ任セ成安藤九郎跡ヲ扶助ス

於雄渡牟礼(國東郡)、任判刑之旨、成安藤九郎跡、加扶助候、給分本郷大添有之、全令領知、彌奉公肝要候、恐々謹言、

天正九年 五月三日

(田原) 親 家 (花押)

佐藤右京允殿

三四 宗柏外五名連署書狀(紙切)

○萱嶋文書  
大分県史料一〇

(包紙折封ウ、書) 「萱嶋美濃守殿」  
(同裏)

淨 仙  
連 署

(端裏切封) 「(墨引)」

本領太郎丸名ノ裁許ヲ賀シ一層

安岐郷内太良丸名拾貫分之事、任本領筋目、此節被請 御裁許之由、最珍重候、以此旨、彌可被遂

安 岐 郷



安岐郷

二二八

馳走ヲ励マシム

馳走事、專一候、恐々謹言、

天正九  
五月廿三日

淨仙 (花押)

宏恆 (花押)

統兼 (花押)

宏籌 (花押)

鎮輔 (花押)

宗柏 (花押)

萱嶋美濃守殿

二五 田原親家家督安堵并恩賞宛行狀 (紙切)

○萱嶋文書  
大分県史料一〇

〔包紙ウハ巻〕  
一 萱嶋龜壽殿

親家

〔端裏切封〕  
一 (墨引) 一

祖父宏次家督ヲ  
安堵シ太郎丸名  
ヲ加恩ス

祖父美濃守宏次家督之事、至面々、可爲相續之由、成裁許畢、殊去春已來宏次事、以無二之覺悟、忠意粉骨之次第、無比類之條、安岐郷之内太郎丸十貫分之儀、任筋目、令加恩候儘、彌以、可被抽

懇忠之狀、如件、

天正九年十月十八日

(田原) 親家 (花押)

萱嶋龜壽殿

○以下出原親家花押ハ、二六六号（天正十三年正月廿日）マデ同一類型ナリ。

二五 宏壽打渡狀（紙切）

○入江文書  
大分県史料一〇

（墨引）「」

当郷船頭拘分屋敷ヲ打渡ス

當郷船頭拘分屋敷之儀、任 上意渡進之候、則御知行肝要存候、恐々謹言、

十二月廿三日

宏 壽（花押）

如法寺式部少輔殿（親並）參進覽候、

二五 大友府蘭義名字狀

○萱嶋文書  
大分県史料一〇

（墨引）「」

鎮貞ノ字ヲ与フ

對親家（由原）、連々別而馳走之由、感入候、仍一字之事、鎮貞遣之候、恐々謹言、

三月廿三日

府 蘭（大友義並）（花押）

萱嶋美濃守殿

安 岐 郷

三六 田原親家感狀(紙切)

○森文書  
大分県史料三五

(簡裏封)  
一(墨引)

去年十一月廿日、於宇佐表勵粉骨、忠貞之次第、無比類候、殊今度、時枝切寄廻、兩日相動、碎手之趣、究淵底候、乍案中、到兩陳心懸之段、神妙候、必追而、可顯其志候之間、倍馳走干要候、恐々謹言、

(天正十年)

五月三日

(田原)  
親 家(花押)

森伊賀入道殿  
(字得・重能)

○本文書及ビ次号ハ、天正九年十一月十九日田原親家等、豊前宇佐宮ヲ焼クコトニ係ルカ。

三五 田原親家感狀(紙切)

○萱嶋文書  
大分県史料一〇

(簡裏封)  
一(墨引)

(包紙折封ウハ書)  
一萱嶋美濃守殿

親 家

宇佐表ノ粉骨及  
ビ時枝切寄ノ辛  
勞ヲ賞ス

去年十一月廿日、於宇佐表、各勵粉骨、忠貞之次第、無比類候、殊今度時枝切寄廻、兩日相動、碎手之趣、究淵底候、乍案中、到兩陳心懸之段、感悅候、必追而、可顯其志候之間、倍馳走肝要候、

恐々謹言、

(天正十年九)

五月三日

萱嶋美濃守殿

(田原)  
親家(花押)

三〇 田原親家官途狀

○松原文書  
大分県史料一〇

所望ニヨリ久右  
衛門尉ニ任ス

依望、任久右衛門尉之狀、如件、

天正十年

五月廿七日

松原甚助殿

(田原)  
親家(花押)

三一 田原親家恩賞宛行狀

○松原文書  
大分県史料一〇

当郷内ニ三段ノ  
地ヲ宛行フ

爲海邊覺悟、兩切寄取付候間、別而馳走、可爲祝著候、然者於當郷中、三段地加扶助候、倍於粉骨之心懸者、彌可賀之候之趣、萱嶋美作守可申候、恐々謹言、

(天正十年)

六月廿八日

衣原紀右衛門殿

(田原)  
親家(花押)

安岐郷

三三 大友義統一跡安堵狀寫

○永松栄雄文書  
札幌市中央区北十四条西十五丁目

永松鎮永一跡ヲ  
安堵ス

親父勘解由允鎮永一跡之事、任相續之旨、領掌不可有相違候、恐く謹言、

(天正十年九月)  
八月十六日

義 統 御 判 (花押影)

永松与七郎殿

○「永松氏家録」モ同一文書。花押影アリ。

三三 大友義統名字狀寫

○永松氏家録  
三鷹市下連雀四ノ四ノ二六永松幹男藏

名字ヲ与フ

名字之事、以別紙認進之候、恐く謹言、

(天正十年)  
八月十九日

(大友)  
義 統 判 (花押影)

永松与七郎殿

三四 大友義統加冠狀

○永松氏家録  
三鷹市下連雀四ノ四ノ二六永松幹男藏

(包紙)  
「御書出

永松下野守」

加冠  
一 紀統永ニ加冠シ  
一字ヲ与フ

加冠

名字事

紀統永

天正十年八月十九日

三五 田原親家知行宛行坪付

○松原文書  
大分県史料一〇

坪付

(田原親家)  
(花押)

おませ狩窪ニ在之、  
ヲ宛行フ

一所 參段

おませ狩窪ニ在之、

以上

天正十年  
九月廿日

松原久右衛門尉

三六 田原親家名字書出

○壹嶋文書  
大分県史料一〇

加冠シ家次ト名  
乗ラシム

加冠

家次

天正十三年正月廿日

(田原) 親家 (花押)

安岐郷

安岐郷

萱嶋七郎殿

三二四

三六七 田原親家知行預ケ狀(紙切)

○森文書  
大分県史料三五

(簡裏切封)  
「(墨引)」

船頭寄合屋敷代  
地トシテ清山名  
内ノ地ヲ預ク

船頭寄合屋敷爲代地、一所參段、清山名之内、狹間田并島地壹反、預進之候、可有知行候、恐々謹言、

三月十日

(田原)  
親家(花押)

森木工助殿

○清山名ノ所在未詳。シバラク安岐郷ニ収ム。以下ノ田原親家花押ハ二八四号マデ同一類型ナリ。

三六八 田原親家書狀

○萱嶋文書  
大分県史料一〇

馬方ヲ馳走セシ  
メ入草等裁判セ  
シム

馬方之儀、申候之處、佗言之段、無餘儀候、雖然、案内者之事候間、可預馳走儀、頼入候、多年辛勞之續、聊非忘却候、然者入草以下之事、堅固之裁判、不及申候、恐々謹言、

十一月八日

(田原)  
親家(花押)

萱嶋美濃守殿

三六 田原親家書狀(紙切)

○萱嶋文書  
大分県史料一〇

〔包紙折封ウハ書〕  
萱嶋七郎殿

〔端裏切封〕  
「(墨引)」

親家

本意ノ上一跡ヲ  
安堵ス

祖父美濃守一跡之事、至其方、連續之由候、萬一於遂本意者、領掌不可有相違候、恐々謹言、

十二月八日

〔田原〕  
親家(花押)

萱嶋七郎殿

三七 田原親家知行宛行坪付寫

○内田文書  
熊本県史料中世二

〔包紙ウハ書〕  
「内田大隅守殿

親家

安岐郷内ノ地ヲ  
宛行フ

〔田原親家〕  
(花押影)

坪付

竜王名

安岐郷之内  
一所三貫分

龍王名

向瀬

國東郷之内  
一所

向瀬

賀茂川

安岐郷之内  
一所拾貫分

賀茂川

安岐郷



安岐郷

同郷之内

一所五貫分

伊東壹岐守跡  
同出羽守跡

以上

天正十六年正月廿七日

内田大隅守殿

三三 奈多氏奉行人堀紹覺書狀(折紙)

○朝見八幡宮文書  
大分県史料一一

音信物ヲ謝シ白  
布ヲ送ル

從福嶋大夫殿、鎮董夫婦年少所迄、御音信物銘々申聞候、其方御存知之様、不慮之仕合、不及是非候、就夫、御返事不被申候、雖輕少候、從私白布壹束、令進入候、彼是可(以下折返)然様、可預御心得事、賴存候、恐々謹言、

堀右京入道

五月六日

紹覺(花押)

(果筆)

一是ハ、北浦邊奈多殿御奉行入より、被下候折紙也、

御師代殿

御旅所

○年次未詳。仮ニココニ収ム。

二五 天正十六年參宮帳寫

○後藤作四郎文書  
大分県史料二五

(表紙ウハ書)

「天正十六年 參宮帳」

(中扉ウハ書)

「天正十六年

豊後國惣國

福嶋大夫

肥後國惣國

御參宮帳

豊前宇佐郡

日向土持庄

略○首

安岐郷

天正十七四月(安岐)

豊後國崎あき郷

渡邊忠次郎殿

略○中

安岐郷にしもと

天正十八年二月二日(安岐)

、豊後北浦邊あきの郷にしもとの

一人梅友庵

略○中

奈多の里

天正十八年七月廿日

豊後北浦邊なだの里りんさう坊一人

安岐郷

安岐郷

奈多衆

天正十八年七月廿一日  
、豊後北浦邊奈田衆二人 同あきの郷衆二人

佐野一左衛門殿 與助殿

あきの枝本善九郎殿 同又二郎殿

○中略

安岐郷西本・中村

、豊後北浦邊あきの郷かん五郎殿 甚三郎殿  
西本 中村

○下略

(脚語)  
一右天正十六年参宮帳

豊後國大分郡乙津村後藤作四郎藏本、明治二十年十一月編修久米邦武文書探訪ノ時、大分縣廳ニ托シテ之ヲ謄寫ス、

○以上国東郡安岐郷關係ノミ抄出。全文ハ全卷末「豊後總國史料」ニ収録ノ予定。

二七三 大友吉統官途狀寫

○永松栄雄文書  
札幌市中央区北十四条西十五丁目

軍左衛門尉ノ官途ヲ与フ

軍左衛門尉所望之由、可存知候、恐々謹言、

(大友)  
卯月一日

永松甚左衛門尉殿

(大友)  
吉 統 御判 (花押影)

○「永松氏家録」モ同一文書。花押影ヲ付ス。

奉行ニ任ジ國東  
郡間別錢ヲ徵納  
セシム

二七四 大友吉統書狀(紙切)

○竹中家文書  
大分市吉野下志津留諏訪一男藏

國東郡間別之儀、號直納、不動之人、歴々在之之由候、不及是非候、既各爲奉行差遣候上者、堅固  
被請取、急度調納專一候、猶永富與右衛門尉・古庄喜右衛門尉可申候、恐々謹言、

(天正十八年乙)  
八月十九日

(大友)  
吉 統(花押)

○宛書ヲ欠クモ、次ノ包紙ハ本文書ノモノカ。「竹中宮内少輔」ニ関スルモノナルベシ。

一「包紙ヲハ書」  
竹中宮内少輔殿

都甲兵部少輔殿

帶刀安藝入道殿

二七五 豊後國檢地目錄案

○西塞多神社文書  
大分県史料二五

豊後國御檢地目錄

一分米高三萬九千八百五拾六石壹斗壹舛

國東郡

一分米高貳萬九千貳百七拾八石八斗壹舛

速見郡

一分米高貳萬七千百三拾六石七斗

海部郡

安岐郷

大友吉統豊後國  
檢地目錄ヲ増田  
長盛ニ進ス  
國東郡

安 岐 郷

一分米高三萬三千八百五石貳舛

大野郡

一分米高貳萬四千十四石八斗九舛

直入郡

一分米高壹萬九千九百廿八石八斗五舛

玖珠郡

一分米高貳萬貳千四百廿五石五斗四舛

日田郡

一分米高三萬八千三百四十四石八斗九舛

大分郡

以上

右合廿三萬四千七百九十貳石壹斗

此外鹽高千三百廿八石壹斗貳舛

右米鹽之都合廿三萬六千廿石貳斗貳舛

右內三千九百四石六斗九舛、荒地在此、

天正十九年<sup>辛卯</sup>八月吉日

增田右衛門尉殿

羽柴豊後侍從  
吉 統

二七六 豊後國諸侍着到帳寫

○武内本・中島本  
大分県地方史一〇八

(表紙)  
「豊後國着到帳」

豊後國諸侍着到帳次第  
不同

○首三百五十一人及ビ改  
珠郡衆八十五人交名略。

國東郡衆

眞玉太郎

富來平作

岐部平太夫

波多勘八

都甲八郎

古庄彌次郎

竹田津忠兵衛尉

伊美上野入道

永松内藏頭

荒木傳右衛門尉

岐部虎三

竹田津右京亮

帶刀安藝入道

岐部三橘

安 岐 郷

竹田津橋左衛門尉

古庄傳右衛門尉

吉弘久三

久保十右衛門尉

吉弘掃部助

姫嶋半右衛門尉

上野左介

吉弘新五郎

都甲助右衛門尉

西郡織部助

吉弘傳内允

荒木右近允

荒木三五兵衛尉

伊美勘允

吉弘彌十郎

姫嶋掃部助

田原進士允

久保大藏少輔

田染式部少輔

吉弘彈正入道

田原備後守

岐部宮内左衛門尉

俣見七郎

都甲左京入道

○以下日田郡衆百十二人・由布院衆二十九人・戸次衆六十六人・  
高田庄衆十四人・山香郷衆六人・緒方庄衆二十三人・井田郷衆四

安 岐 郷

人・宇田枝衆十人、  
野津院衆十七人略。

右大友松野氏所藏之秘本也、

應大村源内勝安之需、謄寫之、

延享丁卯季冬日

財津太郎右衛門永倫

右着到人數

三百五十一人

八十五人

三十八人

百十二人

二十九人

六十六人

十四人

六人

二十三人

玖珠郡衆

國東郡衆

日田郡衆

由布院衆

戸次庄衆

高田庄衆

山香郷衆

緒方庄衆

四人

十人

十七人

都合七百五十五人

右者、日田郡藤山村庄屋財津忠左衛門於熊本書寫、

予又寫之、

明和元甲申初冬吉日

佐藤新七閻眞

○芥川龍男氏發見ノ「武内本」(日田市武内俊雄藏)・「中島本」(大牟田市中島輝男藏)ヲ同氏が校合シ、「武内本」ヲ最良質ノ写本トシ、同本ノ二頁分三十二人ノ脱落分ヲ「中島本」ニヨリ、補正シタモノデアル(「豊後諸侍着到」の復原と伝存事情)『大分県地方史』一〇八)参照。

三七 大友家義統國東郡士交名

○豊後檢地記  
太宰管内志下

國東郡ノ領主ノ  
交名ヲ注ス  
奈多直基

大友家義統國東郡ノ士、門司勘解由源親家田原右馬頭親實之跡・田原民部大輔源親茂田原近江守親實入道

也之弟・吉弘嘉兵衛尉統運・奈多左衛門字佐ノ直基・眞玉掃部助源統寬・古庄右馬助源長方・高田伊

賀守源正孝・富來雅樂助・田深刑部少輔字佐統公・都甲左衛門大夫神大・伊美伊賀守・竹田津右衛門

尉藏大・田原備後守源親昌・吉廣掃部助統定・富來右馬助・永松内藏頭・小原彦右衛門・櫛來佐渡

守・田原新九郎・田深新五右衛門佐字・如法寺山城守・岐部左近大夫・俣見新六郎・草地伊豆守・竹

田津伊豆守・岐部掃部助・吉弘内藏助源・永松若狹寺(守之)・都甲兵部少輔神大・吉弘勝右衛門・永松勘解

由允・露太郎次郎・河野民部少輔智越道置・小田原又右衛門・高田美作守源鎮孝・田原進士允・古庄

喜右衛門・帶刀伊豆守・岐部山城守・古庄甚左衛門・後藤因幡守・富來權太・富來作右衛門・帶刀

民部丞・吉弘與佐衛門(守)・首藤右見守・姬島丹後守・藤木傳右衛門・河野平次郎・錦織土佐守親種・

雄城若狹守大神惟光・小串六郎右衛門大神ノ種□・佐藤伊賀守藤原(守)・衛藤新左衛門・津島四郎・櫛

木土佐守・河野勘五郎・曾根崎因幡守・濱田忠左衛門・岩屋掃部助・小田原孫太郎・經清太郎・重

藤小四郎、



高麗陣ニ於ケル  
軍勞ヲ賞ス

父家理ノ高麗參  
陣ノ忠ヲ賞シ仁  
與秋丸十五貫分  
ヲ安堵ス

三六 大友吉統感狀寫

○永松氏家録  
三鷹市下連雀四ノ四ノ二六永松幹男藏

於今度高麗國、其方事寂前以來、遂在陣、別而軍勞、殊折々分捕高名之段、粉骨之次第、感悅無極候、彌可被勵馳走事、肝要候、必歸朝之刻、何様一稜可賀之候、恐々謹言、

(文藝元年カ)  
卯月九日

(大友)  
吉 統 御判 (花押影)

(龜重、統世)  
永松内藏頭殿

三五 田原親英安堵狀

○森文書  
大分県史料三五

(端裏切封)  
一 (墨引) 一

(家理)  
父六九事、今度以無足之上、到高麗國參陣、忠勲之次第、誠盛悅無極候、然者本領之内、仁與秋丸十五貫分之度、連續不可有相違候、取鎮候者、知行肝要候、恐々謹言、

文祿元年五月八日

(田原)  
親 英 (花押)

(安盛)  
森 龜霸殿

高麗在城ノ忠節ヲ賞ス

音信樽料ヲ謝シ  
牢籠ノ辛勞ヲ慰ス

二八〇 大友吉統感狀寫

○永松氏家録  
三鷹市下連雀四ノ四ノ二六永松幹男藏

今度長ク在城、辛勞之儀、不及申候、仍其方事、分捕高名之由、感入候、心懸之次第、案中候、彌可勵馳走事、肝要候、何様歸朝之砌、可賀之候、恐ク謹言、

(文祿元年カ)  
十二月廿三日

(大友)  
吉統 御判 (花押影)

○宛名ヲ欠ク。「永松内藏頭」条ニツキ、同人宛ナラン。

二八一 大友宗巖<sup>吉</sup>書狀寫

○永松栄雄文書  
札幌市中央区北十四条西十五丁目

爲音信樽料送給候、寔志之次第、祝着深重候、今度不慮之仕合付而、差分候事、無是非存候、於其表辛勞之段、令推量候、雖不及申候、各被申談、堅固之覺悟肝要候、猶岐部左近入道可申候、恐ク

謹言、

(文祿二年カ)

七月廿二日

(大友吉統)  
宗巖 御判 (花押影)

永松内藏頭殿  
(雜色)

安岐郷

三三 田原親家書狀(紙切)

○森文書  
大分県史料三五

(端裏切封)  
一(墨引)

本意ノ上ハ五十  
石ヲ扶助ス

今度至高麗國渡海之處、近年以無足之上、爲見廻罷渡之段、神妙之至候、就中以心懸、分捕高名之次第、感悅之至候、殊 御國家覺外之成立、不及是非候、雖然、御本意不可有程之條、於然者、五拾石可申付候、以此旨、彌可勵忠貞事、肝要候、恐々謹言、

(文祿二年)  
七月廿四日

(田原)  
親家(花押)

森與左衛門尉殿  
(家理)

三三 森與助上表地坪付案

○森(同氏系図)文書  
大分県史料三五

坪付

森與助上表之地

仁与名

一所拾貫分

仁與名

一所三貫分

東方寺

嶺のまへ

嶺のまへ

一所壹段廿歩

(高取)  
神五郎拘

以上、

文祿二年九月一日

森與左衛門殿

二六 田原親家一跡安堵狀(紙切)

○森文書  
大分県史料三五

(編纂切封)  
「(墨引)」

順路ノ馳走ヲ賞  
シ一跡ヲ安堵ス

今度一家不慮之成立候之處、其方親子順路之以覺悟、別而馳走、誠感悅之至候、然處、備中進退慮  
外之仕合、不及言語候、乍勿論、一跡之儀、任宏清申旨、不可有相違候、全領掌肝要候、恐々謹  
言、

(文祿二年九)  
十一月十四日

(田原)  
親家(花押)

森六允殿  
(家型)

補遺

一 田原親賢書狀案

○水弘文書  
大分県史料六

(編纂切封)  
「對」社自親賢書狀案文」

安岐郷

到津方ト奈多鑑基トノ確執

到津公澄隱居

態令啓候、仍到津方と奈多鑑基去年以來、就被申結題目、一社中以御同心、鑑基不快候、雖無餘儀候、於于今者、被止先訴、相□和談、御國家長久之御祈禱可爲專一候段、鑑基江寄々加助言候處ニ、過半親賢申事江同意候、然者公澄御事者、被號陰居、息公憲各御同前ニ、鑑基可申談之由候、御下知と、社奉行と云、如何昧之御存分等共共、急度落著之御返事、於我等、可爲本望候、此等之儀、必以使者可申達候、先く建榮内く可有傳達候段、令申候、爲御存知候、恐く謹言、

(永祿五年力) 七月廿六日

(田原) 親賢判在

(采輔) 益永豐前守殿

其外一社中

付 録

一 森 氏 系 図

○森文書  
大分県史料三五

略○首

豊後清原姓

豊後國清原姓元祖

少納言

配流豊後玖珠郡、以當郡賜之、爲厨料、

清原正高

稱備後介

其後蒙 勅免歸京、復本官、

入皇六十四代圓融院御宇、天延元年癸酉四月豊後下着、至于玖珠郡、同郡地頭矢野檢校橘久兼歡而迎之、造長野館居之、使愛女進枕席、産一男、飯洛之時、留於玖珠郡、以家臣宮井四郎弘次爲傳、萬壽四年丁卯於山科別。榮。。薨、後年從祀城州伏見里藤之森神社、其後於玖珠郡、其孫長野太郎太夫助通感靈夢遂 奏聞、合享于同郡新宮八幡宮、子孫繁榮爲十二家、森氏在其中、正高卿古跡往々有之、玖珠郡最多、委細豊後雜考詳也、故畧之、

清太夫

正 通

母矢野橘久兼女 父正高卿在任之日、分玖珠郡爲四郷一庄、所謂長野庄 帆足郷 古後郷 飯田郷 山田郷也、正通傳領之、其子分領之、爲二十四家、豊後雜考間有異同、以此系爲正説云尔、

付 録

安岐郷

助通

長野太郎太夫 領帆足・古後二郷、  
住長野館、長野庄者女子傳領之、

通平

長野三郎 領帆足郷、  
為舍第四郎通房所攻討死、  
古後四郎 領古後郷、

通房

依領地爭論、攻舍兄三郎通平居館殺之、叔父飯田三郎太夫通次聞之、率兵攻通房於長野館、通房  
敗而逃亡、到筑前柏屋郡、為野武士所殺斷絶、

女子

帆足太郎太夫是次 妻  
幼而孤、通次養育之、成長之後嫁嫡男是次、

山田次郎太夫 領山田郷、

通成

小田 魚返 原田 栗野 古後 平井 太田  
原口 山下 志津利 綾垣 等之先祖也、

通綱

通遠

通政

小田四郎

通次

飯田三郎太夫 領飯田郷、

末次

惠良四郎太夫

兼繼

野上五郎太夫

女子

長野姫 長野庄傳領之、

森氏本家

○ 是次 帆足太郎大夫 領帆足郷、住長野館、

通貞 飯田次郎 貞時 松木次郎

○ 通吉 帆足六郎 森三郎 領森村百二十四貫文

○ 通元 森三郎 領森村百二十四貫文、 女子 森三郎朝通妻

○ 廣通 帆足十郎兵衛尉 通員 帆足六郎兵衛尉西蓮 法名

○ 朝通 森三郎 法名道願

○ 通任 森三郎 顯通 森豐前介

● 高顯 森左近將監 顯勝 長門守

氏顯 伊勢守 正顯 長門守

親永 伊勢守 鑑氏 山城守



安岐郷

長知

五郎兵衛尉 森氏之本家也、本領玖珠郡森村百廿四貫文

其外片平田村等領之、豐玖雜考曰、森郷四千四百石之外、筑後三井郡河原郷二千二百石、筑前三笠郡之内二日市之庄ニテ七百石ヲ給ヒ、都合七千三百石領ス、大友屋形義鑑 義鎮・義統三代之間、軍攻ヲ以加恩有故也、今久留嶋侯ニ仕ヘ子孫相續スト云々、

森彈正左衛門尉

森彌太郎

通豊

〇氏任

幸正

森三河守

法名道應

山城守

清右衛門尉

刑部丞

彦五郎

十郎兵衛尉

法躰清伊藏主

森四郎

正續

森治部丞

正常

采女正

正利

清兵衛尉

侍従公右京進

右衛門尉

述樹

宏忠

日向守

家次

又左衛門

法名眞甫

小平次

高德

出家 乙壽

出家

安岐瀬戸田村仁  
与三住又

本家八仁与三住  
又

別家下油留木住

○安岐瀬戸田村仁與住  
森勘解由左衛門尉

○森後藤左衛門尉

本家仁與住

森紀伊守

○森與三左衛門尉

藤七郎

別家下油留木住 大和守

正 述

親 清 三河守

正 繁

正 知

左近將監

定 繁

平右衛門尉

刑部少輔

親 速

親 里

孫右衛門尉

孫左衛門尉

慶長五年庚子九月十六日豊前中津城主黒田勘解由次官孝高入道如水軒、安岐之攻圍ム城ヲ之時、  
城兵之内森孫左衛門親里・同弟孫右衛門尉回忠ヲ企、密ニ如水之陣江使者ヲ以惣攻之日限相決  
次第、城中ヲ燒立、裏切可仕段雖申送、關ヶ原一戰上方敗績シ、城主熊谷内藏承直陳濃州大垣  
之城ニ於テ切腹之段申來、開城相成、不果其企、如水公モ左迄賞無之ニ付、兄弟在所江引籠  
ト云々、鎮西全集ニ出タリ。

別家安宗住

森木工助

○田原家感状並  
屋敷坪付五通略

某

森孫十郎

付一録

安岐郷

○田原家居屋敷  
坪付(九五号)略

某

森又三郎  
早世

森 新三 後木工助 伊賀守 法名了得

董能

慶長三年戊戌十二月六日卒去、

法名 壽譽了徳禪定門

○田原家感狀並証文七通(一三四・一五〇・一六三・一六五・二三八・二五八・二四九号)略

宏盛

森木工助 法名了閑

元和六年庚申六月十五日卒去、

法名心性了閑禪定門

○田原家感狀等三通(二五〇・六月廿四日田原親家書狀案・二六七号)略

女子

養子木工助宏盛妻

本家仁與在

實清

森備中守 法名安心

従是以前之感狀・知行目錄等、後妻依奸計、死後紛失ス、

養子 實舍弟

宏清

森與三左衛門尉 初名源次郎

○田原家感狀並知行坪付目錄・判物等十二通(一五五・一五六・一五七・一六八・一六六・一六九・一六七・一七七・一七五・一七六・二二〇・二三三号)略

○下略

家理

森與左衛門尉 初名六允

○出原家感狀並知行坪付目錄三通  
(二八四・二八三・二八二号)略

宏盛

宏忠共 森與三左衛門尉 童名龜鶴 於筑後柳川討死、

○略下

卒去年月不相分、石碑ニモ過去ニモ無之、慶長五年庚子九月十日、鍋島勝茂朝臣柳川城攻之時、屬立花

宗茂公、東畑合戦之節、討死之名前之内ニ在之、鎮西全集ニ出タリ、

法名 無念法生禪定門 墓ハ中ノ屋敷上ノ段ニアリ、自然石ナリ。

妻法名 江照妙月禪定尼

○田原親英安堵狀

(二七九号)略

二 東国東郡安岐町(除大字両子・富清・糸永)・杵築市(旧安岐町奈狩江)大字・小字一覧表

(1) 安岐町(除大字両子・富清・糸永)

大字	(朝来地区)	小字
明治	山捨、大坪、寺田、尾園、多田良元、屋形、高地、竹ノ下、榎迫、平田、尾ヶ崎、宮平、樋ヶ迫、川床、益ヶ原、寺園、萩ヶ迫、金剛院、後田、半田、大久保、吉行、柚ノ木、岩詰、中園、中園田、切畑、紺屋、市尾、中畑、大内、本手、紺屋下、松代、新開、高盛	京徳、尾迫、貴船、流田、大石ヶ本、鳥越、広舞、八反田、中原、猿喰、内屋敷、新涯、杵築田、谷ノ上、中野、平原、平原ノ下、寺野、年天、一鍬、栗の木田、小屋光、若名田、宇津ヶ原、宮原、間方、宮の園、宮の前、松ヶ本、大田、田中、前田、権現、吉行、陣ノ内、天神山、中ノ段、上油原、下油原
矢川	馬場、川又、下矢川、大平、鳥越、尾松、久石、前田、大内ヶ迫、向田、宮上、広坪、新涯、長瀬、神田、屋敷、中迫、花付、大中野、其ノ田、上大坪、大野、原、知幸坊、城ヶ谷、大坪、畑成	大道、光広、西山田、見分田、荒木、角神、流、川ベタ、藏所、トガリ、白掛、城畑、竿、高原、四反田、三守、六反田、中川原、石田、柳田、才田、池田、森田、天神面、買添、五反田、覚安寺、
中園	(西安岐地区)	

成 久	瀬 戸 田	吉 松
<p>川原、小松竹、地原、沢掛、スナガワ、南川ノ上</p> <p>大道、西ノ園、ヒヨウノ田、長貫、大通寺、上野、宮、七反坪、クグチ田、五反田、小田、小路畑</p> <p>中川原、番畑、福園、宮ノ西、台、西山、通山、内山、内ヶ畑、内ヶ畑前、長葉山、観音ノ上、黒</p> <p>藪、ヤケノ、明戸木</p>	<p>仁王、西ノ平、山首、上、伊勢平、杉園、山ヶヤシキ、福正司、石代、下藤田、藤田、土屋、末永</p> <p>岡本屋敷、六ツ枝、下菊瀬、小川、レンガン、西ノ原、安旨上、五田、黒土、迫橋、鳥越、カラム</p> <p>井手ノ原、上下、上橋、油津リハ、石原、上下谷、恵良、田平</p>	<p>仁王、市場、鶴前、北ノ園、平、大久保、鶴戸、魚ツル、立中、鳥越、宮ノ下、塚ノ木、広畑</p> <p>寺ヶ谷、六ツ枝、油留木越、久保田、胡麻尻、岩ノ西、水志、長迫、ヲノハナ、山中、三ツ石、長</p> <p>尾、役蔵、松堀、榎鶴、大坪、桑原、森ノ元、東前、ユノキ、今ヤシキ、立道、楠坂、半ノ木、</p> <p>宮ノ上、宮ノ西、ケイチン、石原、宮ノ前、トシヤク、竹ノ上、ヤシキ、藤ヶ尾、田尾、一ツヲサ、</p> <p>浅苦ノ、チシヤノキ、竹ノ迫、細工、西ヶ坂、サ、ヶ平、ホクソ、向、岡、惣津、馬ノ瀬ヨリ西</p> <p>山ノ上、園田、古神田、鼻崎、下ヶ平、後、出口、地藏、平原、中尾、大平、赤井、同免、水付</p> <p>草場浦山、上、草場ノ上、七ツ江、柿木田、井手ノ上、溝ヶ平、野々田山、苦ノヶ坂、シリナシ</p> <p>土地吉、ニタバ、小迫、東、上ノ谷、ワサタ、広永、貴船ノ本、楠田、行安、トフノフ、小ヤブ、</p> <p>丸田、ヲヤブ、仁王平、セバヶ谷、ミノへ平、引田、ミノベ、大入道、丸山</p>

油留木	掛種	山浦	(安岐地区)馬場	下原
<p>中ノ迫、向ヒ田、ホキノ上、口ノ坪、チシヤノ木、佐野木田、蜘蛛取、水ケ迫、中迫越、寺ノ迫、奥ケ迫越、長迫越、北高地、大徳越、タイラ、水無、カンノ平、塔ノ尾、下ケ迫、久保田、尾迫、前田、ワイラガ迫、山ノ神、鏡石</p>	<p>藤ヶ谷、下藤ヶ谷、向野、大平、鳴川、阿弥陀ヶ平、小野、大魔、須藤寺、岩屋、箕、西ヶ坪、鬼下、成澄、城園、田ノ口、北西、荒井、長野、春奈、後野</p>	<p>福出、陽春田、櫻木田、今井ヶ平、砂子、宮ノ本、小瀬原ノ平、向田、西向田、向田ノ平、釘尾、赤二田、光山、密乘院、川原田、神手、大谷、井上、水路、カケ平、屋那瀬、大山、正月屋敷、大久保、板木、前田、迫、西、橋ノ本、山ノ田、丸尾</p>	<p>陣山、アカ、オニ、アシ、山神、大石、原、ナカサコ、西平、池ノ下、タタラ、中尾、黒林、樋ノ木、ハルシタ、クズシ、タナ、ヲヤマダ、カラキ、ハヤシ、ヒラエ、ケリキ、子キテ、カハツラ、トタゼ、マエ、コダ、カハラ、ヲヲフケ、スナカハラ、ミゾゾイ、ナカノキシ、カイメン、ゴヲダ、クチブケ、エノキダ、ドテ、ウワテ、コヤ、中川原、下堀田、マンドコロ、コシヨウジ、上犬田、下犬田、ナリマツ、マツタケ、井尻、ノブヨシ、サコ、ヒラ、タニ、カラス山、ヒラマツ、柳迫、ヒラバル、出口、アゲノ田、カキホコ、ミノベ、堤迫</p>	<p>大海田、権田、フクミ、石渡り、長迫、西迫、東カナ、西カナ、アシ、士林、西小野田、小野田、熊尾口、神田、マヅミ、中尾、カツラヲ、金ユリ川、黒川原、下野地、中ノ原、大人、七ツ枝、向</p>

区南 安岐地 大添	塩屋	
<p>           シンガイ、新田、川原、北ノ田、塩屋、松堀、水口後、水口、神ノ木、アゲ、丸ムタ、用作、門ノ            フケ、西新田、畑田、イノキ田、大地、アノウ、横枕、宮畑、高田、樋ノ本、田高田、長田、ヨミ            嶋、フケ、氏那、カノ本、溝添、藏田、舸子付、小徳田、鎌ヲサ、美盛、塩田、ハシノ本、室古            屋敷、内ノ田、清内、松木、長畑、屋敷田、彦代、白石下、シボウ、西地下、仁入、山田、沖、四            十田、下ノ山、イヨノ下、平田、御馬田、アシユウ、犬ボヲシ、幸神、外畑、ウラ、リヨウ、井ノ            尻、塔ノ本、尾ハナ、西迫、西迫口、西、白石ノ上、白石、原口、谷、後原口、アザミ、東迫、上            ノ畑、屋敷、ヘヤ、横谷、黒土、迫ノ上、向、伊予野、原、伊予野原、小金田、ホキ、前、水呉            塚山、池下、ハマ、大水谷、大将軍、谷迫、緑リ、ミフ、キサン田、宮ノ下、溝測         </p>	<p>           野の、野田、原、武藏町、尾合、南大人、塔ノ本、菖蒲、川ツラ、原口、長門、イノシシ、堀ノ内、            経塚、上野地、松迫、市木、崩シ、寺尾、塩入、福地、野村、貴船、迫、吉永、辻、迫田、立畑、猫            久保、カキノイ、西善寺、宝蔵寺、竹ノ中、利正寺、池ノ上、千人塚、直指庵、脇田、ミナト、猫            畑、正太郎、ツガニソノ、大太郎、安田、澗ノ上、川原、御馬松、裏門、馬落、熊谷寺、下池、煙            田、中ノ切、井手口、亀井、北堀、長若寺、門口、西出口、南堀、町、内堀、小丸、天守、本丸、            ホキ         </p>	
<p>           志村、堀田、市井子、松川、六ツオサ、長迫、カナクモ、成、向、西、庚申、西ノ久保、岩ノ下、            尾迫、三本松、乳母、懐、一本木、堂山、内屋敷、尾下、前田、妙見田、平ヲサ、楠田、田平、荷            多田、中、フラン、御館、クヌギ山、西野々、岩鼻、正月、平、峠、宮ノ谷、水口、宮ノ前、神田、         </p>		



藤十殿、高地神、松尾、迫、泉迫、奥畑、七畝田、一町田、仲畑、三府、東、下、砂川、天神、前  
 の脇、谷、井ノ平、尾坪、野添、藪田、丸尾、尾松、数子尾、前畑、大山、松畑、柿ノ木田、出口  
 栗山、尾長迫、城、園田、原、鍛冶屋迫、岩ノ本、下り山、城ノ越、妙見、谷ヶ迫

山口

大坪、サヲダ、平ヲサ、カイマイ、迫、六地藏、重尾、ツツイ、中嶋、半田、カ子石、実次、清水、  
 元屋敷、カフソヲ、ビシノタ、平西、シンガイ、畑ソイ、ノダ、下深田、了仙成、下川原、鼠迫、立  
 山、ツツミ、ササヲ、イモホリ、四郎迫、畑ノ辻、徳市、小原田、ソラス、川原、ソノダ、竹ノ下  
 中山、ミツヲサ、南ヶ迫、フツワラ、倉谷、峠、波柿、流田、小岩鼻、松ノ木、ムキシリ、遺ヶ迫  
 山田、水ヶ本、乱橋、畑中、七郎田、穴田、ハナヤシキ、小ヶ倉、丸田、楠、上川原、ヲヘキ、  
 西ノ久保、コウシンの上、後野、日陽ノ上、長山、シマタ、西堤、日平、カン子尾、梅久保、日陽  
 大東、神デン、上ノダ、一ノ坪、セイシン田、一舛取、西ヶ谷、北水ヶ本、原、原ノ下、フカ田、  
 間ノ神、喜太郎、陰平、寺ノ前、城山、上林、百合ヶ迫、カクノ、迫田、ヒカケ、小迫下、小迫  
 西ササヲ、西竹ノ下、西ミツヲサ、椎ノ木、六田ヶ迫、立岩、原ノ上、高城、高雲山、大久保、木  
 落、中津尾、北ノ又、後田、中津尾台、トヲセ、池口、池尻、エノコ石、打越、前、向、シヲキハ、  
 西ソノタ、ウシロ、マツホリ、アラタ、正月、市木、東坂木

下山口

石ノ田、延吉、上鶴、重尾、深迫、小原、向田、庄田、行安、一ノ坪、立道、大坪、保正庵、三郎  
 丸、木墓、藤工原、今在家、走水、西ヶ谷、小城ヶ谷、妙見、三郎坊、船光、野原、カイモチ、徳  
 永、大間、城ノ越、菩提司、紺屋ヶ鼻、山ノ神、エコ畑、下り山、堤、丸山、京田、上徳、下ノ田

尾ノ鼻 ユウノ木、サル田	西本 三府、田中、田中前、平野、園田、黒川原、下西本、島廻、フナコデ、平原
-----------------	--

(2) 杵築市 (大字横城・奈多・狩宿・守江・大内)

横城 (以下旧奈江村)	石イヤガ谷、天堤、大茂、タカラ迫、堂ノ後  (横城區) 立ヶ鼻、高岩、尾弘口、福手場、平河原、長谷、富山、山ノ田、大福田、上浅田、石垣、金松、松本、上、ナカ、尾ノ鼻、松葉ノ後、金山、堀田、守屋、行万、唐木迫、大上古、落合、弘
----------------	--

奈多	田、尾福面、六本木、上殿、古町、岡山、中、報願寺、古城、高津山、恵毛、草場、前平、尾原、那切、北平、濱迫、長谷、平原、金山、桐ノ木、樋ノ口、御直田、室屋、寺田、徳永、中尾、野々田、重珍、新井、西迫、赤迫、身除、長迫、立熊、尾坪、地腫物、川久保、天神、矢ノ木、御馬出、駄廻、須田ノ木、志口六郎、塔ノ尾、伊予ノ原、志口  (奈多區) 後野、打越、荒平、松本、桜田、亀山、弘川、行田尾、高須、明戸石、谷川、柳原、正月
狩宿	鉈田、大深田、白土、小山、池淵、行安、三塚、白石、御塔、札場、東大田、大田、御野、下松  (狩宿區) 中山、大谷、西辻、浄国寺山、上後野、園田、里、東、荒平、金養原、大塚、原、大半

<p>守江</p>	<p>迫田、中尾、大石迫、坂川、糸藤、大平、打越、小谷、小熊、大熊、鳥越、上白土、向</p>
<p>(旧杵築町) 大内</p>	<p>(野辺区) 狩宿渡、高岡、上山、天村、寺山、水月、丸山、木落、井田、松篠、谷角、浄国寺、新山、黒石、池ノ口、神原、奈多通、犬迫、磯神、神場、町中、浜、浜平、田内 (守江區) 藤田、向比田、宮ノ下、古屋敷、庚申平、関岩、松川平、松川、御渡狩、下松川、弁天、下尾松、尾松、泉迫、泉屋敷、夏小無、ワネ口石、地藏面、前地藏面、中切、広町、奈良原、西新山、北浄国寺、盛松、後畑、平畑、東王寺、王寺、神田川、中尾、谷、中山、守江平、池ノ頭、北高岡、高岡、樋掛、向之平、古塩屋、西原、笹原、山ノ神、前田、千葉園、迫、江ノ平 (灘手区) 江ノ平、塩屋原、井降、徳永、向江頭、樋中、貴舟、末永、浜町、大西、西迎、大内崎、遠西、西谷、白元、一本松、庚申、地田、葉師、山中、岩川、暮岩</p> <p>(東大内山区) 宮ノ前、神田、天神ノ元、光明、下ノ原、琵琶田(西大内山区) 塩浜、浜、天神、西、平原、堂面(小狭間区) 藤川、大石田、丸尾、尾伏(藤川区) 琵琶田、次郎五郎、松ケ尾、中尾、先谷、松田、中、長谷、大平、田井、藤川、狐平、田平(茅場区) 茅場、大下(篠原区) 戸切石、三光坊、打付、黒岩、高良ケ平、三迫、藪ノ本、山ノ下、山首、園田、宮ノ下(菅尾区) 上ノ原、大石畑、高山(草場区) 塩屋崎、無田、西谷、原、平、孝高石、東平、辰ケ鼻、立岩(永代橋区) 浜、辰ケ鼻(新興区) 平、原、黒田、尾伏、松田、先谷(三光坊区) 三光坊</p>

○「安岐町大字・小字一覧表」八、同町教育委員会藤原正了・中野昭純両氏ニ調査ヲ仰イダ。両氏ノ御協力ニ深謝スル。

八坂  
(上・下・新)  
莊史料



一 豐後國風土記

○荒木田久老校訂本  
寧樂遺文下

速見郡鄉五所

速見郡 鄉伍所<sup>里一</sup>、驛貳所、烽壹所、

昔者纏向日代宮御宇天皇、欲誅玖磨贈啖、行幸於筑紫、從周防國佐婆津發船、而渡泊於海部郡宮浦時、於此村有女人、名曰速津媛、爲其處之長、卽聞天皇行幸、親自奉迎奏言、此有大磐窟、名曰鼠磐窟、土蜘蛛二人住之、其名曰青白、又於直入郡禰疑野、有土蜘蛛三人、其名曰打猿・八田・國摩侶、是伍人竝爲人強暴衆類亦多在、悉皆談云、不從皇命、若強喚者、興兵距焉、於茲天皇遣兵遮其要害、悉誅滅、因斯名曰速津媛國、後人改曰速見郡、

赤湯泉

赤湯泉<sup>在鄉西北</sup>、

此溫泉之穴、在郡西北竈門山、其周十五許丈、湯色赤而有渥、用足塗屋柱、渥流出外、變爲清水、

指東下流、因曰赤湯泉、

玖倍理湯井

玖倍理湯井<sup>在鄉西</sup>、

此湯井、在郡西河直山東岸、口徑丈餘、湯色黑、渥常不流、人竊到井邊、發聲大言、驚鳴涌騰二丈餘許、其氣熾熱、不可向呢、緣邊草木悉皆枯萎、因曰慍湯井、俗語曰玖倍理湯井、

柚富鄉

柚富鄉<sup>在鄉西</sup>、

此鄉之中、栲樹多生、常取栲皮、以造木綿、因曰柚富鄉、

八坂上・下・新莊

柚富峯

柚富峯在柚富鄉西、

此峯頂有石室、其深一十餘丈、高八丈四尺、廣三尺餘、常有水凝、經夏不解、凡柚富鄉、近於此峯、因以為峯名、

頸峯

頸峯在柚富峯西南、

此峯下有水田、本名宅田、此田苗子鹿恆喫之、田主造柵伺待、鹿到來舉已頸、容柵間、即喫苗子、田主捕獲將斬其頸、于時鹿請云、我今立盟、免我死罪、若垂大恩、得更存者、告我子孫、勿喫苗子、田主於茲大懷怪異、赦免不斬、自時以來、此田苗子、不被鹿喫、令獲其實、因曰頸田、兼為峯名、

田野

田野在郡西南、

此野廣大、土地沃腴、開墾之便、無比此土、昔者郡內百姓、居此野、多開水田、餘糧宿畝、大奢已富、作餅為的、于時餅化白鳥、發而南飛、當年之間、百姓死絕、水田不造、遂以荒廢、自時以降、不宜水田、今謂田野、其緣也、

○速見郡ノミ、抽出。上下略。

二 倭名類聚抄

速見郡

八坂郷

朝見 八坂 田布 大神 山香

### 三 妙經寺經筒銘

○大分県金石年表  
杵築市妙經寺(寺跡未詳)

長治元年甲申十一月二十三日癸巳、勸進僧慶勝、生年庚戌三十三、

○『後藤碩田ノ大化帖』ニ拠ルト注ス。今亡失トイフ。

### 四 後白河院廳下文案

○益永家記録  
鎌倉遺文八五号

院廳下 宇佐彌勒寺所司等

国司ノ妨ヲ停止  
シ浦部十五箇庄  
ヲ寺家ニ返付セ  
シム

可早任仁安廳下文狀、停止國妨、以豐後前國浦部拾伍箇庄、如本返付寺家、勤行恆例臨時神事佛

事、修造堂舍塔婆破壞事

八坂庄 大神庄 日出庄

由布庄院 伊美庄 岐部庄

白野庄 香々地庄 竹田津庄

眞玉庄 姫 嶋 都甲庄

草地庄 山香庄 藤尾寺

八坂上・下・新莊

八坂莊 大神莊  
日出莊

山香莊



已以庄(上讀カ)々々四至載久安廳下文之、

右、得彼寺別當法印大和尚位成清去二月日解狀偈、謹檢案內、彼十五庄者、慈尊薩垂御願、累代聖

主勅免庄園也、以其所當地利、被宛置恆例佛神事・寺家修理之用向、途一擊歎一敬于所修之行業、奉責八幡三

所之法樂、奉祈百王十善之寶祚、蓋是依大菩薩御託宣、被定置之事也、仍朝家之崇重勝也、(殊脱カ)宰府之

欽仰無雙也、御鎮田園雖有。領カ加之儀、全無停廢之人、其中一兩之宰吏、史一不知子細、聊成妨之時、經

奏聞、鳥羽院當院御時、可停止其妨之由、被成御廳下文早、其度無牢籠、送年序之間、(藤原)賴輔卿拜任

之後、令押領之處、寺家注子細依訴申、仁安二年重賜廳御下文早、雖然無指故、猶令國領、送歲

月、以彼庄々取出、所被宛置之佛神事堂塔修理修造、併以斷絕早、於件國御領庄々者、本相折有限

之上、全無餘剩、仍失計略、拭。愁一淚歷星霜、當國宰吏之中、令押領此庄々輩、皆以有事歟、所謂、

季兼朝臣之任、橫押領之處、季兼受重病之刻、自身託宣、忽書怠狀、納寶前早、其時目代河內權守

中原資職、此領之內停廢八坂庄之日、現奇特、於庄堺令頓滅早、乍見前車之覆、豈無後車之恐哉、

咽而又不可申此旨者、為朝家為寺家、旁有其恐、仍忘憚所言上也、抑兩三年不憚神威、武士亂入之

間、壞堂塔而為薪、破佛像而求寶、打破眉間而取白玉、裂穿御身而伺黃金、其間狼藉難盡筆端、自

餘事以之可被察、委細退可注進歟、又字佐每三十、(脱カ)跡形之上、彼浦部十五ヶ庄如元不被返付者、

廻何計略、可致其勤哉、件正遷宮巡年已在近歟、自前二十八年、入御袖、檢其材木者例也、年記被

定置、舊基已如此、云此云彼、裁定可在今明、若及庭疑者、(難カ)每事違越歟、為恐後御勘發、同所申上

也、望請 天裁、且依往昔寺領理、且任度々宣旨并代々廳下文、停止國妨、如本以拾五ヶ庄返付寺

藤原賴輔任後押領ス

源季兼押領シテ重病

目代中原資職頓滅ス

緒方惟榮等乱入

家、勤行恆例臨時神事佛事、令修造堂舍塔婆之破壞、兼可。令營勤有限遷宮役之狀、所仰如件、所司  
宜承知、依件用之、敢勿違失、故下、

後鳥羽院

文治二年四月十三日

主典代式部。少輔殿。正兼皇后宮大進大江朝臣

別當左大臣藤原朝臣

判官代攝津守藤原朝臣 在判

內大臣兼左近衛大將藤原朝臣

皇后宮權大進藤原朝臣 在判

大納言源朝臣 在判

小納言兼侍從河內權守源朝臣 在判

前權大納言源朝臣 在判

左少辨藤原朝臣 在判

權大納言藤原朝臣 在判

勘解由次官兼皇后宮權大進藤原朝臣 在判

權大納言兼右近衛大將藤原朝臣 在判

左京權大夫藤原朝臣 在判

民部卿藤原朝臣 在判

左衛門權佐平朝臣 在判

權中納言藤原朝臣 在判

左少辨藤原朝臣 同

權中納言兼左衛門督皇后宮權大夫藤原朝臣 在判

民部權大輔藤原朝臣 同

權中納言兼右殿左衛門督藤原朝臣 在判

左衛門權佐兼皇后宮大進藤原朝臣 同

權中納言左衛門督左衛門督藤原朝臣 同

權中納言藤原朝臣 在判

參議右衛門督兼兵衛力加賀權守藤原朝臣 在判

造興福寺長官參議左大辨勘解由長官兼遠江權守藤原朝臣 在判

八坂上・下・新莊

右京大夫藤原朝臣 在 1

内藏守藤原朝臣

修理左宮城使左中辨阿波介藤原朝臣 在 1

修理右宮城使右中辨源朝臣 在 1

五 豐後國圖田帳案斷簡

○到津文書  
大分県史料一

姫嶋浦三丁 預所同地頭 件浦者海中之嶋也、本自非寺領、爲海人等之栖、細庭許也云々、

櫛來浦十五丁 宇佐宮領 辨濟使 地頭宮沙汰

田伊太原浦十五丁 宇佐宮領 辨濟使地頭宇佐宮前祝太六大夫宮兼

一速見郡田代九百七十五丁餘

八坂郷二百餘丁 彌勒寺領 預所 地頭

竈門郷百餘丁 彌勒寺領 預所慶禪 地頭 漆嶋定房

朝見郷八十餘丁 宇佐宮領 辨濟使宇佐邦輔 地頭宮沙汰

石垣郷百五十餘丁 宇佐宮領 辨濟使神官榮定 地頭宮沙汰

山香郷二百餘丁 彌勒寺領 預所同 地頭三人云々、

由布郷六十餘丁 彌勒寺領 預所同 地頭

速見郡田代

八坂郷

竈門郷

朝見郷

石垣郷

山香郷

由布郷

一直入郡田代百六十餘丁 一大分郡田代千三百八十餘丁

一海部郡田代七百七十餘丁 一大野郡田代九百十餘丁

此内緒方郷三百餘丁

宇佐宮領二百四十餘丁

一田田郡田代五百六十餘丁 一玖珠郡田代三百十餘丁

○建久八年ノモノナルベシ。

### 六 日向守藤原朝臣某請取狀

○志賀文書 熊本県史料中世二

○建仁元年六月廿四日。本文省略。全文ハ「安岐郷史料」一〇号ニ收ム。

### 七 檢校祐清(?)讓狀

○石清水文書一 鎌倉遺文二六九七号

### 讓與

處分庄々并屋地等目錄

東山母尼

一 東山母尼

大日寺彌勒寺領 平世正宮領

八坂上・下・新莊

祐清莊園以下所領ヲ処分ス

八坂上・下・新莊

壇殿女房

八坂下莊

權別當棟清

一 壇殿女房

(豐後遠見郡)  
八坂下莊 彌勒寺領

(薩摩川内郡)  
新田宮并 □□院

鹽見富高年貢絹拾疋別進布伍段

攝津國三津寺 畠三段在八幡河合

一 權別當僧都

彌勒寺正八幡宮檢校執行事

不書置證文之外、可令返付寺家庄々、

豐前國

(宇佐郡) 津布佐庄 向野庄 山下保 永用保

豐後國

(國崎郡) 伊美庄

肥前國

(三根郡) 綾部庄 成道寺 (兼父郡) 養父庄

金剛法眼

(企求郡) 篠崎庄 彌勒寺領小倉庄 同領桑東西郷 正宮領

田中東房宇等

(長壽) 長壽法眼

一 荒津庄(筑前那珂郡)彌勒寺領(筑前宗像郡)乙見 石丸兩保

一 延命律師(性善)

一 絹富保(豐前)彌勒寺領

一 女々御前

一 草野庄(豐前牛津郡)彌勒寺領(豊前田河郡)糸田庄同 能運母尼 寢殿侍等

一 壽持姫

一 草地庄(豊後國崎郡)彌勒寺領 護得 壽多良野 同領

一 龜姫

一 日奈土庄(豊前)彌勒寺領 家田屋々敷等(幸清九)幸定進

一 田中女房字万歳

一 奈良田庄(藤津郡)肥前國彌勒寺領 秋月依井庄(後須郡)同領 筑前國

一 荒田庄(大朝妻知郡)正宮領 廻村同 散在田畠等(山城國)所 注文在別帙

一 駿河少路屋地 山崎寶積寺西谷林

一 修理別當法眼(宇治)

一 彌勒寺正八幡宮領庄々

一 泉本庄(彌勒寺領)肥後國(京都郡)大野井庄(同領)同領 刈田庄(同領)同領

一 山香庄(遠見郡)豊後國

一 八坂上・下・新莊

山香莊

修理別當宝清

八坂上・下・新莊

正八幡宮領

三躰堂 上小河 栗野南北兩村

私領鎮西

三箇庄

因幡國

瀧房庄

○以下十  
四行中略

藥師姬

一 藥師姬

大神莊

(速見郡)  
大神庄 彌勒寺領

一 日光姬

(肥後玉名郡)  
野原庄 彌勒寺領

一 綾姬

(島前上毛郡)  
黒土庄 彌勒寺領

一 福王子姬

祈禱院 彌勒寺領

(城下郡)  
井上庄 大和國

南善法院下堂房等同地

○以下十  
五行中略

承久二年十二月 日

八 僧阿入院主職等讓狀

○秋吉文書  
大分県史料一〇

僧阿入謹辭、

讓與西勝寺院主職并料免田畠等事

四至坪付等見本券面、

右件寺并料田畠等、自故深見入道殿寂蓮之手、阿入限永代讓賜畢、而於于今者、如來房依爲唯一弟子、相副本證文、限永年所讓與實也、敢不可有他妨之、但於寺子細者、見本證文之、兼又任彼證文之狀、專香花燈明之勤、致念佛讀經忠勤、且云寂蓮聖靈孝養、云阿入之現當二世孝養、爲被致丁寧、所讓渡也、仍爲後日證文、讓狀如件、

寛元二年甲辰五月廿日

僧阿入(花押)

九 某裁許狀斷簡

○生桑寺大殿若經裏打紙文書  
大分県史料二五

(二五二卷)  
此條、建久六年者、右大將家御代最中、鎮西者(前掃部頭丸)入道奉行之比歟、如位所者、平云々、誰

八坂上・下・新莊

二六三

西勝寺院主職田  
畠等ヲ如來房ニ  
讓ル

深見入道寂蓮ノ  
手ヨリ讓得

建久六年ハ右大  
將頼朝御代



人事哉、非

一〇 八坂下莊領家下文

○諸家文書纂所収野上文書  
鎌倉遺文一〇四五二号

(花押)

下 八坂下御庄

定補專當職事

僧長幸

僧長幸ヲ八坂下  
莊專當職ニ補ス

友員名田ヲ充テ  
給フ

右、件專當職者、以友員名田島等、任相傳證文等、所充給也、但稱新三郎男重代之由、雖申請、マカ度奉領家去上者、長幸證文依爲道理、所充給也、沙汰人百姓等不可違失、故下、

文永六年六月 日

一一 宮清彌勒寺領注進狀拔書案

○石清水(菊大路家)文書六  
鎌倉遺文一〇六一三号

(別紙端裏書)  
〔彌勒寺領限上事、社務宮一被注進關東注文内書拔之文永七  
社務宮一之時、被注進關東之狀也、其内書拔之〕

八幡宮寺

八幡宮寺・宇佐  
彌勒寺領等ヲ  
東ニ注進ス

注進 當宮并宿院

極樂寺

彌勒寺(註前)

正八幡宮(大傳)

香椎宮(筑前)

宮崎宮等惣領別納庄々并社務以下執

務甲乙領之事

┆┆┆┆┆┆┆

┆┆┆┆┆┆┆

┆┆┆┆┆┆┆

┆┆┆┆┆┆┆

一字佐彌勒寺豐前國八幡宮寺檢校宮清門跡相傳執務之、領内別納庄々

略○中

同彌勒寺領西寶塔院家庄

浮生庄(力) 石崎庄(豊前杵築郡) 小倉新庄(筑前遠賀郡) 麻生新庄(肥前三根郡) 綾部新庄

河合新庄(筑後上妻郡) 泉新庄(肥後山鹿郡) 八坂新庄(豊後速見郡) 大神新庄(豊後速見郡)

已上九箇所

八幡宮寺修理別當猷承知行之、

┆┆┆┆┆┆┆

┆┆┆┆┆┆┆

┆┆┆┆┆┆┆

右、注進如件、

文永七年三月 日

石清水檢校(兼法寺)法印宮清

八坂上・下・新庄

八坂新庄  
大神新庄

二三 某施行狀斷簡

○生桑寺大般若經裏打紙文書  
大分県史料二五

兼可有其沙汰矣、  
(二七四卷)

異賊防禦条々事書

異賊防禦條々事書一通、遣之、早守此旨、可被致沙汰、  
(二七七卷)

於分限旺盛之輩者、可免番役矣、

香椎前浜石築地

香椎前濱石築地事  
(二六六卷)

非用所之、可除之矣、  
(著力) 云々

兵糧米事

二三 八坂新莊地頭(力)請文斷簡

○生桑寺大般若經裏打紙文書  
大分県史料二五

(三一九卷)

異賊用心兵船内、豐後國分拾(艘力)

異賊用心兵船内  
豐後國分

日守護所施行各案、三月十九日到來、  
見仕候畢、抑如被仰下者、兵船  
點豊後

國中津く泊く、廻船早(博九)

(四八七巻)

一可造船分

八坂新莊

一艘 八坂新莊

右 月日、博多

(表大般若經三三巻奥書)

「豊後州八坂庄生桑寺」

○右三断簡紙質・筆蹟ニヨリ合敘ス。但シ四八七巻分ハ、前二者ト接合スルカ未詳。

#### 一四 藤原某讓狀

○生桑寺大般若經裏打紙文書  
大分県史料二五

(六二巻)

八坂太郎二讓ル

(八坂) やさかの大郎殿ゆつりたて  候ところしちなり、(楚) きやうこう  (相違) さうあるへからす、

よて  (後日のカ) ためニ、ゆつり  (抄) 上くたんの  (てしカ)、

ふちわらのもり

ミるところしちなり、(實)

けちにねん三月十五日 (雜記)

「(表大般若經六二巻奥書但倒書) 摺本交合了、  
(於小武寺交了)」

豊後國 八坂庄 生桑寺

八坂上・下・新莊

一五 八坂下莊領家御教書

○生地文書  
大分県史料一〇

(花押)

八坂下莊公文職  
ヲ長俊ニ次沙  
シム

八坂下庄公文職事、被仰付長俊之處、(八坂野次郎力)忠繼不叙用、剩令押領名田等云々、自由之至以外次第也、早任先御下知之旨、長俊令知行、有限御年貢以下事、任先例、無懈怠可致其沙汰之由、所被仰下也、仍執達如件、

弘安四年二月 日

左衛門尉

尾張公御房

一六 豊後國大田文案

○平林本  
鎌倉遺文一五七〇〇号

御注進狀案 豊後國大田文案  
弘安八年十月十六日 豊後於府中

脚力 菊正在判

豊後國中神社佛寺權門勢家庄園國領公田及領家・領所・地・辨濟使等交名事

注進合田代六千七百廿八町餘捌箇郡

略○中

豊後國大田文ヲ  
調進ス

弘安八年九月晦日

謹上 信濃判官入道殿

沙彌道忍〔天友頼季〕裏！

一 豊後國直人等注申、

當國八郡 國崎 速見 直入 大分 海部 大野 日田 球珠

一 田數并領主等事

○國東郡中略

一 速見郡千五町内

石垣庄字佐之領貳百町

領主

本庄百四拾町 神宮官ノ誤力名主等

辨分六拾町 名越〔公明〕備前左近大夫殿

朝見郷八拾町 神官字佐宮領并土肥一王丸

竈門庄八拾町 同彌勒寺領

地頭

本庄五十三町 御家人竈門又太郎貞繼法名道善法師

小坂村十七町 大將家法花堂別當僧都御房〔源頼基〕

八坂上・下・新莊

八坂上・下・新莊

二七〇

平湯立小野村拾町 鶴見村  
加納本ノマ、大友兵庫入道殿

大神莊

大神庄百七拾町

地頭

日出津嶋

日出津嶋柒拾町

(北柔真特)  
相摸守殿

近部・藤原・井手村七拾町 戶次太郎時親法師、法名道惠

眞祭井(卷)・野木乃井村參拾町 利根又太郎賴親

八坂莊

八坂庄貳百丁

同彌勒寺領

下莊

下庄百町

領家八幡檢校法印女子

本莊

本庄五拾五町內

御家人八坂五郎左衛門尉惟繼跡彌五郎盛氏、七郎惟行、十郎純繼、各分領不分

明、

若富名

若富五町貳段

大友兵庫頭入道殿

新莊

新庄四拾五町內

御家人八坂五郎左衛門尉惟繼・五郎親盛・惟繼  
嫡孫彌三郎忠繼法師、法名覺辨、各

(分乙)  
領不分明、

山香郷

山香郷貳百町

同彌勒寺領

郷分百町

大友兵庫頭入道殿

立石村四拾四町

豐前九郎入道明眞跡、同彥四郎盛道法師、法名良惠、

同下倉成名拾六町

御家人綾(帶)下小次郎道明跡、小田原五郎景郷・道明後家尼善阿・同女子藤原

氏、各分領不分明、

日差村參拾町

大炊判官代大郎頼元法師、法名道佛、與當國日差左衛門尉惟忠後家尼論申之、

廣瀨村六丁六段大

遠江國御家人内田宮藤三清致跡、同三郎致持、

此已下不見、

○海部郡  
以下略

一七 豊後國圖田帳案

○内閣文庫本  
鎌倉遺文一五七〇一号

豊後國圖田帳

豊後國圖田帳ヲ  
調進ス

弘安八年十月十六日自國府被立脚力畢、豊後國田代之事、國中寺社佛神領等并權門勢家莊園領公

田領家・領所(マ)・地頭・辨濟使等交名之事

○中略

弘安八年九月晦日

沙彌道忍(大友頼卷)裏判

謹上 信濃判官入道殿

(二鷹堂信忠)

豊後國直人等記申、

當國八箇郡分 國崎・速見・直入・大野・海部・大分・日田・珍珠田數領主等之事

八坂上・下・新莊



八坂上・下・新莊

○国崎郡中略

速見郡千町餘五町(マ、)

石垣莊二百町

本莊百四拾丁

別府六拾丁

朝見郷八拾丁

竈門莊

朝見郷

竈門莊八拾丁

本莊五拾三丁

小坂村拾七丁

平湯・立小野村十町并鶴見加納

大神莊百七拾丁

日出津嶋

日出津島七拾丁

近部・藤原・并平(并)手村七拾丁

眞奈井・野木乃井之村三拾丁

八坂莊二百丁

下莊百丁

本莊五拾五丁

宇佐宮領、主神官名主等

地頭職名越備前左近大夫殿(公明)

宇佐宮領、地頭職土肥一王丸

宇佐彌勒寺領他本云百餘丁、

地頭職竈門次郎貞繼法名道喜

大轉家將法花堂別當僧都御房

大友兵庫入道殿

地頭職相摸守殿(北条貞時)

戸次太郎時頼(親)法名道惠

同人并利根次郎頼親

宇佐彌勒寺領

領家八幡檢校法印女子

御家人八坂五郎左衛門惟繼跡彌五郎盛氏・七郎惟行・十郎能繼、各配領、

八坂莊

若富名五拾丁二段 大友兵庫入道殿

新莊四拾五町 八坂五郎左衛門跡五郎親盛跡彌次郎忠繼、惟繼嫡孫而相續云々、

山香郷二百町 郷司家忠退轉之後、當知行未分明、

本郷百町 大友兵庫入道殿

立石村四拾餘丁 豊前九郎入道明眞跡彦四郎

下倉成名拾六丁 肥前國御家人綾部小次郎通明跡後家善阿(同原)・女子(同原)・小田原五郎景郷配分、爲知行云々、

廣瀬六町六段大 遠江國御家人内田土藤三致清跡三郎致時相續(持)、

一王名三町三段小 大友兵庫入道殿

日差村三拾丁 大炊判官代大郎賴元(法名)道佛、當國住人日差左衛門後家論之、

由布院六拾町 戸次太郎時賴(親之)法名道惠・三郎重親相續

鶴見村拾五丁 領家延曆寺、地頭大友兵庫入道殿

○直入郡  
以下略

### 一八 八坂下莊四郎入道讓狀案

○宇都宮作治文書  
大分県史料一〇

ゆつりわたすてんはくの事

合二反大 やしき一所

八坂上・下・新莊

王三郎ニ田島屋  
敷ヲ譲ル

山香郷

由布院

鶴見村

八坂上・下・新莊

二七四

右件田畠、入道かさうてんのしりやうなり、たのいらんあるへからず、わう三三郎に、限永代ゆつりわたし候し、仍爲後日状、如件、

弘安九年九月三日

四らう入道 在判

一九 關東下知状案

○石志文書  
鎌倉遺文一六四二〇号

石志卷二八坂下  
庄木付内四箇名  
ヲ宛行フ

〔校正〕可令早松浦石志四郎壹領知、豊後國八坂下庄木村内四箇名〔付カ〕  
〔宛〕右、爲筑前國益丸替、所被充行也者、早守先例、可致沙汰之状、依仰下知如件、

弘安十年十二月十八日

前武藏守平朝臣 御判  
〔實勢〕

相模守平朝臣 御判

○『佐賀県史料集成』二七ト校合。〔 〕内ハ同書。

二〇 八坂下莊領家御教書

○生地文書  
大分県史料一〇

〔花押〕

〔八坂下カ〕庄薬師丸名内、下作人太郎〔入道カ〕・次郎入道・筑後房跡田畠等、〔 〕背先く御下知、不隨嫡流

薬丸名下作人太  
郎入道等ノ対押

ヲ傳メ道妙ヲシテ領知セシム

道妙之所<sup>(論)</sup>□、<sup>(案)</sup>府井在京用途云、難波源太沙汰之□□、令對押之上、致自由菟田云々、所行之企<sup>(マ)</sup>□不可然、所詮任道妙曾祖父泰房置<sup>(文)</sup>□之旨、彼下作田島等、就本名令道妙領<sup>(知)</sup>□、彌可致忠勤之旨、  
依仰執達如件、

正應四年二月八日

掃部助盛重<sup>(カ)</sup>

田所入道殿

### 三 宇都宮薩摩守給地注文

○宇都宮作治文書  
大分料史料一〇

宇都宮薩摩守下知給候、

右兵衛尉殿より豊前國內

一大はし一延勝たいまつ<sup>(京)</sup>の庄

一久とみみやこの郡地とうしき<sup>(郡)</sup>

一筑前國ありいありやす五十町

一筑後國竹野東郷松門南

一豊後國八坂下庄薬丸名

一法師丸給木付殿御名代仕候、其後信房四郎、<sup>(八坂下庄)</sup>大片平山ひらきはしめ居住仕候、

正應四年十月 日

八坂上・下・新荘

八坂下庄薬丸名  
法師丸給木付殿  
名代  
大片平山ノ開発  
居住

三 八坂下莊領家御教書

○生地文書  
大分県史料一〇

(花押)

當國守護家人源左衛門次郎入道不知實名、於當庄、令押妨田所職之由、有其聞云々、名主百姓等、於令同意彼仁之輩者、可被注進交名、可被處罪科之由、領家仰所候也、仍執達如件、

九月七日

沙彌盛蓮 奉

謹上 預所左衛門尉殿

三 八坂下莊領家御教書

○生地文書  
大分県史料一〇

(花押)

藥師丸伊久地(藥カ)山野内、屋敷(田カ)□畠鹽濱等事、任基泰讓狀、可隨繼泰所勤之由、被仰(マ)扈寸二□入道了、  
□師丸伊久地(生地)、於繼元之田畠等者、無故不可致濫妨者也、繼元若募權威、於寄附他人者、暫可被付本名之由、依 領家仰執達如件、

九月八日

掃部助 (花押)

八坂下庄田所所

守護家人源左衛門入道田所職押妨  
同意ノ名主百姓ノ交名ヲ注進セシム

藥師丸伊久地内ノ地ヲ基泰ノ讓ニ任セ繼泰ヲシテ所勤セシム  
繼元田畠ノ濫妨ヲ停ム

八坂下庄田所

二四 鎮西御教書

○生桑寺大般若經裏打紙文書  
大分県史料二五

八坂推行ノ重訴  
狀ニツキ參陳セ  
シム

(三〇〇卷)

〔豐後國八坂左衛門七郎惟行申、當國由布

□

□ 惠里課役事、重訴狀如此、如狀者、爲當參陳

□

(二四六卷)

□ 『何様事哉、不日可被進覽候、仍執達如件、

永仁五年十月二日

戸次彌次郎殿代殿 □

(マ)

(表大般若經奥卷)  
「豐後國 八坂庄 生桑寺」

(裏卷)  
「三百」

○當時鎮西探題ハ北条実政ナルモ (『鎌倉幕府訴訟制度ノ研究』三一六～八頁)、日下署判二名ノ如シ。

二五 鎮西御教書斷簡

○生桑寺大般若經裏打紙文書  
大分県史料二五

(五三五卷)

石築地ヲ修固セ  
シム

(急速カ)

高事、□可被修固由、先度催促之處、

(無カ)

□沙汰條、何様事哉、所詮來月十日以前可被

□功

□、不

可有緩怠之儀云々、此條石築地 □

(五四二卷)

有其隠候、次亂杭修理事、就今□始承候、請取且忿役所、可終其功、□

○永仁六年頃ノモノナラン。『青方文書』永仁六年八月一日某書下案参照。

八坂上・下・新莊

乱杭修理ノコト

三 鎮西北條實政御教書

○島津家文書一  
大日本古文書

○正安三年三月廿七日。全文ハ「安岐郷」三三号ニ収ム。本文省略。

三 彌勒寺領諸莊供米注文

○永弘文書  
大分県史料三

彌勒寺領諸莊ノ  
供米ヲ注ス

竈門莊 大神莊

日出莊 由布莊

八坂上莊 同下

山香莊

向野莊 都甲莊

草地莊 真玉莊

白乃莊 竹田津

庄□取得(カ)

竈門庄三斗

大(神庄カ)三斗

日出庄四斗

由布庄四斗

八坂上庄三斗

同下庄五斗

山香庄

石丸四斗

立石倉成四斗

弘瀬

向野庄二斗

都甲庄四斗

草地庄二斗

真玉庄五斗近來不辨也、

白乃庄二斗

竹田津庄一斗五舁

供米也、并 殿之供白米也、

二六 鎮西北條政顯下知狀案

○永弘文書  
大分県史料三

宇佐宮神官忠基申、小田原彌五郎泰郷知行豊後國田染庄末次名内田地貳段神田領・永正名内南屋敷并園田貳段事

八坂道海小田原  
泰郷ノ請文ヲ進  
ズ

右當名内田地者、忠基相傳之地也、爰會祖父吉基、<sup>(令カ)</sup>放券于峯八郎吉親畢、泰郷傳領之南屋敷<sup>(并カ)</sup>園田者、嘉元二年以來、非分所押領也、就神領<sup>(契)</sup>□行、可被糾付之由、帶前對馬守公世宿禰舉狀、<sup>(忠カ)</sup>基訴申之間、去年十一月廿一日・今年正月廿七日兩<sup>(度)</sup>□『雖被尋下無音之間、仰八坂彌五郎入道<sup>(道梅傳)</sup>促之處、如道海<sup>(所カ)</sup>雖進泰郷去三月十六日請<sup>(文者)</sup>□、泰吉令在津候、定可明申候敷云々、捧自由之請<sup>(文)</sup>□之、于今不及陳狀、難遁違背之咎、然則於彼<sup>(處)</sup>□敷者、所被返付社家之者、<sup>(也カ)</sup>依仰下知如件、

正和二年六月廿七日

前上總介平朝臣 □  
(北条政時)

二九 某裁許狀斷簡

○生桑寺大般若經裏打紙文書  
大分県史料二五

豊後國八坂上庄行□ □『彌勒寺御領新三昧堂□ □料米惣領御分、年々□ □未進事、就訴申、

依□

八坂上・下・新莊



三〇 鎮西下知狀斷簡

○生桑寺大般若經裏打紙文書  
大分県史料二五

(三六三卷)

〔端裏書〕  
「鎮西御下知同和與狀」

八坂本庄  
御奉書之事

和與

八幡宇佐彌勒寺御領豐後國八坂上庄

八坂上莊領家地  
頭ノ相論ヲ和與  
セシム

三一 鎮西北條政顯下知狀

○永弘文書  
大分県史料三

〔端裏書〕  
ヨリ明和九マテ四百五十九歳ニナル

祠官内 田染

神官忠基ノ訴ニ  
ヨリ田染莊末次  
名内ノ地等ヲ社  
家ニ返付セシム

宇佐宮神官忠基與小田原四郎左衛門入道智覺代貞(卷)相論、豐後國田染庄末次名内田地五段(戸)并  
間(申)原末吉田地參段事

八坂道海ニ仰セ  
テ催促ス

右件(申)地者、忠基相傳之地也、而曾祖吉基(父)法名、令放(卷)于峯八郎吉親(法名)、智覺(申)行之上者、  
興行、可被糺付之由、帶(前)對馬守(公)世宿禰舉狀、忠基依訴(申)、去年十一月十七日兩  
度雖被尋下、無音之間、三月一日(仰八坂彌)五郎(入道)海、催促之(如道)海

不輸地之間、 領興行、可 濫訴  
 被返付社家也者、依御下知如件、

輸之

正和二年七月二日

前上總介平 (花押)  
(北条政題) (朝忠)

三 鎮西北條下知狀

○永弘文書  
大分県史料三

(裏紙端裏書)  
「宇佐宮 證文 田染忠」

宇佐宮神官忠基申兩條

一 小田原掃部助入道々佛女子藤原氏知行豐後國田染庄重安名事

一 尾崎右衛門三郎入道行信知行同庄尾崎屋敷三箇所并。屋敷二箇所事為延

右當名并彼屋敷等者、往古神領、忠基外。祖父當宮御馬所檢技能重法師法名 信我相傳之地也、而氏女等

知行之上、任興行之法、可被糺返之由、帶前對馬守公世宿禰舉狀、依訴申之、被尋下之處、當庄糸

永名地頭曾禰崎十郎左衛門三郎通定法師法名 道西、所捧申狀也、如狀者、於當名、祖父慶增文永十一年

拜領之、慶增・道慶・道西三代知行、經年序畢、爰忠基以當名內行信并藤原氏女以下名主請作分田

畠屋敷等號重安、稱一圓神領、(應)閣地頭道西、申成召文於氏女等之條奸謀也、所詮至彼重安名田畠屋

敷等者、為糸永最中、自先司之時至道西、數代地頭進止之條、御下知以下證文顯然也云々、仍及訴

八坂上・下・新莊

神官忠基申ス田  
染庄重安名等ニ  
ツキ社家ニ返付  
セシム

糸永名地頭曾禰  
崎通定重安名ノ  
領有ヲ主張ス

重安名ヲ糸永名  
内トナスハ奸曲

尾崎行信ニ對シ  
テハ八坂弥五郎  
入道道海ニ仰セ  
權促スルモ散狀  
ニ及バズ

神官忠基ノ訴ニ  
ヨリ田染莊近弘  
名内屋敷ヲ社家  
ニ返付セシム  
八坂道海ニ仰セ  
テ尋下ス

陳之間、於内談之座召決之處、如道西備進弘安元年御下文者、糸永名云々、當名爲糸永名内之條、無支證、且名内有名之由、道西申之條、非普通之儀、加之、忠基所令進覽寛元二年以後數通社裁以下證文等也、如彼狀等者、當名爲私領之條、分明也、於件狀等者、道西承伏之間、以重安名、爲糸永名内之由、申之條、甚奸曲也、爰如氏女代觀佛今年四月十五日請文者、惣領道西支申之上、宜依彼落居云々、道西訴訟爲非據之條、見先段、次於行信者、仰八坂彌五郎入道々海、被催促之處、如道海同三月十三日請文者、雖相觸行信、不及散狀云々起請之詞者、違背之科難遁、然則於重安名并尾崎屋敷等者、停止氏女并行信知行、所返付社家也矣、

以前條々、依仰下知如件、

正和二年七月十二日

前北條政顯上總介平朝臣（花押）

三 鎮西北條政顯下知狀

○永弘文書  
大分県史料三

（端裏書）  
「宇佐宮 祠官」

宇佐宮神官忠基申、豊後國田染庄吉丸名地（傳）□代安藤入道西願知行同庄近弘名内得太郎屋敷（傳）□右彼屋敷者、忠基曾祖父吉基法名、妙性、令沽却于得太郎畢、而西願展轉知行之上者、就神領興行、可被糺付之由、帶前對馬守公世宿禰舉狀、忠基訴申之間、去年十一月廿一日仰八坂左衛門五郎入道々海、

正員八閩東ニア  
リ

被尋下之處、如道海今年二月八日請文者、相觸西願之處、如西願答申者、正員關東仁依御渡候、御  
教書者、關東仁滿伊良世候畢、其上者、重非可被相觸之由、令申之、不及請文云々起請之詞、難遁違  
略之  
背之咎、然則於彼屋敷者、所被返付社家也者、依仰下知如件、

正和二年十月六日

(北条政願)  
前上總介平朝臣 (花押)

(裏書)  
「正和二年十月六日定基解」

### 三四 八坂下莊大片平正一申狀

○宇都宮作治文書  
大分県史料一〇

(編書)  
「大片平正一訴狀 正和三、四、十一」

御領大方比良住人王三郎法名正一謹言上、

王三郎親父讓与  
ノ田地ニ對シ弟  
四郎入道ノ押領  
ヲ停メ安堵セラ  
レシコトヲ請フ

欲早被停止同所住人舍弟王四郎入道非分押領、任亡親四郎入道讓狀旨、蒙安堵御成敗田地二反大

内小田事

副進

一通亡親四郎入道讓狀案弘安九年九月三日  
田地二反大事

右田地者、任亡親四郎入道讓狀之旨、數十年無相違領知彼田地、令勤仕當役御公事等來之條、庄家  
(花押)  
以無其隱者也、而舍弟王四郎入道、自去正和元年之比、始而致押領之間、先地頭多井良左衛門殿之

八坂上・下・新莊

先地頭多井良左

衛門ノ時訴訟ノ  
タメ在府ンテ得  
替

時、令致訴訟之刻、依爲不退在符、不被經急速御沙汰志天、被得替畢、何王四郎背眼前亡親讓狀之旨、破政道令押領之條、招罪科者歟、此條希代未曾僻事也、(有脱也)所詮於王四郎入道者、任被定置法、被行押作之咎、至彼小田者、任亡親讓狀之旨、欲蒙安堵御成敗、仍粗恐々言上、如件、

正和三年四月 日

三 八坂下莊大片平辨濟使淨惠陳狀

○宇都宮作治文書  
大分縣史料一〇

八坂下莊大片平  
弁濟使淨惠王三  
郎非分ノ競望ヲ  
停メ夏木小田ヲ  
安堵セラレンコ  
トヲ陳ス

八坂下庄内大片平辨濟使沙彌淨惠謹辨申、  
欲早被停止正一(主三郎)非分競望、任辨濟使分實、蒙御成敗夏木小田事

副進

一通 亡父(主)四郎入道讓狀案 弘安九年九月三日  
辨濟使職事

一通 前御代。官多伊良左衛門殿下知案 正和貳年九月六日  
於小田者、可爲辨濟使知行事

右、如正一濫訴者、件田地者、任亡親四郎入道讓狀之旨、數拾年無相違領知彼田地、令勤仕當役御公事等來之條、庄家以無其隱者也云々、此條於件田地內貳段者、同所住人自八郎入道之時、至于子息次郎重吉各今者死去、無相違令知行之處、多伊良左衛門殿御親父之時、件正一稱有讓狀、對於重吉就訴申、被召決兩方之時、如被仰出者、以不知行之跡、令讓正一于時王三郎之條、無其謂、重世父子二代當知行之上者、今更不可有相違之由、蒙裁許、其後知行廿餘季、更以無相違、而去嘉元參季之比、

多伊良左衛門親  
父ノ時召決シ正  
一ノ濫訴ヲ停ム

重吉當名内ヲ逃  
レ其跡ヲ弁濟使  
進退

正一子四郎次郎  
ヲ召シ重吉跡ヲ  
預ク

四郎次郎淨惠ニ  
對シ不忠ニヨリ  
小田ヲ取返ス

先代官召決シ弁  
濟使ヲシテ進退  
セシム

重吉令逃失當名内之間、於彼跡者、辨濟使令進退之條、不限此一事例也、雖然、正一乍有一所、不  
及一言之上者、無競望之條、可足御還迹者也、何數拾箇年當知行之由、可及濫訴哉、無跡形不實  
也、而正一子息四郎次郎、雖爲他所居住之仁、淨惠甥也、其上爲烏帽子々之間、度々遣使者、招寄  
彼四郎次郎、爲辨濟使之計、所預置重吉之跡也、其後又可預件小田之由、令望申之間、爲親子之分  
之上者、不及子細預置畢、所詮庄家以無其隱之由發言也、尤直人等仁、以起請文有御尋之日、忽可  
露顯者也、次同狀云、自去正和元季之比、始而致押領之間、先地頭多伊良左衛門殿之時、令致訴訟  
之刻、依爲不退在府、不不被經急速御沙汰志天、被得替畢云々、此條又以濫吹謀訴也、件四郎次郎  
乍爲子、向于淨惠、現種々不忠之間、去々年之比、先取返彼小田畢、爰忘季來重恩、忽構出今案就  
訴申、先代官多伊良左衛門殿、被召決兩方之日、任相傳之理、辨濟使可爲進退之由、蒙裁許畢、且  
案文謹備右、此上者、何不被經急速御沙汰志天、被得替之由、可及掠訴哉、希代珍事也、次同狀  
云、背亡親讓狀之旨、破政道令押領之條、招罪科者歟云々、此條、何年正一令知行彼田畠哉、無知  
行之儀上者、依何妨就何篇、背己親讓狀之由、可及掠訴哉、眼前不實、更非御信用之限、將又正一  
令出帶如證文者、田畠在所并郷庄名字無之、旁以不少疑胎者也、所詮被停止正一無道濫訴之後、所  
預置四郎次郎至于田畠等者、如元可爲辨濟使之計之由、爲蒙御成敗、粗披陳言上如件、

正和參年四月 日

三 八坂下莊大片平得分注文

○宇都宮作治文書  
大分県史料一〇

(端裏書)  
「大かたひらのとくふんの事」

大片平田畠事

一 ほんつほの分

田地一丁一反小内一反小代三貫文

畠地一丁五反内山神畠三反延麥二石四斗

新田畠分

一新田畠分

新田一丁五反 代四貫五百文

新畠一丁三反 延麥一石三斗

桑代

一桑代二貫文

門戸代

一門戸代四百文

せきの鳥

一せきの鳥一つかい

百姓五人

一百姓五人内 上下二人 藤本氏大とく山はん(番)  
本村四人 手志ま氏きもん堂ぬし  
右、注文如件、 おく氏松かさり  
中西氏むま口つき  
佐藤氏るそる  
田向馬口付

田所

正和三年十二月

日

田所(花押)

三〇 八坂下莊領家下文

○諸家文書纂所収野上文書  
増補訂正編年大友史料四

(花押)

下 豊後國八坂下庄友貞名内中村屋敷但號專一 所貳段大内小者、彼貳段小内園、次一所妙見田

副堀田島小、已上島貳段大事

右、於貳段大島者、宇佐太子相傳之地也、今者爲門島、宇佐氏女永代無相違、可令進退領掌也、仍預所沙汰人等、宜承知、敢勿令違失、故以下、依 領家仰、下知如件、

正和四年五月十五日

左衛門少尉康賢 奉

三一 八坂下莊領家下文

○諸家文書纂所収野上文書  
増補訂正編年大友史料四

(花押)

中村友貞名ノ地  
ニ安堵  
ヲ尼專心  
ス

豊後國八坂下庄中村友貞名内專當園田島事、去正和元年十二月四日、尼專心任相傳、可領掌由、雖被成御下知、良悟預所之時、令補任若宮執行敷、而今年四月之比、有沙汰、專當國吉(國之入分)又宛給畢、但專心今捧申狀云、自本主長幸之手相傳云々、非無其謂者乎、然者早專心令進退領掌、有限御年貢以下御公事等、任先例、可致其沙汰之狀、依領家仰、下知如件、

八坂上・下・新莊



八坂上・下・新莊

嘉曆元年七月一日

三九 彌勒寺喜多院所領注進

○石清水文書二  
大日本古文書

彌勒寺喜多院所領ヲ注進ス

豊前國

注進 彌勒寺喜多院所領庄園名田末寺末宮別保等事

合

豊前國

位登庄六十町

糸田庄百三十丁

金國 八町

大野庄五十町

莠野庄六十町大摘也、

宇原莠田名田庄田十町

皇原庄庄田八町名田八丁

大野井庄庄田冊町名田八十町

山田庄并佐留尾百廿町別符

黒土庄庄田三十町名田冊町

廣山庄八十町

田井田庄六町

長命丸八町

永用名田廿丁

日足塚地廿五丁

向野塚地廿町

山下別符廿丁

麻生名田并石丸合五十丁

篠崎庄八十丁

津布佐庄八十丁

傳法寺

伊田別符百卅町

乙見別符二十五丁

護澤名田卅町

吉成八町

川島名六町

時成五町

豆勝國三十町

貫勝國六丁

菊丸名田七丁

打々別符六丁

荒津別符卅町

上松別符十八町

日奈土別符卅丁

池尻別符卅五丁

記多良野別符十三丁

夏燒名田六丁

中觀寺三丁

名田

入學寺五十丁

流未絹富卅丁

同益枝

本三十丁成房  
末八丁永意

全丸六丁

同香丸十丁

三郎丸五丁

少犬丸七丁

今男丸十丁

法師丸三丁

菩提院八丁

屋山福丸七丁

沖臣今男六丁

淨光清永二百丁

光國八丁

延永名田十丁

富河内二十丁

八坂上・下・新莊

八坂上・下・新莊

今任冊丁

已上豐前國五十五箇所

豐後國

竈門莊 八坂莊

日出莊

大神莊并乃木井

竈門庄七十丁

日出庄五十丁

伊美庄并岐部浦

合七十丁  
成印

都甲庄九十丁

香地庄三十五丁

榎隈別符畠

竹田津庄十四丁

法滿寺三丁

藤尾寺三丁六段

已上十八箇所

八坂庄百三十丁

眞玉庄五十丁

大神庄并乃木井合冊町

姬島畠

草地庄三十五丁

臼野・行久・波禰八十丁

妙覺寺八丁

永興妙法寺十九丁

由原宮

惣都合百四箇所

○以下筑前國十四箇所、筑後國七箇所、肥前國六箇所、日向國三箇所、薩摩國四箇所、肥後國四箇所、大隅國三箇所略。

法滿寺

四〇 字めせ女起請文

○生桑寺大般若経裏打紙文書  
大分県史料二五

(九一卷)

く<sup>(ふカ)</sup>ん大しん、ことには、めせ<sup>女</sup>にかうちほんくわん<sup>(八坂丸)</sup>しやうわか<sup>(宮)</sup>みやせん<sup>善</sup>しんわう<sup>神</sup>、そうして  
日<sup>(本國)</sup>六十よしうの大小しんき・ミやう<sup>冥</sup>たうの御は<sup>(ちなカ)</sup>あさなめせ<sup>(字)</sup>女か身の八萬四千のけのあな  
に、まかりかふるへく候、仍爲後日狀、如件、

元徳三年十二月廿三日

あさなめせ(花押)

○八坂荘ニ関スルモノカ。

四一 越智通貞書狀斷簡

○生桑寺大般若経裏打紙文書  
大分県史料二五

(一九四卷)

元徳四年七月十九日

越智通貞(花押)

謹上 八坂彦五郎入道殿<sup>(通巴)</sup>

一豊後州 八坂庄 生桑寺<sup>(表大般若経奥書)</sup>

八坂上・下・新莊

三 宇佐宮并彌勒寺由緒記寫(冊)

○到津文書  
大分県史料三〇

○年次未詳。本文省略。「南北浦部十八ヶ所」トアリ。「安岐郷史料」五六号ニ抄文ヲ収ム。

三 彌勒寺所司神理申狀斷簡

○生桑寺大般若經裏打紙文書  
大分県史料二五

(二五九卷)

(單筆)

被仰下候也、  
正慶元□□  
十一廿□□

八幡宇佐彌勒寺所司別當神理謹言(言上方)

(裏花押) ○下部  
半分欠

(四二卷)

欲早仰豊後國八坂上庄下司彦五郎、  
遂結解、可致其辨由、蒙御成敗、乍令

抑留有限長日上日供米等、每

下司八坂彦五郎  
ニ仰セ供米等ノ  
結解ラ遂ゲシメ  
フレンコトヲ請

探題北条英時討  
伐ノ時ノ軍忠ヲ  
賞ス

四 豊後守護大友具閑貞宗感狀寫

○秋吉文書(同系図)  
大分県史料一〇

去五月廿五日、於探題武藏修理之亮英時館、合戰之砌、頸一葛西十良太良討捕之條、無比類働、神妙之至候、彌被可披抽忠勲衷、肝要候、仍感狀如件、

元弘元辛未六月二日

大友近江守具閑貞宗(花押影)

秋吉新次郎とのへ

○付録「秋吉系図」忠義条ヨリ抽出ス。元弘三年ノ誤写ナルベシ。

五 鎮西北條英時御教書寫

○宮成文書  
大分県史料二四

(端裏書)

北條英時

喜多坊古證文寫

「

宇佐彌勒寺新寶塔院供僧晴秀申、豊後國八坂新庄一分供米事、重申狀切、此八坂孫太郎有下知狀否、可被注進之由、被仰了、急速可申者否也、仍執達如件、

正慶二年閏二月十八日

(北条英時)  
修理亮 在判

古後六郎殿

八坂上・下・新莊

八坂新莊一分供  
米二閏シ八坂孫  
太郎ノ下知狀  
有無ヲ注進セシ  
ム

四 雜訴決斷所牒寫

○真玉氏系圖  
西国東郡真玉町真玉寺藏

木付莊本方以下  
地頭職ヲ安堵ス

雜訴決斷所牒 大友木付大炊助藤原貞重所

豐後國木付莊本方惣領分〔宋付莊并八坂莊惣領分三分二〕・歲田莊之内三分二・眞玉莊本方七十町・田澁莊牧

村之内本方二十町・筑後國中莊村惣領東三分二・筑前國原田之内西方名十五町惣領三分二田〔總前〕山

野産數等地頭職事〔野ナシ惣〕

右、件所々地頭職、當知行不可有相違者〔以下改行〕、天氣如斯、悉之、以牒、

建武元年六月十六日

左少史高階朝臣〔審判〕判

左少辨藤原朝臣〔審判〕判

裏ニ關白二條左大臣道平公御判一有之、

○本文書檢討ヲ要ス。傍注「ハ」ハ「豊城世譜乾」ニヨル。

四 伴忠義八坂下莊内秋吉名畠屋敷配分狀

○秋吉文書  
大分県史料一〇

豊後國八坂下庄内秋吉名畠地屋敷配分狀事

仲村畠  
一所三段内  
此より南東淨願知行  
此次南西 忠義知行

八坂下莊秋吉名  
畠地屋敷ヲ中分  
シテ配分ス  
仲村畠

田島

水ツキ

ムクノキ島

イハハナ

木付屋敷

田島 一所三反内 北より半分淨願知行 南より半分忠義知行

水ツキ 一所大内 北半分 淨願知行 忠義知行

ムクノキ島 一所大内 北半分 淨願知行 忠義知行

久原 一所三反内 半分 淨願知行 忠義知行

イハハナ 一所三反内 半分 淨願知行 忠義知行

櫛引 一所大内 半分 淨願知行 忠義知行

同所 一所三反内 半分 淨願知行 忠義知行

同所 一所一反内 半分 淨願知行 忠義知行

木付屋敷 一所一反六十ト内 半分 淨願知行 忠義知行

仲三郎入道屋敷同大夫屋敷加定 一所五反内 半分 淨願知行 忠義知行

建武貳年十一月 日

伴忠義 (花押)

右此外、分もらしの所あらハ、半分つゝ知行すへく候、仍分狀如件、

大友田原系圖

○入江文書 大分県史料一〇

盛

直

次郎藏人 法名法智 後號法光寺

直

平

左近將監 藏人 法名號正仙 號寶陀寺 至德三年丙寅六月二日卒豊後田原別符蟠龍山、但國東郡、道號岳翁

八坂上・下・新莊



號大友 號田原 豐前藏人

直貞

三郎入道 法名正曇

- 建武元年十一月廿五日依其戰功、後醍醐天皇被下於綸旨、豐後國香智地庄地頭職三分貳、河越安藝入道遺跡下賜之、
- 建武三年二月十一日於攝津國打出之戰場、○中 突、證文有、
- 建武三年四月二日、尊氏公爲勳功之賞、豐後國八坂下庄下賜之

氏 平號利行掃部藏人

直廣 號泰永次郎藏人  
新藏人

兪 足利將軍尊家御教書

○武内文書  
大分県史料二六

豊後國八坂下庄  
ヲ田原正曇代官  
ムニ沙汰シ付ケシ

多原藏人三郎入道正曇申、(田原直貞) 豊後國八坂下庄事、任建武參年四月二日御下文、可被沙汰付于正曇代官之狀、依仰執達如件、

建武四年三月廿七日

(菊御直) 武藏權守(花押)

大友孫太郎殿

五〇 八坂下莊若宮社由緒記

○長野末夫文書  
大分県史料一

八坂下莊若宮領  
トナル

承安三年若宮八  
幡當莊ニ下リ下  
莊中村ニ安置

木田村ニ移リ内  
宮ニ移ス

鎮西豊後國八坂下庄之夏、□元歲、文徳天王第二年（癸酉）八幡大菩薩、京之南山ニ移給フ、其時代より當庄之夏、號若宮領、成物京都ニ社納ス、然處近衛院之時、久壽二年爲義ヲ失給フより以來、源氏入（マ）ニ成給テ第六年ニ當、永曆元年頼朝ヲ流罪ス、明應保元年平家清盛字佐ニ參宮、如是干戈無限、不叶運送之間、仁王八十代高倉之院時、承安三歲（癸巳）八坂下庄爲鎮守、若宮四所八幡大菩薩御寶鉢下給、同九月卅日下庄中村ニ奉安置、其後仁王九十五代後醍醐院之時、嘉曆元歲（丙寅）十一月九日木田之村ニ移給、遷宮嘉曆三年（辰）十一月九日丑ノ時ニ、内宮へ奉移也、亦建武四年（丁丑）八月十五日小社ヲ改、御幸會の以下取行、守護貞宗代嫡子貞載者、建武四年（丁丑）山

五 生桑寺大般若經奧書

○久多羅木儀一郎「生桑寺の写本大般若經」  
大分県史蹟名勝天然記念物調査報告四

卷	奧書 (卷首ハ注記ス)
五一〇 <sub>五〇</sub>	曆應二年三月卅日 大神庄 高津 希利 住 大檀那 尼 妙 蓮
四二六	愚筆藤原賴兼 文和二年癸巳三月廿七日於豐後國日出庄赤山西明寺書寫了、 願主 僧 仁 勢
三四〇	文和二年七月一日 大願主 圓海 妙本 應慶 筆者喜慶敬白

一四〇	文和二年 大願主 比丘尼妙本 僧 應慶 七月廿日 沙彌圓海 右筆者 僧 喜慶敬白
一三八	大願主 比丘尼妙本 僧應慶 文和二年七月廿八日 沙彌圓海 右筆者 僧 喜慶敬白
一三五	于時文和二年未 <sub>乙</sub> 七月廿九日 大願主藤原大宮德丸 願主比丘尼妙本 願主 沙彌圓海 願主僧 應慶
一六五	于時文和第四九月十六日大檀那執行宮德丸、大願主 比丘尼妙本 沙彌 圓海 僧應慶 (マ) 右各々結緣人々現當二世采地成就圓滿也、勸進隆堅
一六七	于時文和第四未 <sub>乙</sub> 九月廿二日大檀那執行宮德丸、大願主 比丘尼妙本 沙彌 圓海 僧應慶
一七〇	大願主執行宮德丸 比丘尼妙本 文和二年 沙彌圓海 十月八日

一四四	僧 應 慶 右筆者 僧喜慶 敬白 于時文和第四十二月日大檀那宮德丸 大願主 <small>比丘尼妙本 沙彌圓海</small> 大神三法師丸 僧 應 慶 爲多少結緣人々心中所願成就圓滿也、
一六四	于時文和第四 大檀那執行宮德丸 大願主 <small>比丘尼妙本 僧 應 慶 沙彌圓海</small> 爲各々結緣人々現當二世采地成就圓滿也、 大勸進阿闍梨隆堅
二三四	于時正平十一年丙申二月廿四日大檀那執行 宮德丸 大願主 <small>比丘尼妙本 沙彌圓海 僧 應 慶 勸進者金剛隆賢</small> 爲多少結緣人々心中所願成就圓滿也、
一四二	大願主 <small>執行宮德丸 沙彌圓海 右筆者 文和五年 比丘尼妙本 僧 應 慶 僧喜慶敬白 三月十日</small>

八坂上・下・新莊

一四八	<small>（無字、宮德丸二可也）</small> 大願主執行宮德丸 <small>比丘尼妙本 右筆者 沙彌圓海 僧 應 慶 僧喜慶 敬白</small>
四一〇	大檀那執行藤原宮德丸 大願主法師應慶 大願主沙彌圓海
一四	豐後州於由布院志賀大明神御寶前書之、 康安壬寅晚春廿八日 筆者崇珍
一七	豐州於由布院志賀大明神御寶前書之、 康安二年卯月廿三日 崇 珍
二〇	<small>（無字）</small> 東寺門徒沙門千海 <small>（無字）</small> 鎮西豐後州由布院於志賀大明神社壇書之、 康安壬寅仲夏端午
三七	于時康安二年八月上旬誌之、
四五四	于時康安第二 <small>（壬寅）</small> 八月中旬、豐後國速見郡 八坂下庄龍虎山大安禪寺天下第一珍惡筆

一一九九

八一	貞治二年癸卯九月十六日 筆者 願主 比丘崇珍	聞法結緣爲書寫畢、筆者楞迦峰江湖沙門 比丘日山正濟謹書畢、
四九九	⑤ 皆貞治二年十月十日 右筆者 比丘崇珍	
一四七	於豐州八坂下庄木付迎稱寺書寫之、予七 旬老爛之筆端殆雖有其憚、依生桑寺座主 之貴、不頗後覽所染毫也、 貞治三年甲辰極月六日 任阿彌陀佛	
四一五	于時貞治四年二月六日珍爲惡筆爲結緣閣 筆、右筆文心	
三七一	貞治四年三月一日於豐州六郷山新熊野坊	

三六一	貞治四年乙卯三月七日 右筆金剛佛子鑿蜜、	中、爲大乘揭緣勵小僧老筆處也、 筆者權律師仙戒愚老矣、
三七六	于皆貞治四年乙卯三月九日爲大乘揭緣勵少 僧老書畢、 筆者 沙門 千海	
三六六	貞治二年乙卯三月十日 右筆 金剛佛子鑿蜜、	
五八五	⑤ 貞治四年三月十日書寫了、	
四〇三	於豐後國八坂下庄木付迎稱寺、書寫之 訖、 七旬老筆殆雖有其憚、依生桑寺々務所命	

		書之、仍後覽更莫覃謗言而已、 貞治四年 <sup>(三)</sup> 沽洗上旬畢、任阿彌陀佛
三五八	貞治四年 <sup>巳</sup> 三月十七日筆者金剛佛子鑿蜜	
三七八	貞治四年三月十七日 爲大乘結緣勵少僧 非書訖矣、 東寺門徒 沙 門 仙 戒	
三五四	山日也、 貞治四年 <sup>巳</sup> 三月廿三日書寫了、 右筆 金剛佛子信御 <sup>行</sup> 年 <sup>三十四</sup>	
三八〇	貞治四年三月廿三日爲結般若之緣所橫少 僧之 <sup>(マ)</sup>	
三九一	貞治四年三月廿五日爲結般若之素緣所橫 愚老之紫毫也矣、	
一五一	貞治二年 <sup>巳</sup> 三月廿六日	

八坂上・下・新莊

		右筆 金剛佛子鑿蜜
三九三	貞治四年三月廿九日於六鄉山新熊野本坊 爲般若之素緣振愚老之紫毫如斯、敢不可 有渡難之儀、 <sup>(後力)</sup>	
五三三	<sup>(卷五)</sup> 貞治四年 <sup>巳</sup> 卯月十七日書寫畢、 右筆師 權律師清譽	
三三三	貞治四年 <sup>巳</sup> 卯月廿二日書寫畢、 右筆師 律師清譽	
二五六	<sup>(補文)</sup> 因緣生故無 <sup>(自)</sup> 有性故、畢竟空故無所得、是 名般若波羅蜜、 于時貞治二年卯月廿六日於豐州日出庄無 量光寺、珍爲惡筆爲結緣令書寫畢、右筆 □□故	
三〇二	于時貞治四年五月二日爲大乘結緣震少僧 老毫畢、 <sup>(老)</sup> 沙 門 千 海	
五三九	南無般若十六善神生々世々值遇結緣藤原	

三〇一

六〇〇	<p>賴言敬白 貞治四年<sub>巳</sub>五月六日</p> <p>九州内豐後國八坂本庄生桑寺院主權律師 鑿惠</p> <p>貞治四年五月七日書寫畢、結緣者沙門 良舜<sub>敬白</sub></p>
四二二	<p>貞治四<sub>巳</sub>六月五日<sub>豐後國朝來野清白庵書之</sub></p> <p>權僧都法助和尚位定脩助筆廿卷内也、</p>
二七八	<p>因緣生故無自性、無自性故畢竟空、畢竟空故無所得、名般若波羅蜜</p> <p>于時貞治第四<sub>巳</sub>六月日</p> <p><small>於豐州速見郡日出庄無量光寺書寫之畢、珍惡筆返見爲結緣閣了、右筆佛資文心</small></p>
四八二	<p>貞治四歲十二月</p>
四五二	<p><small>(以下解字号)</small> 南無般若十六善神生々世々值遇結緣藤原賴兼</p>
二六二	<p>六郷山靈山寺吉婆蘇山書寫之訖、 權少僧都口眼和尚位定脩筆廿卷内也、 右筆 阿闍梨 定賀</p>

五八八	<p>權少僧都定脩助筆廿卷内也、</p>
四〇一・二七一	<p>紀州粉河寺僧玉圓</p>
一一九・二二五 二五五・二二九 四・五八三	<p>明鏡書</p>
一九二・一九九 七・一九九	<p>宇佐爲家</p>
二八六・二八八 四六九・四三九 〇・五二七 五二八	<p>了密房</p>

○卷末ニ經文校合ノ異筆アリ。「校合畢」(九五)、「以摺本交合畢」(三五)、「於小武寺交了」(二三)、「以小武寺本校之畢」(一四)、「摺本交合了、又於小武寺校之畢」(二)、「摺本交合了、又以小武寺本校之畢」(二四)、「摺本交合了、又於小武寺圓快交之」(六一)等、速見郡山香郷小武寺本ヲ以テ校合セルモノ、他二四・三一・三三・四一・五〇・六二・六六・七九・八九・九一・九二・一〇七・一一卷等アリ。尚「以他本交合了、又以小武寺本交了」(一一・一二・一四)、「以摺本交合、又以生桑寺之畢」(五四三)等モアリ。久多羅木儀一郎ハ、「小武寺圓快」ハ同寺過去帳ニ元和元年(一一五)六月五日寂トアリ、彼ノ校合ハ慶長年間ト推定シテイル。コノ他、江戸時代ノ補修ノ際ノ奥書アルモ、スベテ省略シタ。

尚コノ大般若經奥書ハ、『日出町誌』史料編(昭和六十一年三月)ニモ全文ヲ収録セラレテオリ、同書ト校合シ異ル所ヲ( )内ニ傍注シタ。

五 石志定阿滿讓狀案

○石志文書  
南北朝遺文一三三〇号

石志滿八坂下莊  
四ヶ名地頭職等  
ヲ嫡子照ニ讓ル

讓與 嫡子源三郎照所

在肥前國松浦西郷石志・土毛兩村地頭職并豐後國八坂下庄四ヶ名地頭職・肥前國安富庄内畑瀨村

同村内・同國河副庄角町名等田地屋敷事  
火桶(佐嘉郡)

右、所領等者、沙彌定阿或重代相傳私領、或爲恩賞之地拜領之間、相副御下文以下代々手繼次第證文等、依爲嫡子、所讓與于源三郎照實也、至于子々孫々、無他妨可令領知、於四至境者、本證文等明白也、

一、彦四郎披所、石志村内田地屋敷、并安富庄畑瀨村内上於副河所分與也、四至境坪付、彼所帶證文顯然也、

一、女房所、石志村内田地鼓五段依西・貳坪六段依西・新開七段・柏木二段依北・源藤六當時居屋敷者、

依有所存、以賣券之狀、所奉思充也、但此外、先日讓狀仁副賣券雖讓、悉悔還早、將又、女子并孫子等仁雖有先讓狀等、同悔還之者也、此上者、所奉思充于女房、聊不可成違亂煩、相構女房女子等可令扶持、又女房一期之後者、於彼田地者、女子等外不可有望者也、

一、孫子字千歲丸所、河副庄角町名内屋敷壹所・田地壹町ナシ所讓與也、但不背惣領命、可知行之由誠畢、如此面々分讓上者、無不和儀、庶子等可令扶持、然早守此旨、可令領知狀如件、

八坂上・下・新莊

彦四郎披分

女房ノ所

先日讓狀ハ悔返  
ス

孫子千歲丸



八坂上・下・新莊

三〇四

曆應二年<sup>己卯</sup>四月廿五日

<sup>(石志瀧)</sup>沙彌定阿 在判

○『佐賀県史料集成』二七卜校合。「〔 〕」ハ同書ニヨリ傍注ス。

三 八坂下莊領家下文

○生地文書  
大分県史料一〇

(花押)

下 豊後國八坂下庄内  <sup>(名カ)</sup>主職事

定補 物部氏女

八坂下庄内某名  
主職ヲ物部氏女  
ニ安堵ス

暫ク他人ニ預ク

右件名者、右衛門次郎資朝重代相傳名也、仍知行無相違之處、本所之御命旨、就被聞食、暫雖被預他人、無子細之由、今被聞食之間、件名田畠屋敷鹽濱等、不殘 <sup>(段歩カ)</sup>、如元可進退知行、有限年貢雜物、任先 <sup>(例カ)</sup>不可有懈怠、庄家宜承知之狀、仰下知如 <sup>(件)</sup>、

曆應三年五月廿二日

左衛門尉種康

五 八坂道圓請文寫

○諸家文書纂所収野上文書  
南北朝遺文一六五〇号

野上但馬權守資親等與、帆足六郎左衛門入道義鑿子息安藝權守通種、於資親等恩賞地豊後國球珠郡山田鄉<sup>小田三郎</sup>顯成跡、今月十六日致合戰、及殺害刃傷狼藉由事、今年四月廿二日御教書謹拜見仕候了、抑

八坂道円代官ヲ  
遣シ球珠郡山田  
郷内合戰ノ跡ヲ  
見知シ注進ス

任被仰下之旨、以同月廿九日差遣代官盛親於彼所、田吹六郎入道相共、云死骸、云刃傷、令見知候畢、仍盛親勘文一通謹進上之、此條若偽申候者、八幡大菩薩御罰於可罷蒙候、以此旨可有御披露候、恐惶謹言、

曆應四年閏四月十日

(八坂)  
沙彌道圓(花押影)

五 足利尊氏(カ)袖判下文

○大友家文書錄  
大分県史料三一

(足利尊氏カ)  
袖判

御。判

下 豊前藏人三郎入道正曇

(山原廣忠)

可令早領知肥前國山田庄地頭職(カ)阿蘇彈正少事

(北条)  
弼治時跡

右、爲豊後國八坂下庄替、所宛行也、早守先例、可致沙汰之狀、如件、

曆應四年八月廿八日

五 八坂道圓請文

○到津文書  
大分県史料一

田部氏申、豊後國田染庄内重安・恆任・永正・小手則・末次名等事、今年九月九日御教書・同十五日御施行、謹拜見仕候畢、任被仰下之旨、守護御代官相共莅彼所、致沙汰候之處、於曾禰崎左衛門

八坂道圓遵行使  
トシテ田染庄ニ  
入ル

田原正曇ニ八坂  
下庄替トシテ山  
田庄地頭職ヲ宛  
行フ



八坂道円田染庄  
重安名等ノ遵行  
使トナリ請文ヲ  
出ス

田原法光等永  
正・小手則・末  
次名ヲ渡サズ対  
捍ス

五 八坂道圓打渡請文

○永弘文書  
大分県史料三

田部氏申豊後國田染庄内重安・恆任・永正・小手則・末次名等事、任去年十二月十八日御教書・今年四月廿六日御施行、守護御代官相共、莅彼所、致沙汰候之處、於重安・恆任名者、先日沙汰付候之間、氏女當知行、至永正・小手則・末次名者、田原次郎入道法光(盛道)・同子息掃部藏人貞治・長野右馬次郎・神主定基・倉成修理亮等、楯籠當名、引率多勢、何箇度雖被仰下、不可去退於當名、稱可捨身命、對于御使、擬致合戰、相巧擲捕神人等候之間、不及打渡候、若此條偽申候者、

八幡大菩薩御對於、可罷蒙候、以此旨、可有御披露候、恐惶謹言、

曆應五年五月十日

(八坂道圓入道) 沙彌道圓(文) 請

(裏花押)

五 八坂上莊領家(カ) 申狀斷簡

○生桑寺大般若經裏打紙文書  
大分県史料二五

(五九四卷) 右當庄惣領地頭彦五郎入道道圓

(カ) 所務

(掛額カ)

○以下二通年未詳。八坂道円ニヨリコ、ニ収ム。

八坂上・下・新莊

六〇 八坂上莊領家（八坂）申狀斷簡

○生桑寺大般若經裏打紙文書  
大分県史料二五

（四二六卷）

右子細者、載本解狀訖、（八坂）而道圓令違背御書

□□不及陳狀之條、無謂次第也、然□□令抑留

年々之□□

六一 八坂下莊領家下知狀

○秋吉文書  
大分県史料一〇

（花押）

秋吉名々主職ヲ  
秋吉淨願・忠義  
ニ選補ス

豐後國八坂下庄内秋吉名々主職事、重代之由望申之間、去建武二年四月十五日、雖宛賜淨願并忠義  
今者改等、背請文之旨、御年貢御得分物已下令未進之間、宛給彦十郎盛基了、雖然、今種々有歎申  
旨之上、先年之未進致沙汰之間、所令還補也、向後御年貢御得分物御公事等、任以前御下知之旨、  
無懈怠可致其沙汰之由、依仰下知如件、

康永元年七月十七日

三 八坂下莊中村内半分田畠等忠氏知行坪付注文案

○秋吉文書  
大分県史料一〇

忠氏知行薬丸・  
延道・守末半名・  
各半分ノ坪付ヲ  
注ス

ふんこのくにやさかしものしやうなかむらのうち、やくまる(薬丸)のふミちならひにもりすゑはんミ  
やう、おのくはんふんてんはく・いやしき・くわうや、た(忠氏)うちちきやうつほつけちうもんの

薬丸名

一やくまるミやう

てんちのふん

一所六反三百ふ

つゝ井のさこ

一所四反はん

はたけた

一所二反六十ト

やふた

一所五反

(悉の懸)  
しのミとり

一所二反

いしたミナミの  
より

はね

一所五反うち二反  
れうてん

はねミナミの  
より

一所三反六十ト

なかあらしき

一所一反大れうてん

しりのゑた

一所五反

(飛也)  
さほ里にし  
より

一所六十ト

ミつほり

八坂上・下・新莊

一所二反六十ト

はきわらくちのより

一所三百ふ

つちあなのまゑ

一所はんしんてん

しのミとり

一所はん

はきわらた

一所はん

やなせしんかいひかしのより  
かわなり

一所小

そいまちほりミなミの  
より

一所はん

はしもと

い上四ちやう大

一 はくちふん

畠地分

一所三反

ほりのうちもと  
まんところ

一所一反はん

たうそのおなしまんところの  
そいみなより

一所一反六十ト

ミねいやしき

一所二反小

かきのきはたけ

一所一反小

なかはたけ

一所二反

いしわらいやしき

一所三反

はたけその

一所一反はん

とう四ろうそのひかしの

ほりのうち(も  
とまんところ)

なかせ

一所一反はん

こせうちくちみなミより

一所一反

ひろせうちあかり

一所一反

おなしとこみなミろひひかりより

一所一反

おなしうちあかり

一所一反小

なかせ

一所小

みつほり

一所一反はん

ミネせいにしの四いやしきろうにしの

一所九十ト

しん二四郎あといやしいやしききににしのより

一所大

くわんくすうくそのきたのより

い上二ちやう四反小三十ト

六三 八坂下莊中村内忠氏知行坪付注文案

○秋吉文書  
大分県史料一〇

正校了、

豊後國八坂下庄中村内藥丸・延道并守末半名各半□田畠屋敷荒野等、忠氏知行坪付注文案

八坂下莊ノ坪付  
ヲ注ス  
藥丸名

藥丸名

一田地分

八坂上・下・新莊



八坂上・下・新莊

〔下同〕  
□所陸段參百步

筒井迫

□所四段半

皇田

一所貳段陸拾步

藪田

□所伍段

志乃綠

□所貳段

石田南依

一所伍段內貳段  
料田

羽禰南依

一所參段六拾步

中荒木

□所壹段大料田

尻枝

□所伍段

澤里西依

一所六拾步

水突

□所貳段六拾步

萩原口依

○コノトコロ繼  
目裏花押アリ

□所參百步

土穴前

□所半神田

志乃綠

□所半

萩原田

□所半

築瀬新開東依  
川成

一所小

副町堀南依

一所半

橋本西依

堀内本政所  
政所ソイ

已上四町大

一畠地分

□所參段

□所壹段半

□所壹段六拾步

□所貳段小

□所壹段小

一所貳段

一所參段

□所壹段半

□所壹段半

□所壹段

□所壹段

□所壹段

□所壹段小

□所小

一所壹段半

堀内本政所

堂園同政所ソイ  
南依

峯屋敷

柿木畠

永畠

石原屋敷

畠園

藤四郎園東依

小路口南依

廣瀬打上南依

同所東依

同打上

中瀬

水突

峯清四郎屋敷西依

八坂上・下・新莊

八坂上・下・新莊

三一四

□所玖拾歩

新次郎跡屋敷西依

□所大

四郎貫首園北依

已上貳町四段小參拾歩

□所筒井之上屋敷號山崎半分上荒野同町堀加定東依自南北ニ向テ堺ヲ定畢、

□所窪田葺原半分西依當作之田地半分宛也、南ヨリ北ニ堺ヲ定畢、

□所森前津留地半分西依南ヨリ北ニ向ヲ堺ヲ定畢、

□所木古志峯荒野半分宛東西ニ堺ヲ定畢、

一延道名

延道名

一田地分

□所壹段

桑元西依

□所半

息田居

□所小參拾歩

中園早田

□所小貳拾歩

妙見田口依

□所半

竈園西依

□所半

鹽田西依

一所貳段

村田南依

已上伍段百拾歩

一畠地分

□所壹段半

中藪五郎四郎屋敷加定、

□所半

竈藪西依 但令開新田畢、

□所半

下津留南依

已上貳段半

守末名

守末名

一田地分

八坪

一所參段

八坪北依

一所貳段半

竹下北依

□所參百步

逆樣田西依

已上陸段小

□畠地分

□所參段

ひられ石

□所壹段大居屋敷

入道籠西依

□所參拾步

梨木畠北依

已上四段大參拾步

惣都合 田地伍町貳段百拾步

八坂上・下・新莊

八坂上・下・新莊

三一六

惣都合 畠地參町壹段大

右、藥丸・延道・守末半名田畠屋敷荒野各半分坪付、寄進狀相副テ、別紙令進上候了、但殘半分於田畠屋敷荒野等者、任此坪付、限永代、可令忠氏知行候、仍爲後日、注申坪付、如件、

康永三年七月六日

伴忠氏 在判

六 秋吉忠氏等連署四至塚定文寫

○秋吉文書  
大分県史料一〇

八坂下庄内中村与井斗原与萩原荒野塚之事

北ヲ限大道同、

天神森与間ニ大窪ヲ限、

南ハ大道、北ハ溝ヲ限、川ハ長瀬渡、上ハ長瀬ト云、下ヤナ瀬ト云、井斗原募堂(マ)

ノトヲリ大道ニ土ツカアリ、

西ヲ限、

萩原道仁父道安ツカナリ、其ヨリ萩原田ノ尻渡、同末守野田ヲ限、

南ヲ限、

大人ノ跡ニ向テ大石アリ、田フチヲサカウ、其ヨリトヲ切石ヲ限、

東ハ大人ノ跡ヨリ北ニ向テ道トヨリ、土アナ有、狐ツカトモ云、其ヨリ山崎屋敷南ノヤ子ヲ

松本田ハタニトヲル、

右、如前々所定、如件、

秋吉新兵衛尉  
忠氏(花押影)

八坂下庄内中村ト  
井斗原ト萩原  
荒野ト定ム

萩原右衛門入道  
道仁(花押影)  
藥丸美濃守  
能房(花押影)

(康永三年七月六日)  
年號右ニ同之

紙數已上九枚

○付録一「秋吉系図」ノ忠義条ニモ収ムルモ、若干異同アリ。要参照。

六五 ひさきよ・まさおう連署奉書案

○秋吉文書  
大分料史料一〇

八坂下莊中村藥丸・延道・守末  
半名ノ半分ヲ秋吉忠氏寄進ス

半分宛知行スベシ

ふんこのくにやさかしのしやうハ、なかむらやくまろ・のふみちならひ□もりすゑはんみやうの  
田 崩 荒 野(う)腕(な) 村 藥 丸 延 道 (尾カ)守 末 半 名  
てんはくくわやおのくはんぶん、さうてんしたいせうもんをあいそゑ、うらふうし、つほら、  
(秋)吉 新 兵 衛 尉 忠 氏 (戸)次  
あきよししんひやうへのせうたうちほうよりきしん申され、へつきとのとおもむきひろふおハぬ、  
こしやうらいにいたるまで、あいたかいニいるんなく、けいしやうにまかせて、はんぶんあて、  
ちきやうせらるへきよし、候ところなり、よてしたつくたんのことし、  
(康永)

かうゑい三ねん七月六日

ひさきよ はん  
まさおう はん

八坂上・下・新莊

六 田部氏女代郷輔請文寫

○宇佐郡諸家古文書  
南北朝遺文二〇三號

號字佐若宮神主秀基令掠申候豐後國田染庄〔國崎郡〕內〔高師直〕。恆任・永正兩名田事、如去年六月十八日京都御奉書・

今年三月廿三日守護所御施行〔大友氏奉〕〔苦力〕、香志田藤五入道并泰氏女等非分押領云々、沙汰付社家、有子細者

可注申云々、此條重安・恆任・小手則・末次名等者、當宮一圓神領田部氏當知行地也、就建武五年

社裁、給曆應四年五月十一日〔和利尊氏〕將軍家御下知、同九月九日被成御教書、於當所、仰守護御代官并八

坂彦五郎入道被沙汰付氏女之處、於重安・恆任者、沙汰付氏女、至永正・小手則・末〔宇都宮宗賴〕。名者、神主

定基・田原次郎入道法光・掃部藏人直治〔盛直〕・倉成修理亮申異儀不去退之由、兩使之散狀守護御注進之

間、爲飯尾修理亮入道御奉行、康永四年六月八日重申成御奉書畢、同年十月七日於當所仰守護御代

官并伊美小四郎〔永親〕、被沙汰付氏女最中也、而號秀基〔田染〕・爲基〔マ〕・定基等ノ御下知違背之咎、申成御奉書之

條、奸訴之罪科難遁、早被與奪本奉行人飯尾修理亮入道方、且被全御下知、被沙汰。散在名田等於〔泰〕

氏女、可被處秀基於罪科候哉、仍御下知以下所帶公驗進止之、次號香志田藤五入道・泰氏女者誰人

哉、田部氏女帶御下知支申之上者、須預御注進候哉、以此旨可有御披露候、恐惶謹言、

貞和二年五月廿八日

田部氏女代郷輔請文〔花押影〕

〔上包〕謹言上

祠官田染

守護代及ヒ八坂  
道田遵行使下ナ  
ル

八坂下莊内秋吉名田畠戸次方分帳案

○秋吉文書  
大分県史料一〇

八坂下莊内秋吉  
名戸次方分坪付  
ヲ注ス

豊後國八坂下莊内秋吉名田畠等分帳事

一所參段半 料田松本  
北のより

一所壹段半 料田しを田  
南より

一所壹卅分 口技  
(マ)

一所六段卅分 下枝

一所參段小 小ちき  
(手)  
さき

一所參段 峯本  
イシカハナ

木付

一所壹段 木付

一所大 下庄小嶋下  
ミン、イ

一所五段 しを入上  
小嶋前

一所參段 ぐ里本

以上田地貳町八段小

一所貳段半 門畠下庄  
東より前田半分

一所大 むくの木畠  
ミ、ミ、ミ、ミ、ミ、ミ

一所壹段半 中村西より

一所大 田嶋

一所參段 久原

一所參段 伊くち

以上畠地壹町大

右、戸次方分狀、如件、

貞和三年正月廿六日

忠 氏 在判

八坂上・下・新莊



六 八坂下莊内秋吉名田畠戸次方分坪付案

○秋吉文書  
大分県史料一〇

〔端裏書〕  
□次分田畠坪付案〕

戸次方坪付ヲ注  
ス

三十六内二反半 五郎四郎入道方

二反料田 三分一とくもち作  
相傳不知

秋吉名戸次方 契約分坪付

一所 參反半 料田松本  
北のより

一所 壹反半 料田しを田  
南より

一 壹段 卅分 口枝  
西より

一 六反 卅分 下枝

一 參段 小 小まき

一 參段 峯本  
イシカハナ

木付

一 壹反 木付

一 大 下庄 小嶋下  
ミン、イ

一 五段 しを 入上  
小嶋前

一 參反 くり本

以上田地 貳町八反小

一 貳反半 門畠 下庄  
東より 前田 半分

一 壹反半 中村 西より

一 大田 嶋

一 參段 原

一 參段 いくち

以上畠地 壹町大

右、戸次方分狀、如件、

貞和三年正月廿六日

忠 氏 在判

六 八坂道園請文案

○永弘文書  
大分県史料三

〔<sup>(端書)</sup>郎入道請文 〇而申比前<sup>(カ)</sup>〕

〔<sup>(田部氏)</sup>女代郷輔申、宇佐神領豊後國田<sup>(樂庄内重安・恒任・)</sup>小手則・永正・末次名等事、去<sup>(御下)</sup>〕

八坂道田染莊  
内ノ名田下地打  
渡シノ次第ヲ注  
進ス

知御施行者<sup>(取)</sup>、去年十二月四日<sup>(是)</sup>具書<sup>(副申狀)</sup>如此、就請文其沙汰、爰豊前藏人<sup>(次郎入道)</sup>跡、倉成修理

亮・長野馬次郎・神主定<sup>(是)</sup>被用云々、太不可然、重莅彼所、打渡下地<sup>(是)</sup>、於申<sup>(是)</sup>輩者、爲糺

〔合使都甲次郎入  
道〕

明可參洛之旨、相觸之<sup>(是)</sup>更可被注申云々、仍任被仰下之旨、都甲<sup>(是)</sup>郎入道相共、以今月十九日、

欲打渡下地於<sup>(氏)</sup>女代候之處、長野馬次郎・神主并秀基<sup>(倉成)</sup>修理亮等、應御下知去退候之間、打渡

氏女<sup>(代)</sup>候畢、豊前藏人次郎入道跡左近藏人・掃<sup>(部)</sup>藏人<sup>(同前)</sup>・次郎藏人入道等者、構城墾、不入立御<sup>(是)</sup>候

之間、<sup>(不)</sup>及打渡候、次後輩等參上候之段、<sup>(不)</sup>觸之候、不及是非之散狀候、若此條僞申<sup>(候)</sup>者、

〔<sup>(八幡)</sup>大菩薩御罰於、可罷蒙之候、以此旨、可有<sup>(細)</sup>披露候哉、恐惶謹言、

貞和四年二月廿三日

〔<sup>(八坂)</sup>沙彌道園 請文  
裏判

70 八坂下莊秋吉名當知行并押領分坪付注文

○秋吉文書  
大分県史料一〇

當知行分坪付

豊後國八坂下庄

田島等

一所參段半松本料田  
自南

一所壹段半志を田料田  
自北

一所五段村田

一所半門田自北 一所壹段卅分口枝  
東より

一所四段大木田こめ

一所小中村藤田

一所參段かきせ

一所貳段南なかれ

一所貳段小しを入  
岡下前

一所小木付河そい

一所參段木付  
市前

一所大木付  
本屋敷

以上田地貳町七段六拾歩

一所貳所段半門島自西  
前田半分宛

一所大前田とね加定

一所參段中村田嶋

一所壹段半中村  
自東

一所參段櫛引

一所大木付市前と

一所大下庄  
むくの木島

一所しをはま半岡下前

以上畠地壹町貳段

右、當知行分狀、如件、

木付市前

竹中殿押領分秋  
吉惣里坪

〔カ〕 蔵田秋吉惣里坪事

一坪貳段

二坪四反三百分内

料田二反

三坪内一反

五西一反半卅分(カ)

七坪五段

九東二反十分

十坪内一反半

新一反大

新三百分

新一反

石屋里

田渡里

二坪三反小

一坪四反六拾分

田嶋里  
一坪一反半

一坪六段

三坪六段十分

三南二反十分

新四反

新大

新半

三坪三反

同坪二反六十分不

廿三坪二反六十分

新一反半

中間里

一坪七反内料田三反  
庄四反

二坪壹丁内料田四反  
庄六反

四坪七反内料田二反  
庄五反

一五坪六段

新大

新大

新六十分

八代里十二坪二反半

右、竹中殿御押領分注文、如件、

○継目裏ニ花押アリ。末尾継目裏花押ハ左半分ヲ存ス。

八坂上・下・新莊

七 秋吉氏相傳文書覺書寫

○秋吉文書  
大分県史料一〇

(編纂書)  
「□文寫」

覺

八坂惟繼ノ請文

〔豐前深見地頭職〕

一八坂五郎左衛門尉宇佐惟繼入道常念、文永四年正月廿六日、〔六波羅殿へ上ル請文〕判形有之、常念

父ハ盛廣入道寂(蓮之)□下云、

〔北條相模守時宗時代也、當年迄四百貳年ニなる〕

僧阿入讓狀

〔最明寺殿時代當年迄四百四十三年ニ成、〕

一僧阿入寛元二年甲辰五月廿日、深見寂蓮入道ヨリ西勝寺院主職并料免田島等事、讓與證文判形有

之、

〔北條相模守高時方出ル當年迄三百六十年ニ成、〕

一嘉曆元年八月三日、八坂五郎左衛門尉惟繼子左衛門次郎盛繼法名 覺雲子息乙壽丸所領、豐前・深見庄地

八坂盛繼子息乙壽丸所領安堵外題

頭・同山野并今富・倉成名并豊後八坂新庄地頭職・同山野、并筑前國四郎丸地頭并肥前國米多續

命院地頭職讓與證文ニ、關東奉行所ハ三善・藤原判形有之、并六波羅殿判形有之、

〔後醍醐時代當年迄三百卅七年成、〕

一豊前深見秋吉彦十郎字佐盛基領知、

深見庄内山口田島山野・同庄之内中坪四段、同國上野村秦家 跡一分地頭職、豊後國八坂下庄内秋吉

名・藥丸名等之事、貞和六年十月ニ、將軍尊氏公ノ御息足利右兵衛佐直冬御書判有之、

〔北條高時ノ時代當年迄三百七十一年ニ成也、〕

一正和五年七月二日秋吉左衛門尉宇佐盛幸、左衛門尉ニ任スル禁中ハ出申外宣旨一通有之、

〔右ニ同〕

一右同人ニ被下ル、正和五年七月ニ鎌倉殿侍所三人連判有之、

秋吉盛基所領ニ対スル足利直久ノ書判

秋吉盛幸任左衛門尉ノ口宣案

以上

○年未詳。文中「貞和六年十月」ヨリ以後ノモノナリ。但シ傍注ハ江戸時代初期。

### 三 八坂下莊領家御教書

○生地文書  
大分県史料一〇

(花押)

守相名内安心院  
女子跡ヲ朝日寺  
ニ寄付スルヲ認  
ム

(八坂下庄)

庄守相名内、安心院女子跡田畠等お、寄附生地朝日寺事、所被聞食也、有限致御年貢御公事者、可被勤仕、兼又宇佐本役相當之時者、隨分限、可被其沙汰之由、依領家仰、執達如件、

(異筆)  
「仁王九十七代後光院  
辛卯」

觀應二年八月廿三日

### 三 釣鼈山安住禪寺梵鐘銘

○木崎愛吉「大日本金石史」  
杵築市大字南杵築三七九

銅鐘ヲ新鑄シテ  
寄進ス

(第一区)  
「大日本國豊後州八坂津釣鼈山安

住禪寺鐘銘并序

八坂津之難渡、蓋以海潮定來、亦以山

水暴漲之故也、北岸突起、望若崇臺松篁

八坂上・下・新莊

八坂上・下・新莊

三二六

嘉樹茂盛、而備登覽之美、

藤原(木付)頼直大檀越

藤原君頼直爲大檀越、

海印自聞禪師之徒、正眼菴寺、名曰安住、

行化有年矣、同衲過此、阻潮未嘗遣

之、杯笠而渡、或暫止、或留宿焉、文和

二年歲在癸巳首夏吉日、新鑄銅鐘

以虞之、且寺之始成、宜鯨音之弘揚、則

吾先聖垂訓、豈不勃興也哉、欲銘

寶陀悟菴徹禪師命正祖代焉、所以亘

古亘今、非文非字、則不愧蕪詞也矣、

銘曰

(第二区)  
「津之忽漫 以旦以夕 困其修途

必候潮汐 川流或漲 涉者避溺

山安爾住 拔地百尺

上有佛祠 吾徒開席 契證音聞

鐘乃爲益 虛空蕩々 万象歷々

旁午圓通

刻銘可觀

寶陀寺悟菴徹禪師

文和二年歲在癸巳五月十八日 謹題

都匠 上野實貞

○文化庁「宇佐・国東半島を中心とする文化財」ト対校スルニ、同書八二十六字ノ脱漏アリ。

齒 八坂下莊領家下知狀

○生地文書  
大分県史料一〇

(花押)

藥師丸・貞末名  
等ノ地ヲ朝日寺  
ニ寄附スルヲ認  
メ年貢濟物ノ沙  
汰ヲ致サシム

〔<sup>〇</sup>〕後國八坂下庄藥師丸名内外〔<sup>〇</sup>〕木新田〔<sup>〇</sup>〕段・貞末名内河崎〔<sup>〇</sup>〕參段・木〔<sup>〇</sup>〕畠生地參段事

右所〔<sup>〇</sup>〕本名主等、令寄附〔<sup>〇</sup>〕朝日寺之由、所被聞食也、但於御年貢已下濟物御公事者、隨開作、

可致分限之沙汰旨、依仰下知、如件、

〔<sup>〇</sup>〕<sup>〔異筆〕</sup>仁王九十七代後光院 文和二年 〔<sup>〇</sup>〕<sup>〔異筆〕</sup>癸巳 十月十六日

壹 八坂下莊領家下知狀

○生地文書  
大分県史料一〇

(花押)

豐後國八坂下庄藥師丸内生地朝日寺敷地事

四至 東限國貞秋吉塚 西限田不地  
南限藥師丸田不地 北限丹法師貞末塚

八坂上・下・新莊

朝日寺ノ器用住  
侶ヲ定メ祈禱ヲ  
致サシム



右敷地者、故領家御時、任正忠之契狀、可造立堂舍之由、念佛者明教望申之間、嘉曆三年七月十六日、雖被成御下知、其後明教依令辭退、名主正忠令建立彼寺云々、早定器用之住侶、且可被致御祈禱之由、依仰下知、如件、

(異筆)  
「仁王九十七代後光院」殿 文和二年「癸巳」十月十六日

三 戸次淨心重安堵申狀案

○大友文書  
大分県史料二六

惣領大友氏時ニ  
譲与セシ所領ノ  
安堵ヲ請フ

所領豊後國柴山村、(海部郡) 戸次庄内壇原村、由布院内荒木・山崎・石松・貞恆四箇并香野村、八坂庄内歳田村、日向國宮崎庄内調殿村・和田村・宮崎本村半分・柏田半村景重方・四郎丸公文龜鶴給分田畠・萩原田地、肥前國財部村六分壹等地頭職事、相副御下文以下證狀、令讓與惣領大友刑部大輔氏時候、可被成下安堵御下文候哉、以此旨可有御披露候、淨心恐惶謹言、

文和三年十月十六日

(戸次重忠)  
沙彌淨心

進上 御奉行所

七 大友氏時當知行所領所職等注進狀案

○大友文書  
大分県史料二六

八坂下莊若富名

○貞治三年二月日。本文省略。氏時所領中ニ「同國八坂下庄若富名」アリ。全文ハ「安岐郷史料」六九号ニ収ム。

六 尾正安遺領配分狀

○秋吉文書  
大分縣史料一〇

當知

知、御教書明白也、爰貞泰、去觀應貳年、於筑前國針摺

原合戰、

〔打死〕

畢、打出之時申置云、今度令討死合戰者、於件所職名田

〔富山野者〕

〔三郎〕

〔衛尉〕

可讓與

〔云然〕

法師丸、若或令早逝、或現不調振舞、或致罪科、或令母儀敵對者、次

〔非分訟機若〕

計云々、

又次郎兵衛尉

〔相〕

共召具之上者、

令貞泰誅死者、

不可

〔有比與振舞〕

捨親於踏逃足者、准不孝、雖爲貞泰跡段歩、不可有競望之儀、於一所令討死者、彼

子千代法師丸

〔貞泰孫子〕

安岐郷内仁與名半分・武藏郷内手野田半分可令讓也、

〔此爲最後之間、遺言准之〕

其後針摺合

戰打立之時、

書狀子細同前、

然三郎右兵衛尉忠家

〔童名法師丸〕

令奉公菊池次郎武政、

住、

及數年之間、

欲有守護御沙汰之刻、

貞泰遺言申披、

又法師丸者、

〔令打死ナシ〕

于忠家令橫死之間、

三男

五郎四郎

〔于時童名、孫法師丸〕

令奉公田原殿、

令彼跡相續知行之處、

忠家令歸國、

後於國東郷千疋村、

爲永松孫六致害訖、

爰宮鬼丸

〔忠家子〕

彼名田等可知行之由申之、

能泰又忠家現不

忠之刻、

爲御方令相續彼跡、

依致御公事并奉公忠節、

所職名田悉令無相違之條、

偏非能泰忠功哉、

宮鬼丸者、

雖爲忠家之子、

不帶讓狀、

能泰者、

帶忠家自筆書札讓狀、

旁以不可有異論之由申之、

宮鬼丸忠家之一子也、

難一向奇捐歟、

又能泰所申、

非無其謂、

仍以和睦之儀、

藥丸令折中、

於半分

者、

可能泰知行、

至半分者、

可宮鬼丸領知也、

兩名田畠山野鹽濱等坪付貳通

〔正安自筆、加裏書判形〕

所副渡也、

八坂上・下・新莊

三一九

安岐郷内仁與名半分・武藏郷内手野田半分ヲ讓ル

國東郷千疋村ニテ殺害

八坂莊藥丸名半分

分

八坂上・下・新莊

三一九

守此狀、相互無異論、(金)全知行、於御公事課役等者、依田代分限、任先例可勤仕也、次藥丸名内澤里田地五段、正安一期之程令知行、迄于沒後第三年、所宛置教養料足也、(忌)年記間更(三)不可有相違、將又藥丸名内四綠田地貳段(北依)・延道名内上田屋敷貳段者、(也)氏女(貞泰女子)可讓與之由、貞泰遺言之間、不及子細、迄于氏女子之孫々、永代知行不可相違者也、若背此讓狀、或致非分訴訟、或以件所職名田等、令寄附權門、有成父祖重代之跡之族者、(應)啻匪背貞泰遺言、正安又爲不孝子孫、不可此跡知行、付半分(應)一方、可一圓領知也、次本證文等事、隨要用、如所領相分之、追可面々勘渡之、仍爲後代讓狀、如件、

應安八年八月廿二日

尼正安(花押)

(異筆)一任此狀、可全相互知行之狀、如件、

廣輔(花押)

○付録「秋吉系図」能泰系ニモ記載セリ。〔〕内傍注ハ同「系図」ニヨル。

五 足利將軍義滿家御教書案

○石清水八幡宮旧記抄  
鹿大史学三三

八幡宇佐彌勒寺領事、雜掌尙公申狀如此、子細見狀、早止方々軍勢等違亂、可被全寺家所務之狀、依仰執達如件、

永和三年八月二日

(細川頼元)  
武藏守 在判

弥勒寺雜掌尙公  
ノ訴ニヨリ同寺  
領ニ対スル軍勢  
ノ違亂ヲ停メ寺  
家ヲシテ所務ヲ  
全フセシム

今河伊予入道殿

表書云、

今河伊予入道殿 武藏守頼之

△ 足利將軍義滿家御教書案

○石清水八幡宮旧記抄  
鹿大史学三三

重ネテ軍勢違亂  
ヲ停メ豊前豊後  
兩國内寺領ヲ雜  
掌ニ渡付ン所務  
ヲ全フセシム

八幡宇佐彌勒寺領等事、雜掌尙公重申狀・具書、如此、子細見狀、去年被施行之處、于今、無沙汰云々、不日止方々軍勢違亂、豊前・豊後兩國寺領等、一圓沙汰付雜掌、可被全所務之狀、依仰執達如件、

永和四年八月十七日

今河伊予入道殿

表書云、武藏守頼之

(細川頼之)  
武藏守 在判

△ 大友親世當知行所領所職等注進狀案

○大友文書  
大分県史料二六

八坂本莊若富名

○永徳三年七月十八日。本文省略。親世所領中ニ「同國八坂本庄若富名」アリ。全文ハ「安岐郷史料」七六号ニ収ム。

八坂上・下・新莊

八 八坂下莊藥丸・秋吉兩名主和與狀

○秋吉文書  
大分県史料一〇

兩名中分ニ関ス  
ル堺相論ヲ和与  
ス

有豐後國八坂下庄之内、藥丸・秋吉兩名田畠屋敷山野荒野鹽濱等各半分宛之事、勿論也、爰萩原・木古志・山崎・久保田・筒井・森前・津留所々之事、四至堺古帳目錄在之、雖然或者兵亂、或者火事、不慮錯亂出來之時、每度文書等有分失之事、就夫兩名名主以和談、前々趣令相續、地頭 御判を申請定畢、右之内、開發出來者、所詮半分宛可領地、(如)於中村山野荒野等、不可有兩名之外間、年々村内雇夫之事、藥丸・秋吉仁勸之者也、仍爲後證狀、如件、

應永元年一月 日

秋吉名主

忠 氏 (花押)

藥丸名主

能 房 (花押)

地頭木付親直証  
判ヲ加フ

(真筆)  
一見及畢

(木付親直)  
伊豆守 (花押) 一

九 秋吉忠氏知行地坪付

○秋吉文書  
大分県史料一〇

惣散在分

秋吉内一反小コイノス分米 守末九郎

惣散在分・御料  
所分ノ坪付ヲ注  
ス

彌四郎殿方へ遣了、



同粟元一反半孫三郎作分作人三郎二郎

一反半カキセ 平原九郎三郎

半ヤナセ 兵庫分

半同 宗恩

大水ツキ 又小 三郎太郎兵庫

大 小同所 作人同

半藤田 乙

三反半なうけ 一

小 小房跡

二反 見阿 平原孫二郎作人

半 臨阿

一反 道場

一反 櫻田 藤三郎

四反黒川 本知行作人左(翁門)五 七斗

三百卅ト 平二郎給

三百卅ト 大夫孫三郎

一反 犬童出田 作人(ヨメズ)同五斗二定

八坂上・下・新荘

八坂上・下・新荘

三三四

一反 民部卿分瓦孫八  八升

四反むた一石 三郎五郎入道

二反 五斗 常念

一反 松本  三郎 五郎

御料所分

柳本三反内  八斗八升  宗  二郎

二反 丁坪 瓦孫八

二反 牟田 太郎三郎

二反 打越 孫九郎石代

應永二年六月 日

(秋吉) 氏 (花押)

八 沙彌妙居讓狀

○秋吉文書  
大分県史料一〇

(鑑裏書) 「あきよしもりすゑのゆつり狀」

(外題) 「任此狀、全領掌狀、如件、

ゆつりあたふ

木付伊豆守 (花押)  
親 (重方)

八坂下荘内名田  
鼻山野塩浜ヲ伴

在豊後國八坂下庄秋吉・延道・守末半名田畠（山ノ）野鹽濱各御恩の地也、但守末半名ニおいてハ、本  
〔采〕秋吉五郎四郎能泰・同兵庫允正泰等か手より、妙〔臣〕買得して當知行のあひた、公方御年貢濟物  
〔主カ〕〔新恩〕はかり恩に給所也、秋吉・延道・守末〔ヒキ合テ〕ひきありとて、五貫分〔ナ〕るところに、秋吉左衛門三郎入道  
淨願〔分カ〕か分、別相傳〔七〕るあひた、殘能泰・正泰等か分、半分貳貫五百文〔分カ〕御恩あし也、其子細御恩  
の御書下にみえたる事

右、件御恩貳貫五百分下地〔マ〕御年貢濟物等故田所入道〔自筆注文在之〕、しかるをいまにおいてハ、伴氏女〔妙居妻女〕にゆつ

一期知行ノ後ハ  
公方ノ意ヲ得テ  
相続スベシ

りあたふる〔器〕なり、一期のほとハ心やすく知行して、一期の後ハきようの〔字世〕にても、又しんるい  
の中にても、公方の御意をえて、さうそ〔三〕の義をもて、ふんけんの奉公をいたし、知行をまたく  
〔す〕き也、中務丞においてハ、所々の御恩をぬき候するう〔出カ〕、此少分ニけまうをなすへからず、

若此遺言をそむき、〔ある〕いハいらんをなし、あるいハ事を左右ニよせ、公方に申〔出カ〕らん時ハ、没  
後の不孝として、妙居の跡を公私段歩〔タリ〕とも、知行すへからず、妙居か子孫等中ニ、此狀をもて  
申〔成カ〕るへき也、仍爲後證讓狀、如件、

應永四年丁丑三月五日

沙彌妙〔成カ〕

中務丞〔成カ〕

〔任此狀、可令領掌狀、如件、木付伊豆守親直判〕

○「秋吉系圖」二片仮名交リノ同一案文ヲ収ム。明瞭ナル誤リ以外ノ相違点ヲ〔〕内ニ注ス。



八五 藤原直俊證狀

○秋吉文書  
大分県史料一〇

葉丸・秋吉兩名ノ地ヲ木付広輔女子安岐女房ヲ養子トシテ讓ル

安岐女房ハ養子妹ニ讓ル

半分ハ直俊一期知行シ後ハ妹・万徳丸ニ返スヘ

豐後國八坂下庄葉丸・秋吉兩名各半分、秋吉左衛門三郎入道淨願跡田畠屋敷山野荒野立林鹽濱等四至堺坪付見本事證文事

右名田畠等者、惣庄領家辨大夫親宣卿法名玄收、代々相續當知行、無相違地也、而實子なきニよて、木

付大炊助入道廣輔女子號安岐女房、養子として、惣庄段歩ものこさず、代々公家・武家本證文をあひ

そへて、ゆつりわたされ畢、爰安岐女房姪號直俊息女、襁褓養子たるによて、件葉丸・秋吉名等を

ゆつりた檢ひ訖、其證本文書手繼等明白也、しかるを、聊子細あるによて、廣輔禪門直俊ニ、はから

ひあつるよし、惣領伊豆守親直の一跡相續の狀ニ、のせらるゝといへとも、安岐女房狀分明のう

へ、廣輔先立證狀、玄收又狀をいたさるゝあひた、旁以子細なし、但直俊與妹親子あるあひた、彼

名田等半分ニおいてハ、直俊一期知行して、一期の後ハ、妹并舍兄萬徳丸ニ返與へし、半分ニいた

てハ、今よりおとゝい又折中して、當知行すへきよし、松行入道妙居、安岐女房の書狀の趣ニまか

せて、あひはからわるゝうへハ、異儀あるへからず、もし此名田等一期領主の身として、或沽却せ

しめ、或他人ニけいやくをいたす事あらハ、さいくわたるへき上ハ、くわい梅へん返カあるへき者也、仍

爲後證狀、如件、

應永五年戊寅二月九日

藤原直俊（花押）

〔爲後證依申請、所令加署也、  
(証明)

伊豆守 (花押) 〔  
(未付親直)

○一跡相續ヨリ舎兒  
(裏書) 萬徳丸マデノアタリ

「ものをよくもかきえす候ニよて、  
(徳筆) たひつをもちい候間、しひつこうせうのためのうらかきをくわ

へ候、よて狀如件、

應永五年二月 日

直俊 (花押) 〔

### 重安直重利錢借券案

○永弘文書  
大分県史料四

利錢壹貫文ヲ借  
ル

□(甲)うくるりせにの事

### 合壹貫文定

利ハ月別百文ニ  
十文  
無沙汰ノ時ハ日  
出・津島・八坂  
ノ仏供米文書ヲ  
添へ渡ス

右ようとうハ、月へちに百もんニ、十もんつゝのりふんをそへ候て、十二月中にわきまぬ申へく候、もしふさた候ハ、  
一はい□すき候□、さうそくちきやうの 直重相續之知行之彌勒寺くもんそしきのもんそを、  
日出・つしま・やさかの御佛供米之もんそを ことくく此狀  
にそへ候て、まいらせをき候間、(辭) けたいのときハ、にしとのゝ御そくをとみつとのゝ、御かたより  
もとこをけく候て、このもんそ、日出庄の内の御佛つしまの上日供米を、おさへ御知行候へく候、  
(今) そのとき、いさゝか一きを申ましく候へく候、

○重安直重ハ応永末年ノ人。

八坂上・下・新莊

八七 宇佐宮寺造營并神事法會再興日記目錄案(子冊)

○到津文書  
大分県史料三〇

宇佐宮寺御造營并御神事法會御再興日記目錄

○首

一 御放生會事○中

略

一 和間御迎講儀式事

安岐郷役

先行事堂達、音頭兩人、次力息堂達、次獅子中子安岐郷役、次菩薩中子、次樂人・舞人、

次所司供僧也、

一 和間頓宮ニ神輿御入内、先新樂亂聲、次着座、次奏鎮祝、次細男舞之、次地久萬歲樂奏之、次阿

彌陀經懺法、次傳戒乞戒、次官司以下祠官、幣殿ニテ御神樂在之、次在廳同舞之、

一 十五日相撲事十番、左八十郷役、右八日向國役、今ハ守護役也、

○中

一 三殿、同東脇殿、同東湯殿事、大友式部大夫殿可有造進之由、被仰出ニヨテ、律僧五室眞助・木

三殿ハ大友親著  
造進  
木付親公田原親  
幸浦部人々

付讚岐守親公・田原藏人親幸、此外浦部人々、應永廿七年十一月三日着宮有テ、材木ヲ採用シ、  
次第々々被社納了、

略○中

右、宇佐宮寺御造營、并御神事法會御再興之日時(註)、大槪如斯、

永享五年十二月十三日

壽(註) 玄判在

八 大友親綱知行預ヶ狀

○大友家文書錄  
大分県史料三一

八坂新莊内ノ預地  
ヲ恩賞トシテ預

豐後國八坂新庄内馬分、松行買得地等、并本庄新右衛門尉跡、同所宇野伊勢守跡五町、木付持分

七町餘、富永跡之内貳町餘事、今度依粉骨預置候、可有知行候、恐々謹言、

(永享八年)  
潤五月廿七日

(大友)  
親綱 在判

齋藤美濃守殿

八 重秀書狀

○永弘文書  
大分県史料四

折禱卷數ヲ謝シ  
八坂庄内神領納  
所錢如在ナキヲ  
報ス

於 御神前御祈禱卷數、被懸御意候、崇敬之至、誠忝存候、隨而八坂庄之内、御神領納所錢事、蒙  
仰候、則申付馳走、不可有如在候、心事猶、期後信時候、恐々謹言、

十一月一日

重秀

宇佐宮  
下梧井殿 御報

八坂上・下・新莊

九〇 大友親繁書狀(紙切)

○若林文書  
大分県史料三五

〔包紙ウハ巻〕  
「わかはやし殿

親 繁」

奈多ニ入ラバ木  
付ニ状ヲ遣ハス

木付ニ使セシニ  
当方ニ越サザル  
ハ心元ナシ

ふとなた<sup>(奈多)</sup>へ御入候ハ、かさねて<sup>(木付)</sup>きつき方へ狀をつかわしたく候、やかてく此方へ御入候へ  
く候、

きつきつかいニ御こへ候事、喜存候處、き方の御返事をまち候や、いまほとハなにも申つうせず  
候、いかにも彼方へ御よりあい候て、さいそくあるへく候、又それまで御こへ候よし、承候ところ  
ニ、こなたを御こへ候ハす候、心もとなく候、人のうろんニ候する事ハ、き方のおつと<sup>(庭)</sup>ニなるまし  
く候、すへてくくるしからす候、たれしもこなたへ、とうかんあるましく候へ共、とりハけきつ  
き事ハ、心中かわらしと存候、御より候ハ、とくく此方へ御こへ候する事、喜入候、おほせあ  
るへく候、恐く謹言、

八月廿五日

〔大友〕  
親 繁(花押)

わかはやし入と殿

九二 大友親繁恩賞預ケ狀

○八坂文書  
大分県史料一〇

(包紙ウハ書)  
「八坂主水正殿

至兩度豊前國出張之刻、軍勞之次第、聊無忘却候、就中今度、於多々立用之事、忠儀(無脱カ)比類候、爲其賞、田庄三町預遣之候、無相違領掌、肝要候、恐々謹言、

親 繁」

(大友)  
親 繁 (花押)

十二月廿一日

○「八坂主水正殿」ノ宛名ヲ欠ク。

九三 八坂下莊秋吉・藥丸兩名浮免坪付注文

○秋吉文書  
大分県史料一〇

秋吉・藥丸兩名  
内浮免坪付ヲ注  
ス

秋吉藥丸兩名浮免坪付之事

- くたう(マン)
- 一所に段大
- やの方
- 一所壹段
- 木付六郎二郎方
- 一所三段半
- はやのち方
- 一所に段小
- 木付うねめ殿(脱カ)
- 一所四段
- 吉水方
- 一所五段
- 帆足長門守
- 一所三段六十ト
- ほりの加守
- 一所壹段
- 松本
- 一所一反
- 桑本
- 一所一反
- 村田
- 一所二段
- 一所二段

八坂上・下・新莊

八坂上・下・新荘

帆足大藏様

一所五段

一所壹段半

一所壹段半

一所半

一所半

一所半

まこさへもん

一所壹段

五郎二郎

一所壹段半

いやす郎

一所に段

中間二郎三郎

一所半

三四二

六郎さへもん

九郎さへもん

以上四町に段定、壹段別ニに升三合宛、

ほん<sup>(本)</sup>みやうのこ<sup>(色)</sup>とく、かん<sup>(勘)</sup>と可有<sup>(選)</sup>之候、

享德三年十月八日

能安(花押)

直泰(花押)

### 九三 杵築若宮八幡社棟札銘

○大分県金石年表二  
杵築市大字宮司

若宮八幡宝殿ノ  
仮上棟ヲ行フ

奉假上棟、蓋豊後國速見郡八坂下庄、旺化若宮八幡大菩薩寶殿、長祿二歲<sup>(戊子)</sup>正月十八日良辰、共惟靈社假剪萌茨、僅庇雨露耳、將來<sup>(ついで)</sup>脱有與善者、宜復曩構矣、所祈國家 至治、英檀增福、若木高標之秀、藤門奕葉之榮焉、<sup>(采付長八代)</sup>源直忠、院主慧深、

○『増補訂正編年大友史料』一一所収ト校合。行ノ配列ヲ若干改ム。

### 九四 杵築若宮八幡社棟札銘

○大分県金石年表二  
杵築市大字宮司

上棟奉修理若宮八幡宮一字

若宮八幡宮本殿  
ヲ造替ス

右修理之趣者、爲天下泰平、國土豐饒、殊者信心大施主藤原龜童丸悲母兄弟息災延命、子孫繁昌、(木付親忠)  
當庄當所、公私上中下、百姓、男女、貴賤蒙神德、爲安穩、而當社自梅巖以後、時々雖加修理、龜  
童經六代、及大破之間、文正元丙、上葺、內陣、本柱四本、板敷、悉修造、希代奇得雖有、彌八幡  
仰感應所也、文正元年丙 八月二十三日口、

○長祿二年棟札ノ裏面ナリ。「増補訂正編年大友史料」一一所収ト校合セリ。

### 五 秋吉房泰契約狀

○秋吉文書  
大分県史料一〇

大さうニ預置キ  
シ秋吉名ヲ木付  
河内守取成シヲ  
以テ弟頼泰ニ申  
返ス

木付河内守御成  
敗

秋吉名田之事、去年以來、大さう三郎五郎方に、預置候之處、打續諸御公事御點役以下、過分相懸  
候之間、名田之事可還候由、大さう被申候、我等も更難合期候間、今度御公事點役被勤候者、彼名  
田之事、永代可進置候由、申定候畢、仍爲名德分、松本壺反半・さこ壺反半依尻料田錢百五十文ハ、大さう  
より可納と申定候、畠地ハ柿木畠・居屋敷後の畠、彼在所を名德に申定候之處、弟頼泰主殿助、申限  
永代、他人可打渡事、不及覺悟之由候て、初貳石・料足壹貫文被遣候之間、大さうと申定候へ共、  
木付河内守殿以御取成、申返作仕候、然者右申名德分之事、主殿助方へ遣候、我等拘已後ハ、主殿  
助子孫可相拘事、勿論候、既彼名田他人打渡候之處、頼泰以取次、如此候之間、於後々末代ハ、主  
殿助可爲計候、何時も違亂仁候者、此狀をさきとして、可被申明候、仍爲後證狀、如件、

二月十日

秋吉三郎四郎  
房 泰 (花押)

八坂上・下・新莊



八坂上・下・新莊

三四四

秋吉主殿助殿

(房奉)

「任此狀之旨、不可有相違儀、存知畢、

(未付)

親 忠 (花押)

六 秋吉頼泰書狀

○秋吉文書  
大分県史料一〇

大さうニ預ケン  
秋吉名ヲ請返ス

頼泰種子親・料  
足ヲ出シ請返ス

秋吉名之事、近年大さうへ、被預置候哉、然者諸御公事典役等、依難合期、拘問敷之由候とて、彼田地限永代、可打渡通、被申合候哉、無是非候、尤我等罷越作可仕候へ共、殿様より御いとまを不被下候間、乍存候、雖然、木付河内守殿被仰合、可有御作候、於已後者、某可罷越候、仍種子料として、粗貳石・料足壹貫文進之候、壹石ハ母にて候人より、まいらせらるへく候、壹石ハ四郎二郎殿より、可被遣候、それにて御請取候へく候、料足ハ只今進之候、我等茂近日可越候之間、可申談候、殊ニ名徳分の事、可作候由承候、得其心候、時分之事候之間、作等事、御覺悟不可有御由斷候、委細彼者可申候、恐々謹言、

二月三日

(秋吉)  
頼 泰 (花押)

秋吉三郎四郎殿

(房奉)

御宿所

(奥裏切封ハ書)

(墨引)

秋吉三郎四郎殿

御宿所

秋吉主殿助

頼泰

七 秋吉頼泰契約狀

○秋吉文書  
大分県史料一〇

秋吉名田ヲ大き  
うヨリ申返ス

四郎次郎ヨリ枳  
一石ヲ房泰ニ渡  
ス

頼泰不作ノ時ハ  
木付四郎次郎拘  
フベシ

若宮八幡宝殿ヲ  
造替ス

秋吉名田之事、三郎四郎殿依無力、一切大さうへ被預候、結句限永代、可打渡候由、被申合候旨、  
無是非次第候、此時分我等茂、初中終御いとまを申上候へ共、不被下候之間、三郎四郎殿へ用却を  
遣候、母にて候人より、枳壹石、おなしくそれさまより壹石、房泰へ被遣候て可給候、従是も、料  
足壹貫文進之候、我等御いとま不被下候者、後ニおいてハ、それ様可有御作候、仍代々の證文貳  
通、房泰渡狀壹通、かれこれ五通進置候、依御親子間、貳石三郎四郎殿へ御遣候辻として、證文を  
進之候、秋吉・藥丸之事ハ、無二の在所候之間、某作不仕候者、それさま御拘候する事、無餘儀子  
細候、既他人に被去渡候を、申合、於此如候者、勿論事ニ候、彼渡狀に、親忠様加御判了、仍爲  
後證狀、如件、

二月廿八日

秋吉主殿允  
頼泰(花押)

木付四郎次郎殿

六 杵築若宮八幡社棟札銘

○大分県金石年表二  
杵築市大字宮司

(電)  
寅奉造營若宮八幡大菩薩御寶殿一字事

八坂上・下・新莊

右意趣〔者、為天下〕泰平、國土安穩、殊者、保祐壇〔之、〕那源氏親貞、新神殿之〔造、〕欲祈吉祥、內勤產業、

時富應禱、須達長者、外運武略、則勇欲等、諸葛孔明大乘之鎧、般若之鉢、長降伏敵怨魔軍、甘露

之味、總持之藥、久養有〔之、〕命、心識憑伏佛法之威、神保任身心之安穩者也、然者、當社建立、嘉曆

年中、曾祚父、前從三位朝臣親直法名廣〔之、〕等也、厥後、歷應之比、柱計替畢、又文正比、裏柱一

竝、雖替、指無功、今木付親五郎及代、棟・梁・椽・柱、至內外陣、遂修造功〔也、〕也、仍所記如件、

皆長享二曆〔子、〕廣鐘念六日、大旦那源氏親貞、若宮院主乘清、鍛冶重久、大工直重、

『增補訂正編年大友史料』一二所収ト校合シ、異ル所ヲ〔 〕内ニ傍注ス。

### 九 杵築若宮八幡社棟札名

○大分県金石年表二  
杵築市大字官司

若宮八幡宝殿ヲ  
造替ス

上棟奉造替若宮八幡大菩薩御寶殿一字事

右意〔趣〕者、為天下泰平、國土安穩、殊者、保祐壇那源氏親貞并龜千代丸、息災延命、抽信心懇志、

奉造立神殿者也、然者、寺内佛法繁榮、心中所願、皆令満足、

于時明應〔四〕年乙卯三月廿八日、宮移午剋、大壇那源親貞、若宮院主乘清、神司物部忠安、鍛冶重

久、大工新三〔郎〕、

○長享二年棟札裏。『增補訂正編年大友史料』一二所収ト校合、異ル所ヲ〔 〕内ニ注ス。

八坂庄内上原領  
六町ヲ預ク

歲田村五拾貫ノ  
地ヲ預ク

100 大聖院宗心知行預ケ狀案

○森文書  
大分県史料三五

今度<sup>(田原)</sup>親述進退之事、以面々取成、無比類忠節之條、快悅候、仍速見之郡八坂庄之内、上原領六町、取沙汰之事預置候、諸取次以下者、任先例不可有相違候、恐々謹言、

五月十三日

<sup>(大聖院)</sup>  
宗 心

森木工助殿

101 大聖院宗心知行預ケ狀

○永弘文書  
大分県史料五

□度一味之辻、速見□之内、歲田村五拾□、木付大藏少輔跡之□、預進之候、可有□候、恐々

謹言、

<sup>(明応十九)</sup>  
年

□月五日

<sup>(大聖院)</sup>  
宗 心 (花押)

102 大友氏加判衆連署奉書<sup>(紙切)</sup>

○永弘文書  
大分県史料四

<sup>(縮裏切封)</sup>  
「(墨引)」

八坂上・下・新莊

歲田村五十貫ノ  
地ヲ預ク

爲今度御一味之辻、速見郡之内歲田村五十貫分之事、被成遣 御判候、目出(候、彌力)被抽御忠節者、  
重而可被露御志之由候、恐々謹言、

明應十

二月五日

小原神五郎

右 並 (花押)

久保九郎右衛門尉

親 泉 (花押)

齋藤刑部少輔

實 治 (花押)

久保大炊入道

陽 長 (花押)

永弘式部丞殿

(氏輔)

101 木付繁泰書狀

○永弘文書  
大分県史料五

狀之躰、恐入候、尙々、吉日方角得御意候、

一昨日被懸御意候通、承候、畏入候、如何様、參可致御禮候、仍宇佐御宮足一連進宮申候、御參社之時、可預御敬具候、尙々連々御祈誠、奉憑候、又御動近々由候間、首途仕度候、吉日御覽候て、可請御意候、今日大方日吉。候哉と存候、可得(以下礼世)御意候、每事併期後喜候、恐々謹言、

九月廿六日

(不付)  
繁 泰 (花押)

一(奥切封ワハ書)

(墨引)

木付宮内少輔

田染少宮司殿御宿所

繁 泰

○以下三通年未詳。シバラクココニ収ム。

104 木付繁泰書狀

○永弘文書  
大分県史料五

ある

宇佐

庄内清成名内宇  
佐御納所無沙汰  
スニツキ奔走ヲ約

庄内清成名之内、御納所之事、地下仁等、無沙汰之由承候、<sup>(純)</sup>紀明候て、可致奔走候、於以後、無沙

汰之儀候者、七田之前之畠地一反、被押可申候、可得御意候、恐々謹言、

九月廿七日

木付  
繁 泰 (花押)

(奥檢封ワハ書)

木付宮内少輔

(墨引)

田染殿  
御宿所

繁 泰

105 木付繁泰書狀

○永弘文書  
大分県史料五

狀之躰恐入候、尙々小家を一作候、御合力を奉憑候、我ら山に更ニ候はず候、甬木二、む

すめ竹を預御<sup>(合カ)</sup>者、一入目出候、殊ニ吉日の事、御急らひ候て可給候、一向奉憑候、

其後者久不申承候、何事共御座候哉、御床敷候、尤參旁可申入候處、不得隙候て、乍存候、

八坂上・下・新莊

是幸名社納足ヲ送ル  
小家ヲ建ツ

峯名長坂林ノ切取リヲ停止スベシ

屋造吉日ノ選定

金福寺材木取人足ヲ謝ス

若宮八幡宝殿ヲ造替ス

一 愚領是幸名より、爲社納足貳百文、持進之候、慥可有御請取候、  
一 親にて候者、小家を一作候て遣候すると存立候、御合力に預候者、目出度候、憑存候、殊竹に事を闕候、御意奉憑候、

一 峯名長坂林、事外人々切候由承候、しかく候する者被仰付、御とめさせられ候て、可(以下札紙)然候、  
又者人を御移候する事、肝要に候、

一 屋造吉日之事、乍惶御覽候て、可得御意候、奉憑候、

一金福寺就材木取、一日人足あまた預御合力候、誠目出畏入候、如何様風度參、可致御禮候、委細之旨、此使者可申入候、恐々謹言、

十一月四日

(奥封ウハ書)

(墨引)

木付宮内少輔

(木付)  
繁 泰 (花押)

田染殿 御宿所

繁 泰

102 杵築若宮八幡社棟札銘

○生地冬至所蔵文書  
大日本史料九ノ一

右意趣者、爲天下泰平國土安穩、殊保祐檀那、  
然者寺内佛法繁昌、心中所願皆令満足、

奉造替若宮八幡大菩薩御寶殿壹宇事

大友源親治武運長久、家門繁榮、無災延命、  
抽信心懇志、奉造神殿者也、

大檀那源親治

(銀治)  
重威

永正五年 八月八日

宮移丑廻

若宮院主權少僧都乘清  
大工□之助  
自梅巖此時代十代

○『大分県金石年表』及ヒ原山道生『若宮八幡宮棟札集』（昭和三十四年）ハ「永正五年戊辰五月一日」トシ、尚若干異ル所アリ。

## 107 某條々書出案

○永弘文書  
大分県史料六

田原親述兄弟同心

一親述兄弟同心之儀候ハ、翌日御現形之儀可被申候、專一存候、自然御延引之儀共御座候てハ、世上之儀如何ニ存候、且者御參前□

一如此者、被申定候へ共、御大篇之儀候□、萬一御相違之儀もあるへく候哉、其時□御上意之儀も、如何ニ□候間、（無私曲カ）之通、以罰文申上□□可有御披露候哉、

朽網親満一味方

一親満爲一味方、境目□退方御著到前、貳百餘人某共□承候、此外肥後・日向境ニ被退候方□ハ、無隠場候様、其間得候、國中時儀、定而彼方、可有御披露候之間、不能巨細候、

豊府へ著ク

一ほくせいと□様、豊符へハ、舊冬廿四日ニ御著符候、今月十一日までハ、善惡之儀無御座候由、其間得候、

木付民部等ハ親治一味

一今度張行故、兩志賀・入田・大神・豊にやう・寒田・伊濟渡佐守・田北勘解由・得永五郎太郎方・木付民部方、此衆ハ親治殿しかと一味被申候と、其間得候、

○永正十三〜四年ノ朽網親満ノ反乱ニカ、ル。



108 杵築若宮八幡社棟札銘

○史料蒐集目錄  
大日本史料九ノ一七

右意趣者、爲天下泰平、國土安穩、殊者、保祐壇那(禮)、仍當庄安穩、諸人快樂、

源氏親實并親諸武運長久、子孫繁昌、息災(未付)、寺内佛法繁昌所也、

延命、拙信心、然者大神朝臣惟益、心中所願皆

令満足、所奉造立神殿者也、

若宮八幡宝殿ヲ  
造替ス

上棟奉造替若宮八幡大菩薩御寶殿一字夏(豊後速見郡)

源親實 大神惟益

當時造替奉行 上親清 財前直家

于時大永二年壬午十月廿一日、宮移寅卯剋、

祝主 安清

神司 物部忠吉(生地)

藤原

鍛冶助太郎 木工宗永 同新太郎

109 源木親實・同親諸連署寄進狀

○生地文書  
大分市大字羽屋字花園生地光藏

「八幡大菩薩寄進狀 木付左近大夫源親(表紙)」  
實

御神藥十番可奉納事

再拜々々敬白寄進狀ノ事

右旨趣者、親實爲武運長久、一家永榮、子孫繁昌、田地壹段大中村云山口前、彼壹所之事、相加霜月

田地一段大ヲ寄  
進ス

御神田、末代八幡大菩薩奉寄進所實也、仍寄府狀、如件、

大永二年甲申拾月十三日

源親實(木付)(花押)

新五郎親諸(花押)

大菩薩寄進狀

二〇 杵築若宮八幡社棟札銘

○大分県金石年表二  
杵築市大字宮司

八坂下莊若宮八幡宮宝殿ヲ造替ス

上棟欽 奉修造替日本國豐後州速見郡八坂下莊鎮守若宮四所八幡大菩薩御寶殿一字事

抑八幡大菩薩者、朝廷崇帝靈社(マ)、源家擁護神明也、然者、曆應四年辛巳、至當年天文三曆甲午、聊無小

破、令修造者也、殊恆例祭祀、無怠慢、令執行、茲因御前舞人者、調樂妓、繡羅綾袂、禰宜神主

者、捧幣帛、別當社僧者、解經紐、於王薨煙八乙女者、曳裙帶、舞遊透廊、故爲天下泰平、國土豐

饒、當庄安全、抽信心懇志者也、大檀那源親實(木付氏)、親諸武運長久、并女大施主、子孫繁榮、諸人收樂(也)、

心中所願皆令満足(者)砌也、天文三年甲午卯月七日、御遷宮卯剋、大檀那源親實、親諸、當院主權律師

圓清、祝師式部太夫紀安清、惣檢校諸富新右衛門尉、大宮司市丸左衛門尉、神主紀忠吉、當時造營

奉行上下野守親清、田原因幡守利貞、物部源左衛門尉、大工七郎左衛門尉藤原貞次、鍛冶德兵衛尉

盛重、

大檀那源親實、親諸

○墨書『增補訂正編年大友史料』一五所収ト校合。異ル所ヲハ、内ニ傍注ス。

二 藥丸親守讓狀

○秋吉文書  
大分県史料一〇

木付下莊藥丸名  
ヲ甥秋吉新次郎  
伴忠統ニ讓ル

豐國速見郡木付下庄中村之内、藥丸名之事、從木付六郎大炊助殿、四代法名梅岩頼直實子四郎次郎殿之事、至秋吉忠氏、被下養子候之間、彼藥丸名之事、四郎次郎殿相續候、從其以來、至我等持傳候、然者、我等不持子孫候條、甥(マ)にて候秋吉新次郎伴忠續、藥丸名證文悉彼相副讓狀、渡所實也、然而彼名事、不可有他違亂候、仍爲後日讓狀、如件、

天文陸年丁酉三月十五日

藥丸若狹守  
親守(花押)

秋吉新次郎殿

二二 八坂下莊藥丸名坪付注文

○秋吉文書  
大分県史料一〇

藥丸名坪付之事

藥丸親守藥丸名  
ノ坪付ヲ注シ伴  
忠統ニ渡ス  
室屋分坪付

室屋分坪付之事

尻ノ系ヲ  
一所貳反

島ヲ  
三反

志(ま)の(と)ひ(つ)つ(る)  
一所貳反

島地分

石原島 (参考)

一所

むろや

一所屋敷

津留島  
島地分 貳反

久保田

壹反

堀分坪付

さこ

一所三反小

は瀬

一所壹反

堀分坪付事  
田くち野た

一反

六田

壹反

島地分

永島

一所貳反小

以上田島九段大

島地分  
一所いやしき

た嶋  
壹反

主戸分

たかたかはな

一所壹反

松林庵分 (カ)  
やふた

一所丁堀

松本

一所壹反小 宇佐御料田

一所いやしき

以上田地貳反半 (町)  
丁堀少有之、

さう里

一所五段

はね

一所壹反大

松本

一所壹反 宇佐料田

尻ノ枝

一所壹反

久保田 (二反カ)

一所

島た

一所大

八坂上・下・新莊

八坂上・下・新莊

村田

一所壹反

志のひとり

一所貳

三十六

一所壹反

(4)

畠地分

畠地分

五た畠

一所五反

かへら畠

一所壹反

ふけた

一所屋敷

せと口

一所壹反

田くち畠

一所壹反

久保た

一所開

名内山野事、主戸可爲拘也、

以上田地壹町貳反

此内白水籠居屋敷之、

以上畠地壹丁五反

此内山口居屋敷之、

惣已上田畠四町七段定、

天文六年丁酉三月十五日

藥丸若狹守  
親守(花押)

二三 藥丸親守讓狀

○秋吉文書  
大分県史料一〇

ゆつりわたす文書の事

右、迎稱寺領つるの畠地三段之事、おうち丹波守へ、相阿彌陀佛契約候、子細者彼文書ニ具見え候、然者當時かの下作しきを、たま〜か〜へられ候間、末代無相違、寺家ニ申合、か〜へらるへ

迎稱寺領つるの  
畠地三段ヲ秋吉  
新二郎ニ譲ル

く候、仍彼證文お、秋吉の新二郎とのへゆつる所、如件、

天文六年ひのとのとり 四月廿八日

(葉丸) 親 守 (花押)

〔秋吉新次郎  
とのへ〕

○付録「秋吉系圖」秋吉新次郎忠統系ニ本文書写アリ。〔 〕ハ之ニヨリ補フ。但シ片假名書キ。

二四 杵築若宮八幡社棟札銘

○大分県金石年表二  
杵築市大字宮司

若宮八幡宮一字  
ヲ造宮ス

上棟奉修造若宮八幡宮一字事

大檀那源親實・  
同親諸

抑八幡大菩薩當初者、人皇十二代仲哀天皇、御后者娑伽羅女神功皇后、有御着胎、退新羅逆(マ)、而本朝無雙鎮護國家神明也、因茲當社大菩薩者、曆應四年辛巳朔月廿五日、爲建立靈社、移松樹景事、至天文一十六丁未、造營之、右意趣者、天下泰平、國土豐饒、別而、當庄安全、殊者、大檀那(未)源親實・親諸、運命長久、子孫繁榮、寺社務、萬民快樂、壽福增長、心中所願、皆令満足砌、仍如件、

天文拾陸年丁二月廿九日、宮移申剋、源親實、院主清金、(主)神司紀諸宴、大宮司滋野實助、惣檢校藤原實途、祝師紀安永、鍛冶源兵衛源威重、大工彦右衛門尉藤原實次、

○墨書「増補訂正編年大友史料」一八所収ト校合、異ル所ヲ〔 〕内ニ傍注ス。

二五 八坂公重書狀(紙切)

○永弘文書  
大分県史料六

〔包紙ウハ書〕

永弘殿  
御宿所

八坂大學亮

公重

〔端裏切封〕  
一 (墨引) 一

逃散ノ下人親子  
ノ還付ヲ請フ

雖未申通候、一筆令啓入候、仍爲高松名代、次郎兵衛事、被官ニ召置候、然者下人逃散仕候、數年所望候へ共、御難澁之由候、不謂儀候、任通法之旨、早々至我等、彼等親子事、可有還附候、自然於御悵惜茂、(抱) 佗言不有餘儀候、爲御存知候、恐々謹言、(可)

十一月三日  
(年末詳)

(八坂)  
公重 (花押)

永弘殿  
御宿所

○以下一二〇号マデ、八坂大學ノ名ニヨリ便宜一括シテ掲グ。

二六 某書狀

○永弘文書  
大分県史料六

追而先日折口 〔之儀承候、忿亂之儀と存候、御氣仕までもなく候、く、

御札委細令披關候、仍至永弘殿逃散人候哉、八坂大學進所望之由候、内々巨細蒙仰之趣、必八大二(八坂大學進)

八坂大學進ヨリ  
ノ逃散人ノ還付  
ニツキ申入ル

可申聞候、社家中之逃散人も、去々年以來者、悉還補候、永弘殿御一人ニかきり、從先<sup>(見カ)</sup>視逃散人不還之御覺

二七 永弘通忠<sup>(カ)</sup>書狀

○永弘文書  
大分県史料六

社例ノ先証ヲ披見セシム

彼間之儀、重疊預御狀候、自此方茂、至有永河守方、先例之立柄、公重<sup>(内脱)</sup>仰分、可得御意段、申遣候、<sup>(上)</sup>殊。先證、於御方<sup>(所)</sup>遂披見、無相違旨、彌可得御意候、

卯月十日

八坂大  
學殿  
御報

八坂大学

二八 立石鑑成書狀

○永弘文書  
大分県史料六

就八坂方被申事、預御飛脚候、彼題目之儀者、有永河内守江被仰聞候刻、精承候ツ、早々至武藏、御注進可然存候、然者我等所より茂、八大江申度候へ共、彼題目之事、自然有河<sup>(寄道カ)</sup>・市彈なと、八大も、<sup>(以下紙)</sup>被申合候ての儀共か候はん、さやうに候へ共、難事成存候、さりなから、能く被仰聞事、專要存候、恐く謹言、

卯月十七日

立石  
鑑成(花押)

八坂上・下・新莊



八坂上・下・新莊

三六〇

〔奥切封ウハ書〕

〔墨引〕

立石宮内少輔

田染殿  
まいる御報

鑑成

二九 有永資辰書狀案

○永弘文書  
大分県史料六

有永河内守

〔端裏ウハ書〕

八坂大學亮殿まいる申給へ

尙々一日如申候、我ら事□

□申懸置候間、此度斗、人目をも被□可給候、何と

候て、かやう二人之外聞をはうもし候て、貴所御外聞斗を思召候事、更迷惑にて候、そをハ御  
用捨、頼入まいらせ候、於于今<sup>マ</sup>以下<sup>記サズ</sup>

番長永弘氏封民  
ノ儀ニ付分別ヲ  
請フ

就宇佐宮番長大夫封民之儀、去年十二月之比、田染殿御越候て、前々續侘言被申候間、貴所へ市丸  
孫八左衛門尉方、立石方以同心、まいり候て申候處、自以前之法度にて候ハ、可有分別之由候間、  
聽而其方御宿にて書狀を認、田染殿へ遣候處、于今又御所望候哉、迷惑之由被申候、如此之文到來  
候間、持せ進之候、一度御分別候上者、對三人、愈々<sup>カ</sup>分別も候へかすと存候、餘ニ物毎ニ我らな  
と、其表□失外聞候する事も、如何候する哉、一□□目ニ付て申候ことく、追而ハ何事も申間敷  
候、去年より申懸たる事共ハ、首尾可然様ニ御分別、可目出候、此上類彼女被召候へは、三人外聞  
口惜さ、海山にて候、可預御心得候、恐々、

卯月十八日

資辰(有永)

110 永弘通忠書狀案

○永弘文書  
大分県史料六

御狀候、自此方度、至資辰内(有永)申之儀、近日於御方角、社例之趣、御分別之旨、能く入候之

條、不能細筆候、恐く謹言、

十一月十二日十日

通忠(永弘)

八坂大学進

八坂大學進殿(公應)御報

111 田原親宏安堵分坪付寫

○森文書  
大分県史料三五

拘持スル所領坪

持留分坪付差出之事

付ヲ差出ス

安岐郷之内

安岐郷仁与名

一所拾貫文分

仁與名居屋敷

同郷之内

同西廟名

一所五貫文分

西廟名 右同

朝來野之内

八坂上・下・新莊

八坂上・下・新莊

同朝來野内城その名

一所三貫文分御公領ニ除之

城その名

新御判地坪付之事

朝來野久末内草場名

朝來野久末之内

一所三貫文分

草場名

八坂莊麦田名

八坂之内

一所五貫文分御公領ニ除之

麥田名

右、以上廿六貫文之内十五貫文分、當時安堵分、

右上包ニ森源次郎殿(安堵)、親宏と有之、本紙御判者無之、

三 杵築若宮八幡社棟札銘

○大分県金石年表二  
杵築市大字宮司

〔表前〕  
六 欽奉上尊八坂下御庄鎮主若宮四所八幡大菩薩一字事

抑八幡大菩薩者、仁王十六代、號譽田天王御靈八幡大并也、欽明天皇卅二年辛卯二月、現三歳小兒、

立竹葉、護國靈驗威力神通大自在王并、詫宣亘顯坐、然而石清水始者、仁王五十六代清和天皇貞觀

元年己卯七月廿日、爲護宇佐八幡大并王城、宿行教和尚袂、移男山鳩峯、放□光給、依奏聞李允橘良

基仰下、准宇佐宮三字正殿 三字禮殿、造社有亘、仁王六十代、醍醐天延喜十四年甲戌八月廿二日、敦實親王奉造

立四躰木像白檀亘、八坂下庄惣廟与救宣也、仍行教弟子安宗法師者號宮司、紀三豐者爲神主、爰仁

若宮四所八幡一字ノ上尊ヲ奉仕ス

王八十代、高倉院承安三年<sup>癸巳</sup>九月廿日、當社御寶躰奉安置中村男山、時之神主紀兼貞、厥後仁王九五十五代、後醍醐院嘉曆元年<sup>丙寅</sup>十一月九日、木田鷹山移坐豆、以來修造不怠也、至今永祿年中、令造營意趣者、天下泰平、國土豐饒、當庄安全、殊者、大檀那源鎮秀武運長久、子孫繁昌、萬民快樂、心中所願、皆令滿足如件、

于時永祿四年辛酉<sup>三月</sup>沽洗十二日、還宮未尅、大檀那源鎮秀敬白、造營奉行藤原通泰、大宮司次良九

良紀宴榮、惣檢校藤七郎藤原秀次、祖師左衛門大夫紀安永、若宮司清金教昌坊景順、神主中務丞紀

宴續、鍛冶彌七郎、大工彦右衛門藤原實次、

<sup>(裏面)</sup>「筆者生地加賀守紀諸宴(花押)、生年六十歲、」

### 一三 大友氏加判衆連署書狀

○荒卷文書  
大分県史料一〇

<sup>(裏打紙端裏書)</sup>

「吉弘左近大夫鑑理

曰杵越中守鑑速

戶次丹後守鑑連入道道雪

吉岡越前入道宗歡」

<sup>(附卷)</sup>  
「吉弘左京大夫鑑理

曰杵越中守鑑速

戶次丹後守鑑連入道道雪

吉岡越前入道宗歡」

小田式部太輔江、被加御扶持候地之内、舍弟勘介依違亂、未知行之段、言上候、至勘介、被成遣

小田某ニ扶持セ  
シ地ヲ舍弟勘介

八坂上・下・新莊

違乱

關所地閉目ヲ嚴重ナラシム

御判候者、御證判早々持參肝要候、以其上取合、不可有疎略候、若又御判於無頂戴者、則被止綺候之様、助言專要候、惣別御關所御閉目之儀、稠被仰出候之條、被得其意、堅固可被申付事、專一候、恐々謹言、

十一月九日

(音) 鑑 理 (花押)

(日) 鑑 速 (花押)

(戸) 鑑 連 (花押)

(音) 宗 歡 (花押)

木付紀伊入道殿

(裏切封) 「(墨引)」

二四 杵築若宮八幡社棟札銘

○大分県金石年表二  
杵築市大字宮司

若宮八幡一字ヲ造替ス

〔裏面〕  
「<sup>(裏面)</sup>謹奉造營八坂下庄惣廟若宮四所八幡大菩薩一字之事

抑八幡大菩薩者、應神天皇御靈行之時、遣志賀明神於龍宮城亘、汝之所姓者女子也、吾之所姓者男子也、可成夫婦土、大帶姬契約之間、八幡生成之時、成夫婦、所生君達<sup>若宮、若姬、</sup>也、其時、自龍宮城、彼猷黑龍馬二疋也、繼其舊跡、至今于、若宮之神馬者、所彼用黑龍馬也、依之、仁王五十三代淳和天王御宇、天長元年<sup>甲辰</sup>、大神朝臣蘆丸、同弟助雄、奉造立若宮四所御寶躰、頌曰得道來不動

法、性示八正道得、垂權跡皆得解脫苦衆生、故號八幡大菩薩、諸人唱此名號豆、祈念之意趣者、天  
長地久、御願圓滿、殊者、當庄安全、別豆者、大檀那源鎮秀（采付十五代・未付十六代）鎮直、武運長久、子孫繁昌、萬民快  
樂、心中諸願者、皆令滿足所、如件、

于時永祿十一年辰三月廿三日、大宮司、惣檢校、祝師、若宮司清金、造營奉行清末但馬守、神主紀

宴續、鍛冶彌七郎、大工藤原實次七十一、

〔筆者生地前加賀守沙彌神鏡（花押）、六十七、〕

一三五 大友宗麟義感狀（紙切）

○常念寺文書  
大分県史料二五

〔包紙ウハ書〕  
一八坂主馬允殿

宗麟

長々在陣、炎天時分軍勢感悅候、彌可被勵馳走事、肝要候、必追而一段、可賀之之趣、猶戸次伯耆  
守可申候、恐々謹言、

〔永祿十一年乙〕  
七月五日

〔大友義絶〕  
宗麟（花押）

八坂主馬允殿

在陣ノ軍勞ヲ賞  
ス

三三 大友宗麟義鎮感狀(紙切)

○八坂文書  
大分県史料一〇

(包紙ウハ書)  
「八坂兵部丞殿

(端裏切封)  
「(墨引)」

宗麟」

立花鑑載退治ノ  
軍勞ヲ賞ス

今度立花鑑載退治之刻、別而軍勞之由、感悅候、彌可勵馳走事、可爲肝要候、必追而一段、可賀之趣、猶吉弘左近大夫可申候、恐々謹言、

(永祿十一年乙)

七月廿三日

(大友義鎮)  
宗麟(花押)

八坂兵部丞殿

三三 大友宗麟義鎮書狀(紙切)

○荒卷文書  
大分県史料一〇

(裏打紙端裏書)  
「義鎮法名宗麟」

(附箋)  
「同前」

醫者宗門罷越ス  
ニ付添心ヲ依頼  
言、  
醫者宗圓、至方角罷越之由候條、染筆候、別而可被添御心事、可爲祝着候、猶重々可申候、恐々謹言、

三月六日

(大友義鎮)  
宗麟(花押)

木付紀伊入道殿

一三六 朝日寺再建碑銘

○大分県金石年表二  
杵築市大字南杵築朝日寺

生地神鏡朝日寺  
ヲ再建ス

當寺再建立、廿六代之生地前加賀守花(記カ)神鏡、天正二年甲戌七月十五日謹書之、七十三、

一三九 田原氏年寄連署奉書(紙切)

○足立悦雄文書  
大分県史料二六

八坂買得地ノ内  
社領三反ヲ田代  
兵庫助ニ打渡サ  
シム

八坂買得之内、社領參段地之事、至田代兵庫助、被成 御裁許候、早速可被打渡之由候、恐々謹言、  
七月廿三日

定世(湯部カ)(花押)

董俊(湯部カ)(花押)

董道(利行カ)(花押)

諸久(如法寺カ)(花押)

親並(如法寺カ)(花押)

親當(如法寺カ)(花押)

森刑部少輔殿

八坂上・下・新莊



一三〇 杵築若宮八幡社棟札銘

○大分県金石年表二  
杵築市大字宮司

八坂下莊木付木  
田若宮八幡宮ヲ  
造立ス  
大檀那木付宗虎  
及ヒ嫡男鎮直

〔表也〕  
上棟 敬白 四所八幡大菩薩、扶桑國豐之後州速見郡八坂下之御庄惣廟、木付木田之村若宮八幡宮  
一字、奉造覆意趣之事、天下泰平、國土豐饒、當庄安全、爲殊者大檀那前紀伊守源宗虎、并嫡男新  
助鎮直、武運長久、子孫繁昌、各息災延命、令修造者也、因茲忝茂、八幡大菩薩、爲廟帝御旛摩三  
韓令責伏、異國之魔界令舞細男、奉崇六十餘州神社、拂本朝之災難事、偏法神之威光也、不而已、  
爲一切衆生化度方便、慈悲萬行功德深而、開邪正表德之二門、胎金兩部之道場之内者、顯定意和合  
之質、授无所不至之印結、故得道來不動法、性示八正道、垂權跡皆德解脱苦衆生、故號八幡大菩  
薩、仍心中所願、皆令滿足、如件、

于時天正二年丙子卯月廿一日、謹之、〔脱字アラフ〕造營奉行木付下野守鎮滿、清末但馬守通泰、若宮司清貴、教昌

坊慶順、大宮司市丸次良九郎、惣檢校諸富彌九郎、神主生地中務丞、大工木工□、鍛冶孫次郎、

〔裏也〕  
「筆者神主前加賀守沙彌神鏡（花押）、七十五而書之、」

一三一 大友宗麟義鎮跡目安堵狀

○野間文書  
臼杵史談七四

親父加賀守鑑忠〔二跡也〕田原六拾町之内、石丸十貫分、笠和郷之内五貫分、〔八坂庄之〕歲田參貫分、肥後國詫摩

田原別符石丸十  
貫笠和郷五貫歲

田參貫分等ヲ安堵ス

郡之内、山崎四町分之事、任相續之旨、領掌不可有相違候、恐々謹言、

十一月十三日

(天友義經) 宗麟 (朱印)

本田治部少輔殿

○福川一徳氏調査ニヨル。(朱印) トアリ、天正三ノ六年ノ印文「非」ノモノナルベシ。一三五号文書参照。

### 一三 右田鑑盛等連署速見郡間別調注文

○柞原八幡宮文書 大分県史料九

(包紙ウハ書) 「速見郡

(附箋) 「柞原社」

間別調之事

天正六年 二の酉 二月八日

(朱) 「三百六年」

石垣左馬介

鑑 貞 花押

龜門勘解由

鑑 盛 鎮意

右田兵部少輔

鑑 意 鑑盛

(籠裏書) 「天正六年」

速見郡間別調申分

三千七百四十九間

此内百八十三間 社人九人覺悟之分

不納分貳百六十一間

以上

八坂上・下・新莊

速見郡ノ間別調  
調査シ注進ス

八坂上・下・新莊

天正六年つものゑとら

二月八日

上田土佐入道殿

弘岡外記允殿

石垣左馬助

鑑 貞 (花押)

龜門勘解由允

鎮 意 (花押)

右田兵部少輔

鑑 盛 (花押)

一三三 某書狀案

○永弘文書  
大分県史料六

八坂莊皆免料錢

遣候、仍我等子候者、下桐井□

□坂庄皆免錢料之事、□

□木ノ大郎三

郎・同神□以兩人、從鎮(奈多)基様去廿七日ニ、於年分所ニ預御届候、仰天此事に候、我等事、從最前

御家を頼存候之條、如何躰(被仰カ)□候共、以御機嫌、社領無相違之様、御申頼存候、殊更右之料所之

事、社領と乍申、諸家御寄進之地も、正稅料所之條、被成御分別、被仰理候て、可得御意候、奉頼

候、恐く謹言、

一三四 田染鎮富書狀案(紙切)

○永弘文書  
大分県史料六

本社御菜免ノ地  
ニ対スル八坂方  
違亂ヲ停ム

此方預り申候本社御菜免之事、若宮免ニ榮別(ツ)之儀、無其紛候處ニ、重而之八坂方違亂之由候、番長  
拘地之事、如前く、不可有相違儀、爲上意、自社奉行被仰出候、彌(奈多)鑑基請御下知候、其上役所覺

分之儀、其方存知之前候、御法味之地、能く爲存知候、尙く重安可被申候、恐く謹言、

十二月二日

(田樂) 鎮 富

成久備後守殿 御宿所

一三 大友義統一跡安堵狀寫

○野間文書  
臼杵史談七四

親父加賀守鑑忠一跡浦田原六拾町之内、石丸十貫分、笠和郷之内五貫分、(八坂莊力)歲田參貫分、肥後國託摩郡之内、山崎四町分之事、任相續之旨、領掌不可有相違候、恐く謹言、

十二月二日

(大友) 義 統 (花押影)

本田治部少輔殿

一三 大友義統感狀

○吉弘文書  
大分県史料一〇

今度從窺前、(宗虎力)木付紀伊入道以同陣、長く在陣、殊寒天時分、苦勞感入候、彌(木付)宗虎申談、別而馳走肝要、追而一段可賀之候、恐く謹言、

(天正七年) 十二月八日

(大友) 義 統 (花押)

吉弘大炊助殿

八坂上・下・新莊

木付宗虎同陣ノ  
辛勞ヲ賞ス

親父鑑忠一跡ヲ  
安堵ス

一三七 大友圓齋義・大友義統連署書狀

○大友家文書録  
大分県史料三三

○(天正八年)三月廿四日。全文ハ、「安岐郷史料」二〇六号ニ収ム。本文省略。

一三八 大友義統感狀寫

○秋吉文書(同系図)  
大分県史料一〇

塩屋田尻敗軍ノ  
時ノ忠功ヲ賞ス

去二月廿二日、於鹽屋田尻、木付美濃入道宗虎討死敗軍之砌、其方以一身之走廻、數百ノ味方相助候、偏有其方武略、彌可抽忠勇、肝要候、仍感狀如件、

天正八年庚辰三月廿八日

(大友) 義 統 (花押影)

秋吉四良右衛門とのへ

一三九 田原親家知行預ケ狀(紙切)

○宮永氏蔵津崎文書  
大分県史料一〇

八坂売地ノ内ヲ  
預ク

面々忠貞之趣、不準他候之間、一兩人竝之合力、雖勿論候、先以餘名内拾貫分重藤右衛門尉、八坂賣地之内、西蘭名・同森分預遣候、倍闕地次第、可加扶助候、全可爲知行之狀、如件、

天正九年

八月十五日

津崎大和入道殿

(田原)  
親家(花押)

一四〇 大友義統感狀(紙切)

○長野末夫文書  
大分県史料二一

(端書切替)  
一(墨引) 一

竜ヶ鼻在城ノ辛  
勞ヲ賞ス

(安藤郷・現梓築市)  
至龍ヶ鼻三ヶ年之在城、爲不涯辛勞之儀、一段令感悅候、何様以時分、別而可賀之候趣、猶田北十郎可申候、恐々謹言、

(天正九年十月)  
正月廿三日

(大友)  
義統(花押)

長野因幡守殿

一四一 田原親家知行宛行狀(紙切)

○津崎文書  
大分県史料一〇

上八坂ノ内三ヶ  
所ヲ宛行フ

上八坂之内國武名并西園・毛利分、右三ヶ所之儀、爲辛勞之賞宛行候、全有領知、彌可被遂粉骨之狀、如件、

天正十年

三月十三日

(田原)  
親家(花押)

八坂上・下・新莊

八坂上・下・新莊

津崎大和入道殿

三七四

一四 大友義統書狀

○長野末夫文書  
大分県史料一一

(包紙ウハ書)

(墨引)

義統

長野勘七殿

竜ヶ鼻城番ヲ都  
甲某共ニ勤仕セ  
シム

龍ヶ鼻城番之儀、至都甲山城入道申付候、被申談、勤番肝要候、聊不可有油斷之儀候、猶田北十郎

可申候、恐々謹言、

(天正九ノ十年頃)  
卯月三日

(天交)  
義統(花押)

長野勘七郎殿

一四 大友義統感狀(紙切)

○常念寺文書  
大分県史料二五

豊前野仲表在陣  
ノ軍勞ヲ賞ス

至今度豊前、同出陣、殊野仲表江于今在陣、辛勞感入候、向後彌可勵馳走事、肝要候、恐々謹言、

(天正十一年九)

十月十六日

(天交)  
義統(花押)

八坂主馬允殿

○年代比定八花押ニヨル。

一四 杵築若宮八幡社棟札銘

○大分県金石年表二  
杵築市大字宮司

若宮殿脇座若將  
宮ヲ再造ス  
大檀那木付統直

〔表面〕  
「謹奉再造八坂下庄若宮殿脇座若將宮一社之事

右意趣者、國土豐饒、當庄安全、別而者、大檀那木付統直武運長久、子孫繁昌、祈精如件、

于時天正十六年<sup>戊子</sup>十一月廿日、祝師刑部大夫敬

〔裏面〕  
「表之神田者、船津壹反小、杉之本貳反、中村壹反號溝副、八之坪大號修理用□□之名□□大表之

□□加賀入道八十八<sup>三</sup>書之、當社神主、

一五 木付統次書狀〔折紙〕

○朝見八幡宮文書  
大分県史料一一

〔包紙ウハ書〕  
「福嶋御鹽燒大夫様

尙々 申候、左少ニ候へ共、代物貳端令進覽候、誠御志までニ候、以上、

尊書之趣、委細令拜見候、仍市村清兵衛殿御下向ニ付、御被懸御意候、忝存候、彌於御神前、御  
祈念之所可忝候、猶御使者可有御達候、恐惶謹言、

十月三日

〔木付〕  
統次〔花押〕

八坂上・下・新莊

使札及ビ御稜ヲ  
謝シ物ヲ贈ル



八坂上・下・新莊

福嶋御鹽燒大夫様

三七六

一 木付統次書狀(紙折)

○朝見八幡宮文書  
大分県史料一

追而内くに、帶一筋被下候、忝奉存候、以上、

御稜箱ヲ謝シ物  
ヲ贈ル

爲御檀方廻、横橋源左衛門殿御下向ニ付、御稜箱被懸御意候、忝奉存候、彌於 御神前、御祈念可  
忝候、隨分少分ニ御座候へ共、木織貳端致進覽候、誠以御志計候、恐惶謹言、

霜月卅日

木付右馬丞  
統次(花押)

御鹽燒大夫殿

まいる貴報

一 木付統次書狀(紙切)

○朝見八幡宮文書  
大分県史料一

(包紙ウハ書)

九刃豊後國

木付右馬允統次

木付右馬允

福嶋御鹽燒大夫殿

まいる貴報

統次

(端裏切封)  
一 (墨引)

使札ヲ謝シ物ヲ  
贈ル

追而申候、扇一本帶一筋、被懸御意候、忝存候、自是も左少候へ共、爲御祈禱、しまもめん一端・  
白布一端、參錢として上申候、誠御祝言斗候、以上、

毎年從是可申上存候處、市村清兵衛殿、爲御使預御狀候、殊 御祈禱之御枝萬端御祈念之所、無御  
油斷由、被仰下候、忝存候、彌子孫長久之所、奉頼候、必參宮之刻、可得貴意候、恐惶謹言、

十二月十一日

木付右馬丞

統次(花押)

福嶋鹽燒大夫殿

## 一四八 豊後國檢地目錄案

○西塞多神社文書  
大分県史料二五

○天正十九年卯八月吉日。「安岐郷史料」二七五号ニ収ム。本文省略。

一覽 豊後國速見郡木付莊中津村

田方御檢地帳

○永青文庫藏  
東京都文京区目白台二ノ一

外表紙

文祿二年八月

豊後國  
田方御檢地之帳

と五拾八

○本帳本文ニハ、次ノ黒印三種ヲ割印トシ、マタ荒地等ノ下ニ捺セリ。以下印刷ノ都合上、模写印形（印文不鮮明ノ所アリ）ヲ、下ニ掲ゲテ（イ）（ロ）ノ記号ヲ付シ、本文中ニハ記号（割印ハ（割イ）ノゴトシ）ヲ以テ示シタ。



内裏紙

(割イ)(割ロ)(割ハ)

文祿二年八月廿日 三垣源内

田方御檢地之帳 (花押)

中津村

速見郡木付庄

下

○朱印  
財團法  
以文庫藏  
下同

下 半大つ ミヤノ下 五斗  
 下 五段 當入三斗 同所 五石  
 下 八畝 同所 八斗  
 荒 二畝 (口) 同所 貳斗  
 荒 八畝 (口) 同所 八斗  
 下 四畝廿斗 同所 四斗六升六合七勺  
 下 壹畝 當入二升 同所 壹斗  
 下 壹畝 當入三升 同所 壹石  
 下 四畝 同所 四斗  
 下 六畝 當入三升 同所 六斗  
 下 六畝 同所 六斗  
 荒 八畝 (口) 同所 八斗  
 下 二畝廿斗 同所 貳斗六升六合七勺  
 下 廿步 同所 六升五合七勺  
 荒 四畝十斗 (口) 同所 四斗三升三合  
 荒 貳畝廿斗 (口) 同所 貳斗六升六合七勺  
 下 壹反半 同所 壹石五斗

(割口)  
(割八)

八坂上・下・新莊

源	龜	源	龜	又	源	源	源	源	彌	彌	宮	甚	源	同	又	中ツヤ	冊、 十、 四、 十
二	三	二	三	二	三	三	二	二	三	八	法	左	三	同	二	二	
郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	師	衛	郎	郎	郎	郎	
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

下 貳畝 同所 貳斗  
 中 七畝十斗 同所 八斗八升  
 下 壹反 同所 壹石  
 下 二段七畝 同所 貳石七斗  
 中 壹反半 同所 壹石八斗  
 下 貳畝 當入壹斗 同所 貳斗  
 下 壹畝 當入壹斗 同所 壹斗  
 下 壹反 四畝 當入壹斗 同所 壹石四斗  
 下 七畝 當入六升 同所 七斗  
 下 壹反半 當入壹斗 同所 壹石五斗  
 荒 半十斗 (口) 同所 五斗三升三合  
 下 四畝 當入壹斗 同所 四斗  
 下 壹反 一畝 當入壹斗 同所 壹石壹斗  
 荒 三畝 (口) 同所 三斗  
 下 七畝 當入壹斗 同所 七斗  
 下 壹畝十斗 同所 壹斗三升三合  
 下 壹畝廿斗 同所 壹斗六升六合七勺  
 下 二段三畝廿斗 當入四斗 同所 貳石三斗六升六合七勺  
 荒 七畝十斗 (口) 同所 七斗三升三合

(割八)

同	孫	甚	龜	又	孫	龜	彌	孫	又	宮	源	中	彌	龜	彌	龜	甚	同
三	左	左	上	二	三	千	四	三	二	法	二	村	八	太	八	左	左	同
郎	衛	衛	郎	郎	郎	代	郎	郎	郎	師	郎	村	郎	郎	郎	衛	衛	同
○	門	門	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

八坂上・下・新莊

荒壹畝 (口)	壹斗	(割口)
下七斗	五斗三升三合	(割ハ)
中貳反九畝十ト	三石五斗貳升	
下七畝廿ト	七斗六升六合七勺	
中八畝廿步	壹石四斗	
中八畝廿步	壹石四升	
上壹反	壹石四斗	
下二畝廿ト當入三升	貳斗六升六合七勺	
荒半 (口)	五斗	
中六畝十六ト	七斗八升四合	
荒壹段二畝 (口)	壹石貳斗	
荒二段四畝 (口)	貳石四斗	
下八畝	八斗	
下壹段一畝十トソハ	壹石壹斗三升三合	
中壹反一畝	壹石三斗貳升	
下八畝當入二斗	八斗	
下四畝十ト	四斗三升三合	

中津野村	龜太郎	○
新十郎	○	
神四郎	○	
同村	太郎左衛門	○
同所	源四郎	○
同所	彌二郎	○
同所	孫十郎	○
同所	道五郎	○
同所	七右衛門	○
同所	彌七郎	○
同所	道七郎	○
同所	新十郎	○
同所	善右衛門	○
同所	源四郎	○
同所	二郎	○
同所	新兵衛	○

下七畝廿六步	七斗八升四合七勺	
荒八畝十六步 (口)	八斗五升一合	
上七畝十ト	壹石貳升六合七勺	
中壹畝廿ト	貳斗	
中壹反四畝十ト	壹石七斗貳升	
下二段當入二斗	貳石	
上八畝	壹石壹斗貳升	
下二殿半	貳石五斗	
下半	五斗	
下壹反二畝	壹石貳斗	
下壹反半當入壹斗五升	壹石五斗	
荒壹反 (口)	壹石	
荒貳段 (口)	貳石	
荒二畝 (口)	貳斗	
荒二畝十ト (口)	貳斗三升三合	
下七畝當入五升	七斗	
下八畝當入三升	八斗	
荒半十ト (口)	五斗三升三合	

同所	道七郎	○
同所	彌九郎	○
同所	新兵衛	○
同所	忠四郎	○
同所	新兵衛	○
同所	新三郎	○
同所	又三郎	○
同所	新十郎	○
同所	西ノむち	○
同所	三ノむち	○
同所	中ノ村	○
同所	六ノ村	○
同所	太郎左衛門	○
同所	彌九郎	○
同所	高正寺	○
同所	甚五兵衛	○
同所	同	○
同所	彌四郎	○
同所	新五兵衛	○
同所	同	○

同所 下七畝當入五升 七斗  
 同所 荒廿步 (口) 六升六合七勺  
 同所 下四畝當入壹斗二升 四斗  
 同所 下貳畝當入二升 貳斗  
 同所 荒廿卜 (口) 六升六合七勺  
 同所 下三畝 三斗  
 同所 荒壹反六畝 (口) 壹石六斗  
 同所 下四畝十六卜當入一斗四升五升一合  
 同所 下壹反壹畝當入壹斗五升 壹石壹斗  
 山神ノ坂 荒參畝 (口) 三斗  
 山神坂 荒四畝 (口) 四斗  
 同所 荒半 (口) 五斗  
 同所 荒四畝 (口) 四斗  
 上田貳反半十步  
 中田壹町二畝十六步  
 下田四町二反九畝十二卜  
 合五町五反七畝九步  
 荒壹丁五反二畝六步

(割ハ)

同 人 ○  
 同 人 ○  
 同所 源 二 郎 ○  
 中ツヤ 道 心 ○  
 八  
 同所 又 二 郎 ○  
 同所 助 十 郎 ○  
 かも川村 宗 運 ○  
 同所 善 右 衛 門 ○  
 同所 彌 九 郎 ○  
 同所 主 計 ○  
 たふち 主 計 ○  
 同 人 ○  
 失人 新 五 兵 衛 ○

八坂上・下・新莊

一 豐後國速見郡木付莊中津村

畠方御檢地帳

○永青文庫藏  
東京都文京区目白台一ノ一

○本帳ハ前号「田方御檢地之帳」ト合綴シ、帖番号ハ十ノ十四マデ通記スルモ、後ハ記サズ。「畠方」トシテ別表紙ヲ付スルニヨリ、別帳トシテ掲ク。

下 速見郡木付庄 畠方御檢地之帳 中津村	(割ハ) (割口) 十
-------------------------------	-------------------













一五 木付作内遺言狀

○朝見八幡宮文書  
大分県史料一

〔別紙異書〕  
〔石垣原合戦の砌、木付江とらわれ候人々なり、大友家臣衛藤亦藏木付作内書翰二通〕

木付作内遺書

〔包紙ウハ書カ〕

〔切封墨引〕  
「(墨引)」

木付より

新右衛門殿

まいる

作内

返々申越候、十月五日相はて申候、く、扱々七十日あまりくろうお見候て、はて候事、不及是非候、眞福寺様へ、以別紙申度候へ共、これさへようくとり急候て、こまく不申候、萬其元何篇念遺候て、可給候、我等事ハ、如此はて候間、あのかくこ可被成候、く、以上、

「三人の儀、目前ニひとゝろにて相はて申候、く、以上、」

死後ノ訪ヒラ依  
頼ス

態申入候、然ハ我等身上之儀、相はて候間、あと之儀、能くとふらひ候て、可被下候、萬頼存候、扱々たこくにて、相はて候事、不及是非候、併かくてたこくゑすたり候共、たま者ハ、在所參居候、扱々人しるほのとうせん被成候て、可給候、萬跡之儀、頼申候、皆内もの共ニ、かすくそへ筆申候由、たのみ存候、く、扱々不及是非儀、申計候、萬あとのミ申候、く、恐々謹言、

十月五日

(未付)  
作内(花押)

八坂上・下・新莊

八坂上・下・新荘

三八八

○慶長五年カ。

一五三 千光寺鰐口銘

○字佐・国東半島を中心とする文化財  
東国東郡国東町千光寺

〔奉宝納、速見郡八坂庄東照寺之鰐口之夏、  
（外段）  
（内段）

八坂庄東照寺ニ  
鰐口ヲ奉納ス

右意趣者、武運長久、子孫繁昌爲也、施主善兩 宗榮 藤太郎 又次郎 新右衛門、

〔于時慶長八年十月吉日  
（内段）

大工駄原安信惣兵衛尉敬白、

大工駄原安部惣  
兵衛尉

付録

一 清和源氏木付家系

○勝山歴代豊城世譜  
大分県立図書館蔵 乾

○田原家系ヲ合敘ス。同系図及び關係ナキ部分ヲ省略ス。(一)ハ「増補訂正編年大友史料」三二所収「大友木付氏系図」ニヨル。コレハ本世譜本文中ノ記述ヲ加筆セルモノナリ。

元祖  
能直

親秀

一  
賴泰

○十三字ヲア記スを闕  
係部分以外ヲ略ス。

六  
親重

童名六郎、肥前守、左エ門尉、豊前八郎、判官、木付大炊助、

檢非違使別當、速見郡武者所、母三浦肥前々司家連女、木付家元祖、系譜尾記故畧之、〔弘安八年己酉二月十八日木付竹の尾城に卒、行年六拾一歳、安住養國寺に葬ル、牌名安住養國寺殿慶雲道海大禪定門〕

能重

木付六郎大郎、大炊助、改速見稱木付氏、阿波守、

〔元亨二年壬戌四月廿四日卒、行年六十三歳、牌名春泰院殿能忍道山大禪定門〕

付録

一 貞重  
木付紀伊守、丹波守、大炊助、

〔延元元年正月京都東洞院烏丸に於て討死、于時四十五歳、牌名瑞雲院殿學信道泉大禪定門〕

二 能泰  
木付加賀守、號上殿  
上大炊六郎  
能壽

一 賴直  
木付梅若丸、美濃守、大炊助、

〔應永十三年丙戌三月十八日卒、行年八拾八歳、牌名寶樹院殿澄巖廣輔大禪定門、〕

二 重實  
眞玉五郎  
國東郡眞玉莊居住、大村 龍守山眞玉寺開基、

親直  
木付大炊六郎、伊豆守、

〔應永十九年壬辰七月十一日卒、牌名聖積院殿峯諱府大禪定門、〕  
(厚統)

親公チカトキ  
木付六郎、讃岐守

〔永享七乙卯年六月廿九日臼杵姫ヶ嶽に於て、豫州河野刑部少輔通久と組討死、牌名春嶽院殿佛阿了覺大禪定門〕

親世  
木付新助、遠江守、〔豊前國篠崎に於て大内衆と掛合討死、〕

一 能忠  
木付次郎、掃部助、早世  
法名正雄、

二 直忠  
木付孫次郎、伯耆守、大炊助、  
後直世、

親忠  
木付龜童丸、伊勢守、  
大炊助  
親貞  
木付新五郎、大藏少輔、  
大炊助、

親久  
木付六郎、刑部少輔、  
親家  
木付六郎、左京亮、

親實  
木付六郎、紀伊守、  
大炊助  
親諸  
木付六郎、右近大夫、

鎮秀  
木付六郎、美濃守、大炊助、紀伊守

一 鎮之  
木付新助、  
天正八年庚辰二月廿二日、田原右馬頭親貫背府内命、父鎮秀受命、馳向合戰、安岐鄉鹽屋邑二而父子  
共討死、

二 女子  
太神常陸助源鎮正室、イ親照母生地玄蕃承紀安清女、  
親長、鎮次、鎮勝、親直四人母

三 鎮直  
木付新助、中務少輔、



一 木付大炊六郎、三郎左衛門尉、

一 統直

二 木付次郎左衛門尉、玖珠郡菅原邑居住、

二 直永

元和十年甲子年卒、月日法名不詳、

一 木付基九郎、文錄元年壬辰朝鮮征伐、父トネアラ統直一同出陣、於陣中討死、

一 直清

月日法名不詳、行年十七歲、或曰十九、

二 木付右馬丞、寛永二十一年甲申二月十五日卒、行年六十六歲、

二 統弘

法名惠林院殿岩峯道法居士、

三 女子

家臣西吉左衛門尉源統忠妻、寛文七年丁未五月三日卒、行年九十六歲、法名不詳、葬木付鴨川邑富松云々、  
私曰、木付家元祖從親重木付入部八郎トク、至統直、蓋十七世、大友家改易、統直生害、於茲木付斷絶、統々譜世代中、  
委記文略之、

## 二 秋吉系圖 (抄)

○秋吉文書  
大分県史料一〇

## 西國宇佐姓秋吉黨

家紋酸醬自古加香葉

○首略

佐知翁

宇佐池守翁トモ云、

自佐知翁二十四代、從五位下秋吉左衛門尉大膳亮刑部少輔維廣三男

盛廣 深見秋吉左衛門尉宇佐盛廣入道寂連 童名龜壽丸

母阿蘇大宮司友範女

以三永治元年酉一、生三子豐前國宇佐郡一、○下 略

氏廣

深見秋吉治良左衛門尉盛泰入道阿入

盛泰

母宗像神人秋定女、○中 略

深見庄地頭職兼西勝寺院主職、至三寬元二甲辰一、以三院主職、讓三如來坊一、以三地頭職、讓三維繼一、○下 略

如來坊

名闕、西勝寺院主職、○本庄八号 文書、略

維繼

八坂秋吉五良左衛門尉 宇佐維繼入道淨念

母宇佐祝部大神義幸女、○中 略

深見庄地頭職、得三豐後國八坂下庄ヲ一、始テ稱三八坂秋吉ト、○下 略

維泰

深見秋吉次郎兵衛尉、同國上野村地頭職

母同上、○下 略

泰家

上野 秋吉 三良 五郎 系有別

○下 略

盛氏

後盛幸改 秋吉左衛門尉盛幸 左衛門三良入道淨願 童名彌五良

母戶次二良左衛門重秀女、○法 名略

弘安四辛巳大友頼泰在鎌倉也、木付初代親重爲三陳代三百七十餘騎出陳之内ニ從而、蒙古五十餘騎ヲ破ル、唐船五艘乘取有功ト云、○下、略

僧

名教圓 西勝寺院主職 創三福聚山迎接寺一居レ之、

女

木付大炊介能重室

維行

八坂 秋吉七郎、○下、略

能繼

八坂 秋吉十郎、○下、略

盛繼

八坂 秋吉左衛門次良入道覺雲 童名彌次良忠繼ト云、

母木付阿波守能重妹 贈淨觀院清眞慈寧大姉  
延慶元父盛幸ト六波羅江上ル、依レ疾而歸、嘉曆元丙寅八月三日依レ疾遂ニ素志、號ニ入道覺雲、子息乙壽丸讓ニ所領一、○下、略

盛基

深見秋吉彦十良 左衛門十良覺圓  
母同上

○下、略  
秋吉三良五良 後藥丸美濃守ト改ム、

能房

母同上

元徳元己巳、從ニ父盛幸ニ移ニ住八坂庄、爲ニ代之藥丸、元弘元五月探題英時誅罰之剋、介ニ翼秋吉忠氏之初陣、有ニ拔群之功、任ニ美濃守ニ云、○下、略

親宣

藥丸辨太夫入道玄收、○下、略

忠義

後改<sup>ニ</sup>忠氏<sup>一</sup> 童名乙壽丸 秋吉新次良 八坂秋吉新兵衛尉

母奈田左衛門尉宇佐維基女 贈清操院詳室貞閑大姉

嘉曆元丙寅八月三日讓<sup>ニ</sup>受父盛繼所領<sup>一</sup> 嗣<sup>レ</sup>業、號<sup>ニ</sup>新次良忠義<sup>一</sup>、元弘元辛未五月與<sup>ニ</sup>叔父藥丸能房等<sup>一</sup>、屬<sup>ニ</sup>木付紀伊守貞重ノ手<sup>一</sup>、探題英時退治刻、初陣而有<sup>ニ</sup>三分捕高名<sup>一</sup>、感狀一通、○以下本文四四・四七・六二・六四・六七・六三略文見下略

秋吉三良左衛門尉

貞泰

母永松彈正忠女 贈慈雲院泰室正安禪定尼

觀應<sup>ニ</sup>辛卯、於<sup>ニ</sup>筑前國針摺合戰<sup>一</sup>討死矣、尼正安狀<sup>ニ</sup>見ル<sup>一</sup>、○下略

忠家

秋吉三良兵衛 童名法師丸

母田所入道清原女 贈演暢妙義大姉

始爲<sup>ニ</sup>伯父忠氏猶子<sup>一</sup>、後捨<sup>ニ</sup>所領<sup>一</sup>、至<sup>ニ</sup>肥後國一奉<sup>ニ</sup>仕菊池次郎武政<sup>一</sup>數年、至<sup>ニ</sup>應安中<sup>一</sup>歸國、○下略

正泰

秋吉兵庫允 童名宮鬼丸 秋吉之内藥丸名半分領之、應安八乙卯八月廿二日祖母尼正

安折<sup>ニ</sup>中<sup>一</sup>之<sup>ニ</sup>云、○證 男略

忠泰

秋吉次良兵衛尉 童名又法師丸 母同上

觀應二年與<sup>ニ</sup>父貞泰<sup>一</sup>赴<sup>ニ</sup>筑前國針摺原<sup>一</sup>、貞泰討死訖、忠泰一騎馳<sup>ニ</sup>入敵中<sup>一</sup>、討<sup>ニ</sup>取父敵稻佐十郎太良<sup>一</sup>、得<sup>ニ</sup>父首<sup>一</sup>、又將<sup>レ</sup>討遇<sup>ニ</sup>松行・立石等之救來<sup>一</sup>、漸歸<sup>ニ</sup>陣中<sup>一</sup>不日而卒、○證 男略

某

千代法師丸 安岐鄉仁與名半分、武藏鄉手野田半分領之、尼正安判有、後代<sup>ニ</sup>能泰<sup>一</sup>奉<sup>ニ</sup>仕田原殿<sup>一</sup>、子孫于<sup>レ</sup>今在<sup>ニ</sup>浦邊<sup>一</sup>ト云、○證 男略下同

女

武母 松行入道妙居室

延道名ノ内、四之線ノ田二段、上田屋布二段者、尼正安判有、妙居讓狀、○本文八四号文書、以下全文省略

秋吉五良四郎 重名孫法師丸 後藥丸民部允 美濃守

能泰

秋吉名内藥丸名半分領之、尼正安折ニ中之一、正安狀始之行關文也、○本文七八号文書、以下全文省略

泰親

藥丸掃部介 重名萬德丸

母辨太夫親宣養女、號ニ安岐女房一 贈普恩妙濟大姉

實木付四代美濃守頼直入道廣輔禪門之女也、

○本文八五号文書、以下全文省略

直泰

秋吉勘次郎氏直爲ニ養子一、母同下

能安

藥丸三良四郎 民部亮

母 秋吉四良右衛門直俊女 贈直光慈正大姉

號レ妹、自ニ襁褓一、爲ニ仲母安岐女房養女一、萬德丸泰親室

享德三年與ニ秋吉直泰一有ニ秋吉・藥丸兩名坪付一、

能親

藥丸左馬助 始號ニ氏銘一、

母立石中務丞女 贈洞岩知明大姉

女

秋吉新助氏兼室 母入野治良右衛門女

親守

藥丸若狹守  
始有<sup>○</sup>男女兩子<sup>○</sup>、次女大内丹彼守室、少女將<sup>○</sup>爲<sup>○</sup>秋吉忠秀配<sup>○</sup>相續家系<sup>○</sup>、至<sup>○</sup>天文三甲午<sup>○</sup>、義子忠秀於<sup>○</sup>山香鄉<sup>○</sup>戰死矣、<sup>○</sup>略<sup>○</sup>下

忠吉

秋吉新太郎  
母大神民部少輔女 贈實證院定相深禪大姉  
康安元辛丑八月七日於<sup>○</sup>筑前國箱崎表<sup>○</sup>、爲<sup>○</sup>菊池衆<sup>○</sup>討死矣、二十一歲<sup>○</sup>略<sup>○</sup>下

直俊

秋吉四郎次良  
後四郎左衛門尉  
實木付四代大炊介美濃守頼直入道廣輔禪門四男、木付伊豆守親直、安岐女房之弟也、<sup>○</sup>略<sup>○</sup>下

女

直俊室、忠氏之少女  
<sup>○</sup>略<sup>○</sup>下

女

木付伊豆守親直側室  
母同<sup>○</sup>忠吉

氏光

後改<sup>○</sup>氏直<sup>○</sup> 秋吉孫次良 治良左衛門尉  
母忠氏女 贈芳操院蘭溪妙猶大姉  
永享十一己未年於<sup>○</sup>白杵姫ヶ岳<sup>○</sup>合戰、與<sup>○</sup>藥丸泰親并義子直泰・能安等<sup>○</sup>屬<sup>○</sup>木付讚岐守親公手<sup>○</sup>、及<sup>○</sup>親公與<sup>○</sup>豫州ノ河野薩摩守<sup>○</sup>組而討死<sup>○</sup>、<sup>○</sup>略<sup>○</sup>下

女

名妹 應永五寅二月、爲<sup>○</sup>安岐女房養女<sup>○</sup>、藥丸萬徳丸泰親室

直泰

秋吉勘次郎 次良右衛門尉

女

母直俊女名妹 實藥丸掃部介泰親嫡男  
永享十一年与義父氏光一、赴三臼杵、盡力奮勇全備而戰、手瘡五ヶ所失三眼、蒙屋形褒詞云、享德三  
甲戌與三藥丸能安一、有二反別之改一、書以下省略  
直泰室、氏光女、略下

房泰

秋吉三良四郎

母木付采女正親房女 贈珊瑚月妙枝大姉

文正元年与父屬三木付親忠手一、龍岩宗餘大内新介退治等、於三所々一盡三粉骨一、數震三威名一、略下

頼泰

秋吉五郎三郎

主殿亮

母同上 實直泰三男房泰舍弟也、

文明之役、父直泰討死、舍兄房泰自三深手一、將レ被レ討、頼泰與三能安親子并良從加藤五兄弟一五騎、再入三敵軍一  
遂得レ逢三房泰一、○以下九五・九六・九七号ナリ、本文省略

氏兼

秋吉新助

後新兵衛尉

母帆足長門守 女 贈慈深妙雲大姉

明應三甲寅五月、田原治部少輔親宗入道宗傳返逆、襲三府内一敗北而歸、此時與三父房泰藥丸能親、子等一、屬三  
木付刑部少輔親久ノ手一、於三御野崎一有三分捕、宗傳於三此所一討死畢、略下

女

木付大藏少輔親貞次室 贈香壽院棟等儀選大姉  
實房泰娘

忠續

秋吉新次郎

治郎左衛門尉

母藥丸左馬介能親女、若狹守親守姉 贈持隆貞總大姉

忠秀

天文三甲午、大内義隆陣代陶三河守與房襲來之時、大友衆於山香郷大群野ニ合戰、○中略、下ニ一一・一  
秋吉勘十郎 叔父爲ニ藥丸若狹守親守養子、  
母同上 天文三甲午年、山香郷大群野於テ討死矣、  
○号文書ヲ収ム、本文省略

忠時

秋吉新四郎 改四郎右衛門尉  
母木付上野之介親清女 贈本光智瑞大姉  
天文十二秋、與ニ父忠續ニ上落、歸而與ニ秋月ニ合戰 十七歳、初陣有レ功、  
○下略、中ニ三三八号文書ヲ録ス。

女徳松

木付安藝守鎮満室

忠幸

秋吉彦治郎 次良左衛門尉  
母木付彈正忠 女 贈寛閨壽厚大姉  
永録・元龜之間、大友家與ニ毛利家・争ニ豊筑、與ニ秋月・龍造寺・筑紫・松浦・原田等、所々合戰、從ニ父忠時、屬ニ木付鎮秀手、高名數多ト云、  
○下略

忠利

秋吉孫十郎 母同上  
天正戊寅十一月十二日、與ニ舍兄忠幸、加ニ日州耳河先陣、見ニ忠幸之討死、捨<sup>(レ)</sup>所<sup>(レ)</sup>討取、與ニ當敵桃山組<sup>(レ)</sup>テ遂討<sup>(レ)</sup>之、與ニ蒲田、齋藤等、扶ニ瘡癥ニ歸陣、引ニ入府内、不日而卒、年二十五歳、  
○下略

幸氏

後改氏國 秋吉新吉 新兵衛尉 藤右衛門尉  
母高田伊賀守正高女 贈斷機妙際大姉  
天正六十一月十二日、父忠幸於ニ日州耳川ニ戰死、伯父忠利尋卒、是時五歳而爲ニ家督、祖父忠時後ニ見之、頗盡ニ教育之儀ニ云、  
○下略



幸利

秋吉彌平治 母同上 文録之役、與三祖父忠時一守業不赴、慶長五庚子秋、代三舍兄幸氏一走三石垣之御陣、屬三吉弘統連手、島村作之進討取、終日十餘度合戦、被レ瘡大小六ヶ所、吉弘討死、軍敗而後歸亡命而鬻矣、贈 鋒全迥信士

氏勝

後改氏豊、秋吉彦三郎 後助之丞

○以下  
系略

○本文書及ヒ系図ハ、現大分市城南団地北町二三組秋吉武氏所蔵。収載ニアタリ写真撮影ヲナシ、校合ヲ加ヘタ。秋吉武氏ノ御協力ニ深謝スル。返り点ハ原本ノマ。尚本系図ハ、頁數節約ノタメ事蹟ノ大半ハ省略、収録文書ハ、文書中ニアルモノハ省略シ、文書中ニナキモノハ、文書史料中ニ摘出シ、系図分ハ省略シタ。

三 杵築市(除旧奈狩江村) 大字・小字一覽表

大字	小字	字
<p>大字 杵築 (旧杵築町)</p>	<p>(塩田区) 北浜、浜蔵、グンジカタ (城山区) 六軒町、城ノ鼻、城山 (錦城区) 北浜、堀、西殿、多門、ムマヤ、ツルノニハ、本丸 (北浜区) 北浜 (北台区) 北台 (中央区) 下町、広小路 (谷野区) 谷町 (仲町区) 中町、下久保 (西上区) 西町、上町、紺屋町 (天満区) 新町、富坂町 (西新町区) 西新町、北新町、上久保 (札の辻区) 札ノ辻 (北祇園区) 札ノ辻、追平、峯本、両手、辻 (古野区) 古野、清水、牛踏 (南祇園区) 札ノ辻、追平</p>	<p>(魚町区) 魚町 (据場区) 居場 (錦江区) 近松寺 (杉山区) 杉山、近松寺 (南台東区) 台茶屋、カフト石、本丁 (南台西区) 寺町、馬場丁、裏丁、梅ヶ小路、本丁 (西下司区) 菊本、大迫、出口、生地、地藏脇、樋ノ本、北能毛、南能毛、屋根ヶ坪、道ノ下、新開、フヶ、須賀、大安寺、池ノ内 (東下司区) 桐林、迫、浜、清田、貴布祢、猪頭、松ノ本、宗畑 (下原区) 中溝、胸、亀井、下原、セリ迫、原口 (弓町区) 弓丁 (宗中区) 蛇田、五鬼作、池ノ口、白水、池下、大橋、後無田、中平ノ上、中平、中平前、十王前、田ブチ、アセツ前、アセツ、法太郎、六郎丸、丹伏、茶園、松葉ヶ谷、三ツ辻、道辻、定末、田代、最勝寺、中野、宗近、三辻、土手内、迫谷、金谷、中ノ原、屋敷、馬乗石、長畑 (煙硝倉区) 平良石、平礼石 (守末区) 井ノ上、妙見庵谷、西井ノ上、一ツ屋、カイデ、水毛、木田、守末台、(守末台ノミ大字宮司)</p>

宮司	<p>(宮司区) 稲田、治郎丸、年ノ神、久原、若宮、高山、平原、新田、四ノ坪、竹下</p>
馬場尾	<p>(馬場尾区) 船迫、本村、辻、後平、油水、中尾、中ノ原、五鬼作、大辻、牛切田、土手、辻ノ尾、今村、丸山、辻村 (中ノ原区) 中ノ原、奈良双子 (大字南杵築)</p>
猪尾	<p>(三川区) 中道、中嶋、唐戸前、畑田、砂田、屋下、井手の下、徳持、六反田 (猪尾区) 鏡石、阿原、外ソノ、中ソノ、北ソノ、船付、谷迫、大迫、池ノ谷、三ツ石、猪ノ本、池の下、小猪尾、室井ソノ、カキセ</p>
片野	<p>(片野区) 入田、小川、竹ノ本、宮ノ前、屋敷、前田、五田田、江ノ内、一町田、神領、大坪、野地、柞、上ノ山、崩ノ口、辻ノ陣、ナツナキ (須崎区) 一本松、市場、須崎屋敷、鳩崎、船付、須崎 (西納屋区) 浦屋敷、浦新田 (東納屋区) 下ヤシキ、脇屋敷 (高須区) 此コフベ、九日田、シンカイ、下ノ田、中畑、コフデ、藤丸、中屋敷、畑ヶ田、三月田、石原、池ノ下、長田、前屋敷、御堂ノ前、台、池ノ上、椎田ヶ谷、岩ヶ平 (夫婦池) 下ヤシキ</p>
能野	<p>(原北区) 水ノ本、浪崎、竹ノ曲り、駒ヶ迫、後松川、日向迫、山ノ口、颯原、ムクラ迫、清田ヶ迫、北ヶ迫、明時、西ヶ迫、尾本、平原、ナゲ尾、下高尾、程川、立花、猪ノ谷、柳丸、山ノ神、江ノ口、仁田庄、カジャ、石ノ本、定末、合田、後藤、辻、猪ノ尻 (加貫区) 西ヶ迫、明神、東辻、玉見、西の辻、後山、後ヶ迫、元宮、ツ、ラ尾、古戸、前田、見常寺、前畑、竹芝山、五田々、菅町山、丸尾、出口、小迫、下原、下山、長迫、松山、後、東屋敷、中尾、野地ノ東、梶ヶ</p>

八坂	<p>(友清区) 春代、神田、友清、コソノ、瓜尾、久保畑、(熊丸区) 青柳、平尾、宮ノ脇、竹ノ内、田計、熊丸、小平、姥ヶ懐、(野添区) 小長田、岩坪、的場、野添、五田鶴、宮ノ尾、阿弥陀寺、水谷、(生桑区) 米ノ山、野狐谷、申川、生桑山、船ヶ迫、堂ノ平、中溝、下原、五反切、生桑寺、(山中区) 大山、南大山、大堀、後、礼田、田向、前、西ノ前、向、駒操、米ノ山、高尾、平ノ田、久保畑、堀田、(大左右区) 屋敷、大西、前屋敷、五無田、平山、丸石、柿ヶ迫、鬼田屋敷</p>
本庄 (旧八坂村)	<p>(下本庄区) 谷、野際、台、森末、寺ノ下、真方、前田、浜、六田、弁領、森松、穴井、田平、合藏、中野、(上本庄区) 大台、高尾、平尾、立石、小久保、大平、野地、新池、辻、白水、寺ノ上</p>
	<p>浜、狐ヶ平、善神王、今在家、小無田原、小無田、ハジ山、戸渡、サトウ畑、松川、(原南区) 天神、杉安、天神向、後原、後辻、大西、井ノ尻、久保、大人、丸屋敷、竹ノ本、谷、ヨウラヤシキ、中畑、東台、柿ノ川、遠溝、塚ノ本、門ノ前、上ツヅラオ、大ノ池、石水、小林台、宗明、鳥居原、深迫、(年田区) 井ノ山、原台、迫、向田、尾田、アゲクラ、領田、尾畑、ハシモト、シタ田、コシヤ、庚申、庄ノ内、古寺、カンノヲ、タイラ、丸山、西石水、大谷、井手ヶ平、嶋本、東小藤藏、小藤藏、高尾、ドウハン、エボシ石、橘、石畑、林作、奥山田、上川、道ノ上、下モ谷、下モ、川田、池ノ下、下、西屋敷、三ノ田、新山、桂ヶ谷、岡越、竹ノ尾、山ノ後、越口、蛇池、浅ヶ平、ヤスナミ、尼ヶ迫、鳥越、一反田、大山、畑ヶ平、堂半、ス、竹、殿畑、阿ラ平、北ヶ迫、弁領、五反田、七田、久保田、八ヶ迫、小浜、諸富、山森、キフネ、アンゾフ、カズラカ谷、前田、(大平区) 大平</p>

相原	<p>(鹿倉区) 神田、大平、楠谷、コシノキ、笹尾、井ノ谷、谷、三弘法、二田タ、中尾、庚申平、古屋敷、川端、後ノ谷、前ヶ迫、長谷、陣ノ辻、丸石、柿ヶ迫、戌ヶ谷、(相原区) 新田道、丸田、平田、投松、チシヤノ木、流田、橋ノ本、相原山、ブクゼ、(出原区) ビワノクビ、西又、東又、イマウチ、庚申、黒山、(以下大字中) 中島、若泉、芦川、中園、東園、長瀬、天神山、石有谷、大野地、向野地、今打</p>
中	<p>(中区) 糠溝、萩原、山田、日平、庚申、松ヶ尾、園田、前田、山口、末守、大久保、上川原、市、下川原、棚田、東前田、神領、桑ノ本、久保田、向山、中ノ瀬、木居士</p>
日野	<p>(新庄区) 迫口、仏供田、西、倉田、稻吉、西新庄、西平、東平、松本、ハネ、道下、太田、山崎、楠本、矢ナイ、打越、勘田、新開、箱割、竹ノ下、井尻、フケ、前田、板末、岡、竹ヶ鼻、北平、妙見平、中屋敷、成継、惣津、末長、馬場、カゲヌキ、平、竜泉庵、水ヶ迫、遠松、池ノ尻、門田、堂ノ前、池通シ、半斎寺、半斎寺迫、論田、井ノ上、芝の原、八ヶ園、天神木、天神、天神平、稗迫、中尾、松地、松ヶトラ、ハイナガ辻、小松ヶ迫、漬ノ口、穴井迫、(野田区) 鳥越、笠松、今宮、辻ヶ平、野福、天田、境ノ坪、小一郎、原、長利田、新宮、黒川、西久保、下台、田代、鍛冶屋谷、論田、井ノ尻</p>
旧北杵築村 鴨川	<p>(鴨川区) 大鴨、原、五田、山迫、照月、鴨川、迫</p>
岩谷	<p>(岩谷区) 筒木、高平、川平、岩谷、尾迫</p>

溝井	<p>(東溝井区) 小平、荒平、後田、前田、乙王</p>
西溝井	<p>(西溝井区) 堀ノ尻、両手、鎌ノ草、惣見、年神原、田中、二多田、溝井、大平、鋤迫、野田、寺山、野ノ中、亀ノ甲、枇杷田、鉢ノ久保、石山、助蓋、向、堀田 (二の坂区) 梅ヶ藪、峯、小田、夏繁、田向、西ヶ平、二の坂、大溝、家根ヶ坪</p>
船部	<p>(船部区) 払川、尾上、三尾平、船部 (中津屋区) 中津屋</p>
大片平	<p>(大片平区) 久保畑、中村、上村、松村、境木 (大字溝井)</p>

○『梓築市誌』ニ拠ル。但シ大字・小字名ノ異訓ニツイテハ、同市大字下司諸富道則氏ニ依頼シテ調査シタ。氏ノ協力ニ深謝スル。



山  
香  
鄉  
史  
料





一 豊後國風土記

○荒木田久老校訂本  
寧樂遺文下

○本文省略。速見郡全文ハ、八坂莊一ノ二收ム。

二 倭名類聚抄

速見郡

朝見 八坂 田布 大神 山香

山香郷

三 津波戸山水月寺經筒銘

○大分県金石年表  
東京都芝区中門前二丁目松田福一郎蔵

法華經等ヲ書写  
シ奉納ス

如法書寫妙法蓮華經一部、竝結緣集(衆力)一遍集各一卷、如法圖摺佛菩薩各百體、寶塔一基、於中安置釋迦多寶二世尊像、左右扉普賢・文殊種子書之、永保三年九月廿二日、於津波戸山、供養之願主、釋尊遣法弟子永尊竝結緣大衆、

〔紀行則□□未則・佛子觀暹・僧兼覺・僧靜信・僧明元・秦氏□□・觀緣〕

〔覺明藏經隨念□賴□・尼妙法・女童子宇佐氏・法橋良信・宇佐公相・尼妙深・尼妙法・僧覺眞・堯

山香郷

永・賢□・頼□・尊□永、」

〔<sup>(素妻)</sup>清原氏所生男女子等、紀行方・藤原基貞・□□氏所生子津守氏・宇佐時則・宇佐氏弟所生男子女子  
藥延□觀□子□同□□□□□□□□□□藤原金□、」

○簡内部口辺銘数十字ヨメズ。簡ニ釈迦三尊・多宝三仏・二比丘・四菩薩ノ線彫画アリ。旧国宝。

四 西明廢寺毘沙門天像銘

○大日本史料三ノ一九  
速見郡山香町所藏

〔<sup>(身部胎内墨書)</sup>

隆嚴毘沙門天ヲ  
造立ス

願我從今身至于 佛身生□<sup>(令カ)</sup>值遇佛法  
願我從今身至于 佛身死離三□道  
願我從今身至于 佛身不受必 報  
永久五年丁三月九日□丁時午奉造立 無緣僧隆嚴 願我從今身至于佛身不受必 報  
」

五 仁安三年六郷二十八山本寺目錄案

○六郷満山文書  
太宰管內志下

津波戸山水月寺

○本文省略。「序分本山八箇寺」中ニ、当郷「津波戸山水月寺」アリ。全文ハ「安岐郷史料」六号ニ収ム。

六 後白河院廳下文案

○益永家記録  
鎌倉遺文八五号

山香庄

○文治二年四月十三日。本文省略。全文ハ「八坂莊史料」四号ニ収ム。

七 豊後國圖田帳案斷簡

○到津文書  
大分県史料一

山香郷弥勒寺領

○建久八年カ。本文省略。「山香郷二百余丁 弥勒寺領 預所同 地頭三人云々」トアリ。全文ハ「八坂莊史料」五号ニ収ム。

八 日向守藤原朝臣某請取狀

○志賀文書  
熊本県史料中世二

○建仁元年六月廿四日。本文省略。全文ハ「安岐郷史料」一〇号ニ収ム。

九 山香郷大内ケ平四方指案

○志手トラエ文書  
大分県史料二五

山香郷内大内ケ  
平居屋敷山野堺  
ヲ注ス

豊後國山賀郷<sup>(香)</sup>内大内ケ平就居屋敷山野堺之事、鹿波石八幡あくた神の本より、大藤□ミ尾筋之儘<sup>(マ)</sup>、  
楊木のたをたち、東を限ふすへのく辻大道たち、夫より杉谷をかしわさかの横いはたち、夫より

山香郷

ならわらのめんの儘、南をかきるとの松たち、夫よりこてふきのめんのまうそうのいわゑほし石たち、西をかきるとの戸之口たち、それより幕岩之儘、鷹のくそをさるとたち権現のいわたち、北をかきるとの大戸之口、それよりミ尾筋の儘、ねひきのよこ道いははたち、それよりあまか谷のよこ道のおく、御在所たちは是也、先々之旨にまかせ、大内ヶ平彌敷次郎やぶ、まきに申與所實也、此内に違亂之輩あるましく候、仍爲後日證文、如件、

皆元久元年甲子拾月日

山賀 左衛門大夫 有判

○本文書ハ文言・内容ヨリ室町期乃至ソレ以後ノモノト推定サレ、紀年ニツイテハ検討ヲ要スルモノアルモ、シバラク記述ニ随ヒ、コ、ニ収ム。

一〇 前大僧正慈鎮讓狀案

○華頂要略 鎌倉遺文一九一四号

六郷山

○建曆三年二月 日。本文省略。「桂林院大僧正門跡讓給領」中ニ「六郷山」アリ。抄文ヲ「安岐郷史料」一二号ニ収ム。

一一 大善法寺祐清讓狀

○石清水(菊大路家) 文書六 鎌倉遺文二六八九号

所領以下ヲ弟子宝清等ニ讓ル

讓與

處分 弟子修理別當法眼實清事等

山香莊

彌勒寺領（始清自惠）棟清一期之後、實清可補當寺檢校也、仍書付之、

山鹿郡 泉本庄肥後國 大野井庄豐前國

京郡 荻田庄同國 （遠見郡）山香庄豐後國

正八幡宮領

三躰堂 上小河

栗野南北兩村

私領鎮西

三箇社在文書

因幡國

（邑美郡）龍房庄在文書殊奏聞、令立券、

攝津國

（能勢郡）木代庄領家并預所職

宮原田參町內 一丁丈六堂寺用新  
一丁海住山本堂二令寄進了、

所々房舍

略○中

右、庄々并屋地等、讓與實清也、將來更不可相違、男女兄弟一門親類向後不可致濫妨、仍爲證文、書此狀、令讓之狀如件、

山香郷

承久二年十二月十日

石清水八幡宮寺檢校前大權僧都法印大和尚(祐清)(花押)

○紙継目毎ニ祐清ノ裏花押アリ。

二 檢校祐清(?) 讓狀

○石清水文書一  
鎌倉遺文二六九七号

○承久二年十二月 日。本文省略。「修理別當法眼」分ノ「弥勒寺正八幡宮領庄々」中ニ、「山香庄豊後國」アリ。全文ハ「八坂荘史料」七号ニ収ム。

三 六郷山諸勤行并諸堂役祭等目錄寫

○長安寺文書  
豊後高田市大字加礼川

津波戸石屋水月寺

○安貞二年五月 日。「本山分」ニ「津波戸石屋」(水月寺)アリ。「安岐郷史料」一七号ニ収ム。本文省略。

四 大友寂秀親讓狀

○大友家文書録  
大分県史料三一

相伝所領ヲ三男  
観音丸ニ讓ル

讓與  
相傳所領田島所職等事  
在

豐後國 田北村地頭職 (山香郷) 日差庄地頭職

肥後國 味木庄内、一樂・眞萬・秋永名地頭職 付、稅所公文・國侍所司職  
津守木村等

豐福庄内、久具十郎・同三郎領 付燒米小藤  
次名 地頭職

大友能直ノ讓  
大番役ハ惣領ノ  
支配

右件、所領田畠、所職等者、得親父故豐前々司能直朝臣之讓、無相違所領掌也、仍分讓男女子息等之内、所讓與三男觀音丸也、無他妨、可領知、但於關東御公事并大番役者、隨所領之分限、守嫡子之支配、可令勤仕、惣兄弟互可相思也、若背嫡子之命者、件所領等者、可令嫡子進退領掌、又無相違儀者、不可致妨之狀、如件、

嘉禎二年三月十七日

(大友親秀・家秀)  
沙彌 在判

(文書録注)  
「右書稱沙彌者、則親秀也、按親秀、此時、未剃髮、然委。家督。時、已得法名、而如授子弟此書者、書沙彌、亦不可識焉」  
於奉直

### 一五 家田實清處分狀

○石清水(菊大路家)文書六  
大日本古文書

#### 〔瑞雲寺〕 「實清處分狀」

所領等ヲ弟子宮  
清ニ処分ス

讓與

處分 弟子權別當權少僧都宮清事等

彌勒寺領

泉本庄肥後國

大野井庄豊前國

山香郷



山 香 郷

山香庄

茹田庄同國

山香庄豊後國

秋月依井庄筑前國  
自母堂手讓得之

正八幡宮領

○中略

右庄々并敷地房宇等、先師讓給之、此内母堂二箇處讓給之、各可傳于子々孫々之由、具于御讓狀也、而相副次第證文等、所讓與于宮清也、將來敢不可有他妨、此庄々内木代庄并荒田庄者、女房一期之間讓與之、不可致其妨也、仍爲後日證文、書此狀、讓與之狀如件、

仁治三年九月廿五日

石清水八幡宮寺別當前權大僧都法印大和尚位(實稱)(花押)

一六 法印某書狀

○蓬左文庫藏齊民要術第八裏文書  
鎌倉遺文一一五九一號

山香庄本郷下司職ヲ大友頼泰押  
妨ス  
三箇度問注記ヲ  
引付ニ出ス

□(八幡カ)宮寺所司等申、宇佐彌勒寺□(領カ)豊後國山香庄内本郷下司職□田等、爲大友出羽前司頼泰朝臣□(不乙)叙用 綸旨、致押妨及狼藉間事、□(辨カ)狀案(副具書)進覽候、此事、就文永□年關東御教書、遂複問候了、(詞カ)件申□記自六波羅御注進候云々、以三箇□問注記被出御引付、可被經御沙汰旨、所司等令申候、御沙汰之時、□(可カ)得御意候哉、委旨、雜掌所司□(可申カ)候、恐々謹言、

八月十日

法 印 (花押)

謹上 (金沢実時)  
越後守殿

一七 後善法寺宮清處分帳

○石清水(菊大路家)文書六  
大日本古文書

(端裏書)  
「處分帳文永十二七」

處分目錄事

權別當尙清

彌勒寺正八幡宮喜多院檢校職

彌勒寺領

彌勒寺領  
山香莊

山香莊 大野井庄

菊田庄

正宮領

栗野南北

荒田庄 母堂一期之後、長清可知行之由、雖書遺狀、不孝之上者勿論也、母堂一期之後者、尙清可領知也、

別神領

瀧房庄 同宮、永保

木代庄 母堂一期之後、長清可知行之由、雖書遺狀、不孝之上者勿論也、母堂一期之後者、尙清可領知也、

山香郷

山香郷

三箇社 大交野雖寄附善法寺、所詮尙清可相計也

藤和田園 野御供田

阿波國三野田保

所々屋々敷田畠等

略○中

文永十一年七月 日

(管漕) 法 印 (花押)

一八 豊後守護大友頼泰施行狀寫

○長安寺文書 豊後高田市大字加礼川

○年月日未詳。全文ヲ「安岐郷史料」二四号ニ収ム。本文省略。

一九 某施行狀寫

○長安寺文書 豊後高田市大字加礼川

○弘安七年三月廿五日。全文ヲ「安岐郷史料」二五号ニ収ム。本文省略。

三 豐後國大田文案

○平林本  
鎌倉遺文一五七〇号

○弘安八年九月晦日。速見郡全文ヲ「八坂莊史料」一六号ニ収ム。本文省略。

三 豐後國圖田帳案

○内閣文庫本  
鎌倉遺文一五七〇一号

○弘安八年九月晦日。速見郡全文ヲ「八坂莊史料」一七号ニ収ム。本文省略。

三 田北某文書預ケ狀

○大友家文書録  
増補訂正編年大友史料三

沙汰ノタメ文書  
正文ヲ預ク

爲御沙汰、預置候御文書正文事

一通 將軍家御下文寛元四年十一月廿八日

一通 惣領施行狀 (大友領卷) 同年同月廿九日

一通 定家狀 永萬二年七月日

日差村年貢送文

六通 日差村年貢送文 (山香郷) 年號月日狀文在之、

一通 大炊助入道殿御讓狀 (大友領卷) 嘉禎四年三月十七日

山香郷

山香郷

一通 大炊判官代殿御讓狀 (北籍卷)

一通 尼佛照消息狀同文永五年九月十一日

右所、預給之狀、如件、

三 善法寺尙清處分帳

○石清水(翁大路家)文書六  
大日本古文書

所領所職ヲ處分  
ス

處分 目錄事

一 權別當肇清分

彌勒寺正八幡宮喜多院檢校職

一 宮一若分 (入江通清)

坊領

坊領事

黒戸 板浪 佐野 繼庄 船曳

大交野 高井田 木代 大峯 於福

瀧房 宮永 左京大夫局知行一期之  
後者可返宮一若也、 野御供田 山家郷

本山 鹿忍 塚 小保 淡路庄

藤輪田 同屋々敷并別相傳  
御馬新田 三野田 石太別宮 垂井領同堂若林

彌勒寺領

彌勒寺領事

白野・竹田津・  
岐部・由布・姫  
嶋・山香

向野 山下 下毛 池尻金國 菊丸丁、

入學寺 養父 成道寺 河合藤丸 千栗

日置 白野 竹田津 岐部 由布

姫嶋 大野井 山香 天丘山 山田

西寶塔田 津布佐棟實法印一期之後可付惣領

○以下正宮領事、御祈所事、  
所々屋々敷田島事等中略。

右所藏庄園田島已下、任處分之旨、可令相傳領掌、肇清一期之間者、彌勒寺喜多院檢校職致其沙汰、一期之後者、宮一若可相傳領掌、宮一若五歲ニテ令申補祠官、可爲正八幡宮檢校、不補祠官之間者、兩職肇清可致其沙汰、但若肇清向背宮一若、令成敵對者、彌勒寺檢校、宮一若補祠官之後者、可爲彼沙汰、男女子息皆相馮宮一若、可蒙扶持也、若此外有書漏庄園田島等者、同宮一若可進止、於背此置文之子息者、永可爲不孝子之狀如件、

永仁五年六月 日

(善法寺尚書)  
法印(花押)

### 二四 壽聖寺方預所聖淳契約狀

○工藤隆弘文書  
大分県史料一一

山香庄広瀬村領  
家方避渡ス田地

(山香庄方)

廣瀬村領家方被避渡田地

領家年貢、并未來貢代(今) 四段坪付別紙在之 并山野屋敷 方領家分壽聖寺八幡兩方

山香郷

宇佐宮本役

□□者、於彼田地等者、爲領家一圓□□、但於宇佐宮本役者、隨于公田□□沙汰也、

□□領家方可引之也、

□□事

□□仁領家方百姓等牛馬飼場、不可□□

□□、若此内、雖爲一事、有違亂煩者、□□之狀、如件、

□□年卯月 日

壽聖寺方預所聖淳（花押）

○年未詳。シバラクコ、ニ収ム。

三五 彌勒寺領諸莊供米注文

○永弘文書  
大分県史料三

○年未詳。全文ハ「八坂荘史料」二七号ニ収ム。本文省略。中ニ「山香庄 石丸四斗 立石倉成四斗 弘瀬□□」トアリ。

三六 貫井堂國東塔銘

○大分の石造美術  
速見郡山香町大字野原字貫井

上妙國東塔ヲ造  
立ス

（梵字了）

延慶三年庚戌 四月廿九日

□沙彌上妙

(梵字ア一)

(梵字アン)

(梵字アク)

三 鎮西北條下知狀

豊前國宇佐郡  
樋田中心所藏

○樋田文書  
大分県史料三〇

葛原郷ノ田地ヲ  
神領興行ノ法ニ  
ヨリ神官並頼  
ニ返付セシム

宇佐宮神官並頼申、豊前國葛原郷田壹段號大坪事

右件田地者、一圓神領並頼相傳之地也、而豊後國日差庄住人三郎男妻知行之上、任興行之法可被糺

返之由、帶對馬前司公世舉狀訴申之間、去年十二月四日、仰阿波四郎入道素佛、被下召文之處、如

素佛今月五日請文者、雖相觸、不及散狀云々、起請之詞者、違背之科難遁、然則於彼田地者、所被付

社家也者、依仰下知如件、

正和二年二月廿二日

前上總(北条政頼)介平朝臣(花押)



二六 沙彌願念土貢公事足納所證狀

○長野康雄文書  
大分県史料一

(山香郷)  
廣瀬參町之内、參分一九段小兩畑田畠浮免田地居屋敷、土貢公事足諸所納夫仕之事

山香郷広瀬村内  
ノ地ニ対スル土  
貢公事定夫役ヲ  
注ス

一草場屋敷壹貫文之納所、麥納所之時者八斗、一月分日公事十八日、五節之酒壹升取、牛馬用序次第、雉子一、何茂同也、

一大河司屋敷壹貫貳百文、麥納所之時者壹石定、月別公事十八日、師馳也雉子一、五節酒壹升取、牛馬雇用序也、

一鷹取屋敷壹貫貳百文、是者請錢振也掖動之時者、人足飛脚之間、五節出仕、正月圓鏡三升取壹枚、

領内人數用序時雇用次第也、

一貴布禰園納所一年分三也文足十二日、人足仕、三節酒取也、

一山本專道屋敷七百、納所八日、人足任也仁、酒何毛同、

一   人足、秋二反貳百五十加地子、

一 上田平壹月分六日人足仕、秋二反二百五十納、同酒取也、

一 正園屋敷二百五十、料足六斗、麥納所一月分十七日、人足師馳三、雉子一、三節日酒取、牛馬

雇時任用序、

一 永   六百、納所一月分十三日人足仕、三節日酒、同牛馬、

(富道古屋敷)

田島亮代

一下永島五百、納所其外者如上云々、  
 一堀内三百五十、納所一月分六日、人足仕、三節日酒、同牛馬、  
 一正屋島三百文、納一月分六日、其外何モ同、  
 一田島賣代之次第、一井尻五段二貫二百、一外長田三段待堀、合貳貫六百文也、一草庭三段口八八  
 百・中六百・尻五百文、

小重見名

一井手上□、同鳥帽子邊四百文、一大之田四百文、同待堀百五十、  
 一外宇津二段分八百文、一松木二段尻三百五十・口三百、  
 一土坪二段六百、楠木之本三百五十文、一踏坂三百文、  
 一小重見名土貢諸納所以下次第、同田島等圖田有、  
 一月分人足十五日、旅長夫一人、米貳石四斗、貳貫四百、三斗六升麥、今ハ五式蒔、用作□貳  
 段作上、三月麻七八斗、以三升五合、薪廿五駄、炭八籠、高三尺三寸、口一尺三寸也、麥押入酒  
 米六升、三月三日葛袋一、同酒一升、五月二日暑預寸一、同酒壹升、田面蕨袋一、酒一升、日仕  
 之人足任用序、正月八日蕙薄一駄一荷、疊裏薦七重、但可依用序、雉子一番、五升取御鏡一、其  
 外節々時々隨用少公事無盡期、  
 一高屋牛滿名土貢諸納所以升事(下九)

高屋牛滿名

一月分人足十五日振長夫壹人、米貳石四斗、貳貫四百、麥三斗五升、五斗□用作島地貳段作

山 香 郷

上、二月麻七(斗入カ)入斗以三升五合、三月廿日葛袋一、薪廿五駄、炭八籠、高三尺三寸、口一尺三寸、  
(夏委)夏押入酒米六升、五月五日暑預□一、同酒壹升、田面蕨袋一、酒三升、日仕之人足任用序、正月  
 八日蕪薄壹駄一荷、疊裏蕩(マ)七重、但可依用序、雉子一番、五升取御鏡一、其外節々之時之隨用、  
 少公袁無盡期者也、右件爲後日證文之也、

沙彌願念(花押)

文保伍年八月十一日

三九 豊後國々宣寫

○工藤勲文書  
大分県史料一一

繪旨ニ任セ山香  
郷広瀬村地頭職  
ヲ沙汰セシム

豊後國速見郡之内、山香郷廣瀬地頭職(宮内少輔治時跡)三分貳・跡(同)三分壹、工藤九郎政春等爲勳功賞拜領、任  
 繪旨趣、早莅彼所、可被沙汰於庄家給之由、國宣所候也、仍執達如件、

(正申ノ誤カ)  
元久二乙丑年二月廿八日

長 兼(花押影)

工藤九郎殿

○乙丑ハ正中二年カ。本文書検討ヲ要ス。

三〇 豊後國々宣

○工藤隆弘文書  
大分県史料一一

山香荘内広瀬村  
地頭職ヲ安堵ス

(花押)

□孫太郎直致申、(藤原) □國山香庄内廣瀬村地頭(職事)、如所進文書者、當知行(無相) □違歟、早任宣旨

狀、可全(知行之狀カ)、國宣所候也、仍執達如件、

□弘二年十二月十六日(元)

散位長兼 (花押)

□後國御目代殿(豊)

三一 藤原直致著到狀

○志手文書  
大分県史料一二

(裏打紙葉筆端裏書)  
「藤原直致着到狀」

□月廿五日武藏修理亮英時以下(北卷) □誅伐之間、豊後國山香庄廣瀬村地頭内田□郎致郷、

北奈英時誅伐ノ  
合戦ヲ致シ子息  
直致着到ス

屬大將軍大友近江入道具簡下、(貞徳カ) 致合戦、預一見證狀畢、仍子息孫太郎□致馳參候、以此旨、可有御

奏聞候、恐惶謹言、

元弘三年九月 日

(工藤)  
藤原直致上

「尊氏 (花押)」  
「 (花押)」

山香郷

山香郷

進上 御奉行所

三 本篠板碑銘

○大分の石造美術  
速見郡山香町大字山浦

了妙・妙阿板碑  
ヲ造立ス

右志者、爲沙彌了妙・同妙阿現

(梵字キリク) 建武<sup>成甲</sup>元年四月四日願主

當二世悉地成就也、

三 後醍醐天皇綸旨

○古文書彙  
南北朝遺文四四号

山香郷広瀬村地  
頭工藤致郷ノ當  
知行ヲ安堵ス

豊後國山香郷廣瀬村地頭職、内田工藤九郎致郷當知行、不可有相違者、  
天氣如此、悉之、以狀、

建武元年五月一日

式部大丞(花押)

三 御代官家繼奉書

○松田文書  
大分県史料二一

園木狩倉弁濟使  
職ニ補任ス

原村惣領園木狩倉事

右狩倉辨濟使職者、所充補于六太郎・平三郎也、早存知其旨、色々御公事等、無懈怠可令勤仕之由、依仰狀如件、

建武三年三月三日

御代官家繼（花押）

三 六郷山本中末寺次第并四至等注文案

○永弘文書  
大分県史料三

○建武四年丁丑六月一日。全文ハ「安岐郷史料」六二号ニ収ム。本文省略。「本山」中ニ、「<sup>(C)</sup>津波戸山拂、料田山野等四至以下、院主相傳證文爾明白也、當寺領薫石以下拂門少々河野四郎押領、」トアリ。

三六 工藤致郷著到狀

○長野康雄文書  
大分県史料一

入田氏蜂起ニツ  
キ奉書ニ從ヒ着  
到ス

豊後國山香庄内廣瀬村地頭工藤九郎<sup>(父親)</sup>申、依入田左衛門藏人・同新藏人已下凶徒等蜂<sup>(子シ)</sup>被成<sup>(事カ)</sup>御奉書候之間、則馳參府中、被<sup>(行カ)</sup>著到、就同十二日重御奉書、馳向入田軍<sup>(陣カ)</sup>、早下賜御拜、欲備<sup>(備カ)</sup>後日龜鏡候、以此旨、可有御披露候、恐惶謹言、

建武四年十二月五日

「承候了（花押）」  
<sup>(戶次頼時)</sup>

山香郷

○(一)内ハ『増補訂正編年大友史料』五ニヨリ傍注ス。

三 上市寶塔塔身銘

○白井昭一調査記録  
速見郡山香町大字内河野字上市

建武五年 戊寅  
八月日

沙彌

○『大分の石造美術』ト校合シ、異ル所ヲ(一)内ニ傍注ス。現在相輪・露盤ヲ欠失シ、塔身ハ壺形ノモノ。同年八月廿八日曆應ト改元サル。

三六 古殿名四至榜示境案

○河野廣文書  
大分県史料二六

古殿名四至傍尔境事

- 一所さんや、畠分西畑之内、つはきのひら、<sup>(こか)</sup>□さこのほり、西ハおすちのなかのみちを<sup>(か)</sup>□きるなり、
- 一所つゑかひら、畠下ハたつのはな本つほのせまち一ニさかう也、
- 一所居屋敷まはり、北ハよこみちのとうり、東ハみをすちのミちとうり、南ハ同ミちとうり、門前  
のまちほり口のせまち三にかゝる也、
- 一所あいかさこの畠下ハ、ほきのくすの木にさかう也、

大神惟貞古殿名  
ノ四至榜示境ヲ  
注ス

皆歷應肆年<sup>(應)</sup>巳九月廿九日

大神惟貞 在判

三九 志賀賴房言上狀

○大友家文書錄  
大分県史料三一

志賀賴房恩賞不足分ヲ愁訴ス

志賀藏人太郎賴房謹言上、

欲早依海道・京都・鎮西御共、豐後國玖珠城、筑後・肥後・日向凶徒退治已下所々合戰、就自身兩度手負、親類若黨郎從數輩討死・手負・分捕・生虜等功勳、預御吹舉、言上于京都、申達不足分愁訴、備末代弓箭眉目、賴房恩賞地豐後國山香庄內船尾參町<sup>(狭)</sup>拔少事

山香庄內三町ハ狭少ナリ

副進

一通 御下文 建武三年四月七日

一通 惣領御方御一見狀<sup>海道・京都已下戰功事</sup>

右、賴房依有御方之志、去建武二年十二月馳參開<sup>開</sup>東之刻、同廿一日於美濃國春木宿、行合凶徒洞院左衛門督家<sup>于時仙道大將</sup>手、嶋津兵部充、御方軍勢等、各擬令退治之時、生<sup>虜</sup>若黨刑部左衛門尉、參海道宮宿以來、屬惣領御手、負<sup>責</sup>落近江國伊岐代城、於大渡橋上并京都四條河原、兩度賴房自身被疵、<sup>(或分)</sup>捕・生虜及數ヶ度、家子若黨已下討死手負之條、亦以數輩也、隨而落<sup>(中)</sup>中所々合戰、自身乍被疵、雖爲一箇度不相漏抽戰功、致丹波路并鎮西御下向之御共、給御教書、發向豐後國球珠城、追落賊徒、肥後・築後・日向已下合戰勳忠節、至功既拔群之條、御教書并諸大將一見狀・注進狀等明白

山香郷



也、而建武三年四月、以船尾爲恩賞被送下御下文於玖珠城之條、面目之至先以雖畏存、彼地僅參町、所出亦貳拾餘貫文、（以カ） 妊弱之至、還而似矢弓箭之名望、賴房雖爲不肖身、爲大友庶子一流之家督、率親類家僕等、叶每度御大事之上、如承及者、以自身手負鎮西御共、殊被賞翫歟、賴房云分限、云軍忠、強不相劣于傍輩哉、爰勘見諸人之抽賞、當家一族等之中、分限至忠雖不羸于賴房、蒙莫太之恩祿、始而立身興家之類多頭在之、將又日田・佐伯・合志・河尻・松浦已下九州國（人カ）等、各預過分褒賞開眉畢、何況賴房爲大將軍（御務カ）□□護、一族一方棟梁也、爭可被超越于傍人哉、而浴參町恩澤之條、殆末代瓊瑾也、此等子細不違于具註、且預京都御吹舉、且被相副御雜掌、尤被加撫育御扶持、可申達恩賞不足之愁訴哉、就中今爲讎敵追討、有發向于肥州歟、賴房亦最前馳向、可勵戰功之士者、（カ） 理訴爭無御憐愍哉、尤達微望、欲成武畧之勇矣、仍粗言上如件、

康永元年九月 日

山口板碑銘

○大分の石造美術  
速見郡山香町大字内河野字山口

（梵字了）

別時  
 乙酉 康永四年  
 別時 講衆  
 敬建 八月彼岸  
 日中

別時講衆板碑ヲ  
造立ス

四 田北氏所領文書目錄

○田北一六文書  
大分県史料二五

(裏打紙端裏書)  
「目錄合」

豊後国田北村・  
日差村

目錄 (直入惣) (山香郷)  
豊後国田北村・同国日差村・肥後國味木庄内秋永名  
河内國東條中村并西郷三郎二郎入道跡事

合

二通 關東御下文内 寛元四十一月廿八日  
文永八年九月十六日

三通内

(天友) 親秀讓狀  
(田北) 親泰  
(田北) 頼元

嘉禎二三月  
文永六年六月六日  
永仁三年三月十八日

一通 一領 安堵繪旨建武元年四月三日

一通 大友兵庫入道施行 寛元四年十一月廿九日

二通 河内國東條中村安堵御下文

嘉禎三年六月三日  
寛元三年三月廿七日

一通 義村給御下文内 東條中村地頭職事

承久三年十一月十四日

一通 讓狀

仁治二年 辛丑十一月十八日

平氏女讓狀

二通 田地坪付以下事

仁治二年十一月十八日

一通 大友兵庫守去狀

弘長二三十

一通 三條殿 御教書

(足利直義) 建武二十一二

二通 將軍家 御教書

建武三年二月八日  
同年三月十三日

山香郷

山 香 郷

二通 一色右馬助入道御教書并事書建武三年七月十二日(續行)

同年同月同日

一通 同右馬助入道一見狀 建武三十一廿二

一卷 一色少輔太郎入道御教書以下(範氏、謙敬)

一通 將軍家 外題安堵建武三年二月七日

以上三十二通

右、同文狀如件、(注九)

貞和二年正月十四日

四 光智・家弘連署書下

○松田文書  
大分県史料一

田畠山野ヲ 六太  
郎ニ宛行フ

右田畠山野等者、六太郎□(註)宛給之處實也、他さまた□(註)なく、りやうしやうすへし、但於御公事御ねんく成物者、せんれいにまかせて、可致其沙汰、仍御かき下如件、

貞和參年五月十六日

家 弘 (花押)

光 智 (花押)

○五四号 (貞治七年□□) 文書参照。

相伝所領ヲ嫡子  
氏房ニ譲ル

山香荘内船尾

自余男子女子ハ  
一法師丸扶持ス  
ベシ

秦重吉等三重塔  
ヲ建立ス

### 三 志賀頼房讓狀

○志賀文書  
熊本県史料中世二

讓與

相傳所領豊後國大野庄志賀村南方・同庄下村泊寺、同國笠和郷勢久世宇屋敷并鹽濱、同國山香庄内船尾、筑前國三奈木庄恩賞地以下所々地頭職等事

右所領等者、相副代々相傳證文等、限永代、所讓渡于嫡子一法師丸也、無他妨可領知之、於自餘男子女子者、一法師丸相計可扶持也、仍讓狀如件、

貞和四年正月十一日

(志賀)  
源頼房(花押)

### 四 辻小野觀音堂石造三重塔銘

○大分の石造美術  
速見郡山香町大字内河野字辻小野

秦重吉

勸進忠昨大徳

貞和四年戊子二月下旬岸彼

願主覺佛逆修

工巧上阿

山香郷

皇 藤原直致讓狀案

○工藤隆弘文書  
大分県史料一一

(端裏書)  
「直致狀案文」

ゆつりあたふ、ふんこの國山香庄(広瀬村)ひろせのむらの内、田はくさんやらの事

一所うゑまつをの田はくくわうや(さかいハうゑ松をのミをたて)

一所うちなかたのみちより上貳反

一所すとうやしき四反(音藤屋敷)

一所ほことりのくちのより五反

右かのところハ、ちうたいさうてんのところたるを、おかちくわん(願)ねんのゆつり狀をたいして、ちきやうするところなり、しかるを心さしふかくおもふによて、(増法師)ますほうし丸ニ、(惣願)そうりやうしきをとらするなり、又くわんねんのゆつり狀にも、ひろせのむらの(惣願)そうちとうしきを、直致ニおもひあて候へきよし、申をかれて候へハ、(後)ますほうし申てちきやうすへき也、(軍)たゝいまくんちんニ、うちいつるあいた、おもふるほとかきおかす候、よてこうしよのためニ、ゆつり狀如件、

貞和四年五月二日

藤原直致 在判

(裏書)  
「以正文承了、」

(花押)

山香庄広瀬村ノ  
地ヲ惣領増法師  
丸ニ讓ル

広瀬村ノ惣地頭  
職ヲモ申テ知行  
スベシ

軍陣ニ出立

(花押)

(花押)

(花押)

(花押)

吳 甲尾山上石塔塔身銘

○大分の石造美術  
速見郡山香町大字野原甲尾山上

毘沙門講衆宝篋  
印塔ヲ造立ス

毘沙門講衆

勸進

貞和<sup>〔五〕</sup>己二月廿一之立

□□<sup>〔母〕</sup>□□<sup>〔父〕</sup>  
□□<sup>〔母〕</sup>□□<sup>〔父〕</sup>

○『大分県金石年表』ト校合シ、(ハ)内ニ傍註ス。

四七 平田泰直讓狀寫

○田北一六文書  
大分県史料二五

(裏打紙端裏書)  
「相傳所領てんはく所職等事 貳通」

讓與 相傳所領てんはく所職等事

相傳所領田皇所  
職ヲ嫡子氏直ニ  
讓ル

山香郷

山 香 郷

在 かはちの國東條中村西方 地頭職

直入郡田北村

ふんこの國田北村(直入郡)女房并 地頭職

日差村

同國ひさし(日差)の村女房并 地頭職

肥後國あまきの庄内しんまん・秋永・つかきのむらちとうしき、つれたり、さい所のくもん、く

にさふらひの所司以下所職

同國とよふくの庄内(マ)くミの十郎三郎領つきたり

やいこめのことうしか名 地頭職

をんしやうの地

肥後國きくちの西郷三郎次郎入道跡

豊前國田有原村 ちとうしき

右件の所領てんはく所職等者、親父大炊又太郎入道賢、并(本)領主ほんりやうしゆらか讓をえて、さうゐなく、りやうしやうせしむる所也、仍嫡子孫太郎氏直ニ、なかくゆつりあたふる所也、かつハそへわたす所の次第證文、代々關東御下文等ニまかせて、たのさまたけなく、りやうちすへし、御公事ニおいてハ、所領分限ニ隨て、きんしせしむへき也、たゞし、かくのこことくゆつりあたふといへとも、若子息なくハ、舍弟とよ松丸、彼所々を知行せしむへき也、兼又女房れんミンをなし、兄弟等たかひニ見はなたす、あひおもふへき狀、如件、

子ナクバ舍弟とよ松丸知行スベシ

觀應三年九月廿日

(田北)平泰直 (花押影)

〔此狀披見候畢、

(大友氏時)  
刑部大輔 (花押影) 〕

拾壹通

右ハ立花左近將監公家頼、田北清兵衛方へ預置申候、則彼仁方、御書之寫此方ニ扣置也、清兵衛方之御書物裏書之事

此本書、此方ニ預リ置申候處如件、但各棟御親父三右衛門尉殿、我等親次郎兵衛事、一腹百姓之兄弟ニより、

### 四八 足利直冬寄進狀案

○防府國分寺文書  
萩藩關閣錄四

〔寄附 周防國々分寺〕

周防國分寺ニ山  
香郷内日差村ヲ  
寄進ス

豊後國山香庄内日差村田北太郎跡

右、天下擾亂之刻、軍陳損命之輩、爲彼追善、所奉寄之狀、如件、

正平九年三月廿六日

(足利直冬)  
左兵衛佐源朝臣 御判

○(ハ)内ハ『増補訂正編年大友史料』七ニヨリ補フ。



兎 沙彌ちやうをう讓狀案

○工藤隆弘文書  
大分県史料一一

山香郷広瀬村ノ  
地ヲ工藤三郎ニ  
讓ル

〔鑑裏書〕

「御とう□給候ゆつりのあん」

ゆつりあたふ、ちうたいさうてん所りやう、(豊後 国 山 香 郷 廣 瀬 村)ふんこのくにやまかのひろせのむらのうち、てんちやしきさんやらの事

一所うしけミのてんはくやしきさんやらの事

一所こほうし

一所たかやてんはくやしきさんや之事

一所たうかうし

一所大の田 同つゝきのほかなかた

一所同みちよりしも } 同一所 かみつ五反

一所いしり反(マ)同一所まつの木二反

一所中のつほ一反

一所中そのみちよりかミのはたけの事

ひんかしをかきる大ミち、きたをかきりとしのかみ神てんはたけ、にしをかきるうちなかた、みなミをかきるせミち、

右の所りやうハ、ちうたいさうてんのちなり、いまにおいてハ、くとう三三〇〇(前掲カ)ゆつりあたふるところなり、くはう御くうしニおいてハ、ぶんけん(分 眼)ニしたかいて、さたをいたすへし、野山川ニおいてハ、たかいニわつらいを(以下專)「なすへからす、もしこのむねを(分)巳ものあらハ、そのあとを申給はるへし、よてゆつり狀如件、

正平十二年十一月三日

しやみちやうをう (沙 夢) 在判

五〇 小武寺五輪塔水輪銘

○大分県金石年表  
速見郡山香町大字小武

正平十三初冬下旬、

○水輪ノミヲ存ス。タツシ『大分の石教美術』ニハ梵子「キリク」「タラーク」アリトスルモ、今見エズ。

五一 小武寺五輪塔水輪銘

○大分県金石年表  
速見郡山香町大字小武

沙彌「近賢逆修建之、」

正平「拾三〇〇下旬」

○『大分の石造美術』ト校合。現在、「」内ノ部分ハ欠落スト。

逆修ノタメ五輪  
塔ヲ造立ス

山香郷司職一王丸名ハ守護領

三 大友氏時當知行所領所職等注進狀案

○大友文書 大分県史料二六

○貞治三年二月 日。本文省略。「山香郷司職丸名」アリ。全文ハ「安岐郷史料」六九号ニ収ム。

三 下山方錐柱狀碑銘

○大分の石造美術 速見郡山香町大字山浦字下山

右覺<sup>(位)</sup>・覺阿爲逆修<sup>(信)</sup>

逆修ノタメ方碑ヲ造立ス

貞治五年丙午十一月旬中

○『大分縣金石年表』ト校合、ハ内ハ同書。

五 某宛行狀

○松田文書 大分県史料一一

宛行<sup>(口)</sup>

豊後<sup>(口)</sup>

<sup>(山香郷)</sup>六太郎畑田畠屋敷等事

右、於田畠屋敷<sup>(口)</sup>野等<sup>(口)</sup>

<sup>(口)</sup>相傳辨濟司職也、令<sup>(口)</sup>

<sup>(口)</sup>、於御年貢齋<sup>(口)</sup>

<sup>(口)</sup>可令勤仕也、仍<sup>(口)</sup>

六太郎畑田畠屋敷弁濟司職ヲ宛行フ

貞治七年

五 小谷國東塔銘

○大分の石造美術  
速見郡山香町大字内河野字小谷

國東塔ヲ造立ス

應安五大歲  
壬子九月八日

一結講衆

大法師圓（延）□

大法師圓豆

沙彌道□

大神惟永

大神惟三

沙彌永徳

沙彌光心

藤原惟久

□（宗）繼

孫太郎

佐藤四郎

山香郷

山 香 郷

孫三郎

正佛

上圓

願主大法師圓泰

大檀那比丘尼正鐵

大法師永秀

大勸進長(生)

癸 西中尾三社八幡社寶篋印塔銘

○大分県金石年表  
速見郡山香町大字野原字西中尾

宝篋印塔ヲ造立  
ス

應安六癸丑三月七日、大(勸進)

圓西、(大願志)

觀、(五)

大工智安、(安)

○望月友善『大分の石造美術』二八「應安六癸丑三月七日(五)大工(安)智安」ト見ユ。

壬 豊後國花嶽合戦手負注文(折紙)

○入江文書  
大分県料史二〇

(奥筆)  
「御感可有候歟、」

(山香郷)  
花嶽合戦(田原)氏能手物共手負注文

田原氏能花嶽合  
戦手負注文ヲ進  
シ一見ヲ請フ

木付六郎五郎左ヒサ

帶刀中務左アシ

加禮河刑部房左ウテ

萱嶋六郎四郎ウチキス

竈門彦次郎左ウテ、同方カタ

同彦三郎カシラ

枝元小次郎チノシタ

市丸彌次郎右アシ

倉地彌三郎カシラ

成吉民部亟右ヒサ

辻間孫太郎ウチモ、

松尾七郎ヒタリノカタ

(以下折返シ)  
秋吉三郎五郎チノシタ

同三郎次郎ハラ

小垣原左衛門次郎モトクヒ

加禮河彌五郎カシラウチキス

以上十六人

山 香 郷

山 香 郷

今川了俊証判ヲ加フ

了俊自筆  
「一見候了、」

尤神明也、

(今川了俊)  
(花押)

仰出候、」

○応安七年九月六日田原氏能、速見郡花嶽城ニ南軍ヲ攻メテ、之ヲ陥ル。

五 今川了俊貞感狀寫

○入江文書  
大分県史料一〇

山香郷花嶽合戦ノ功ヲ賞シ豊前ニ帰陣馳走セシム

自最前、於豊前被致御忠候ニ、結句豊後花嶽合戦御高名、目出候、殊更不日ニ馳歸豊前、又御在陣

候、重々事候、とても其國『被入功候上者、相構高畑事、口々御沙汰候者、可目出候、恐々謹言、

應安七年到來候、  
九月廿二日

(以下礼巻)  
(今川了俊)  
了俊 (花押影)

田原下野守殿

(氏巻)  
此御感狀虫喰申ニ付、書寫置者也、

五 田原氏能軍忠狀

○入江文書  
大分県史料一〇

田原下野權守氏能軍忠事

北浦部花嶽攻メ  
ニ於テ親類若党  
負傷

今川了俊証判ヲ  
加フ

論所地ハ押ヘラ  
ルベキ由沙汰落  
去セシヲ報ズ

依宇都宮常陸入道謀叛、霜臺御發向之間、急速可馳參之旨、依仰下、不廻時日、令參陣、自去二月

廿三日、於豊前御陣令堪忍、連日野臥合戰之時、親類若黨每度被疵畢、爰去八月廿八日夜、豊後國

凶徒忍上同國北浦邊花嶽、構城壑、塞豊後・豊前兩國通路之間、事延引者、依可存天下之御大事、

自惣領大友方、就度々之注進、可馳向彼城之由、以霜臺御意、不日罷向彼在所、去九月六日曉、押

寄當城花嶽、散々致合戰、親類若黨數十人、雖被疵、同日對治仕、不移時剋、令城并歸陣、致宿直

之處、同廿五日沒落高畑城之間、致霜臺御共、馳參當御陣八町嶋、所々御勢仕以下、致宿直之段、

顯然之上者、預于京都委細御注進、申賜御感御教書、爲備後代龜鏡、粗言上如件、

應安七年十月 日

〔証判〕  
〔承了〕〔花押〕

### K0 吉弘了曇輔書狀

○工藤隆弘文書  
大分県史料一一

御狀委細承候了、抑懸御返事可申候處、めんくニ談合仕候ほとに、于今延引候、兼又御申事、先  
立論所地をハ、おさへられ候へき由、御沙汰落居候了、其外ハおさへられへきなとゝは、仰られず  
候由、承候、每事期後信候、恐々謹言、

六月五日

了曇  
(吉弘直輔)  
(花押)

ひろせの六郎入道殿  
御返事

山 香 郷



六二 田原氏能軍忠狀

○入江文書  
大分縣史料一〇

田原氏能軍忠  
上申シ証判ヲ請  
フ

田原下野權守氏能申所々軍忠事

○中略

一、同七年正月廿三日、城井常陸前司入道依謀叛、彈正少弼殿御發「向之間」不廻時日、馳參城井

御陣、致夙夜忠勤、諸方御勢仕并連日野伏合戰以下、每度勵戰忠、親類若黨數輩被疵之次第、大

將霜臺度々預御注進者也、同八月廿七日、凶徒取上豊後國山香郷(今山見郡)花嶽、依及難儀、同九月三日馳

越彼境、同六日攻上當城、致數剋合戰、親類以下五十餘人被疵、追落彼城、同十三日歸參城井御

陣、迄于高畑城沒落之期、致忠節之條、霜臺御見知畢、

○中略

以前軍忠之次第、且預京都御注進、且賜御證判、爲備後代龜鏡、粗言上如件、

應安八年二月 日

「承了(今山了後)」  
證判  
「花押」

山香郷花嶽ノ凶  
徒ヲ攻ム

覺信等國東塔ヲ  
造立ス

三 重永國東塔銘

○大分の石造美術  
速見郡山香町大字日指字重永

勸進覺信□

永和元年乙卯十月廿三日

講衆十三人

三三 今川了俊貞世感狀紙切

○工藤隆弘文書  
大分県史料一一

包紙ウハ書  
「廣瀨五郎兵衛殿

義統」

城井陣合戦ノ軍  
功ヲ賞ス

豊前國城井陣合戦之時、抽戦功云々、尤神妙、可注進京都、彌可致忠節之狀、如件、

永和二年卯月廿九日

今川了俊  
沙彌花押

廣瀨左衛門尉殿

○包紙ウハ書ハ、別文書ノモノナルベシ。

六 市場寶篋印塔銘

○大分の石造美術  
速見郡山香町大字向野字市場

一切如來全身本躰

永和三年七月 日

五 足利將軍義滿家御教書案

○石清水八幡宮旧記抄  
鹿大史学三三

○永和三年八月二日。「八坂荘史料」七九号ニ収ム。本文省略。

四 足利將軍義滿家御教書案

○石清水八幡宮旧記抄  
鹿大史学三三

○永和四年八月十七日。「八坂荘史料」八〇号ニ収ム。本文省略。

三 堂野地藏堂板碑銘

○大分県金石年表  
速見郡山香町大字内河野字堂ノ尾

永和四年八月、時正右迎先考



六 大友親世當知行所領所職等注進狀案

○大友文書  
大分県史料二六

大友親世所領所  
職ヲ注進ス  
山香郷 立石村

○永徳三年七月十八日。本文省略。親世所領中ニ「同国山香郷 同郷立石村付鬼丸」アリ。全文ハ「安岐郷史料」七六号ニ収ム。

六 小武徳野方錐形柱狀碑銘

○大分の石造美術  
速見郡山香町大字小武字徳野

方碑ヲ建立ス

(梵字ア) 九郎二郎

(梵字アー) 永徳三年八月廿七日

(梵字アン) 字吾久利

(梵字アク) 公永氏

五 志賀氏房讓狀

○志賀文書  
熊本県史料中世二

讓與

所領ヲ嫡子鶴寿  
丸ニ讓ル  
山香庄内船尾

相傳所領豊後國大野庄志賀村南方・同庄下村泊寺・同國笠和郷勢久世宇屋敷并鹽濱・同國山香庄  
内船尾・筑前國三奈木庄恩賞地以下所く地頭職等事

山香郷

山 香 郷

自余男子女子ヲ  
扶持スベシ

右所領等者、相副代々相傳證文等、限永代、所讓與于嫡子鶴壽丸也、無他妨、可領知之、於自餘男  
子女子者、鶴壽丸相計、可扶持也、仍讓狀如件、

永得<sup>(德)</sup>三年十月十六日

<sup>(志實)</sup>房 (花押)

三 下中尾地藏堂寶篋印塔銘

○大分の石造美術  
速見郡山香町大字野原字下中尾

時講衆寶篋印塔  
ヲ造立ス

時講衆  
各々

十五人

永德<sup>(三)</sup>□

癸亥

十一月廿五日

三 塔ノ本國東塔銘

○大分の石造美術  
速見郡山香町大字野原字塔ノ本

円忠等国東塔ヲ  
造立ス

永<sup>(一)</sup>德四年甲子四月廿日  
○<sup>(二)</sup>僧<sup>(三)</sup>○<sup>(四)</sup>圓<sup>(五)</sup>○<sup>(六)</sup>忠<sup>(七)</sup>

山  
香  
鄉

妙圓 妙性把 妙心 圓□ 圓尊真 圓□齊 正徹 □心 圓祐 圓□乘 圓應 圓意 □ 圓妙 □ 圓□

大工(五)  
□  
□太郎

○『大分県金石年表』ヲ底本トシ、『大分の石造美術』ヲ参考ス。人名判読ニ若干異同アリ。

七三 今川了俊貞書下

○宇佐正覺寺文書  
太宰管内志下

御許山座主圓信  
ノ訴ニヨリ同山  
領日差莊ニ對ス  
ル吉弘某ノ押妨  
ヲ停メ下地ヲ円  
信代ニ交付セシ  
ム

八幡宇佐本宮御許山座主圓信權律師申、當山領豐後國日差庄未詳所務再年交正米事、任大法、守先規、可被致其沙汰之處、背嚴制、吉弘山城入道一圓押妨云々、佛堂燈油退轉、就冥顯不可然、所詮急速退押妨人等、被沙汰居下地於圓信代、可被守御祈禱之旨、依仰執達如件、

永徳六年九月廿六日

(今川了俊)  
沙彌判

大友式部(親世)丞殿

○刊本ハ続書キ。右ノ如ク改ム。「永徳六年」ハ「元年」ノ誤リニ非ザルカ。

七四 辻小野西明寺石塔銘

○大分の石造美術  
速見郡山香町大字内河野字辻小野

西心宝篋印塔ヲ  
造立ス

明徳

元年

孟冬

上旬

西心

○基礎部ノミヲ存ス。望月友善氏ハ宝篋印塔ト思ハレルト記ス。

三 志賀親昌讓狀

○志賀文書  
熊本県史料中世二

所領ヲ嫡子松一  
丸ニ讓ル

山香荘内船尾

讓與

相傳所領豐後國大野庄志賀村南方・同庄下村泊寺、同國笠和郷勢久世宇屋敷并鹽濱・同國山香  
庄内船尾、筑前國三奈木庄恩賞地以下所所地頭職等事

右、所領等者、相副代々相傳證文等、限永代、所讓與于嫡子松一丸也、無他妨可領知之、於自餘男  
子女子者、松一丸相計、可扶持也、仍讓狀如件、

應永五年八月十九日

(志賀)  
親昌(花押)

三 沙彌某・左衛門尉某連署奉書

○志賀文書  
熊本県史料中世二

明春正月朔日御前御梳飯事、以准田錢令勤仕之、追可被結解之由候、仍執達如件、

應永十年十一月十五日

(左保新左衛門永弘力)  
左衛門尉(花押)

(生石邊江入道定勝力)  
沙彌(花押)

正月朔日梳飯ヲ  
准田錢ヲ以テ勤  
仕セシム

山香郷



山 香 郷

○梳飯勤仕ハ山香郷役トアリ（三七二号「當家年中作法日記」参照）。本文書ハ當郷ニ下サレタルモノカ未詳。

七 六郷滿山離山衆徒等申狀

○六郷山文書  
太宰管内志下

○応永十九年（マ）巳十一月十五日。本文省略。全文ハ「安岐郷史料」八〇号ニ収ム。

六 豊後國山香郷法式寫

○志手文書  
大分県史料一

（裏打紙端裏書）  
「豊後國山香郷法式」

法式 豊後速見郡山香郷

一段別號准田、其年之隨善惡、定員數可調事

一百姓依罪科、加政道時者、於在地頭、一往之届、至懸持仁者、不及其届、可成敗矣、（所従カ）諸從雜具以

下者、可爲檢斷物、於諸數者、可附與地頭事

一同成敗跡田地三之二者、付地頭、一者政所以進止、可調要用吏、付作毛准之事

一同成敗跡屋敷山河、政所可爲進止之事

一同依其科輕重者、可立子孫之、謂政所謂地頭、令受用者、可闕諸用基敷、所詮雖他之仁、可定百

姓旨、可爲第一事

准田八年ノ善惡  
ニヨリ員數ヲ定  
ム  
百姓罪科ノ届及  
ビ檢斷物

田地

屋敷山河ハ政所  
進止

大山野ハ政所進  
止

境相論  
政所中分スベシ

一大山野、政所可爲進止之事

一所定置所用、濟々勝餘郷之條、且云給人、且寺社諸奉行除之畢、而一圓政所可爲進止之事

一境相論時者、可守貞永式目莫勿論焉、猶兩方共以不止相論者、件之論斷、政所可中分之衷

一爲半公領諸用調上者、百姓雖有異儀、地頭一雅意仁、不可任所存事

一貫涯之儀、本郷者、以德田沙汰、末郷者、以貫別沙汰仕來之旨、以引付申之、今以可爲同篇之事

一或者爲塚目治世、或者依狩山等、在郷時者、自其所々、云宿、云拵、可調之事

右、爲末代龜鏡、治定畢、堅爲令守

此十一箇條、書出所如件、

應永貳拾八稔三月廿日

御在判

政所郷司

政所  
郷司野原對馬守殿

大友義著公御下知

○大友義著ナル人物ナシ。本文書檢討ヲ要スルモ、シバラク參考ノタメ掲グ。

### 五 段錢・准田錢催促書札

○當家筆法之抄条々  
増補訂正編年大友史料三一

段錢・准田錢催  
促奉書

五三郷庄、御段錢、御准田錢、御催促奉書、八月一日の日付ニ、御嘉例ニ、公文所にて、御右筆衆何

茂罷出調申、宿老へ、公文所持參候て、判形被申請、方々へ、被付候、奉書紙ニ書申候、

山 香 郷

四五五

准田錢催促奉書  
ノ書様

緒方莊・荏隈郷  
丹生莊  
大野莊・都甲莊  
直入郷  
笠和郷・三重郷  
宇目村  
山香郷・白杵庄  
津久見村

山香郷日差辺ノ  
調略ヲ依頼ス

山 香 郷

當庄、御准田錢、一反別何十文通之事、如例年、當毛加點札、寺社諸給人、不云古今免許、稱以催促、來十月中、可被遂勘定之由、被仰出候、被得其意、聊不可有緩之儀候、恐々、八月一日、緒方庄政所殿、宿老いくたりも候へ、連署、

右員數之事緒方庄御准田錢、一反別七十文通政所へ連署、荏隈郷准田九十文通檢使、連署、丹生

庄同七十文通政所へ、大野庄同七十文通 檢使へ、都甲庄同五十文通 檢使へ、直入郷同

七十文通 政所へ、笠和郷同八十文通 檢使へ、三重郷御反錢五十文通 兩政所へ、宇目村御

反錢百文通 政所へ、山香郷御准田錢七十文通并一揆錢 兩政所へ、白杵庄并津久見村御准田

錢七十文通 檢使へ、是ハ政所以調進納候ハ、政所へ連署被遣候、檢使にて調候ハ、檢使被

着郡候之間、檢使何かしと宛候、檢使ハ兩人にて候、仕付たる衆、をよそさたまり申候、

○本書ハ文祿三年六月頃ヨリ慶長四年閏三月頃マデ、大友吉統ガ山口・水戸等ニ幽閉中、堪忍衆等ニ先例ヲ調査シ作製サセタルモノトイフ。准田錢ニヨリコ、ニ掲グ。

ハ〇 大内持世書狀

○佐田文書  
熊本史料中世三

(山香郷)

日差邊へ可被打越之由、兩度申候了、定右田參河守、飯田越中守可申談候、今度一途御奔走候者、

尤可然候、其境事、一向憑存候、委細重宗方より可申候、恐々謹言、

十一月廿五日  
(永享五年カ)

持 世 (花押)  
(大内)

佐田因幡守殿 (盛怒)

一 志手實久田所職讓狀

○志手文書  
大分県史料一一

田所職ヲ讓ル

豊後國山香郷田所職相傳支

方分ニツキ下文  
ヲ申請クベシ

息重久、云不忠者、云無器用、某弟吉久仁、一跡相續候、御判御奉書并貳百町取帳目錄、殊寺社本役文書、至物具・所從・馬牛、打渡所也、以此旨速就 御方分、申請御下文、可取沙汰、仍讓狀如件、

永享六年甲寅 卯月五日

土佐守(志手)  
實久(花押)

志手彌次郎殿

二 大友親綱知行預ケ狀

○長野末夫文書  
大分県史料一一

(包紙ハ書)  
一 長野左馬助殿

親綱

玖珠郡内長野・  
荏隈郷・山香郷  
ノ地ヲ預ク

豊後國玖珠郡内長野三分二六町、荏隈郷内十貫分長野紀伊介跡、山香郷内綾富三町之事、預置候、可有知行候、恐々謹言、

(異筆)  
〔永享七年〕  
八月九日

(大友)  
親綱(花押)

山香郷

山 香 郷

四 五 八

長野左馬助殿

三八 足利幕府奉行人連署奉書

○吉川家文書一  
大日本古文書

(稱紙)  
從是感狀

(稱紙)  
九州豐後

立石城ニオケル  
忠節ヲ賞ス

於立石城、被致忠節之旨、大内修理大夫注進到來、尤神妙、彌可被抽戰功之由、所被仰下也、仍執  
(速見郡山香郷カ)  
(持世)  
達如件、

永享七年十月廿七日

(飯尾貞進)  
大和守 (花押)  
(飯尾為種)  
肥前守 (花押)

吉川駿河守殿  
(經信)

○立石城ハ同郡朝見郷ニモアリ、検討ヲ要ス。

八四 大友親綱書狀

○大友家文書録  
大分県史料三一

御身上事申候處、懇示給候、本望候哉、仍齋藤美濃守所まで承候間、田北佐渡守跡、并敷戸事不可  
(兼利)  
有子細候、日差事ハ追而可申談候、尙々落居不可有幾程候歟、同。者、早速現形候者、悦入候、委  
候

日差事ハ追テ申  
談ス

細美濃守可申候間、省略候、恐々謹言、

(永享七年)

十二月七日

(大友)  
親 綱 在判

田北治部少輔殿

(親増)

〔五〕 大友親綱知行預ケ狀

○大友家文書錄  
大分県史料三一

津守莊敷戸・山  
香郷日差等ヲ預  
ク

豊後國津守内敷戸拾貳町、并山香郷之内日差村三十町事、預置候、任先例、可有知行候、恐々謹  
言、

永享八年

三月廿四日

(大友)  
親 綱 在判

田北治部少輔殿

(親増)

〔六〕 大友親綱書狀

○田北隆信文書  
増補訂正編年大友史料一〇

又齋藤兵庫事、耽可存府之由、申付候畢、

(親勝)

御札委細拜見候畢、抑、田原能登守此間致粉骨候之處、如此罷成候、無念至極候、御懇示給候、恐

(田北親増)

悅候、就其日差事、可致知行事、彼仁へ申遣候之處、重承候、不審千萬候、同九郎事、今程可致扶

(田北親兼力)

持無在所候、可然闕所候者、可申付候、不可有等閑候、就中依<sup>爲力</sup>我々無沙汰、京都可有御注進由、

田原能登守粉骨  
日差ノ事

山 香 郷

大橋方まで被仰候敷、同者、子細具示給候者、令悦喜候、事々、期後信候、恐々謹言、

閏五月四日

親 (花押)

上使 侍者御中

大友親綱書狀

○田北隆信文書 増補訂正編年大友史料一〇

日差ハ佐田・鹿越ノ中間ノ要所 姫岳落居程アル マジ 御手洗・薬師寺

其方時儀、委細示給、悦喜仕候、就其、日差事、齋藤治部所ニ、代所立、去月初比社、彼地事、可有知行通、令申候處、齋藤加賀所より、遅其段申候敷、日差事、佐田・鹿越之中間と申、いかにも、可然候する仁を、被遣候而、即地下をも、しかくくと、沙汰候する事、肝要候、又姫岳之事、兵糧一束に留候由、其間候、落居不可有幾程候、御手洗・薬師寺者共五・六人、此四・五日以前、罷出候によりて、敵方之事、おもひやられ候、恐々謹言、

閏五月十四日

親 (花押)

田北治部少輔殿

○『大友家文書録』(『大分県史料』三一)ニモ収録セリ。

日差村代所八毛  
井村

日差村ノ事大友  
親綱ニ申定ム  
敷戸残四町分

山香郷内本給綾  
富・田染庄内ノ  
地ヲ預ク

### 八 幕府上使景臨首座書狀

○田北要太郎文書  
大分県史料二五

御奉書并京兆様御書、進之候、日差代所(山香郷)ハ(海部郡)井村(三)の村にて候、石州御勢一昨日十七、甲百餘着

府候、今明日三隅并周布・福屋兩人、甲百可有(分)着府候、彼是當寺甲四百餘候、於于今、敵方

甲千にて責候共、無怖畏候、此趣慈光寺・朽網殿、可傳達候、

抑軒書記方預物、嚴密送給、千萬悦喜至極候、次日差之事、重而京兆様へ申定候條、早々御知行可

然候、敷戸相殘四町分、可有御知行候、又芳若廿袋・筭度々送給候事、難申盡候、委細令申御使

者、毎事期面謁候、恐々謹言、

(永享八年)  
壬五月十九日

田北治部少輔殿  
(親増)

一 (奥ツハ書)

田北治部少輔殿

景臨(花押)

自萬壽寺

景臨

○「」内傍注ハ『大友家文書録』(『大分県史料』三一)ニヨル。

### 九 大友親隆知行預ケ狀

○長野末夫文書  
大分県史料一一

山香郷内本給綾富拾貫、田染庄之内生石跡參拾貫分事、預置候、可有知行候、謹言、

山香郷



山 香 郷

十月十六日

(大友)  
親 隆 (花押)

長野伯耆守殿  
(重也)

九〇 大友親重感狀(紙切)

○長野末夫文書  
大分県史料一一

安心院合戦ノ忠  
ヲ賞ス

去廿三日、於安心院合戦之時、粉骨候由承喜入候、彌被致忠節候者、可然候、以面可賀申候、恐々  
謹言、

八月廿八日

(大友親重)  
親 重 (花押)

長野宮内少輔殿

九一 大友親重感狀(紙切)

○長野末夫文書  
大分県史料一一

所々合戦ノ粉骨  
ヲ賞ス

近年以來、於所々合戦、粉骨之段、感悅至候、如何様取靜候て、以面可賀申候、殊ニ御隠居候、難  
有喜入候、彌たのみ存候、恐々謹言、

十一月十三日

(大友親重)  
親 重 (花押)

長野増法師殿

三 大友親繁書狀(紙切)

○長野末夫文書  
大分県史料一一

〔（端裏切封）（墨引）〕

此方時宜、得永兵庫所へ、委細申遣候き、然者その事、いかにも申談候て、ほんそう候ハ、し  
かるへく候、七畑の事、よくく申すゝめ候て、ほんそう候へく候、七畑ニおのく、遣狀候へく  
も、いそき候間、無其儀候、其ふんよくく、申上らるへく候、此方事、既とりむかうふん候間、  
不可有油斷候、得永・富永安房談合候て、ほんそう候へく候、恐く謹言、

卯月三日

親繁（天友）（花押）

長野増法師殿

三 大友親繁恩賞宛行狀案(紙折)

○松田文書  
大分県史料一一

山香郷六太郎拘分事、今度依忠節、永代爲給恩宛行候、可有存知候、恐く謹言、

五月十八日

親繁（天友）御判在

政所殿

六太郎拘分ヲ恩  
給ス

七畑ノ事ニツキ  
奔走セシム

山香郷

九四 大友親繁書狀(紙切)

○志手文書  
大分県史料一一

(裏打紙端装束)  
「大友親繁書狀」

(端裏切封)  
「(墨引)」

書狀ニ答フ

御狀委細承了、

抑其後可申之處、依無指事候、乍存候、御懇ニ示給候、令悦喜候、仍其方にて御辛勞、更不申候、不審等連々可承候、次よりく面々、しかるへきやうニ、計策候する事、肝要候、每事重可申候、恐々謹言、

十月廿一日

(大友)  
親 繁(花押)

長野増法師殿

九五 大友親繁名字狀(紙切)

○工藤隆弘文書  
大分県史料一一

名字ヲ与フ

御名字之事、承候、別紙認進之候、恐々謹言、

十二月廿三日

(大友)  
親 繁(花押)

廣瀬九郎殿

三町ノ地ヲ預ク

六 高崎親治契約狀

○工藤隆弘文書  
大分県史料一

身のきう所之<sup>(給)</sup>□□三ちやうの事、あつけ申候時分ニハ、と<sup>御</sup>□られ候て、御る□進之候へ  
く候、もし御内の人ふさたの時□、かやうニ申たに<sup>(る脱カ)</sup>、よるましく候、さく人おつか候へく候、そ  
の時、御いろんあるましく候、よつて、かくのことく申さため候、もし又、ほんさく人なくと御申  
候て、とかく申候ニよるましく候、御せういんあるましく候、仍後日のためニ狀、如件、

三月十日

親 治 (花押)

享徳三年

高崎越後守

七 高崎親治書狀

○工藤隆弘文書  
大分県史料一

約東ノマ、人ヲ  
進ズ

わさと狀□□同ちかへ候は、さいく申うけ給候へく候へとも、遍居候て候間、存  
なからに候、たし、ひとたひ申うけ給候へハ、いつれ申さず候とも、心中とうか<sup>(んカ)</sup>く候や、  
御とうしんニ御意候ハ□、かしこまり入候へく候、兼又いつも御やくそくのま、□人を進候、  
よくく御うけとり□つかい候、ま<sup>(孫カ)</sup>五大郎ら申□物にて候、又<sup>(路改)</sup>ろしのやう、ともか  
く重給候<sup>(以下礼紙)</sup>へく候、又ふたん申候へとも、御せうるんなく候へとも、あはれく、たつのとしみの

山 香 郷

四六五

とし、二年ほう御しやくしやう候へかし、さも候ハ、らい月に、たうちニまかりこゑ候へくは、人を進候て、申たつし候へく候、たのミ申候、く、くわしくハ、此つかい可申候、恐々謹言、

三月廿四日

親 治 (花押)

ひろせ殿 御宿所

「(奥切封) (墨引)」

六 重吉秀直・右田興弘連署書状案

○永弘文書  
大分県史料四

「端裏書」  
「案文」

御主殿上葺ヲ長  
野某ト協力勤仕  
セシム

御主殿上葺之事、<sup>(春カ)</sup>可相調之由、至山香郷仰付候、妻一方之儀、馳走肝要<sup>(候カ)</sup>□、<sup>(吉弘氏傳)</sup>先年一曇御申之時、落居之沙汰候敷、生石入道・佐保左衛門尉書状旨、披露候、以先今度之事、從今秋、長野伯耆守仰合、調專一候、恐々謹言、

「(奥書) 享徳三年」  
八月十四日

「(右田) 興 弘  
重吉 秀 直

田染庄政所殿



之子細者、可改替也、

一 千代若丸并弟丸事、其身器用不器用不云、成水魚思、可致憐愍也、

今度就藝州發向、大方所申置也、巨細之旨、重而可書遣候、

康正三年<sup>丁丑</sup>二月廿五日

<sup>(志賀)</sup>  
源親明 (花押)

志賀龜鶴丸殿

○継目裏ニ源親明ノ花押アリ。

100 大友政親受領狀

○長野康雄文書  
大分県史料一一

伯耆守ノ仮名ヲ  
与フ

伯耆守所望之由、承候、可存知候、恐々謹言、

三月十一日

<sup>(大友)</sup>  
政 親 (花押)

長野三郎次郎殿

101 大友政親官途狀

○長野康雄文書  
大分県史料一一

官途ヲ与フ

〔衛門尉所望〕〔承候、可存知候、恐々謹言、

五月十一日

<sup>(大友)</sup>  
政 親 (花押)

長野清三郎殿

一〇三 大友政親書狀

○長野末夫文書  
大分県史料一一

〔(端裏切封) 墨引) 〕

七郎慮外ノ野心  
ニツキ馳參ジム  
節ヲ致サシム

就企七郎慮外野心候、國中悉申談子細候、然者早々馳參、可被抽忠節候、爲都鄙、可屬國家無爲心中候、此時思慮無相違候、可預返事候、具以面可申候、恐々謹言、

十月五日

(大友) 政親 (花押)

長野三郎次郎殿

一〇三 大友政親知行預ケ狀

○長野末夫文書  
大分県史料一一

山香郷内ノ地ヲ  
預ク

山香郷之内、長野新右衛門跡之内、貳拾貫分<sup>坪付別紙有之</sup>紙有之事、預置候、不可有知行相違候、恐々謹言、

十月十五日

(大友) 政親 (花押)

長野宮内少輔殿

〔(切封) 墨引) 〕

山香郷



104 大友親豐義右書狀

○長野末夫文書  
大分県史料一一

(包紙ウハ書)  
「長野伯耆守殿

親 豊」

扇一送ルヲ謝ス

扇一送給候、悦喜申候、いか様、以面可申候、恐々謹言、

九月廿九日

(大友義右)  
親 豊 (花押)

(言重)  
長野伯耆守殿

105 大友親豐義右跡目安堵狀

○長野末夫文書  
大分県史料一一

(包紙ウハ書)  
「長野清右衛門尉殿

親 豊」

父吉重跡ヲ安堵  
ス

親父伯耆守言重跡事、任相續之旨、不可有領掌相違候、恐々謹言、

(大友義右)  
親 豊 (花押)

八月三日

〔古寄(十四文)〕  
〔跡目(一書)〕

長野清右衛門尉殿

106 都留能佐定狀案

○志手文書  
大分県史料二

立石村六反ノ内  
二反ヲ除キ四反  
ハ公事ヲ勤メシ

豊後國東<sup>(マ)</sup>

山香郷立石村□之内、東長井底本田、六反之雖爲在所、此内貳反、年々否除之、現作四反定、於納所御公事、堅可被勸者也、仍定狀如件、

延徳參年<sup>辛</sup>五月十八日

都留山城守

能佐判在

佐藤八郎殿

異筆

「源願頼朝

」(花押影)「

新開彦太郎殿

能佐「

107 吉弘親利・都甲著利連署奉書

○工藤隆弘文書  
大分県史料一

広瀬太郎一跡等  
ヲ九郎ニ渡サシ

廣瀬太郎一跡事、舍弟九郎相息候敷、仍披露之處、不可有子細候由、被仰付候、然者彼知行分、并越後入道知行庶子分事、可被渡付廣瀬九郎由候也、恐々謹言、

三月四日

都甲

著 利 (花押)

吉弘

親 利 (花押)

山香郷政所

山香郷政所殿

山香郷

108 某書狀(紙切)

○工藤隆弘文書  
大分県史料一

(端裏切封)  
「(墨引)」

府中ノ時儀ヲ示  
サルベシ  
大友親豊下向

先日齋藤(藤三郎丸)

方々、便宜預御狀候、畏入候、以府中之旨儀、幸便之時ニ、細々可示給候、近日

(大友義左)

親豊様御下候する之由、承候間、千秋萬歳に候、左も候ハ、最前懸御目、可申承候、幾日不申承

候共、心底疎略不可存候、御同前可爲祝着候、又田原心地之由承候、其後ハ、如何きこしめし候

哉、色々に於爰許、申候へ共、不分明候、内心無緩怠共申候、又有緩怠様にも申候、其方ニハ如何

風聞候哉、諸事重而可申候間、省略候、恐々謹言、

三月十日

宣(花押)

廣瀬三河守殿

伊美大和守殿

109 大聖院宗心感狀

○工藤隆弘文書  
大分県史料一

(端裏切封)  
「(墨引)」

一味トナルヲ賀  
ス

爲一味之儀、今度被成志、御退候條、誠喜悅候、入國不可有幾程候間、取靜申候者、必々一段賀可

申候、恐く謹言、

九月五日

廣瀬九郎殿

(大聖院) 宗 心 (花押)

二〇 大聖院宗、心書狀 (紙切)

○工藤隆弘文書  
大分県史料一

(端裏切封)  
一 (墨引)

所用ニツキ罷越  
サシム

所用之儀候間、申候、急度被越候者、以面委細可申候、猶くいそかしく候、恐く謹言、

九月九日

廣瀬縫殿助殿

(大聖院) 宗 心 (花押)

二一 大友親治知行預ケ狀寫

○平林文書  
大分県史料一三

山香郷内二十貫  
及比田染庄内十  
五貫ヲ預ク

山香郷内貳拾貫<sup>伊美六郎</sup>跡、田染庄内拾伍貫<sup>同人</sup>跡之事、預置候、可有知行、恐く謹言、  
(明応五年) 十二月十三日

平林彈正忠殿

(大友) 親 治 (花押影)

山香郷

二三 大友氏加判衆連署奉書案

○碩田叢史所取平林文書  
增補訂正編年大友史料二三

田染庄・山香郷  
内伊美六郎跡ヲ  
平林彈正忠二打  
渡サシム

田染庄之内伊美六郎跡拾五貫文、山香郷内同人跡貳拾貫分坪付別紙在之、任御判之旨、可被打渡平林彈正忠也、依仰執達如件、

明應五年十二月十三日

(寒田親賢) 兵部少輔  
(大津留繁繼) 常陸介  
(永富繁世) 上總介  
(小佐井堅志) 大和守

田染庄政所殿

山香郷兩政所殿

二三 大友親治書狀寫

○田北一六文書  
大分県史料二五

就鹿越城衆、年來辛勞之段、悅喜申候、然者就出陣、近々先陣可預馳走之由、承候といへ共、彌城番堅固之儀、憑入候、何様以面、可申承候、恐々謹言、

八月十一日

(大友) 親治 (花押影)

鹿越城衆ノ辛勞  
ヲ賞シイヨク  
城番ヲ堅固ナラ  
シム

田北治部少輔殿

二四 大友親治感狀寫

○田北一六文書  
大分県史料二五

鹿越城番ノ勞ヲ  
謝シ馳走ヲ励マ  
シム

就鹿越〔 〕辛勞之段、悦喜申候、然者就出陣、近々先陣可預馳走之由、承候といへ共、彌城番堅固之儀、憑入候、自是直、以賀狀可申候、先以能々可被申聞事、肝要候、旁々辛勞之段、以賀使可申候、恐々謹言、

十一月十七日

(天左) 親 治 (花押影)

田北

二五 大友親治書狀寫

○田北一六文書  
大分県史料二五

尙々本一揆之外の百性等、<sup>(マ)</sup>以次、可爲一揆之由、申掠候條、無其謂候、何も任前々之旨、

可有成敗之由、可被申候、

田北親幸愁訴

日差村本一揆ノ  
外ハ成敗セシム

就田北六郎方愁訴之儀、書狀委細承候、無餘儀存候、雖然、田北御神領之事者、開陣之時、尋老中返事可申候、又日差村本一揆之外者、可有成敗事、肝要候、今程取靜候間、一段不申合候、聊非等閑之儀候、可被得其心候、恐々謹言、

山 香 郷

山 香 郷

四七六

十二月五日

(大友)  
親 治 (花押影)

小佐井大和守殿  
寒田兵部少輔殿

二六 大友親治土貢免除狀(折紙)

○児玉文書  
大分県史料二

(大友親卷)  
(花押)

佐田陣ノ忠節ニ  
ヨリ名田松賀尾  
四段ノ土貢ヲ免  
ズ

今度於佐田陣、忠節無比類之條、爲恩賞名田松賀尾肆段、土貢之事閣之、至點役諸濟物以下者、任先例可勤、於人足者、公文所可召仕也、仍狀如件、

明應八年二月十九日

刑部二郎男

二七 大友義長官途狀

○長野末夫文書  
大分県史料一一

官途ヲ与フ

郎左衛門尉所望之□候、可存知候、恐々謹言、

十月十九日

(大友)  
義 長 (花押)

長野二郎殿

二六 大友義長官途狀

○長野康雄文書  
大分県史料一

〔端裏切封〕  
一〔墨引〕

又兵衛尉ノ官途  
ヲ与フ

又兵衛尉所望之由、承候、可存知候、恐々謹言、

十月廿日

長野清十郎殿

〔大友〕  
義長〔花押〕

二九 大友義長感狀〔紙切〕

○長野末夫文書  
大分県史料一

〔端裏切封〕  
一〔墨引〕

肥筑對治ノ軍勞  
ヲ賞ス

就肥筑對治之儀、爲無足出陣候、令悅喜候、軍勞不可有忘却候、必追而一段可賀申候、恐々謹言、

〔永正二年カ〕  
十一月七日

〔長綱〕  
長野又兵衛尉殿

〔大友〕  
義長〔花押〕



三〇 志手泰久田畠坪付并米定錢夫錢等注文案

○志手文書  
大分県史料二

(裏打紙端裏書)  
一 永正四年志手泰久田畠坪付

年賣夫錢ヲ注ス

一所八段	三日夫三十六日七百貳拾文	西紙漉菌
一所壹町大	米壹石壹斗定 七日夫八十四日壹貫六百八拾文	西小菌分
一所九段	米壹石定 五日夫六十日壹貫貳百文	西芋浦分
一所四段	米三斗五升定 三日夫三十六日七百貳拾文	西本志野分
一所貳町貳反	米三斗五升定 三日夫三十六日七百貳拾文 米貳石三斗定 十一日夫百三十二日貳貫六百四拾文	西那留分
一所五段	米五斗定 三日夫三十六日七百貳拾文	西河床分
一所四段	米五斗定 三日夫卅六日七百貳拾文	西新開分
一所壹町	米壹石五斗定 五日夫六十日壹貫貳百文	東野地分
一所三段	米貳斗五升定 二日夫廿四日四百八拾文	檜原分
一所貳町	米貳石五升定 十二日夫百四十四日貳貫八百八拾文	薦田分
一所貳町五段	米貳石五斗定 十二日夫百四十四日貳貫八百八十文	下河内分
一所貳町貳反	米貳石五斗定 十二日夫百四拾四日貳貫八百八十文	

一所八段	米壹石壹斗五升定 四日夫四拾八日九百六十文	尾崎分
一所九段	米九斗五升定 三日夫卅六日七百貳拾文	尾花分
一所八段	米九斗五升定 五日夫六十日壹貫貳百文	梅田分
一所九段	米壹石壹斗定 五日夫六十日壹貫貳百文	長田分
一所四段	米六斗定 三日夫三十六日七百貳拾文	立岩分
一所六段	米六斗定 三日夫三十六日七百廿文	平狩藏分
一所八段	米壹石五斗五升定 五日夫六日壹貫貳百文	津留分
一所壹町	米壹石四斗定 六日七拾二日壹貫四百四拾文	東唐門分
一所六段	米七斗定 人足なし	東口野尾分
一所四段	米七斗定 三日夫卅六日七百貳拾文	同(後追分 本之儘不審
一所五段半	米五斗定 三日夫三十六日七百貳拾文	東阿地河野分
一所四段半	米四斗五升定 三日夫三十六日七百貳拾文	東下山分
一所貳町七反	米貳石 同貳貫文 十三日夫百五拾六日三貫百廿文	東大河内分
一所壹町壹反	米八斗 同五百文 六日夫七拾二日壹貫四百四拾文	東六田良分
一所貳町	錢貳貫八百文定 十一日夫百卅二日貳貫六百四拾文	東吉留分
一所貳町	錢三貫文定 十一日夫百卅二日貳貫六百四拾文	東乙丸分
一所七段	錢壹貫五百文定	東階廻分

山 香 郷

山 香 郷

一 所四段 錢六百文定  
三日夫卅六日七百貳拾文

定尾分

一 所壹町 錢貳貫文定  
六日夫七十二日一貫四百四十文

東秋山分

一 所壹町 錢貳貫文定  
五日夫六十日壹貫貳百文

東下<sup>(ヲ)</sup>分

一 所三段 錢三百文定

今畑分

一 所貳反 錢三百文定

東薄尾分

一 所九段 錢貳百文定  
六日夫七十二日一貫四百四十文

西小野尾分

一 所貳町 錢貳貫文定

西目苜分

一 所壹町 錢壹貫五百文定

西大所分

一 所漆段 本之儘不審

西大路平分

一 所三段 錢三百文定

西柵小野分

一 夫錢 十一日百三拾二日貳貫六百四拾文定

本之儘

一 伍日陸拾日壹貫二百文

吉渡分

一 四日四拾八日九百六十文定

本之儘  
長田分

以上米肆拾壹石參斗伍升

以上定錢參拾漆貫陸百捌拾文

以上夫錢六拾七貫六百八拾文

惣都合田數伍拾陸町壹段大

永正四年丁卯十一月六日

志手加賀守

泰久

判

東綾留分

西小河原分

西小田村分

西松尾

荒所

- 一所貳町
- 一所壹町八段
- 一所貳町
- 一所四段

三三 志手泰久田畠坪付并米夫錢等注文寫

○志手トラエ・志手久雄文書  
大分県史料二五

年賣夫錢ヲ注ス

一所貳町貳

十一日夫百三十二日貳貫六百四十文

一所五段米五斗 成富分

三日夫三十八日 七百三十文

一所四段米五斗 河床分

三日夫三十六日 七百二十文

一所三段米貳斗五舂 野地分

二日夫二十四日 四百八十文

一所壹町米壹石五舂 新開分

山 香 郷

山香郷

五日夫六十日 壹貫二百文

一所貳町四段米貳石五斗 槍原方

十二日夫百四十四日 貳貫八百八十文

一所貳町五段米二石五斗 薦田分

十二日夫百四十四日 貳貫八百八十文

一所貳町四段米貳石五斗 下河内分

以下赤字久男文書

十二日夫百四十四日 貳貫八百八十文

一所八段米壹石一斗五舛 尾崎分

四日夫四十八日 九百六十文

一所九段米九斗五舛 尾花分

三日夫三十六日 七百二十文

一所八段米九斗五舛 櫻田分

五日夫六十日 壹貫二百文

一所九段米壹石三斗 長田分

五日夫六十日 壹貫二百文

一所四段米六斗 玄岩分

三日夫三十六日 七百二十文

一所六段米六斗 平賀分

三日夫三十六日 七百貳十文

一所八段米壹石五斗五舛 津留分

五日夫六十日 壹貫貳百文

○以上二文書ハ内容形式同類型ニツキ合載ス。但シ同一文書ナルカ未詳。

### 一三 某本地坪付

○大久保文書  
大分県史料三五

#### 本地つほ付之事

一所阿南庄之内六郎丸十七貫

阿南庄内六郎丸  
はたけ田名  
一所はたけ田名廿五貫

種田荘  
一所わさた庄之内卅五貫

戸次庄内冬田山  
一所戸次之庄之内冬田山口廿貫

山香郷内小岳  
一所山香郷之内小岳五十貫

高田庄内三川名  
一所高田之庄之内三川名百貫

猪野  
一所同庄猪野字

(脱アルカ)

山 香 郷

山 香 郷

寺司

別保名

三瀨郡

志摩郡

金丸

元岡名

一所同庄之内寺字六字(同)

一所同庄之内へつほう名(別保)

同役敷

一所筑後ミつまの郡之内百町

一所筑前志广郡内

金丸之内五町

元岡名之内五町

本地少く、

○年未詳。室町時代卜推定ス。

一三 大友義長一字状

○長野末夫文書  
大分県史料一一

(包紙ウハ書)  
一 長野又兵衛尉殿

(端裏切封)  
一 (墨引) 一

一字之事承候間、長直進之候、恐く謹言、

十一月二日

長野又兵衛尉殿

義 長

(大友)  
義 長 (花押)

二四 大友義長一跡安堵狀

○長野末夫文書  
大分県史料一一

昌言一跡ヲ安堵  
ス

親父昌言一跡事、任相續之旨、領掌不可有相違候、恐々謹言、

義長(大友)  
(花押)

十一月十四日

長野又兵衛尉殿

「(奥切封之)  
(墨引)」

二五 合妙山延福寺領田數注文

○河野廣文書  
大分県史料二六

(大友義長)  
(花押)

延福寺領田ヲ安  
堵ス

豊后國早見郡山香郷立石村内合妙山延福寺領田數事

一所寺田 七段

一所柏迫 參段

一所大壺 貳反

一々河原田 貳段

一所尾崎前 大

山 香 郷



山香郷

一所三嶋歲年居屋敷

永正九年四月廿一日

一三 合妙山延福寺常住物注文

○河野廣文書  
大分県史料二六

(端裏書) (カ)  
「常住置文」

延福寺常住物ヲ  
注ス

豊後國速見郡立石之内、合妙山延福寺常住物之夏

(紙書)  
「(花押)」

一磬

壹ヶ

一鈴

壹ヶ

一鼓鉢

壹双

一出山釋迦画

三幅壹對

一大乘經

五部

右之外威山奇進分  
(マ)

一拾王之画

拾壹幅

一觀音之画  
(但破損再興、  
日唐雪舟筆、)

(編カ)  
三福一對

以上

二七 山香郷一揆拘分土貢納所錢注文案

○志手トラエ文書  
大分県史料二五

(編纂書)  
「山香郷一揆」

山香郷一揆拘分  
土貢納所錢ヲ注  
ス

山香郷一揆拘分御土貢同納所錢之事

永正九年壬申・同十二及此帳爲先、

西方分

西方分

一所貳町貳段之内貳段神號免  
貳段年々不成

本篠

德壹町八段米壹石七斗五ツ入

一所壹町之内貳段神號免

紙漉菌

德八段 米八斗 五ツ入

一所九段之内壹段神號免  
壹段河成

小菌

一所四段之内壹段神號免

河床

德三段 米三斗 五ツ入

一所九段本納貳貫文内  
三百文未進

小野尾

一所壹町五段之内貳段年々不成

山井口

德壹町參段本納貳貫五百文

山香郷

山 香 郷

一所壹町五段之内貳段年々不

原

德壹町三段本納貳貫五百文

一所壹町五段之内貳段年々不

楠木原

德壹町三段本納貳貫五百文

一所四段之内壹段神號免

芋惠良

德三段本納五百文

一所貳町之内五段神號免不

小田村

德壹町五段本納貳貫五百文ノ内

五百文未進

一所貳町之内五段神號免不

目苅

德壹町五段本納貳貫文未進三百文

一所七段之内四段神號免

大路ケ平

德三段本納五百文

一所壹町之内貳段神號免

大所

德八段本納壹貫六百文

一所屋敷納所三百文

杓小野

一所四段本納三百文

松尾荒所

東方分

一所壹町八段之内壹段木船免  
貳段宇佐料田

德壹町五段米八斗三升四ツ入

納所五百文之内未進百文

以上

東方分

一所貳町貳段之内貳段神號免  
貳段河成

德壹町八段米壹石八斗五ツ入

一所八段之内壹段神號免

德七段米八斗 五ツ入

一所壹町壹段之内參段神號免  
壹段河成

德七段米六斗 五ツ入

納所三百文

一所四段之内半神號免  
壹段年々不

德貳段半米壹斗七升 四ツ入

一所貳町之内八段米  
壹町貳段錢

米八斗四ツ入 錢壹貫八百文

一所貳町之内貳段神號免  
壹段當不

大垣

小河原

山口

日野地

陸太郎

野地

内河野

山 香 郷

山 香 郷

德壹町七段本納貳貫文

一所壹町之内壹段神號免  
壹段年々不

三郎丸

德八段米六斗五舁 四ッ入

一所七段之内壹段神田  
壹段當不

岩屋

德五段米四斗 四ッ入

一所壹町八段之内四段神號免  
本河成貳段  
新河成

高月

德壹町貳段米壹石壹斗四ッ入

錢壹貫七百文 定

一所貳町七段米壹石貳斗半舁定  
錢貳貫文

上河内

一所壹町貳段米壹石貳斗 五ッ入

唐河

一所四段本納七百文

口野尾

一所壹段半米壹斗五舁 四ッ入

渡廻

一所六段之内壹段堂田  
壹段年々不  
壹段當不

安地河野

德三段米貳斗三舁 四ッ入

一所四段半米參斗貳舁 五ッ入

重永

一所五段半米參斗三舁 五ッ入

下山

一所貳町本納貳貫五百文ノ内  
貳百文未進

乙丸

一所貳町 本納貳貫五百文之内  
參百文未進

吉富

一所七段之内 壹段堂免  
壹段河成年々不

階廻

本納壹貫五百文之内貳百文未進

一所壹町之内 貳段神號免  
壹段當不

下切

德七段本納壹貫六百文之内百文未進

一所壹町貳段之内 壹段神田  
壹段堂免  
壹段年々不

秋山

德九段本納貳百文

薄小野

一所貳段本納參百文

綾富

一所貳町之内 神號免河成  
年々不六段

志手加賀入道

了昌 參心  
在判

十二月廿三日

永正十二年迄ハ此帳を先として、

三六 豊氏知行預ケ狀寫

○豊田家傳  
大分県地方史二二〇

立石村日野地名  
内ノ地ヲ預ケ

(山香郷)  
立石村之内、日野地名之内、彌藤五郎分并くすねつか相そへ、預ケ申候、恐々謹言、

山香郷

山 香 郷

永正十年 三月廿日

西屋敷八太郎殿

豊 氏 判

四九二

三九 豊氏知行預ケ狀寫

○豊田家傳  
大分県地方史二二〇

日野地名ノ地ヲ  
預ク

山香郷立石之村日野地名之内、壹段半之事、已前加拘半合貳反分事、預ケ置候、諸公事ハ前々可爲  
准候、恐く謹言、

十月十六日

豊 氏 判

西屋敷次郎左衛門尉殿

三〇 鶴成東光寺墓地板碑銘

○大分の石造美術  
速見郡山香町大字内河野字鶴成

板碑ヲ造立ス

妙龍禪尼

(梵字サ)

妙祐禪尼

(梵字キリーク)

□卷益公首座禪師  
□庵□百座□師

于時永正十

(梵字サク)

□(後略)  
□代前住

三年丙二月敬  
子十二日白

○『大分県金石年表』ト校合、(一)内ハ同書。尚同書ハ千支ナク(二月廿二日)トス。

三三 大友親安義鑑知行預ケ狀

○長野末夫文書  
大分県史料一一

〔包紙ウハ書〕  
一長野五郎左衛門殿

〔端裏切封〕  
「(墨引)」

親安」

山香郷稲富・大  
平山ノ地ヲ預ク

山香郷稲富七段・大平山五段半事、預置候、可有知行候、恐々謹言、

(永正十三年)  
十二月廿七日

(大友義鑑)  
親安(花押)

長野五郎左衛門尉殿

三三 大友親安義鑑知行預ケ狀

○長野末夫文書  
大分県史料一一

〔包紙ウハ書〕  
一長野太郎兵衛尉殿

山香郷之内倉成左京亮跡 徳富壹町之内、味曾蘭五段分之事、預置候、可有知行候、恐々謹言、

(永正十三年)  
十二月廿七日

(大友義鑑)  
親安(花押)

長野太郎兵衛尉殿

〔奥切封〕  
「(墨引)」

山香郷



一三三 大友氏加判衆連署奉書

○長野末夫文書  
大分県史料一

〔包紙ウハ書〕  
「山香郷兩政所殿

彈正忠親留」

山香郷德富壹町之内、味曾菌五段分事、任御判旨、可被打渡長野太郎兵衛尉之由、依仰執達如件、

永正十三年十二月廿七日

右衛門尉(花押)

民部少輔(花押)  
(白杵長景力)

大炊助(花押)  
(木上長秀力)

彈正忠(花押)  
(龜親富力)

左衛門尉(花押)  
(小原右並力)

左衛門大夫(花押)  
(大神親照)

伊賀守(花押)  
(宋庄右述)

兩政所殿

山香郷兩政所

一三四 大友親安義鑑跡目安堵狀

○志手文書  
大日本史料九ノ七

至親父泰久、爲新恩預置<sup>(マ)</sup>知之事、任相續之旨、領掌不可有相違之狀、如件、

新恩預置地ノ相  
続ヲ安堵ス

永正十四  
八月六日

(大友義經)  
親安(花押)

志手三郎右衛門尉殿

一三三 大友親安義經跡目安堵狀寫

○志手文書  
大分県史料二一

山香郷田所職并  
ビニ誰門一町等  
ヲ安堵ス

山香郷田所職、并誰門壹町三百步事、父泰久任相續之旨、領掌不可有相違候、恐々謹言、

九月二日

(大友義經)  
親安(花押影)

志手美濃(兼久)守殿

一三六 源得永長述打渡狀

○工藤隆弘文書  
大分県史料一一

山香郷橋尾ノ地  
ヲ打渡ス

山香郷之内橋尾七段分之事、任 御判・御奉書之旨、打渡申所也、仍如件、

永正十四年  
九月廿二日

とく永  
源長述(花押)

廣瀬縫殿助殿

山香郷

一三七 沙彌了昌志手讓狀并坪付

○志手久男文書  
大分県史料二五

讓狀并坪付之事

行重名之内河底

一所町堀

新開 稗島

一所

誰門之内深田  
一所半

一所中屋敷上通有堺、

右、至兄美濃守豊久仁、相應可致合力事、肝要候、仍爲後日狀、如件、

永正十七年庚辰三月六日

(志手泰久)  
沙彌了昌(花押)

志手木工助殿

日見寺

一三八 親宣名字狀

○長野末夫文書  
大分県史料一一

御名字之事承候、以別紙認進之候、恐々謹言、

永正十八年八月十日

親 宣(花押)

長野孫次郎殿

(奥切封)  
「(墨引)」

名字ヲ与フ

行重名・誰門ノ  
地等ヲ照久ニ讓  
ル

兄豊久ニ合カス  
ベシ

一三〇 大友親敦義一跡安堵狀

○長野末夫文書  
大分県史料一

〔包紙折封ッハ書〕  
「長野孫次郎殿

〔端裏切封〕  
「〔墨引〕」

親敦」

父豊言一跡ノ内  
稻富ヲ安堵ス

親父豊言一跡之内、稻富七段大之事、任相續之旨、領掌不可有相違候、恐々謹言、

正月十四日

〔大友義鑑〕  
親敦〔花押〕

長野孫次郎殿

一四〇 大友親敦義鑑感狀〔紙切〕

○田北一六文書  
大分県史料二五

〔端裏切封〕  
「〔墨引〕」

至鹿越登城之由、承候、尤肝要候、此時以堅固之儀、忠節併憑存候、事々、必以面賀可申候、恐々

謹言、

十一月十二日

〔大友義鑑〕  
親敦〔花押〕

鹿越城衆各中

○別ニ写一通アリ。

山香郷

鹿越登城ノ報ニ  
答ヘ堅固ニ守備  
セシム

一四 大友親敦義鑑感狀(紙)(小切)

○田北一六文書  
大分県史料二五

(職葉切封)  
「(墨引)」

就今度落人現形、至鹿越在城、忠儀之至候、必追而賀可申候、恐々謹言、

落人現形ニ就キ  
鹿越在城ノ忠儀  
ヲ賞ス

(大友年カ)  
正月廿一日

(大友義鑑)  
親 敦(花押)

田北左京進殿  
(鑑 敦カ)

一五 大友親敦義鑑感狀

○工藤隆弘文書  
大分県史料一一

亂入、從最前以出陣、馳走肝心候、必追而、賀可申候、恐々謹言、

出陣ノ馳走ヲ賞  
ス

十二月十三日

(大友義鑑)  
親 敦(花押)

廣瀬九郎右衛門尉殿

一六 山香郷寺社領覺書案

○田北政治文書  
増補訂正編年大友史料一五

山香寺社領之覺

山香郷内ノ寺社  
領ヲ注ス

山香郷鎮守八幡

一 壹町五段

山香郷鎮守八幡宮

一 壹町五段

同 大明神

一 三段

同 若宮

宇佐八幡宮

一 五町壹段

宇佐八幡宮

神宮寺

一 貳段

神宮寺

小武寺

一 三町貳段

小武寺

六郷山

一 六町

六郷山

一 三町六段

祥光寺

大禪寺

一 壹町壹段

大禪寺

一 八段

上妙寺

一 三段

釋迦堂

延福寺

一 壹町三段

延福寺

一 九段

五德寺

一 壹町三段

淨土寺

一 四町五段

本郷所々名籠佛神領

以上

十二月廿三日

志手加賀入道了昌 在判

山香郷

山 香 郷

五〇〇

永正十二年迄者、此帳之通申付候、

已上

大永三年十一月廿日

野原孫右衛門尉長久 在判

志手美濃守豊久 在判

野田大藏少輔殿

一四 古河景助條々手日記案

○佐田友雄文書  
増補訂正編年大友史料一五

(家書)  
「條々手日記」

河床孫兵衛方對古川名狼藉條々、

一從河床至古川名、往古以來代々勤來候山野夫、并八朔歲暮納物事、去々年大永貳分、一圓無沙汰候事

一右先例無沙汰之子細、可申究ために、去年大永參、至當山野、從河床村入候牛馬事、可有停止由申候處、結句改古塚、新傍示指候事、非緩急候哉、仍放牛放馬追退候事

一同年四月二日、古川名内井手二箇所、切落候事

一同日、重而多勢を相催、彼野ニ打入候事、依之始中終、至山香御役人被仰究候間、被成御分別、既井手を被舉候事

古川名ニ對スル  
狼藉條々ヲ上申  
ス

古川名井手切落  
シノ事

井手ハ山香兩役  
人奉行トシテ學  
グ

山香兩役所ニ訴  
フルモ返事ナシ

河床・古川堺相  
論

一右井手事、○原注(此処紙の條目に當る、紙の裏に花押あり)山香御兩役人、自身爲御奉行被舉候事、同四月九日にて、其夜やかて河床切落候事

一彼井手切落候次第、致披露候處、既御兩人自身、御光儀乞被舉候、井手を切落候事者、偏ニ奉對(迄カ)

御役人、緩急迄候間、追而可申極由候間、井手事、則舉乞用水用候事

一彼井手事、重而八月廿三日切落、以多人數作稻踏損候事、當日令披露、被下身暇候者、田代ニは

まるへき候由、雖言上候、小原殿御著陣砌候間、不可然候由、被仰下候間、堪忍仕候事(マ)

右條々、聊私曲虚言不申上候、彼作稻損毛、井手落候次第、則山香御兩役所江、被遣御狀候之處、

于今無返事候間、致所望進上仕候、一途於不被仰達者、古川兩名事、可爲不作候哉、外聞實儀、迷

惑至候、恐惶謹言、

二月六日

古河 三郎左衛門(景助)

賀來善右衛門尉殿

賀來神左衛門尉殿

### 一覽 志手豐久・野原氏久連署書狀案

○佐田友雄文書  
增補訂正編年大友史料一五

〔案文〕  
大角宮内少輔殿 野原紀伊介氏久  
中□□□□殿 志手美作守豐久(源カ)

態申上 河床・古川堺之事、當年十六年以前、如此相論候之間、志手加賀守・野原對馬守、佐田方

兩役人申合、奉對儀不可然候、任先規之例、河床よりハ至古川、前々仕來候山野夫以下仕、牛馬等

山香郷



可飼由申定置候處、去年春以來、河床彼相論起、六借敷申合候間、(實業兩人)先年佐田方兩役人、又當郷司兩

人申合候可爲儘由、河床にも然々申付候、古川にも佐田役人可被申付通、申被成、佐田よりは此方

可爲裁判之儘由、雖被申候、河床承引不仕候て、度々六借敷申合候、(天永三年)然者去年四月ニ、古川之井手

を二ヶ所、河床より落候、不可然由申乞、此方より申付、井手を擧させ候、兩方無事に申合候處、

當年又古川之井手を可支由申候、此時者、兩方之證文を見候ハ、可得其意由申候間、古川より塚

さし(番)の案文出候、河床にも證跡可出由、敷返申候へとも、無其儀候、去十三證文案文持參候間、正

文出候へ、以分別、可得其意由申候處、未出候、古川よりは、彼井手を可關由、度々雖申候、先々

可待由、河床に重々可申究由、申留置候、はや時分に候間、今日茂古川は、井手をせき度之由申

候、河床者、罷出可留由申候、此時者、河床生害可仕候哉、郷内役之上に候間、申合敷返再返公儀

可然様、可爲前々之儘由、雖申付候、河床彌々承引不仕候、於爰許不及覺悟候間、旨趣言上仕候、

早々至河床、可被成御下知候、自然河床生害仕候者、我等兩人無閉自由、公私可有御批判候之間、

兼日此由申上候、去年より敷返佐田役人書狀、大角宮内迄、爲御上讀進上仕候、此上御尋事御座候

者、以懇信可申上候、此由可預御披露候、恐惶謹言、

(天永四年)  
二月十七日

(野原)  
久 (野原)

(志手)  
氏 久 (志手)

(志手)  
豐 久 (志手)

夫錢ノ内一月分  
六十文ヲ預カル

一四六 志手豊久・野原長久連署夫錢預リ狀(紙)

○兎玉文書  
大分県史料一

大永四年御夫錢之内一月分 平山分

合六十文定

右前、あつかり申、衆竝納候て、重而可申候也、

野原彌右衛門尉

長久

大永四年十月廿九日

志手美濃守

豊久(花押)

松ヶ尾藤四郎殿

一四七 得永長述書狀

○佐田友雄文書  
増補訂正編年大友史料一五

古河・河床塚相  
論ニツキ佐田方  
ニ打渡サシム

就佐田百姓(佐田庄)古河・河床塚之儀、(山香郷)兩度此方へ來候、仍數通之證文、佐田下役人之狀披見候處、誠無餘

儀候之間、八坂和泉守申聞候、被申合、早々可被打渡候、殊一筆遣候、可被得其意候、恐々謹言、

(大永四年)

十一月十一日

(得永)長述(花押)

八坂和泉守殿

野原紀伊介殿

山香郷

一四 得永長述書狀

○佐田友雄文書  
増補訂正編年大友史料一五

〔包紙ウハ書カ〕  
「古河三郎左衛門殿

長 述

堺相論ニツキ佐  
田方下役人、状  
ヲ披見スルニ余  
儀ナシ

〔山香郷〕  
就河床其方堺之儀、數通之證文、殊佐田下役人之狀、披見候處、無餘儀候間、至我等下役人、其意  
申付候、定而可達候哉、進之、(マ)恐く謹言、

十一月十一日

〔得永〕  
長 述 (花押)

一四 野原氏久・八坂公次連署打渡狀

○佐田友雄文書  
増補訂正編年大友史料五

得永長述ノ閉目  
ニヨリ堀ヲ限リ  
渡ス

就彼堺之儀、佐田庄御役人、同其方度々承候間、兩方相閉目、(得永)長述申聞候、以分別一通遣候、任其  
旨、限彼堀、渡申所如件、

大永四年十一月十六日

八坂和泉守  
公 次 (花押)  
野原紀伊介  
氏 久 (花押)

古河三郎左衛門殿

豊前發向ノ軍勞ヲ賞ス

一五〇 大友よし鑿感狀寫(紙切)

〇工藤勲文書  
大分県史料一

今度豊前國發向付、最前以出陳、所く手仕、軍勞のよし感悅候、かならず追而可賀候也、恐く謹言、

十二月十一日

(大友)  
よし鑿(花押)

工藤美濃守殿

一五一 大友義鑿官途狀

〇長野末夫文書  
大分県史料一

(包紙ツハ書)  
一長野孫次郎殿

義鑿一

主水助ノ官途ヲ与フ

主水助所望之由、可存知候、恐く謹言、

正月十四日

(大友)  
義鑿(花押)

長野孫次郎殿

一五三 某跡目安堵狀寫

○志手文書  
大分県史料一

美濃守豊久跡目  
ヲ安堵ス

美濃守豊久跡目之事、任相續之旨、領掌不可有相違候、恐々謹言、

七月廿七日

志手木工助後家  
(願久)

一五三 大友義鑿感狀(紙切)

○工藤隆弘文書  
大分県史料一

(編裏切封)  
「(墨引)」

佐伯惟治(成)敗ノ  
時ノ軍勞ヲ賞ス

佐伯惟治(成)敗之刻、速早到(切)城(切)心所、被詰寄之由候、軍勞令察候、彌各申合、粉骨肝要候、猶平

井和泉守可申候、恐々謹言、

(大永七年)  
十一月十六日

山香郷諸給人中

(大友)  
義鑿(花押)

一五 大友義鹽感狀(紙切)

○工藤隆弘文書  
大分県史料一一

〔端裏切封〕  
〔墨引〕

佐伯惟治成敗ノ  
忠義ヲ賞ス

佐伯正徹(惟色)入道成敗之刻、於彼表忠儀感悅候、必追而賀可申候、恐々謹言、

十二月三日

義鹽(大友)  
(花押)

廣瀬藤九郎殿

一五 大友義鹽感狀(紙切)

○豊田文書  
大分県史料一一

〔包紙ウハ書〕  
田北勘解由左衛門尉殿

義鹽

佐伯惟治成敗ノ  
忠節ヲ賞ス

佐伯正徹(惟色)入道成敗之刻、長田孫右衛門・田北彌十郎(廣生)、以同陣、忠節感悅候、必追而可賀申候、恐々

謹言、

十二月十三日

義鹽(大友)  
(花押)

田北勘解由左衛門尉殿

○包紙ハ『増補訂正編年大友史料』一五ニ拠ル。ナホ同書ハ「十二月三日」ニ作ル。

一五 大友氏加判衆連署奉書

○大友家文書録  
大分県史料三二

當郷之内多伊良村之事、被宛行平井

(和泉守訖、任御判)

之旨、可被打渡之由、依仰執達如件、(カ)

大永八年閏九月十九日

多伊良村ヲ平井  
和泉守ニ打渡サ  
シム

山香郷兩政所殿

山香郷兩政所

一五 大友義鑒感狀(紙切)

○豊田文書  
大分県史料一一

(端裏切封)  
「(墨引)」

就肥後國合力之儀、野田孫左衛門在陣、軍勞悦入候段、可被賀申候、恐々謹言、

(大友)  
義 鑒 (花押)

田北勘解由左衛門尉殿

二月十五日

肥後國在陣ノ軍  
勞ヲ賞ス

一五六 大友義鹽官途狀

○志手文書  
大分県史料 二

(包紙ウハ書)  
「野原孫兵衛尉殿

義鹽」

孫右衛門尉ノ官  
途ヲ与フ

任孫右衛門尉候、恐々謹言、

卯月三日

(大友)  
義鹽 (花押)

野原孫兵衛尉殿

(奥切封)  
「(墨引)」

一五九 大友義鹽受領狀

○志手文書  
大分県史料 二

(包紙ウハ書)  
「野原孫右衛門尉殿

義鹽」

對馬守ノ受領名  
ヲ与フ

任對馬守候、恐々謹言、

卯月三日

(大友)  
義鹽 (花押)

野原孫右衛門尉殿



120 大友義鑑安堵狀寫

○志手文書  
大分県史料一

名字由緒ノ地ヲ  
安堵ス

名字由緒地別稱在事、任筋目、領掌不可有相違候、恐々謹言、

十二月七日

志手新次郎殿

(大友) 義鑑 (花押)  
(異筆) (花押影)

○差出書「義鑑」ハ、花押ニヨレバ「鑿」ノ誤写ナラン。

121 山香郷給人帳

○田北政治文書  
増補訂正編年大友史料一五

山香郷給人領ヲ  
注ス

山香郷給人帳

一貳町壹段

林掃部介

一壹町立石村

同人

一貳町壹段

長野清左衛門尉

一貳町恒道名之内浮免

都甲伊豆守

一壹町七段立石村

立石但馬守

一六段同

都甲右衛門尉

恒道名

立石村

松村

行重名

誰門

一三段松村

一三町行重名

一九段三百步誰問

一九段立石村

一四段

一四段

一四段

一八段

広瀬村

一四段廣瀬村

一四段淨免

一六段

一壹町

一壹町立石村

一四段同

一五段同

一壹町壹段同

一壹町貳段同

同人

志手新次郎

同人

志手木工之助

都甲右馬介

何松雅樂介

長野彈正忠

宇野宮内允

廣瀬攝津守

同人

廣瀬縫殿介

長野兵庫助

長野五郎兵衛尉

長野主水介

長野又兵衛尉

古庄土佐守

吉弘八郎次郎

山香郷

山 香 郷

一六段

八坂新右衛門尉

一八段立石村

松尾大藏允

以上

懸持給人

懸持給人田數之帳

一拾壹町三段立石村

田原近江守

広瀬村船ヶ尾

一三町廣瀬村ノ内船ヶ尾

志賀民部大輔

日指

一拾五町日指之内

田北大和守

一九段小廣瀬村之内

津久見左馬助

一三町同村之内乎、

平井兵部少輔

今畑

一三町今畑

吉弘大藏少輔

一貳町八段

寒田薩广守

金堂名

一貳町貳段半金堂名

一万田彈正忠

一貳町五段浮免

次郎殿

一貳町三段立石村之内

中村紀伊助

一五町壹段浮免

小深田李助

一壹町四段

正惠

一壹町壹段浮免

牧藏人佐

大片平村

一 壹町同 吉良平四郎

一 四段貳百四拾步 大片平村之内 田口兵部少輔

一 四段貳百四拾步同 津久見太郎兵衛尉

一 壹町七段浮冤 高崎刑部少輔

一 貳町立石村之内 木付主計亮

一 壹町貳段 木付三郎左衛門尉

一 七段半立石村之内 若林越後守

一 六段半同 賀來加賀守

一 壹町六段 帶刀新右衛門尉

一 六段鶴成村之内 田北宮内少輔

一 六段同 上野掃部助

一 五段立石村之内 波多次郎四郎

一 七段周防分之内 御中間 大畠左京

一 四段赤山之内 吉弘中務少輔

一 壹町立石村之内 都甲柰之助

一 七段 田口右京亮

一 五段立石村之内 荒木長門守

山香郷

山 香 郷

一八段

平林將監(竊類)

一八段

平林彦左衛門尉

一壹町六段

賀來左馬之助

一三拾九町七段

一揆分

以上

一六三 大友義鑾知行預ヶ狀

○長野末夫文書  
大分県史料一一

(竊類切封)  
一(墨引)」

山香郷立石村五  
貫分ヲ預ク

山香郷立石之村之内、伍貫分

別紙付在

之事、預置候、可有知行候、恐々謹言、

(享慶元年)  
十二月九日

(大友)  
義 鑾 (花押)

長野又兵衛尉殿(長類)

一六三 白杵長景打渡狀

○長野末夫文書  
大分県史料一一

(包紙折リハ書)  
一「長野又兵衛尉殿

(竊類切封)  
一(墨引)」

民部少輔長景」

山香郷立石村公領五拾貫分ノ内ヲ打渡ス

山香郷立石村御公領五拾貫分内、任 御判之旨、坪付以別紙封裏、所打。申、如件、  
渡

享祿元年十二月廿七日

(白押)  
民部少輔(花押)

長野又兵衛尉殿

一六四 白杵長景裏封給地坪付

○長野末夫文書  
大分県史料一一

坪付

武末河内

一所 田地貳段 武末河内

一所 畠地貳段 同所

六段田

一所 田地三段 六段田之内

以上

(裏)  
「(花押)」

(享祿元年)  
十二月廿七日

長野又兵衛尉殿

山香郷

一六五 都甲常致讓狀

○工藤隆弘文書  
大分県史料一一

〔（墨引）〕

山香郷檀尾七段  
ヲ広瀬九郎ニ譲  
ル

山香郷之内、檀尾七段分之事、任 御判之旨、廣瀬藤九郎所與讓也、仍讓狀如件、  
享祿五年八月十八日  
（マ）  
都甲 常致（花押）

○本文書ノ差出書ノ「都甲」ハ檢討ヲ要ス。付録「工藤氏系図」参照。

一六六 大友義鹽名字書出寫

○長野康雄文書  
大分県史料一一

加冠シ鹽言ト名  
乗ラシム

加冠名字事

清原鹽言

（天文元年）  
享祿五年八月廿一日

一六七 大友義鹽名字狀

○長野末夫文書  
大分県史料一一

（包紙ウハ書）  
「長野七郎」

義鹽

名字ヲ与フ

名字之事、以別紙認進之候、恐々謹言、

八月廿九日

(大友)  
義 鑒 (花押)

長野七郎殿

(奥切封)  
「(墨引)」

○以下義鑒花押、天文元年〜同十六年 (一五四七) 頃マデノモノ、(4) 類型 (『大分県史料』一〇〇) 二変ル。

二六 大友義鑒感狀 (紙切)

○長野末夫文書  
大分県史料一一

(端裏切封)  
「(墨引)」

豊前發向ノ軍勞  
ヲ賞ス

就今度豊前國發向之儀、從最前、以出陣所々手仕、軍勞感悅候、彌可被勵忠儀事、肝要候、何様追  
而、一段可賀申候、恐々謹言、

(天文元年カ)  
十二月十一日

(大友)  
義 鑒 (花押)

(孫次郎)  
長野主水助殿

二九 大友義鑒感狀 (紙切)

○長野末夫文書  
大分県史料一一

(端裏切封)  
「(墨引)」

山 香 郷

五一七



豊前發向ノ軍勞ヲ賞ス

就今度豊前國發向之儀、自最前以出陣、所々手仕、軍勞感悅候、彌可被勵忠儀事、肝要候、何様追而、一段可賀申候、恐々謹言、

(天文元年カ)

十二月十一日

(大友) 義 鑒 (花押)

長野又兵衛尉殿

一七〇 大友よし鑒感狀

○小野尾文書  
大分県史料一一

豊前發向ノ軍勞ヲ賞ス

今度豊前國發向ニ付、自最前以出陣、所々手仕、軍勞感悅候、かならず追而可賀也、穴賢、

(天文元年カ)

十二月十一日

(大友) よし鑒 (花押)

小野尾二郎左衛門とのへ

一七一 大友よし鑒感狀(紙切)

○児玉文書  
大分県史料一一

(端裏切封)  
「(墨引)」

豊前發向ノ軍勞ヲ賞ス

今度豊前國發向ニ付、自最前以出陣、所々手仕、軍勞感悅候、かならず追而可賀也、穴賢、

(天文元年カ)

十二月十一日

(大友) よし鑒 (花押)

松川孫四郎との

一七三 大友よし鑿感狀(紙切)

○豊田文書  
大分県史料一一

(端裏切封)  
「(墨引)」

豊前発向ノ軍勞  
ヲ賞ス

今度豊前國發向ニ付、從最前以出陣、所々手仕、軍勞感悅候、かならず追而可賀也、穴賢、

(天文元年乙)  
十二月十一日

(大友)  
よし鑿(花押)

長田孫左衛門との

一七三 大友義鑿感狀

○田北惠明文書  
増補訂正編年大友史料一六

(包紙ウハ巻)  
「田北次郎三郎殿

義  
鑿」

鹿越ニ牢人現形  
ノ時ノ馳走ヲ賞  
ス

至鹿越城、牢人楯籠候之處、則時出張之條、彼殘黨等、敗北候、先以肝要候、今度別而馳走之段、

祝着候、恐々謹言、

(天文二年)  
三月廿九日

(大友)  
義  
鑿(花押)

田北次郎三郎殿

一七四 大友義鑒感狀

○大友家文書錄  
大分県史料三四

鹿越ニ牢人現形  
ノ刻ノ馳走ヲ賞  
ス

至今度鹿越、牢人現形之刻、不日馳走之條、彼惡黨則時之敗北、先以肝要候、何様、追而可申候、

恐々謹言、

(天文二年)

卯月二日

(大友)  
義鑒判

久保彦兵衛殿

一七五 大友義鑒感狀

○能一文書  
増補訂正編年大友史料一六

鹿越ニ牢人現形  
ノ時ノ馳走ヲ賞  
ス

至今度鹿越、牢人現形之刻、以吉岡左衛門大夫同陣、不日馳走之條、彼惡黨即時敗北、先以肝要

候、必追而賀可申候、恐々謹言、

(天文二年)

卯月二日

(大友)  
義鑒(花押)

能一縫殿助殿

鹿越ニ牢人現形  
スノ時ノ馳走ヲ賞

一七六 大友義鑿感狀

○碩田義史所収田口文書  
増補訂正編年大友史料一六

至今度鹿越、窄人現形之刻、以田口掃部助同陣、不日馳走之條、彼惡黨、即時敗北候、先以肝要候、必追而、賀可申候、恐々謹言、

(天文三年)  
卯月二日

(大友)  
義 (鑿方)  
鑑判

勾右馬允殿

○天文二年頃大友「義鑑」ハ「義鑿」ノ字ヲ用フ。

一七七 大友義鑿感狀

○荒木允け文書  
増補訂正編年大友史料一六

鹿越ニ牢人現形  
スノ時ノ馳走ヲ賞

至今度鹿越、窄人現形之刻、以山下和泉守同陣、不日馳走之條、彼惡黨敗北、先以肝要候、何様追

而、賀可申候、恐々謹言、

(天文三年)  
卯月二日

(大友)  
義 (花押)

荒木右衛門尉殿

一頁 大友義鑿感狀(紙切)

○中村文書  
大分県史料二五

(包紙ワハ書)  
一十五

鑑

中村藤十郎殿

(端裏切封)  
「(墨引)」

(大友)  
義 鑿

鹿越ニ牢人現形  
スノ時ノ馳走ヲ賞

至今度鹿越、牢人現形之刻、以吉岡左衛門大夫同陣、不日馳走之條、彼惡黨即時敗北、先以肝要候、必追而、賀可申候、恐々謹言、

(天文二年)  
卯月二日

(大友)  
義 鑿 (花押)

中村藤十郎殿

一頁 大友義鑿感狀(紙切)

○平林文書  
大分県史料二五

(端裏切封)  
「(墨引)」

鹿越ニ牢人現形  
スノ時ノ馳走ヲ賞

至今度鹿越、牢人現形之刻、以吉岡左衛門大夫同陣、不日馳走之條、彼惡黨即時敗北、先以肝要候、必追而、賀可申候、恐々謹言、

(天文二年)  
卯月二日

(大友)  
義 鑿 (花押)

平林太郎兵衛尉殿

120 大友義鑒感狀(紙切)

○佐土原文書  
大分県史料一三

(端裏切封)  
一(墨引) ㄣ

鹿越ニ牟人現形  
ノ時ノ馳走ヲ賞  
ス

至今度鹿越、牟人現形之刻、以清田兵庫頭同陣、不日馳走之條、彼惡黨等即時敗北、先以肝要候、  
何様追而、賀可申候、恐々謹言、

(天文二年)  
卯月二日

(天友)  
義鑒(花押)

佐土原満足殿

121 大友義鑒感狀

○佐土原文書  
大分県史料一三

(端裏切封)  
一(墨引) ㄣ

鹿越城ニ牟人現  
形ノ時ノ馳走ヲ  
賞ス

至今度鹿越城、牟人現形之刻、以清田兵庫頭同陣、不日馳走之條、彼惡黨即時敗北、先以肝要候、  
何様追而、賀可申候、恐々謹言、

(天文二年)  
卯月二日

(天友)  
義鑒(花押)

波津久彌三郎殿

鹿越城ニ半人現  
賞ス形ノ時ノ馳走ヲ

鹿越城ニ半人現  
賞ス形ノ時ノ馳走ヲ

一八三 大友義鑿感狀(紙切)

○薬師寺文書  
大分県史料一二

(端裏切封)  
「(墨引)」

至今度鹿越、窄人現形之刻、以津久見左馬助同陣、不日馳走之條、彼惡黨敗北、先以肝要候、何様追而、賀可申候、恐々謹言、

(天文二年)  
卯月二日

薬師寺右馬允殿

(大友)  
義鑿(花押)

一八三 大友義鑿感狀(紙切)

○薬師寺文書  
大分県史料一二

(端裏切封)  
「(墨引)」

至今度鹿越、窄人現形之刻、以津久見左馬助同陣、無足之軍勞感悦候、何様追而、賀可申候、恐々謹言、

(天文二年)  
卯月二日

薬師寺與一殿

(大友)  
義鑿(花押)

一八四 大友義鑿感狀

○大友家文書録  
大分県史料三二

鹿越ニ牢人現  
形ノ時ノ馳走ヲ  
賞ス

至今度鹿越、牢人現形之刻、以吉岡左衛門大夫(長傳)陣、不日馳走之條、彼惡黨即時敗北、先以肝

(要候) 必

追而、賀可申候、恐々謹言、

(天文三年)  
卯月二日

(大友)  
義鑑 在判

德丸右衛門尉殿

○「義鑑」ハ「義鑿」ノ誤リナルベシ。

一八五 大友義鑿感狀寫

○右田文書  
熊本県史料中世四

鹿越ニ牢人楯籠  
リシ時ノ粉骨ヲ  
賞ス

今度至鹿越、楯籠候牢人敗北之刻、粉骨之次第感悦候、必追而、可賀申候、恐々謹言、

(天文三年)  
卯月十三日

(大友)  
義鑿 在判

右田三河守殿



一八六 大友義鑒感狀寫

○右田文書  
熊本県史料中世四

鹿越三半人楯籠  
リシ時ノ粉骨ヲ  
賞ス

今度至鹿越、楯籠候半人敗北之刻、粉骨之段感悦候、必追而、可賀申候、恐々謹言、

四月十三日

義鑒 (花押影)

右田次郎殿

一八七 大友義鑑書狀

○岐部文書  
大分県史料一〇

一 (墨引)

塚目敵現形ノ情  
報ニヨリ有事ニ  
懸付ケシム

至塚目敵可現形之由、到來候、於事實者、各被申談、則時可被懸付事、肝要候、至山香津久

見・寒田、其外寄々衆、申付候之由、不日可出張候、猶下兵部亟可申候、恐々謹言、

壬正月十三日

義鑑 (花押)

眞玉掃部助殿

竹田津兵部少輔殿

帶刀和泉守殿

櫛來新右衛門尉殿

都甲新左衛門尉殿

吉弘中務少輔殿

岐部能登守殿

六郷山<sup>(秋)</sup>行御房

其外<sup>(冬)</sup>衆御中

一八 大友義鑑感狀<sup>(紙切)</sup>

○長野末夫文書  
大分県史料一

<sup>(冬紙折封ウハ書)</sup>  
「長野主水助殿

<sup>(端裏切封)</sup>  
「(墨引)」

義鑑」

山香口現形ノ敵  
ヲ追崩セン軍忠  
ヲ賞ス

前三日於山香口、敵現形之刻、則時懸合、被追崩之由候、忠儀感悅候、彌申談、可被勵忠貞事、肝  
要候、必取鎮、一段可賀申候、恐々謹言、

<sup>(天文三年カ)</sup>  
二月六日

<sup>(大友)</sup>  
義鑑<sup>(花押)</sup>

長野主水助殿

山香郷

一八九 田原親董感狀寫

○片山文書  
大分県史料一〇

山香表ノ軍忠ヲ  
賞ス

於今度山鹿表、各雖對<sup>(場カ)</sup>場候、僅從相共々之故、小者被矢疵之由云々、軍忠太稜候、益々勤勞此節ニ候、恐々謹言、

二月七日

親 董

片山仁兵衛殿

一九〇 大友よし鑑感狀

○小野尾文書  
大分県史料一一

現形ノ敵ヲ擊退  
セル軍忠ヲ賞ス

至堺目、敵現形之刻、則時懸付追崩候、忠儀感心候、彌於勵忠貞者、必取鎖、一段可賀之候也、

二月十二日

よし鑑 (花押)

小野尾二郎左衛門とのへ

一九一 大友義鑑感狀 (紙切)

○薬師寺文書  
大分県史料一二

「端裏切封」  
「墨引」

佐田口手仕ノ軍  
忠ヲ賞ス

前廿日、於佐田口手仕之刻、津久見左馬助以同陣、粉骨之由、誠感悅候、彌忠儀憑入候、必追而、

一段可賀申候、恐々謹言、

二月卅日

義鑑 (花押)

藥師寺右京亮殿

一五三 大友義鑑感狀 (紙切)

○長野末夫文書  
大分県史料一

「長野又兵衛尉殿

義鑑」

佐田口手仕ノ粉  
骨ヲ賞ス

前廿日、於佐田口手仕之刻、粉骨之由誠感悅候、彌忠儀憑入候、必追而、一段可賀申候、恐々謹言、

二月卅日

義鑑 (花押)

長野又兵衛尉殿

一五三 大友義鑑感狀 (紙切)

○曾根崎元一文書  
大分県史料九

「曾禰崎助三郎殿

義鑑」

山香郷

佐田口手仕ノ粉  
骨ヲ賞ス

前廿日、於佐田口手仕之刻、津久見左馬助以同陳、爲無足粉骨之由、感悅候、彌忠儀憑入候、必追而、一段可賀申候、恐々謹言、

(天文三年)

二月卅日

(大友) 義鑑 (花押)

曾禰崎助三郎殿

一九 田原親董恩賞宛行狀寫

○片山文書  
大分県史料一〇

高田夜懸ノ辛勞  
ヲ賞シ安岐郷内  
ノ地ヲ扶助ス

就今度高田夜懸、一段辛勞無比類候、其償として、本意之砌、安岐郷之内ニ而も、貳拾五貫分、可賀扶助候、以此旨、彌忠儀干要ニ候、恐々謹言、

(天文三年)

三月十七日

(田原) 親董

片山仁兵衛殿  
まゐる

一五 大友吉弘系圖

○史料編纂所本  
増補訂正編年大友史料三二

十 親信

石見守、於博多討死、

十一 氏直

吉弘氏直山香郷  
ニ戦死ス

石見守、於山香郷討死、  
天文三年午四月六日

十二  
アキタ  
鑑理

董名太郎、其後藏人佐、其後伊豫守、其後左近大夫、初鑑直、天正六年戊寅十一月十一日、戦死于日向耳川、

一 一 吉弘氏直等供養碑銘

○白井昭一調査記録  
速見郡山香町大字野原大村山

吉弘氏直等戦死  
ス

(正面)

夷山□所仁位

室對馬守

□間掃部助

丸小野三郎左衛門尉

品川外記守

末綱

孝養大力与三兵衛尉

(側面)

六郷兩子寺住 大願主目代千徳坊辻子小野院主

敬白

十四

(裏面)

六郷兩子寺  
辻子小野院主

山香郷

天文三年四月六日打死早□小□人

〔側面〕

□中間□

十人

一七 吉弘氏直再建墓碑銘

○増補訂正編年大友史料一六  
速見郡山香町大字野原大村山

〔墓〕  
源氏直之墓、

吉弘氏直勢場原  
ニ戦死ス

〔墓〕  
吉弘氏、其先出大友氏、大友豊前々司能直十二男、稱田原中務少輔泰廣、五世又三郎正賢、居豊後國國東郡吉弘村、因以爲氏、正賢八世傳石見守氏直、氏直戰死于勢場原、于時天文三年甲午四月六日也、葬大村山上、諡源山氏公、距今數年、碑石朽面折、今茲寛政十三年辛酉二月、新命石切改造焉、十一世孫肥後騎士吉弘加左衛門正雄謹書、

天文三年四月六日大村山ニ葬ル

一八 寒田親將供養板碑銘

○白井昭一調査記録  
速見郡山香町大字野原大村山

井本但馬守

同 孫兵□尉

〔梵字了〕

寒□三河守智音居士

家人 右京進

天文三年甲卯□

寒田親將以下戰死者ヲ供養ス

古庄藤三郎

佐藤左京亮

樋口縫殿助

新次郎

一九 寒田親將再建墓碑銘

○增補訂正編年大友史料一六  
速見郡山香町大字野原大村山

〔寒田三〕河守寒應智音大居士、

寒田親將山香郷  
大村山ニ戰死ス  
天文三年卯月六日

〔寒田氏、其先出大友氏、大友左近將監能直七世、寒田三河守親將、戰死于豊後國大村山、實天文三

年卯月六日也、葬大村山上、謚智音公、碑石距今數年而折、文政甲申十一月、再命工改造焉、十一

世孫筑後柳川士寒田新介鎮邑謹再建、

二〇〇 丸小野次郎左衛門尉供養碑銘

○白井昭一調査記録  
速見郡山香町大字野原大村山

〔右側面〕  
「是生滅法」

〔正面〕

天文三年甲午四月初六日

眞翁仙公居士

丸小野次郎左衛門尉廿一歳

〔左側面〕  
「寂滅爲樂」

山 香 郷



二〇一 眞玉氏系圖

○眞玉寺文書  
西国東郡眞玉町眞玉寺藏

能實

眞玉刑部左衛門尉  
母寒田市太郎源寬光女

○事  
續略

親房

眞玉太郎 伊織助 掃部助

眞玉親房山香郷  
大邨合戦ニ戦死

大内軍高田浦ニ  
渡海着岸ス

母吉弘右馬助源輝興女  
大永元辛巳五月、受大友親治公命而、相繼父遺眞玉庄地頭職、

天文三年庚午三月、大内義隆卿促大軍、渡海着岸于高田浦、依之親房以手勢、馳向敗北矣、

同年四月六日、於山香郷大。邨合戦、味方軍大將吉弘石見守直氏・寒田三河守親將以下諸將士卒、悉皆討死、

親房同時討死、三十二歳、

號見性院殿一忠大功大居士、

二〇二 秋吉系圖

○秋吉文書  
大分県史料一〇

氏兼

秋吉新助 後新兵衛尉

母帆足長門守女 贈慈溪妙雲大姉

○事績  
中略

山香郷大群野合  
戦ノ時奮戦ス

大群野合戦ニ戦  
死ス

大友軍大村山上  
ニ陣ス

忠續

秋吉新次郎 治郎左衛門

母藥丸左馬介能親女、若狭守親守姉 贈持隆貞總大姉

天文三甲午、大内義隆陣代陶三河守與房襲來之時、大友衆於山香郷大群野合戦、大友方敗軍云、此時、吉弘岩見守・寒田三河守以下侍大將、多勢討死、忠續與藥丸親守並舍策等、從吉弘右馬丞・重藤・深江衆十八騎、盡死力

拂敵、扶數ヶ處痛手、而歸爲木付紀伊守親實保守臺城云、大友義鎮公、賜太刀感狀云、○中略

忠秀

秋吉勸十郎 叔父爲藥丸若狭守親守養子、母同上 天文三甲午年、山香郷大群野於テ討死矣、

### 二〇三 大村陣勢場合戦記

○増補訂正編年大友史料一六  
原本所在未詳

○首 大内義隆憤りて、豊後に攻め入らむと、大將には陶美作守・杉長門守等を先として、其勢大凡三千餘騎、實に天文三年<sup>甲午</sup>三月廿六日、中國を打立、下關を渡海し、豊前國京都郡に押寄せ來る。依て此由大友方に注進ありければ、大友氏聞召し、今大内の軍勢何千騎にて寄するとも、軍所に所謂<sup>唐也</sup>遠く敵國を犯すとも地理不察なる可し、<sup>(内説之)</sup>逸を以て勞を待つ、勝利を得る事必せりと。即ち大將には吉弘石見守氏直・寒田三河守親將を先として、其他田北勘解由左衛門鑑生・田原次郎左衛門・木付右衛門大夫・長野越後守・野原對馬守昌久・志手加賀守泰久・都甲伊豆守惟秀・廣瀬美濃守祐則・帶刀右京亮・中山彈正、是等を家從の大將として、其勢大凡二千八百餘騎、其他速見・國東兩郡の小給人、我もくと先を争ひ、山香郷大村山の頂上に馳せ集り、軍の評定をぞ致されける。二番備

山香郷

中國勢ハ糸口原  
ニ陣ス

大友軍ハ地藏峠  
及ビ立石峠ヲ守  
ルベシ

大内軍佐田峠ニ  
廻リ勢場原ニ出  
ヅ

大友勢ヲ立石峠  
地藏峠ニ分遣ス

大内軍勢場ヶ原  
ニ出撃ス

の大將には、大神彌七郎鎮氏・林佐渡守鎮治、手勢三百餘騎を引具し、鹿鳴越の嶺に砦を構ふ。扱て中國の大將陶美作守・杉長門守は、豊前の國絲口原に野陣を張り、敵の強弱を窺はむと、物見を出すに、大友方には、山香郷大村山に陣營を張りたる事相分れば、軍議するに、山浦村に越ゆる地藏峠は、近道なれども小路險しく、一騎討の攝處にして、一夫之を守れば、萬夫も之に當る事能はず。又立石峠を越ゆるも、谷幅狭く、大軍を通ずるに利あらず。此二峠は、必ず敵の守るべき所なれば、我兵之を越ゆるは可ならずと。即ち軍騎を佐田峠に廻して、山浦村勢場原に出でにける。扱て大友方の大將吉弘石見守・寒田三河守、軍勢を集めて申けるは、中國勢地理不案内と雖も、遠く敵國を犯すことなれば、定めて導あるべし。立石峠、地藏峠は無双の難處にて、一夫之を守らば大敵と雖も越難し。此所にて一騎も不殘討取るべし、と下知して、二千八百餘騎を三手に分ち、大將の本陣大村山に千騎を残し、千八百餘騎を地藏峠、立石峠に差向けける。兩峠の軍今や戦始まると待居る所に、思もよらず中國勢は、旗を東風に翻し、山浦村勢場ヶ原に出でければ、味方の大將を始めとし、一同敵軍忽ち天より降るかと思きける。敵兵も大村山を見上げ、軍勢を張りて鯨波をぞ揚げにければ、大友方兵を指揮して云ひけるは、敵兵遠路に疲ぬれば、味方は小勢と雖も、必ず勝利を得ること疑ひなし、敵に足を止めさせるは一大事、と下知あれば、廣瀬美濃守の云へるには、我勢今三手に分れたれば甚だ小勢なり。押懸ては不覺を取るべし。立石峠、地藏峠に急使を以て此由申遣はし、其時此方より馳せ下り、挟み討つべし。若し又敵兵それ迄登り參らば、往古楠正成が千早城にて足利十萬の大敵を小勢にて支へし如く、此所より大石杯をこかさば、以て敵兵を敗

寒田・吉弘山ヲ下リテ戦フ

大内義隆譜代ノ士藤井三太夫罪ヲ得豊後ニ走ル大内軍大將陶晴賢・杉長門守

豊後大將吉弘氏直・寒田親將

山香郷大群野鹿越城守備

北せしむること案にあり。今暫く敵勢の謀を見んこと良策なれ、と云ひけるに、(寒田親將)三河守、吉弘の申けるは、其理尤もなれど、敵の寄するを見て猶豫せんも卑怯なりと、軍配を執つて馳下る。實に天文三年甲午四月六日未の刻のことなるが、原の平地に軍を備ふれば、中國勢も鶴翼に軍を備へける。

○以下兩軍白兵戦トナリ、吉弘・寒田等戦死ノコトニ係ル。本文省略。

## 二四 勝山歴代豊城世譜

○大分県立図書館本  
乾

十三世親實紀伊守大炊助譜○中略

天文三年甲午、大内左京大夫義隆カミと大友義鑑アキ不慮の確執出來し、中國勢豊後に亂入す。其根本を尋るに、義隆の譜代の士、藤井三太夫と云者あり、○中略、藤井三太夫罪ヲ得、死罪ニ決スルヲ逃レ豊後ニ走ル。義鑑、大内氏ヨリノ引渡要求ノ使節ヲ斬ル事ニ端ヲ發シ、大内軍渡海山香郷ニ攻義隆公忿憤して、(傳)急ぎ豊後に亂入して、此怨を執んと、大將陶美作守晴賢・杉長門守を先驅として、相従ふ軍勢三千餘騎、同三月廿六日早天、防州山口を打立、長州下關より渡海

し、豊前中津郡迄押來る。此事府内に聞えければ、押の大將には吉弘石見守氏直・寒田三河守親將兩人を命ぜられ、相従ふ人々には、志手加賀守泰久・都甲伊豆守惟秀・廣瀬美濃守法致・帶刀右京亮・中山彈正忠、此等を宗徒の軍將とし、田原親宏・木付親實を後殿とす。其勢二千八百餘騎、速見郡山香郷大群野に出張、○中略此外大神彌七郎鎮氏・林佐渡守兩人、手勢三百五十騎引具し、鹿越

大内軍佐田峠ヨリ勢場ヶ原ニ侵出合戦

城に控へ、今や寄すると待ち居たり。中國勢は豊前宇佐郡糸口原に陣を敷き、夫より山香郷に斥候を入れ、合戦の足場を占め、四月六日の朝、佐田峠に差懸り、直に勢場ヶ原に野陣して、大友勢の籠りたる大群山を見上げたるに、怠りなきの對陣。吉弘氏直味方に下知して、○中勢場の平野に操下す。

○以下両軍交戦シ、吉弘氏直、寒田親将等ノ戦死ノ事ニ係ル。本文省略。前号「大村陣勢場合戦記」等参照。

二〇五 佐田朝景感狀

○佐田秀穂文書  
増補訂正編年大友史料一六

楠木原圍居攻略ノ軍忠ヲ賞ス

於昨日六御働之時、楠木原圍居執懸之處、則時ニ切崩、分捕頸一、一見了、尤高名之次第、神妙之至也、彌可被抽忠節之狀、如件、

天文三年四月七日

(佐田) 朝 景 (花押)

右馬允殿

○大群野合戦ニ係ルモノナラン。「楠木原」ハ山香町大字吉野渡字楠原ニ当ルカ(付録「大字・小字一覽表」参照)。

二〇六 大友義鑑感狀

○古後文書  
大分県史料一三

豊前国発向ノ辛勞ヲ賞ス

前六、至豊前國取入、所々發向之刻、別而辛勞之由、忠儀誠感悅候、彌忠貞憑入候、必追而一段可

賀申候、恐々謹言、

(天文三年)

卯月八日

(大友) 義鑑 (花押)

古後清次郎殿

(包紙ウハ書)

「古後清次郎

義鑑」

○『大分県史料』ハ天文二年ニ比定ス。

二〇七 相良武任奉書

○佐田文書  
熊本県史料中世二

勢場原合戦ノ軍  
忠状ヲ披露ス

去六日、於豊後國山香郷合戦之時、討捕頸七、被送進之通、以杉七郎(重信)、注進状遂披露畢、御感状

事、軍忠状到來之時、可被成下之由候、恐々謹言、

(天文三年)

四月十日

(相良) 武任 (花押)

佐田因幡守殿

(朝景)

二〇八 大友義鑑感状 (紙切)

○志手文書  
大分県史料一

(包紙ウハ書)  
「野原對馬守殿

義鑑」

(端裏切封)  
「(墨引)」

山香郷

山香郷

山香郷合戦ノ忠ヲ賞ス

去六 山香郷合戦之刻、別而碎手被疵之由、忠儀無比類之條、必追而、可賀之候、恐々謹言、

(天文三年)  
卯月十日

(大友)  
義鑑(花押)

野原對馬守殿

三〇九 大友義鑑感狀

○大友家文書錄諸田文書  
増補訂正編年大友史料一六

勢場原合戦ノ粉骨ヲ賞ス

去六、至山香郷敵取懸候之刻、終日遂防戰、(音弘臣)見守討死、無是非候、然者、在氏直一所、粉骨

□□□之由候、忠貞誠感悅候、必至鑑直、一段可賀申候、恐々謹言、

(天文三年)  
四月十一日

(大友)  
義鑑 在判

諸田主殿助殿

三〇 杉重信重書狀

○佐田文書  
熊本県史料中世二

頸注文送進ニ付御返事ヲ持進ス

至 御座所、頸被送進之候、御返事到來候間、持進之候、委細以奉書、被仰出候間、不能詳候、

恐々謹言、

(天文三年)  
卯月十四日

(杉七郎重信)  
重信(花押)

佐田因幡守殿

御宿所

大牟礼山合戦ノ  
軍忠ヲ賞ス

### 三一 大内義隆感狀

○宇佐郡地頭職伝記所収中山文書  
増補訂正編年大友史料一六

去六日、於豊後國山香郷大牟禮山、合戦之時、敵二人討捕之由、猶七郎重信注進、并軍忠狀、同頭  
到來了、彌可勵功之狀、如件、

天文三年四月十七日

(大内義隆)  
(花押)

○宛名ヲ欠ク。中山太郎左衛門尉殿宛カ。

### 三二 大友義鑑感狀

○植木義勝文書  
増補訂正編年大友史料一六

大群山合戦ノ忠  
ヲ賞シ遺跡ヲ安  
堵ス

去六、於山香郷大群野、敵取懸之刻、味方仕<sup>(合カ)</sup>慮外之趣、既及難儀申候處、父甚右衛門盡粉骨相  
働、敵數輩討捕、戰死之由、忠貞寔無比類候、仍遺跡有相違問敷候、必追而一段可賀之趣、尙田原  
常陸介可申候、恐々謹言、

天文三年 四月廿日

(大友)  
義鑑 (花押)

植木次郎殿

○本文書檢討ノ余地アリ。



三三 大友義鑑感狀(紙切)

○渡辺文書  
大分県史料三五

(鑑裏切封)  
「(墨引)」

勢場原合戦難儀  
ノ際鹿越城勤番  
ヲ遂ゲシヲ賞ス

去六至山香口、敵取懸之刻、味方仕立慮外之故、既及難儀之處、以堅固之地躰、鹿越城被遂勤番候、忠貞寔無比類候、彌無油斷才覺、憑入候、必追而、一段可賀申候、恐々謹言、

(天文三年)  
四月廿日

(大友)  
義鑑(花押)

渡邊遠江守殿

三四 大友義鑑感狀(紙切)

○渡辺文書  
大分県史料三五

勢場原合戦難儀  
ノ際鹿越城勤番  
ヲ遂ゲシヲ賞ス

去六至山香口、敵取懸候之刻、味方仕立慮外之故、既及難儀之處、以堅固之地躰、鹿越城無異儀、被遂勤番候、忠貞寔無比類候、彌無油斷才覺、憑入候、必追而、一段可賀申候、恐々謹言、

(天文三年)  
四月廿日

(大友)  
義鑑(花押)

渡邊左京亮殿

二五 大友義鑑感狀

○豊田文書  
大分県地方史二二〇

〔編纂粉封〕  
一〔墨引〕

山香口ニ於ケル  
忠貞ヲ賞ス

去六至山香口、敵取懸候刻、別而碎手候者、忠儀誠無比類候、彌忠貞肝要候、必追而、一段可賀之候、恐く謹言、

〔天文三年〕

四月廿一日

〔大友〕  
義鑑〔花押〕

松尾彦右衛門尉殿

二六 大友よし鑑感狀寫〔紙切〕

○到津文書  
大分県史料二四

〔編纂書〕  
一豊後はやミノくん

勢場原合戦ノ粉  
骨ヲ賞ス

去六至山香口、敵取懸候刻、遂合戦、へつして粉骨、殊小者二人被疵之由、忠儀誠感悦候、彌忠貞かんように候、必追而、一段可賀之也、

〔天文三年〕

四月廿一日

〔大友〕  
よし鑑〔花押〕

大河内右京とのへ

二七 大友義鑑感狀(紙切)

○長野康雄文書  
大分県史料一

(墨引)

勢場原合戦ノ忠儀ヲ賞ス

去六至山香口(郷)、敵取懸候之刻、別而被碎手之由候、忠儀寔無比類候、彌忠貞憑存候、必追而、一段可賀申候、恐々謹言、

(天文三年)  
四月廿一日

(大友)  
義鑑(花押)

長野又兵衛尉殿(長郷)

○田北学『増補訂正編年大友史料』一六八、スベテ「口」ヲ「郷」トス。

二八 大友義鑑感狀

○長野末夫文書  
大分県史料一

勢場原合戦ノ忠貞ヲ賞ス

去六至山香口、敵取懸之刻、別而被碎手之由候、忠儀誠無比類候、彌忠貞憑存候、必追而、一段可賀申候、恐々謹言、

(天文三年)  
四月廿一日

(大友)  
義鑑(花押)

長野主水助殿

勢場原合戦ノ忠儀ヲ賞ス

三九 大友義鑑感狀(紙切)

○長野末夫文書  
大分県史料一一

(端裏切封)  
一(墨引)「

去六至山香口、敵取懸候刻、別而被碎手之由候、忠儀誠無比類候、彌忠貞憑存候、必追而、一段可

賀申候、恐々謹言、

(天文三年)

四月廿一日

長野七郎殿

(大友) 義鑑(花押)

三〇 大友義鑑感狀(紙切)

○長野末夫文書  
大分県史料一一

(包紙ウハ巻) 一長野兵庫助殿

(端裏切封) 一(墨引)「

義鑑「

勢場原合戦ノ忠儀ヲ賞ス

去六至山香口、敵取懸候之刻、別而碎手之由候、忠儀寔無比類候、彌忠貞憑存候、必追而、一段可

賀申候、恐々謹言、

(天文三年)

四月廿一日

長野兵庫助殿

(大友) 義鑑(花押)

山 香 郷

勢場原合戦ノ忠儀ヲ賞ス

勢場原合戦ノ忠儀ヲ賞ス

三三 大友よし鑑感状

○小野尾文書  
大分県史料一一

去六至山香口、敵取懸候之刻、<sup>(大志)</sup>遂合戦へつして粉骨、殊小者一人被疵之由、忠儀感悦候、彌可抽忠節事、かんように候、必追而、一段可賀之也、

<sup>(天文三年)</sup>  
四月廿一日

<sup>(大志)</sup>  
よし鑑(花押)

小野尾二郎左衛門とのへ

三三 大友よし鑑感状

○小野尾文書  
大分県史料一一

去六至山香口、敵取懸候之刻、遂合戦、別而粉骨之由、忠儀寔感悦候、彌忠貞かんにように候、必取鎮、一段可賀之也、

<sup>(天文三年)</sup>  
四月廿一日

<sup>(大志)</sup>  
よし鑑(花押)

小野尾二郎兵衛とのへ

勢場原合戦ノ忠儀ヲ賞ス

勢場原合戦ノ忠儀ヲ賞ス

三三 大友よし鑑感狀(紙切)

○松田文書  
大分県史料二一

去六至山香口、敵取懸之刻、遂合戦、へつして粉骨之由、忠儀寔感悦候、彌忠貞かんにように候、必取鎮、一段可賀之也、

(天文三年)  
四月廿一日

(大友)  
よし鑑(花押)

六太郎掃部とのへ

三四 大友義鑑感狀(紙切)

○宇野文書  
大分県史料二一

去六至山香<sup>(口、敵取懸候之)</sup>之刻、別而被碎手之由候、忠儀寔無比類候、彌忠貞憑存候、必追而、一段可

賀申候、恐々謹言、

(天文三年)  
四月廿一日

(大友)  
義鑑(花押)

宇野宮内丞殿

三五 大友義鑑感狀(紙切)

○薬師寺文書  
大分県史料一二

(端裏切封)  
一 (墨引) 一

於今度山香口、以津久見左馬助同陣、長々在陣軍勞、殊去六敵取懸候之刻、別而粉骨之由、忠儀感  
悦候、必追而、一段可賀申候、恐々謹言、

(天文三卷)  
四月廿一日

(大友)  
義鑑 (花押)

薬師寺右馬助殿

三六 大友義鑑感狀(紙切)

○薬師寺文書  
大分県史料一二

(端裏切封)  
一 (墨引) 一

於今度山香口、以(津久見)左馬助同陣、爲無(足)在陣軍勞、殊取懸之刻、別而粉骨、忠儀感悦候、  
必追(而)一段可賀申候、恐々謹言、

(天文三卷)  
四月廿一日

(大友)  
義鑑 (花押)

薬師寺與一殿

勢場原合戦ノ忠  
儀ヲ賞ス

勢場原合戦ノ忠  
儀ヲ賞ス

勢場原合戦ノ忠儀ヲ賞ス

三七 大友義鑑感狀

○工藤隆弘文書  
大分県史料一一

(鑑裏切封)  
一(墨引) 一

去六至山香口、敵取懸之刻、別而被碎手候之由候、忠儀誠無比類候、彌忠貞憑存候、必追而一段可賀申候、恐々謹言、

(天正四年)  
四月廿一日

(天友)  
義鑑(花押)

廣瀬藤九郎殿

三六 大友義鑑感狀

○長野末夫文書  
大分県史料一一

(鑑裏切封)  
一(墨引) 一

去六至山香口、敵取懸候之刻、別而被碎手申候、(申九)忠儀寔無比類候、彌忠貞憑存候、必取鎮、一段可賀申候、恐々謹言、

(天正五年)  
四月廿八日

(天友)  
義鑑(花押)

長野次郎殿

勢場原合戦ノ忠儀ヲ賞ス



三九 大友義鑑感狀案

○志手文書  
大分県史料二一

勢場原合戦ニ粉  
骨ヲ尽スヲ賞ス

今度大智輝元出勢、當國亂入候處ニ、其方も早速注進仕候條、可被發向候得共、吉弘石見守・寒田河内守指遣剋、其許之行能仕、大將杉長門守・陶美作守討捕、殘黨悉退治仕候、別而被抽粉骨、無比類仕合、感悅之至ニ候、尙追而、一段可加之候、恐々謹言、

(天文三年)

六月十一日

(大友)  
義 鑑

野原上總守殿

綾部備前守殿

○大智輝元ハ、大内輝元ノ意カ。當時、大内義隆ノ時代ニシテ、毛利輝元ト混同セルモノナラン。本文書偽文書ナルベシ。

三〇 大内義隆感狀

○佐田文書  
熊本県史料中世二

大牟礼山合戦ノ  
軍忠ヲ賞ス

去四月六日、於豊後國大牟禮山合戦之時、分捕太刀被疵人數事、杉七郎注進、<sup>(重信)</sup>同軍忠狀到來、披見了、忠節之次第、尤感悅之至也、彌可勵戰功之狀、如件、

天文三年六月十四日

(大内義隆)  
(花押)

佐田因幡守殿

大牟礼山合戦ノ  
軍忠狀・感狀ヲ  
進メ

三三 杉重信重書狀(紙切)

○佐田文書  
熊本県史料中世二

於大牟禮山合戦之時、朝景軍忠狀、并御感狀之事、調進候、尤目出候、恐々謹言、

(天文三年)  
七月十九日

佐田因幡守殿  
(朝景)

重信(花押)  
(杉重信)

三三 大友義鑑書狀

○志手文書  
大分県史料二一

鹿越城誘之事、去年以來申付候處、于今延引、太曲事候、爲奉行衆中、稠以催促、急度可被相調事  
肝要候、聊不可有緩之儀候、恐々謹言、

七月廿八日

(大友)  
義鑑(花押)

木付右衛門大夫殿

帶刀右京亮殿

長野清左衛門尉殿

田原和泉守殿

吉弘長門守殿

山香郷

鹿越城修築延引  
ヲ責メ緩急ナカ  
ラシム

山 香 郷

五五二

都 甲 伊 豆 守 殿

林 佐 渡 守 殿

廣 瀬 美 濃 守 殿

大 神 彌 七 郎 殿

田 原 次 郎 左 衛 門 尉 殿

○「城内文書」ニモアリ。田北学氏ハ偽文書ト注ス。

三三三 得永親阿書狀

○工藤隆弘文書  
大分県史料一一

法ニナル事ハ仕  
ラズ

もくわしく申候、天下之御法のまゝニ、御意を得候すると申候、我らなとしやく(若)はいのものは、御  
 はうニなり候する事をは、仕候ましく候、さためて我等なとか、むりを申候ハ、御老中よりうけ  
 可給候、其時かの五郎さへもんを、まいらせ候て印申(受之)きせ候、せんともあくとも、そう御らう中、  
 又小原殿うけ給候するまでと、我らハ存候、彼神二郎か事、御意のふんをうけ給候て、我らも分別  
 可仕事候、いさいかのもの、可申候、恐々謹言、

八月十四日

親 阿 (花押)

〔奥切封ウハ書〕

(墨引)

得永木工助

廣瀬藤九郎殿

御宿所

親 阿

三三 大友義鑑感狀

○長野末夫文書  
大分県史料一

忠節ヲ賞ス

大膳

害碎手、殊被官一人被疵之由、感悅候、必追而、一段賀可申

候、恐々謹言、

十月七日

(大友) 義鑑 (花押)

長野兵庫助殿

三五 杉興重・相良武任連署奉書

○佐田文書  
熊本県史料中世二

堺目夜行ニ敵一人ヲ討捕ルヲ賞ス

於堺目夜行事被申付、去五日夜敵一人討捕、頸猿口與三左衛門、送進上之通、以杉勘解由左衛門尉吹

擧令披露候、御感之趣、能々可申之旨候、恐々謹言、

(天文三年) 十月九日

(相良) 武任 (花押)  
(杉) 興重 (花押)

(朝景) 佐田因幡守殿

○以下三通ハ『宇都宮文書』(尾立維孝編)ニモ案文アリ。

三三六 杉興重・相良武任連署奉書

○佐田文書  
熊本県史料中世二

境目夜行ニ敵二  
人ヲ討捕ルヲ賞  
ス

去七日夜於境目、郎從賀來右京進討捕頭一新開孫四郎、賀來亮次郎討捕頭一新開孫三郎、彼是二送進上候通、以杉勘解由左衛門尉興道吹舉狀、遂披露候、誠忠心不怠之次第、殊御感之由、所被仰下也、仍執達如件、

天文三年十月十一日

(相良武任)  
中務丞 (花押)

(杉興重)  
三河守 (花押)

佐田因幡守殿

三三七 相良武任奉書(紙切)

○佐田文書  
熊本県史料中世二

討捕頭ニヲ披露  
セシヲ告ゲ御感  
ノ由ヲ報ズ

去七日夜於堺目、佐田因幡守郎從討捕頭二、送進之通、以吹舉狀遂披露、對因幡守被成奉書候、御感之趣、猶能々可被申遣之由候、恐々謹言、

(天文三年)  
十月十一日

(相良)  
武任 (花押)

杉勘解由左衛門尉殿

左衛門尉ノ官途ヲ与フ

三六 大友義鑑官途狀

○長野末夫文書  
大分県史料一一

左衛門尉所望之由、可存知候、恐々謹言、

正月十一日

<sup>(大友)</sup>義鑑(花押)

長野次郎殿

<sup>(奥切封)</sup>「(墨引)」

三九 大友義鑑官途狀

○工隆弘文書  
大分県史料一一

左京亮ノ官途ヲ与フ

左京亮所望之由、承候、可存知候、恐々謹言、

正月十四日

<sup>(大友)</sup>義鑑(花押)

廣瀬藤九郎殿

<sup>(奥切封)</sup>「(墨引)」

二四〇 大友義鑑受領狀

○長野末夫文書  
大分県史料一一

(包紙ワハ書)  
「長野又兵衛尉殿」

義鑑「

土佐守ノ受領名ヲ与フ

土佐守所望之由、可存知候、恐々謹言、

正月十七日

(大友)  
義鑑(花押)

長野又兵衛尉殿

(奥切封)  
「(墨引)」

二四二 大友義鑑書狀(紙切)

○工藤隆弘文書  
大分県史料一一

(端裏切封)  
「(墨引)」

吉弘石見守ニ対シ申詰ル子細アリ

對吉弘石見守、被申詰子細候由、其間候、於事實者、曲事候、縱雖及恥辱儀候、既國家 大篇之砌(卷)候之條、抛萬事、忠貞之覺悟肝要候、萬一申旨、於無承伏者、一途可申出候、得其意、無事之覺悟、專一候、恐々謹言、

二月廿日

(大友)  
義鑑(花押)

廣瀬左京亮殿

○広瀬左京亮ハモト藤九郎ト称シ、正月十四日(二三九号)ニ左京亮トナル。(天文三年)四月廿一日(二二七号)モ藤九郎ト称ス。本文書ノ吉弘石見守(氏直)ハ本年四月六日大村山ニ戦死セリ。以上ニヨリ推察スレバ、本文書ハ吉弘氏直戦死後ノコト、ナル。

二三 大友義鑑感狀(紙切)

○長野末夫文書  
大分県史料一一

就今度防州衆對談之儀、田北大和守・山下和泉守・臼杵三郎右衛門尉差遣候砌、以同道馳走感心候、辛勞之段、尙以面可申候、恐々謹言、

三月廿九日

(大友) 義鑑(花押)

長野清左衛門尉殿

二四 大友義鑑一跡安堵狀

○長野末夫文書  
大分県史料一一

(端裏切封)  
一(墨引) 一

親父兵庫助氏助一跡之事、任相續之旨、領掌不可有相違候、恐々謹言、

卯月廿四日

(大友) 義鑑(花押)

長野次郎殿

親父氏助一跡ヲ  
安堵ス

山 香 郷



二四 大友義鑑一跡安堵狀

○長野末夫文書  
大分県史料一一

〔包紙ウハ書〕  
「長野七郎殿

義 鑑」

〔端裏切封〕  
「(墨引)」

親父長綱一跡ヲ  
安堵ス

〔土佐〕  
親父又兵衛尉長綱一跡之事、任相續之旨、領掌不可有相違候、恐々謹言、

〔大友〕  
義 鑑(花押)

卯月廿八日

長野七郎殿

二五 大友義鑑受領狀

○長野末夫文書  
大分県史料一一

〔端裏切封〕  
「(墨引)」

補任長門守候、恐々謹言、

〔大友〕  
義 鑑(花押)

六月廿五日

長野彈正忠殿

長門守ニ補任ス

照久跡目ヲ安堵  
ス

二四六 大友義鑑跡目安堵狀案

○志手文書  
大分県史料一

木工助照久跡目之事、任相續之旨、領掌不可有相違候、恐々謹言、

七月廿七日

(大友) 義 鑑 在御判

志手彈正忠殿

二四七 大友義鑑書狀

○長野末夫文書  
大分県史料一

(編裏切封)  
「(墨引)」

爲八朔之儀、兩種送給候、祝着候、自是茂一色、佳例斗候、恐々謹言、

八月一日

(大友) 義 鑑 (花押)

長野清左衛門尉殿

二四八 大友義鑑感狀(紙切)

○工藤隆弘文書  
大分県史料一

(編裏切封)  
「(墨引)」

八朔ノ贈物ヲ謝  
シ一種ヲ送ル

豊前國發向以來ノ軍勞ヲ賞ス

就去年豊前國發向、父子各別在陣、殊重々於筑後表、本庄伊賀守一所仁、被官被立置之由候、旁以軍勞感悅候、何様追而、一段可賀申候、恐々謹言、

十月十三日

(大友)  
鑑(花押)

廣瀬左京亮殿

三九 大友義鑑書狀

○都甲今朝太郎文書  
増補訂正編年大友史料一六

難濟ノ用所ニツキ山香郷一揆ヲシテ馳走セシム

來廿九、難濟之用所候、至山香郷一揆之者共、馳走之儀、可被申付事、肝要候、恐々謹言、

正月十一日

(大友)  
義鑑(花押)

津久見右馬助殿

田北勘解由左衛門尉殿  
(龜巻)

三〇 武定書狀(紙切)

○兎玉文書  
大分県史料一一

(端裏切封)  
「(墨引)」

其堺ニ出張スルヲ告ゲ協力ヲ依頼ス

至其堺、近日可出帳之由、從義鑑被申候條、可任其旨覺悟候、別而可被添心事、頼入候、委細尙野川若狹守、可申達候、恐々謹言、

二月九日

武定(花押)

松河尾太郎左衛門とのへ

○年未詳。シバラク仮リニココニ収ム。

三五 大友氏加判衆連署奉書寫

○志手文書  
大分県史料一一

(端裏書)  
「上書ニ和泉守善就と有」

山香郷内田所給  
行重名・誰門名  
ヲ知行セシム。

山香郷之内、田所給行重名・誰門名之事、任 御判之旨、令知行、諸公事等之儀、如前々、取沙汰  
肝要之段、依仰執達如件、

天文六年七月十二日

(山下長就)  
和泉守(花押影)  
(田北親昌)  
大和守(花押影)  
(入田親廉)  
丹後守(花押影)

(鑑久)  
志手新次郎殿

○田北氏ハ偽文書ト注ス。『大分県史料』二五「志手久男文書」ニモ見ユ。

山香郷

三三 高月地藏堂鰐口銘

○大分県金石年表二  
大分県史蹟名勝天然記念物調査報告七

妙福寺觀世音堂  
前ニ鰐口ヲ寄進  
ス

奉掛高月妙福寺觀世音寶前鰐口之事、右信心檀那爲息災延命、抽施淨財鑄也、  
天文七稔戊戌七月十八日生助(字)

三五 某佛神名帳祈禱善根等目錄

○志手久男文書  
大分県史料二五

御明千燈、右佛神名帳、祈禱善根等目錄、如(カ)□、(カ)

皆天文十二年癸卯八月廿九日

三六 志手鑑久給地坪付寫

○志手文書  
大分県史料二一

(編纂書)  
「坪付」

志手鑑久ニ給地  
坪付ヲ渡ス

坪付

(志手鑑久)  
(花押影)

中なへて

山田

まつり本

もち田

一所壹段 中なへて

一所壹段 山田

一所壹段 まつり本

一所壹段 もち田、有口傳、

以上

天文十三年二月十七日

志手掃部助  
鑑久(花押影)

三五 志手鑑清書狀

○志手文書  
大分県史料二一

掃部助ニ分地セ  
シメ公事勤仕ニ  
合力セシム

至掃部助、分地之事申之處、以前拘之分參段・副地壹段、可預遣之由申、肝要候、然上者、自今以後成水魚之思、彌無二申合、殊於彼分地之上茂、從前々相定公事等、堅固之調、聊不可有緩之儀候、萬一未斷之事候者、可改易之段、至掃部助<sup>(鑑)</sup>茂、申付候、可得其意候、尙含口上候、恐々謹言、

二月廿一日

志手<sup>(鑑)</sup> 清(花押)

志手彌七郎殿

二五六 志手鑑清書狀

○志手久男文書  
大分県史料二五

(端裏切封)  
「(墨引)」

志手新次郎ニ本  
屋敷ヲ存知セシム

志手一家之事、新次郎案堵候之條、先々木屋敷之事、可有存知之由、内々可被申渡候、相殘<sup>(マ)</sup>之候者、追而可相談候、可被得其意候、恐々謹言、

十月廿五日

(志手)  
鑑 清 (花押)

野原孫右衛門尉殿

二五七 志手鑑清一字狀

○長野康雄文書  
大分県史料一一

一字ヲ与フ

一字之事承候、以別紙認遣之候、必追而、可遂披露候、恐々謹言、

十二月廿五日

(志手)  
鑑 清 (花押)

長野彦八郎殿

一跡当知行分ヲ  
長賢夫婦ニ讓ル

三三 野原長久讓狀

○志手文書  
大分県史料一一

(端裏書)  
「讓狀」

長久一跡當領知分之□中務丞長賢夫婦仁、  
知、可抽奉公忠節、□中 公方様御用等、殿□請御定無緩、可被取調者也、仍而爲後證、讓狀  
如件、

天文十七年 戊申 六月廿日

野原中務丞殿

(野原)  
對馬守長久(花押)

三九 大友義鑑書狀

○長野末夫文書  
大分県史料一一

(包紙ウハ書)  
「長野清左衛門尉殿

義鑑」

爲八朔之儀、二色送給候、祝着候、自是茂□、寔表賀禮斗候、恐々謹言、  
八月一日

(大友)  
義鑑(花押)

長野清左衛門尉殿

山香郷



三〇 大友義鑑知行預ケ狀

○大友家文書録  
大分県史料三四

山香郷内十貫分  
ヲ預ク

爲無足、多年辛勞、喜悅候、仍山香郷之内、拾貫分事、預置候、可知行候、恐々謹、

十二月十三日

(大友)  
義 鑑 (花押)

田北宮内少輔

(包紙ウハ書セ)  
一田北宮内少輔殿

(大友)  
義

三一 親時書狀寫

○工藤勲文書  
大分県史料一

義鑑ノ命ヲ被ル  
ヲ告ケ合力セシム

至召境近日、可由、義鑑懇承候條、可任其旨覺悟候、別而可被添心事、頼入候、委細猶野  
川若狹守、可申達、恐々謹言、

二月九日

親 時 (花押影)

工藤左京亮殿

○内容ヤ、疑ハシキ所アリ。検討ヲ要ス。

瓜ヲ給ハルヲ謝  
ス

三三 大友義鑑書狀

○工藤隆弘文書  
大分県史料一一

瓜給候、令悦喜候、猶重々所□候、恐々謹言、

七月十日

□瀬美濃入道殿

(大友) 義鑑 (花押)

三三 清原清言加冠狀

○長野末夫文書  
大分県史料一一

加冠名字之事

清原清言

天文十八年十二月廿五日

清原清言ト名乗  
ラシム

三四 某所用途銭下行帳

○長野末夫文書  
大分県史料一一

天文十八年十二月下旬

参貫文面七郎右衛門江成也、

山 香 郷

山 香 郷

五六八

上八百有、

一貫 木本土佐方江成也、

上一貫七百、

百文能嘉江成、

參百八十文了慶江成、

四百文 香積寺小路興七江成、

一貫參百文河原小路又四郎江成、

百文 切嘉松田江、

二百文 五德寺就藏主江成、  
稱月廿日

百文 小武江妙德寺玄春江成、  
掛藩代

香積寺

五德寺

小武

明日山香ニ立越

大友義鎮在郷ニ  
就キ卷數及両種  
進上セルヲ謝ス  
右筆供奉ナク私

三五 雄城治景書狀

○永弘文書  
大分県史料六

尙々、今度乍次參候て、連々之無沙汰、可申述□候、明日如山香御立越、供奉仕候條、乍  
存候、く、聊非心疎候、く、く、

就御在郷、卷數 御兩□御進上之段、遂披露候、尤雖可被成御書候、御右筆無供奉之條、御祝著  
之段、自私自申旨候、隨而謎子一雙并肴送給候、御丁寧之至畏入候、參上可申述候へ共、今程御精

ヨリ申ス

進候之由候間、乍存候、即期來音之時候、恐々謹言、

卯月廿五日

(雄城) 治 景 (花押)

田染少宮司殿 御報

### 三六 某書狀案

○永弘文書  
大分県史料六

神領永正下作職  
ニツキ田北鑑生  
ニ伝フ  
永正彦七郎退転  
永正彦四郎山香  
郷彦七郎給地赤  
山五貫文ニツキ  
訴訟

於御祝儀者、事舊候訖、仍先年以御取合、神領永正下地職之事、鑑生觸御耳置候、今月五日彦七郎  
(甲七) 鑑生觸御耳置候、今月五日彦七郎  
方退轉候、永正至某申合、誰人にも不申付候、乍勿論祝著存候、而下作職秋吉駿河守と申仁(舟カ)付候、  
永正彦四郎と申者、愚領へ扶持置候、號同名之者、以出頭、山香郷之彦七郎給地赤山五貫分、可致  
(マ) 訴詔之由申候、彼五貫分之事者、何ニ共御座候へ、神領へ覺悟之事由、許容仕聞敷候、連々申入候  
續、不可有御失念候、頼存候、子細候者、重々可申入候、可得御意候、恐々、

○尾書カズ。

### 三七 大友義鎮官途狀

○長野康雄文書  
大分県史料一一

中務丞所望之由、可存知候、恐々謹言、

正月十四日

(大友) 義 鎮 (花押)

山 香 郷

中務丞ノ官途ヲ  
与フ

山 香 郷

長野七郎殿

三六 大友義鎮名字狀

○長野末夫文書  
大分県史料一

〔白紙ワハ巻〕  
長野七郎殿

〔繻裏切封〕  
一〔墨引〕

義 鎮

一字ヲ与へ鎮言  
ト名乗ラシム

一字之事、鎮言進之候、恐く謹言、

正月十四日

長野七郎殿

〔大友〕  
義 鎮 (花押)

三九 大友義鎮官途狀

○長野末夫文書  
大分県史料一

〔繻裏切封〕  
一〔墨引〕

五郎左衛門尉ノ  
官途ヲ与フ

五郎左衛門尉所望之由、可存知候、恐く讓言、

十月廿六日

長野孫次郎殿

〔大友〕  
義 鎮 (花押)

在陣中ノ軍勞ヲ賞シ由布玖珠山香衆出張ニ付キ協力セシム

二七〇 大友義鎮書狀(紙切)

○佐田文書  
熊本県史料中世二

今度在陳中、各軍勞之次第、具承知候、然者、其國牢人當郡堺目迄亂入之由、無是非候、必以發足、一行無餘儀候之條、案中不可有程候、妙見嶽勤番之儀、至田原民部太輔、堅申付候之間、定而不可有緩候、殊由布・玖珠・山香之者共江、其表可差擲之段、度々加下知候之條、每事被申談、其境堅固之以覺悟、彌可被勵忠儀事、肝要候、猶年寄共可申候、恐々謹言、

十一月十四日

(大友) 義 鎮 (花押)

安心院中務太輔殿

飯田但馬守殿

時枝兵部少輔殿

佐田彈正忠殿

其外字佐郡衆中

二七一 大友義鎮書狀(紙切)

○佐田文書  
熊本県史料中世二

(包紙ウハ書)  
「安心院中務太輔殿  
佐田彈正忠殿

義 鎮

山 香 郷

山 香 郷

吉岡長増歸陳ニ  
同心セシヲ賀シ  
由布玖珠山香衆  
出張ニ付キ協力  
セシム

就各歸陳、當郡衆之事、日田郡迄長増同心之由、示給候、何茂貞心之覺悟、案中候、於于今者、可爲歸郡与令校量、從矣許茂以狀申候、殊妙見嶽歎番之事、不可有緩之段、至田原民部太輔、兼日申遣候、就中由布・玖珠・山香之者共、其堺可差搦之由、加下知候、別而被申談、此節可被勵忠儀事、專一候、委細先書申候、爲存知候、恐々謹言、

十一月十五日

(大友) 義 鎮 (花押)

佐田彈正忠殿 (孫唐)

飯田但馬守殿 (辰重)

矢部宮内少輔殿 (鎮高)

深見中務少輔殿 (盛色)

惠良美濃守殿 (鎮盛)

時枝兵部少輔殿 (隆倉)

安心院中務少輔殿 (眞生)

二七三 大友氏加判衆連署奉書 (紙)

○工藤隆弘文書  
大分県史料一

(包紙ウハ書)  
一田北十郎殿

(編裏切封)  
「(墨引)」

義 統

小原・木庄・中村等謀叛ニ与力セシ佐伯惟教ヲ討留メシム

今度小原遠江入道・本庄新左衛門尉・中村新兵衛尉以下申組、可妨國家之企、顯然之條、被加成敗候之砌、佐伯惟教、右之惡黨連々以申合首尾、國退之條、稠敷被成其閉目候之處、惟教行方、必其境落行之段申候、此節以御入魂、佐伯事不拔足様、有御才覺、被討留、預御注進候者、別而可被遂御禮之由候、猶彼者申含候、恐惶謹言、

(弘治二年) 五月廿日

(雄毅) 治 景 (花押)

(田北) 鑑 生 (花押)

(吉岡) 長 增 (花押)

(白井) 鑑 續 (花押)

(志賀) 親 守 (花押)

三庄殿 人々御中

三三 某手日記

○永弘文書 大分県史料六

吉弘左近殿其外南郡衆何も玖珠郡へ御立候、

(弘治三年五月) 一同廿一日癸酉、大友殿御座ス入ウスキ焼失候、女中方斗殘也、上様無相違候、

一同十八日庚午、令官方と益永内、山香畠地所務論有、令官内新右衛門幽死候、女一人、又六手負

候、山香親子失候、

大友義鎮ノ居ル臼杵焼失  
山香畠地所務論ニ付山香親子逃失

山香 郷



田原親賢妙見登  
城木付登城

一同 城井へ八屋・山田衆取かけ放火候て引候處、城井付候八屋防戰仕候、中八屋衆ニ山田衆之頸十三、城井打取、玖珠へ遣候、八屋衆七十人斗手負候、

一六月一日、武藏田原民部大輔至妙見登城、昨日此日木付登城候、杉因幡殿下城、田原衆木付二手斗也、

一十二日甲<sup>(三カ)</sup>□<sup>(七)</sup>、當郡衆陣立也、

○以下大友義鎮ノ豊前平定ノ事ニカ、ル。本文省略。

二七四 首藤鑑秀・竹田津鑑和連署書狀

○永弘文書  
大分県史料六

〔包紙ウハ書〕

首藤次郎□

竹田津六郎右衛門□<sup>(明カ)</sup>

田染少官司殿

御宿所

鑑和

猶々、自兩□□可申遣之由、被□□、爲御存知候、く、

急度令啓候、仍至田染庄ニ被仰付候御主殿上葺、山香郷役所分者、相調候之處、御馳走之分、明置葺不申候之條、以外御腹立候、縦雖爲御免許之在所、上御代々如此御主殿作、又者御城誘之時、早々御馳走候事、不珍之由、度々以 御口能、被 仰出候之處、于今御無馳走、如何候哉、重々可<sup>(無御カ)</sup>

御主殿上葺山香  
郷役所分ハ調フ

遂 上聞候、爲御存知候、恐々謹言、

(弘治四年)

五月十六日

(竹田津)  
鑑 和 (花押)

(曾藤)  
鑑 秀 (花押)

田染少宮司殿 御宿所

三三 田原親賢知行預ケ狀

○長野末夫文書  
大分県史料一

在城辛勞ノ賞ト  
シテ知行ヲ預ク

就在城、節々登城候、御辛勞之儀候、爲其賞、於筑城郡・規矩郡之間六町坪付有<sub>事</sub>、預進之候、不  
可有知行相違候、恐々謹言、

(永祿三年頃)

十月十一日

(田原)  
親 賢 (花押)

長野七郎殿 (眞言)

進之候、

(奥切封)  
「(墨引)」

三六 宇佐宮一社中目安狀案

○宮成文書  
大分県史料二四

○永祿四年辛酉十月六日。「安岐郷史料」一六二号ニ収ム。本文省略。「山鹿郷大禪寺」ノコトアリ。

山 香 郷

二七七 大友義鎮恩賞宛行狀寫

○工藤勲文書  
大分県史料一一

筑後表ノ軍忠ヲ  
賞シ三十貫文ヲ  
与フ

今度到筑後表、於所之□豪、軍忠勤馳走、分捕高名粉骨之働、無比類候、被官之者敵ヲ數多討捕之事、感入候、可賀賞者也、爲加増、肥後國託麻郡之内、三十貫文別紙有之、可知行者也、執達如件、

義鎮（朱印影）

永祿五年三月廿日

工藤美濃守殿

○天正三年（一五七五）以前ニ、義鎮ノ朱印使用ノ事実ナシ。検討ヲ要ス。

二七六 鎮述書狀

○児玉文書  
大分県史料一一

（複製切封）  
「（墨引）」

爲八朔之儀、三種送給畏悦候、自是茂嘉例計候、恐々謹言、

八月一日

鎮述（花押）

松賀尾彈正忠殿 返事

（別紙紙裏書）  
一松賀尾太郎左衛門殿

武定

八朔祝儀ヲ謝ス

○年未詳。シバラク仮リニコ、ニ収ム。

### 二七九 大友義鎮書狀寫

○工藤勲文書  
大分県史料一

土佐一条氏合力  
出勢ニツキ真那  
井諸氏留守中ノ  
守護ヲ命ズ

一條殿不圖以御渡海、土州表御行依被相催、加勢之儀、度々承候條、至諸浦、警固船之事申付候、  
乍辛勞、方角衆被申談、別而以馳走、自身乗船可令悦喜、當月中可差渡覺悟候間、日限之儀、重々  
可申候、(真那井之)眞井諸士留守中、無油斷守護、可被致候、恐々謹言、

八月十二日

(大友)義鎮(朱印影)

工藤美濃守殿

○義鎮ト称スル時代ニ、朱印ヲ用イタル例ナシ。檢討ヲ要ス。

### 二八〇 志手泰吉書狀

○志手トラエ文書  
大分県史料二五

(端裏書)  
「封□」

陳夫ヲ仰下サル  
ルニツキ上申ス

就御出張、御陳夫之儀、被仰下候、存其旨、至諸給人領、稠遂催促候條、御返事之趣、以一ツ書  
申上候事

帶刀兵庫助方小  
武村明源別當名

一帯刀兵庫助方百性小武林之内、(マ)明源別當名、(カ)從前々、至政所御陳夫壹人馳走候事、無其紛候處、

山 香 郷

ハ一人陣夫ヲ馳走セザル事

帶刀兵庫助方一分ヲ押領点役夫ヲ馳走ナキ事

長野某領八幡森名・松村名

我等無汰汰ナク勤仕ス  
与三郎マデ申スモ上申ナシ  
すわろふん一町ノ事

(松を)  
鑑基御與方在而

今度之儀者、從舊冬。令陳候條、一圓御馳走有間敷之由承候、如何候、御分別御座可有事に候哉、  
一彼用名給人帶刀兵庫助方領地、是ハ自餘相替申候、先代題目候て、彼百性(マ)加成敗候、其砌一住田  
地三分一居屋敷、從役所請取申、自作仕、其後彼用名へ申付、御點役歎申させ候を、近年兵庫助  
方、一分之以押領、點役夫無馳走候、不及是非候、此度如前々御閉目、可目出候事

一長野長門守方領地八幡森名・林村名

御給人十四五人御さ候、四五町被拘候方茂、其内五段・三段かへ候者も候、前々のまゝ、  
いまにねんちうに、一日にても、かへ地、人足任不申、御ふしんに候者、御給人  
同下地持之人數可申候、

一我くふさたなきまゝ、この年月涯分宮仕候間、いまにさうをつくし候、迷惑候、可然様ニ、  
目出度、連く與三郎とのまで、申候へとも、不被申上候哉、御ふちなく候、  
一彼すわろふん壹町、おうちにて候者代に、人仕先給人りうしゆ方、可召仕由仰候間、田地五段、  
馬はたけ屋敷あひそへ、先給人わたし申候、其後親にて候者のと、も、御政所殿仰合、彼壹  
町分にて候へとも、御給人人足仕、無餘儀候間、馬はたけ五段あひそへ、地頭方へ進置候、いま  
にさういなく候、恐惶謹言、

志手刑部少輔

十二月廿一日

泰吉(花押)

與三郎殿

去年以來豊前表  
在陣ノ勞ヲ賞ス

三六二 大友そう麟義鎮義感狀案(紙切)

○豊田文書  
大分県史料二一

至豊前表、去年以來令在陣、別而軍勞の趣、委細田北紹鐵注進候、誠かんし入候、彌馳走專一候、  
かならず追而、銘く可賀之也、

永祿六年

五月十六日

山香郷東西

一揆中

(大友義鎮)  
そう麟 御判

○「御當家御書札認様」(『増補訂正編年大友史料』三二)ニ、山香東西一揆中へノ書札ハ、「屋形様御名乗、上をはか  
な、(中略)一揆へハかなとのへ」トアリ(三七二号参照)。

三六三 大友宗里ん義鎮義感狀(紙切)

○児玉文書  
大分県史料二一

(彌美切封)  
一(墨引)「」

今度於豊前國、遂在陣、所く手仕、軍勞感入候、彌馳走專一候、必追而賀之候趣、猶雄城宮内少輔  
可申候也、

正月十一日

(大友義出)  
宗里ん(花押)

松ヶ尾掃部助殿

山香郷

豊前国在陣ノ軍  
勞ヲ賞ス

二八三 大友宗里ん義鎮書狀

○小野尾文書  
大分県史料一

豊前国在陣ノ軍  
勞ヲ賞ス

於今度豊前國、遂在陣、所々手仕、軍勞感入候、彌馳走專一候、必追而可賀之之趣、猶雄城宮内少  
輔可申候也、

正月十一日

(大友義鎮)  
宗里ん (花押)

小野尾彈正忠とのへ

二八四 大友宗麟義鎮書狀(紙切)

○河内文書  
大分県史料二五

(色紙ウハ書)  
「渡邊六郎殿

渡邊新五郎殿

宗麟

河内加(書)守殿

鹿越登城ヲ命ジ  
勤番センム  
大神彌七郎モ加  
フ

賀來中務少輔・谷川三郎兵衛尉事、急度可出張候段、申付候、兩三人事、乍辛勞、至鹿越有登城、  
無油斷勤番肝要候、大神彌七郎事茂差加候之條、每事可申談事、專一候、猶吉弘左近大夫可申候、  
恐々謹言、

三月十二日

(大友義鎮)  
宗麟 (花押影)

渡邊六郎殿

渡邊新五郎殿

河内加賀守殿

二六五 鎮員知行預ケ狀

○吉松文書  
大分県史料三五

(端裏切封)  
一 (墨引) 一

田北鑑富給所分  
ノ地ヲ預ケ

連々佗言之儀、承候之條、<sup>(田北)</sup>鑑富申談、山香郷給所分之内、井堀五段・河原田四段分之事、預進之候、可有知行候、恐々謹言、

四月廿三日

<sup>(田北カ)</sup>鎮員 (花押)

吉松越前守殿

○田北氏諸系図ニ鎮員ノ名見ヘズ。アルイハ鎮周ノ誤カ。検討ヲ要ス。

二六六 大友宗麟<sup>(義)</sup>感狀<sup>(紙切)</sup>

○長野康雄文書  
大分県史料一一

田北鎮固同陣ヲ  
以テ豊前國手仕  
ノ軍勞ヲ賞ス

今度於豊前國、田北鎮固<sup>(肩カ)</sup>以同陳、所々手仕、<sup>(勞カ)</sup>軍□忠儀感入候、彌馳走專一候、必追而一段可賀之候、恐々謹言、

山香郷



山香郷

五八二

七月廿三日

(大友義續)  
宗麟 (花押)

長野右京亮殿

三六七 大友宗麟義感狀 (紙切)

○長野末夫文書  
大分県史料一

(包紙ウハ巻)  
「長野左馬助殿

宗麟

(端裏切封)  
「(墨引)

吉弘大藏少輔同  
陣軍勞ヲ賞ス

今度吉弘大藏少輔以同陳、長々軍勞感悅候、彌可勵馳走事、肝要候、必取靜、一段可賀之趣、猶鑑  
久可申候、恐々謹言、

八月六日

(大友義續)  
宗麟 (花押)

長野左馬助殿

三六八 田北鑑富知行預ケ狀

○吉松文書  
大分県史料三五

(端裏切封)  
「(墨引)

日差村檢校名ヲ  
預ケ親子共在府  
ノ上勤功ヲ励マ  
シム

(山香郷)  
日差村之内檢校名別拵之事、預進之候、累年辛勞之續候之條、如此候、然者親子之間、無懈怠遂在  
府、彌別而可被勵勸功之事、肝要候、恐々謹言、

八月廿六日

(田北尉送)  
鑑 富 (花押)

吉松越前守殿

二九 大友宗麟義感狀(紙切)

○宇野文書  
大分県史料一一

豊前国ニオケル  
奈多鑑基一所ノ  
軍勞ヲ賞ス

今度至豊前國、奈多鑑基以一所、長々在陣、殊所々勤軍勞、感入候、彌可勵忠儀事、專要候、必追而一段可賀之候、恐々謹言、

九月廿三日

(大友義雄)  
宗 麟 (花押)

宇野彌次郎殿

三〇 大友宗麟義知行預ケ狀

○長野末夫文書  
大分県史料一一

(端裏切封)  
「(墨引)」

豊筑間ニ拾二町  
分ヲ預ク

於豊筑間、拾貳町分坪付在之事、預置候、可有知行候、恐々謹言、

三月二日

(大友義雄)  
宗 麟 (花押)

長野左馬助殿

○以下宗麟花押ハ三〇〇号マデ、永祿七(一五六四)ノ元龜三年(一五七二)頃ノモノ。

山 香 郷

二五二 大友宗里ん義鎮ん感狀寫（紙切）

○工藤敷文書  
大分県史料一一

豊前國在陣ノ軍  
勞ヲ賞ス

今度豊前之國遂在陣、所々手仕、軍勞感入候、彌馳走專一候、必追而可賀之趣、猶雄城宮内少輔可  
申也、

正月十一日

（大友義鎮）  
宗里ん（花押影）

工藤縫殿殿

二五三 田原親賢書狀（紙切）

○長野末夫文書  
大分県史料一一

（包紙折封ハ巻）  
「長野式部少輔殿

御報

田原親賢」

（端裏切封）  
「（墨引）」

年頭祝儀ニ円鏡  
ヲ送ルヲ謝ス

爲年頭之儀、圓鏡一重送給候、御丁寧之至、令祝着候、諸慶期永日候、恐々謹言、

正月十五日

（田原）  
親賢（花押）

長野式部少輔殿

長野筑後守成敗  
ノ在陣軍勞ヲ賞  
ス

二五三 大友宗麟義鎮感狀

○工藤隆弘文書  
大分県史料一

就長野筑後守成敗、從最前在陳軍勞、殊前十三、於彼要害攻口、被碎手之條、被官被疵之由、忠儀  
之次第感入候、何様別而、可賀之候、恐々謹言、

八月廿日

宗麟(大友義鎮)  
(花押)

廣瀬九郎殿

二五四 大友宗麟義鎮書狀案

○尾玉文書  
大分県史料一

永祿八年

八月廿日 御書寫案

山香郷諸給人(揆カ)一擦中之事、如前々、今度同陣肝要候、別而於勵馳走者、必追而、可賀之段、可被申

聞候、恐々謹言、

八月廿日

宗麟(大友)  
御判

田北彌十郎殿

田北勘解由入道殿

山香郷

三五 大友宗麟義鎮感狀(紙切)

○長野末夫文書  
大分県史料一一

〔端裏切封〕  
〔墨引〕

田北紹鉄同心ヲ  
以テ在陣セシヲ  
賞ス

今度紹鉄以同心、從最前在陣、殊於所々、軍勞之次第感入候、彌馳走可爲悦喜候、必追而一段、可賀之候、恐々謹言、

十一月廿日

〔大友義鎮〕  
宗麟(花押)

長野右京亮殿

三六 田原親賢書狀(紙切)

○豊田文書  
大分県史料一一

〔端裏切封〕  
〔墨引〕

八朔ノ祝儀ヲ謝  
ス

爲八朔之儀、三種送給候、祝着候、自是茂嘉例斗候、恐々謹言、

〔永祿十年頃〕  
八月一日

〔田原〕  
親賢(花押)

長田右馬助殿

苧田表ニ於ケル  
田北鎮周手ノ者  
ノ討死・手負注  
文ヲ一見ス

二五七 某合戦手負戦死注文一見状寫(紙切)

○田北梅三郎文書  
大分県史料一三

永祿十一年七月十三日、(書前因)苧田表動之刻、田北彌十郎鎮周中之仁、或被疵、或戦死、粉骨忠儀之著

到、銘々加披見畢、

山香郷一揆

手火矢疵  
矢 疵

乙丸左京亮

同

岩男主税助

同

上田次郎

田北中務少輔被官 矢疵

板井迫藤次郎

田北加賀守僕從 手火矢疵

新兵衛

戦死

穴井右馬助

已上

○一見ノ袖判脱力。

二五六 田原紹忍親書狀

○長野義照文書  
増補訂正編年大友史料二四

田原

(包紙ウハ書)  
一

山香郷

長野内記兵衛尉殿

〔端裏切封〕  
〔墨引〕

紹忍

養父右馬助戰死ニヨリ加恩ヲ仰出サル

其方給分之儀、依郷内并御免許、改易之段、被仰出候、雖然、養父右馬助於三岳要害戰死、無比類之條、爲御加恩被仰付候、御書達上聞候處、先以直納肝要之段、被成 上意候、此由到下役茂、可被相達候、爲御存知候、恐々謹言、

〔永祿十二年頃之〕  
二月十四日

〔田原親賢〕  
紹忍〔花押〕

長野内記兵衛尉殿

二九 光政書狀〔紙切〕

○長野末夫文書  
大分県史料一

〔端裏切封〕  
〔墨引〕

旌忠寺辛去ヲ訪フ

跡目ノ事

旌忠寺以外御煩ニ付而、先日用愚狀候處、懇報本望候、然處御到來、御不慮之次第、誠絶言語候、御心底察存斗候、各如存知、醫者等之儀、別而雖令馳走候、無其曲如此候段、於于今者、兎角無申事迄候、併長立寺能御御上著候て、取懸已下之儀可然候ッ、可御心安候、皆々始中終懇勞、誠ニ過御推量候、能々可被副芳意事、肝要存候、就其、明申御跡目等之儀ニ付而、鑑速<sup>〔白替〕</sup>迄御心得御書以下、申調進之置候、定而不可有異儀候、猶前後之於趣者、長立寺原忠介方、可被申入候條、閣筆候、恐々謹言、

三月廿九日

光政(花押)

長野三河守殿

御宿所

○曰杵鑑連ノ卒ハ天正三年五月。

三〇〇 大友宗里ん義鎮感狀寫

○到津文書  
大分県史料二四

田北鎮周手ニ屬  
シ在陣セシ軍勞  
ヲ賞ス

今度田北(鎮周)彌十郎屬手、長く在陣、殊立花表已來、於所々軍勞之次第、感入候、必追而、一段可賀之候也、謹言、

元龜元年カ  
正月十五日

大友義鎮  
宗里ん(花押影)

大河内左近とのへ

○山香町大字日指ニ、下河内・小河内アリ。

三〇一 大友義統跡目安堵并一字狀

○長野末夫文書  
大分県史料一一

端裏切封  
一(墨引) 一

父鑑吉跡目ヲ安  
堵シ統言ト名乗  
ラシム

父三河守鑑言跡目之事、任相續之旨、領掌不可有相違候、仍一字之事、統言遣之候、恐々謹言、

山香郷



山 香 郷

二月十八日

長野藤次郎殿

(大友)  
義 統 (花押)

五九〇

三三三 大友義統一字狀

○長野康雄文書  
大分県史料一一

一字ヲ与フ

一字之事、統辰遣之候、恐々謹言、

(天正二年頃カ)  
七月十六日

(大友)  
義 統 (花押)

○義統花押ニヨリ、年代ヲ推定ス。

三三三 鑑守書狀

○工藤隆弘文書  
大分県史料一一

〔故御方角〕(松) 田内藏助 〔付候、可被仰合候、頼存候、く、

別而御懇之儀畏存候、新不及申候、此等之趣、自此方、別可申入候處、依遠方之儀、相(通カ)候、非本  
意候、仍歲大明神造宮之儀、示給候、得其意候、前、趣申付候、尙松田内藏助可申入候間、閣筆  
候、恐々謹言、

十一月十一日

鑑 守 (花押)

廣瀬殿

御報

歲大明神造宮ノ  
儀ニツキ米翰ニ  
答フ

三四 大友義統受領狀

○長野末夫文書  
大分県史料一

(前紙カハ書)  
一長野右京亮殿

(墨引)

義統

因幡守ノ受領名  
ヲ与フ

因幡守望之由、可存知候、恐々謹言、

(天正三年カ)  
三月十五日

(天正)  
義統(花押)

長野右京亮殿

○義統花押ニヨリ、年次ヲ推定ス。

三五 大友義統一字狀

○長野康雄文書  
大分県史料一

一字ヲ与ヘ統利  
ト名乗ラシム

一字之事、統利遣之候、恐々謹言、

(天正三年カ)  
十月三日

(天正)  
義統(花押)

長野八郎殿

三〇六 大友三非齋義法名書出

○志手文書  
大分県史料一

〔包紙ウハ巻〕  
一野原對馬入道殿

〔端裏切封〕  
一〔墨引〕

三非齋

法名麟慶ヲ与フ

法名之事、麟慶遣之候、恐々謹言、

二月四日

〔大友義領〕  
三非齋（朱印）

野原對馬入道殿

三〇七 大友義統名字書出寫

○長野末夫文書  
大分県史料一

清原統直ト名乗  
ラシム

加冠名字事

清原統直

天正四年三月十五日

由原宮造替材木  
ヲ山香郷ニ申付  
ケ東西一揆ヲ申  
テ運送セシム

三〇八 大友義統書狀

○志手トラエ文書  
大分県史料二五

就 由原宮造替材木之儀、至□申付候、然者山香郷江柚取置候、材木運送之儀、從東西一揆中、  
急度馳走簡要之由、能く可被申遣候、聊不可有油斷之儀候、恐く謹言、

八月十日

義統(大友)(花押)

雄城彌十郎殿

田北相模守殿(鎮西)

○以下義統花押ハ、三二三号マデ天正三年(一五七五)ヨリ同七年頃ノモノ。

三〇九 大友義統官途狀

○長野康雄文書  
大分県史料一一

式部少輔ノ官途  
ヲ与フ

式部少輔望之由、可存知候、恐く謹言、

九月十三日

義統(大友)(花押)

長野七郎殿

山香郷

三〇 大友義統一字狀

○長野康雄文書  
大分県史料一

一字ヲ与ヘ統久  
ト名乗ラシム

一字之事、統久遣之候、恐々謹言、

十月九日

義(大友)  
統(花押)

長野彌四郎殿

三一 吉岡鑑興書狀(紙切)

○佐田文書  
熊本県史料中世二

(鑑興ウハ患)  
「從門司歸陳之次第  
注進返事」

吉岡掃部助

安心院中務大輔殿

鑑興

佐田彈正忠殿

日田郡歸陣ノ勞  
ヲ賞シ其ノ境ヲ  
差シ擲メシム

今度二老以同心、日田郡迄歸陣之趣、具令披露候處、何茂忠心之覺悟、案中之由、以御書被仰遣候、珍重候、殊由布・玖珠・山香衆江、其堺可差擲之段、被成御下知候、別而可被仰談事、肝要候、爲御存知候、恐々謹言、

十一月十五日

鑑興(吉岡)  
興(花押)

佐田彈正忠殿

飯田但馬守殿〔長重〕

矢部宮内少輔殿〔鎮高〕

深見中務少輔殿〔盛治〕

惠良美濃守殿〔鎮盛〕

時枝兵部少輔殿〔隆令〕

安心院中務大輔殿〔興生〕

三二 田北紹鐵鑑受領狀

○小野尾文書  
大分県史料一

受領ノ仮名ヲ与  
フ

受領之事承候、任望候、恐く謹言、

十二月廿八日

小野尾壹岐とのへ

〔田北鑑富〕  
紹鐵〔花押〕

三三 右田鑑盛等連署速見郡間別調注文

○梓原八幡宮文書  
大分県史料九

○天正六年つちのゑの二月八日。全文ハ「八坂荘史料」一三二号ニ収ム。本文省略。

三四 大友よし統感狀

○小野尾文書  
大分県史料一一

在陣ノ旁ヲ訪ヒ  
雄城弥十郎ト同  
陣セシム

今度從最前在陣、感入候、然者雄城彌十郎、玉算之表登城之儀申付候、重々辛勞なから、同陣專一候、かならず追而、可賀之候、かしく、

(天正六年)

五月七日

(大友)  
よし統 (花押)

をの尾彈正忠とのへ

○「御當家御書札認様」(『増補訂正編年大友史料』三一)ニ「一、山香郷東西一揆中へ御書調之事、屋形様御名乗、土を(坂名)はかなニ調申候、一揆へハかなとのへ、御文跡ニモ、かなヲ知申候、名字・官途ハすくに書申候、かしくと書留申候、」トアル。三七二号参照。

三五 大友義統感狀案(紙切)

○児玉文書  
大分県史料一一

在城辛勞ヲ賞シ  
再度出勢ニ油斷  
ナカラシム

長々在城、別而辛勞察入候、爰許出勢之催、聊非油斷候之條、其間之事各申合、彌堅固之覺悟、肝要候、仍樽二つ并肴遣候、猶野上市右衛門尉可申候、恐々謹言、

(天正六年)

七月三日

(大友)  
義 統 御判

山香郷西分衆

山香郷西分衆中

日州日智屋登城

日(州)表日智(屋カ)ニ登城

三六 日向國耳川合戰覺書

○豊田文書  
大分県史料二一

日向國高城ノ攻口、耳川合戰、豊後勢討死ノ事者、天正六年戊寅十一月ナリ、  
同十一月

豊田主殿頭日向  
耳川ニテ戰死ス

豊田主殿頭討死也、

右戰之次第、委ハ豊筑亂記見ヘたり、

〔切封〕(墨引) 一

三七 山香郷(巻)某所坪付注文

○賀来惟義文書  
増補訂正編年大友史料二四

名子

こくたい  
一所壹段

名子三郎二郎

九段ケ本  
一所大

同 人

一所屋敷

同 人

一所町掘貳斗附

すきさし給

一所居屋敷

在名子六郎三郎

一所半牧役分

同 人

山香郷



山香郷

高か田

一所壹段

御立用作周防分

一所壹段

はつめ田

一所半牧役分

一所居屋敷

たていし

一所壹段

柳かつほ

一所壹段

かう分

一所居屋敷修理拘

川しほ(牧)

一所畠地畠牧

一所壹段六十歩

一高屋敷壹町

同人

竹下牛房

名子牛房

在竹下牛房左二

同牛房

同牛房

奉社

都甲右京

松田藤次郎

都合拾九町六段半、同町堀四十四、此内見出壹町三段半

都合畠地四町三段半此内四段

右年々不

徳富名

わけもたし

一所貳段

わけもたし

一所貳段半

一所壹町五段町堀貳ヶ所

一所壹町周防分地頭大畠

徳富名之内

立石之内

九郎四郎之拘、

原一

小河揆分

公文所納之、

平五郎方

一所參段 芝尾分地頭ハ牧新藏人佐  
土貢移六斗六升出

一所貳段 正惠分來納壹貫貳百文出

都合田數參町四段半

○尾緒目ニ黒印アリ。

三八 大友義統感狀(紙切)

○長野末夫文書  
大分県史料一一

(包紙ウハ書)  
「長野宮乙殿

(端裏切封)  
「(墨引)」

義統」

於今度日州高城表、父式部丞戰死、忠儀無比類候、必以時分、一段可賀之趣、猶田原近江入道可申

候、恐々謹言、

(天正六年カ)  
十二月十二日

(大友)  
義統 (花押)

長野宮乙殿

三九 大友よし統感狀(紙切)

○豊田文書  
大分県史料一一

(端裏切封)  
「(墨引)」

日向高城表ニ於  
ケル父式部丞戰  
死ヲ賞ス

高城表ニオケル  
父左馬助等ノ戦  
死ヲ賞ス

高城表ニオケル  
父彈正忠等ノ忠  
儀ヲ賞ス

日向高城表ニ於  
ケル父右京亮ノ  
戦死ヲ賞ス

今度日州高城表において、雄城彌十郎・同前父左馬助<sup>(マシ)</sup>死、忠儀比類なく候、必追而可賀之也、かし

(天正七年)

三月卅日

(大友)  
よし統 (花押)

長田萬千世とのへ

三〇 大友よし統感狀

○小野尾文書  
大分県史料一

今度日州高城表にお井て、雄城彌十郎・同前父彈正忠儀、比類なく候、必追而可賀之也、かしく、

(天正七年)

三月卅日

(大友)  
よし統 (花押)

小野尾三郎二郎とのへ

三二 大友義統感狀<sup>(紙切)</sup>

○長野末夫文書  
大分県史料一

(包紙の八書)  
「長野孫市郎殿

(鎌義切封)  
「(墨引)」

義 統

於今度日州高城表、父右京亮・田北相模守<sup>(鎮守)</sup>同前戦死、忠儀無比類候、必以時分、可賀之條、彌貞心  
連續之儀、肝要候、恐く謹言、

(天正七年)

卯月廿二日

(大友)

義統(花押)

長野孫市郎殿

三三 宇佐宮一社中目安狀寫

○到津文書  
大分県史料二四

○(天正七年九) 卯月廿八日。「安岐郷史料」一九三号ニ収ム。本文省略。「山香郷大善寺」ノコトアリ。

三三 大友義統感狀(紙切)

○長野康雄文書  
大分県史料一一

日向ニオケル田  
原紹忍同陣ノ辛  
勞ヲ賞ス

今度至日州表、田原近江入道以同陳、別而辛勞之段感入候、重々可出勢之條、其節彌馳走肝要候、

必追而、一段可賀之候、恐々謹言、

(天正七年)

五月十日

(大友)

義統(花押)

長野式部少輔殿

三四 大友義統書狀案

○志手文書  
大分県史料一一

(編要書)

「上つゝみニ五月十七日御書案にて候」

山香郷

山 香 郷

山香郷給人一揆  
衆ヲ豊前表ニ差  
立テシム

山香郷其方役内、給人一揆衆之事、名代差副、近々至豊前表、可被差立候、各事茂急度乘陣之條、聊無油斷、可被申付候、爲存知候、恐々謹言、

五月十七日

雄城太郎殿  
(岩秋守)

義 統 御判  
(大友)

三五 大友義統感狀(紙切)

○宇野文書  
大分県史料一

一宇野宮内丞殿  
(包紙ウハ書)

一(墨引)

義 統

在陣ノ辛勞ヲ賞  
シ木付宗虎ト申  
談ジ別テ馳走セ  
シム

長々在陣、殊寒天時分、苦勞之段感悦候、彌木付紀伊入道申談、別而馳走、可爲喜悅候、猶重々可申候、恐々謹言、

十二月八日  
(天正七年カ)

義 統 (花押)  
(大友)

宇野宮内丞殿

三六 大友義統感狀(紙切)

○長野末夫文書  
大分県史料一

一長野玄内允殿  
(包紙折封ウハ書)

義 統

木付宗虎同馳走  
辛勞ヲ賞シ  
ヲ勵マシム

今度從最前、木付紀伊入道以同陳、長々在陣、殊寒天時分、苦勞感入候、彌宗虎申談、(木付)別而馳走肝要候、追而一段、可賀之候、恐々謹言、

(天正七年)  
十二月廿八日

(大友)  
義 統 (花押)

(統秀)  
長野玄内允殿

三三 大友宗麟義・大友義統連署書狀案

○吉松文書  
大分県史料三五

山香郷一揆

山香郷一揆之内、山井口・下(ヨメ)原以下、聊尔顯然之儀共候歟、從兩侵堅被相閉目之由、尤肝要候、仍爲料物、銀子貳百疋目到來、兩人堅固之掙不及申候、如此之砌者、役所存知之先證、有之儀候之條、於向後者、被任前々之旨、裁判專要候、恐々謹言、

(天正八年)  
正月廿四日

(大友)  
義 統 御判  
(大友義麟)  
宗 麟 御判

○宛所ヲ欠ク。

三六 大友よし統感狀(紙切)

○兎玉文書  
大分県史料一一

(端裏切封)  
「(墨引)」

山香郷

鞍懸方面ノ軍勞ヲ賞ス

今度田原右馬頭依逆心、其探錯亂之處、無別儀覺悟、殊就鞍懸近方、夜白ゆたんなく、軍勞のよし、感入候、必追而、一段可賀之もの也、かしく、

癸丑年  
卯月十日

(大友)  
よし統 (花押)

松ヶ尾新次郎とのへ

三九 大友義統感狀(紙切)

○長野康雄文書  
大分県史料一

鞍懸近方ニオケル軍勞ヲ賞ス

今度依田原(右馬頭)逆心、其堺令錯亂候處、無二之覺悟、殊就鞍懸近方、夜白無油斷、軍勞之次第、感入候、彌可勵忠儀事、肝要候、必追而可賀之候、恐く謹言、

癸丑年  
卯月十日

(大友)  
義統 (花押)

長野中務入道殿

三〇 大友よし統感狀(紙切)

○豊田文書  
大分県史料一

(縮裏切封)  
「(墨引)」

鞍懸近方ニオケル軍勞ヲ賞ス

今度田原右馬頭依逆心、その探さくらん候處、無別儀覺悟、ことに就鞍懸近方、夜白無油斷軍勞の由、感入候、必追而、一段可賀之もの也、かしく、

〔天正六年〕  
卯月十日

〔天友〕  
よし統（花押）

長田鶴若とのへ

三三 大友義統跡目安堵狀

○長野末夫文書  
大分県史料一一

〔端裏切封〕  
一（墨引）一

父統秀跡目ヲ安堵ス

父源内允統秀跡目之事、任相續之旨、領掌不可有相違候、恐々謹言、

〔天正六年九〕  
卯月廿六日

〔天友〕  
義統（花押）

長野宮徳殿

三三 白杵清昌書狀

○城内文書  
増補訂正編年大友史料二五

返々宿之事頼申候、必以面可申候、以上、

山香表出張ニ付宿ヲ依頼ス

爲御使山鹿表へ參候處、大雨にて候間、爰許へ逗留申候、如御存知、宿所一圓無御座候條、其元之様可參覺悟候、御近方へ宿之事、頼申候、從御返事則時可參候、一所ニ宿四ツ被仰付可給候、く、

葛西平右衛門尉入道・野上中務少輔・武宮彈正忠・拙者四人同心申、萬頼候、恐々謹言、

〔天正六年九〕  
卯月廿六日

〔白杵〕  
清昌（花押）

山香郷



臼杵主水入道

辻間彈正忠殿 御宿所

清昌

三三三 田原親家知行預ケ狀

○津崎真澄文書  
大分県史料一〇

田原親貫反逆  
鹿越ヲ攻ムルモ  
敗北ス  
俣見役職ヲ預ク

今度親貫(田原)企逆意、海陸以行、動自他國、既當家及破滅之處、一味中申談、從來繩郷引割、令歸陳、剩同日、以猛勢鹿越表江雖相働、到國東打入候之條、令敗北、屬御勝利候、別而忠儀之至、不異他候、爲其償(マ)、志月佐渡入道先給所々在々、不殘段歩、并俣見役職之事、預遣候、下地云、土貢云、守此旨、全知行肝要之狀、如件、

天正八年五月廿六日

(田原) 親家(花押)

津崎大和入道殿

三三四 田原親貫恩賞宛行狀

○大友家文書録  
大分県史料三三

芸州ノ助勢ヲ申  
調ヘタル忠節ヲ  
賞ス  
永松給田原ノ内  
十町地及ヒ山香

就  
。今度不慮之成立、至鞍懸令登城之段、彼一城事、親武(田原、如法寺)以父子談合、城被執付置、此節一家再興之儀、偏連々堅慮之格護故候、殊至藝州差上候之處、長々令在國、加勢之警固舟被申調、如此遂本意候事、恰云、恰云、忠意之趣、無比類候、仍爲加恩、永松給田原之内拾町地、山香郷之内平三町

郷内平三町

地、令裁許畢、全領知肝要之狀、如件、

天正八年八月廿三日

(田原親)  
貫在判

(如法寺親武)  
田原左近大夫殿

三五 大友義統書狀(紙切)

○字野文書  
大分県史料一

(端裏切封)  
一(墨引) 一

鞍懸在陣ノ軍勞  
ヲ賞シ本庄中務  
少輔同心忠節ヲ  
致サシム

於鞍懸表、自最前遂在陣、軍勞之段感入候、殊至絹懸陣付之儀、本庄中務少輔江申付候、乍辛勞、以同心可被遂其節事、肝要候、猶鎮述可申候、恐々謹言、

(天正八年)  
九月廿二日

(大友)  
義統(花押)

宇野宮内丞殿

三六 大友義統感狀(紙切)

○字野文書  
大分県史料一

(端裏切封)  
一(墨引) 一

今度最前以來、軍勞之由候、就中此節、本庄中務少輔以同心、辛勞之段、令承知候、然者前廿至鞍懸、通用之惡黨以夜待討果、分捕高名忠儀、無比類候、必取鎮、一稜可賀之趣、猶鎮述可申候、

山香郷

鞍懸攻略ノ軍勞  
ヲ賞ス

山 香 郷

六〇八

恐く謹言、

(天正八年)

九月廿二日

(大友)

統 (花押)

宇野宮内丞殿

三三 齋藤道璣書狀 (紙折)

○平林文書  
大分県史料二五

山香御陣所

尙く彼方知行所之事、於山香御陣所、しかと所柄等、相調置儀候間、口能有ましく候、爲御

存知候、以上、

原左ニ知行ヲ打  
渡サシム

以惣連署如申□、(候カ)原左事、(鎮速)近く爲知行、可被差越候、早く被打渡候様、道二可仰合候、萬一道二差

合事共候者、一人茂、「(以下折返)苦かるましく候、彼方事茂公役之儀候、其内相調候やうに、御才覺專一候、

恐く謹言、

十月八日

(齋藤)  
齋紀入

道 璣 (花押)

(平林鎮樹)  
平彈まいる

申給へ

三六 田北統周書狀

○吉松文書  
大分県史料三五

〔端裏切封〕  
〔墨引〕

山香郷五十貫内  
ヲ古庄加右衛門  
尉ニ扶助ス

吉松右京亮支与  
ルニツキ論所ヲ  
差分ク

山香郷五十貫之内、用作所并名子分之事、至古庄加右衛門尉加扶助候、此内爲私領之由、以口能承  
候之間、雙方相閉目候之處、其方理不盡之申事、雖不及信用候、既父大學允忠儀之一筋目候之條、  
右之論所差分、食田壹反・町堀一所預進之候、無異儀可被申談候、爲存知候、恐々謹言、

十一月七日

吉松右京亮殿

〔田北〕  
統周〔花押〕

三九 吉松右京亮給地坪付

○吉松文書  
大分県史料三五

吉松右京亮ニ与  
フル給地坪付

〔田北統周〕  
〔花押〕

浮免

一所壹町壹段

浮免

井堀

一所五段

井堀

河原田

一所四段

河原田

小田

一所壹段大

小原

山香郷

山 香 郷

六一〇

食田

一所壹段

食田

市井手

一所町堀壹(脱アリ)

市井手

田中

一所三段

田中

以上、

十二月十日

吉松右京亮殿

三六〇 松田員種證狀

○松田文書  
大分県史料二一

田原親貫押領

□書候、然者□

□念候、七代自以前、□座司奉□仕來在所之由、具□承知候、

然□平原小左衛門入道・田原右馬頭□押領、不及是非候、雖然、自役所□段歩巨細□進之候、  
如前々之□座司、可有所勘候、右□年蒔之事□迄□傳、盡未來并平原家に□前之儀、不可然候、  
仍爲□日之狀、如件、

天正九年辛巳三月七日

松田新兵衛尉  
員種(花押)

六太郎樵永入道殿

六太郎與三郎殿御所

田原紹忍同心ヲ  
以テ軍勞センヲ  
賞ス

宇佐社中一雅意  
ニツキ討伐セン  
時妙見岳留守番  
ノ節ヲ遂グルヲ  
賞ス

三四 大友義統感狀(紙切)

○長野末夫文書  
大分県史料一一

(端裏切封)  
「(墨引)」

其方事、田原近江入道(紹忍)以同心、軍勞之由、感入候、彌紹忍申談、可勵馳走事、肝要、必追而、可賀  
申候、恐々謹言、

(天正九年カ)  
八月廿五日

(大友)  
義統(花押)

長野彌十郎殿

○義統花押八天正九(二五八三)一〇年頃ノモノ。

三四 大友義統感狀(紙切)

○長野康雄文書  
大分県史料一一

宇佐社中之者共、企一雅意之條、田原近江入道(紹忍)以下、城相閉目候、然者其方事、妙見嶽留守番、被  
遂其節由候、辛勞之儀候、必追而、一稜可賀之候、恐々謹言、

(天正九年カ)  
十二月三日

(大友)  
義統(花押)

長野彌十郎殿

軍勞ヲ賞シ山香郷内領地ノ万雜諸点役ヲ免ズ

三三 大友義統萬雜諸点役免除狀

○宇野文書  
大分県史料二一

近年於所々、別而軍勞之段、令承知感入候、仍爲其賞、山香郷之内其方領地分、萬雜諸点役令免許、同可爲檢斷不入候、但於屋作城誘者、如前々、相應之馳走、肝要候、猶本庄中務少輔可申候、恐々謹言、

(天正九年)

十二月卅日

宇野宮内少輔殿

(大友) 義統 (花押)

三四 大友義統感狀(紙切)

○長野末夫文書  
大分県史料一一

(包紙折封ウハ書) 「長野源内允殿

(糊裏切封) 「(墨引) 一」

義統

安心院表ノ軍勞ヲ賞ス

(宇佐郡) 於今度安心院表、本庄中務少輔以同陣、別而軍勞之由、感入候、彌可勵馳走事、肝要候、必追而、一段可賀之段、恐々謹言、

(天正十一年乙)

正月十六日

長野源内允殿

(大友) 義統 (花押)

豊前発向ノ刻ノ  
忠儀ヲ賞ス

三五 大友よし統感狀

○小野尾文書  
大分県史料一

今度豊前國發向之刻、さいちん、殊下毛郡佐野切寄挫候砌、被疵よし、忠儀感入候、必追而、一段可賀之ものなり、かしく、

(天平十一年九)

十月廿八日

小野尾河内入道とのへ

(大友)  
よし統 (花押)

三六 大友よし統感狀 (紙切)

○豊田文書  
大分県史料一

(船裏切封)  
一 (墨引) 一

豊前發向ノ刻ノ  
忠儀ヲ賞ス

今度豊前國發向之刻、さいちん、殊下毛郡佐野切寄挫候砌、被疵并小者一人被疵よし、忠儀感入候、必追而、一段可賀之もの也、かしく、

(天平十一年九)

十月廿八日

長野主殿助とのへ

(大友)  
よし統 (花押)



三七 大友氏部下姓氏付案

○志手文書  
大分県史料二一

(裏打紙端裏書)  
「大友部下姓氏付」

(貼紙)  
「大友氏」

別當 平井 大野 直入 □井 迫 帶刀 久保 速見 國崎 得永 一萬田 豐饒 高崎 志賀  
 朝倉 田原 吉弘 俣見 日差 戸次 大神 清田 藤北 松岡 竹中 利根 臼杵 利光 片賀  
 瀬 田口 竹迫 成松 上尾 奴留湯 冬田 津守 狹間 入田 吉岡 波津久 久土知 戸上  
 椎原 荒瀬 佐土原 御久里 長小野 岩屋 龜山 厚 木付 田北 石合 鹽手 須郷 城後  
 小津留 立花

大神氏

大神氏

佐伯 雄城 田吹 小原 大津留 田尻 賀來 種田 小深田 敷戸 木上 下郡 東家 橋爪  
 神志那 上野 徳丸 深田 堅田 夏足 長峯 都甲 眞玉 世利 蘆苜 陣 阿南 安藤 秋岡  
 栃原 由布 高城 奈須 胡摩津留 稗田 小井手 森迫 神崎 下藤

宇佐氏

宇佐氏

清原氏

清原氏

竈門 谷川 賀來 山下 志月 白仁 石垣 鹿嶋 馬場 葛木 荒木 檀 鶴成 卜野

野上 長野 帆足 小田 大田 大田 魚返 森 松木 古後 光永 中嶋 右田 大佐井 御手洗 田

古庄一族

古庄一族 藤原氏

朽網 倉成 寒田 永留 井上 小田原 波多 高田 草地 霧渡 坂折 原尻

本庄一族

本庄一族 藤原氏

原田 中村 針 廣瀬 牧 吉良 今村

齋藤一族

齋藤一族 藤原氏

津久見 軸丸 佐保 林 袋 疋田 森下 藤井 川原 差原

紀氏

紀氏

岐部 榊來 富來 永松 姫嶋 曾禰崎 何松 志手

多々良氏

多々良氏

京都 下城 市河 國分 藥師寺 平林

越智氏

越智氏

天江 立石

三善氏

三善氏

善 宮迫

渡辺氏

渡邊氏

山 香 郷

山香郷

堀渡邊

橘氏

橘氏

矢野首藤五郡

平氏

平氏

高山若林安藤丹生惠良武宮小佐井

宇佐氏

又宇佐氏

松崎野尻坂梨子廣川

大藏氏

大藏氏

伊美竹田津北崎如法寺宇津宮

三生氏

三生氏

定惠坊

大江氏

大江氏

江路

小野氏

小野氏

税所

未考

未考

小河内猪野能一 생野井伊内田風早志村玉田幸野泉原深江合澤進土

志土知 久地良 中尾 江戸 梅木 長ちやう 二宮 關 澁谷しぶや 深栖ふかす 松武まつたけ 重吉 岡部 岡屋 壇は  
 田た 田中おきつ 興津 羽田野はたの 江中みなか 長正ながまさ 橋本はしもと 本田 恆富 木田 沓懸くつかげ 梶原 神山かうやま 津野隈つのくま  
 龍德りうとく 二代にしろ 三代みしろ 小代せうだい

天正十一年小春廿三日

三六 原寶篋印塔銘

○白井昭一調査記録  
 速見郡山香町大字山浦字原

天正十二年甲申七月廿日

(地藏菩薩坐像)

於筑後甲□木戰死、安部左近志

(梵字タラク)

(梵字キリーク)

(梵字アク)

三九 大友よし統感狀(紙切)

○児玉文書  
 大分県史料一

(端裏切封)  
 「(墨引)」

山 香 郷

本庄鎮述同陣黒  
木実久里城打崩  
シノ粉骨ヲ賞ス

今度本庄伊賀守以同陣、前廿、至黒木兵庫頭要害猫尾、取懸里城、被打崩之刻、別而勵粉骨のよし、感いり候、必追而、一段可賀之ものなり、かしく、

(鎮述)

(天正十二年)  
七月廿六日

(天友)  
よし統 (花押)

松ヶ尾彈正とのへ

三三〇 大友よし統感狀(紙切)

○豊田文書  
大分県史料二

(端裏切封)  
「(墨引)」

本庄鎮述同陣黒  
木実久里城打崩  
シノ粉骨ヲ賞ス

今度本庄伊賀守以同陣、前廿、至黒木兵庫頭要害猫尾、取懸里城、被打崩之刻、別而勵粉骨のよし、感入候、必追而、一段可賀もの也、かしく、

(鎮述)

(天正十二年)  
七月廿六日

(天友)  
よし統 (花押)

長野主殿とのへ

三三一 大友義統感狀寫

○工藤勲文書  
大分県史料一一

本庄鎮述同陣黒  
木実久里城打崩  
シノ粉骨ヲ賞ス

今度本庄伊賀守以同陣、前廿、至黒木兵庫頭要害猫尾、取懸里城、被打崩候刻、別而勵粉骨のよし、感いり候、必追而、一段可賀もの也、恐々謹言、

(天正十二年)  
七月廿六日

(大友)  
義 統 (花押影)

工藤美濃守殿

三三 大友よし統感狀(紙切)

○児玉文書  
大分県史料一

本庄鎮述同陣ノ  
軍勞ヲ賞ス

今度本庄伊賀守以同陣、別而軍勞のよし、かんし入候、然者鎮述事、至津久見差遣候、重々乍辛  
勞、御同心彌可勵馳走事、かんように候、何様取鎮、可賀之もの也、かしく、

(天正三年)  
九月十日

(大友)  
よし統 (朱印)

松ヶ尾新二郎とのへ

三三 大友よし統感狀(紙切)

○豊田文書  
大分県史料一

(編裏切封)  
一 (墨引) 一

本庄鎮述同陣ノ  
軍勞ヲ賞シ同心  
馳走セシム

今度本庄伊賀守以同陣、別而軍勞のよし、かんし入候、然者鎮述事、至津久見差遣候、乍辛勞令同  
心、彌可勵馳走事、かんように候、何様取鎮、可賀之もの也、かしく、

(天正三年)  
九月十日

(大友)  
よし統 (朱印)

長田新次郎とのへ

山 香 郷

三六 大友よし統感狀

○小野尾文書  
大分県史料一

本庄鎮述同陣ノ  
軍勞ヲ賞シ同心  
馳走セシム

今度本庄伊賀守(鎮述)以同陣、別而軍勞のよし、かんし入候、然者鎮述事、至津久み差遣候、重々乍辛勞令同心、彌可勵馳走事、かんように候、必追而、一段可賀もの也、かしく、

○天正三年  
九月十日

○大友  
よし統 (朱印)

小野尾新介とのへ

三五 大友義統感狀寫

○工藤敷文書  
大分県史料一

本庄鎮述同陣ノ  
軍勞ヲ賞シ同心  
馳走セシム

今度本庄伊賀守(鎮述)以同陣、別而軍勞之由、感入候、然者鎮述事、至津久見差遣候、重々乍辛勞令同心、彌可勵馳走事、肝要候、追而一段可賀もの也、恐々謹言、

○天正三年  
九月十日

○大友  
義統 (花押影)

工藤美濃守殿

三五 浦上宗鐵書狀寫

○城內文書城内歴世記  
大分県史料一

猶(西)々西寺之公米、何とて(采分)も、沖濱(沖濱)まで運送之儀、頼存候、必々申上御感候、(正)やがて取合、不可  
有無沙汰候、折(之)々馳走之段、玖珠へ參陣候者、可申上候、爲御存知候矣、

山香郷日差ノ公  
米ヲ沖濱ニ運送  
セシム

態用一書候、仍山香日差村公米之事、津出之刻者、別而馳走之由、承及候、必(之)々遂披露、被成 御  
感候様、可申上候、當村者、日田郡へ、大殿様供奉仕、堪忍仕候間、無其儀候、仍大善公(善)・淨土寺  
ニ公米、其方宅所へ津出之由承候、近來雖無心様候、沖濱へ運送之儀、頼存候、木付所へ先(存)々預置  
度候間、是非共馳走候へと存候、必可達 上聞候、爲御存知候、恐(存)々謹言、

(天平十三年カ)  
十二月八日

(浦上) 宗 鐵 (花押影)

辻間彈正忠殿 御宿所

○『増補訂正編年大友史料』二七ト校合。(一)内傍注ハ同書。

三六 豊後國志

○速見郡志  
佛寺

長流寺

山香郷ニ長流寺  
ヲ開ク  
天正亂後衰フ

在山香郷上村、舊合名山圓福寺之址、建武中、玉泉湛禪師開化于此、玄風四布、後經百有餘年、天正亂後殆衰廢、  
寶永初、立石府主木下延由、使晋山利禪師興其廢、更山曰良照、寺曰長流、且改作圓福寺於德清田邑、以爲終老之  
地云、

山香郷



三六 野原久内允給地坪付(紙切)

○志手文書  
大分県史料二

(花押)

給地坪付ヲ与フ

坪付

一所貳段大

岩男

内藏丞跡

一所五段

平野名

以上

天正十六年

正月十三日

野原久内允殿

三九 古庄久七書狀

○清原宣雄所藏文書  
大分県史料二五

(紙ウハ書)

御師

福嶋御鹽焼太夫殿

山香郷立石

(マシ) 示久七

(端裏切封)

「(墨引)」

以上、

御祓太麻等ヲ謝  
シ白布ヲ送ル

爲御祈禱御祓太麻、并帶壹筋・五明貳本送被下、遠路迄之御心緒不淺、忝奉存候、自是茂、少分之儀候へ共、白布壹端進上仕候、彌々於御神前御祈念之處、奉仰候、恐惶謹言、

二月九日

古庄久七

(花押)

福嶋御鹽燒大夫殿

三〇〇 首藤吉丞書狀

○清原宣雄所藏文書  
大分県史料二五

(包紙ウハ書)

豊後國速見郡立石村

首藤吉丞

太神宮御師

福嶋御鹽燒大夫様參

貴報

(端裏切封)  
一 (墨引) 一

尙々是方も、爲御初白布壹端、進上申候、以上、

貴札具拜見仕候、仍遠國まで、爲御祈禱御祓太麻、并御土産送被下候、目出奉存候、彌々於御神前御祈念之衷、奉憑候、重々可得貴意候、恐惶謹言、

六月廿三日

首藤吉丞

三 (花押)

大神宮御師

山 香 郷

祈禱ノ被太麻等  
ヲ謝ス

山 香 郷

六二四

福嶋御鹽燒大夫様參

貴報

三二 西正次書狀(折紙)

○清原宣雄所藏文書  
大分県史料二五

(包紙ウハ書)

福嶋大夫殿參

山香郷日差

西作進

八木一斗五升ヲ  
送ル

尙々於已來者、別而可得尊意候、隨而八木壹斗五升、進上仕候、誠少分之至候へ共、御音問斗  
候、已上、

御祓太麻並ニ使  
者ヲ下サル、ヲ  
謝ス

尊札拜見仕候、仍御被太摩并兩種拜領、忝奉存候、爲御使者、横橋源左衛門殿被成御下候、何七御  
馳走不申候而、迷惑仕候、於向後者、爰元相應之儀、不可奉存疎意候、恐惶謹言、

西作進

十二月十三日

正次(花押)

福嶋大夫殿

貴報

山香郷内領地分  
万雜諸点役ヲ免  
ズ

三三 大友吉統義統萬雜諸点役免除狀寫

○平林文書  
大分県史料一三

山香郷之内、其方領地分、萬雜諸点役令免許、殊可爲檢斷不入候、併此方於用所者、馳走肝要候、  
可被得其意候、恐々謹言、

(三三)  
二月廿日  
(天正十八年乙)

(天友)  
吉統 (花押影)

平林彈正忠殿

○『増補訂正編年大友史料』二八二八「三月廿日」トス。

三三 大友吉統義統官途狀

○長野末夫文書  
大分県史料一一

(包紙ウハ書)  
「長野勘七郎殿

義統」

(編裏切封)  
「(墨引)」

左馬助ノ官途ヲ  
与フ

左馬助望之由、可存知候、恐々謹言、  
(天正十八年乙)  
九月廿一日

(天友)  
吉統 (花押)

長野勘七郎殿

山香郷

三四 田北統周知行預ケ狀

○志手文書  
大分県史料二一

(包紙ヶ小巻)  
一野原孫五郎殿

統周

山香郷東分五十貫内ノ地ヲ預ケ

爲無足奉公、感悅候之條、山香之郷東分五十貫之内、嶋紺屋并四郎右衛門分之事、預進之候、可有

知行候、恐々謹言、

(天正十九年)  
壬正月十八日

(田北)  
統周(花押)

野原孫五郎殿

三五 大友吉統書狀(折紙)

○竹中家文書  
大分市吉野下志津留諏訪一男藏

山香郷濟物、自檢使中調納之刻、兩人爲藏奉行、堅固被請取置、肝要候、爲存知候、恐々謹言、

檢使調納ノ山香郷濟物ヲ保管セシム  
藏奉行

(天正十九年)  
七月廿九日

(大友)  
吉統(花押)

岩屋與兵衛入道殿

竹中宮内少輔殿

三六 豊後國檢地目錄案

○西塞多神社文書  
大分県史料二五

○天正十九年<sup>辛卯</sup>八月吉日。「安岐郷史料」二七一号ニ取ム。本文省略。

三七 松田兵庫助土貢米皆濟狀

○児玉文書  
大分県史料一一

土貢米ヲ皆濟ス

<sup>(鑑書)</sup>  
「天正十九年<sup>辛卯</sup>ノ納」

納御土貢米之事

山香郷立石村

荒田

合高米拾石五斗六升定

納米六石五斗六升(黒印)

右、皆濟如件、

天正廿<sup>壬辰</sup>年二月九日

松田兵庫助(花押)

三六 豊後國諸侍着到帳寫

○武内本・中島本  
大分県地方史二〇八

(表紙)

「豊後國着到帳」

豊後國諸侍着到次第  
不同

○首三百五十一人及<sup>レ</sup>玖珠郡衆八十五人・國東郡衆三十八人・日  
田郡衆百十二人・由布院衆二十九人・戸次衆六十六人・高田庄衆  
十四人交名省略。

山香郷衆

都甲兵部少輔 都甲河内入道  
都甲治部少輔 都甲三河入道  
都甲兵庫助 廣瀬兵庫助

○以下緒方庄衆二十三人・井田郷衆四人・宇田枝衆十人・野津院  
衆十七人交名省略。

右大友松野氏所藏之秘本也、  
應大村源内勝安之需、謄寫之、  
延享丁卯季冬日  
(季也)

財津太郎右衛門永倫

右着到人數

三百五十一人 玖珠郡衆  
八十五人 國東郡衆  
三十八人 日田郡衆  
百十二人 由布院衆  
二十九人 戸次庄衆  
六十六人 高田庄衆  
十四人 山香郷衆  
六人 緒方庄衆  
二十三人

四人

井田郷衆

十人

宇田枝衆

十七人

野津院衆

都合七百五十五人

右者、日田郡藤山村庄屋財津忠左衛門於熊本書寫、予又寫之、

明和元<sup>甲</sup>申初冬吉日

佐藤新七閻眞

○芥川龍男氏発見ノ「武内本」(日田市武内俊雄藏)ト「中島本」(大牟田市中島輝男藏)トヲ同氏が校合シ、「武内本」ヲ最良質写本トシ、同本ノ二百分三十二人ノ脱落分ヲ「中島本」ニヨリ補正シ完本トシタモノデアル(「豊後諸侍着到」の復原と伝存事情)(『大分県地方史』一〇八)参照。



三九 大友吉統高麗出陣手勢物頭人數注文

○志手文書  
大分県史料一

〔裏打紙端裏書〕  
〔大友義統公高麗出陣手勢物頭人數〕

陣時大友義統

手勢物頭人數

高麗出陣ノ時ノ  
物頭交名ヲ注ス

齋藤三左衛門  
〔異筆、以下同〕  
大友義統公御弟田原親家の御事  
義統御舍弟田原親家ノ御事也

〔田原右馬頭親速舊領豐前門司城主〕  
〔大分県史料一〕  
胡麻津留新介  
田原與兵衛尉

野上七左衛門  
〔大神速見郡深江一戸城主〕

佐田權正

大津留主馬允

志賀湖左衛門  
〔大分県史料一〕

富來作右衛門

大神兵部少輔

岐部左近大夫

吉弘加兵衛  
〔大友義述公伯父〕

大神賢介  
〔日出豐後日出城主〕

臼杵神左衛門

田北平介

衛藤又右衛門

豐饒彈正忠  
〔豐後八代之地頭〕

小田原又左衛門  
アガノ

寒田雪介

吉良傳右衛門

一萬田民部少輔

志賀三郎右衛門

上野彌平次

木付三郎右衛門

柴田三郎右衛門

石合右京進

齋藤志摩守

平井兵部少輔

吉弘勝右衛門

龜原兵部少輔

志賀左近允

田吹與三左衛門

田北次衛門

古庄喜右衛門

疋田太郎介

齋藤主馬允

田尻次郎左衛門

今村喜介

本庄源太  
〔豊前ハシウツ〕

板井相介

中村左京進

河野傳兵衛

法花津半介  
〔豊前佐田〕

橋津掃部介

天徳寺小六

原田舍人佐

成松覺進

賀來中務少輔

利光宮内少輔

馬場右近大夫

田北治部少輔	富來雅樂助	清田味喜右衛門	城後覺内	葛西久兵衛
深栖 <small>「フカス」</small> 七右衛門	臼杵 <small>（ト）</small> 舍人允	本木左馬介	富來右馬介	菅新右衛門
林九左衛門	右田近介	下村治部少輔	徳丸源右衛門	谷川權進
岐部掃部介	若林甚内	高畑吉左衛門	深栖 <small>（ト）</small> 大藏介	寺中治部少輔
吉岡掃部介	富來權太	吉水茂介	永松内藏頭	平林甚左衛門
齋藤彌右衛門	古庄甚左衛門	法花津民部少輔	齋藤膳内	鳥羽平左衛門
佐田源右衛門	敷戸武介	田原進士	吉弘與左衛門	古後玄番允
田村作進	飯田三左衛門	古庄右馬介	大津留 <small>（ト）</small> 曲藥允	原田三郎
野町平藏	佐藤右近允	下郡縫殿介	下郡源右衛門	胡麻津留彌介
田染甚左衛門	戸次彌平	智恩寺	松岡長介	永富與右衛門
京都中務少輔 <small>「ミヤゴ」</small>	櫻井勘右衛門	平河次右衛門	宇野津喜介	帆足兵庫介
市川左馬入道	臼杵又兵衛	禊 <small>（ト）</small> 田内記	市川宮内少輔	吉弘掃部介 <small>「霧崎城主」</small>
古庄四右衛門	雄城將監	石合門介	市川作介	田染式部少輔
朽網式部少輔				

都合百拾六人 義統公惣勢六千人也、

文祿元壬辰年三月十二日豊後出陣也、

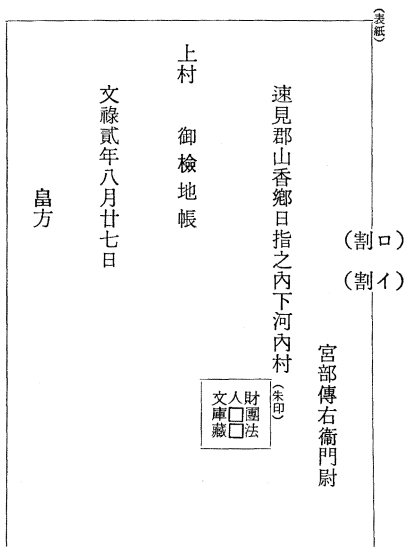
秀吉公ヨリノ先陣ハ同年三月朔日ニ出ル、

山香郷

三〇〇 豊後國速見郡山香郷日指之内

下河内村御檢地帳

○水青文庫蔵  
東京都文京区目白台一ノ二



○本帳ニハ、左記ノ黒印(イ) (ロ)ヲ用フ。紙綴目ノ割印ハ、(割イ) (割ロ)ノ記号ヲ以テ標示シタ。本文中ノ(イ)印ハ、「荒」地ニ例外ナク捺サレテキル。



(イ)



(ロ)

下河内村畠方

上廿四歩	いやしき	八升	二郎三郎
同所 大豆			○
上壹畝	栗	壹斗四升	同 人
同所			○
上三畝	いやしき	四斗貳升	新 兵 へ
同所			○
上壹畝	いやしき	壹斗	馬 介
同所			○
上拾八歩	いやしき	五升九合	清右衛門尉
同所			○
上貳畝	いやしき	貳斗	勘 内
同所			○
上壹畝拾八歩	いやしき	壹斗五升九合	宗 與
同所 大豆			○
上壹畝	大豆	壹斗四升	勘 内
同所			○
上貳畝	桑木	貳斗八升	宗 與
同所			○
三本			同 人
同所			○
中壹畝廿歩	大豆	貳斗	勘 内
同所			○





同所 ソバ  
 下貳畝 貳斗  
 同所 大豆  
 下三畝貳步 三斗六合  
 同所 大豆  
 下八畝 八斗  
 同所 大豆  
 下壹畝廿五步 壹斗八升三合  
 同所 大豆  
 下三畝 三斗  
 同所 大豆  
 下壹畝廿步 壹斗六升六合  
 同所 大豆  
 下壹畝 壹斗  
 同所 大豆  
 下貳畝廿步 貳斗六升六合  
 同所 大豆  
 下貳畝 貳斗  
 同所 大豆  
 下壹反 壹石  
 同所 ひへ  
 下半廿步 五斗六升六合  
 同所 ひへ  
 下壹畝 壹斗  
 同所 大豆  
 下廿步 六升六合  
 同所 大豆  
 下三畝 三斗  
 同所 大豆  
 上貳畝 貳斗八升  
 同所 麻  
 上壹畝 壹斗四升  
 同所 大豆  
 上壹畝 壹斗四升  
 いやしき  
 上貳畝 貳斗  
 同所 大豆  
 中八畝 九斗六升

山香郷

(割口)

同	同	同	同	喜	傳	清	正	同	與	清	二	新	勝	同	同	清	八	同	
郎	郎	郎	郎	郎	内	藏	源	人	十	藏	郎	郎	順	人	人	藏	郎	兵	人
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

同所 ソバ  
 上廿四步 壹斗壹升二合  
 同所 ひへ  
 下四畝 四斗  
 同所 粟  
 中廿步 八升三合  
 同所 大豆  
 中貳畝 貳斗四升  
 同所 粟  
 中廿步 八升  
 同所 粟  
 中廿五步 壹斗  
 同所 大豆  
 中壹畝 壹斗貳升  
 同所 麻  
 上廿步 九升三合  
 同所 小豆  
 中壹畝 壹斗貳升  
 同所 ソバ  
 中壹畝 壹斗貳升  
 同所 荒  
 中半 (口) 六斗  
 同所 大豆  
 上壹畝廿步 貳斗三升三合  
 同所 大豆  
 中四畝廿八步 五斗九升貳合  
 同所 大豆  
 上七畝拾歩 壹石貳升六合  
 同所 大豆  
 上貳畝拾歩 三斗貳升六合  
 同所 大豆  
 上貳畝拾歩 三斗貳升六合  
 同所 大豆  
 上二畝拾歩 三斗貳升六合  
 同所 大豆  
 上壹畝 壹斗四升  
 同所 麻  
 上壹畝廿四歩 貳斗五升二合

(割口)

(割印ナシ)

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
人	郎	藏	内	五	内	五	藏	郎	郎	郎	泉	藏	善	郎	内	郎	郎	人	人
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

山香郷

上同所 上斗 大豆	七斗	同	同	人	〇
上同所 上貳敵廿歩 大豆	三斗七升三合	同	同	人	〇
上壹敵 いやしき	壹斗	同	同	人	〇
上同所 上貳敵廿歩 大豆	三斗七升三合	同	同	人	〇
上七敵 ふるみ 大豆	九斗八升	二	二郎右衛門尉	〇	〇
上壹敵 いやしき	壹斗	勝	藏	〇	〇
上同所 上壹敵 粟	壹斗四升	同	人	〇	〇
上貳敵 いやしき	貳斗	傳	内允	〇	〇
上貳敵 いやしき	貳斗	新	五	〇	〇
上貳敵 いやしき	貳斗	清	藏	〇	〇
上同所 上貳敵廿歩 麻	貳斗六升六合	同	人	〇	〇
上廿四歩 いやしき	壹斗壹升一合	同	人	〇	〇
上壹敵 いやしき	壹斗	彌	七郎	〇	〇
上同所 上貳敵廿歩 大豆	三斗七升三合	同	人	〇	〇
上四敵 うへのはたけ 大豆	五斗六升	彌	四郎	〇	〇
上同所 上九敵廿四歩 粟	壹石三斗六升一合	又	五郎	〇	〇
上貳敵 いやしき	貳斗八升	七	郎	〇	〇
上同所 上三敵 粟	四斗貳升	同	人	〇	〇
上壹敵 いやしき	壹斗三升三合	甚	右衛門尉	〇	〇
上同所 上貳敵 麻	貳斗八升	同	人	〇	〇

(割印ナシ)

六三六

上いやしき 上壹敵	壹斗	同	同	人	〇
上同所 上貳敵廿歩 大豆	三斗七升三合	同	同	人	〇
上同所 上壹敵 麻	壹斗四升	同	同	人	〇
上同所 上廿歩 ソバ	九升三合	同	同	人	〇
上同所 上貳敵 大豆	貳斗八升	同	同	人	〇
上同所 上六敵 大豆	八斗四升	同	同	人	〇
上同所 上壹敵拾五歩 大豆	貳斗壹升	同	同	人	〇
上同所 中壹敵 大豆	壹斗二升	同	同	人	〇
上同所 企むかいノ晶 麻	貳斗八升	同	同	人	〇
上同所 中四敵 大豆	四斗八升	同	同	人	〇
上同所 上貳敵 大豆	貳斗八升	同	同	人	〇
上同所 上貳敵 麻	貳斗八升	同	同	人	〇
上同所 上貳敵 大豆	貳斗八升	同	同	人	〇
上同所 上三敵 大豆	四斗二升	同	同	人	〇
上六ちち 上壹敵 大豆	壹斗四升	同	同	人	〇
上同所 上壹敵拾八歩 ソバ	貳斗二升二合	同	同	人	〇
上同所 上二敵拾歩 木綿	三斗貳升六合	同	同	人	〇
上同所 上二敵廿歩 大豆	三斗七升三合	同	同	人	〇

(割口)

(割印ナシ)















三七 速見郡内石高帳

○志手文書  
大分県史料二一

速見郡内村々ノ  
石高ヲ注ス

六百六拾五石九斗一升  
 九百八拾九石壹斗  
 貳千六拾貳石三斗八升  
 千貳百九拾三石八斗四升  
 千百五拾六石八斗  
 貳千貳百六拾九石一斗七升  
 貳千六百六拾四石八斗五升  
 九百五拾三石九斗一升  
 千八百六拾三石八斗四升  
 百六拾石四斗貳升八合  
 千七百拾八石四斗八升  
 七百貳石五升八合  
 千貳百五拾八石三斗五升

山 香 郷

山香郷之内  
 倉成□  
 同 小武□・今 □  
 同 廣 瀬  
 同 常 光  
 同 後川内  
 同 下立石  
 同 中立石  
 同 志手・貫井  
 同 山 浦  
 同 野 原  
 同 日 差  
 同 南 畑  
 同 久米野尾  
(米ノ誤也)

山 香 郷

千八百七拾八石五斗七升貳合

貳千九百七拾石七斗

貳千七拾七石八斗五升

千八百五拾五石貳斗貳升

八百六拾九石四斗壹升

貳百貳拾九石九斗三升

六百七拾貳石六斗五升貳合

三千六百四拾貳石四斗七升

三千八百八拾八石七斗五升

三千貳百五拾四石八斗壹升

千九百五石一升四合

三千三百四拾三石八斗五升

千貳百五拾四石貳斗八升

千貳百九拾石貳斗一升

九百三拾五石七斗八升

千貳百拾六石九斗八升

千百九石三斗九升

木付

同

上 庄

下 庄

上 八 坂

下 八 坂

歲 田

八 代

眞那井

大 神

藤 原

日 出

辻 間

竈 門

石垣  
羈 見

同  
南 村

同  
北 村

別 符

濱 脇・小野小平

九百八拾壹石五斗一升

立石

八百石壹斗一升三合

由布院之内  
東畑

五百五拾石七斗八升

同 山ノ口・宿里

八百貳拾石九斗七升

同 石松・怒留湯

七百拾石斗升

同 山崎

三三 當家年中作法日記(抄)

○大友義一文書  
增補訂正編年大友史料三一

山香郷・浦部衆  
等対面

(正月) 十二日、山香郷・浦部衆など、被成対面候、無子細候、

略○中

椀飯ハ山香郷調  
申ス

十五日、悉急ほし、すほうにて候、祝膳の調、朔日同前なり、○中 終日方々へ禮をかへされ、椀飯の刻、夜ニ入出頭候、仍椀飯ハ從山香郷調申候、高田庄馳走にもまさり申分ニ候、様子無替儀、

山香郷ハ兩政所

山香郷ハ兩政所にて、椀飯各年ニ被調候、○中

三月十日の比より、方々の狩也、○下 臼杵・ひろは江・津久見・あか崎・ほとくのくし・山香・あさ

方々ノ狩臼杵・  
津久見・赤崎・  
保戸・山香・朝  
見

ミおもて、其外鹿狩之分ハ、自身しかきに立申候、○中

祇園会ノ棧敷ハ  
笠和郷・山香郷

(五月) 十五日、祇園會の事、○中 祭禮の規式、諸郷庄より調之、税所能々存知候也、十間之棧敷、笠和郷・山香郷にて一年かハりに調也、○中 此時供衆悉召出給候、又通り有座敷にハ、宿老・聞次・太

山香郷



山 香 郷

六四六

刀持、さて棧敷調役人、其年馳走衆一人、召出候、山香郷ハ兩役人にて、かハるゝの故、一人  
とかきらす候、○下略

右、當家年中之規式、近代之作法、爲後代書注訖、

文祿四年乙未十月吉日

(天友吉統)  
宗 巖 (花押)

三七 杵築生桑寺大般若經校合奥書

○久多羅木儀一郎「生桑寺の写本大般若經」  
大分県史蹟名勝天然記念物調査報告四

卷	卷末校合奥書
二	摺本交合了、 又於小武寺校之畢、
四	摺本校合、 以小武寺本校合畢、
二四	摺本交合了、 又以小武寺本校之畢、 以小武寺本校之畢、
三一	摺本以交合畢、 以小武寺本校校畢、
三三	以摺本交合了、 以小武寺本校之畢、

山香郷

四一	以摺本交合畢、 以小武寺本校校合之畢、
五〇	以摺本一交了、 以小武寺本校之了、
六一	摺本交合了、 又於小武寺圓快交之、
六二	摺本交合了、 於小武寺交了、
六六	以摺本交合畢、 又於小武寺圓快校之了、
七九	以摺交一交了、 又於小武寺交了、
八七	以小武寺本校之、 <small>了</small>
八九	以摺本校合畢、 又以小武寺本校之畢、
九一	以摺本交合了、 又於小武寺交了、
九二	以摺本一交合畢、 又於小武寺圓快校之、

六四七

一〇七	摺本交合、 又於小武寺交、
一一一	以摺本又交合、 又於小武寺交了、
一一二	以他本又交合了、 又以小武本交了、
一一四	以他本交合了、 又於小武寺交了、
一三二	於小武寺交了、
二〇六	於小武寺以同寺本圓快校合之畢、
二一八	以小武寺之本校、
三一一	以小武寺圓快校合、
五六六	小武寺圓快校之訖、

○生桑寺大般若經奥書調査ヨリ、小武寺關係ヲ抽出ス（「八坂莊史料」五一号参照）。小武寺ハ山香郷（山香町大字小武）ニアリ、久多羅木儀一郎ノ研究ニヨレバ、同經ハ摺本（又ハ他本）ニヨリ校合

シ、後ニ小武寺本ニヨリ校合セリト。小武寺円快ハ同寺過去帳ニヨレバ、元和元年（一六一五）六月五日寂トアリ、ソノ校合ハ慶長年間ト推定サレテイル。尚本大般若經奥書ハ『日出町誌』史料編ニモ収録サレテオリ、ソノ異同ヲ（ハ）内ニ傍注ス。

付録

一 紀姓志手氏系圖

○志手文書  
大分県史料一

紀姓

志手氏系圖

○○

繼雄

清和天皇御時、貞觀八丙戌年二月十三日、  
豐後國補任國崎郡司、十三年速見郡給、八月三日下國、

秀任

雄肥後守  
郡司十三年

秀武

補國崎郡司、四十年安治也、

宗

補郡司、四十年、長和五年丙辰  
治郡司

永

俊 大宰補隆家卿時郡司  
十八年長曆三年己卯也、治當郡廿七年

俊道

后朱雀院時、補郡司、廿一年  
康平三年庚子治兩郡廿一年、

俊宗

本院御時、補兩郡司、廿一年  
永久五丁酉年、治兩郡四十九年

宗平

紀平殿、補郡司廿一年、  
无實子間、養甥忠俊立嫡子、

盛時

后白川院御時久壽二年乙亥三月廿三日、於六波羅、依令殺害常陸國御家人淺間小次郎頼國親類藤源次  
頼直之罪科、爲流人居住伊豫國之間、或相憑舍兄宗。或爲治、渡來豐後竈門庄同日出庄、自宗平給赤  
山村居住ス、

而郡(國崎・速見)郡司

付録



忠 久三男 相傳同斷 久 氏相傳同斷 兼 久法名妙忍 田所職相傳 郷 久行重名并 田所職相傳

正 秀次男、早世 相傳同 正 久彥七、行重名知行 田所職相傳 久 續三男、行重名 并田所職相傳 兼 久左衛門尉、法名 妙居、相傳同斷

秀 久沙彌法名道日 相傳同 則 久源四郎、於肥后日野陳討死刻ヨリ、芝尾壹町・松木壹町 八丈七段合貳町七段奉上、殘而三町爲田所職拘、

重 豪眞光防、行重名半分相 傳、田所職後渡于忠久、鑑 仁願成寺、又號赤松寺院主、又號 座主阿闍梨金剛佛子、

兼 俊 日出庄赤山村相傳 則 元當邑相傳 母忠俊妹 保 村赤山村持 母兼貞次女

保 則 彌三郎 定 西實道房 則 重次郎兵衛尉 當村相傳

有 久次男、彥七、左衛門入道了心 山香行重名、田所職相傳、應永廿六年 實 久土佐守、法名昌松 相傳同斷

重 久九郎次郎

吉 久彌次郎、二男、法名了日、相傳同斷、 長祿二年五月十三日 泰 久

豐 久志手美濃守 永正八辛未年山香郷司勤ル 加賀守、入道了昌、永正八辛未年息 三年豐久田所職、垂門令相續、明應十 行、永正元年鉢窪忠節仁垂門被下知 百步被下令領知、永正十三年十二月 廿八日立石村兩所九段被下、是者五 男照久七御下文申請相續之、

泰 吉刑部丞 二男

山香郷

祖 慶<sup>三世</sup>早世

宣 久<sup>四男</sup>、又次郎  
久<sup>早世</sup>

照 久<sup>五男</sup>、木工助  
立石村九段爲知行、

常 久 志手次郎、法名道木

兼 久 法名了賀、三郎次郎、志手新兵衛尉  
志手備後守

秀 久 志手中務少輔、志手新次郎、志手伊賀守

鑑 久 志手新次郎、志手掃部助、法名了嘉、田所職相傳

鎮 久 志手新兵衛尉、寛永十三丙子年十月十七日死ス、  
法名冬月久意居士、妻ハ寛永九年壬申十一月十六日死ス、法名玉窓妙慶信女

統 久 新次郎 久 吉 志手孫助

○下略

○「本系図」ハ、『本集成』三「国東郷史料」六・一〇・一一・一二号等参照。

## 二 山香郷地頭職系圖

○志手文書  
大分県史料一

(包紙ウハ書)  
一 貴重  
山香地頭系圖

鎌倉時代本紙

(端裏書)  
「政所系圖」

豊後國御家人山香郷政所職代々系圖次第

六十二代  
村上天皇 山香開發主也、

天徳元(己、)  
當天文十三年甲辰年五百八十八年也、

御宇

紀大夫貞房方

イ本ニハ貞方

二 大神貞將(正) 貞房養子號八郎四郎郷司、  
[手]

三 俊門 號太郎郷司

四 貞門 小松三郎郷司

初  
辻野尾立之、  
寶治(戊申) 貳年(辰年迄) 門尉

同貞家

五 貞家 號 萩尾太郎 石丸地頭

大神 家 忠 葛和九郎郷司

六 貞房 次郎、立石地頭村

貞村 三郎、郷司

大神貞將


同貞門

付 録



山香郷

七	並貞	三郎、弘瀬地頭	惟村	二郎左衛門、郷司
八	貞經	草場七郎	惟貞	三郎衛門尉、郷司
九	高家	草場三郎 號北入道	惟忠	郷司
十	貞朝	古河八郎入道正忍	貞隆	森右衛門尉、郷司
十一	好心	上總房 向野石丸主 <small>イ本ニ如此ツル也、</small>	惟貞	右衛門尉、郷司
十二	貞信	太郎 法忍	惟能	孫次郎、郷司
十三	家氏	古河孫次郎 <small>(重九)</small>	貞能	右衛門三郎 郷司
十四	家氏	古河七郎	貞繼	右衛門四郎 法名阿佛、郷司
十五	家貞	古河十郎 大神氏十四代是也、	貞榮	與一兵衛尉、郷司

嘉元三年 

○(ハ)内ハ「都甲文書」(『大分県史料』九)ニヨリ注ス。

三 工藤氏系圖

○工藤敷文書 大分県史料一



山香郷広瀬地頭

祐 家 氏改伊東

兩家ノ紋庵木瓜

改氏號工藤武者

祐 次 狩野

經 一處左衛門尉  
宇佐美三郎

祐 時 五郎、九州下向  
前大野地頭

春 內田工藤九郎、豊後速見郡山香郷  
廣瀬地頭、法名覺翁、承元元年四  
月七日卒、馬場東ノ平ニ葬

祐 長 六郎、後號薩摩守

朝

致 清 內田工藤三郎、法名蓮心  
弘安八年五月十三日卒、同所葬

持 彦三郎、法名願念  
文保二年三月五日卒、同所葬

致 郷 九郎、法名長翁  
貞和二年六月十日卒、同所葬

致 彦九郎、法名安心  
永和元年二月九日卒、同所葬

直 致

頼

氏 致 左京亮、法名道珍  
應永九年八月廿九日卒、  
同所葬

親

致 太郎、法名祐本  
永〇、〇二年十一月二日卒、同所葬

治 致

女

子

女 子

付 録

山香郷

教 致 美濃守、法名玄藤  
寛正元年九月五日卒、同所葬

致 三河守、法名心廣  
長享二年六月七日卒、同所葬

女 子  
女 子

佐立石原ニ戦死、大群野ニ葬ル

常 致 縫殿助、法名寛道、永正十二年十二月三日卒、同所葬

致 美濃守 法名殿阿彌  
天文三甲午年毛利勢襲來、大友家ノ命ニ依テ立石原ニオイテ防戰、戰死シテ大群野ニ葬、卒日四月六日ナリ、(マ)

文 致 左京亮、法名常本  
永祿十二年二月九日卒、馬場東平葬

守 美濃守、法名道雲  
文祿三年十月廿日卒、同所葬

女 致 新七郎  
子 員

治 女

子

略〇下

四 速見郡山香町大字・小字一覽表

大字	村	大字	小字
上田居	下田居	中田居	北ノ原
小迫	丸尾	中尾	一ノ尾
竹尾	瀬口	久保	宮ノ上
大迫	大丸	石仏	立石
川ノ平	大川司	屋根ケ田	高堂
高屋	平石	赤木	庄ケ田
和田	龍門寺	中舟ケ尾	下舟ケ尾
後山田	大石ケ谷	上舟ケ尾	北原
清水	東鹿鳴越	鹿鳴越	西
上大重見	上大重見	中田尾	柚ノ木田
笹尾	二ノ尾田居	下二ノ尾	二ノ尾
殿山	平山	鍛冶屋坊	川透
柳掛	上轟	轟	松尾
川原田	御入山	後松尾	上御入山
辻	大原	浦山	小重見
小武	西岳	洲川手	高木
下山口	向山口	剣ノ木	内川野
隠山	猫田	山口	コモノクチ
中ノ迫	塩石	赤迫	徳野
西ノ迫	葛根迫	鷹ノ巣	甲辛
兜岩	五反田	城ノ尾	笠別当
大坪	長畑	坂口	堂ノ前
神田平	早田	平原	下ノ迫
板井ケ迫	東板井ケ迫	論地	横畑
東横畑	弥次郎畑	前	由ケ迫
焼山	馬転	小田平	石穴
上川原	下川原	広見	仁田尾
宅畑	通田坊	亀ノ甲	遠見石
上畑	才添	深迫	湯ノ平
高山	下藤ノ木	大谷	藤ノ木山
下長谷	南長谷	長谷	御田
今畑	川添	タノラ	藤ノ木
田ノ平	中畑	御堂ケ迫	見付山
中尾	西	手	御所園
久保ノ谷	久保	丸尾	梅ノ木谷
岩ノ下	五郎ケ迫	小ケ倉	貝ノ木
休石	猪垣		

倉成

鳥屋山、向野、芋付川、石原、蒨屋、堂ノ下、越井、池ノ口、越井山、長葉山、瓜畑、堀切、立鼻、小野、なげやぶ、こしき、ふなごら、堂のもと、堂のはな、ほおやぶり、芝居床、かさまち、

井手ノ上、沓町田、溝添、下高取、上高取、中川原、乘元、出口、小早田、的場、中村、洗太郎、三月、大久保、永石、峯田、板屋、弘安寺、五田、平野、釜ヶ追、池ノ追、古園、追田、堤、九郎、四郎、梅ノ木追、稗田、二本木、辻田、松ヶ尾、前田、高平、大平、野口、本林、柿ノ木ヶ丸、山ノ口、宮ノ尾、山添、笹川、藪田、後追、猫石、野地田、高畦、西平、西袖ノ追、下早田、猫田、ぐみがちげ、竹ノ本、東袖ノ追、東、中畑、上早田、高畑、板橋、庵元、仁田尾、四所田、当永追、本嶽、川原田、東妙善坊、西妙善坊、松原、西芹、東芹、狸追、内ヶ追、中山、新村、集り、峠、山戸原、葛根追、八郎瀬、山ノ神、堀切、下り松、狐平、上金堂、金堂、園、鳥越、小所、越原、台、赤山、田井、六田、アマガ追、甲ノ尾

村中山香

火フリ、上林、大平、本谷、久保、二本木、井堀、峯、平、千重、前垣、神前、其田、台、歳神、みその、ごたんざれ、てら、なかのうて、してまゝ、兼手、志手、岡、宮ノ谷、小松原、塔ノ本、弥ヶ谷、大

ミソノ、五反切、寺田、中繩手、志手前、兼手、志手、岡、宮ノ谷、小松原、塔ノ本、弥ヶ谷、大辻、下原、原、行重、鱧穴、浦山、鳥越、山田ノ平、中シン鼻、峯平、倉園、東野原、西野原、神ノ木、樋ノ口、龍頭、神条、住床、石田、古宮田、竹松、長池、船木、原田、クツコ、宮ノ原、若宮、宮ノ後、つる、神塩、甲ノ尾、五所、本村、柳ノ内、四反田、緒方、塚田、八幡、白出、御堂原、桜馬場、鋤崎、溝ノ上、三反田、小川原、子ヶ平、大道端、一本松、幸正、養泉寺屋敷、大久保、福林、林、無田、宇野、井辻、竹ノ内、イヲ平、小鳥、踊場、鏡塚、タタラ、山ノ神、梅

内河野

水ノ下、狸穴、野添、向小鳥、丸尾、中玉、白土、大原、梅ノ木、松尾畑、下田屋、梨田、宮山、  
大手藪、小野尾、鳥ヶ原、稲荷山、ウト平、奈山、徳田、津山、袖ノ木迫、落合、恵良、恵良ノ下、  
竹下、二文字、川原田、一丁田、中須、高月、小原、瀧ヶ平、城ノ内、樋掛、フツベ、尾久保、栗  
本、堂尾、神田、朝打、高平、迫田、尾迫、南山、樫ノ上、竹ノ上、船ヶ尾、ホキ山、西平、平畑、  
元河内、花木、宮前、上ノ山、丸山、西中尾、向山、後ホキ、森屋、神田畑、狐石、上芳原、下芳  
原、中谷、吉松、登り、久保田、下中尾、関山、関ヶ谷、一ノ井手、鹿鳴越

後田、上ノ迫、櫻林、神ノ池、峠、小久保、半蔵、狩又、向、清作、小藤、カセイヶ峠、清水、  
森、城ヶ尾、登立、上山、向野、内河野山、山ノ田、小迫、袖ノ木迫、松ヶ尾、大平、奥堤、山ノ  
坊、根来、樋ノ口、辻山、西辻小野、池ノ平、西ノ平、丸尾、天ヶ谷、桜馬場、小鍋、辻小野、山  
の甲、小谷、坂本、蛤、尾ノ上、山口、粉尾、神ノ前、吉富、荒堀、古庵、代迫、余名、組崎、  
薬師堂、小谷池、指田、草場、神田平、中ノ切、中原、尾向、桐ノ木、大池の下、居堀、柳ヶ迫、  
灰迫、見立、小柳、神田、西下市、柿添、東下市、山ノ下、宮ノ原、三反田、椿ヶ瀬、甲ノ尾、釜  
ヶ測、宇土、末松、六反田、又井、町田、巢有、境目、鶴成迫、鶴成尾、鵜鶴、鎌倉山、杉本、代  
良、階廻、松ヶ尾、城山、城迫、上市、小松、大垣、芋畑、日影、橋手、鎌代、高尾、山志手、野  
田、上高尾、ミサコ、勧善、宮跡、片平田、堂ノ尾、溝ノ上、コゲノ木、中屋敷、池田、丸山、菅  
ノ木、石道、足クビリ、中村、油手、神ノ木、岩屋、坂東坊、草場迫、市ノ坪、小ヶ倉辻、小ヶ倉  
葛根尾、源太郎、葛ノ迫、戸ノ本、近年作、高畑、鷺ヶ山、木戸ノ本、下榎、穴井迫、上榎、台ノ  
辻、赤根ヶ迫、横尾、越路、袖後庵、尾平ノ辻、尾平、長迫、尾平ノ上、定林、西、長畑、登りヶ

山 香 郷

(旧上村)  
日指

尾、お 餓鬼首、がきくび 鳥屋、とや 楠根、くすね 田尾、たお カジヤ畑、かじやばた 石原、いしはら

野附、のつけ 桑野尾、くわのお 園ノ木、そののき 田中、たなか 三十歩、さんじゅうほ 勢場渡、せばたわたり 葛廻、くずり 丸山、まるやま 藤ヶ迫、ふじがせき 白煮田、しろにた 平ヶ倉、ひらがくら 仏ノ久保、ほとけのくぼ 仏ノ窪、ほとけのくぼ 御寒水、おごそぎ 赤松、あかまつ 石田、いしだ 上梅川迫、かみうめがわせき 安房、やすらふ 田多羅、たたら 曾木床、そぎどこ 前谷、まえたに 代ノ田、だいのた 尾鼻、おびな 重永、しげなが 銅山、どうざん 獄新田、ごくしん 大群、おほぐん 小中尾、こなかお 松ノ本、まつの本 櫻山、おうざん 穴井ノ本、あないの本 桑原、くわはら 水足、みづたり 梅田、うめだ 山ノ瀬、やまのせ 下宮平、しもみやへ 宮平、みやへ 三文迫、さんもんせき 漫陀羅、まんだら 月保、つきたも 薄原、うすはら 高尾、たかお 向之平、むかひのへ 詰ノ口、つめのくち 二反田、にたんだ 小森田、こもりだ 中尾平、なかおへら 板垣、いたがき 堂田、どうだ 黒坊、くろぼく 勢田、せいでん 広見、ひろみ 下河内、しもがわち 四通、よむち 中山、なかせ 小河内、こがわち 谷迫、やせき 尾刎、おびな 下余、しもあま 上余、かみあま 尻無、しりな 追田、おひだ 台、たい 四反田、ししたん 中川原、なかがわら 向立岩、むかひたていわ 鳥屋、とや 石原、いしはら 徳常、とくね 上立岩、かみたていわ 下立岩、しもたていわ 節ヶ崎、ふしがさき 小深田、こふかだ 折立、おひだて 松永、まつなが 寺曝、てらひら 志手、しで 西福寺、さいふくじ 柚ノ木、ゆのき 尾上、おびさう 林崎、はやしざき 船子田、ふねこた 下船子田、しもふねこた 小杉、こすぎ 投藪、なげやぶ 杖ノ平、つえのへら 見地、けんぢ 長田、ながた 長尾、ながお 御根曾、おとこん 常盤、とこわ

久木野尾

伴ノ木、はりのき 深迫、ふかせき 宮ノ脇、みやのわき 山水、さんすい 遠見石、とほみいし エビ、えび 丸尾、まるお 亀ノ尾、かめのお 庚申辻、かうしんつじ 堀迫、ほりせき 越田屋、こえたお 大水口、おほみなもと 見辻、みつじ 水ヶ原、みずがはら 大田城、おほたじょう 飛石、とびいし 宇戸、うと 地吉、ぢきち 尾崎、おびさき 山神、やまのかみ 後山、ごさん 畑、はた 岩ノ下、いわのした 荻平、かぎへら 畑地ノ口、はたぢのくち 池ノ口、いけのくち 歳ノ神、としのかみ 唐川、からがわ 七ツヶ辻、ななつがつじ 無量院、むりやういん 宮ノ本、みやの本 大丸、おほまる 後田、ごた 丸山、まるやま 畑ヶ田、はたがた 山伏井手、やまぶしいで ヘリ山、へりやま 倉川内、くらがわち 新田、しんた 鹿皮石、しかわし 山口、やまぐち 内原、うちはら 大内原、おほうちはら 流田、ながた 水落、みづおち 井手ノ上、いでの上 平原、ひらげ 松井手、まついで シガキ、しがき 山ノ田、やまのた 遠方、とほほう 森ノ前、もりの前 池ノ口、いけのくち 梅ノ木、うめのき カヤノ原、かやのはら 西カヤ原、にしかやのはら 大道迫、だいでうせき 宮ノ上、みやの上 竹ヶ下、たけがした 井手口、いでぐち ノ田、のた 小内原、こうちはら 笹山、ささやま 中ノ下、なかのした 中ノ口、なかのくち 道久、みちひさ 上ノ原、かみのはら 東カヤノ原、あづまかやのはら 一反田、いちたんだ 宇土、みやのまえ 宮ノ前、みやの前 古寺、ふるでら 仁田、にた 中田、なかつた 由ヶ谷、ゆがた スヶ原、すけはら 長谷、ながた 中渡、なかつた 井ノコ尻、いのこしり 堀田、ほりた 下牧、しもまき 川床、かわしだ 半田、はんた 狐石、きつし 後ヶ迫、ごせき フヶ、ふけ 向屋敷、むかうしき 古園、ふるその カン子ヲ、かんねおこ ウトケ、うとけ 重ヶ谷、しむがた 田中、たなか 深田、ふかた 牛ノ首、うしのくび 下田、しもた 口野屋敷敷、くしのおやせき 大八、おほやち 山瀬、やませ

由ノ本、伏原、大坪、八岩、ハビロ、鶴畑、前田、宮ノ下、道正、荒牧、迫、ホキノ口、前畑、堂  
 ノ前、岩ノ本、日向シ、向蔭田、高野、引地、殿屋敷、へり山、穴田、小平野、下ゾノ、谷ノ口、  
 白ノ田、土屋根、西山、仏ノ久保

南畑  
 下田、東台、大ほき、小川内、城山、向田、大寒水、治郎田、新床、水ノ口、山ノ口、久保、上  
 久保、白田、松ヶ鼻、三六、平地、舟ヶ迫、上平地、遠見石、札ノ辻、台、皇后石、皇后、弁天、  
 柴山、丸尾、吉原向、寺畑、吉原、西谷、中ノ谷、高熊、熊ヶ倉、坊主屋敷、角田、仁多田、八升  
 蒔、上ノ山、道ノ下、尾ノ道、寺ノ上、寺、西ノ畑、寺の前、西ノ前、深田、中屋敷、長畑、丸山  
 水落、迫ノ口、竹下、浦山、中ノ原、松尾

(旧立石村)  
下

境、米子瀬、大迫、六十ヶ迫、笹尾、南ヶ迫、竹ノ下、豆田、棚田、城ヶ平、下木場、園田、小豆  
 小迫、鳥穴、西鶴、マイノ窪、山志手、前田、鬼塚、大平、桐ノ木、茶園、鳥越、大屋敷、廻り、  
 宮ノ下、上分、森添、河原田、乙原、三郎丸、堂田、田染出、尾平、菅ヶ迫、山分、長迫、案内、  
 ウドヶ迫、中ノ迫、宮ノ平、堤ヶ迫、荒谷、床並、床並池、亀ノ甲、平原、柿ノ木田、仏ヶ迫、無  
 田ヶ迫、井手ヶ平、藤田、古川、小原、榎原、野添、川久保、金山、上坂、山ノ口平、山ノ口、高  
 ヶ尾、畑ヶ迫、野々ヶ迫、熊地、薙野、六太郎、柳平、小野平、谷門、未定、出口、広見、柳ヶ迫  
 桶畑、奥、水操田、十反、山戸、下山、炭釜、坂水山、鐘、薙畑、前山、宮添、林崎、馬上台、久  
 保田、城山、奥ヶ迫、トウレン、坂水、竹添、牛屋敷、池田、三ツ石、石ヶ谷

立石  
 宮ヶ淵、年出、小深田、小迫、迫栗、大木、川原、柿ノ木田、四反田、八反田、峯田、下尾崎、太



郎丸、芝尾、龍音、龍ヶ尾、見附原、石原、池ノ迫、立岩、耳取、山ノ崎、ヨキノ口、猫越、柳ノ  
 元、角畑、仏ヶ迫、横畑、間シロ、久保畑、尾畑、猪頭、チシヤノ木、犬ヶ迫、堀、水ヶ迫、勤子  
 迫、身内ヶ平、掲ヶ田、遠ヶ見、原田、船板、潰ヶ平、持玉、上尾崎、相ヶ迫、徳清田、杉園、鬼  
 丸、上田ヶ森、尾坪、壺丁田、松葉、平丸、乙丸、影ノ木、中須、延隆寺、長流寺、勤子尾、辻山、  
 池畝町、脇ヶ塔、狐岩、七曲、木落、鶴成平、狩野、西畑、アマゴゼ、町木迫、犬畑、椿ヶ尾、上  
 鍛冶屋、神山、仏徳、神田原、岩ヶ本、庵昌、町木、休場、久能、二反田、割石、唐菜ヶ迫、高  
 尾、ヌベトウ、山ノ神、鍛冶屋、茅ヶ迫、坪添、竹ノ下、フソンボリ、本町、新町、菅フタ、  
 中町、五徳寺、東祝儀山、狐塚、祝儀山、御屋敷、上町、迫山、ツブケ、源十ノ前、源十、芋ヶ迫、  
 西遠見、柚ノ木平、丁畑、松迫、中ノ迫、上ノ原、大平、鼻ヶ岳、六郎木、善起、梨ノ木、丸山、  
 中畑、瀬戸口、後ヶ迫、舟、長畑平、市ヶ塔、山田、ツル、平岩、岳末、東ヶ迫、浦山、アゴンカ  
 グラ、刃ノ花、山道、風呂ノ田、尾台、神松、仏ノ田尾、馬落シ、杉迫、舟松葉、台山、舟西畑、  
 舟小原、舟越地、浦田、焼山、兎取、棕ノ木、土鉢、弁才天、宮ヶ迫、大風、極ヶ迫、弁才天向、  
 峠、落ヶ迫、神出、合屋、塚畑、橋ノ本、ウスイ、宮ノ脇、山口、大月、切下し、六次郎、大月山  
 ノ神、荒平、骨峯ノ木、大月石原、立山、長迫、松ヶ尾、古屋敷、松ヶ尾浦山、越地、山中下ノ迫、  
 十反、美和田、大楠、桃ノ木、引龍、ツルヶ迫、三反田、七反田、高井川、櫛屋ノ口、大宰野、櫛屋  
 ノ下、櫛屋、三口畑、門ノ尾、長町、胴面、城山ノ後、向田、下測、城山ノ下、城山、妙見、原ノ  
 辻、稲留、西ノ門、岡、中尾、桑ノ木、桑ノ木畑、丸尾、丸尾山、早田、冷水、冷水ノ辻、大潰、  
 小荒平山、へり山、小原、カツラ、山荒平、姥ヶ迫、杖ヶ迫、龍神山、岡ノ下、川原田、木村、メ

グリ、

向野の

景平、中尾、山ノ奥、仁田尾、石堂、山ノ口、小松、柳ヶ平、大渡、起堂、茂原、出口、尾形、享  
 覚、六ヶ山、小豆畑、大無田、命敷、大石ヶ本、小尻川、古庵、辻、前田、塔ノ原、道ハサ、白岩  
 又クモリ、屋敷、上屋敷、下屋敷、柿田、四軒屋、下り松、門前、中須賀、百水、大ヶ倉、遠見尾  
 上森、宇都ヶ原、金山、東台、除溝、清水、ザル、大道平、無田、小祝、ユヅリ葉、滑石、原山、  
 エビノ木、今原、堂ノ本、中ノ原、無田ノ口、角ノ木、追、鶴ヶ尾、池ノ下、次郎畑、小野、向飛  
 萩の追、飛山、大飛、尾園、熊ヶ谷、狸合屋、出水口、丸石ド、薙敷、銅処、永古畑、相手ヶ追、  
 瀬戸、西ノ前、平山、龍ノ下、宮ノ尾、山口原、口ノ屋、大園、茶屋ヶ原、寝仏、ゴミ坪、新畑、  
 竹山ノ上、浄土寺、八丸、園田、市場、畑成、二ノ井手、城山、白岩ノ上、高平、二反田、向山、  
 程ヶ尾、大迫、ケンノ木、四郎五郎、椎ノ木、二本柿、若敷、広畑、狩又、チサノ木、下チサノ木、  
 三六田、平原、カワゴ石、アマリ、萩ノ尾、落ヶ追、ソノ口、鼻ヶ嶽、蔵堂、善久、薰石、宮ノ上、  
 日切、佐野畑、田代、タク畑、蔵原、上ノ畑、藤ヶ本、山中、柳ヶ嶽、早田、三反、下山向、長迫  
 アチ畑、小富士、竹ノ畑、仏供、奥畑、松木田、石ヶ谷、岩ノ下、合屋ヶ尾、ニガキ追、戸ノ下、  
 源三郎、合屋、戸ノ上、海蔵寺、津波戸山、馬ノ背、木原、ツカノ尾、大造司、大末、今宮、西ノ  
 又、小屋敷、宮ノ平、川原、宇ノ松ノ木、山首、岡、十代、台、舟ヶ平、割石、横畑、横畑ノ上、  
 モメ迫、葉師、松尾追、下横畑、竹ノ渡、サンヤ畑、神田、堂林、後野

(旧山浦村)  
山浦

付録

芋恵良、小谷、定野尾、原、山井口、西谷、飛松、浦篠、谷、本篠、川床、蔵野、勢場、石河野、

下山、那留、出河内、長田、高畑山、重見、大久保、堂林、寺山、正徳、小迫、桃ノ木、鳴水、イ  
 ナリ、丑盗人、カズラケ追、笹ヶ鼻、山神、柳ヶ本、流田、仏ノ前、本家、猫田山、台ノ道越、榎  
 原、畠成、小人、二反田、樋ノ口、中茂、木戸、カツラケ追、ムラサキ、ミソオケ、カラネ石、竹  
 ノ内、栗ノ木、杉田、盆柿、茶園畑、福田、女夫石、小田城、日ヤケ、木戸屋、桑ノ木追、堂ヶ追  
 六郎師、豊前越、滝河内、立岩、ジンヤ、中スカ、小二郎畑、一反通、ヲカタ、シンタンク、薬師田、  
 ウト、弥次郎ヤシキ、園田、障子岩、柿漆、京塚、ヤマクビ、姫鶴、広見、六郎田、六反田、井田  
 ノモト、忠臣合、広坪、才二郎、幸堂寺、柳ヶ谷、古堂、横高林、次郎屋敷、七ツ町、丸山、清代  
 畑成、寺ノ追、ヲザ、早稲田、ウツ越、十王田、法雲、塔ノ追、地藏峠、中ノ追、力石、榎木原  
 原山、水ヶ谷、シイダ追、鳥居原、ホカゾノ、堀ノ上、小峠、通正田、中ノ切、西ノ切、川原、尾  
 ノ鼻、中ノ坪、会下、無多田、小野、樋ノ本、センキ、久保、中尾、阪口、フケ、後ヶ追、瀬戸、  
 伊田ヶ追、台、小園、野田、金蔵屋敷、高照シ、塔ノ本、ユズリハ、井王田、ホリノ田、一ツ町、  
 野田原、ドオメン、中ノ屋敷、本家、本家屋敷、西前、木戸、土橋、切山、アゲ、園田、尾下、四  
 月田、中山、西ヶ追、シヨウブヶ追、辰ヶハナ、馬場、寺屋敷、三反畑、古神田、穴田、神ノ木、  
 台、楽庭、制札、猪ノモト、猫田、片峯、焼田、今ヤシキ、年ノ神、莊園ヶ鼻、神田口、久木原  
 代四郎、妙見、丸山、内ヶ追、石鍋、ナル水、下山、堀切、木戸、西屋敷、田中、岩ヶ下、中須賀、  
 山首、仏ノ前、柿ノ木追、野地、宮ノ前、長迫、竹ノ内、勝負ヶ追、烏帽子形、茶園ノ辻、見徳、  
 カリ又、善神王後、尾追、屋敷ノ本、平ぞう、勢場、水ヶ谷、加勢川、丸尾、メクラ作り、福田、  
 新田、向山、二反田、小崎ノ鼻、源次郎田、宝玉、妙卜石、下次郎田、久保田、塩井、ツカ田、四

吉野渡

辻、ツツミ、脇畑、太郎屋敷、桐園、井田、東ノ台、出口、岡、中石河野、鳥越、松原、東、大久保、大村、炭床、柳原、石タタミ、倉谷、フドウ前、不動坂、本家、下、西、前、二田、塔ノ下、ムクロージ、ウド畑、堂ノ前、塚畑、小治良、メクラ作り、伊田ヶ迫、宮跡、松ヶ鼻、見徳、ワラビノ、ナル山、五十歩、シイケン、寺ノ迫、ヨコサコ、柿田、古ミドウ、ナル池、カジヤシキ、宮ノ跡、ツル、屋鋪跡、屋鋪ノ前、松ノ木田、長田、セイノ木、中ソリ、宮ノ前、コモガ鼻、道越、堂ノ前、ワサダ、ツカダ、泉福寺、トウノモト、井ノ尻、八反ヶ平、新貝、土橋、長ヶ所、大法、手打畑、カ子ツキ、一ノ谷、藤山、出河内、力石、モモノ木、ノゾイ、丸山、シンガイ山、猪垣様山下、八郎田山、横迫、トイシヶ尾、地藏松、大潰、ベツトウ迫、丁場、カ子堀、大久保、サガラ、山伏屋敷

中山、荒平、早内、鳥之江、野地、吉野渡、楠原、羽山、尾原ノ上、サキドマリ、小一郎、ゴンスケヤシキ、マゴロク、坂ノ本、水ヶ谷、四升蒔、観音敷、アンヤシキ、御袖、ムナヅリ、楠迫、豊瑞寺、八郎、大町、小久保、アラホリ、山クヒ、ソノキド、内池山、保木の口、地ゾウ田、八升蒔、下ワサダ、バンノキ、悪地平、植松、ヲンボウ、大山、塩田、新田、城ヶハナ、馬場田、八畝田、焼山、城ヶ尾、鎧田、原やしき、言十郎やしき、出口、ホキノ上、年ノ神、巻番ヶ迫、神田、馬ノホ子、カヤバ、屋倉、国方ノ木、茶園、十反、一坊、ヲノハナ、堂ノ前、マツボオリ、神田向ヤグラ、ノヂヶ迫、尾平、ウド、ウソノ石、下太郎、ガキノクビ、トヤ、白岩、二ツ町、ワサ田、ホリタ、陣屋、山ノ神、栗木田、庚申鼻、大别当、長場、宮山、シニタバテ、セウジ平、ヒラソウ、口ノ松掘り、チヤノキ、柳ヶ迫、小中尾、バリソウツ、迫坊、ボンカド、口ノ塚、神田、五十分

山 香 郷

石ツカ、石切ケ尾、楽庭

○コノ「山香町大字・小字」一覧表」ハ、同町大字小武林蓮丸氏ニ依頼シ調査シタモノデアル。氏ノ御協力ニ深謝スル。

# 解 説

## 一 三郷荘の所在と環境

本巻収録の範囲は、国東郡安岐郷と速見郷八坂（上・下・新）荘・山香郷の三郷荘である。現行行政単位からすれば、大体において、安岐郷は東国東郡安岐町、八坂荘は杵築市、山香郷は速見郡山香町の地にあたる。伊予灘に面する国東半島東南部から、南部の半島付根の部分に該当する。

安岐郷は、解析火山国東半島の中央火口丘両子山に発し、南東流して伊予灘に注ぐ安岐川の刻む放射谷に開けた宇佐宮領荘園である。北は同宮領武蔵郷、西は弥勒寺領都甲荘・宮領田原別符、南は次述の八坂荘に接続する。国東六郷の一郷であり、中世には六郷満山に属する横城山東光寺・懸樋山清岩寺等が栄え、宇佐宮末社の奈多八幡宮の鎮座地、近世の碩学三浦梅園（中世は武蔵郷という）の出生地として著名である。八坂荘・山香郷は、国東火山と九州本土との接合部にあたり、半島部とは構造的に、したがって地形的にやや趣を異にする。八坂荘は、半島つけ根を西北から南東に向い守江湾に流入する八坂川下流と高山川の流域で、北は前記安岐郷と田原別符（第一巻）に接し、西は次述の山香郷及び大神・藤原荘（何れも弥勒寺領）と境を接する。江戸時代は細川氏等の統治の後、譜代大名松平氏三万七千石の城下町木付（のち杵築と改称）として発展し、半島統治の拠点となった。

山香郷は八坂川の上・中流域に開発された郷である。東は右の八坂荘、北は鋸山・華岳等の奇巖奇石をもって、田原別符・田染荘・来縄郷と、西は豊前宇佐郡封戸郷・佐田荘・安心院荘・津布佐荘（以上三荘は現安心院町）、南は速見郡大神・藤原荘及び日出荘と境を接する。

以上のごとく、三者は立地上、豊前宇佐郡の宇佐宮に近く、古代以来同宮の支配圏に層し、いづれも宇佐宮及び弥勒寺の荘園となった。山香郷は国東六郷の内ではないが、六郷満山に属する序分本山の津波戸山水月寺や、本山分末寺の辻小野西明寺・小溪山大谷寺等（三・五号）があるのも、こうした地域性と関連がある。

注

(1) 竹内理三『荘園分布図』下、三一〇頁（吉川弘文館、昭和五十一年七月）。

(2) この「本山分末寺」二ヶ寺の所在地比定は、中野幡能『八幡信仰史の研究』七二七頁（吉川弘文館、昭和四十二年二月）による。

## 二 成立と支配関係

安岐郷は宇佐宮の「三国七郡御封」から発展した、同宮根本所領の一である「十郷三箇庄」の一郷であり、これは既刊の来縄郷・武蔵郷の場合と全く同一であり、従って当郷の成立以下に関しては重複を避けることにする。なお、八坂荘・山香郷についても、国東・速見両郡に集中分布する弥勒寺領「浦部十五箇所」として、第二巻都甲荘以下について述べたので、割愛する。

しかし弥勒寺領の支配関係については、八坂荘の特異な形態に留意しておく必要がある。同寺領は石清水八幡宮寺の祀官家紀(田中)氏が本所(本郷)で、同宮内に実体のない寺家公文所を置き、現地の弥勒寺に留守所を設け、留守職(目代ともいう)を補して莊務を行ったこと、田中家が女房や女子に所領を分譲した場合のみ、領家職が成立し、預所職を置く普通の莊園支配機構の成立したこと等については、二卷以下に詳述した。じつは右の女子分の普通の支配機構が、弥勒寺領では例外的であり、その構造を知りうる最初の実例として、八坂下荘の場合が注目されるのである。

「大田文」八坂荘条によると(号一六)、「下庄百町領家八幡檢校法印女子」とあり、下荘には領家があり、八幡檢校女子であることがわかる。承久二年(二二二〇)祐清も讓状によると(号七)、八坂下荘は「壇殿女房」、山香荘は修理別当法眼宝清であるが、隣接の速見郡大神荘が「薬師姫」、国東郡草地荘が「寿持姫」とあって、これらも女性領家の例である。草地荘は第二卷に収めたが、その支配機構は全く不明であった。ところが八坂下荘の場合をみると、文永六年(二二六九)六月日の専当職補任下文(号一〇)、無年号九月八日・同九月八日の御教書(二三号)等、他の弥勒寺領の場合に見られなかった公家風の袖判があり、おそらくこれは領家のものと思われる。後二者には「領家仰」とあり、うち一通は預所左衛門尉に宛てたものであるから、奉者は領家の側近であろう。下荘が女子に分譲されたのが何時まで遡るかは明瞭でないが、少なくとも承久二年(二二二〇)以来続いていたことは疑いあるまい。弥勒寺領の場合、こうした女性領家の袖判を加えた發給文書(下文・御教書)の残存例が稀なだけに、八坂下荘の例は貴重な史料となろう。ただしこの袖判は、形からみて女性領家のものではなく、おそらく家司のものであるう。

以上によれば、八坂下荘の支配機構は、領家の下に預所が置かれ、下地には専当職(号一〇)・公文職(号一五)・田所



職(二三号)等の荘官を補任する一般的形態であり、領家下文・御教書には袖判を加える慣例であったことを知りうる。男子相伝領が特異な形態であるだけに、こうした女子分の支配形態が逆に注目を引くのである。

注

(1) 後掲参考文献(三)荘園関係の田中健三論文、研究発表等参照。

### 三 内部構造と村落の生長過程

「大田文」を中心として、三郷荘の内部構造を大観し、そこから荘園村落の生長過程を追跡してみたい。

#### (1) 安 岐 郷

当郷を要約すると、次の通りである(二八号)。

余	名三六町	領主神官名主等
弁	分八〇町	地頭日田永基法名法基
弘	永名三〇町	同前
成	久名三七町	相模七郎母御前辻殿
朝	采野浦一四町	朝采野公平・同公継
守	江浦三町	戸次時親 <small>法名道念</small>

余名三十六町の所在地は明瞭ではないが、これが宇佐宮神官名主(奈多宮神官を含む)の領有である以上、安岐川下

流域の条里遺構<sup>1)</sup>の在る付近の良田と考えられ、安岐川の河谷を上流に遡って分布する成久名・弁分・朝米野浦等は、二次的開發による別名であろう。ただし弘永名は所在地未詳。この他、大野莊志賀村南方地頭志賀氏の所領となる諸田名<sup>(一四・一五号)</sup>、松武名<sup>(三二号)</sup>・小俣島<sup>(三四号)</sup>・諸久<sup>(七九号)</sup>等があり、大宮司到津公連が元弘三年(一一三三)宇佐大楽寺に寄進した吉松六町・延松七町六段等の名々が「大田文」に見えないのは不審である。右のうち、諸久は諸田の内とあり、小俣島もこれと谷をへだてた安岐川の最上流の支谷である以上、安岐川を遡って次々と別名が成立した、同郷の開發過程を辿ることができる。

大宮司家の吉松・延松は、吉松が安岐川の下流域の支流吉松川の河谷を中心とする大字吉松にあたることは疑いなく<sup>(参照)</sup>、とすれば延松もおそらく地名からしてこの付近と推定される。この大宮司家の所領が、前記の「神官名主等」の中に含まれるとすれば、この余名はこの支谷の付近から本流下流域の条里付近にまで及んでいたものであろうか。もしこの推定が当たっているとした場合、余名に対する本名(安岐本郷ともいうべき)部分の見えないのは、どうしたことであろうか。こうした矛盾を解消するために、この場合内容的には余名は本名(本郷)と同一のものであると推定しても、「余名」と記されたことの理由、また上記のごとく他に記入されない多くの別名の存在する事実等、大田文の記述は不完全な所が多く、疑問の点が少くない。

注

(1) 後掲海老沢表「中世水田開發史序説」(宇佐風土記の丘歴史民俗資料館『研究紀要』一、昭和五十九年三月)。

## (2) 八坂莊

当莊については、「大田文」<sup>(八坂莊一六号)</sup>には次の通り記されている。表示する。

八坂荘二〇〇町 <small>(余佐孫勒寺領)</small>	下荘 一〇〇町	領家八幡檢校法印女子
	本荘 五五町	御家人八坂盛氏・親盛・純継各分領不分明
若富名	五町二段	大友兵庫頭入道殿 <small>(頼泰)</small>
	新荘 四五町	御家人八坂親盛・忠継各分領不分明

総田數二百町のうち、下荘が百町で、全体の半ばを占める。これに対して五十五町を占める本荘は、上荘とも記されている(二七)。弥勒寺供米の負担が下荘五斗に対して、上荘三斗とあるのは(上)、ほぼ上記の面積に比例したものである。本荘の故地は旧八坂村の地にあたり、その中の大字本庄にその痕跡を止めている。本荘が上荘の故地であるとすれば、下荘はそれより八坂川の下流域で、今日の杵築(木付) 一帯に立地したことは疑う余地がない。

ただし、以上両荘に対して新荘四十五町がある。新荘の名称からしても、最も後発的な莊園であろう。八坂川下流域右岸に、大字日野に新庄区がある。これが新荘の故地であることは、ほぼ疑いあるまい。八坂川下流域の曲流部分から河口に近い地帯で、南北朝期にも満潮時に海水が入り込む潮入りに最も近い所であった。(一) こうした潮入地帯が拓かれて新荘となったもので、最も後れて開發された部分と思われる。

若富名五町二段が右三荘と並立して記されているのは、これが三荘の成立期と程遠からぬ時代に成立した別名であるからと思われる。「大田文」では地頭職は大友頼泰となっているが、「凶田帳」の方では「五拾丁二段」と記され(一七)、八坂荘総田數も三百町に拡大されており、大友氏の支配を有利にするための書写であること<sup>2)</sup>を思わせる。

注

(1) 貞和三年正月廿六日八坂下荘内秋吉名田畠戸次方分張案、同坪付案(六八・六九号)によると、小嶋前に「しを入」が見える。

(2) 海老沢表「豊後大田文の基本的性格」(『早稲田大学大学院文学研究科紀要』別冊六、一九八〇年)。「豊後国大田文の伝写過程と現存写本―『豊後国凶田帳考証』の再検討―」(渡辺先生古稀記念事業会編『九州中世社会の研究』第一法規出版、昭和五十六年十一月)。「大分県史」中世一第四章第一節(大分県、昭和五十七年三月)。

### (3) 山香郷

前二者に対し、山香郷の場合は最も合理的で、現地形にも完全に適合する開発過程を示す点で最も興味深い。

郷分 一〇〇町 大友兵庫頭入道

立石村 四四町 豊前九郎入道明真跡盛道法師法名良恵

下倉成名 一六町 御家人綾部道明後家尼善阿・女子藤原氏・小田原景郷各分領不分明

日差村 三〇町 田北頼元法名道佛と日差惟忠後家尼相論

広瀬村 六町六反二四〇歩 遠江国御家人内田宮藤三清致跡致持

(一王名三町三反一二〇歩 大友兵庫入道)

「大田文」では最後の「一王名三町三段小以下は「不見」とあるが、「凶田帳」で補った。

当郷二百町のうち、半ばに当たる郷分(凶田帳は「本郷」と記す)百町は、久木野尾川を合わせた八坂川の本流に、立石川が合流して形成する当郷の主谷山香盆地で、ここを律令時代以来の古代村落の中心部で、口分田等の存在した所であろう(次図参照)。これを中心として、北の支流立石川の盆地に立石村四十四町が開かれたことは、地形的に見ても極めて自然である。日差村三十町は、八坂川の上流に注ぐ久木野尾川の谷で、遠く西南に距った宇佐郡境に立

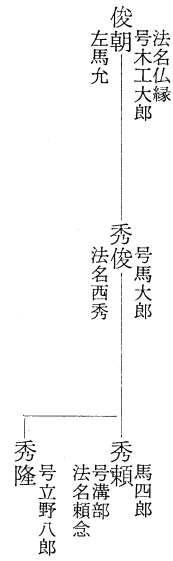


された別名たるにふさわしい。もっとも最後の一王名については、その所在地を確認することができなかったが、今日大字広瀬の中の字一ノ尾がこれに当るのではないかと推定する(大字・小)。この地は山香盆地を貫流する八坂川本流に今畑川が合流する付近で、同川が再び峡谷を造って流下する盆地の末端付近に当たる。

以上のごとく考えると、大田文の山香郷の記述は、郷分(本郷)と別名の開発過程を、最も典型的に示すものとして頗る注目に価するものがある。こうした開発過程が国衙領・荘園の何れの段階であるかは明瞭でないが、別名の発生からみて十一世紀中葉以降から鎌倉時代初期にかけてのことであろう。南部日出荘境の鹿越は、豊前・豊後の軍事・交通上の関門で、大友氏は室町期に鹿越城を修築して不時に備えた。当郷には鎌倉時代に大友田北氏が所領を分与されるが、大領主は生長せず、大友氏の給人化した群小国人衆が山香郷東西一揆を結び、鹿越城番以下に動員された。

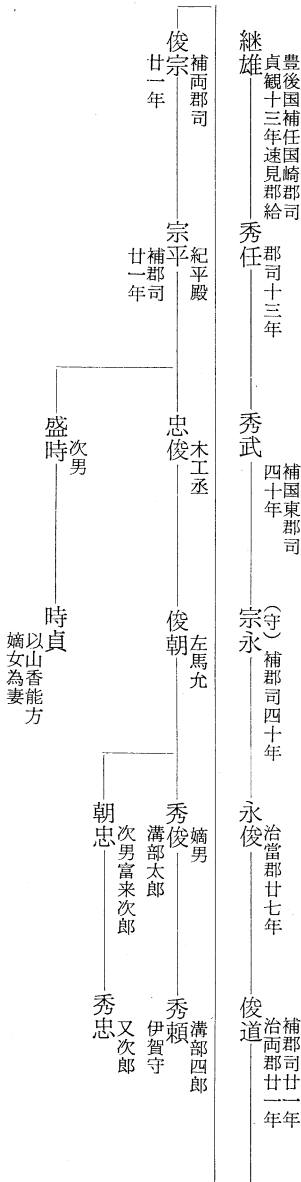
#### 四 国東・速見両郡々司と「紀姓志手氏系図」

本集成第三巻で、国東郷諸富名主紀氏と国東郡司家との関係について述べ、それと関連して「志賀文書」建仁元年(二二〇)六月二十四日の日向守藤原朝臣某請取状(「安岐郷史料」一〇号にも収む)について考察した。この文書から考えられる要点をまとめると、国東・速見両郡前司某の所領の内、南北浦部(右両郡を指す)の調度文書・手継証文を経長(藤原か)に譲伝し、地頭代官職を(左方)馬允俊朝の子孫に伝えるというものである。この俊朝は「紀氏系図」によると(国東郷史料一二号)、



とある紀西秀（諸富名主に当たる）の父俊朝と同名であり、官途も□馬允とあって俊朝の左馬允と、欠字分以外は合致する。以上よってみると、兩郡司職は恐らく外戚の経長に移り、地頭代官職が紀俊朝に子々孫々継承させられた。紀氏はこれから郡司職からはなれたらしいことは、「紀氏系図」によっても判る、ということであった。

以上の事実からすると、国東郡司家の紀氏が、速見郡司職をも兼ね、南北浦部（国東・速見兩郡）にわたり、相当広範圍の所領と支配権を有したらしいことが推定される。そこで本巻「山香郷史料」付録（一）の「紀姓志手氏系図」をみると、



の通りで、一部文字の誤写と思われる（守永・宗永（料一、二号））ものがある以外、他は全く「紀氏系図」（（国東郷史））と符合する。ただし「志手氏系図」では、紀宗平の次男盛時の系を付し、これが同氏の遠祖であること、紀秀俊（西秀）の弟朝忠から富来氏が分出する等の新しい系図が付加されている。

一般に地方旧家の系図中には、荒唐無稽のものが往々見られるが、「志手文書」も調査時の記憶をよび起せば、原本・案文・写しの区別困難なものが多く、可信性に疑念を懐かざるをえないものが少なかつた。したがってこうした疑念は、この「志手系図」についても例外ではなかつたのである。ところが以上のように、「志賀文書」や「紀氏系図」と照合して、両郡司職兼帯や溝部氏の成立等に至るまで両者が符合する事実を知って、少なからず驚いた。のちの志手氏系図の部分については、その真偽を確かめる余裕がなかつたが、志手氏遠祖が国東郡司家紀氏から出て、もともと国東・速見両郡司職を紀氏が兼帯していたこと、その紀氏から速見郡の志手氏が分派したこと等については、強ちに否定しえない内容をもっているように思われる。「志手氏系図」も筆写年代はそれほど古いものではなかつたように記憶するが、それは必ずしも無稽のものではなく、恐らく信すべき古系図の写し替である可能性が強い。従来往々白眼視されがちであつた「志手文書」も、こうした観点から再検討を要するものがあり、本書にも収録して識者の批判的利用を俟つことにした。

こうした郡司家紀氏をはじめとする古代末期以来の在地領主層の発展・消長、大友一族・家臣団、とくに大友田原氏の半島侵出と大領主的発展、その結末として天正八年（一五八〇）田原親貫が宗家大友氏に反逆し、安岐城（（安岐郷））と鞍懸城（（来郷））に籠城して滅亡する次第等、なお多くの問題点があるが、紙数の制約上、すべて割愛せざるをえなかつた。



## 五 参考文献

○既刊分ニ掲ゲタモノノ内、  
重要ナモノ以外ハ省略。

### (一) 地域史

- (1) 河野清実『豊後国東半島史』（大分県東国東郡教育会、昭和十年十一月）。
- (2) 志手環『豊後速見郡史』（大分県速見郡教育会、大正十四年十二月）。

### (二) 市町村史誌

- (1) 河野清実『朝来村郷土史』（朝来村郷土史会、昭和二十九年三月）。
- (2) 安岐町史編集委員会『安岐町史』（安岐町史刊行会、昭和四十二年五月）。
- (3) 前田光利『杵築史考』（私家版、大正三年十月）。
- (4) 工藤覚次『八坂村郷土史』（八坂村刊、大正十二年三月）。
- (5) 杵築町教育会編『杵築郷土史』（杵築町教育会、昭和八年四月）。
- (6) 杵築市誌刊行会編『杵築市誌』（同会、昭和四十三年七月）。
- (8) 志手環『山香郷土史』（山香郡教育会、大正六年九月）。
- (8) 胡麻鶴岩八『豊後立石史談』（胡麻鶴弘毅、大正十二年九月）。
- (9) 山香町誌編集委員会編『山香町誌』（速見郡山香町役場刊、昭和五十七年三月）。

### (三) 荘園関係

- (1) 中野幡能『六郷山領の崩壊過程—六郷満山の研究』（『大分県地方史』三五、三六・三七合併号、昭和三十九年十一月、昭和四十年二月）。
- (2) 中山重記「造神宮寺料」の行方について」（『大分県地方史』九三、昭和五十四年三月）。
- (3) 河野泰彦「弥勒寺領豊後国八坂荘について」（渡辺澄夫先生古稀記念事業会編集発行『九州中世社会の研究』所収、昭

和五十六年十一月)。

(4) 中山重記「弥勒寺学分懇田百町の行方について―豊後竈門庄の研究―」(『大分県地方史』一〇六、昭和五十七年六月)。  
上記中山二論文は同氏著『宇佐八幡の研究』一(私家版、昭和六十年一月)に収録。

(5) 田中健二「宇佐弥勒寺領における荘園制的関係(一)―本家について―」(『九州史学』七五、一九八二年一〇月)。

(6) 田中健二「宇佐弥勒寺領における領家の性格(九州史学研究会大会口答発表、昭和五十八年一月)。

(7) 海老沢衷「中世水田開発史序説」(大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館『研究紀要』一、昭和五十九年三月)。

(四) 六郷満山・社寺・宗教

(1) 久多羅木儀一郎「生桑寺の写本大般若経」(『大分県史蹟名勝天然記念物調査報告』四、大正四年十二月)。

(2) 日名子太郎「大分県金石年表」一・二・四・六・七(同上六・七・九・十一・十二、昭和三年一月、九年十二月)。

(3) 日名子太郎「大分県金石年表」(私家版・昭和十九年七月)。

(4) 中野幡能「六郷山領の崩壊過程」、前掲。

(5) H・チースリック「東国東郡におけるキリシタン」(『大分県地方史』五四・五五合併号、昭和四十五年一月)。

(6) 望月友善「大分の石造美術」(木耳社、昭和五十年九月)。

(7) 小泊立夫「仁安目録の疑問点」(『大分県地方史』一〇四、昭和五十六年十一月)。

(五) 考 古・民俗

(1) 入江英親「若宮八幡社の御田植神事」(『大分県地方史』三、昭和二十九年十二月)。

(2) 坂田那洋・安部里美「国東塔の編年に関する統計学的研究」(『別府大学アジア歴史文化研究所報』五、一九八七年二月)。

(六) 史料集・その他

(1) 上田純一校訂『入江文書』(『史料纂集』古文書編二〇、群書類従完成会、昭和六十一年九月)。

(2) 田北武春編『豊後山香郷に於ける大友田北氏史料考』(大友田北氏史料刊行会、昭和四十三年三月)。

(3) 竹内理三「国東半島の春」(『日本歴史』一〇八、昭和三十二年六月)。

(4) 渡辺澄夫「元寇防塁の乱杭及び恩賞等の史料」(『日本歴史』一三一、昭和三十四年五月)。

## あとがき

第三巻末尾に、頁数制限による若干の編集方針の修正の不可避免であることを述べ、読者の諒解をお願いした。その要点は、

- (一) 二荘以上の関連史料は、原則的に初出荘園に掲げ、他は標題と参照注に止める。
  - (二) 長文史料は、関係部分の抄出に止める。
  - (三) 系図類も抄出又は割愛も已むをえない。
  - (四) 国東郡安岐郷を次巻にくり越す。
  - (五) 全体の巻数編成に修正が予想される。
- 等であった。この予想の通り、
- (六) 第四巻を上・下二冊に分割せざるを得なくなった。
- (七) しかも、本巻から新たに、長文史料は上下二段組みとし、検地帳類はさらに活字を下げて減量をはかることにした。

にもかかわらず、本冊はさらに制限を超過することになり、編者の不手際の責任を痛感せざるをえない。今後はさらに、金石文の網羅主義や人物中心の編集方針に、修正を加える必要が不可欠となろう。

史料増加のうれしい悲鳴と、減量との二律背反を、いかに切り抜けるかが、昨今の編者の最大の課題となった。

昭和六十二年九月一日

編者

編者略歴

明治四十五年大分県に生まれる。昭和十四年広島文理科大学史学科卒業。大分大学助教授、教授を経て、現在別府大学教授、文学博士。

現住所―870大分市大石町四―三

主要編著書―大分県史料（共編）、大分県の歴史、増訂畿内庄園の基礎構造、豊後國大野莊史料、増訂豊後大友氏の研究、豊後國田原別符史料、豊後國来繩郷・小野莊・草地莊・都甲史料、庄・真玉莊・日野莊・袴々地莊、豊後國東郷・竹田津莊・伊美史料、豊後國岐部莊・姫島・武蔵郷史料、

『別府大学史料叢書第一期』

豊後國

莊園公領史料集成四（上）

豊後國安岐郷・八坂（上）・香山郷史料

昭和六十二年十月二十日發行

編者 渡 辺 澄 夫

發行所 別府大学附属図書館

別府市北石垣八二番地

郵便番号 八七四〇一

電話 〇九七七（六七）一〇一〇一（代表）

發行者 附属図書館長

林 章

印刷 佐伯印刷株式会社

大分市古国府十一組

電話 〇九七五（四三）一二二一